

千葉大学大学院医学研究院・医学部・医学部附属病院

業 績 集

2 0 2 4

March 2026

千葉大学大学院医学研究院・医学部・医学部附属病院

業 績 集

2024

目 次

遺 傳 子 生 化 学	1
認 知 行 動 生 理 学	3
機 能 形 態 学	8
精 神 医 学 / 精 神 神 經 科 / こ だ も の こ こ ろ 診 療 部	9
眼 科 学 / 眼 科	14
脳 神 經 内 科 学 / 脳 神 經 内 科	19
脳 神 經 外 科 学 / 脳 神 經 外 科	29
整 形 外 科 学 / 整 形 外 科 / 材 料 部	34
薬 断 病 理 学 / 病 理 診 断 科 / 病 理 部	40
診 断 器 内 科 学 / 呼 吸 器 内 科	43
呼 吸 器 内 科 学 / 呼 吸 器 内 科	46
循 環 器 内 科 学 / 不 整 脈 先 端 治 療 学 寄 附 講 座 / 循 環 器 内 科 / 冠 動 脈 疾 患 治 療 部	66
呼 吸 器 病 態 外 科 学 / 呼 吸 器 外 科	81
心 臓 血 管 外 科 学 / 心 臓 血 管 外 科	89
麻 醉 科 学 / 麻 醉 ・ 疼 痛 ・ 緩 和 医 療 科 / 緩 和 ケ ア セ ン タ ー	92
病 態 病 理 学	96
消 化 器 内 科 学 / 消 化 器 内 科	98
腎 臓 内 科 学 / 腎 臓 内 科	104
臓 器 制 御 外 科 学 / 肝 胆 脾 外 科 / 乳 腺 外 科	108
先 端 応 用 外 科 学 / 食 道 ・ 胃 腸 外 科 / メ ド テ ッ ク ・ リ ン ク セ ン タ ー	115
病 原 細 菌 制 御 学	121
感 染 病 態 学	123
感 染 生 体 防 御 学	125
産 婦 人 科 学 / 婦 人 科 / 産 科	127
泌 尿 器 科 学 / 泌 尿 器 科	132
分 子 病 態 解 析 学	138
救 急 集 中 治 療 医 学 / 救 急 科 / 集 中 治 療 部 / 救 命 救 急 セ ン タ ー	142
皮 膚 科 学 / 皮 膚 科	146
小 児 外 科 学 / 小 児 外 科	150
形 成 外 科 学 / 形 成 ・ 美 容 外 科	156
環 境 生 命 医 学	160
公 衆 衛 生 学	164
環 境 労 働 衛 生 学	167
法 医 学	168
和 漢 診 療 学 / 和 漢 診 療 科	172
医 学 教 育 学 / 医 学 教 育 研 究 室 / 総 合 医 療 教 育 研 修 セ ン タ ー	174
診 断 推 論 学 / 総 合 診 療 科	183
臨 床 研 究 ・ 治 療 評 価 学 / グ ロ ー バ ル 臨 床 試 験 学 / 医 療 行 政 学 連 携 講 座 / 臨 床 試 験 部	187
医 療 情 報 学 / 企 画 情 報 部	191
薬 物 治 療 学 / 薬 剤 部	194
腫 瘍 病 理 学	197
免 疫 細 胞 医 学	200
機 能 ゲ ノ ム 学	202
口 腔 科 学 / 歯 科 ・ 顎 ・ 口 腔 外 科	204
耳 鼻 咽 喉 科 ・ 頭 頸 部 腫 瘍 学 / 耳 鼻 咽 喉 ・ 頭 頸 部 外 科	207
画 像 診 断 ・ 放 射 線 腫 瘍 学 / 放 射 線 科 / 放 射 線 部 / 画 像 診 断 セ ン タ ー	211
臨 床 腫 瘍 学 / 腫 瘍 内 科 / 臨 床 腫 瘍 部	217
代 謝 生 理 学	219

疾 患 生 命 医 学	221
発 生 再 生 医 学	223
ア レ ル ギ ー ・ 膠 原 病 内 科	224
実 験 免 疫 学	229
分 子 免 疫 学	323
細 胞 分 子 医 学	236
内 分 泌 代 謝 ・ 血 液 ・ 老 年 内 科	241
小 児 病 態 学	243
イ ノ ベ ー シ ョ ン 医 学	253
イ ノ ベ ー シ ョ ン 再 生 医 学	262
疾 患 シ ス テ ム 医 学	264
人 工 知 能 (A I) 医 学	266
	269
感 染 症 内 科 / 感 染 制 御 部	276
リハビリテーション科 / リハビリテーション部	285
検 査 部	288
遺 伝 子 診 療 部	297
手 術 部	300
輸 血 ・ 細 胞 療 法 部	302
人 工 腎 臓 部	304
内 視 鏡 セ ン タ ー	307
認 知 症 疾 患 医 療 セ ン タ ー	310
ア レ ル ギ ー セ ン タ ー	312
包 括 的 脳 卒 中 セ ン タ ー	316
ブ レ ス ト セ ン タ ー	318
未 来 開 拓 セ ン タ ー	320
が ん ゲ ノ ム セ ン タ ー	322
患 者 支 援 部	326
臨 床 栄 養 部	329
東 洋 医 学 セ ン タ ー	331
看 護 部	333
造 血 細 胞 移 植 セ ン タ ー	335
ス ポ ー ツ メ デ ィ ク ス セ ン タ ー	338
浦安リハビリテーション教育センター	339
痛 み セ ン タ ー	341
次 世 代 医 療 構 想 セ ン タ ー	344
ハ ー ト セ ン タ ー	349
臨 床 工 学 セ ン タ ー	352
高 齢 者 医 療 セ ン タ ー	354
糖 尿 病 コ ン プ リ ケ ー シ ョ ン セ ン タ ー	357
肺 高 血 圧 症 セ ン タ ー	359
認 知 行 動 療 法 セ ン タ ー	365
移 行 期 医 療 支 援 セ ン タ ー	369
医 師 キ ャ リ ア 支 援 セ ン タ ー	371
ワ ク チ ン セ ン タ ー	372
超 音 波 セ ン タ ー	374
周 術 期 管 理 セ ン タ ー	377
千 葉 県 肝 疾 患 相 談 セ ン タ ー	378
未 来 粘 膜 ワ ク チ ン 研 究 開 発 セ ン タ ー	380
リ プロ ダ ク シ ョ ン 支 援 セ ン タ ー	386

研究領域等名：	遺 伝 子 生 化 学
診療科等名：	_____

●はじめに

当領域では、生化学的、分子遺伝学的手法を用いて、行動・代謝・神経可塑性の日周リズムの形成機構・制御機構の解明、神経変性疾患の発症機構の解明、腫瘍等の血管新生を阻害する物質の探索、悪性中皮腫の遺伝子異常に着目した治療法の開発ならびに新たな病理診断法の開発と普及を行っている。これらの研究成果が、健康増進、各種疾患の予防、診断、治療につながることを願っている。研究活動への参加に基づく大学院教育を行うとともに、学部教育では生化学の講義、実習を分担している。講演等を通じて、研究成果を一般市民に理解してもらうことにも務めている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

学部教育では、2年次学生に対する「生化学ユニット」において、「サブユニット：遺伝・タンパク生化学」の講義・実習を担当した。また、1年次学生に対する導入PBLにおいてチューターを担当した他、3年次学生に対する基礎医学ゼミ（5名）の学生指導を行った。

●研 究

・研究内容

- ・行動、代謝、神経可塑性の日周リズムの形成機構、制御機構の研究を行った。
- ・神経変性疾患の発症機構の解明の研究を行った。
- ・腫瘍等の血管新生を阻害する物質の探索を行った。
- ・悪性中皮腫の遺伝子異常に着目した治療法の開発ならびに新たな病理診断法の開発と普及を行った。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

- Husain AN, Chapel DB, Attanoos R, Beasley MB, Brcic L, Butnor K, Chirieac LR, Churg A, Dacic S, Galateau-Salle F, Hiroshima K, Hung YP, Klebe S, Krausz T, Khor A, Litzky L, Marchevsky A, Nabeshima K, Nicholson AG, Pavlisko EN, Roden AC, Roggli V, Sauter JL, Schulte JJ, Sheaff M, Travis WD, Tsao MS, Walts AE, Colby TV. Guidelines for Pathologic Diagnosis of Mesothelioma: 2023 Update of the Consensus Statement From the International Mesothelioma Interest Group. Arch. Pathol. Lab. Med. 2024;148:1251-1271.
- Zhang BS, Zhang XM, Ito M, Yajima S, Yoshida K, Ohno M, Nishi E, Wang H, Li SY, Kubota M, Yoshida Y, Matsutani T, Mine S, Machida T, Takemoto M, Yamagata H, Hayashi A, Yokote K, Kobayashi Y, Takizawa H, Kuroda H, Shimada H, Iwadata Y, Hiwasa T. JMJD6 autoantibodies as a potential biomarker for inflammation-related diseases. Int. J. Mol. Sci. 2024;25:4935.
- Hiwasa T, Yoshida Y, Kubota M, Li SY, Zhang BS, Matsutani T, Mine S, Machida T, Ito M, Yajima S, Shirouzu M, Yokoyama S, Sata M, Yamagishi K, Iso H, Sawada N, Tsugane S, Takemoto M, Hayashi A, Yokote K, Kobayashi Y, Matsushita K, Tatsumi K, Takizawa H, Tomiyoshi G, Shimada H, Higuchi Y. Serum anti-KIAA0513 antibody as a common biomarker for mortal atherosclerotic and cancerous diseases. Med. Int. 2024;4:45.
- Lin M, Hu L, Shen S, Liu J, Liu Y, Xu Y, Chen H, Sugimoto K, Li J, Kamitsukasa I, Hiwasa T, Wang H, Xu A. Atherosclerosis-related biomarker PABPC1 predicts pan-cancer events. Stroke & Vasc. Neurol. 2024;9:108-125.

【雑誌論文・和文】

- 廣島健三：中皮腫瘍病理診断のパラダイムシフト. 医学のあゆみ. 2024;289:154-155.
- 廣島健三：中皮腫と石綿関連疾患. 中皮腫の病理診断. 病理と臨床. 2024;42:1190-1195.
- 濱川真治, 廣島健三：中皮腫と石綿関連疾患. 中皮腫の細胞診断. 病理と臨床. 2024;42:1196-1205.
- 河原邦光, 廣島健三, 吉澤明彦, 南優子, 羽場礼次, 竹中明美, 柿沼廣邦, 三宅真司, 澁木康雄, 佐藤之俊：日本肺癌学会・日本臨床細胞学会が提唱した新呼吸器細胞診報告様式の異型細胞に含まれる反応性異型細胞. 日本臨床細胞学会雑誌. 2024;63:306-314.

【単行書】

1. 佐藤之俊, 廣島健三: 呼吸器細胞診アトラスー新たな国際判定基準運用の実際ー 2024:1-208. 南江堂, 東京.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 廣島健三: 中皮腫診断セミナーー適切な病理診断が患者救済に直結する. シアル化 HEG1 は中皮腫と癌腫の鑑別に有用である. 第 113 回日本病理学会総会, 名古屋, 2024.03
2. 廣島健三: 中皮腫診断のアップデート. 第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会, 幕張, 2024.11.

●その他

岩瀬克郎: 千葉市青葉看護専門学校 非常勤講師 (生化学)

田川雅敏: Cancer Gene Therapy [Springer-Nature] Associated Editor

【学会発表数】

国内学会 5 回
国際学会 0 回

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「異常な光環境により誘発される不安・学習障害に関わる神経ペプチドの作用機序」代表者: 岩瀬克郎 2024-2026
2. 受託研究 ニチアス株式会社「中皮腫に対する新規遺伝子医薬品の研究開発」代表者: 岩瀬克郎、分担者: 田川雅敏、廣島健三、守屋彰悟 2018-2027

研究領域等名：	認 知 行 動 生 理 学
診療科等名：	—

●はじめに

本研究室は、こころと脳の研究を基礎医学と臨床医学の両面から研究、教育、臨床実践、社会貢献を進めている。成人だけでなく、千葉大学子どものこころの発達教育研究センターと共同し、子どもを対象にしたテーマにも取り組んでいる。基礎医学では脳画像技術を用いた疾患発症のメカニズム探索と新規治療の開発を行っている。臨床医学では、デジタル・セラピューティックスを含めた、認知行動療法の発展と治療者の育成に取り組み、その効果を臨床試験で検討している。不安症、強迫症、うつ病、適応障害、慢性疼痛を含む身体症状症、摂食症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症、統合失調症、不眠症、ネット依存などを対象とし、病態の基礎メカニズム解明と新しい治療手法開発を目指している。本研究室は、多職種（医師、看護師、保健師、助産師、公認心理師（臨床心理士）、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、学校の教諭、養護教諭、歯科医師、薬剤師など）と連携し、医工学、情報工学技術を含めた、多様な観点からの研究を行っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

本教室の行った教育活動は、①医学部2年生に対する行動科学ユニット、②医学部2年生に対する生理学ユニット、③医学部3年生に対する基礎医学ゼミ、④医学部1～3年生を対象としたスカラシップ、④医学部1年生に対する導入PBLチュートリアル、⑤医薬看3学部の1年生に対するチーム医療I（IPEI）ユニットである。

・卒後教育／生涯教育

2024年11月・12月の2回、ラコルタ柏での認知行動療法サポーター養成講座に協力した。

科目等履修生として、博士課程：認知行動生理学（演習）、修士課程：臨床精神心理学（演習）の受講生の受け入れを行った。

・大学院教育

大学院修士課程、及び、博士課程の学生を対象に、各種精神疾患を対象とした脳機能画像研究、メンタルヘルス不調のスクリーニング技術、認知行動療法の治療技術の研究に従事させ、指導を行った。

また、オンデマンド型メディア授業においてメンタルヘルスサポート学特論、メンタルヘルスエクセルシオール演習を配信した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

医薬看3学部合同のチーム医療I（IPEI）ユニットのチュートリアル形式授業を行った。

●研 究

・研究内容

不安症、強迫症、うつ病、適応障害、慢性疼痛を含む身体症状症、摂食症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症、統合失調症などの精神疾患等に対して認知行動療法と脳画像技術、工学的技術を用いてデジタル・メディスン、認知行動療法アプリを開発し、脳やこころの病気の新しい治療方法の開発を行っている。2024年度は不眠症の治療アプリの治験などを行った。

また、不安、強迫、うつ、摂食、疼痛、発達等の問題に対するランダム化比較試験などの臨床研究、さらに、子どものこころの発達教育研究センターと共同して、認知行動療法の発展と治療者の育成に取り組んだ。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Fernández de la Cruz L, Isomura K, Lichtenstein P, Larsson H, Kuja-Halkola R, Chang Z, D'Onofrio BM, Brikell I, Rück C, Sidorchuk A, Mataix-Cols D. All cause and cause specific mortality in obsessive-compulsive disorder: nationwide matched cohort and sibling cohort study. BMJ. 384:e077564. Free PMC article. 査読あり. 2024/01/17.
2. Tose K, Takamura T, Isobe M, Hirano Y, Sato Y,

Kodama N, Yoshihara K, Maikusa N, Moriguchi Y, Noda T, Mishima R, Kawabata M, Noma S, Takakura S, Gondo M, Kakeda S, Takahashi M, Ide S, Adachi H, Hamatani S, Kamashita R, Sudo Y, Matsumoto K, Nakazato M, Numata N, Hamamoto Y, Shoji T, Muratsubaki T, Sugiura M, Murai T, Fukudo S, Sekiguchi A. Systematic reduction of gray matter volume in anorexia nervosa, but relative enlargement with clinical symptoms

- in the prefrontal and posterior insular cortices: a multicenter neuroimaging study. *Molecular psychiatry*. 査読あり. 2024/01/22.
3. Ikemizu Y, Oda Y, Hirose Y, Sasaki T, Iyo M. Cerebellar and Occipital Alterations in Brain Perfusion in a Patient With Post-acute COVID-19 Encephalopathy Misdiagnosed As Primary Psychotic Disorder. *Cureus* 16(1):e52953. 2024/01/25.
 4. Noda Y, Asano K, Shimizu E, Hirano Y. Assessing the association between probable posttraumatic stress disorder symptoms and quality of life among emergency service workers using path analysis. *Work*, 2024;77:573-587. doi: 10. 3233/WOR-220551. 2024/02/07.
 5. Kim BG, Kim G, Abe Y, Alonso P, Ameis S, Anticevic A, Arnold PD, Balachander S, Banaj N, Bargalló N, Batistuzzo MC, Benedetti F, Bertolin S, Beucke JC, Bollettini I, Brem S, Brennan BP, Buitelaar JK, Calvo R, Castelo-Branco M, Cheng Y, Chhatkuli RB, Ciullo V, Coelho A, Couto B, Dallaspezia S, Ely BA, Ferreira S, Fontaine M, Fouche J-P, Grazioplene R, Gruner P, Hagen K, Hansen B, Hanna GL, Hirano Y, Höxter MQ, Hough M, Hu H, Huyser C, Ikuta T, Jahanshad N, James A, Jaspers-Fayer F, Kasprzak S, Kathmann N, Kaufmann C, Kim M, Koch K, Kvale G, Kwon JS, Lazaro L, Lee J, Lochner C, Lu J, Manrique DR, Martínez-Zalacáin I, Masuda Y, Matsumoto K, Maziero MP, Menchón JM, Minuzzi L, Moreira PS, Morgado P, Narayanaswamy JC, Narumoto J, Ortiz AE, Ota J, Pariente JC, Perriello C, Picó-Pérez M, Pittenger C, Poletti S, Real E, Reddy YCJ, van Rooij D, Sakai Y, Sato JR, Segalas C, Shavitt RG, Shen Z, Shimizu E, Shivakumar V, Soriano-Mas C, Sousa N, Sousa MM, Spalletta G, Stern ER, Stewart SE, Szeszko, PR Thomas, R Thomopoulos SI, Vecchio D, Venkatasubramanian G, Vriend C, Walitza S, Wang Z, Watanabe A, Wolters L, Xu J, Yamada K, Yun J-Y, Zarei M, Zhao Q, Zhu X, ENIGMA-OCD Working Group, Thompson PM, Bruin WB, van Wingen GA, Piras F, Piras F, Stein DJ, van den Heuvel OA, Simpson HB, Marsh R, Cha J. White matter diffusion estimates in obsessive-compulsive disorder across 1653 individuals: machine learning findings from the ENIGMA OCD Working Group. *Mol Psychiatry*. 2024 Feb 7. doi: 10. 1038/s41380-023-02392-6. 2024/02/07.
 6. Tamura M, Cage E, Perry E, Hongo M, Takahashi T, Seto M, Shimizu E, Oshima F. Understanding Camouflage, Stigma, Mental Health for Autistic People in Japan. *Autism in Adulthood*. 査読あり. 2024/02/26.
 7. Matsumoto K, Hamatani S, Shimizu E. Long-term effectiveness and cost-effectiveness of guided internet-based cognitive behavioral therapy for obsessive-compulsive disorder: 24-month follow-up. *Internet Interv*. 2024 Feb 8;35:100725. doi: 10. 1016/j. invent. 2024. 100725. eCollection. 2024/03.
 8. Sudo Y, Ota J, Takamura T, Kamashita R, Hamatani S, Numata N, Bhusal Chhatakuli R, Yoshida T, Takahashi J, Kitagawa H, Matsumoto K, Masuda Y, Nakazato M, Sato Y, Hamamoto Y, Shoji T, Muratsubaki T, Sugiura M, Fukudo S, Kawabata M, Sunada M, Noda T, Tose K, Isobe M, Kodama N, Kakeda S, Takahashi M, Takakura S, Gondo M, Yoshihara K, Moriguchi Y, Shimizu E, Sekiguchi A, Hirano Y. Comprehensive elucidation of resting-state functional connectivity in anorexia nervosa by a multicenter cross-sectional study. *Psychological Medicine*, 2024. 査読あり. 2024/03/19.
 9. Yijing Bai, Numata N, Shimizu E. Eating disorders and social media use among college students in Japan and China: a brief cross-sectional survey. *Journal of Eating Disorders*. Volume12(44). 2024/04/04.
 10. Hongo M, Oshima F, Guan S, Takahashi T, Nitta Y, Seto M, Hull L, Mandy W, Ohtani T, Tamura M, Shimizu E. Reliability and validity of the Japanese version of the camouflaging autistic traits questionnaire. *Autism Research*, 査読あり. 2024/04/25.
 11. Per Andrén, Filipa Sampaio, Helene Ringberg, Vera Wachtmeister, Moa Warnström, Isomura K, Kristina Aspvall, Fabian Lenhard, Charlotte L Hall, E Bethan Davies, Tara Murphy, Chris Hollis, Inna Feldman, Matteo Bottai, Eva Serlachius, Erik Andersson, Lorena Fernández de la Cruz, David Mataix-Cols. Internet-Delivered Exposure and Response Prevention for Pediatric Tourette Syndrome: 12-Month Follow-Up of a Randomized Clinical Trial. *JAMA Network Open*. 2024 May 1 7 (5):e248468. doi: 10. 1001/jamanetworkopen. 2024. 8468. 査読有. 2024/05/03.
 12. Sasaki R, Rebecka K, Hahnel-Peeters, Shimizu E. Development of the Japanese Version of the Rape Excusing Attitudes and Language Scale and Comparison Between Rape Myth Acceptance in Japan and the U. S. *Journal of Interpersonal Violence*, 2024 online first. 査読あり. 2024/07/30.

13. Shiina A, Niitsu T, Tomoto A, Iyo M, Shimizu E, Fujii C. Police officers' perception of mentally disordered people: a national survey in Japan. *Journal of Forensic Psychiatry and Psychology*, Volume 35, Issue 15:1-15, P866-880. 2024/08/02.
 14. Katsushima M, Shimizu E. Brief Cognitive Behavioral Therapy for Depression and Anxiety in Patients with Schizophrenia in Psychiatric Home Nursing Service: Pilot Randomized Controlled Trial. *Behavioral Sciences*, Volume 14, Issue 8. 2024/08/05.
 14. Shiohama T, Uchikawa H, Nitta N, Takatani T, Matsuda S, Alpen Ortug, Takahashi E, Sawada D, Shimizu E, Fujii K, Aoki I, Hamada H. Brain morphological analysis in mice with hyperactivation of the hedgehog signaling pathway. *Frontiers in Neuroscience*, Volume 18. 2024/09/03.
 15. Okawa S, Ronald M. Rapee. Takahashi T, Tessa Reardon, Arai H, Shimizu E, Cathy Creswell. Psychometric Properties of the Japanese Translation of the Parent Overprotection Measure for Mother and Father Reports. *Child Psychiatry & Human Development*. 2024/09/09.
 16. Xincheng Wang, Isomura K, Paul Lichtenstein, Ralf Kuja-Halkola, Brian M D'Onofrio, Isabell Brikell, Patrick D Quinn, Nanbo Zhu, Nitya Jayaram-Lindström, Zheng Chang, David Mataix-Cols, Anna Sidorchuk. Incident Benzodiazepine and Z-Drug Use and Subsequent Risk of Serious Infections. *CNS Drugs*, Volume 38, 827-838. doi: 10. 1007/s40263-024-01108-w. 査読有. 2024/10.
 17. He J, Kurita K, Yoshida T, Matsumoto K, Shimizu E, Hirano Y. Comparisons of the amplitude of low-frequency fluctuation and functional connectivity in major depressive disorder and social anxiety disorder: A resting-state fMRI study. *Journal of Affective Disorders*, Volume 362, P425-436. 2024/10/01.
 18. Horita H, Seki Y, Yamaguchi T, Shiko Y, Kawasaki Y, Shimizu E. Videoconference-Delivered Cognitive Behavioral Therapy for Parents of Adolescents With Internet Addiction: Pilot Randomized Controlled Trial. *JMIR Pediatrics Parenting*, Volume 7:e60604. doi: 10. 2196/60604. 査読あり. 2024/10/03.
 19. Nagano T, Kurita K, Yoshida T, Matsumoto K, Ota J, Ritu Bhusal Chhatkuli, Shimizu E, Hirano Y. Comparison of Resting-State Functional Connectivity Between Generalized Anxiety Disorder and Social Anxiety Disorder: Differences in the Nucleus Accumbens and Thalamus Network. *Brain Connectivity*, Volume 14, Issue 8. 2024/10/14.
 20. Ohashi S, Urao Y, Fujiwara K, Koshiba T, Ishikawa S, Shimizu E. Feasibility study of the e-learning version of the "Journey of the Brave:" a universal anxiety-prevention program based on cognitive behavioral therapy. *BMC Psychiatry*, 24, 806. 2024/11/14.
 21. Josep Pol-Fuster, Lorena Fernández de la Cruz, Isomura K, Anna Sidorchuk, Ralf Kuja-Halkola, Paul Lichtenstein, Brian M D'Onofrio, Isabell Brikell, Henrik Larsson, Elles de Schipper, Jan C Beucke, David Mataix-Cols. Association between bullying victimization and obsessive-compulsive disorder: a population-based, genetically informative study. *Molecular Psychiatry*, Volume 30(5). doi: 10. 1038/s41380-024-02849-2. Online ahead of print. 査読有. 2024/11/23.
 22. Daniel Rautio, Isomura K, Johan Bjureberg, Christian Rück, Paul Lichtenstein, Henrik Larsson, Ralf Kuja-Halkola, Zheng Chang, Brian M D'Onofrio, Isabell Brikell, Anna Sidorchuk, David Mataix-Cols, Lorena Fernández de la Cruz. Intentional Self-Harm and Death by Suicide in Body Dysmorphic Disorder: A Nationwide Cohort Study. *Biological Psychiatry*, Volume 96(11), 868-875. doi: 10. 1016/j.biopsych. 2024. 05. 006. 査読有. 2024/12/01.
 23. Oshima F, Takahashi T, Tamura M, Guan S, Seto M, Hull L, Mandy W, Tsuchiya K, Shimizu E. The association between social camouflage and mental health among autistic people in Japan and the UK: a cross-cultural study. *Molecular Autism*. 2024;15(1). 査読あり. 2024/01/04.
 24. Tsubaki K, Shimizu E. Psychological Treatments for Alexithymia: A Systematic Review. *Behavioral Sciences*, Volume 14, Issue 12:1173. 2024/12/07.
- 【雑誌論文・和文】**
1. 永田忍. ドライデン著『CBTによるシングル・セッション・セラピー入門』(書評). *心理臨床学研究*. 2024, 42巻2号, P173-174. 査読なし. 2024/06.
 2. 清水栄司, 浦尾悠子. 児童期・青年期の不安と「勇者の旅」プログラムの概要. *精神療法 (増刊 11号) 『児童期・青年期のメンタルヘルスと心理社会的治療・支援』*, P126-132. 査読なし. 2024/06.
 3. 永田忍. コロナ禍における強迫症の中年期女性の心理療法過程－遠隔認知行動療法の実践を通しての考察－. *精神療法*. 2024, 50巻3号, P407-415. 査読あり. 2024/06/07.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 清水栄司. 意欲如・多動症、自閉スペクトラム症と認知行動療法. 令和5年度 産業保健・労務安全衛生関係者に対する専門的研修（セミナー）. 千葉産業保健総合支援センター. 2024/01/25.
2. 勝嶋雅之. 精神科訪問看護と認知行動療法. 千葉大学対人援助職を支援するメンタルサポート医療人とプロの連携養成 第2回 CBT ラーニング公開フォーラム（オンライン）. 2024/02/12.
3. 吉村健佑. 職場のメンタルヘルス対策からみた CBT ～精神科医・産業医の経験から～. 千葉大学対人援助職を支援するメンタルサポート医療人とプロの連携養成 第2回 CBT ラーニング公開フォーラム（オンライン）. 2024/02/12.
4. 清水栄司. 低強度認知行動療法とは？. 千葉大学対人援助職を支援するメンタルサポート医療人とプロの連携養成 第2回 CBT ラーニング公開フォーラム（オンライン）. 2024/02/12.
5. 清水栄司. 産業保健活動で役立つ認知行動療法の基礎知識について. 産業医研修会. 千葉県医師会館. 2024/03/02.
6. 清水栄司. 認知行動療法でこころの健康づくりを今日から始めよう. 墨田漢方健康セミナー特別編「こころと漢方」. 千葉大学墨田サテライトキャンパス. 東京. 2024/03/09.
7. 篠田菜々. 児童精神科医による神経発達症の初診時の留意点－架空事例を通して－. 千葉県小児科医会 7月例会講演. 2024/06/30.
8. 清水栄司. シンポジウム 16「身体症状症と不安と発達特性～認知行動療法の観点を含めて～」座長. 日本不安症学会 日本認知療法・認知行動療法学会 合同開催. 福岡. 2024/07/20.
9. 池水結輝. 強迫症や不安症における脳画像研究の動向：機能的 MRI や拡散テンソル画像を中心に. 2024 年度 日本不安症学会 / 日本認知療法・認知行動療法学会 合同開催. 福岡・日本. 2024/07/19-21.
10. 座長：清水栄司. 富永敏行. シンポジスト：富永敏行. 林田圭祐. 三好未来. 高梨利恵子. 『身体症状症の発達特性と性格特性シンポジウム』『身体症状症と不安と発達特性～認知行動療法の観点を含めて～』. 2024 年度日本不安症学会 / 日本認知療法・認知行動療法学会合同開催. 福岡市. 2024/07/20.
11. 須藤佑輔. シンポジウム 摂食障害からの回復のバイオロジー. 脳機能画像からみる摂食障害の回復のバイオロジー－神経性やせ症を中心に－. 第27回日本摂食障害学会学術集会. 東京. 2024/09/07-08.
12. 中川彰子. 中尾智博. 加藤奈子. 久能勝. 豊見山泰史. ワークショップ9：強迫症の CBT. 日本認

知・行動療法学会第50回記念大会. 横浜・日本. 2024/09/22.

13. 清水栄司. ワークショップ1：不安症への認知行動療法. 日本認知・行動療法学会第50回記念大会. 横浜. 日本. 2024/09/22.
14. 清水栄司. 教育講演9：産業歯科保健部会教育講演兼産業歯科保健部会後期研修会. 職域における慢性疼痛や身体違和感などの訴えにどう対応するか？医科での対応（認知行動療法）. 第34回日本産業衛生学会全国協議会. 千葉. 日本. 2024/10/05.
15. 清水栄司. 幸福感とメンタルヘルスと認知行動療法. 第7回墨田区・千葉大学区民向け公開講座. 千葉大学墨田サテライトキャンパス. 2024/10/20.
16. 清水栄司. 認知行動療法の基礎. 令和六年度認知行動療法サポーター養成講座. 教育福祉会館ラコルタ柏. 千葉. 2024/11/03.
17. 沼田法子. 摂食症の認知行動療法. 令和六年度認知行動療法サポーター養成講座. 教育福祉会館ラコルタ柏. 千葉. 2024/12/01.

【学会発表数】

国内学会 19 回（うち大学院生 10 回）

国際学会 13 回（うち大学院生 9 回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「逆境の小児期体験と関連する情緒と行動の問題の認知行動療法と脳 MRI による病態解明」代表者：清水栄司 2022-2024
2. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「学校の教員に必要な脳科学・精神医学・心理学等の e-learning 開発と効果検証」分担者：清水栄司 2022-2026
3. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「ネット依存症者に対する作業活動を介した遠隔治療のパイロット・ランダム化比較試験」分担者：清水栄司 2023-2025
4. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「精神疾患の親をもつ若年成人に対する遠隔心理教育プログラムの開発と効果検証」分担者：清水栄司 2023-2025
5. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「養護教諭の特質を活かした WEB ストレスチェックシステムと教育相談に関する実践的研究」分担者：清水栄司 2023-2025
6. 共同研究・経済産業研究所「更年期女性の閾値下うつに対する認知行動変容プログラムの効果検証」代表者：清水 栄司 2024
7. 共同研究・経済産業研究所「不安の問題を有する勤労者に対する認知行動変容アプローチを用いた WEB 心理教育の有効性：ランダム化比較研究」代表者：清水栄司 2023-2024
8. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「神経性やせ症への認知行動療法における認知機能改善療法併用の効

- 果検証」代表者：沼田法子 2021-2024
9. 受託研究「ヘルスケアで用いるうつ、不安と月経前症候群の PRO 指標のエビデンスの整理と開発」代表者：沼田法子 2024-2025
 10. 若手研究「不眠症における保険薬局薬剤師による遠隔服薬指導の実用可能性と有効性の検討」代表者：廣瀬素久 2020-2024
 12. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「強迫症と認知行動療法に関する機械学習を用いた予測モデル研究」代表者：池水結輝 2023-2025
 11. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「子どもの ADHD に対するオンライン認知行動療法の待機群を対照とするランダム化比較試験」代表者：江藤愛子 2023-2025
 15. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「成人の ADHD に対するテラーメイド認知行動療法アプリケーションのランダム化比較試験」代表者：江藤愛子 2024-2026
 14. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「神経性やせ症における脳機能画像解析による病態解明と至適治療の確立」代表者：須藤佑輔 2024-2026
 16. 若手研究「自閉スペクトラム症児の保護者を対象とした、スティグマストレス軽減プログラムの開発」代表者：田村真樹 2024-2026
 13. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「神経性やせ症における発症および症状維持に関わる認知機能の検討」代表者：柏一せい 2023-2025

●地域貢献

- ・船橋市自殺予防対策連絡会議委員長（清水栄司）
- ・千葉市精神保健福祉審議会副会長（清水栄司）
- ・千葉県自殺対策連絡会議委員（清水栄司）
- ・千葉県教育長教育振興部児童生徒安全課 いじめ、不登校等の未然防止に向けた魅力ある学校づくりに関する調査研究事業運営協議会委員（清水栄司）
- ・柏市自殺予防対策連絡会議委員（清水栄司）

●その他

- 清水栄司. 健康 chiba 81 号. 『働く人の健康管理』. 公益財団法人ちば県民保健予防財団. 千葉. 2024/04/01.
- 清水栄司. NHK e テレ「チョイス@病気になったとき」. 「ストレスは減らせる！簡単セルフケア術」(再放送). 2024/04/05.
- 須藤佑輔, 平野好幸. PsyPost “Researchers identify 45 distinct brain connectivity alterations linked to anorexia nervosa” (神経性やせ症の脳機能異常を網羅的に解明した研究). 2024/04/18.
- 吉田斎子, 川上寿郎, 松澤朱里, 清水栄司. 精神医学 66 巻 5 号, P543-546. 増大号特集「精神科診療における臨床評価尺度・検査を極める—エキスパートによる実践的活用法」II 章「疾患別の評価尺度・検査・不安症群、全般不安症の評価尺度—GAD-7, HAM-A, PSWQ, STAI, SCAS」. 2024/05.
- 清水栄司, 浦尾悠子. NHK 「きょうの健康」. 『春のメンタル不調』第 1～4 回. 2024/05/06-09.
- 清水栄司. 健康 chiba 82 号. 『働く人の健康管理』. 公益財団法人ちば県民保健予防財団. 千葉. 2024/07/01.
- 佐々木利奈, 清水栄司. 千葉大学ニュースリリース. 性犯罪に対する偏見を測定する日本語版尺度を開発 ～日米および世代における偏見の受け入れやすさ（受容度）の違いを比較検証～. 2024/08/05.
- 和俊冰, 平野好幸, 清水栄司. 千葉大学ニュースリリース. うつ病と社交不安症に関わる脳機能異常の解明～安静時 fMRI により病態の共通点と相違点が明らかに～. 2024/08/27.
- 清水栄司. NHKE テレ「チョイス@病気になったとき」アンコール放送. 2025/01/12.
- 清水栄司. 東京新聞「紙上診察室～パニック症が再び悪化～」. 2025/01/21.
- 清水栄司. NHK 「チョコちゃんに叱られる」『人見知りをするのはなぜ?』. 2025/01/31.
- 勝嶋雅之, 清水栄司. 千葉大学ニュースリリース. 統合失調症の通常診療に加えたオンライン認知行動療法が有効～患者さんのアクセシビリティを改善した新たな治療の選択肢へ～. 2024/02/07.
- 清水栄司. NHK ラジオ「マイあさ」健康ライフ『早めに気づいて こころの不調 (1)～(5)』. 2025/02/10-14.

研究領域等名：	機 能 形 態 学
診療科等名：	_____

●はじめに

当教室は、2017年に旧解剖学第二（生殖生物医学）と第三（神経生物学）が統合し発足したものである。本年度も従前どおり、学部教育は発足当初から、引き続き組織学・神経解剖学と肉眼解剖学（実習協力）を担当した。また、研究面でも引き続き神経生物グループは脳梗塞、神経変性疾患の病態解明や神経画像によるヒトの認知機能の神経基盤となる構造的な神経束ネットワークを解析した。生殖生物医学グループは、主に生殖細胞の発生・分化・成熟から受精・初期発生に至る現象の解析と不妊症発症機構の解析をメインテーマとして分子細胞生物学的研究を行った。

●教 育

・学部教育／卒前教育

1年次の導入PBL テュートリアル 90分×6コマ、1年次の正常構造と機能 組織学ユニットの講義・演習 90分×15コマ、1年次の医学入門×1コマ、2年次の神経科学ユニットの講義・実習 90分×18コマ、3年次の基礎医学ゼミユニット 90分×8コマ、1－3年次 スカラーシッププログラムを担当した。

・大学院教育

修士課程「先端生命科学特論」の講義 90分×2コマを担当した。

修士・博士課程「医学薬学研究序説・生命倫理学特論」の講義 90分1コマを担当した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

地域の看護専門学校で非常勤講師として「形態機能学」を担当。

●研 究

・研究内容

本年度は、神経生物学グループは、科研費「新規に同定したヒト神経線維束のポリモーダルな解析による高次視覚情報処理の神経基盤」に基づき、ヒト脳の白質解剖とマルチモーダルな脳神経画像解析（fMRI, Tractography）による脳の安静時ネットワーク解析、マウス動物モデルによる脳梗塞の病態解析および培養細胞モデルによる筋萎縮性側索硬化症（ALS）などの神経変性疾患の病態解析を行った。生殖生物医学グループは、科研費「複数の精子機能分子をターゲットとした雄性不妊症発症のメカニズムの解明と臨床応用」に基づき、主に遺伝子改変動物を用いて Equatorin と Odf2 および Odf4 を中心に精子に局在する受精機能分子の解析をすすめている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. H. Piao, H. Ishikawa, T. Kobayashi, K. Kitajo, A. Yamaguchi, K. Koga, M. Shozu. Progesterone improves motor coordination impairments caused by postnatal hypoxic-ischemic brain insult in neonatal male rats. *Pediatr Neonatol.* 2025 May;66 (3):216-222. doi: 10.1016/j.pedneo.2024.03.012.
2. A. Yamaguchi, T. Jitsuishi. Structural connectivity of the precuneus and its relation to resting-state networks. *Neurosci Res.* 2024 Dec;209:9-17. doi: 10.1016/j.neures.2023.12.004.
3. Ito C, Mutoh T, Toshimori K. Spermatozoa from male mice with infertility due to Odf4 deficiency can fertilize oocytes by in vitro fertilization. *Reprod Med Biol.* 2024;23:e12605. DOI: 10.1002/rmb2.12605.

【学会発表数】

国内学会 2回（うち大学院生0回）
国際学会 0回（うち大学院生0回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「複数の精子機能分子をターゲットとした雄性不妊症発症のメカニズムの解明と臨床応用」代表者：伊藤千鶴 2022-2024
2. 文部科学省科学研究費 研究活動スタート支援「新規に同定したヒト神経線維束のポリモーダルな解析による高次視覚情報処理の神経基盤」代表者：實石達也 2022-2024

研究領域等名：	精 神 医 学
診療科等名：	精神神経科／こどものこころ診療部

●はじめに

21世紀は脳とこころの時代と言われている。我が国でも精神疾患治療の重要性が指摘されており、精神疾患が、がんや脳卒中と同様に5大疾病として医療計画に盛り込まれた。

我々は「目の前の患者さんに最善の医療を提供し、将来さらにより医療が提供できるよう努力する」をモットーに、こころの病の臨床・教育・研究に取り組んでいる。

世界標準の精神医療を地域に提供し、これをさらに発展させ、未来を担う良き精神医療従事者を育成するのが我々の使命である。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部2年生に対して、スカラーシッププログラムの学生を5名指導した。医学部3年生に対して3名×1日の医師見習い実習を行った。

医学部4年生に対して、7コマの精神神経ユニット講義・試験、3コマの臨床入門（医療面接）、精神神経ユニットテュートリアル・試験で8名×5グループの指導、OSCE（医療面接）での評価者（2名）を担当した。医学部5年生に対して、4週12～14名×5グループのコア・クリニカルクラークシップの実習指導を行った。医学部6年生に対して、4週6名のアドバンスト・クリニカルクラークシップの実習指導を行った。

亥鼻 IPE Step2 プログラムにおいては、医薬看護学部2年生を1回各4名、計8名を受け入れ、附属病院精神科病棟での多職種連携の実習を行った。医学部学生に対するメンター制度に随時協力した。

・卒後教育／生涯教育

精神神経科ローテート中の初期研修医45名（1年生15名、2年生30名）に対し研修指導をした。また、初期研修プログラムのオプションコースである精神科コースを運営し、8名を研修指導し、4名に修了証を授与した。外来診療では初診時に医学生や研修医に予診を担当させ、入院診療ではいわゆる屋根瓦式の診療チームを編成して、教育体制を充実させている。初期研修医、後期研修医を対象に、計33回のクルズスを開催している。

当科の後期研修は、基礎的な精神科医療を実践できるレベルの基礎課程（ベーシックコース）と、当科の特色ある精神医療と指導を実践できるレベルの上級課程（アドバンストコース）とに分け、段階的な研修とそのフィードバックを特徴としている。2024年度は基礎3名、上級4名、計7名の精神科医が修了している。

精神疾患による精神運動興奮に対処する方法を実践的に学ぶ「千葉大学精神科緊急対応研修会」を6月に開催し、関連病院含めた多職種が参加した。

精神保健福祉法に関して「措置診察実践セミナー」を2月に開催した。

初期臨床研修医の採用試験業務に従事した。

・大学院教育

大学院生は各担当指導教官の下、難治性・治療抵抗性精神疾患の病態解明および治療法の開発を目的に、臨床精神医学研究および基礎研究に従事した。

令和6年度は博士課程に大学院生8名（うち2名留学生）が所属し、うち博士課程4年生の3名（劉靖、鈴木耕輔、矢野郁明）が学位審査を経て医学博士号を取得した。研究進捗報告会を13回開催した。研究に必要なスキルを指導するため、研究方法論等に関するクルズスを3回開催した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

- ・大学入試関連業務（試験官、問題作成・採点等）に従事。
- ・千葉大学教育学部養護教諭養成コースの病院実習の受入れ。
- ・精神医学と法（法科大学院講義）
新津富央：精神医学の基本的な方法－診断・病態
長谷川直：不安障害・解離性障害、摂食障害
佐々木剛：知的障害・発達障害、パーソナリティ障害

●研究

・研究内容

当教室は以下のテーマに関して、世界水準の基礎研究、臨床研究、自主臨床試験を推進してきている。学内においては、社会精神保健教育研究センター、子どものこころの発達教育研究センター、認知行動生理学、認知行動療法センター、災害治療学研究所などと協働している。

2022年からは千葉大学国際高等研究基幹 研究支援プログラム「認知行動療法を活用したデジタルヘルスケア技術の開発と有効性検証」に参加し、心理精神科学の世界的レベルの研究拠点化へ向けて取り組んでいる。学外においては、国立精神・神経医療研究センターなどの研究機関や、千葉県を中心にした精神科医療機関との協働により研究を推進している。

【研究テーマ】

- 1) 治療抵抗性統合失調症・ドパミン過感受性精神病 (DSP) の病態解析とクロザピン等の薬物治療戦略の開発
- 2) 双極症におけるバイオマーカーと薬物治療戦略の開発
- 3) AI を活用した薬理遺伝学的研究
- 4) 児童思春期精神疾患の病態解明、新規診断・治療法の開発
- 5) 精神疾患レジストリ研究
- 6) こどもの自殺予防に関する社会実装研究
- 7) 司法精神鑑定、司法精神医学教育効果
- 8) 周産期メンタルヘルス
- 9) 災害精神医療
- 10) 新型コロナウイルス感染症に関する治療薬開発とメンタルヘルス
- 11) スポーツメンタルヘルス
- 12) 精神科領域の医療経済・政策研究

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Shimada Y, Oda Y, Shibata S, Hirose Y, Sasaki T. Successful Challenge With Brexpiprazole for Idiopathic Hypersomnia in a Patient With Bipolar Disorder: A Case Report. *Cureus*. 2024 Jan 29;16(1):e53182.
2. Ikemizu Y, Oda Y, Hirose Y, Sasaki T, Iyo M. Cerebellar and Occipital Alterations in Brain Perfusion in a Patient With Post-acute COVID-19 Encephalopathy Misdiagnosed As Primary Psychotic Disorder. *Cureus*. 2024 Jan 25;16(1):e52953.
3. Hirose Y, Oda Y, Yoshino K, Yano F, Kimura M, Kimura H, Iyo M, Shirayama Y. Reduction of claudin-5 and aquaporin-4 in the rat hippocampal CA-1 and CA-3 regions of a learned helplessness model of depression. *Pharmacol Biochem Behav*. 2024 Jan;234:173676.
4. Suzuki K, Niitsu T, Kimura H, Yanagisawa Y, Ono M, Komatsu H, Yoshimura K, Watanabe H, Iyo M. Association between mental health social worker staffing in psychiatric emergency wards and readmission outcomes: A nationwide survey in Japan. *PCN Rep*. 2024 Apr 1;3(2):e189.
5. Yano F, Nakata Y, Niitsu T, Iyo M. Japanese youth athletes' mental health and psychological resilience during the COVID-19 pandemic. *Sports Psychiatry*, 2024 May;3(2) 71-79
6. Tachibana M, Kanahara N, Oda Y, Hasegawa T, Kimura A, Iyo M. A retrospective clinical practice study comparing the usefulness of dual-orexin receptor antagonists and a melatonin receptor agonist in patients switching from long-term benzodiazepine receptor agonists. *J Clin Sleep Med*. 2024 Apr 1;20(4):603-613.
7. Suzuki K, Niitsu T, Kato M, Iyo M. Reevaluation of ADHD diagnoses in referral patients: A medical chart review in an advanced psychiatric hospital in Japan. *PCN Rep*. 2024 Oct 14;3(4):e70024.
8. Shiina A, Niitsu T, Tomoto A, Igarashi Y, Shimizu E, Iyo M. An international comparison study between public opinion in the UK and Japan regarding capital punishment and the use of an insanity defense. *Ethics, Medicine and Public Health*, Volume 32, 100966.
9. RANSLATION TEAM, English Translation Team, Takeuchi H, Ichihashi K, Iga J, Kishi T, Miura I, Sakuma K, Sasaki T, Sato H, Takekita Y, Tarutani S, Tomita T, Kanazawa T, Kikuchi S, Kimura H, Numata S, Ochi S, Nemoto K, Oya K, Norio Furukori Y, Hashimoto R, Inada K. Guideline for pharmacological treatment of schizophrenia 2022. *Neuropsychopharmacol Rep*. 2024 Nov 25;45(1):e12497.

10. Kawahara S, Watanabe K, Inazumi K, Kimura M, Hirose Y, Koishikawa H. Successful treatment with olanzapine and aripiprazole of a schizophrenic patient who developed priapism after switching from risperidone to paliperidone. Neuropsychopharmacol Rep. 2024 Dec;44(4): 863-866.

【雑誌論文・和文】

1. 種村菜奈枝, 佐々木剛. 患者や介護者の語り文脈からの潜在ニーズ予測とその可視化. Precision medicine 7(2) 134-137 2024年2月
2. 松山光一, 金原信久, 阿久津実彩, 佐々木剛, 小松尚也, 伊豫雅臣. 統合失調症として治療され, 先天性心疾患や特徴的顔貌を欠くものの, 22q11. 2欠失症候群と診断された一例. 精神科治療学 39(3) 341-346 2024年3月
3. 酒井郁子, 長谷川直, 窪田容子, 瀬尾智美, 西垣昌和, 友滝愛, 佐伯昌俊. 【EBPから実装へ2-実装科学と社会への普及】より良いケアをめざすためのEBP実装 千葉大学医学部附属病院 包括的せん妄ケアチームの活動から. 看護研究 57(3) 230-243 2024年6月
4. 星極, 松山光一, 伊豫輝臣, 齋藤武, 岡田和樹, 小田靖典, 佐々木剛, 伊豫雅臣. 急速に進行した22q11. 2欠失症候群の精神症状に対してクロザピンが有効であった一例. 精神神経学雑誌 (2024 特別号) S657-S657 2024年6月
5. 矢野郁明. スポーツチームドクターとしての精神科医 トップアスリートに精神医学はどう関わるべきか プロサッカークラブにおけるスポーツ精神科医の役割. 精神神経学雑誌 (2024 特別号) S454-S454 2024年6月
6. 新津富央, 伊豫雅臣, 橋本謙二, 花岡英紀, 藤原忠美, 猪狩英俊, 谷口俊文, 中田孝明, 鈴木拓児, 吉村健佑. 新型コロナウイルス感染症に対するフルボキサミンの重症化予防効果に関する医師主導治験 (FLVOCCO) の現状と課題. 千葉医学雑誌 100(4) 108-108 2024年9月
7. 加藤麻里亜, 新津富央, 井手本啓太, 鈴木耕輔, 岡田和樹, 鈴木陽大, 山崎史暁, 橋真澄, 仲田祐介, 木村敦史, 小松英樹, 佐々木剛, 小田靖典, 伊豫雅臣. 薬物抵抗性双極性障害におけるグリア細胞由来神経栄養因子の血清中濃度上昇は電気けいれん療法の反応を予測する. 千葉医学雑誌 100(4) 108-108 2024年9月
8. 齊藤卓弥, 高橋秀俊, 辻井農亜, 佐々木剛, 山口悠太, 高津正寛, 佐藤雅紀. 日本人青年期うつ病患者を対象とした escitalopram の多施設共同ランダム化二重盲検プラセボ対照並行群間治療中止試験による再燃予防効果の検討 【二次出版】. 臨床精神薬理

(27) 971-986 2024年9月

9. 伊豫輝臣, 星極, 齋藤武, 松山光一, 岡田和樹, 小田靖典, 佐々木剛, 伊豫雅臣. 電気けいれん療法後に新たに注釈幻聴が出現した双極性感情障害の1例. 千葉医学雑誌 100(4) 107-107 2024年9月
10. 廣瀬祐紀, 小田靖典, 矢野郁明, 木村大, 伊豫雅臣. 電気ショックがラットのグリア細胞及びグルタミン酸系に与える影響の検討. 千葉医学雑誌 100(4) 109-109 2024年9月
11. 矢野郁明, 藤田有子, 廣瀬祐紀, 小田靖典, 伊豫雅臣. クロザピンはドパミン過感受性を解除するか. 千葉医学雑誌 100(4) 107-107 2024年9月
12. 岡田和樹, 金原信久. 「難治例」の臨床-治療に難渋する時の診断, 治療, そして予防 治療抵抗性統合失調症の診断と治療. 精神医学 66(11) 2024年11月

【単行書】

1. 佐々木剛 (担当: 分担執筆): 発達障害 Q&A 臨床の疑問に答える 104 問 (執筆範囲: 日常診療で発達障害の診断に使いやすいツールにはどのようなものがありますか?), 医学書院 2024年3月

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. 佐々木剛. シンポジウム. 自殺防止のための新たな試み. 第120回日本精神神経学会学術総会 2024年6月 札幌
2. 矢野郁明. シンポジウム. プロサッカークラブにおけるスポーツ精神科医の役割. 第120回日本精神神経学会学術総会 2024年6月 札幌
3. 新津富央. ワークショップ. 措置診察実践セミナー. 第120回日本精神神経学会学術総会 2024年6月 札幌
4. 佐々木剛. シンポジウム. こどものこころが「整う」ために-認知行動療法の視点から-. 第42回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 2024年11月 東京

【学会発表数】

国内学会 13回 (うち大学院生2回)
国際学会 0回 (うち大学院生0回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費「抗精神病薬による薬剤耐性の予防法およびドパミン過感受性精神病解除法の探索」代表者: 小田靖典 2022-2024
2. 文部科学省科学研究費「将来の妊娠に備えた精神科薬物療法を臨床現場に実装する研究」代表者: 橋本佐 2022-2024
3. 文部科学省科学研究費「心的外傷後ストレス障害に対するイフェンプロジルの有効性と睡眠の質評価」代表者: 佐々木剛 2022-2026
4. 文部科学省科学研究費「ライフイベントに関連した心理的苦悩症状に着目した気分障害の探索的治療法

- 開発研究」代表者：佐藤愛子 2023-2027
5. 文部科学省科学研究費「ライフイベント想起による心理的苦悩に病む双極性障害の脳内メカニズムの解明」代表者：関亮太 2023-2027
 6. 文部科学省科学研究費「クロザピン誘発性流涎症の新規病態解明と治療薬開発」代表者：新津富央 2023-2024
 7. 文部科学省科学研究費「閾値下せん妄の病態解明と新たなせん妄予防プロトコルの効果検証」代表者：長谷川直 2023-2025
 8. 文部科学省科学研究費「血小板由来成長因子に基づく気分障害の病態解明とバイオマーカーの開発に関する研究」代表者：井手本啓太 2024-2026
 9. AMED「自殺ポリジェニックリスクスコアを用いた精神疾患患者の自殺リスク予測に関する研究開発」分担者：新津富央 2022-2024
 11. AMED「マイレジストリの縦断データを活用した新規治療法開発と薬事承認の実現」分担者：佐々木剛 2024-2028
 10. AMED「血液由来試料の解析と縦断データに基づく、こどもの発達障害と気分障害の治療効果及び予後に関する層別化」分担者：佐々木剛 2024
 12. 受託研究費「統合失調症と双極性障害に対する薬物療法の個別最適化に資する人工知能を用いた包括的薬理遺伝学研究」代表者：新津富央 2024
 13. 受託研究費「ビバンセカプセル 長期使用に関する特定使用成績調査(小児期)」代表者：佐々木剛 2024
 14. 受託研究費「子ども抑うつに対する遠隔メンタルヘルスケアの社会実装と早期受領システム整備-KOKOROBO と子どもの精神疾患レジストリ連携-」代表者：佐々木剛 2024
 15. 受託研究費「VENL-CAZ-3001 試験を完了した日本人の大きい病性障害(MDD)又は持続性抑うつ障害(PDD)の小児外来患者を対象とした、ベンラファキシンの安全性及び有効性を評価する非盲検多施設共同長期継続投与試験」代表者：佐々木剛 2024
- 【特 許】
1. 新津富央、小田靖典、廣瀬祐紀：特願 2022-187772 クロザピン誘発性流涎症改善剤

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

精神神経科：外来新患 310 名、外来再来延べ 14,845 名。
 こどものこころ診療部：外来新患 65 名、外来再来延べ 2,779 名。
 院内リエゾン・コンサルテーション依頼 525 件対応。
 緩和ケアチームの精神症状担当医として、216 件対応。
 病院内のせん妄ラウンドチームのコアメンバーとして精神科医 1 名、リエゾン看護師 1 名、薬剤師 1 名、公認心理師 1 名、作業療法士 1 名、理学療法士 1 名が活動した。

当科・部は精神疾患全般を診療対象とし、特に治療抵抗性精神疾患や児童思春期症例を積極的に診療している。診断には国際的診断基準や各種検査を用いて包括的に評価している。治療には国際的ガイドラインを用いた薬物療法と認知行動療法を活用し、特に治療抵抗性統合失調症に対するクロザピン療法を計 46 例に提供している。

精神科訪問看護・指導、各種集団療法も提供している。新患・再来ともに完全予約制であるが、地域の医療機関からの検査・診療依頼には柔軟に対応している。認知行動生理学と子どものこころの発達教育研究センターが運営する認知行動療法専門外来に、外来診療スペースを提供した。

医療観察法指定通院医療機関として指定を受けており、1 名の通院医療を担当。

精神神経科の病棟は開放病棟 10 床、閉鎖病棟 31 床、保護室 4 床の計 45 床から成る。

当科病棟の総入院患者件数は 370 件、平均在院日数は 32.59 日であった。

無けいれん電気療法を延べ 374 件、治療抵抗性統合失調症に対するクロザピンの導入は 2025 年 3 月までで累計 91 例に至った。

こどものこころ診療部と連携して小児（16 歳未満）の入院患者 7 名を入院治療した。

司法精神医療にも貢献しており、刑事訴訟法に基づく鑑定留置 4 件を受け入れた。

当科は治療抵抗性精神疾患の診療に重点をおき、無けいれん電気療法や治療抵抗性統合失調症に対するクロザピン療法、認知行動療法、集団精神療法、生活技能訓練療法を実施している。また、身体合併症を持つ精神障害者については、精神症状が身体状態より重篤な場合に限り精神科病棟で受け入れ、身体科医と協働で診療している。

我々は医師主導治験、企業治験、特定臨床研究等の新規治療法開発をめざした介入研究を積極的に推進している。また、精神疾患のレジストリ研究、臨床遺伝学的研究、薬理遺伝学的研究、バイオマーカー探索研究、予後調査等、各種の観察研究や医療政策研究も推進している。

唯一の治療抵抗性統合失調症治療薬であるクロザピン治療を千葉県下の精神科医療機関と連携して取り組む、「千葉クロザピン・サターンプロジェクト」を主導しており、厚生労働省からモデル事業として注目されている。

●地域貢献

千葉県の精神医療審査会や精神科病院の实地指導に精神科医を派遣。

千葉県および千葉市内の措置診察依頼に対して、精神科医を派遣。

【実施件数】

新津富央：千葉県 DPAT 運営会議 有識者 2 回

千葉県 DPAT 新規養成研修 ファシリテーター 1 回

子どものための PFA 研修会 ファシリテーター 1 回

佐々木剛：千葉県教育支援委員会 副座長 5 回

千葉市教育委員会いじめ等の対策及び調査委員会委員 3 回

千葉県子どものこころ診療ネットワーク事業受託（令和 2 年度より）

措置診察（件数）：宮澤惇宏（15）、山崎史暁（10）、廣瀬祐紀（10）、岡田和樹（11）、矢野郁明（11）

医療観察法 精神保健審判員（件数）：新津富央（5）、小田靖典（2）

●その他

【行政、学会等役職】

新津富央：日本精神神経学会代議員

日本脳科学会理事

日本統合失調症学会評議員

日本臨床精神神経薬理学会評議員

千葉医学会評議員

千葉県医師キャリアサポーター

千葉県 DPAT 運営会議構成員（有識者）

佐々木剛：日本精神神経学会 児童精神科医療研修委員会委員

千葉児童思春期精神医学研究会世話人

千葉医学会評議員

日本神経精神薬理学回：統合失調症薬物治療ガイドライン作成委員会委員

千葉県子どもの心の診療ネットワーク事業実務担当者

鈴木耕輔：千葉市精神医療審査会 医療委員

千葉県医師キャリアサポーター

研究領域等名：	眼	科	学
診療科等名：	眼		科

●はじめに

当科では、失明に直結する危険性の高い網膜硝子体疾患および重篤で緊急性を要する緑内障に重点を置いた診療を行っている。具体的には、失明の原因となる増殖糖尿病網膜症や裂孔原性網膜剥離、黄斑円孔や黄斑前膜などに対する網膜硝子体手術を多数施行している。2024年度の硝子体注射を除いた眼科総手術件数は2,725件であり、その中でも硝子体手術は約850件で、関東有数の治療件数を維持している。ここ数年、日帰り外来手術へと移行している白内障手術に関しては約1,200件であった。また緑内障手術にも力を入れており関東でも有数の症例数（約440件）であり、多様な術式が登場している緑内障手術のほぼすべての術式に対応している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

千葉大学医学部学生に対する臨床実習は1グループ5日間（約5人ずつ）と短期間に集中しているため密度の高い実習が必要となる。このため医学生であっても、第1助手として手術に積極的に参加してもらい、また入院患者の主治医見習いとして診察・ミーティングでのプレゼンテーションを行っている。さらに common disease 習得のために関連病院での外来・手術実習など、指導教官による監督下で実際の医療現場を経験する形で行なっている。

専門外でも医師として知っておくべき眼科の基礎的知識や、糖尿病網膜症など全身疾患による眼合併症の予防に関わる教育に力を注いでいる。臨床実習は眼科のユニット講義 から時間が経過しているため、実習期間中にも毎グループに対して多くのミニレクチャーを各専門分野の医師が行って、眼科の知識の再確認と国試対策も図っている。

ここ数年は、国際医療ツーリズムや海外学会での口演発表に向けて、ミーティング言語をすべて英語とし、研修医はもちろんのこと機会があれば学生にも英語でプレゼンテーションやディスカッションに参加してもらっている。

・卒後教育／生涯教育

初期臨床研修の選択科として希望する研修医を受け入れ、一般臨床医として必要な眼科的知識、手技についての教育を行なっている。2024年度は専攻医を7名迎えて眼科専門医取得へ向けた教育を開始している。当科においては、手術件数が多いために、専攻医みずからの白内障手術の執刀機会も多く、比較的短期間で多くの手技を習得している。また診察技術の習得後に、早期から上級医にコンサルトしながら大学病院の外来診療も行っている。学術研究の指導も同時に行い、専門医取得に必要な学会発表2回、筆頭著者としての論文作成1報もできる限り大学病院在籍中に行うように指導している。ここ数年は、眼科入局希望者も増加しており、1人あたりの専攻医の仕事量が減り、QOLが増す一方で、専攻医が一年間で経験できる症例数は減ってしまうが、カンファレンス等の症例検討会で定期的に担当を決めて行い、専攻医全員が経験した症例の経過を共有することで補っている。

・大学院教育

毎年数名の大学院生を受け入れ、豊富な症例を活用した臨床研究（POEMS症候群での視神経乳頭の形態変化と血中 VEGF 濃度の関係、網膜色素変性の視機能の進行速度と影響因子、視神経炎に対する生物学的製剤治療後の変化、緑内障術後の網膜機能変化、強度近視眼における脈絡膜形態観察）、電気生理学的研究（経皮電気刺激による視神経障害の治療）、あるいは網膜再生に関する形態学的研究、神経保護を対象とした基礎的研究の指導を行っている。緑内障は進行性の視神経軸索障害に起因する神経細胞死と考えられ、神経保護作用を有する複数の低分子化合物（citicoline、TUDCA）および神経栄養因子 NT-4 に着目し、視神経軸索障害モデルマウスにこれらの混合剤を点眼投与することで神経細胞死の抑制・軸索再生を行っている。今後、NT-4の受容体である TrkB 分子に着目し、より効果の高い神経保護作用を有する治療薬の開発に向け研究中である。最近では本学 AI 研究センターと連携し、AIを用いた網膜色素変性患者の視機能予測に関する研究も行っている。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

千葉大学看護学部（フィジカルアセスメント）での眼科疾患の実践的な講義、千葉大学工学部・教育学部や千葉県立幕張総合高校での眼疾患の一般的な講義、千葉大学病院アレルギーセンターや千葉県眼科医会との共同での市民公開講座などの教育活動を行っている。

●研究

・研究内容

臨床研究、基礎研究ともに「成果を患者に還元できる研究」を目標に行なっている。現在まで治療法のない進行性の網膜変性疾患である網膜色素変性に関して、視細胞再生治療の実現を目指して神戸理化学研究所と共同で進めている。マカクザル黄斑に iPS 細胞由来網膜オルガノイドを移植し、既存の双極細胞と移植した視細胞の間のシナプス形成を確認している。「眼と老化」をテーマに、糖尿病・代謝・内分泌内科との共同研究で、ヒト老化モデルである Werner 症候群において、網膜・脈絡膜の形態変化・機能変化に焦点をあて研究を進めている。糖尿病・代謝・内分泌内科との共同研究では他にも SGLT2 阻害薬の黄斑浮腫に対する効果を評価する多施設臨床研究を実施し、糖尿病に対する負のイメージや偏見（スティグマ）の実態調査と網膜症の関連を調べる研究を進めている。高齢化に伴い増加する加齢黄斑変性に関しては、自主臨床試験として抗 VEGF 薬での治療前後の視機能の試験を行っている。従来治療評価には視力が用いられてきたが、視力は黄斑周辺のある一点の視機能をみているに過ぎず、患者の自覚症状との乖離がしばしば経験されている。このためより多角的な視機能解析を目的に、眼底直視下網膜感度測定や黄斑部電気応答などの新手法を用いて治療効果評価の検討を進めている。また網膜機能温存を目的とした神経保護に関する基礎的研究も精力的に進めており、神経保護作用を有する複数の低分子化合物 (citicoline、TUDCA) および神経栄養因子 NT-4 に着目し、視神経軸索障害モデルマウスにこれらの混合剤を点眼投与することで神経細胞死の抑制・軸索再生を行っている。今後、NT-4 の受容体である TrkB 分子に着目し、より効果の高い神経保護作用を有する治療薬の開発に向け研究中である。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Akiba R, Lind Boniec S, Knecht S, Uyama H, Tu HY, Baba T, Takahashi M, Mandai M, Wong RO. Cellular and circuit remodeling of the primate foveal midretinal pathway after acute photoreceptor loss. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 2024 Sep 10;121(37):e2413104121. doi:10.1073/pnas.2413104121. Epub 2024 Sep 4. PMID:39231211.
2. Akiba R, Tu HY, Hashiguchi T, Takahashi Y, Toyooka K, Tsukamoto Y, Baba T, Takahashi M, Mandai M. Host-Graft Synapses Form Functional Microstructures and Shape the Host Light Responses After Stem Cell-Derived Retinal Sheet Transplantation. *Invest Ophthalmol Vis Sci*. 2024 Oct 1;65(12):8. doi: 10.1167/iovs.65.12.8. PMID: 39374009.
3. Imai S, Sakao S, Nagata J, Naito A, Sekine A, Sugiura T, Shigeta A, Nishiyama A, Yokota H, Shimizu N, Sugawara T, Nomi T, Honda S, Ogaki K, Tanabe N, Baba T, Suzuki T. Artificial intelligence-based model for predicting pulmonary arterial hypertension on chest x-ray images. *BMC Pulm Med*. 2024 Feb 27;24(1):101. doi: 10.1186/s12890-024-02891-4. PMID: 38413932
4. Ishibashi R, Inaba Y, Koshizaka M, Takatsuna Y, Tatsumi T, Shiko Y, Kashiwagi Y, Maezawa Y, Kawasaki Y, Kawakami E, Yamamoto S, Yokote K. Sodium-glucose co-transporter 2 inhibitor therapy reduces the administration frequency of anti-vascular endothelial growth factor agents in patients with diabetic macular oedema with a history of anti-vascular endothelial growth factor agent use: A cohort study using the Japanese health insurance claims database. *Diabetes Obesity and Metabolism* 2024 doi: 10.1111/dom.15454
5. Ishibashi R, Koshizaka M, Takatsuna Y, Tatsumi T, Maezawa Y, Shiko Y, Inaba Y, Kawasaki Y, Kashiwagi Y, Kawakami E, Yamamoto S, Yokote K. Sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor therapy reduces the administration frequency of steroid injection in patients with diabetic macular edema: A cohort study using the Japanese health insurance claims database. *J Diabetes Investig* 2024 doi:10.1111/jdi.14253
6. Kakisu M, Miura G, Nagai T, Akiba R, Baba T. Curvature of Posterior Pole in Eyes with Retinitis Pigmentosa. *Journal of Clinical Medicine*. 2024; 13(22):6806. <https://doi.org/10.3390/jcm13226806>
7. Kanzaki Y, Matoba R, Ishihara K, Morita T, Muraoka Y, Kimura S, Koto T, Kawasaki R, Baba T, Okamoto F, Inoue M, Sakamoto T, Tsujikawa A, Morizane Y. 2024. Japan-epiretinal membrane (J-ERM) registry: A prospective cohort study protocol investigating the surgical outcome of epiretinal membrane. *PLOS ONE* 19, e0297347. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0297347>
8. Kitamura Y, Ikema S, Tatsumi T, Baba T. Intraluminal Insertion of 9-0 Nylon for Postoperative Choroidal Detachment After Preserflo MicroShunt Implantation: A Case Report. *Cureus*. 2024 Nov 27;16(11):e74560. doi: 10.7759/cureus.74560. PMID:39735092; PMCID: PMC11676401.
9. Koshizaka M, Tatsumi T, Kiyonaga F, Kosakai Y,

- Yoshinaga Y, Shintani-Tachi M. Comparison of the Risk of Diabetic Retinopathy Between Sodium-Glucose Cotransporter-2 Inhibitors and Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitors in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus in Japan: A Retrospective Analysis of Real-World Data. *Diabetes Ther* 2024 doi: 10.1007/s13300-024-01649-9
10. Okamoto T, Okamura H, Iwase T, Niizawa T, Kawamata Y, Yokouchi H, Baba T, Haneishi H. Three-dimensional vascular graph construction from depth information of blood Vessel centerlines in optical coherence tomography angiography. *Optics Continuum* vol. 3, no. 7, pp.1132-1148, 2024 July 15. doi: 10.1364/OPTCON.524641
 11. Saito Y, Shimizu N, Mashimo Y, Tatsumi T, Yokouchi H, Baba T. The Etiology of Intraocular Lens Dislocation and Changes in Intraocular Pressure After Intracapsular Intraocular Lens Fixation Surgery. *Cureus*. 2024 Dec 7;16(12): e75295. doi: 10.7759/cureus.75295. PMID: 39776715; PMCID: PMC11704312
 12. Sugawara T, Pak K, Miura G, Baba T. Visual Activities of Daily Living (ADL) Survey for Retinitis Pigmentosa. *Japanese Journal of Ophthalmology*. 2024 Nov;68(6):717-721. <https://doi.org/10.1007/s10384-024-01122-x>
 13. Tatsumi T, Kaiho T, Iwase T, Miura G, Ozawa Y, Arai M, Oshitari T, Shimizu D, Niizawa T, Takatsuna Y, Baba T. Treatment Effects of Switching to Faricimab in Eyes with Diabetic Macular Edema Refractory to Aflibercept. *Medicina* 2024;60(5)732; <https://doi.org/10.3390/medicina60050732>
 14. Yamagishi A, Kitamura Y, Baba T. Recovery From Central Retinal Artery Occlusion Accompanying Paracentral Acute Middle Maculopathy After COVID-19 Vaccination. <https://researchmap.jp/azusayama/published_papers/46154881> *Cureus* 16(1) e51501 2024.1

【雑誌論文・和文】

1. 馬場隆之. バックル併用硝子体手術のピットフォール. *新しい眼科* 2024;41:933-938.
2. 横内裕敬. 多発性硬化症・視神経脊髄炎スペクトラム障害診療ガイドライン 2023 の解説 *眼科* 2024 66 巻 4 号 p.367-378
3. 横内裕敬. 多発性硬化症・視神経脊髄炎関連疾患ガイドライン 2023 における眼科医がおさえておくべきポイント *神経眼科* 2024 年 41 巻 2 号 p. 113-125

【単行書】

1. 馬場隆之. 全身疾患と眼. 標準眼科学 第 15 版. 医学書院. 2024 年. pp256-277.
2. 馬場隆之. 眼底視野計. これさえ学べば死角なし! 視野フロンティア. 文光堂. 2024 年. pp073-076.
3. 馬場隆之. 強膜バックリング手術 (輪状締結術を含む) に必要な手術解剖 (強膜から見た血管解剖を含む). 眼科医のための手術解剖. 南江堂. 2024 年. pp166-170.
4. 馬場隆之. 乳頭ピット黄斑症候群. 眼科疾患最新の治療 2025-2027. 南江堂. 2024 年. pp199.
5. 馬場隆之. 裂孔原性網膜剥離. 眼科診療秘伝の書. 南江堂. 2024 年. pp147-151.
6. 馬場隆之. 網膜剥離. 6 年前の常識は現在の非常識. AI 時代へ向かう今日の眼科医へ. 医学書院. 2024 年. pp250-253.
7. 馬場隆之. 黄斑円孔網膜剥離. 眼科診療ガイド 第 2 版. 文光堂. 2024 年. pp451-452.
8. 馬場隆之. Dome-shaped macula. 眼科診療ガイド 第 2 版. 文光堂. 2024 年. pp451-452.
9. 馬場隆之. 硝子体・網膜. 脈絡膜の解剖. 眼科レジデントのためのベーシック手術. 第 2 版. 日本医事新報社. 2024 年. pp21-28.
10. 馬場隆之. 飛蚊症を主訴とする硝子体混濁の見極め方. 眼科外来診療. クリニックでの対応と紹介のタイミング. 金原出版. 2024 年. pp1296-1298.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. 馬場隆之. 強度近視眼の硝子体手術の適応と課題. 第 5 回網膜硝子体セミナー in Fukuoka. 2024.3.30 福岡
2. 馬場隆之. 硝子体手術症例提示. 第 7 回 VRNetwork. 2024.4.26 東京
3. 馬場隆之. 近視性網膜分離の治療と課題. 強度近視と網膜硝子体疾患 - 進歩と課題 -. 第 6 回日本近視学会総会. 2024.5.20 東京
4. 馬場隆之. 網膜疾患と眼底視野計の臨床応用. 網膜硝子体疾患の imaging, 進歩と臨床への応用. 第 13 回日本視野画像学会総会. 2024.6.1 新潟
5. 馬場隆之. 増殖糖尿病網膜症に対する 25G 硝子体手術. 徹底討論! 増殖糖尿病網膜症の硝子体手術. 第 30 回日本糖尿病眼学会総会. 2024.6.14 東京
6. 馬場隆之. 糖尿病網膜症. 第 23 回硝子体手術ビデオセミナー. 2024.6.23 品川
7. 馬場隆之. 症例に応じたデバイス活用法. Alcon ケーススタディーウェビナー. 2024.7.10 Web
8. 馬場隆之. 網膜硝子体疾患: 最近の話題. 千葉市眼科医会総会講演会. 2024.7.11 千葉
9. 馬場隆之. 目の健康を保つために. 千葉大学医学部

- 附属病院臨床医学研究助成会総会. 2024.8.8 千葉
10. 馬場隆之. 高齢者に多い目の病気. 令和6年度献体の集い. 2024.11.1 船橋
 11. 馬場隆之. みんなのレチナ. 近視の硝子体手術. 第78回日本臨床眼科学会イブニングセミナー. 2024.11.14 京都
 12. 馬場隆之. Novel port setting for vitrectomy in high myopia. 17th Asia-Pacific Vitreo-Retina Society Congress. 2024.11.23 Singapore
 13. 馬場隆之. デバイスの進化と27ゲージ手術新時代. 第63回日本網膜硝子体学会イブニングセミナー4. 2024.12.7 大阪
 14. 馬場隆之. 自然な色味でここまで見える！Optos California RGB. 第63回日本網膜硝子体学会モーニングセミナー. 2024.12.8 大阪
 15. 馬場隆之. Surgical Approach to Myopic Macular Traction. 4th Asia Retina Congress. 2024.12.13 Seoul, Korea
 16. 辰巳智章. 糖尿病黄斑浮腫治療の可能性－SGLT2阻害薬とベオビュー－. ノバルティス web セミナー. 2024.8.26 千葉
 17. 辰巳智章. 糖尿病網膜症～最近の話題 手術、抗VEGF 治療含めて～. 南房総地域連携の会. 2024.8.29 市原
 18. 三浦玄. 網膜色素変性に対する治療法開発の現状. 第27回千葉県網膜色素変性症協会定期総会 医療講演会. 2024.6.23 千葉
 19. 海保朋未. 新薬治験実施状況～未来の新薬に期待して～. 第3回 ゐのはな Network. 2024.5.15 千葉
 20. 新沢知広. Ngenuity3D ビジュアルシステムの使用経験. 第39回千葉臨床眼科フォーラム. 2024.1.20 WEB
 21. 新沢知広. 日常診療に役立つ AMD 解説. Resident Station. 2024.2.21 WEB
 22. 新沢知広. 千葉大学病院における中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性の治療戦略. Senju Web Seminar for Retina. 2024.3.27 千葉
 23. 新沢知広. 千葉大で働く。'24－留学と研究と臨床と教育と－. 第14回 Chiba-SWEETS の会. 2024.7.28 幕張
 24. 新沢知広. 千葉大学病院での AMD 診療 2024. 第8回船橋黄斑疾患セミナー 2024.11.1 船橋
 25. 北村裕太. 緑内障治療 up to date. KOWA Web Conference. 2024.7.10 WEB
 26. 岩瀬雄仁. 黄斑下出血症例. AMD Cross Conference. 2024.9.20 東京
 27. 山岸梓. 千葉大学医学部附属病院緑内障外来における緑内障治療について. 第2回房総眼科セミナー. 2024.2.15 木更津
 28. 山岸梓. 濾過手術後の浅前房 観血的治療の判断. 6th NETNAS. 2024.11.14 京都
 29. 川俣勇人. 治療に難渋した症例. ちば若手 AMD 勉強会. 2024.2.8 千葉
 30. 川俣勇人. 症例提示 3. CHIBA Young Investigator Meeting 2024. 2024.11.29 幕張
 31. 横内裕敬. 眼科医が診る中枢神経系炎症性脱髄疾患. 令和6年度第1回千葉県眼科医会総会学術講演会. 2024.6.30 千葉
 32. 横内裕敬. 難治性視神経炎について. 第16回東上総地区眼科学術講演会. 2024.10.16. 茂原
 33. 横内裕敬. 脳神経内科と眼科の連携について－最新ガイドラインその後－. 第62回日本神経眼科学会イブニングセミナー. 2024.11.29 金沢
 34. 鈴木加奈子. 神経眼科外来状況～難治患者の治療を目指して～. ゐのはな Network. 2024.5.15 千葉
 35. 鈴木加奈子. NMOSD における注意すべき眼初見. 北総脳神経疾患ネットワーク倶楽部. 2024.12.5 千葉
- 【学会発表数】**
- 国内学会 15 学会 24 回（うち大学院生 3 回）
国際学会 2 学会 3 回（うち大学院生 0 回）
- 【外部資金獲得状況】**
1. 厚生労働省科学研究費「早老症の医療水準向上と予後改善を目指す集学的研究」分担者：忍足俊幸 2024-2026
 2. 厚生労働省科学研究費「先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究」分担者：三浦玄 2024-2025
 3. 文部科学省科学研究費 若手「網膜変性に対する幹細胞由来網膜組織移植後の電子顕微鏡による視機能ネットワーク解析」代表者：秋葉龍太郎 2023-2028
 4. 文部科学省科学研究費 基盤 C「視神経挫滅ラットモデルを用いた多角的アプローチによる視神経再生戦略の検討」代表者：忍足俊幸 2022-2024
 5. 文部科学省科学研究費 基盤 C「Werner 症候群患者と wrn/recql5 DKO マウスを用いた「老化バイオアイマーカー」の探索」代表者：横内裕敬 2023-2025
 6. 文部科学省科学研究費 若手「萎縮型加齢黄斑変性病態における肥満細胞およびトリプターゼの関与の解明」代表者：新沢知広 2024-2026
 7. 日本医療研究開発機構「慢性中心性漿液性脈絡網膜症に対するレーザー照射エネルギー減量光線力学的療法の有効性及び安全性を検証する医師主導治験」分担者：馬場隆之 2023-2025
 8. 公益財団法人タムス岡本記念財団「ACEI による眼軸長抑制効果」代表者：馬場隆之 2024
 9. 受託研究（中外製薬株式会社）「SakuraBONSAI 試験：視神経脊髄炎スペクトラム障害患者対象にサト

ラリズムの臨床・画像・バイオマーカーへの作用を探索的に検討する製造販売後臨床試験」代表者：馬場隆之 2022-2025

10. 受託研究 (IQVIA 株式会社)「新生血管を伴う(滲出型)加齢黄斑変性患者を対象に AVT06 の有効性及び安全性を EU- アイリーア R と比較して評価する無作為化、二重盲検、並行群間、多施設共同臨床研 (ALVOEYE 試験)」代表者：岩瀬雄仁 2022-2024
11. 共同研究 (三井化学株式会社)「健常性眼に対する客観的定量的色付きレンズ設計システムの基礎理論の確認 (探索的試験3)」代表者：三浦玄

2022-2024

12. 共同研究 (クリュートメディカルシステムズ株式会社)「緑内障早期発見のための新型視野検査開発プロジェクト」代表者：馬場隆之 2023-2025
13. 共同研究 (千寿製薬株式会社)「SPJ-0008 第Ⅲ相試験-網膜中心動脈閉塞症患者を対象とした多施設共同無作為化二重遮蔽プラセボ対照並行群間比較試験-」代表者：海保朋未 2023-2025

【受賞歴】

1. 秋葉龍太郎 第17回 田野 Young Investigator's Award

●診療

・外来診療・入院診療・その他(先進医療等)

外来診療、入院診療とも失明に直結する危険性の高い網膜硝子体疾患および重篤で緊急性を要する緑内障に重点を置いた診療を行っている。外来のみで対応できる疾患も多く、2024年度も白内障手術のほとんどを外来手術にて行っている。糖尿病網膜症や網膜疾患の網膜光凝固術、閾値下レーザー、緑内障に対するレーザー虹彩切開術、選択的レーザー線維柱帯形成、加齢黄斑変性に対する光線力学療法などの治療も外来で行う。加齢黄斑変性や黄斑浮腫などに対する硝子体注射は眼科の診療に占める割合が高いが、当科では年間5400件行っており、これは国内4位の件数である。これらをほぼすべて外来診療で行っている。その他検査もほぼすべて外来で行っている。視力検査や眼圧検査といった基本的な検査の他、緑内障の診断、重症度や進行速度の評価に重要な視野検査、網膜症の診断や治療適応の評価に必要な光干渉断層撮影、蛍光眼底造影検査など。2024年度の外来患者数は41,450人、新患者数は3,082人であった。

入院診療では主に侵襲の大きな硝子体手術、緑内障手術などの手術を行う。しかし最近ではこれらの手術も外来手術へ移行している。2024年度は網膜前膜などの黄斑疾患に加え、眼内レンズ強膜内固定手術、増殖糖尿病網膜症に伴う硝子体出血なども外来手術で行うようになってきている。今後は入院が必要な手術は限られ、術直後から眼圧調整のため頻繁な処置を必要とする緑内障の濾過手術、術後伏臥位が必要な網膜剥離や全身麻酔下で行う手術がこれにあたるが、それらの入院期間も少しずつ減少している。そのほか視神経炎や甲状腺眼症などステロイドパルス療法も入院診療で行っている。

眼科病床数は14床で、入院患者総数は5,987人であった。少ない病床でより多くの患者さんの治療を行うため、短期間での入院となってきている。

●地域貢献

学外の眼科勤務医、開業医の生涯教育、地域連携を目的に、「千葉眼科集談会」と「千葉臨床眼科フォーラム」を一年で各2回ずつ開催し、毎回120名前後の県内からの参加者を得ている。このほか「千葉眼科手術懇話会」、「Chiba Glaucoma Frontier」、「千葉糖尿病眼合併症研究会」、「Chiba Ophthalmologists Collaboration OnlineAcademy (COCO)」を世話人として主催し、手術技術の向上や教育、地域連携に貢献している。千葉市および近郊の開業医・関連病院の医師との病診連携を図るため、定期的に勉強会を開催して、角膜疾患、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、緑内障、視神経疾患など紹介のタイミングや術後フォローの注意点などをディスカッションしている。

地域A群病院を含む県内20近い病院に常勤医師を複数体制で派遣し、さらにそれ以外の地域の病院にも非常勤医師を継続的に派遣し、医師少数地域での眼科医療を支えている。

研究領域等名：	脳 神 経 内 科 学
診療科等名：	脳 神 経 内 科

●はじめに

当教室には多数の脳神経内科専門医がおり、神経免疫疾患、末梢神経疾患、パーキンソン病、認知症、脳血管障害等幅広い神経疾患に関し専門的な診療・研究・教育活動を行っている。

診療に関しては、神経疾患全般に対して最新・最善の医療を提供できるよう心掛けています。また、研究に関しては、新規治療の開発につながる研究を目標に、最新の神経画像技術、分子生物学的・神経生理学的手法などを組み合わせた多面的なアプローチを行っている。さらに、教育に関しては、医学部生・初期研修医・後期研修医の教育に精力的に取り組む、地域医療に貢献できる医師、国際的な研究を行える医師の育成を目指している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

クリニカルクラークシップ：4週×5グループ、3週×5グループ行った。

臨床チュートリアル：2日×4名で担当（澁谷・杉山・栢田・水地）

臨床入門：臨床医学総論講義（1コマ）、臨床入門実習（杉山・水地、神経診察×3回：6月～7月）

ユニット講義：精神・神経ユニットを担当し7コマの講義を行った。（11月～12月）

IPE step4（水地）、臨床実習導入前プログラム（水地）、医師見習い体験学習（栢田、水地）

イノベティブ先端治療学講義（栢田）1コマ

生理学講義（荒木）1コマ

医学入門（1年生）桑原1コマ

・卒後教育／生涯教育

卒後研修セミナー：初期・後期研修医を対象に、90分×28コマを行った。

卒後研修：後期研修医を対象に、神経生理学的検査、ボツリヌス治療、神経画像の特別研修（3ヶ月）を4回行った。

・大学院教育

6名の大学院生を教育した結果、6名全員が卒業・学位授与に至った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

・看護学部大学院（平野）フィジカルアセスメント神経1コマ

・看護学部（森）成熟期にある人々の健康障害と看護1コマ

・薬学部（疾病学Ⅰ、疾病学Ⅱ）（森）講義90分×2コマ

・現代医学（教養展開科目）（荒木）1コマ

●研 究

・研究内容

臨床神経生理・末梢神経、多発性硬化症、重症筋無力症、自律神経、神経核医学、画像、認知症等の研究グループに分かれ、末梢神経疾患、神経免疫疾患、神経変性疾患を対象に基礎・臨床における多岐にわたるテーマに取り組む、成果を国際誌に公表した。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Dharmadasa T, Pavey N, Tu S, Menon P, Huynh W, Mahoney CJ, Timmins HC, Higashihara M, van den Bos M, Shibuya K, Kuwabara S, Grosskreutz J, Kiernan MC, Vucic S. Novel approaches to assessing upper motor neuron dysfunction in motor neuron disease/amyotrophic lateral sclerosis: IFCN handbook chapter. Clin Neurophysiol. 2024 Jul;163: 68-89.
2. Niino M, Isobe N, Araki M, Ohashi T, Okamoto

T, Ogino M, Okuno T, Ochi H, Kawachi I, Shimizu Y, Takahashi K, Takeuchi H, Tahara M, Chihara N, Nakashima I, Fukaura H, Misu T, Miyazaki Y, Miyamoto K, Mori M, Kinoshita M, Takai Y, Fujii C, Watanabe M, Fujihara K. Clinical practice guidelines for multiple sclerosis, neuromyelitis optica spectrum disorder, and myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody-associated disease 2023 in Japan Multiple sclerosis and related disorders 2024 Oct;90:105829.

3. Uzawa A, Oertel FC, Mori M, Paul F, Kuwabara S. NMOSD and MOGAD: an evolving disease spectrum *Nat Rev Neurol*. 2024 Oct;20(10):602-619
4. Allen JA, Lin J, Basta I, Dysgaard T, Eggers C, Guptill JT, Gwathmey KG, Hewamadduma C, Hofman E, Hussain YM, Kuwabara S, Le Masson G, Leyboldt F, Chang T, Lipowska M, Lowe M, Lauria G, Querol L, Simu MA, Suresh N, Tse A, Ulrichs P, Van Hoorick B, Yamasaki R, Lewis RA, van Doorn PA; ADHERE Study Group. Safety, tolerability, and efficacy of subcutaneous efgartigimod in patients with chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy (ADHERE): a multicentre, randomised-withdrawal, double-blind, placebo-controlled, phase 2 trial *The Lancet. Neurology* 2024 Oct;23(10):1013-1024.
5. Aotsuka Y, Misawa S, Suichi T, Shibuya K, Nakamura K, Kano H, Otani R, Morooka M, Ogushi M, Nagashima K, Sato Y, Kuriyama N, Kuwabara S. Prevalence and clinical profiles of anti-myelin-associated glycoprotein neuropathy in Japan: A nationwide survey study of 133 patients. *Eur J Neurol*. 2024 May;31(5):e16249.
6. Aotsuka Y, Misawa S, Suichi T, Shibuya K, Nakamura K, Kano H, Otani R, Morooka M, Ogushi M, Nagashima K, Sato Y, Kuriyama N, Kuwabara S. Prevalence, Clinical Profiles, and Prognosis of CIDP in Japanese Nationwide Survey: Analyses of 1,257 Diagnosis-Confirmed Patients. *Neurology*. 2024 Mar 26;102(6):e209130.
7. Aotsuka Y, Misawa S, Suichi T, Shibuya K, Nakamura K, Kano H, Otani R, Morooka M, Ogushi M, Nagashima K, Sato Y, Kuriyama N, Kuwabara S. Multifocal motor neuropathy in Japan: A nationwide survey on prevalence, clinical profiles, and treatment *Muscle & nerve* 2024 Nov;70(5): 1027-1033.
8. Arends S, Drenthen J, de Koning L, van den Bergh P, Hadden RDM, Kuwabara S, Reisin RC, Shahrizaila N, Ajroud-Driss S, Antonini G, Attarian S, Balducci C, Bertorini T, Brannagan TH, Cavaletti G, Chao CC, Chavada G, Dillmann KU, Dimachkie MM, Galassi G, Gutiérrez-Gutiérrez G, Harbo T, Islam B, Islam Z, Katzberg H, Kusunoki S, Manganelli F, Miller JAL, Pardo J, Pereon Y, Rajabally YA, Sindrup S, Stettner M, Uncini A, Verhamme C, Vytopil M, Waheed W, Jacobs BC, Cornblath DR; IGOS Consortium. Electrophysiological subtyping in Guillain-Barré syndrome patients in the International Guillain-Barré Outcome Study *Eur J Neurol*. 2024 Sep; 31(9):e16335
9. 659. Chikada A, Orimo K, Mitsui J, Matsukawa T, Ishiura H, Toda T, Mizusawa H, Takahashi Y, Katsuno M, Hara K, Onodera O, Ishihara T, Tada M, Kuwabara S, Sugiyama A, Yamanaka Y, Takahashi R, Sawamoto S, Sakato Y, Ishimoto T, Hanajima R, Watanabe Y, Takigawa H, Adachi T, Abe K, Yamashita T, Takashima H, Higashi K, Kira J, Yabe I, Matsushima M, Ogata K, Ishikawa K, Nishida Y, Ishiguro T, Ozaki K, Nagata T, Tsuji S. The Japan MSA registry: A multicenter cohort study of multiple system atrophy. *Neurology and Clinical Neuroscience*. 2024;12:271-277.
10. Eki A, Sugiyama A, Shibuya K, Nakagawa Y, Ishige T, Suichi T, Otani R, Kuwabara S. Split hand and minipolymyoclonus in spinocerebellar ataxia type 3: a case report *BMC Neurol*. 2024 Nov 9;24(1):434.
11. Fujiwara A, Horii W, Sano J, Kodama T, Kato A, Shibuya K, Saitoh T. Invasion of Chicken Anemia Virus in Specific-Pathogen-Free Chicken Flocks and Its Successful Elimination from the Colony *Vet Sci*. 2024 Jul 22;11(7):329.
12. González-Moreno J, Dispenzieri A, Grogan M, Coelho T, Tournev I, Waddington-Cruz M, Wixner J, Diemberger I, Garcia-Pavia P, Chapman D, Gupta P, Glass O, Amass L; THAOS investigators. (Misawa S.) Clinical and Genotype Characteristics and Symptom Migration in Patients With Mixed Phenotype Transthyretin Amyloidosis from the Transthyretin Amyloidosis Outcomes Survey. *Cardiol Ther*. 2024 Mar;13(1):117-135.
13. Handa H, Sugiyama A, Kaname T, Shigemoto Y, Sato N, Hirano S, Nakagawa Y, Uzawa A, Aotsuka A, Kuwabara S. Frontal deficits and atrophy in a patient with familial encephalopathy with neuroserpin inclusion bodies detected by single-case voxel-based morphometry: a case report. *BMC Neurol*. 2024 Jan 2;24(1):9.
14. Handa H, Uzawa A, Mori M, Yasuda M, Onishi Y, Akamine H, Ogaya E, Niibe Y, Yokota H, Kuwabara S. Effects of Denosumab and Bisphosphonates on Glucocorticoid-induced Osteoporosis in Patients with Neuroimmunological Disorders *Internal medicine* 2025 Feb 15;64(4): 543-549.
15. Handa H, Sugiyama A, Kubosawa H, Nakagawa Y, Kishida D, Uzawa A, Aotsuka A, Kuwabara S. A patient with P369S/R408Q variants in the MEFV gene presented with clinical features of Kikuchi

- disease and Mollaret meningitis, successfully treated with colchicine *BMC Neurol.* 2024 Nov 14; 24(1):446.
16. Hatano T, Sengoku R, Nagayama H, Yanagisawa N, Yoritaka A, Suzuki K, Nishikawa N, Mukai Y, Nomura K, Yoshida N, Seki M, Matsukawa MK, Terashi H, Kimura K, Tashiro J, Hirano S, Murakami H, Joki H, Uchiyama T, Shimura H, Ogaki K, Fukae J, Tsuboi Y, Takahashi K, Yamamoto T, Kaida K, Ihara R, Kanemaru K, Kano O. Impact of Istradefylline on Levodopa Dose Escalation in Parkinson's Disease: ISTRA ADJUST PD Study, a Multicenter, Open-Label, Randomized, Parallel-Group Controlled Study. *Neurol Ther.* 2024 Apr;13(2):323-338.
 17. Higashihara M, Pavey N, Menon P, van den Bos M, Shibuya K, Kuwabara S, Kiernan MC, Koinuma M, Vucic S. Reduction in short interval intracortical inhibition from the early stage reflects the pathophysiology in amyotrophic lateral sclerosis: A meta-analysis study. *Eur J Neurol.* 2024 Mar 20; e16281.
 18. Himuro K, Uzawa A, Kawaguchi N, Kanai T, Isono S, Kuwabara S. Quantitative assessment of dysphagia in myasthenia gravis *Internal medicine* 2024 Oct 18.
 19. Hiraga A, Kojima K, Kuwabara S. Typical and atypical MRI abnormalities in Wernicke's encephalopathy: Correlation with blood vitamin B1 levels. *J Neurol Sci.* 2024 Jun 15;461:123045.
 20. Hiraga A, Kojima K, Suzuki M, Kuwabara S. Isolated contralateral spinothalamic sensory loss below thoracic level due to lateral medullary infarction. *Acta Neurol Belg.* 2024 Feb;124(1): 279-281.
 21. Hiraga A, Mori M, Aoyama S. A Young Man With Paraparesis After Influenza Virus Infection *Ann Emerg Med.* 2024 Dec;84(6):690-691.
 22. Ikeda A, Meng H, Taniguchi D, Mio M, Funayama M, Nishioka K, Yoshida M, Li Y, Yoshino H, Inoshita T, Shiba-Fukushima K, Okubo Y, Sakurai T, Amo T, Aiba I, Saito Y, Saito Y, Murayama S, Atsuta N, Nakamura R, Tohnai G, Izumi Y, Morita M, Tamura A, Kano O, Oda M, Kuwabara S, Yamashita T, Sone J, Kaji R, Sobue G, Imai Y, Hattori N. CHCHD2 P14L, found in amyotrophic lateral sclerosis, exhibits cytoplasmic mislocalization and alters Ca²⁺ homeostasis *PNAS* 2024 Jul 30;121(8):e319
 23. Imajoh M, Mori M, Shimizu T, Koizumi Y, Kobayashi Y, Kawahara M, Daibata M. Complete genome sequence of *Edwardsiella tarda* strain GBS0709 isolated from a Japanese patient with the acute motor axonal neuropathy subtype of Guillain-Barré syndrome *Microbiol Resour Announc.* 2024 Sep 10;13(9):e0045624.
 24. Ishihara T, Koyama A, Atsuta N, Tada M, Toyoda S, Kashiwagi K, Hirokawa S, Hatano Y, Yokoseki A, Nakamura R, Tohnai G, Izumi Y, Kaji R, Morita M, Tamura A, Kano O, Aoki M, Kuwabara S, Kakita A, Sobue G, Onodera O. SMN2 gene copy number affects the incidence and prognosis of motor neuron diseases in Japan *BMC Med Genomics.* 2024 Nov 6;17(1):263.
 25. Ishii A, Tsukamoto S, Mimura N, Miyamoto-Nagai Y, Isshiki Y, Matsui S, Nakao S, Shibamiya A, Hino Y, Kayamori K, Oshima-Hasegawa N, Muto T, Takeda Y, Suichi T, Misawa S, Ohwada C, Yokote K, Kuwabara S, Nakaseko C, Takamatsu H, Sakaida E. Detection of clonal plasma cells in POEMS syndrome using multiparameter flow cytometry. *Sci Rep.* 2024 May 6;14(1):10362.
 26. Ishikawa A, Takeda T, Kokubun S, Saito Y, Iose S, Ito K, Arai K, Sugiyama A, Kuwabara S, Honda K. Putaminal hypointensity on T2-weighted MRI mimicking multiple system atrophy in amyotrophic lateral sclerosis: An autopsy case report. *J Neurol Sci.* 2024 May 15;460:123025.
 27. Ito M, Sugiyama A, Higuchi Y, Takashima H, Takahashi Y, Mizusawa H, Kuwabara S. Writer's Cramps as an Initial Symptom of Spinocerebellar Ataxia Type 14 *Internal medicine* 2024 Aug 1;63(15):2183-2186.
 28. Kinoshita M, Oyanagi K, Matsushima A, Kondo Y, Hirano S, Ishizawa K, Ishihara K, Terada S, Inoue T, Yazawa I, Washimi Y, Yamada M, Nakayama J, Mitsuyama Y, Ikeda SI, Sekijima Y. Adult-onset leukoencephalopathy with axonal spheroids and pigmented glia (ALSP): Estimation of pathological lesion stage from brain images. *J Neurol Sci.* 2024 Jun 15;461:123027.
 29. Kuroiwa R, Shibuya K, Inagaki T, Nara T, Nemoto M, Doi Y, Yasuda M, Uzawa A, Shiko Y, Murata A, Yamanaka Y, Kuwabara S. Reliability and validity of cough peak flow measurements in myasthenia gravis. *Neuromuscul Disord.* 2024 Aug;41:29-34.
 30. Kuwabara S, Kusunoki S, Kuwahara M, Yamano Y, Nishida Y, Ishida H, Kasuya T, Kupperman E, Lin Q, Frick G, Misawa S. Efficacy and safety of eculizumab in Guillain-Barré syndrome: A phase

- 3, multicenter, double-blind, randomized, placebo-controlled clinical trial *Journal of the peripheral nervous system* : JPNS 2024 Sep;29(3):339-349
31. Namba S, Yokota H, Mukai H, Hashiba J, Kogayō N, Nakao T, Sugiyama A, Ogaya E, Aotsuka Y, Kuwabara S, Uno T. Neurosarcoidosis with enlargement of the dorsal root ganglia: A case report. *Radiol Case Rep*. 2024 Feb 13;19(5):1718-1721.
32. Otani R, Shibuya K, Shimizu T, Kitaoji T, Noto YI, Bokuda K, Kimura H, Suichi T, Nakamura K, Kano H, Morooka M, Aotsuka Y, Ogushi M, Misawa S, Kuwabara S. Diagnostic utility of Gold Coast criteria for amyotrophic lateral sclerosis in Asia. *Amyotroph Lateral Scler Frontotemporal Degener*. 2024 May;25(3-4):264-270.
33. Otani R, Shibuya K, Suzuki YI, Suichi T, Morooka M, Aotsuka Y, Ogushi M, Kuwabara S. Effects of motor cortical and peripheral axonal hyperexcitability on survival in amyotrophic lateral sclerosis. *J Neurol Neurosurg Psychiatry*. 2024 Jul 15;95(8):730-736.
34. Nishiyama M, Koreki A, Iose S, Takeda T, Ishikawa A, Kokubun S, Saito Y, Ito K, Arai K, Takahashi N, Motoda Y, Kuwabara S, Honda K. Factors associated with psychological distress in patients with amyotrophic lateral sclerosis: A retrospective medical records study *Journal of psychosomatic research* 2024 Sep 3:187:111915.
35. Sugimoto T, Suzuki S, Uzawa A, Yamawaki T, Masuda M, Minami N, Kawaguchi N, Kubota T, Takahashi MP, Suzuki Y, Watanabe G, Konno S, Kimura T, Samukawa M, Ishizuchi K, Akamine H, Onishi Y, Yasuda M, Nagane Y, Maruyama H, Murai H, Utsugisawa K. Worsening of myasthenic symptoms associated with statins *Journal of the neurological sciences* 2024 Sep 15:464:123154.
36. Suzuki M, Hirano S, Otte K, Schmitz-Hübsch T, Izumi M, Tamura M, Kuroiwa R, Sugiyama A, Mori M, Röhling M H, Brandt U A, Murata A, Paul F, Kuwabara S. Digital Motor Biomarkers of Cerebellar Ataxia Using an RGB-Depth Camera-Based Motion Analysis System. *Cerebellum*. 2024 Jun;23(3):1031-1041.
37. Suzuki S, Uzawa A, Nagane Y, Masuda M, Konno S, Kubota T, Samukawa M, Ishizuchi K, Tokuyasu D, Handa H, Yasuda M, Kawaguchi N, Kimura T, Suzuki Y, Sugimoto T, Minami N, Takahashi MP, Murai H, Utsugisawa K. Therapeutic Responses to Efgartigimod for Generalized Myasthenia Gravis in Japan. *Neurol Clin Pract*. 2024 Jun;14(3):e200276.
38. Tang Z, Hirano S, Koizumi Y, Izumi M, Kitayama Y, Yamagishi K, Tamura M, Ishikawa A, Kashiwado K, Iimori T, Mukai H, Yokota H, Horikoshi T, Uno T, Kuwabara S. Diagnostic Sensitivity and Symptomatic Relevance of Dopamine Transporter Imaging and Myocardial Sympathetic Scintigraphy in Patients with Dementia with Lewy Bodies. *J Alzheimers Dis*. 2024;100(1):127-137.
39. Takeda T, Koreki A, Kokubun S, Saito Y, Ishikawa A, Iose S, Ito K, Arai K, Kitagawa K, Kuwabara S, Honda K. Deep vein thrombosis and its risk factors in neurodegenerative diseases: A markedly higher incidence in Parkinson's disease. *J Neurol Sci*. 2024 Feb 15;457:122896.
40. Tokuyasu D, Suzuki S, Uzawa A, Nagane Y, Masuda M, Konno S, Kubota T, Samukawa M, Sugimoto T, Ishizuchi K, Oyama M, Yasuda M, Akamine H, Onishi Y, Suzuki Y, Kawaguchi N, Minami N, Kimura T, Takahashi MP, Murai H, Utsugisawa K. Real-world experience with eculizumab and switching to ravulizumab for generalized myasthenia gravis. *Ann Clin Transl Neurol*. 2024 May;11(5):1338-1346.
41. Uzawa A, Mori M, Masuda H, Muto M, Ohtani R, Aoyama S, Matsushita K, Kuwabara S. Contributions of CSF interleukin-6 elevation to the pathogenesis of myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody-associated disease. *Mult Scler*. 2024 Jul;30(8):977-982.
42. Uzawa A, Mori M, Masuda H, Uchida T, Muto M, Ohtani R, Aoyama S, Kuwabara S. Long-term disability progression in aquaporin-4 antibody-positive neuromyelitis optica spectrum disorder: a retrospective analysis of 101 patients. *J Neurol Neurosurg Psychiatry*. 2024 Jun 17;95(7):626-629.
43. Uzawa A, Suzuki S, Kuwabara S, Akamine H, Onishi Y, Yasuda M, Ozawa Y, Kawaguchi N, Kubota T, Takahashi MP, Suzuki Y, Watanabe G, Kimura T, Sugimoto T, Samukawa M, Minami N, Masuda M, Konno S, Nagane Y, Utsugisawa K. Taste disorders and alopecia in myasthenia gravis. *BMC Neurol*. 2024 Apr 25;24(1):139.
44. Uzawa A, Yasuda M, Akamine H, Onishi Y, Handa H, Ogaya E, Ozawa Y, Masuda H, Mori M, Kuwabara S. Markedly upregulated serum semaphorin 4A as a novel activity marker of myasthenia gravis. *Scand J Immunol*. 2024 May;99(5):e13360.
45. Utsugisawa K, Deguchi K, Konno S, Masuda M,

- Minami N, Murai H, Suzuki S, Suzuki Y, Tsujino A, Uzawa A, Boroojerdi B, Borderie d l G, Brock M, Duda W B, Vanderkelen M, Howard F J. Efficacy and safety of zilucoplan in Japanese patients with generalized myasthenia gravis: A subgroup analysis of the phase III randomized RAISE study. Clin Exp Neuroimmunol. 2024;15:45-54.
46. Wang J, Sugiyama A, Yokota H, Hirano S, Yamamoto T, Yamanaka Y, Araki N, Ito S, Paul F, Kuwabara S. Differentiation between Parkinson's Disease and the Parkinsonian Subtype of Multiple System Atrophy Using the Magnetic Resonance T1w/T2w Ratio in the Middle Cerebellar Peduncle. Diagnostics (Basel). 2024 Jan 17;14(2):201.
 47. Watanabe M, Isobe N, Niino M, Nakashima I, Matsushita T, Sakai Y, Nakahara J, Kawachi I, Ochi H, Nakatsuji Y, Nakamura Y, Nakamura K, Sakata K, Matsui M, Kuwabara S, Kira JI. Prevalence of, and Disability Due to, Multiple Sclerosis and Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder in Japan by the Fifth Nationwide Survey Neurology 2024 Nov 26;103(10):e209992.
 48. Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Kuwabara S. The examination of detrusor underactivity in multiple system atrophy Frontiers in neurology 2024 Sep 17;15:1460379
 49. Yasuda M, Uzawa A, Kuwabara S, Suzuki S, Akamine H, Onishi Y, Ozawa Y, Kawaguchi N, Kubota T, Takahashi MP, Suzuki Y, Watanabe G, Kimura T, Sugimoto T, Samukawa M, Minami N, Masuda M, Konno S, Nagane Y, Utsugisawa K. Corrigendum to "Clinical features and outcomes of patients with muscle-specific kinase antibody-positive myasthenia gravis in Japan" [Journal of Neuroimmunology 385 (2023) 578241] Journal of neuroimmunology 2024 Oct 24;397:578465.
 50. Yasuda M, Uzawa A, Onishi Y, Handa H, Akamine H, Ogaya E, Ozawa Y, Masuda H, Mori M, Kuwabara S. Elevated serum levels of C-terminal agrin fragment in acetylcholine receptor antibody-positive myasthenia gravis Journal of neuroimmunology 2024 Nov 15;396:578455
 51. Yoshitake M, Sugiyama A, Shimohata T, Araki N, Suzuki M, Shibuya K, Nagashima K, Hattori N, Kuwabara S. Delivering the diagnosis of multiple system atrophy: a multicenter survey on Japanese neurologists' perspectives. BMC Neurol. 2024 May 13;24(1):160.
- 【雑誌論文・和文】
1. 鶴沢顕之：「【新時代の重症筋無力症と関連疾患の診療】成人重症筋無力症の診療」BRAIN and NERVE 2024;76(1):13-18.
 2. 鶴沢顕之, 山下潤二, 桑原聡：「【新時代の重症筋無力症と関連疾患の診療】Fc融合蛋白を用いたAChR抗体中和・選択的B細胞抑制療法」BRAIN and NERVE 2024;76(1):69-72
 3. 桑原聡：「【目で見て学ぶ脊髄・末梢神経疾患の診察法(動画付き)】(第3章)特徴的な手足の徴候 平山病。」脊椎脊髄ジャーナル 2024;36(12):913-915.
 4. 三澤園子：「各種疾患 末梢神経障害 化学療法による薬剤性ニューロパチー。」Annual Review 神経 2024;2024:208-212.
 5. 青墳佑弥, 三澤園子：「(Ⅶ章)末梢神経疾患 CIDPとその類縁疾患 (MMN with conduction block)(解説)」脳神経内科学レビュー 25 巻：240-245
 6. 桑原聡：「神経治療学の実践と創薬推進を目指して」神経治療学 2024;41(3):201-203
 7. 桑原聡：「CIDP診療の最前線 EAN/PNS改定ガイドライン 2021を踏まえて」臨床神経学 2024;64(5):321-325
 8. 桑原聡：「【末梢神経・筋肉の自己免疫性・炎症性疾患ハンドブック】(第2章)疾患各論 典型的CIDP(解説)」BRAIN and NERVE：神経研究の進歩 2024;76(5):0515-0519
 9. 水地智基, 三澤園子：「【末梢神経・筋肉の自己免疫性・炎症性疾患ハンドブック】(第2章)疾患各論 POEMS症候群(解説)」BRAIN and NERVE：神経研究の進歩 2024;76(5):547-554
 10. 桑原聡：「典型的CIDP」Brain and Nerve 2024;76(5):515-519
 11. 平野成樹：「パーキンソン病における核医学画像検査の臨床と研究」MDSJ Letters 2024;17(1):7-9
 12. 桑原聡：「【今この研究が面白い!】(第8章)神経 末梢神経障害 Guillain-Barre 症候群の発症機序解明と新規治療開発」内科 2024;134(3):690-692
 13. 鈴木優太郎, 仲野義和, 平野成樹：「【認知症疾患の診断に必要な検査】認知症疾患の機能画像」老年精神医学雑誌 2024;35(12):1243-1249
 14. 水地智基, 桑原聡：「病気のはなし ギラン・バレー症候群(解説)」検査と技術 2024;52(8):786-791
 15. 桑原聡：「【学会レポート】第64回日本神経学会学術大会」Pharma Medica 2023;40(3)160-161
 16. 俵陵輔, 平山泰生, 三澤園子, 今村俊樹：「ブレンツキシマブベドチン治療に伴う末梢神経障害」新薬と臨牀 2024;73(6):514-533

【単行書】

1. 桑原聡：今日の治療指針 2024年版 私はこう治療している 医学書院 東京 2024;1003-1004.
2. <編集>鈴木則宏、荒木信夫、宇川義一、桑原聡、

塩川芳昭：Annual Review 神経 2024 中外医学社
東京

3. 三澤園子：Annual Review 神経 2024 中外医学社
東京 2024;2024:208-212.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 鶴沢顕之：第 65 回日本神経学会学術大会（第 19 回アジア・オセアニア神経学会議（AOC N2024）合同開催）にてシンポジウム（英文）
2. 三澤園子：第 65 回日本神経学会学術大会（第 19 回アジア・オセアニア神経学会議（AOC N2024）合同開催）にてシンポジウム（英文）
3. 水地智基：第 65 回日本神経学会学術大会（第 19 回アジア・オセアニア神経学会議（AOC N2024）合同開催）にてシンポジウム（英文）
4. Kimiyoshi Arimura, Yumiko Arimura, Tomonori Nakamura, Kazumoto Shibuya：第 54 回日本臨床神経生理学会学術大会にて Lecturer
5. 鶴沢顕之：第 52 回日本免疫学会学術大会にて講演
6. 水地智基：Chiba Next Generation Forum にて講演
7. 平野成樹：令和 5 年度美浜区民生委員児童委員全体研修会にて講演
8. 水地智基：がん疼痛マネジメント Web seminar にて講演
9. 三澤園子：第 52 回日本免疫学会学術大会にて講演
10. 平野成樹：第 113 回千葉核医学技術研究会にて特別講演
11. 水地智基：Oncology Supportive Care Web seminar にて講演
12. 杣田大生：千葉頭痛セミナー～地域で支える片頭痛診療～にて講演
13. 鶴沢顕之：gMG Meet the Expert in 山梨 2024 にて特別講演
14. 平野成樹：第 22 回神奈川県県央・県西部プレインネットワークにて特別講演
15. 三澤園子：神経・筋疾患 Expert seminar にて特別講演
16. 水地智基：Neuropathic Pain Care seminar にて講演
17. 杣田大生：頭痛診療を考える会にて講演
18. 杣田大生：神経免疫疾患と痙攣 Up to Date にて講演
19. 杣田大生：頭痛診療 Web セミナーにて講演
20. 平野成樹：第 58 回千葉ベシティカンファランスにて基調講演
21. 鶴沢顕之：ジルビスク新製品発売講演会にて講演
22. 水地智基：ファミリー病シンポジウム in Chiba にて講演
23. 鶴沢顕之：第 2 回新都心神経免疫疾患勉強会にて特別講演
24. 杣田大生：日常診療に役立つ頭痛 Web セミナーにて講演
25. 平野成樹：三水会 2 月例会にて特別講演
26. 杣田大生：身近な神経疾患に寄り添う web セミナーにて講演
27. 杣田大生：Brain care seminar ～脳に関連した痛みについて考える～にて特別講演
28. 平野成樹：Neurology Up date Seminar にて特別講演
29. 荒木信之：第 3 回パーキンソン病のトータルケアを考える会にて Key Lecture
30. 平野成樹：第 3 回パーキンソン病のトータルケアを考える会にて講演
31. 杣田大生：Biogeneration にて症例紹介
32. 鶴沢顕之：日本神経学会第 127 回近畿地方会にて講演
33. 杉山淳比古：パーキンソン病を学ぶ会にて講演
34. 杣田大生：大塚製薬社内研修会にて講演
35. 平野成樹：興和社内研修会にて特別講演
36. 杣田大生：片頭痛治療の実際にて講演
37. 鶴沢顕之：骨粗鬆症診療 up to date ～適切な診断・治療・連携を考える～にて講演
38. 杣田大生：生活習慣病と痛みを考える会にて講演
39. 水地智基：糖尿病と神経痛にて講演
40. 三澤園子：CIDP forum in Ibaraki にて講演
41. 水地智基：糖尿病合併症治療を考える会にて講演
42. 平野成樹：脳領域痛み治療セミナー in 九州にて講演
43. 平野成樹：The collaboration in 静岡にて特別講演
44. 森雅裕：MS LIVE seminar にて講演
45. 鶴沢顕之：Stop the Wave Seminar 2024 にて講演
46. 鶴沢顕之：MG PREMIUM WORKSHOP にて基調講演
47. 鶴沢顕之：神経免疫治療アップデートセミナー2024 にて特別講演
48. 鶴沢顕之：CHUGAI NMOSD セミナーにて講演
49. 三澤園子：知っていますか？がん治療の課題～1 時間で明日から実践～にて講演
50. 鶴沢顕之：ジルビスク／リステイーゴ発売講演会 in 福岡にて特別講演
51. 平野成樹：認知症ネットワークミーティング in 千葉にて講演
52. 鶴沢顕之：重症筋無力症アップデートセミナーにて講演
53. 鶴沢顕之：Myasthenia Gravis Network Conference にて特別講演
54. 杣田大生：これからの神経免疫治療を考える会～次世代の神経免疫治療の未来を創る～にて講演
55. 杣田大生：痛み診療 Up To Date_疼痛と生活習慣病の謎に迫る・疼痛診療の基礎から実践にて講演

56. 澁谷和幹：痛み診療 Up To Date_ 疼痛と生活習慣病の謎に迫る・疼痛診療の基礎から実践にて講演
57. 鵜沢顕之：Clinical Neuroimmunology Web Conferenceにて講演
58. 杣田大生：疼痛診療 Up To Dateにて講演
59. 平野成樹：疼痛診療 Up To Dateにて講演
60. 鵜沢顕之：MS Learning Communityにて講演
61. 鵜沢 顕 之：IL-6 Seminar2024～ Autoimmune & Inflammatory disease ～にて特別講演
62. 鵜沢顕之：ヒフデュラ Lunch セミナーにて特別講演
63. 鵜沢顕之：第6回つながる重症筋無力症オンライン講演会にて講演
64. 水地智基：神経障害マネジメント Up To Date ～がん薬物療法に伴う末梢神経障害に対する多職種連携～にて特別講演
65. 桑原聡：第65回日本神経学会学術大会（第19回アジア・オセアニア神経学会議（AOC N2024）合同開催）にて教育コース
66. 三澤園子：第65回日本神経学会学術大会（第19回アジア・オセアニア神経学会議（AOC N2024）合同開催）にてレクチャーマラソン
67. 三澤園子：第65回日本神経学会学術大会（第19回アジア・オセアニア神経学会議（AOC N2024）合同開催）にてランチョンセミナー
68. 鵜沢顕之：第65回日本神経学会学術大会（第19回アジア・オセアニア神経学会議（AOC N2024）合同開催）にてランチョンセミナー
69. 鵜沢顕之：第65回日本神経学会学術大会（第19回アジア・オセアニア神経学会議（AOC N2024）合同開催）にて教育コース
70. 三澤園子 第65回日本神経学会学術大会（第19回アジア・オセアニア神経学会議（AOC N2024）合同開催）にて新ガイドライン
71. 水地智基：九十九里がん治療セミナーにて講演
72. 鵜沢顕之：Neuroimmunology Expert Meetingにて講演
73. 鵜沢顕之：Meet The Expert Seminar in 焼津にて講演
74. 鵜沢顕之：MG 診療 Update Seminar in 安房にて特別講演
75. 平野成樹：認知症ネットワークセミナー in 千葉にて講演
76. 鵜沢顕之：重症筋無力症 Webinar 群馬にて特別講演
77. 平野成樹：第10回日本舞台医学会学術集会にてシンポジウム
78. 鵜沢顕之：リステイーゴ／ジルビスク発売記念講演 in 広島にて講演
79. 鵜沢顕之：相模原 MG Conferenceにて講演
80. 杣田大生：片頭痛を考える会にて講演
81. 水地智基：Pain Premium Conferenceにて講演
82. 平野成樹：パーキンソン病と神経病理を考える会にて特別講演
83. 森雅裕：第2回千葉 MS 診療連携サミットにて講演
84. 鵜沢顕之：第2回千葉 MS 診療連携サミットにて講演
85. 水地智基：がん疼痛トータルケアセミナーにて講演
86. 桑原聡：第12回近畿免疫性神経疾患研究会にて特別講演
87. 水地智基：Pain Live Symposium ～がんと神経障害性疼痛～にて講演
88. 鵜沢顕之：重症筋無力症の診断と治療セミナー in 富山にて講演
89. 三澤園子：癌患者さんの Lifelong Support Seminarにて講演
90. 鵜沢顕之：鳥取県リステイーゴ・ジルビスク新発売講演会にて特別講演
91. 桑原聡：第17回首都圏神経筋診断フォーラムにて TOPIX
92. 杣田大生：頭痛診療 Web セミナーにて特別講演
93. 水地智基：Colorectal Cancer Total Care Web セミナーにて講演
94. 桑原聡：gMG 診療アップデートセミナー in 岩手にて特別講演
95. 鵜沢顕之：筑後 MG セミナーにて特別講演
96. 鵜沢顕之：第3回神経免疫診療医育成セミナー（日本神経免疫学会）にて講演
97. 鵜沢顕之：gMG Update Seminarにて特別講演
98. 赤嶺博行：NEXTGENERATION MG WEB セミナー2024にて講演
99. 水地智基：呼吸器疾患 Total Care Seminar ～“骨と痛み”を管理する～にて講演
100. 桑原聡：CIDP Masterclass2024にて講演
101. 水地智基：Gastric Cancer Total Care Web セミナーにて講演
102. 鵜沢顕之：脳神経疾患から高知の医療を考えるにて講演
103. 鵜沢顕之：リステイーゴ／ジルビスク発売記念講演 in 宮城にて特別講演
104. 鵜沢顕之：NMOSD Web Seminarにて特別講演
105. 鵜沢顕之：ラブリズマブ NMOSD 適正使用セミナー in 千葉にて講演
106. 桑原聡：金沢 Neurology 先端セミナーにて特別講演
107. 鵜沢顕之：MG 診療 Update Seminar in 福島にて特別講演
108. 杉山淳比古：第56回千葉神経画像懇話会にて講演
109. 三澤園子：第35回日本末梢神経学会学術集会にてランチョンセミナー2

110. 三澤園子：第 35 回日本末梢神経学会学術集会にてシンポジウム
111. 杣田大生：第二回頭痛診療を考える会にて講演
112. 平野成樹：中枢性神経障害性疼痛を考える会にて特別講演
113. 鶴沢顕之：MG Meet the Expert in 群馬にて特別講演
114. 桑原聡：PD Expert Seminar にてオープニング
115. 平野成樹：PD Expert Seminar にて特別講演
116. 平野成樹：Parkinson's Disease Total Care にて講演
117. 杣田大生：Novartis ECTRIMS Live2024 にて講演
118. 平野成樹：ベネッセの地域医療セミナーにてセミナー
119. 平野成樹：第 13 回日本認知症予防学会学術集会にてランチョンセミナー4
120. 鶴沢顕之：つながる『声』 MG Web Seminar にて講演
121. 三澤園子：CIDP Forum 2024-5year anniversary にて講演
122. 平野成樹：大田区神経難病 Web セミナー～神経難病の医療連携向上を目指して～にて特別講演
123. 安田真人：第 36 回日本神経免疫学会学術集会にてシンポジウム
124. 森雅裕：第 36 回日本神経免疫学会学術集会にてシンポジウム
125. 森雅裕：第 36 回日本神経免疫学会学術集会にてシンポジウム
126. 三澤園子：第 36 回日本神経免疫学会学術集会にてランチョンセミナー6
127. 鶴沢顕之：第 36 回日本神経免疫学会学術集会にてアフターランチョンセミナー2
128. 安田真人：第 36 回日本神経免疫学会学術集会にてイブニングセミナー1
129. 安田真人：第 36 回日本神経免疫学会学術集会にてシンポジウム 4
130. 平野成樹：痛み診療 Up To Date_片頭痛から神経障害性疼痛までにて
131. 平野成樹：Chiba Neurology Seminar にて講演
132. 平野成樹：AD Leaders Forum にて講演
133. 鶴沢顕之：第 2 回神経免疫 Forum にて講演
134. 杣田大生：第 2 回神経免疫 Forum にて講演
135. 杣田大生：第 2 回千葉県妊婦・授乳婦薬物療法専門・認定薬剤師講習会にて講演
136. 杣田大生：Biogeneration 講演会にて講演
137. 澁谷和幹：第 54 回日本臨床神経生理学会学術大会にて教育講演
138. 水地智基：第 54 回日本臨床神経生理学会学術大会にてシンポジウム
139. 澁谷和幹：第 54 回日本臨床神経生理学会学術大会にてシンポジウム
140. 杉山淳比古：第 6 回 Neuro-Radiology Conference にて講演
141. 杣田大生：Migraine Web Conference ～片頭痛のあたりまえを変えていく～にて講演
142. 平野成樹：第 10 回山口県病院薬剤師会学術講演会にて特別講演
143. 鶴沢顕之：ITMIG2024SPONSORED SESSION. Thymoma and Myasthenia Gravis - Neurologic Implications and Strategies にて講演
144. 杣田大生：令和 6 年度千葉県医師会医学会第 25 回学術大会眼科医会分科会にて講演
145. 桑原聡：第 42 回日本神経治療学会学術集会にて理事長・会長講演
146. 平野成樹：第 42 回日本神経治療学会学術集会にてイブニングセミナー3
147. 鶴沢顕之：第 42 回日本神経治療学会学術集会にて教育講演
148. 三澤園子：第 42 回日本神経治療学会学術集会にてランチョンセミナー14
149. 鶴沢顕之：第 42 回日本神経治療学会学術集会にてランチョンセミナー16
150. 荒木信之：第 42 回日本神経治療学会学術集会にてマラソンレクチャー7
151. 水地智基：第 42 回日本神経治療学会学術集会にてシンポジウム
152. 水地智基：第 42 回日本神経治療学会学術集会にてランチョンセミナー13
153. 三澤園子：第 42 回日本神経治療学会学術集会にてシンポジウム
154. 鶴沢顕之：第 42 回日本神経治療学会学術集会にてシンポジウム
155. 鶴沢顕之：第 42 回日本神経治療学会学術集会にてランチョンセミナー18
156. 澁谷和幹：第 42 回日本神経治療学会学術集会にてシンポジウム
157. 水地智基：第 42 回日本神経治療学会学術集会にてシンポジウム
158. 水地智基：第 42 回日本神経治療学会学術集会にてランチョンセミナー22
159. 安田真人：第 42 回日本神経治療学会学術集会にてシンポジウム
160. 水地智基：乳がんサポーターブケア Web セミナーにて特別講演
161. 鶴沢顕之：Rare Disease Connect in Neurology (RDCN) 2024 Annual Meeting にてポスターセッション
162. 平野成樹：東日本ケサンラ製造販売承認取得記念講演会にて特別講演
163. 水地智基：洞薬会 11 月度学術講演会にて講演

164. 鶴沢顕之：MS Treatment Seminar にて講演
 165. 柘田大生：関東 young neurologist seminar にて特別講演
 166. 水 地 智 基：Chemotherapy Total Management Seminar にて講演
 167. 鶴沢顕之：若手神経免疫疾患セミナーにて特別講演
 168. 平野成樹：Kowa Web Conference にて特別講演
 169. 安田真人：FcRn Forum 2024 Autumn in Chiba にて特別講演
 170. 赤嶺博行：FcRn Forum 2024 Autumn in Chiba にて特別講演
 171. 柘田大生：NMOSD Frontier Seminar にて特別講演
 172. 平野成樹：令和 6 年度千葉市キャラバン・メイト養成研修にて講演
 173. 鶴沢顕之：つながる重症筋無力症オンライン講演会にて特別講演
 174. 平野成樹：Parkinson's Disease Meet the Expert Resagiline にて特別講演
 175. 水地智基：第 149 回緩和ケア学習会講演会にて講演
 176. 平野成樹：アリドネパッチ販売 1 周年記念講演会にて特別講演
 177. 柘田大生：田辺三菱製薬株式会社研修会にて教育講演
 178. 水地智基：広島県病院薬剤師会学術 WEB 講演会にて特別講演
 179. 澤井摂：脳波セミナー in Chiba にて基調講演
 180. 平野成樹：Pain Manegement Seminar にて特別講演
 181. 桑原聡：FUJIMOTO POEMS 症候群セミナー～400 人の POEMS 患者に私たちができること～にて特別講演
 182. 仲野義和：日本神経学会 第 127 回近畿地方会キャリア形成促進委員会ウェブセミナーで講演
- 【学会発表数】**
- 国内学会 10 学会 43 回（うち大学院生 21 回）
国際学会 4 学会 6 回（うち大学院生 3 回）
- 【外部資金獲得状況】**
1. 日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業「脊髄小脳変性症の治療法開発に直結するエビデンス創出研究」分担者：桑原聡 2024-2026
 2. 日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業「抗 plexin D1 抗体及び新規発見抗 neuropil 抗体陽性アトピー性脊髄炎・自己免疫性神経障害性疼痛の新診療ガイドライン作成のためのエビデンスとレジストリ構築」分担者：桑原聡 2023-2025
 3. 日本医療研究開発機構臨床研究・治験推進研究事業「球脊髄性筋萎縮症に対するメキシレチン塩酸塩の有効性及び安全性を検討する医師主導治験」分担者：桑原聡 2024-2027
 4. 日本医療研究開発機構認知症研究開発事業「多施設連携プラットフォーム（MABB）を基盤にした各種認知症性疾患に対する日本発の包括的な診断・層別化バイオマーカーシステムの確立」分担者：平野成樹 2021-2025
 5. 日本医療研究開発機構脳神経科学統合プログラム「PET を Reference Standard とした認知症の背景病理を包括的に評価可能な血液バイオマーカーシステムの開発」分担者：平野成樹 2024-2030
 6. 文部科学省科学研究費（若手）「プロテアソーム阻害による形質細胞を標的とした重症筋無力症の革新的治療開発」代表者：安田真人 2023-2024
 7. 文部科学省科学研究費（基盤(C)）「MuSK 抗体陽性重症筋無力症に対する標的抗原 Fc 融合タンパクを用いた革新的治療法開発」代表者：鶴沢顕之 2023-2025
 8. 文部科学省科学研究費（基盤(B)）「脳機能画像による神経障害性疼痛の可視化と定量的評価システムの確立」代表者：桑原聡 2023-2025
 9. 厚生労働省科学研究費「運動失調症の医療水準、患者 QOL の向上に資する研究班」分担者：桑原聡 2023-2025
 10. 厚生労働省科学研究費「神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者の QOL 向上に資する研究」分担者：桑原聡 2023-2025
 11. 厚生労働省科学研究費「神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者の QOL 向上に資する研究」代表者：桑原聡 2023-2025
 12. 文部科学省科学研究費（基盤(C)）「疾患レジストリ・バイオバンクを用いた CIDP の遺伝子バイオマーカーの確立」代表者：青墳佑弥 2022-2024
 13. 文部科学省科学研究費（若手）「アウトカム基盤型リカレント教育により神経難病診療の危機を解決する革新的研究」代表者：荒木信之 2024-2026
 14. 文部科学省科学研究費（基盤(C)）「POEMS 症候群の至適治療戦略の構築」代表者：三澤園子 2019-2024
 15. 厚生労働省科学研究費「神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者の QOL 向上に資する研究」分担者：三澤園子 2023-2025
 16. 厚生労働省科学研究費「神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者の QOL 向上に資する研究」分担者：鶴沢顕之 2023-2025
 17. 文部科学省科学研究費（基盤(C)）「サイボーグ型ロボット、運動野磁気刺激によるすくみ足の統合的リハビリテーション開発」代表者：山中義崇 2023-2025
 18. 厚生労働省科学研究費「スモンに関する調査研究」分担者：山中義崇 2023-2025
 19. 文部科学省科学研究費（基盤(C)）「シングルセル

- RNA解析を用いた重症筋無力症の分子病態解明」
代表者：赤嶺博行 2022-2024
20. 文部科学省科学研究費（若手）「筋萎縮性側索硬化症の大脳皮質運動ニューロン過興奮性の病態解明」
代表者：大谷亮 2024-2026
21. 文部科学省科学研究費（若手）「ギラン・バレー症候群における補体プロファイルの網羅的解析による個別化治療の開発」代表者：中村圭吾 2022-2024
22. 文部科学省科学研究費（基盤(C)）「マルチモーダル脳機能画像によるパーキンソン病認知機能の包括的評価システム確立」代表者：平野成樹 2023-2025
23. 文部科学省科学研究費（基盤(C)）「miR-145を標的とした血液脳関門破綻防止による多発性硬化症の革新的治療法開発」代表者：栢田大生 2023-2025
24. 文部科学省科学研究費（基盤(B)）「ヒト脳マイクロパソフイジオリジカルシステムズ：脳疾患の生体模倣と創薬研究への応用」分担者：栢田大生 2022-2025
25. 公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団 研究助成金「安静時脳機能画像と脳血流変化に着目した慢性片頭痛の定量的評価システムの構築」代表者：栢田大生 2023-2024
26. 公益財団法人 武田科学振興財団 研究助成金「安静時脳機能画像と脳血流変化に着目した慢性片頭痛の定量的評価システムの構築」代表者：栢田大生 2022-2026
27. 公益財団法人高橋産業経済研究財団「免疫性末梢神経疾患における革新的血液神経関門イメージング法の確立」代表者：杉山淳比古 2024
28. 文部科学省科学研究費（基盤(C)）「診療参加型臨床実習を推進する新たな指導法の開発：汎用化に向けた多施設共同研究」分担者：杉山淳比古 2023-2026

【受賞歴】

1. 鵜沢顕之：千葉医学会 2024 年度千葉医学会賞（臨床研究部門）
2. 杉山淳比古：第 18 回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres 優秀演題発表 臨床部門（シニア）優秀賞

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

2024 年度の外来診療における新患外来総数は 1534 名であった。主な疾患は末梢神経疾患、機能性疾患（頭痛、てんかん、不随意運動）、認知症、脊椎・脊髄疾患、神経筋接合部・筋疾患、パーキンソン病・パーキンソン症候群などであった。セカンドオピニオン外来を 11 名を受け入れた。新患外来総数は、年々増加傾向となっている。

2024 年度は 425 名の入院診療を行った。

入院患者の主な疾患は、末梢神経疾患、多発性硬化症や重症筋無力症などの神経免疫疾患、神経変性疾患（パーキンソン病およびパーキンソン症候群、筋萎縮性側索硬化症など）、POEMS 症候群などであった。

●地域貢献

令和 5 年度美浜区民生委員児童委員全体研修会 2024.1
第 10 回山口県病院薬剤師会学術講演会 2024.10
令和 6 年度千葉市キャラバン・メイト養成研修 2024.11
千葉市民向け若年性認知症の講演会 2024
千葉県指定難病審査、千葉市指定難病審査

研究領域等名：	脳 神 経 外 科 学
診療科等名：	脳 神 経 外 科

●はじめに

2024 年の手術件数は合計 708 件（前年比 +14%）で、2020 年以降、5 年連続で増加し続けており、関東の国立大学病院で最多を誇る筑波大学（709 件）とほぼ同数となっています。当科の手術は、間脳下垂体腫瘍を含む全ての脳腫瘍、破裂・未破裂脳動脈瘤に対するカテーテル治療、急性期脳梗塞に対する機械的血栓回収術だけでなく、パーキンソン病や本態性振戦に対する脳深部刺激術、片側顔面痙攣や三叉神経痛に対する微小血管減圧術、水頭症に対する手術、脊椎脊髄疾患に対する手術など、全ての脳神経外科領域をカバーしています。2023 年 6 月から正式稼働した SCU 病棟の運用が軌道に乗り、ほぼ常時満床で運用しています。豊富な手術経験に裏打ちされた確かな技術に基づく良好な手術成績と機能予後が、さらなる紹介患者を呼び込み、まさに良好なスパイラルが回っている状態と自負しています。

●教 育

・学部教育／卒前教育

学部教育として、医学部 4 年生に対する臨床入門授業および精神・神経ユニット講義、実践形式に診断の基本を学ぶ臨床チュートリアル、医学部 5、6 年生に対するクリニカル・クラークシップ（CC）を行いました。また、医療従事者としての第 1 歩を踏み出した医学部や看護学部、薬学部の 1 年生から 3 年生に対する IPE（Interprofessional Education）（専門職連携教育）にも積極的に参加し、早い時期から専門的な医療に触れることの大切さを説いてきました。

実際の医療の現場に足を踏み入れる CC では、必ず手術症例を受け持つようにし、診察、診断および治療の一連のプロセスを学びながら、手術見学や手洗いを必ず行い、脳神経外科手術に触れる機会を積極的に確保しました。

・卒後教育／生涯教育

2024 年は 1 名の後期研修医が脳神経外科医としての第 1 歩を踏み出しました。医員とともに、手術件数も多く忙しい病棟および手術業務をこなしていくことにより、当初はやや頼りなかった姿が後半には他の医員と同様にたくましく成長していきました。研修医に対しては医員からのマンツーマンの指導に加え、4 月から 7 月にかけて週 1 回 2 時間程度のレクチャーが行われました。最初の数回が診察の仕方や各種病棟での処置の仕方、救急対応のイロハを学べるよう、後半にかけては脳血管障害、脳腫瘍など各領域におけるより専門的な知識を身につけられるよう、当施設のみならず関連病院からも講師を招いて講義が行われました。1 年間を通じて習得した実臨床の知識を踏まえて、12 月に千葉大学脳神経外科医会研究会において学会形式に発表してもらいました。

・大学院教育

悪性脳腫瘍に対する免疫療法の探究、脳機能疾患に対する姿勢制御の研究、下垂体病変に対する分子細胞生物学に基づいた病態解明、脳虚血疾患に対する発症予測診断など多岐の分野にわたって研究が行われており、大学院生に対しては大学教官及び基礎医学研究の様々な研究室と協力し、研究・教育を行いました。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

千葉市立青葉看護専門学校において看護学生向けの講義などの教育活動を行いました。

●研 究

・研究内容

悪性脳腫瘍に対する NKT 細胞を用いた免疫療法の探究、脳腫瘍患者における高次脳機能の温存を目的とした脳機能コネクトームの解明、機能性脳疾患に対する生理学的な研究、下垂体病変に対する分子細胞生物学に基づいた病態解明、脳虚血疾患に対する SEREX 法を用いた発症予測診断を行っております。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Fasano A, Mure H, Oyama G, Murase N, Witt T, Higuchi Y, Singer A, Sannelli C, Morelli N: DBS PSR Study Group: Subthalamic nucleus local field potential stability in patients with Parkinson's disease. Neurobiol Dis. 2024 Sep;199:106589. doi: 10.1016/j.nbd.2024.106589.
2. Hiwasa T, Yoshida Y, Kubota M, Li SY, Zhang BS, Matsutani T, Mine S, Machida T, Ito M, Yajima S, Shirouzu M, Yokoyama S, Sata M, Yamagishi

- K, Iso H, Sawada N, Tsugane S, Takemoto M, Hayashi A, Yokote K, Kobayashi Y, Matsushita K, Tatsumi K, Takizawa H, Tomiyoshi G, Shimada H, Higuchi Y: Serum anti KIAA0513 antibody as a common biomarker for mortal atherosclerotic and cancerous diseases. *Med Int (Lond)*. 2024 Jun 19;4 (5):45. doi: 10.3892/mi.2024.169.
3. Ikezawa N, Okamoto T, Yoshida Y, Kurihara S, Takahashi N, Nakada TA, Haneishi H: Toward an application of automatic evaluation system for central facial palsy using two simple evaluation indices in emergency medicine. *Sci Rep*. 2024 Feb 10;14(1):3429. doi: 10.1038/s41598-024-53815-5.
4. Ito M, Yajima S, Suzuki T, Oshima Y, Nanami T, Sumazaki M, Shiratori F, Takizawa H, Li SY, Zhang BS, Yoshida Y, Matsutani T, Hiwasa T, Shimada H: Combination of high anti-SKI and low anti-TMED5 antibody levels is preferable prognostic factor in esophageal carcinoma. *Cancer Sci*. 2024 Jul;115(7):2209-2219. doi: 10.1111/cas.16185.
5. Kanamori M, Tsuzuki S, Shibahara I, Saito K, Shimoda Y, Tanaka K, Yamaguchi S, Natsumeda M, Matsutani T, Hanihara M, Nakada M, Kuroda JI, Matsuda M, Yoshimoto K, Yonezawa U, Sonoda Y, Takano K, Yonezawa H, Otani Y, Nakahara Y, Uchida M, Nonaka M, Mineharu Y, Kitamura Y, Yamashita S, Yamauchi T, Miyake Y, Deguchi S, Beppu T, Tamura K, Koizumi S, Hirose Y, Asano K, Hiruta R, Kinoshita M, Miyake K, Nakayama N, Inoue A, Ono T, Sasaki T, Akiyama Y, Fukami S, Yoshino A, Kawanishi Y, Asanome T, Yamaguchi T, Takahashi M, Yamasaki F, Arakawa Y, Narita Y: Impact of tumor-treating fields on the survival of Japanese patients with newly diagnosed glioblastoma: A multicenter, retrospective cohort study. *Neurooncol Adv*. 2024 Nov 28;6(1):vdae176. doi: 10.1093/oaajnl/vdae176.
6. Kinoshita M, Fushimi Y, Masumoto T, Sasaki K, Sekita T, Natsume A, Wakabashi T, Komori T, Tsuzuki S, Muragaki Y, Motomura K, Saito R, Sato K, Beppu T, Takahashi M, Kuroda JI, Sonoda Y, Kobayashi K, Mishima K, Mitsuya K, Yamasaki F, Inoue A, Matsutani T, Nakamura H, Yamaguchi S, Ishikawa E, Nakaya M, Tanaka S, Ujifuku K, Uchida H, Kanamori M, Otani R, Kijima N, Nishida N, Yoshino A, Mineharu Y, Arakawa Y, Fukuda H, Narita Y; Members of Japan Clinical Oncology Group Brain Tumor Study Group (JCOG-BTSG): Image-based re-evaluation of the JCOG0911 study focusing on tumor volume and survival, disease progression diagnosis, and radiomic prognostication for newly diagnosed glioblastoma. *Magn Reson Med Sci*. 2024 Nov 19. doi: 10.2463/mrms.mp.2024-0103.
7. Lin M, Hu L, Shen S, Liu J, Liu Y, Xu Y, Chen H, Sugimoto K, Li J, Kamitsukasa I, Hiwasa T, Wang H, Xu A: Atherosclerosis-related biomarker PABPC1 predicts pan-cancer events. *Stroke & Vasc Neurol* 9: 108-125, 2024.
8. Matsuda T, Kono T, Taki Y, Sakuma I, Fujimoto M, Hashimoto N, Kawakami E, Fukuhara N, Nishioka H, Inoshita N, Yamada S, Nakamura Y, Horiguchi K, Miki T, Higuchi Y, Tanaka T: Deciphering craniopharyngioma subtypes: Single-cell analysis of tumor microenvironment and immune networks. *iScience*. 2024 Oct 1;27(11):111068. doi: 10.1016/j.isci.2024.111068.
9. Motomura K, Sasaki K, Sugii N, Yamaguchi S, Inoue H, Oshima A, Tanaka K, Otani Y, Shirahata M, Shibahara I, Nagane M, Tsuzuki S, Matsutani T, Tsukamoto Y, Kijima N, Asano K, Ohno M, Inoue A, Mineharu Y, Miyake K, Mitobe Y, Hanihara M, Kawanishi Y, Deguchi S, Saito M, Matsuda R, Ujifuku K, Arita H, Sato Y, Yamashita S, Yonezawa U, Yamaguchi J, Momii Y, Ogawa T, Kambe A, Ohba S, Fukai J, Saito N, Kinoshita M, Sumi K, Otani R, Uzuka T, Takebe N, Koizumi S, Saito R, Arakawa Y, Narita Y; Members of Japan Clinical Oncology Group Brain Tumor Study Group (JCOG-BTSG): Cost of medical care for malignant brain tumors at hospitals in the Japan Clinical Oncology Group brain-tumor study group. *Jpn J Clin Oncol*. 2024 Oct 3;54(10):1123-1131. doi: 10.1093/jjco/hyae116.
10. Okahara Y, Aoyagi K, Iwasa H, Higuchi Y: Language lateralization by passive auditory fMRI in presurgical assessment for temporal lobe epilepsy: A single-center retrospective study. *J Clin Med*. 2024 Mar 15;13(6):1706. doi: 10.3390/jcm13061706.
11. Sasajima N, Sumazaki M, Ohshima Y, Ito M, Yajima S, Takizawa H, Wang H, Li SY, Zhang BS, Yoshida Y, Hiwasa T, Shimada H: Stage-specific alteration and prognostic relationship of serum FH autoantibodies in gastric cancer. *Int J Mol Sci* 25: 5470, 2024.
12. Tajima Y, Yoshida Y, Kubota M, Ebihara K, Yamauchi T, Nishino W, Niimi J, Nakamura K, Kado K, Miyazaki T, Watanabe Y, Mochida

- H, Oishi H, Higuchi Y: Transverse diameter of brainstem infarction is a strong predictor of miserable outcome after mechanical thrombectomy for acute basilar artery occlusion. *Sci Rep*. 2024 Aug 6;14(1):18201. doi: 10.1038/s41598-024-68865-y.
13. Yamaki T, Yakufujiang M, Oka N, Ito D, Odaki M, Kobayashi S, Higuchi Y: The safety and feasibility of transcranial direct current stimulation for patients with chronic severe traumatic brain injury in Japan, a phase I study. *Brain Disord* 2024; 13: 100123 doi: 10.1016/j.dscb.2024.100123
 14. Yamamoto M, Serizawa T, Sato Y, Higuchi Y, Kikuchi Y, Sato S: Validity test of small cell lung cancer (SCLC) graded prognostic assessment and proposal of a new index for patients with brain metastases from SCLC. *Clin Transl Radiat Oncol*. 2024 Jul 24;48:100820. doi: 10.1016/j.ctro.2024.100820.
 15. Yoshioka M, Takahashi M, Kershaw J, Handa M, Takada A, Takuwa H: Two-photon optogenetics-based assessment of neuronal connectivity in healthy and chronic hypoperfusion mice. *Neurophotonics*, 11(3), 035009, 2024
 16. Zhang BS, Zhang XM, Ito M, Yajima S, Yoshida K, Ohno M, Nishi E, Wang H, Li SY, Kubota M, Yoshida Y, Matsutani T, Mine S, Machida T, Takemoto M, Yamagata H, Hayashi A, Yokote K, Kobayashi Y, Takizawa H, Kuroda H, Shimada H, Iwadate Y, Hiwasa T: JMJD6 autoantibodies as a potential biomarker for inflammation related diseases. *Int J Mol Sci*. 2024 Apr 30;25(9):4935. doi: 10.3390/ijms25094935.
 17. Hirono S, Kawano K, Ito M, Saito K, Hayashida T, Higuchi Y: Successful resection of bilateral parafalcine meningioma with unilateral interhemispheric and contralateral transfalcine approach under nonintubated spontaneous breathing conditions: illustrative case. *J Neurosurg Case Lessons*. 2024 Apr 8;7(15):CASE2424. doi: 10.3171/CASE2424.
 18. Ishikura T, Hirono S, Ota M, Yokoyama D, Kobayashi M, Matsutani T, Iwadate Y: Three years of progression-free after biopsy of BRAF V600E-negative ganglioglioma in the adult brainstem: A Case Report and the Literature Review. *NMC Case Rep J*. 2024 Dec 25;11:427-433. doi: 10.2176/jns-nmc.2024-0189.
 19. Lee S, Kubota M, Tajima Y, Kojima I, Higuchi Y: Transarterial embolization of radicular arteriovenous fistula at the craniocervical junction. *Radiol Case Rep*. 2024 Feb 13;19(5):1712-1717. doi: 10.1016/j.radcr.2024.01.053.
 20. Tamura M, Hirano S, Kitayama Y, Morooka M, Suichi T, Shibuya K, Higuchi Y, Kuwabara S: Thalamic deep brain stimulation for postural tremor caused by hyperthermia-induced cerebellar dysfunction: A case report. *eNeurologicalSci*. 2024 Nov 17;37:100536. doi: 10.1016/j.ensci.2024.100536. eCollection 2024 Dec.
- 【雑誌論文・和文】**
1. 樋口佳則, 折口慎一, 中野茂樹: Painful tic convulsif の概念と治療－文献的・歴史的考察を含めて. *脳神経外科* 2024, 52:46-50.
 2. 堀口健太郎, 松田達磨, 折口慎一, 久保田理沙, 小林正芳, 田中知明, 樋口佳則: 頭蓋咽頭腫に対する内視鏡下経鼻頭蓋底手術: 内分泌機能温存は摘出度より優先すべきか? *日本内分泌学会雑誌* 2024, 100(suppl):51-53.
 3. 野口駿成, 吉岡正揮: 膠芽腫幹細胞に対する現行治療の有効性評価および免疫学的治療ターゲットの検討. *千葉医学* 2024, 100:1-8.
 4. 横山大騎, 田島洋佑, 中野茂樹, 吉田陽一: 血管型エーラス・ダンロス症候群に合併する紡錘状中脳動脈瘤にクリッピング術を行った1例. *脳卒中の外科* 2024, 52:111-115.
- 【単行書】**
1. 貴島晴彦, 平林秀裕, 戸田弘紀, 深谷親, 細見晃一, 三國信啓, 上利崇, 旭雄士, 岩崎真樹, 内山卓也, 江夏怜, 大島秀規, 押野悟, 谷直樹, 中嶋剛, 樋口佳則, 堀澤士朗, 牟礼英生, 森下登史, 池田俊勝, 和泉允基, 磯尾綾子, 井本浩哉, 氏原匡樹, 江村拓人, 大山彦光, 木村活生, 木村唯子, 金吉秀, 斎藤健, 佐々木達也, 笹森徹, 澤田真寛, 竹林成典, 田中秀明, 種井隆文, 中島明日香, 永松謙一, 西川泰正, 西田南海子, 仁村太郎, 畠山哲宗, 花田朋子, 前澤聡, 三宅一央, 森信彦, 森史, 森垣龍馬, 山本一徹, 渡邊充: 定位・機能神経外科治療ガイドライン第4版. 一般社団法人日本定位・機能神経外科学会, 学術研究出版, 兵庫, 2024
 2. 樋口佳則: 意識が回復しない方へのニューロモジュレーション治療とは? 加藤庸子, 黒岩敏彦(監修) 永山正雄(総括編集): みんなが知りたい意識障害がわかる本. 西村書店, 東京, 2024, pp.153-157.
 3. 堀口健太郎: 脊索腫・軟骨肉腫. 黒崎雅道(監修), 鰐淵昌彦(編集): 脳神経外科速報2024年増刊 良性脳腫瘍のすべて. メディカ出版, 大阪, 2024, pp.192-197.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 吉田陽一：第29回日本脳神経外科救急学会 シンポジウムにて講演
2. 樋口佳則：第63回日本定位機能神経外科学会 シンポジウムにて講演 2演題
3. 堀口健太郎：第34回日本間脳下垂体腫瘍学会 シンポジウムにて講演
4. 松田達磨：第34回日本間脳下垂体腫瘍学会 シンポジウムにて講演
5. 堀口健太郎：第44回日本脳神経外科コンgres総会 ビデオ教育セミナーにて講演
6. 松谷智郎：第39回多摩脳腫瘍研究会 特別講演
7. 堀口健太郎：第6回関東経鼻内視鏡手術セミナー 特別講演
8. 堀口健太郎：第33回脳神経外科手術と機器学会学術総会 シンポジウムにて講演
9. 樋口佳則：第36回日本頭蓋底外科学会 シンポジウムにて講演
10. 堀口健太郎：第36回日本頭蓋底外科学会 教育講演
11. 堀口健太郎：第36回日本頭蓋底外科学会 ランチョンセミナーにて講演
12. 堀口健太郎：第36回日本頭蓋底外科学会 シンポジウムにて講演
13. 田島洋佑：第30回日本血管内治療学会学術総会 シンポジウムにて講演
14. 吉田陽一：第24回日本分子脳神経外科学会 シンポジウムにて講演
15. 樋口佳則：第42回ニセコカンファレンス 招待講演
16. 堀口健太郎：第29回日本脳腫瘍の外科学会 シンポジウムにて講演
17. 田島洋佑：（一社）日本脳神経外科学会第83回学術総会 ランチョンセミナーにて講演
18. 廣野誠一郎：（一社）日本脳神経外科学会第83回学術総会 シンポジウムにて講演
19. 樋口佳則：（一社）日本脳神経外科学会第83回学術総会 シンポジウムにて講演
20. 堀口健太郎：（一社）日本脳神経外科学会第83回学

術総会 シンポジウムにて講演

21. 堀口健太郎：第2回関東MR研究会 / 第13回C-MAC研究会 特別講演
22. 樋口佳則：千葉医学会学術集会 招待講演
23. 堀口健太郎：第50回日本神経内分泌学会学術集会 シンポジウムにて講演
24. 樋口佳則：第4回頭蓋内サイバーナイフ治療セミナー 招待講演
25. 堀口健太郎：第31回日本神経内視鏡学会 シンポジウムにて講演
26. 堀口健太郎：Kanto Brain Online Seminar 2024 特別講演
27. 田島洋佑：第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会 アフタヌーンセミナーにて講演
28. 廣野誠一郎：第29回日本脳腫瘍の外科学会 シンポジウムにて講演

【学会発表数】

国内学会 52学会 74回（うち大学院生14回）
国際学会 6学会 8回（うち大学院生4回）

【外部資金獲得状況】

1. 基盤研究◎「LOCI法を用いた新規グリオーマ血清診断自己抗体マーカーの確立」代表者：松谷智郎 R4からR7
2. 基盤研究◎「シングルセル解析から捉える下垂体神経内分泌腫瘍の多様性分子機構に関する基盤的研究」代表者：堀口健太郎 R5からR7
3. 基盤研究◎「ロングリード次世代シーケンサーを用いた髄液リキッドバイオプシーの確率と臨床応用」代表者：足立明彦 R4からR8
4. 若手研究「膠芽腫再発に対するNKT細胞を用いた免疫療法の有効性」代表者：小林正芳 R6からR7
5. 若手研究「膠芽腫に対するiPS細胞由来NKT細胞を用いた新規免疫治療の基盤構築」代表者：尾崎航 R6からR7
6. 若手研究「機械学習を用いた脳梗塞抗体マーカー統合解析による脳梗塞発症予測の臨床応用」代表者：吉田陽一 R2からR6

【受賞歴】

1. 松田達磨：日本内分泌学会関東甲信越支部 会長賞
2. 松田達磨：臨床内分泌 Update 優秀ポスター賞

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

2024年度の外来患者数は12,683人で前年度とほぼ同様でした。原則完全予約制である一方で、急性期脳卒中疑い症例や、頭蓋内圧亢進症状を呈する脳腫瘍や水頭症などの救急症例は予約外でも当日診察し、緊急手術を含め早期の治療介入を行いました。通常の外来は月曜から金曜まで毎日、各専門グループ（脳腫瘍、間脳下垂体、血管障害、機能、てんかん、水頭症、脊椎脊髄）が日替わりで専門外来を行っています。

2024年度の入院患者数は16,031人で、前年度とほぼ同様ですが、手術件数は708件となり、過去5年連続で増加を続けています。2023年6月のSCU本格稼働開始以後、機械的血栓回収術やtPA治療を要する急性期脳卒中症例が増加しており、他院からの受け入れを含め、脳神経外科だけでなく、救急部や麻酔科、ICU/EICU/

SCU や手術室などの関係各所と連携を密に取りながら治療を進めました。手術件数の増加により、治療成績の向上・安定・手術時間の短縮など、良い循環が生まれています。2024 年度の新入院患者数 1,065 人（前年度比 +113 人）、平均病床稼働率は 150.2%（同 +21%）、平均在院日数 14.1 日（同 +0.2 日）であり、文字通り病床をフル回転させて多数の手術症例を含む脳神経外科治療を提供しました。

●その他

2024 年 12 月に第 17 回千葉神経内視鏡ハンズオンセミナーを環境生命医科学（解剖学）教室並びに耳鼻咽喉科学教室と共に開催し、医局内の各分野の第一人者が講師を務め、全国からの参加者と共に神経内視鏡と cadaver brain を用いて、脳室鏡、内視鏡下血腫除去術、経鼻内視鏡手術だけでなく、経頭蓋の key hole アプローチなど最先端の手術アプローチについて、神経解剖の知識を深めつつ、手術のピットフォールを理解し、安全な手技の習得を目指して研鑽を深めました。また、医学生および初期研修医を対象に、脳神経外科の基本手技を学ぶハンズオンセミナーを 2024 年 3 月、6 月、9 月の計 3 回開催し、多数の参加者を得て、大変好評に終わりました。

研究領域等名：	整 形 外 科 学
診療科等名：	整 形 外 科 ／ 材 料 部

●はじめに

千葉大学整形外科は頸椎・腰椎・股関節・肩・スポーツ・手の6グループに細分化され、各々、臨床・教育・研究を実施している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

病室の患者に即して学生実習を行った。

担当患者の手術に参加し、病棟回診並びに術後カンファレンスにおいて担当患者のプレゼンテーションを行った。

また、教授からの講義の他、ランチョンセミナーを実施した。

整形外科の領域でユニット講義、ベッドサイドラーニング並びにクリニカルクラークシップを実施している。

・卒後教育／生涯教育

新入医局員に対して、各グループでクルズスを行い、基礎的研修を行っている。

新入医局員のを対象に、ご遺体を用いた Cadaver Workshop を脊椎・肩・股関節・スポーツ・手の計5回開催し、基本的な手術手技を学ぶとともに、重要な解剖的教育を行っている。

・大学院教育

大学院生に対して、直接研究の指導を行い、研究を進めている。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

教育学部、医工学部に対して分担して講義を行っている。

●研 究

・研究内容

【腰椎】

PRP を活用した骨癒合促進剤の開発、骨粗鬆症関連の基礎研究を行うとともに先進的な神経イメージングやAIを活用した画像研究、ウェアラブル端末を活用した活動量評価等の臨床研究を行っている。

【頸椎】

圧迫性頸髄症モデルの基礎研究および整形、脊椎疾患への人工知能の応用についての研究を行っている。また厚労科研の脊柱靱帯骨化症研究の分担研究施設として多施設研究を行っている。

【肩】

リバー型人工肩関節の画像・成績の臨床研究や新鮮凍結屍体を用いたキャダバー・有限要素解析などの基礎研究を行っている。また、ラットを用いた関節炎モデルによる関節炎進行と疼痛評価、体外衝撃波による除痛機序の解明など、疼痛に関する基礎研究も行っている。

【膝】

超早期に変形性膝関節症を見つけ出せるような画像バイオマーカーの研究、早期変形性膝関節症に対する介入、軟骨の再生医療、画像診断、人工膝関節の研究開発、前十字靱帯再建術の研究開発、ロコモティブシンドロームの予防などをテーマとしている。

令和4年度科学研究費の若手研究に採択され、2年で500万円の補助金を受け、Muse細胞を用いた骨治療研究を行っている。

大学と関連病院を含めた、前十字靱帯再建術のレジストリー研究を立ち上げており、今後、積極的な臨床研究を行い発表していく予定である。

・X線透視やdigitally reconstructed radiographyを用いた足部・足関節動態計測と画像評価

・外反母趾に対する手術治療成績と関連する因子

・外反母趾の頻度に関する全国規模の疫学調査

【股関節】

人工股関節置換術について日本人の骨格に適合したインプラントの開発を行い、その適合性についての実臨床における解析を行っている。

変形性股関節症、急速破壊進行性股関節症、関節リウマチについてラットの股関節を用いた基礎研究を行っている。ラット股関節に見られる軟骨、滑膜の組織変化に加えて炎症に関与する遺伝子発現についても検討を行い、学会発表を行っている。

臨床データを用いた研究として hip-spine 症候群の病態解明と、その診断に基づいた術式の開発についての研究を行っている。

【手外科】

新鮮凍結屍体を用いた生体力学的研究

患者特異的 CT 有限要素解析を用いた骨強度評価法

母指回内運動の評価法に関する研究

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Okuyama K, Inage K, Kim G, Mukaihata T, Tajiri I, Shiga Y, Inoue M, Eguchi Y, Suzuki-Narita M, Otagiri T, Tsuchiya R. Bone union-promoting effect of romosozumab in an ovariectomized rat posterolateral lumbar fusion model. *Journal of Orthopaedic Research*®. 2024 Aug;42(8):1831-40.
2. Inoue M, Sugiura S, Takeda T, Hoshino T, Shimizu K, Inage K, Shiga Y, Okuyama K, Ohtori S, Orita S. Evaluating the Correlation between Eyeglass-Type Wearable Device Measurements and Subjective Physical Activity Assessments. *Cureus*. 2024 Aug 26;16(8).
3. Ohyama S, Maki S, Kotani T, Ogata Y, Sakuma T, Iijima Y, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Inoue M, Arai T. Machine learning algorithms for predicting Cobb angle beyond 25 degrees in female adolescent idiopathic scoliosis patients. *Spine*. 2024 Mar 13;10:97.
4. Tokeshi S, Eguchi Y, Sakai T, Yoneyama M, Watanabe A, Aoki Y, Sato M, Orita S, Suzuki M, Inage K, Shiga Y. A novel simultaneous three-dimensional volumetric morphological imaging and T2-mapping method, multi-interleaved X-prepared turbo-spin echo with intuitive relaxometry provides more accurate quantification of cervical spinal nerves. *Journal of Clinical Neuroscience*. 2024 Jul 1;125:97-103.
5. Inage K, Sainoh T, Okuyama K, Yamashita M, Ohyama S, Fujimoto K, Chikubu H, Abe K, Ohtori S, Orita S. The Analgesic and Side Effects of Tramadol Hydrochloride Immediate-Release and Extended-Release Tablets in Patients With Chronic Low Back Pain. *Cureus*. 2024 Oct 22;16(10).
6. Ohyama S, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Ogata Y, Iwata S, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S. Risk factors for postoperative ileus after corrective spinal surgery: association with reduction in the retrocrural space area. *Journal of Neurosurgery: Spine*. 2024 Nov 1;1(aop):1-7.
7. Tokeshi S, Suzuki-Narita M, Tajiri I, Inage K, Takeuchi J, Arai T, Kawarai Y, Terakawa H, Ohtori S, Orita S. Comparison of effects of intra-articular diclofenac etalhyaluronate and hyaluronic acid in a monoiodoacetate rat osteoarthritis model. *Journal of Orthopaedic Research*®. 2025 Mar;43(3):557-66.
8. Suzuki N, Eguchi Y, Hirai T, Takahashi T, Takahashi Y, Watanabe K, Banno T, Sakaki K, Maki S, Takano Y, Taniguchi Y. Outcome of intradiscal condoliase injection therapy for patients with recurrent lumbar disc herniation. *Asian Spine Journal*. 2024 Aug 8;18(4):550.
9. Hashimoto E, Maki S, Ochiai N, Ise S, Inagaki K, Hiraoka Y, Hattori F, Ohtori S. Automated detection and classification of the rotator cuff tear on plain shoulder radiograph using deep learning. *J Shoulder Elbow Surg*. 2024 Aug; 33(8):1733-1739. doi: 10.1016/j.jse.2023.12.009.
10. Akimoto K, Ochiai N, Hashimoto E, Sasaki Y, Nojima D, Kajiwarra D, Ohtori S. Retear rate between 1 and 2 years postoperatively after arthroscopic rotator cuff repair is over 30% and associated with higher tear size and fatty degeneration. *Arthroscopy*. 2024 Dec 26; s0749-8063(24)01093-4
11. Inagaki K, Ochiai N, Hashimoto E, Hiraoka Y, Hattori F, Ohtori S. Effect of the suture augmentation on the stability and strength of ulnar collateral ligament reconstruction: The anchor and bone tunnel methods. *J Orthop Sci*. 2024 Nov 14; s0949-2658(24)00207-0.
12. Inagaki K, Ochiai N, Hashimoto E, Hiraoka Y, Ise S, Ohtori S. Magnetic resonance imaging findings of extensor carpi radialis brevis origin and synovial fold in lateral epicondylitis. *J Hand Surg Glob Online*. 2024 Jul 8; 6(5): 654-658.
13. Yamada Y, Kotani T, Kishida S, Ogata Y, Okuwaki S, Ohyama S, Iwata S, Iijima Y, Ise S, Sakuma T, Ueno K, Kajiwarra D, Moriyasu R, Nakajima

- T, Minami S, Hashimoto E, Ochiai N, Ohtori S. Factors influencing the achievement of early surgery in proximal femoral fractures under a Japanese incentive policy. *J Orthop Sci.* 2024 Aug 26; s0949-2658(24)00153-2.
14. Shimada Y, Ochiai N, Hashimoto E, Kajiwar D, Hiraoka Y, Inagaki K, Ohtori S, Niki H. Continuous local antibiotic perfusion technique for surgical site infections after shoulder surgery. *JSES Rev Rep Tech.* 2024 May 10; 4(3): 419-423
15. Iwata S, Yamaguchi S, Kimura S, Hattori S, Mikami Y, Kawasaki Y, Shiko Y, Akagi R, Amaha K, Atsuta T, Ikegawa N, Koyama M, Nakagawa R, Omodani T, Ouchi H, Saito M, Takahashi K, Watanabe S, Sasho T, Ohtori S. Variability in sonographic anterior drawer test measurements of the ankle: Experienced versus beginner examiners. *J Orthop Sci.* 2024 Jan;29(1):243-248.
16. Maki S, Furuya T, Inoue M, Shiga Y, Inage K, Eguchi Y, Orita S, Ohtori S. Machine Learning and Deep Learning in Spinal Injury: A Narrative Review of Algorithms in Diagnosis and Prognosis. *J Clin Med.* 2024 Jan 25;13(3):705. doi: 10.3390/jcm13030705. Free PMC article. Review.
17. Kitamura T, Murata Y, Shigemura T, Yamamoto Y. Surgical Outcomes in Patients Exhibiting Muscular Weakness Postadolescence Due to Tight Filum Terminale. *Cureus.* 2024 Jul 8;16(7):e64080. doi: 10.7759/cureus.64080. eCollection 2024 Jul.
18. Maki S, Furuya T, Katsumi K, Nakajima H, Honjoh K, Watanabe S, Kaito T, Takenaka S, Kanie Y, Iwasaki M, Furuya M, Inoue G, Miyagi M, Ikeda S, Imagama S, Nakashima H, Ito S, Takahashi H, Kawaguchi Y, Futakawa H, Murata K, Yoshii T, Hirai T, Koda M, Ohtori S, Yamazaki M. Multimodal Deep Learning-based Radiomics Approach for Predicting Surgical Outcomes in Patients with Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament. *Spine (Phila Pa 1976).* 2024 Nov 15;49(22):1561-1569. doi: 10.1097/BRS.0000000000005088. Epub 2024 Jul 8.
19. Yazaki M, Maki S, Furuya T, Inoue K, Nagai K, Nagashima Y, Maruyama J, Toki Y, Kitagawa K, Iwata S, Kitamura T, Gushiken S, Noguchi Y, Inoue M, Shiga Y, Inage K, Orita S, Nakada T, Ohtori S. Emergency Patient Triage Improvement through a Retrieval-Augmented Generation Enhanced Large-Scale Language Model. *Prehosp Emerg Care.* 2025;29(3):203-209. doi: 10.1080/10903127.2024.2374400. Epub 2024 Jul 11.
20. Iwata S, Kotani T, Aoki Y, Sakuma T, Iijima Y, Ohya S, Furuya T, Maki S, Akazawa T, Minami S, Ohtori S. Facet Joint Bridging in Adolescent-onset Adult Idiopathic Scoliosis with Thoracolumbar/Lumbar Curves. *World Neurosurg.* 2024 Oct;190:e23-e29. doi: 10.1016/j.wneu.2024.08.042. Epub 2024 Aug 12.
21. Iwata S, Ono T, Noguchi R, Osaki J, Adachi Y, Shiota Y, Iwata S, Nishino S, Yoshida A, Ohtori S, Kawai A, Kondo T. Establishment and characterization of NCC-GCTB14-C1 and NCC-GCTB15-C1: two novel patient-derived cell lines of giant cell tumor of bone. *Hum Cell.* 2024 Nov 27;38(1):20. doi: 10.1007/s13577-024-01150-2.
22. Hagiwara S, Kawarai Y, Nakamura J, et al. Dynamic change of acetabular component position in total hip arthroplasty based on the spinopelvic classification: a prospective radiographic study. *Eur J Orthop Surg Traumatol.* 2024 Dec;34(8): 3931-3937.
23. Nakamura J, Hagiwara S, Kawarai Y, et al. Is There a Learning Curve for the 5-Year Implant Survival Rate of Total Hip Arthroplasty Using the Direct Anterior Approach With a Traction Table? A Prospective Cohort Study. *J Arthroplasty.* 2024 Nov;39(11):2774-2779.
24. Kawarai Y, Nakamura J, Hagiwara S, et al. Alterations in DNA methylation machinery in a rat model of osteoarthritis of the hip. *J Orthop Surg Res.* 2024 Jun 16;19(1):357.
25. Opposition Transfer Using the Extensor Indicis Muscle and the Extensor Pollicis Brevis Tendon. Yusuke Matsuura, Takahiro Yamazaki, Takane Suzuki, Tomoyo Akasaka, Seiji Ohtori. *Journal of hand surgery global online.* 2024 Mar 29;6(3) 383-389
26. Biomechanical characterization of the central fibrous region of the forearm interosseous Membrane: Implications for finite element modeling. Takahiro Yamazaki, Yusuke Matsuura, Yasunari Toguchi, Takane Suzuki, Seiji Ohtori. *Journal of biomechanics.* 2024 Jul;172:112204.
27. A Rare Case of Carpal Tunnel Syndrome with Bifid Median Nerve and Palmaris Profundus Muscle. Yamazaki T, Matsuura Y, Takahashi H, Ohtori S. *Plastic and reconstructive surgery Global open.* 2024 Oct 11;12(10):e6228.
28. Data-Efficient Bone Segmentation Using Feature Pyramid- Based SegFormer Naohiro Masuda, Keiko Ono, Daisuke Tawara, Yusuke Matsuura,

- Kentaro Sakabe. Sensors. 2024 Dec 26;25(1):81.
29. Ryu Ito, Shotaro Watanabe, Takuya Sakamoto, Kaoru Toguchi, Manato Horii, Seiji Kimura, Satoshi Yamaguchi, Seiji Ohtori, Takahisa Sasho. Medial Meniscal Extrusion After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction (ACLR) Associated With Meniscal Repair and Preoperative Extrusion Cureus 2024 e69987
 30. Takuya Sakamoto, Manato Horii, Shotaro Watanabe, Ryu Ito, Ryuichiro Akagi, Hiroaki Hosokawa, Seiji Kimura, Satoshi Yamaguchi, Seiji Ohtori, Takahisa Sasho. Clinical Outcomes of Modified Suture Buttons for Tibial Side Fixation in Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: A Retrospective Comparative Study Cureus 2024 e64357
 31. Takuya Sakamoto, Shotaro Watanabe, Manato Horii, Ryu Ito, Seiji Kimura, Satoshi Yamaguchi, Seiji Ohtori, Takahisa Sasho. Longitudinal Evaluation Using the Forgotten Joint Score-12 for Double-Bundle Primary Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: A Retrospective Observational Study Cureus 2024 e70547
 32. Horii M, Kimura S, Akagi R, Watanabe S, Yamaguchi S, Ohtori S, Sasho T. Referential values for lower limb flexibility in healthy children and adolescents in Japan: A five-year cross-sectional study J Orthop Sci. 2024 May;29(3):891-896.
 33. Shotaro Watanabe, Hiroaki Hosokawa, Takuya Sakamoto, Manato Horii, Yoshimasa Ono, Seiji Kimura, Satoshi Yamaguchi, Seiji Ohtori, Takahisa Sasho. Investigating the Potential of Multilineage Differentiating Stress-Enduring Cells for Osteochondral Healing Cartilage 2024 Jun 17: 19476035241262020.
 34. Horii M, Akagi R, Watanabe S, Enomoto T, Hosokawa H, Ohtori S, Sasho T. Number of intra-operative cyclic knee motion required to achieve stable graft tension in anterior cruciate ligament reconstruction; a prospective clinical study BMC Musculoskelet Disord. 2024 Feb 5;25(1):113
- 【雑誌論文・和文】**
1. 橋本瑛子、落合信靖、稲垣健太、平岡祐、服部史弥、秋山太郎、寺川文英、秋本浩二 ベースプレート傾斜に着目したリバー型人工肩関節置換術の臨床成績と疾患特性 肩関節 Vol.48 (2024) No.1; 175-180
 2. 秋山太郎、落合信靖、橋本瑛子、稲垣健太、平岡祐、服部史弥、寺川文英 急性期肩鎖関節脱臼に対する烏口鎖骨靱帯再建術における1ルート再建と2ルート再建の術後成績の比較 肩関節 Vol.48 (2024) No.2; 297-299
 3. 嶋田洋平、落合信靖、橋本瑛子、稲垣健太、平岡祐、服部史弥 リバー型人工肩関節の感染に対する持続的局所抗菌薬灌流 (CLAP) の有用性 肩関節 Vol.48 (2024) No.1; 232-237
 4. 寺川文英、落合信靖、橋本瑛子、稲垣健太、平岡祐、服部史弥、秋山太郎 反転型人工肩関節全置換術前後における小円筋体積の経時的变化と臨床成績への影響 肩関節 Vol.48 (2024) No.1; 200-207
 5. 秋本浩二、落合信靖、橋本瑛子、西須孝 鏡視下腱板修復術後の歌詞深部静脈血栓症の発生状況 肩関節 Vol.48 (2024) No.1; 105-108
 6. 秋本浩二、落合信靖、橋本瑛子、西須孝 上腕骨近位端骨折骨接合後に早期に再獲得すべき前方挙上角度の検討 肩関節 Vol.48 (2024) No.1; 56-59
 7. 陳旧性月状骨脱臼に対して二期的手術を試みた一例(原著論文) 久保田憲司(千葉大学整形外科), 松浦佑介, 山崎貴弘 日本手外科学会雑誌 (2185-4092) 41 巻 2 号 Page16-19 (2024.11)
 8. 【チェックポイントがひと目でわかる整形外科ナースのための画像の見かた・読みかた】画像の見かた手・肘関節疾患の画像の見かた(解説) 山崎貴弘(千葉大学医学部附属病院整形外科) 整形外科看護 (1342-4718) 29 巻 9 号 Page844-853 (2024.09)
 9. みんなどうやって治してるの? 橈骨遠位端骨折の治療戦略 橈骨遠位端骨折における積極的保存治療戦略と力学的理論 松浦佑介, 山崎貴弘, 大鳥精司 関東整形災害外科学会雑誌 55 (臨増号外) 81-81 2024 年 3 月
 10. 林伸晃, 堀井真人, 濱田剛史, 伊藤竜, 戸口郁, 佐粧孝久 CR-F Insert を用いた FINE KNEE の 5 年成績 日本膝関節学会誌 2024 1(2) 224-225
 11. 吉田有希, 赤津頼一, 中島新, 園部正人, 山田学, 岩井達則, 中川晃一 内側楔状開大式の高位脛骨骨切り術 (HTO) と脛骨粗面下骨切り術 (DTO) における術後 1 年での膝蓋大腿関節軟骨変化の比較 日本膝関節学会誌 1(3):351-356, 2024
- 【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表(一般の学会発表は除く)】**
1. 第 18 回日本 CAOS 学会シンポジウムにて招待講演
 2. 第 64 回関東整形災害外科学会シンポジウムにて招待講演
 3. 第 31 回国際 KSES 学会シンポジウムにて招待講演
 4. 第 97 回日本整形外科学会シンポジウムにて招待講演
 5. 国際 TOSSM JSOA combined meeting シンポジウムにて招待講演
 6. 日本スポーツ整形外科学会 2024 にて招待講演
 7. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会シンポジウムにて招待講演

8. 第 51 回日本肩関節学会シンポジウムにて招待講演
 9. 第 31 回一般社団法人日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会にて特別講演 (牧聡)
 10. The 7th International Seminar of Cervical Spine Surgery between Cambodia and Japan Symposium にて講演 (古矢丈雄)
 11. 第 43 回日本画像医学会シンポジウムにて講演 (牧聡)
 12. 第 18 回日本 CAOS 学会シンポジウムにて講演 (牧聡)
 13. 第 97 回日本整形外科学会学術総会シンポジウムにて講演 (牧聡)
 14. 第 35 回日本運動器学会シンポジウムにて講演 (古矢丈雄)
 15. 第 57 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会シンポジウムにて講演 (岩田秀平)
 16. 2024 NASS Annual Meeting in Chicago Symposium にて講演 (牧聡)
 17. 第 38 回東日本手外科研究会 2024 年 2 月 3 日 東京 手の変形性関節症とロコモティブシンドローム 松浦佑介
 18. 第 64 回関東整形災害外科学会 2024 年 3 月 16 日 横浜 橈骨遠位端骨折における積極的保存治療戦略と力学的理論 松浦佑介, 山崎貴弘, 大鳥精司
 19. 第 67 回日本手外科学会学術集会 2024 年 4 月 25 日～26 日 奈良 TFCC のバイオメカニクス～有限要素解析による応力分布評価～ 松浦佑介
 20. 第 97 回日本整形外科学会学術総会 2024 年 5 月 23 日～26 日 福岡 第 1 中手骨骨切り術による関節面応力分布の変化 松浦佑介, 山崎貴弘, 大鳥精司, 佐久間昭利
 21. 第 16 回日本手関節外科ワークショップ 2024 年 10 月 12 日 川崎 “積極的”保存治療での外固定肢位 松浦佑介
 22. 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会 2024 年 10 月 17 日～18 日 新宿 有限要素解析を用いた骨折治療の力学的挙動の可視化～基礎研究から臨床応用まで～ 松浦佑介, 山崎貴弘, 大鳥精司
 23. 第 12 回山形整形外科懇話会 2024 年 1 月 6 日 山形 有限要素解析の整形外科臨床応用への挑戦 松浦佑介
 24. 第 16 回愛媛手外科研究会 2024 年 8 月 24 日 愛媛 有限要素解析の手外科臨床応用への挑戦 松浦佑介
 25. 第 37 回福島手外科研究会 2024 年 10 月 5 日 郡山 奥深い橈骨遠位端骨折の世界 松浦佑介
 26. 第 48 回金鯢手外科セミナー 2024 年 10 月 31 日 名古屋 千葉大学における手外科領域の Translational Research - 痛み・MRI・バイオメカニクスの研究を中心に・・・松浦佑介
 27. 第 36 回日本肘関節学会学術集会 2024 年 3 月 1 日～2 日 札幌 Clinical Anatomy Lab を活用した手外科教育と基礎研究の現状 松浦佑介
 28. 第 80 回日本放射線技術学会総会学術大会 2024 年 4 月 11 日～14 日 横浜 手術に有効な放射線画像～痒いところはココだ～手の外科編 松浦佑介
 29. 第 67 回日本手外科学会学術集会 2024 年 4 月 25 日～26 日 奈良 橈骨遠位端骨折～前腕骨骨幹部の治療 許容される治療・許容されない治療 松浦佑介
 30. 第 50 回日本骨折治療学会学術集会 2024 年 6 月 28 日～29 日 仙台 インプラント金属材料の力学的特徴と使い分け 松浦佑介
 31. 第 16 回日本手関節外科ワークショップ 2024 年 10 月 12 日 川崎 掌側月状骨窩骨片の解剖とバイオメカニクス 松浦佑介
- 【学会発表数】**
- 国内学会 31 学会 172 回 (うち大学院生 129 回)
国際学会 7 学会 26 回 (うち大学院生 19 回)
- 【外部資金獲得状況】**
1. 文部科学省科学研究費助成事業基 基盤研究 B「骨癒合促進特化型ユニバーサル iPS 血小板製剤の開発」代表者：大鳥精司 2022-2027
 2. 文部科学省科学研究費助成事業基 基盤研究 C「変形性膝関節症に対する iPS 血小板製剤の疼痛抑制効果解明」代表者：志賀康浩 2024-2026
 3. 文部科学省科学研究費助成事業基 基盤研究 C「深層学習を用いた拡散テンソル画像による腰椎疾患における疼痛の自動診断システム」代表者：江口和 2024-2026
 4. 文部科学省科学研究費助成事業基 基盤研究 C「脳波を用いた慢性疼痛患者における認知行動療法適応予測手法の開発」代表者：清水啓介 2023-2026
 5. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構「骨癒合特化型 iPS 細胞由来血小板製剤の開発」代表者：志賀康浩 2024-2025
 6. 公益財団法人整形災害外科学研究助成財団「口腔機能低下が脆弱性骨折を含む腰椎後彎変形に及ぼす影響に関わる多施設縦断研究」代表者：大山秀平 2024
 7. 公益財団法人大和証券財団調査研究助成「高齢者における脊柱後弯症と口腔機能低下の関連性に基づく介入可能性の評価」代表者：井上雅寛 2024
 8. 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C)「脊椎疾患に対する画像・臨床データ・カルテ記載を統合したマルチモーダルな AI 予後予測」代表者：牧聡 2024-2027
 9. 令和 6 年度厚生労働省科学研究費 (難治性疾患政策研究事業)「脊柱靱帯骨化症に関する調査研究」分担者：古矢丈雄 2024

10. JA 共済交通事故医療研究助成 2023「人工知能を用いた脊椎脊髄損傷患者の MRI 画像生成モデルの開発」代表者：三浦正敬 2023-2024
11. 整形災害外科学研究助成財団 2022 年度研究助成「人工知能を用いた、脊椎脊髄損傷患者の MRI 画像生成モデルの開発」代表者：三浦正敬 2023-2024
12. 三井住友海上福祉財団研究助成「交通事故に伴う脊椎骨折の見逃しを防ぐための大規模言語モデルを用いた電子カルテスクリーニングシステムの開発」代表者：北村昂己 2024-2025
13. NSK ナカニシ財団研究開発助成 2023「骨切削医療機器の周囲軟部組織への影響－新鮮凍結屍体を用いた検討－」代表者：古矢丈雄 2024-2025
14. 日本学術振興会「生涯歩き続けられる社会と健康寿命延伸を実現する次世代人工股関節の革新的研究」代表者：中村順一 2023-2028
15. ちば県民保健予防財団「バイオメカニクスに基づいた高齢者の大腿骨近位部骨折予防方法の確立」代表者：萩原茂生 2024-2025
16. 日本学術振興会「急速破壊型股関節症における疼痛機序の解明と疾患特異的疼痛治療戦略の創出」代表者：瓦井裕也 2023-2026
17. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)「有限要素解析を用いた大腿骨骨幹部骨折の荷重開始時期と荷重量の予測評価方法の開発」代表者：松浦 佑介 2023-2025
18. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B)「個体別筋力推定・骨の力学解析の統合解析基盤の確立・検証と骨疾患への応用探索」分担者：松浦 佑介 2023-2026
19. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)「末梢神経マルチパラメトリック MRI の確立と脱髄性ニューロパチーの病態解明」分担者：松浦 佑介 2024-2026

【受賞歴】

1. 第 17 回日本運動器疼痛学会最優秀演題賞 大山秀平
2. HUPO World Congress 2024, HUPO Presentation Award 受賞, Proteogenomic analysis revealed prognosis biomarker and therapeutic targets in Sarcomas, Shuhei Iwata, Shungo Adachi, Rei Noguchi, Yuki Adachi, Julia Osaki, Koichi Ogura, Shintaro Iwata, Seiji Ohtori, Akira Kawai, Tadashi Kondo

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

外来診療は腰椎・頸椎・側弯症・上肢・手外科・股関節・スポーツ・足外科・PAM の専門外来を開設して、専門的な医療を提供している。

外来新患者数は 2,313 名であり、昨年 2,503 名とほぼ同等を維持している。

外来総数は 31,349 名で診療報酬稼働額は 243,599,615 円である。

新入院患者数は 1,024 名と高い水準を維持している。

DPC I + II 期間退院割合も 82.3% を維持していて、非常に良い状況にある。

他院から紹介された難易度の高い手術を中心として、多くの専門的な手術を行っている。

手術件数は 1,174 件と高い水準を維持している。

研究領域等名：	薬	理	学
診療科等名：			

●はじめに

医学部2年次学生に対する薬理学総論の講義（15回）、および医学部3年次学生に対する統合臨床薬理学の講義（15回）に加え、大学院、スカラシッププログラム、学外機関での教育活動を積極的に実施している。医学部3年次学生に対する薬理学実習では、実験動物を用い、学生が個体全体を視野に入れた薬物作用を理解するように工夫している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

＜医学部学生＞

薬理学総論（2年）：講義（90分×15回）を安西、橋本および非常勤講師が行った。統合臨床薬理学（3年）：講義（90分×15回）を安西、橋本、平山および非常勤講師が行った。実習（180分×4回）は安西、橋本、平山、霊園、北村、非常勤講師および大学院生が担当した。基礎医学ゼミ（3年）：ゼミ（90分×8回）を橋本が行った。

スカラシッププログラム（1～3年）：橋本が英文医学雑誌の抄読会、研究会への参加をスカラシッププログラムとして実施している。医学部1年次導入PBLチュートリアル：チューター（90分×6回）を平山が行った。

＜普遍教育＞

「クスリとからだ」(1～4年生) 講義（90分×8回）を安西、橋本、平山および非常勤講師が行った。

・大学院教育

＜大学院修士課程＞

「薬物療法情報学特論」講義（90分×2回）を橋本が行った。

＜大学院博士過程＞

「薬理学特論」「薬理学演習」(各90分×2回)、「薬理学実習」(90分×1回)を安西が行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

＜大学院博士課程＞

薬理学教室以外にも学内他教室や他大学から大学院生（博士課程）・研究生を受け入れ研究指導を行った。教室内では、英語論文抄読会、研究報告会を定期的に実施している。

安西は非常勤講師として獨協医科大学医学部で「薬理学」「植物機能生理学」、島根大学医学部・金沢医科大学医部で「薬理学」、千葉県立保健医療大学で「薬理学総論」、日本医科大学医学部で「生化学」、杏林大学医学部で「分子生物学」を担当した。

橋本は非常勤講師として千葉県立保健医療大学で「薬理学総論」「薬理学各論」、船橋市立看護専門学校で「薬理学」を担当した。

平山、北村は非常勤講師として千葉県立保健医療大学で「薬理学各論」、船橋市立看護専門学校で「薬理学」を担当した。

●研 究

・研究内容

主な研究テーマはトランスポーターである。共同研究費、科研費（研究代表者：安西）の補助により、トランスポーター（アミノ酸、尿酸）をターゲットとした分子標的創薬研究を行った。2020年4月1日に着任して以降「ペプチドの中枢性摂食および飲水調節機構の解明」「加齢時における神経ペプチドの役割の解明とその応用」についての研究を行っている（橋本）。2019年10月1日に着任して以降「アストロサイト依存的脳虚血耐性の分子メカニズム解析」の研究を行っている（平山）。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Soejima Y, Yoshioka H, Guro S, Sato H, Hatakeyama H, Sato Y, Fujimoto Y, Anzai N, Hisaka A. Exercise training outcomes in patients with chronic heart failure with reduced ejection fraction depend on patient background. Front Cardiovasc Med. 2024 Jan 31;11:1330235.
2. Sakamoto S, Ando K, Pae S, Zhao X, Sakai K, Sato K, Saito S, Yamada Y, Rii J, Goto Y, Sazuka T, Imamura Y, Anzai N, Akakura K, Nishio K,

Ichikawa T. Copy Number Gain in Androgen Receptors Predicts the Poor Prognosis in Japanese Castration-resistant Prostate Cancer. *Anticancer Res.* 2024 Feb;44(2):639-647.

3. Rii J, Sakamoto S, Mizokami A, Xu M, Fujimoto A, Saito S, Koike H, Tamura T, Arai T, Yamada Y, Goto Y, Sazuka T, Imamura Y, Suzuki K, Kanai Y, Anzai N, Ichikawa T. L-type amino acid transporter 1 inhibitor JPH203 prevents the growth of cabazitaxel-resistant prostate cancer by inhibiting cyclin-dependent kinase activity. *Cancer Sci.* 2024 Mar;115(3):937-953.
4. Hirayama Y, Le HPN, Hashimoto H, Ishii I, Koizumi S, Anzai N. Preconditioning-Induced Facilitation of Lactate Release from Astrocytes Is Essential for Brain Ischemic Tolerance. *eNeuro.* 2024 Apr 29;11(4):ENEURO.0494-23.2024.
5. Hamaguchi-Suzuki N, Adachi N, Moriya T, Yasuda S, Kawasaki M, Suzuki K, Ogasawara S, Anzai N, Senda T, Murata T. Cryo-EM structure of P-glycoprotein bound to triple elacridar inhibitor molecules. *Biochem Biophys Res Commun.* 2024 May 21;709:149855.
6. Saito S, Ando K, Sakamoto S, Xu M, Yamada Y, Rii J, Kanaoka S, Wei J, Zhao X, Pae S, Kanesaka M, Goto Y, Sazuka T, Imamura Y, Reien Y, Hamaguchi-Suzuki N, Saito S, Hirayama Y, Hashimoto H, Kanai Y, Ichikawa T, Anzai N. The LAT1 inhibitor JPH203 suppresses the growth of castration-resistant prostate cancer through a CD24-mediated mechanism. *Cancer Sci.* 2024 Jul 115(7):2461-2472.
7. Liu G, Ma L, Sakamoto A, Fujimura L, Xu D, Zhao M, Wan X, Murayama R, Anzai N, Hashimoto K. Splenic $\gamma\delta$ T cells mediate antidepressant and prophylactic actions of arketamine in lipopolysaccharide-induced depression in mice. *Pharmacol Biochem Behav.* 2024 Dec 245:173906.

【雑誌論文・和文】

1. 平山友里, 安西尚彦【高尿酸血症 2024 - 基礎・臨床の最新知見 -】高尿酸血症治療薬の作用機序 (図説)【日本臨床 (0047-1852) 82 巻 6 号 Page818-822(2024.06)】
2. 森田亜須可 (獨協医科大学 医学部薬理学講座), 黒崎祥史, 安西尚彦, 大内基司【ヒト尿細管培養細胞における生理的濃度の尿酸の役割 グルコース類似体との相互作用の観点から】痛風と尿酸・核酸 (2435-0095) 48 巻 2 号 171 (2024.12)

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. 安西尚彦 第 111 回日本泌尿器科学会総会シンポジウム 10 にて「Renal tubular organic anion transporters and urinary stone formation」を講演 パシフィコ横浜 (2024.4.25)
2. 安西尚彦 客員教授授与式にて「Molecular mechanism of renal urate transport」を講演 広東薬科大学 (2024.5.27)
3. 安西尚彦 Disital Toxicology Conference 大会にて「毒性学ってナンだ?、再び」を講演 福岡サンパレス (2024.7.5)
4. 安西尚彦 第 46 回日本高血圧学会総会シンポジウムにて「降圧治療と尿酸管理の両立・実践」を講演 福岡国際会議場 (2024.10.12)
5. 安西尚彦 Online Meeting to Introduce Specialists in Physiology and Pharmacology of Chiba University and Panama University: Pharmacology にて「Hyperuricemia and new drug development against renal urate transporters」を講演 オンライン (2024.10.22)
6. 安西尚彦 国際シンポジウム“Immune Surveillance and Tumor Microenvironment.” にて「New drug development targeting membrane transporters」を講演 ソウル国立大学 (2024.12.9)
7. 安西尚彦 生科連公開シンポジウム魅力ある生物教育をどう実現するかー高校生物の新しい方向性についてーにて「ヒトの生物学」は生物保健体育か?ー病気とクスリのリテラシー教育と専門教育ー」を講演 東京大学弥生講堂 (2024.12.21)
8. 安西尚彦 日仏薬学会学術講演会にて「腎臓尿酸輸送と血中尿酸値異常」を講演 日仏会館 (2024.12.22)

【学会発表数】

国内学会 7 回 (うち大学院生 7 回)

国際学会 2 回 (うち大学院生 2 回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「新規ガドリニウム製剤を用いた中性子捕捉療法 of 転移性骨腫瘍への効果の検証」分担者: 安西尚彦 2023-2025
2. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「高齢時の体液貯留かつ低栄養を惹起する鍵分子はバソプレシンなのか?」代表者: 橋本弘史 2022-2024
3. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「運動療法と薬剤の併用による糖尿病性腎症重症化予防の機序解明」分担者: 橋本弘史 2024-2027
4. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「脳虚血耐性におけるアストロサイト由来乳酸の役割の解明」代表

者：平山友里 2022-2024

5. 公益財団法人タムス岡本記念財団「腎臓の有機酸トランスポーター阻害による新規尿路結石治療薬の創製」代表者：安西尚彦 2024
6. テルモ生命科学振興財団「サルコペニアにおけるオキシトシン活用の可能性を探る」代表者：橋本弘史 2024
7. 内藤記念女性研究者研究助成金「脳虚血耐性におけるアストロサイトの乳酸放出機序とその役割の解明」代表者：平山友里 2022-2024
8. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「オキシトシンと情動の研究」分担者：橋本弘史 2024-2027

【受賞歴】

1. 韓日合同薬理学セミナー Special Poster Presentation Award (池松)
2. 第3回 GTP ハッカソン：GTP 研究が拓く食と健康の未来 POSTER SESSION Excellence Award (濱口)
3. 第8回黒潮カンファレンス (2024.9.28~9.29), 優秀発表賞 (齊藤)

研究領域等名：	診 断 病 理 学
診療科等名：	病理診断科／病理部

●はじめに

診断病理学教室の研究概要：主な研究テーマは、1) 悪性腫瘍における幹細胞的マーカーに立脚した研究、2) 希少疾患の外科病理学的、細胞診断学的研究、3) 種々の悪性腫瘍の分子生物学的、臨床病理学的研究、4) 病理デジタル画像の収集基盤整備である。

病理診断科・病理部の診療・研究概要：診断病理学教室と病理診断科／病理部は一体となって、附属病院の組織診断・細胞診断・病理解剖業務にあたっている。診断・研究に力を入れてきた分野は、呼吸器病理分野、消化管病理分野および血液病理分野である。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部においては、医学入門、病理学総論、病理学各論（呼吸器、循環器）、病理組織実習を担当した。実習はバーチャルスライドを用いた病理組織実習を行っている。基礎医学ゼミ講義4コマ、スカラシップ教育を行った。臨床実習Ⅱとして各グループごとに1週間ずつの医学部附属病院実習を30週にわたり行った。

・卒後教育／生涯教育

解剖症例の検討会：CPC（Clinico-Pathological Conference）を月に1～3回程度開催している。臓器別病理臨床カンファレンスを婦人科、呼吸器内科、呼吸器外科、腫瘍内科、消化器内科、皮膚科、泌尿器科、小児科・小児外科、放射線科と月1～4回程度行っている。がん診療における多職種会議であるがん診療カンファレンスに参加し、意見交換を行っている。がんゲノム医療連携病院の一員としてエキスパートパネルに参加している。

・大学院教育

修士課程講義 臨床医科学特論 90分×1コマ、外科系大学院生対象の病理診断学実習を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

千葉労災病院でのCPCを担当した。

●研 究

・研究内容

主な研究テーマは、1) 悪性腫瘍における幹細胞的マーカーに立脚した研究、2) 希少疾患の外科病理学的、細胞診断学的研究、3) 種々の悪性腫瘍の分子生物学的、臨床病理学的研究、4) 病理デジタル画像の収集基盤整備、である。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Keiichiro Miura, Hiroyuki Takaoka, Masayuki Ota, Ryosuke Irie, Joji Ota, Yoshitada Noguchi, Yusei Nishikawa, Kazuki Yoshida, Katsuya Suzuki, Shuhei Aoki, Satomi Yashima, Makiko Kinoshita, Noriko Suzuki-Eguchi, Haruka Sasaki, Yoshio Kobayashi. Circulation Reports 2024;6(2):28-29.
2. Yoshiki Shinomiya, Yusuke Kouchi, Kiyotaka Onodera, Hiroto Yamamoto, Sakurako Harada-Kagitani, Junta Sakakibara, Takeshi Nagashima, Jun-Ichiro Ikeda, Takashi Kishimoto. Acta Cytologica 2024;68(1):73-79.
3. Taku Itoh, Takeshi Kawasaki, Taisuke Kaiho, Kohei Shikano, Akira Naito, Mitsuhiro Abe, Hidemi Suzuki, Masayuki Ota, Ichiro Yoshino, Takuji Suzuki. Respiratory Investigation 2024;62(1):176-178.
4. Kazuki Yoshida, Haruka Sasaki, Hiroyuki Takaoka, Rei Hashimoto, Kenji Kawasaki, Goro Matsumiya, Kazuyuki Matsushita, Yoshio Kobayashi. CASE 2024;8(3Part B):265-272.
5. Naoki Akizue, Kenichiro Okimoto, Tomoaki Matsumura, Keisuke Matsusaka, Jun Kato, Naoya Kato. VideoGIE 2024;9(7):324-325.
6. Ryohei Ono, Hiroki Kohno, Sae Kaminota, Kaoruko Aoki, Hirotoshi Kato, Togo Iwahana, Takanori Aihara, Masayuki Ota, Goro Matsumiya, Yoshio Kobayashi. ESC Heart Failure 2024;11(2):805-810.
7. Wataru Shiratori, Yuki Ohta, Keisuke Matsusaka, Yuhei Ohyama, Yukiyo Mamiya, Hayato Nakazawa, Satsuki Takahashi, Ryosuke Horio, Chihiro Goto, Michiko Sonoda, Akane Kurosugi, Tatsuya Kaneko, Naoki Akizue, Hideaki Ishigami, Takashi Taida, Kenichiro Okimoto, Keiko Saito, Tomoaki

- Matsumura, Yuki Shiko, Yoshihito Ozawa, Jun Kato, Junichiro Ikeda, Naoya Kato. *Clinical and Translational Gastroenterology* 2024;15(5):e00692.
8. Makiko Kinoshita, Hiroyuki Takaoka, Joji Ota, Jun-Ichiro Ikeda, Yoshitada Noguchi, Yusei Nishikawa, Shuhei Aoki, Kazuki Yoshida, Katsuya Suzuki, Satomi Yahima, Haruka Sasaki, Noriko Suzuki-Eguchi, Yoshio Kobayashi. *The International Journal of Cardiovascular Imaging* 2024;Online ahead of print.
 9. Sakurako Harada-Kagitani, Yusuke Kouchi, Yoshiaki Shinomiya, Takuto Hiramoto, Tomoyuki Arai, Toyoyuki Hanazawa, Kiyotaka Onodera, Kaito Nakama, Takanori Aihara, Masayuki Ota, Jun-Ichiro Ikeda, Takashi Kishimoto. *Pathology International* 2024;74(5):292-294.
 10. Naoki Akizue, Kenichiro Okimoto, Tomoaki Matsumura, Keisuke Matsusaka, Yosuke Inaba, Ryosuke Horio, Satsuki Takahashi, Chihiro Goto, Akane Kurosugi, Michiko Sonoda, Tatsuya Kaneko, Yuki Ohta, Takashi Taida, Jun Kato, Jun-Ichiro Ikeda, Naoya Kato. *Gastrointestinal Endoscopy* 2024;99(5):826-829.e3.
 11. Kazuki Yoshida, Haruka Sasaki, Hiroyuki Takaoka, Yusei Nishikawa, Shuhei Aoki, Katsuya Suzuki, Satomi Yashima, Noriko Suzuki-Eguchi, Makiko Kinoshita, Tomonori Kanaeda, Keisuke Matsusaka, Hiroki Kohno, Kazuyuki Matsushita, Yoshio Kobayashi. *Circulation Reports* 2024;6(6):230-231.
 12. Shutaro Hike, Satoshi Endo, Masayuki Ota, Gaku Ohira, Michihiro Maruyama, Shunsuke Imanishi, Tetsuro Maruyama, Toru Tochigi, Hiroyuki Amagai, Tadashi Shiraishi, Atsushi Hirata, Hisashi Mamiya, Moe Iwata, Ayano Kakimoto, Hisahiro Matsubara. *Journal of Surgical Case Reports* 2024; 2024(5):rjae314.
 13. Asuka Kawano, Hideaki Miyachi, Masayuki Ota, Jun-Ichiro Ikeda, Takashi Inozume. *European Journal of Dermatology* 2024;34(3):322-323.
 14. Yoshiaki Shinomiya, Yusuke Kouchi, Sakurako Harada-Kagitani, Takayuki Ishige, Shigetsugu Takano, Masayuki Ohtsuka, Jun-Ichiro Ikeda, Takashi Kishimoto. *Cancer Science* 2024;115(6):1948-1963.
 15. Takashi Taida, Jun Kato, Kentaro Ishikawa, Naoki Akizue, Yuki Ohta, Kenichiro Okimoto, Keiko Saito, Keisuke Matsusaka, Tomoaki Matsumura, Naoya Kato. *Clinical Journal of Gastroenterology* 2024;17(3):447-450.
 16. Aika Tanzawa, Kengo Saito, Masayuki Ota, Koji Takahashi, Izumi Ohno, Toyoyuki Hanazawa, Katsuhiko Uzawa, Yuichi Takiguchi. *International Journal of Clinical Oncology* 2024;29(6):755-763.
 17. Sakurako Harada-Kagitani, Yusuke Kouchi, Yoshiaki Shinomiya, Makoto Kodama, Gaku Ohira, Hisahiro Matsubara, Jun-Ichiro Ikeda, Takashi Kishimoto. *Laboratory Investigation* 2024;104(7):102075.
 18. Daisuke Honda, Issei Okunaga, Daichi Omote, Hiroko Inoue, Kaho Yamasaki, Hanae Wakabayashi, Michiko Suzuki, Masashi Aizawa, Shigeki Tomita, Jun-Ichiro Ikeda, Katsuhiko Asanuma. *American journal of kidney diseases* 2024;84(2):250-254.
 19. Kenichiro Okimoto, Tomoaki Matsumura, Naoki Akizue, Satsuki Takahashi, Ryosuke Horio, Chihiro Goto, Akane Kurosugi, Michiko Sonoda, Tatsuya Kaneko, Yuki Ohta, Takashi Taida, Keiko Saito, Keisuke Matsusaka, Jun Kato, Jun-Ichiro Ikeda, Naoya Kato. *Scandinavian Journal of Gastroenterology* 2024;59(8):996-1001.
 20. Eisuke Kameda, Takamitsu Matsuzawa, Yaei Togawa, Rei Hashimoto, Toru Saito, Tamio Suzuki, Takashi Inozume. *The Journal of Dermatology* 2024;51(8):e261-e263.
 21. Kohei Shikano, Jun Ikari, Takahiro Nakajima, Masayuki Ota, Yuki Shiko, Akira Naito, Mitsuhiro Abe, Takeshi Kawasaki, Jun-Ichiro Ikeda, Yoshihito Ozawa, Takuji Suzuki. *Japanese Journal of Clinical Oncology* 2024;54(9):1037-1044.
 22. Katsuya Suzuki, Haruka Sasaki, Hiroyuki Takaoka, Kazuki Yoshida, Moe Matsumoto, Yusei Nishikawa, Shuhei Aoki, Yoshitada Noguchi, Satomi Yashima, Noriko Suzuki-Eguchi, Makiko Kinoshita, Rei Hashimoto, Jun-Ichiro Ikeda, Yoshio Kobayashi. *Circulation Reports*;2024;6(10):469-470
 23. Keijun Yoshino, Takamitsu Matsuzawa, Takanori Aihara, Jun-Ichiro Ikeda, Takashi Inozume. *European Journal of Dermatology* 2024;34(5):559-561.
 24. Yusuke Kouchi, Nozomu Sakai, Sakurako Harada-Kagitani, Ryotaro Eto, Takashi Mishima, Shigetsugu Takano, Katsuhiko Nasu, Jun-Ichiro Ikeda, Masayuki Ohtsuka, Takashi Kishimoto. *Pathology international* 2024;74(12):691-696.
 25. Kenichiro Okimoto, Tomoaki Matsumura, Keisuke Matsusaka, Yuki Ohta, Takashi Taida, Jun Kato, Naoya Kato. *Endoscopy* 2024;56(S 01):E534-E535.
 26. Kenichiro Okimoto, Tomoaki Matsumura, Keisuke Matsusaka, Yuki Ohta, Takashi Taida, Jun Kato, Naoya Kato. *Endoscopy* 2024;56(S 01):E582-E583.
 27. Toshiki Ishikura, Seiichiro Hirono, Masayuki Ota,

Daiki Yokoyama, Masayoshi Kobayashi, Tomoo Matsutani, Yasuo Iwadate. NMC Case Report Journal 2024;11:427-433.

28. Ryohei Ono, Hiroki Kohno, Chihiro Ito, Kaoruko Aoki, Hirotohi Kato, Togo Iwahana, Sakurako Harada-Kagitani, Jun-Ichiro Ikeda, Yoshio Kobayashi. ESC Heart Failure 2025;12(3):2353-2360.
29. Yoshiyuki Ohnaga, Ryohei Ono, Kaoruko Aoki, Hirotohi Kato, Togo Iwahana, Hiroyuki Takaoka, Akiko Omoto, Kaito Nakama, Takashi Kishimoto, Jun-Ichiro Ikeda, Yoshio Kobayashi. Internal Medicine 2025;64(7):1047-1052.

【雑誌論文・和文】

1. 多田夕貴, 豊田行英, 太田昌幸, 田中教久, 荻田涼, 今林宏樹, 植松靖文, 清水大貴, 越智敬大, 山中崇寛, 由佐城太郎, 太枝帆高, 佐田諭己, 稲毛輝長, 坂入祐一, 田村創, 千代雅子, 松井由紀子, 二宮浩範, 池田純一郎, 鈴木秀海. 若年女性の胸膜に発生した石灰化線維性腫瘍の1例. 肺癌 2025;65(1):60-61.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 第63回日本臨床細胞学会総会（秋期大会）にて招待講演 小野寺清隆, 鈴木学, 若原孝子, 太田昌幸, 松坂恵介, 池田純一郎. ミラノシステムにもとづいて系統的に考える唾液腺症例カンファレンス：症例 10-12
2. 第92回千葉県血液疾患臨床症例検討会にて特別講

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

病理診断科／病理部の主要な業務として組織診断・細胞診断・病理解剖があり、2024年の診断数は、組織診14356件（うち術中迅速診断714件）、細胞診11071件、病理解剖15件であった。また、バイオマーカー検査やがん遺伝子パネル検査等の遺伝子検査、治験のための未染標本作製を1851件行った。

●地域貢献

千葉県内の病院より病理解剖の依頼を受け、剖検診断およびCPCを行った。

演 池田純一郎. リンパ腫における病理診断の流れとpitfall

【学会発表数】

国内学会 26学会 33回（うち大学院生1回）
国際学会 1学会 1回（うち大学院生0回）

【外部資金獲得状況】

1. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤C「治療への応用に向けた腫瘍幹細胞の可塑性制御に関わる因子の解析」代表者：池田純一郎 2024-2026
2. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤C「好酸球性食道炎とプロトンポンプ阻害薬との関係：奏功性を予測する手法の確立に向けて」分担者：池田純一郎 2024-2026
3. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤C「臓器横断的な孤発性MSI陽性腫瘍の本態解明と治療戦略の構築」代表者：松坂恵介 2022-2024
4. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究「小細胞肺癌発生早期における分子機構の解明：混合型小細胞肺癌に着目した探索」代表者：太田昌幸 2024-2025
5. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究「3D培養で分離される高悪性細胞集団を利用した新規細胞モデルの確立と治療への応用」代表者：鍵谷桜子 2024-2025

【受賞歴】

1. 松坂恵介. 第70回日本病理学会秋期特別総会学術研究賞（A演説）受賞

研究領域等名：	呼 吸 器 内 科 学
診療科等名：	呼 吸 器 内 科

●はじめに

呼吸器内科では昨年に引き続き本学の cSIMVa および J-PEAKS において研究、診療、人材育成に努力している。また、AMED CREST 革新的先端研究開発支援事業の2課題「外部環境刺激による組織炎症記憶形成機構の解明と難治性アレルギー性疾患の病態制御治療戦略の基盤構築」「肺胞幹細胞ストレスに起因する特発性肺線維症の早期分子経路の解明と治療薬の創製」にも最新技術を用いて取り組んでいる。2024 年には希少難病である自己免疫性肺胞蛋白症に対する GM-CSF 吸入療法が薬事承認され保険診療として患者さんへ届けられるようになった。本治療法は日本肺胞蛋白症患者会も深く関与し、我が国において「病態の解明」「診断法の確立」「治療法の開発」「医師主導治験」といった長い過程を経て漸くたどり着いた朗報である。この貴重なトランスレーショナルな経験を踏まえ、今後も医療者・医学研究者として原因、診断法、治療法が確立していない難治疾患克服研究に携わってゆく所存である。

●教 育

・学部教育／卒前教育

当科では文部科学省の示す「医学教育モデル・コア・カリキュラム」を踏まえ、呼吸器生理学や呼吸器疾患診療のみならず、一般内科、Evidence based medicine (EBM) に関する幅広いコンピテンシーの習得を目標に様々な教育プログラムにて学部教育を行っている。

1 年次対象の講義「医学部入門」、2 年次対象「医薬看合同耳鼻 IPE Step2 実習」、3 年次対象「病態と診療：呼吸器ユニット」、「細菌学ユニット」、「臨床病態治療学：和漢診療学ユニット」の講義、「医師見習い体験実習」を行った。

3 年次学生には呼吸器ユニット講義（呼吸器の構造と機能・胸部画像診断の重要性・呼吸不全・低酸素と低酸素血症・睡眠時無呼吸症候群・間質性肺炎・石綿関連疾患・急性呼吸窮迫症候群・肺水腫・肺癌・気管支肺喘息・アレルギー性肺疾患・慢性閉塞性肺疾患・リンパ脈管筋腫症・肺移植・呼吸器感染症・肺の血管障害）、4 年次学生には呼吸器チュートリアルを、5 年次学生には「臨床実習（3 週間×11 回）」を行った。

1 年次から3 年次までを対象とするスカラシッププログラムでは「全身性疾患としての呼吸器疾患を考える・内科学の基礎を学ぶ」をテーマとしてプログラムを作成。呼吸器内科学への導入指導を行った。3 年次学生にはその総括として稀な呼吸器疾患症例や呼吸器疾患に関する重要な論文のまとめをポスターおよび学会発表の機会を設けている。

スカラシップ修了者をはじめ4～6 年次の意欲のある医学生に対し学会発表、論文発表の指導をしている。

【学生指導実績：学会発表と受賞】

大辻琉加（医学部6 年）：千葉大学医学部令和6 年度 学術研究活動費（笠井大指導）

大辻琉加（医学部6 年）：千葉大学医学部スカラシップ奨励賞（杉浦寿彦指導）

車地亮磨（医学部6 年）：第121 回日本内科学会講演会 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ2024 東京「CT で指摘が困難であった重度の右左シャントを伴う微小びまん性肺動静脈瘻の一例」優秀演題賞。（笠井大指導）

大辻琉加（医学部6 年）：第64 回日本呼吸器学会学術講演会 ことはじめ甲子園「長期にわたり未診断であった小児の限局性複雑型肺動静脈瘻（PAVM）の1 例」優秀賞（笠井大指導）

金弘祥太郎（医学生6 年）：第64 回日本呼吸器学会学術講演会 ことはじめ甲子園「4D-CT での形態評価が有用であった先天性右肺静脈閉塞症による肺静脈瘤と肺静脈-肺静脈（PV-PV）シャントの一例」（荒野貴大、笠井大指導）

志鷹彩（医学部6 年）：第259 回日本呼吸器学会関東地方会 医学生・初期研修医セッション「全肺野に無数の病変を伴った遺伝性出血性毛細血管拡張症（HHT）に合併した多発性肺動静脈瘻（PAVM）の1 例」最優秀賞（笠井大指導）

加瀬舞香（医学部5 年）：第260 回日本呼吸器学会関東地方会 医学生・初期研修医セッション「アミカシン・リボゾム吸入用懸濁液（ALIS）導入後に菌陰性化を達成し得たCAM 耐性肺 M. avium 症の一例。」優秀賞（笠井大、葉山奈美指導）

大辻琉加（医学部6 年）：HHT JAPAN 2024 第10 回日本 HHT 研究会（2024.6.22 千葉）「その病変は本当に

肺動静脈瘻か？－肺動静脈瘻として紹介されるも異なる診断に至った症例についての検討－」（笠井大指導）
 車地亮磨（医学部6年）：HHT JAPAN 2024 第10回日本HHT研究会（2024.6.22 千葉）「CTで指摘が困難であった重度の右左シャントを伴う微小びまん性肺動静脈瘻の一例」（笠井大指導）
 志鷹彩（医学部6年）：HHT JAPAN 2024 第10回日本HHT研究会（2024.6.22 千葉）「全肺野に無数の病変を伴った遺伝性出血性毛細血管拡張症（HHT）に合併した多発性肺動静脈瘻（PAVM）の一例」（笠井大指導）
 葛里南（臨床研修医）：第259回日本呼吸器学会関東地方会（2024.5.11 秋葉原＋Web）「ACTH依存性Cushing症候群（CS）によりサイトメガロウイルス（CMV）肺炎を来した小細胞肺癌の一例」（葉山奈美指導）
 田中梨紗（医学部6年）：第186回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会／第261回日本呼吸器学会関東地方会合同学会（2024.9.28 秋葉原）「上大静脈（SVC）症候群に対してSVCステント留置により著効が得られた2例」（笠井大指導）
 渡邊真子（臨床研修医）：第186回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会／第261回日本呼吸器学会関東地方会合同学会（2024.9.28 秋葉原）「遷延性低血糖を呈した孤立性線維性腫瘍（SFT）の1例」（田島弘貴指導）

【学生指導実績：指導医受賞】

笠井大：千葉大学医学部スカラーシップ指導者賞
 笠井大：第121回日本内科学会講演会
 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ2024 東京 優秀指導者賞
 笠井大：第259回日本呼吸器学会関東地方会 医学生・初期研修医セッション 優秀指導者賞

【学生指導実績：論文公表】

Yoneoka R（医学部6年）, Takeda K, Kasai H, Sugiura T, Shikano K, Abe M, Suzuki T. A 65-year-old man with refractory hemoptysis associated with chronic progressive pulmonary aspergillosis who failed to respond to combined endobronchial occlusion and bronchial artery embolization: A case report and literature review. *Am J Case Rep.* 2024 Mar 13;25:e942422. doi: 10.12659/AJCR.942422. PMID: 38527273.
 Otsuji R（医学部6年）, Kasai H, Sugiura T, Suzuki H, Suzuki T. Evaluation of a gradually enlarging complex pulmonary arteriovenous malformation consisting of innumerable small fistulae using four-dimensional computed tomography. *BMJ Case Rep.* 2024 Feb 17;17(2):e258200. doi: 10.1136/bcr-2023-258200. PMID: 38367987.
 Kitamura M（医学部6年）, Kasai H, Terada J, Koshikawa K, Suzuki K, Suzuki T. Management of acute and chronic hypercapnic respiratory failure in severe obesity-hypoventilation syndrome: A case study of multi-modal therapy and long-term weight loss. *Am J Case Rep.* 2024 Nov 14;25:e945448. doi: 10.12659/AJCR.945448. PMID: 39538998.

【医学教育研究】

当科では、医学研究院医学教育研究室との共同研究として実践した教育方略についてその効果を検証し、広く活用できるよう国内外での学会発表や論文を積極的に進めている。

【医学教育学論文公表】

Takeda K, Kasai H, Tajima H, Hayama N, Saito M, Kawame C, Suzuki T. Effectiveness of lung ultrasound training utilizing a high-fidelity simulator. *ATS Sch.* 2023 Dec 20;5(1):133-141. doi: 10.34197/ats-scholar.2023-0084OC. eCollection 2024 Mar. PMID: 38628301. (肺音シュミレーター活用研究)
 Kasai H, Saito G, Takeda K, Tajima H, Kawame C, Hayama N, Shikino K, Shimizu I, Yamauchi K, Asahina M, Suzuki T, Ito S. Effect of a workplace-based learning program on clerkship students' behaviors and attitudes toward evidence-based medicine practice. *Med Educ Online.* 2024;29:2357411. doi: 10.1080/10872981.2024.2357411. (クリニカルクラークシップ EBM practice)
 Kasai H, Shikino K, Mohri S, Sato A, Yokoh H. (Letter to the Editor) Role-play-based coaching program for empowering clinical educators. *J Gen Fam Med.* 2024. doi: 10.1002/jgf2.739. (コーチング＋ロールプレイプログラム)
 Kasai H, Asahina M, Tajima H, Shikino K, Shimizu I, Onodera M, Kimura Y, Araki N, Tsukamoto T, Yoshida S, Yamauchi K, Ito S. Effectiveness of a report writing training program using peer review: evidence from first-year medical students. *BMC Med Educ.* 2024;24:1132. doi: 10.1186/s12909-024-06041-6. (アカデミック

ライティング)

Nakamura A, Kasai H, Asahina M, Kamata Y, Shikino K, Shimizu I, Onodera M, Kimura Y, Tajima H, Yamauchi K, Ito S. Impact of group work on the hidden curriculum that induces students' unprofessional behavior toward faculty. BMC Med Educ. 2024;24:770. doi: 10.1186/s12909-024-05713-7. (クリニカルクラークシップ EBM practice)

Kono Y, Miura K, Kasai H, Ito S, Asahina M, Tanabe M, Nomura Y, Nakaguchi T. Breath measurement method for synchronized reproduction of biological tones in an augmented reality auscultation training system. Sensors (Basel) . 2024;24:1626. doi: 10.3390/s24051626. (聴診トレーニング)

・卒後教育／生涯教育

2024 年時、33 名の専攻医が日本専門医機構と日本内科学会の示す指針に準拠した千葉大学附属病院等の「内科専門研修プログラム」研修に従事している。大学を中心に県内外の関連病院と連携し、内科専門医・呼吸器専門医、気管支鏡専門医取得をゴール肺循環、悪性腫瘍、感染症、炎症、線維症、アレルギー性疾患、睡眠障害など多彩な疾患について研鑽を積んでいる。教室としては研究マインドの育成に努め、学会発表や論文執筆指導に力を注いでいる。

【研修医指導実績：学会発表（筆頭者としての発表に限る）】

河野励哉（臨床研修医）・伊藤遼（専攻医）：第 185 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会 / 第 258 回日本呼吸器学会関東地方会合同学会（2024.1.17 秋葉原 + Web）

磯松慧（専攻医）：第 121 回日本内科学会講演会 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ 2024 東京 優秀演題賞（竹田健一郎指導）

佐久間俊紀（専攻医）、伊藤遼（専攻医）：第 62 回日本呼吸器内学会学術講演（2025.4.5-7 横浜 + Web）

稲崎稔明（専攻医）：第 259 回日本呼吸器学会関東地方会（2024.5.11 秋葉原 + Web）

佐久間俊紀（専攻医）、伊藤遼（専攻医）：第 9 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会（2024.8.9-10 久留米）

進藤陽介（臨床研修医）：第 262 回日本呼吸器学会関東地方会（2024.11.30 秋葉原 + Web）

【臨床研修医・専攻医指導実績：論文公表】

Inazaki T, Kasai H, Yato Y, Sato T, Nakamura N, Koyanagi Y, Fujiwara T, Suzuki K, Urushihara T. Tumor Rupture-induced Pleural Empyema with a Bronchopleural Fistula Treated with Bronchial Occlusion Using an Endobronchial Watanabe Spigot: A Case Report. Respir Endosc. 2024 in press. doi:10.58585/respend.2024-0022.

【生涯教育】

生涯教育として、医師をはじめ看護師・薬剤師・理学療法士など多職種を対象とした呼吸器疾患に関する教育講演、情報交換会、ハンズオンセミナーを実施し、呼吸器病学の啓蒙・普及に積極的に取り組んでいる。千葉県医師会、千葉市医師会、保健所等との共催企画は多岐にわたる予防、呼吸器疾患の早期診断、医療連携によるシームレスな治療のために有益なものとなっている。また、オンラインセミナーの開催により、専門医の立場から全国の医療者に向けた最新の治療について広く伝えることができている。

日本呼吸器学会主催「第 62 回臨床呼吸機能講習会」においては主任、講師、チューターを派遣し、呼吸器疾患の理解に必要な呼吸機能検査の基本、胸部 X 線写真の読影や代表的な呼吸器疾患の診断法・治療法の講習、気管支鏡検査、スパイロメトリー、酸素療法、HFNC、人工呼吸管理について実習指導を行なった。

年間講演会 計 71 件

主なもの：

呼吸器疾患フォーラム（2024.2.13 池袋）：難治性呼吸器疾患の病態解明と治療法開発。

総合呼吸器外来診療講演会 in 千葉市西エリア（2024.3.18 千葉市 + Web）：COPD の新しい目標「死亡率減少」～外来で診断するコツと治療方針の UP TO DATE ～。

千葉県呼吸器若手医師の会（2024.6.12 Web）：寛解を目指した喘息治療～生物学的製剤への期待～。

重症喘息治療の医療連携を考える会（2024.10.1 Web）：重症喘息治療におけるテゼスパイアへの期待。

山武郡市医師会学術講演会（2024.11.15 東金 + Web）：知っておきたい間質性肺炎診療 Update。

千葉間質性肺炎在宅 Network Meeting（2024.11.28 千葉）：間質性肺炎診療における病診連携～現状と改善策の検討～。

呼吸器感染症 ブラッシュアップセミナー（2024.3.26 Web）：市中肺炎の診療 2024～症例ベースで考える診断・治療のコツ～。

PH Seminar (for Medical Collaboration)（2024.3.1 千葉）：移行期医療の中でトレプロスト吸入液を導入した

肺動脈性肺高血圧症の一例。

ちば胸部腫瘍カンファレンス 2024 (2024.12.20 Web) : 2025 年の EGFR 遺伝子変異陽性進行 / 再発例の初回治療を考える。

肺がん研究の明日を考える会 (2024.7.22 Web) : 進行期非小細胞肺癌における PD-L1 発現とその Splice variants の臨床的意義について。

・大学院教育

2024 年度は新入生 4 名を含む博士課程大学院生 27 名、研究生 1 名が在籍した。

「革新医療創生 CHIBA 卓越大学院プログラム」には 2 名の、「令和 6 年度全方位イノベーション創発博士人材養成プロジェクト」には 1 名の大学院生が採択され、より高きを目指し研究に取り組んでいる。

2024 年度、博士課程修了者 7 名に学位 (医学博士) が授与された。そのうち 1 名は早期修了者である。

医学薬学府修士課程では、薬物療法情報学特論「呼吸器疾患における薬物療法」、先端生命科学特論「呼吸器系「肺」、臨床医科学特論「呼吸の仕組みと疾患病態」を担当した。

医学薬学府博士課程では、呼吸器内科学特論、呼吸器内科学演習、呼吸器内科学実習、特別研究、発表論述方法論、臨床医科学演習、特別実験、呼吸循環生理研究方法論を開講、また、臨床アレルギー特論「肺の自然免疫と炎症」、難治性疾患診断学特論「呼吸器領域における難治性疾患の診断」、ワクチン学・感染症学特論 Advanced コース「呼吸器粘膜免疫学」を担当した。

当教室の大学院生の 2024 年の論文発表の実績は、筆頭著者として英文原書 12 報、英文症例報告 7 報、英文総説 1 報であった。

大学院生の学会発表の実績は、国際学会における筆頭演者としての発表 9 演題、国内学会における筆頭演者としての発表 25 演題、そのうちシンポジウム / 特別企画としての発表 4 件、地域からの講演依頼は 7 件あった。

・その他 (他学部での教育、普遍教育等)

普遍教育

教養展開科目 生命コア現代医療 (対象全学部 1 年生)

「肺結核」

薬学部

疾病学 1・疾病学 2 (薬学部 3 年生)、漢方治療学 (薬学部薬学科 4 年生)

看護学部

健康障害・看護 2・ナースング・フィジカルアセスメント (看護学部 2 年生)

●研 究

・研究内容

慢性閉塞性肺疾患、急性肺障害 (広義の炎症性肺疾患)、間質性肺疾患などを対象に研究に取り組んでいる。医学研究院免疫発生学、人口知能 (AI) 学、真菌医学研究センター呼吸器生体制御研究部門、理化学研究所生命機能科学研究センター、京都大学 iPS 細胞研究所臨床研究部門、京都大学大学院医学研究科呼吸器内科学、かずさ DNA 研究所、富山大学和漢医薬学総合研究所研究開発部分複雑系解析分野、筑波大学生存ダイナミクス研究センターゲノム情報生物研究室、筑波大学国際統合睡眠医学研究機構、医薬基盤・健康・栄養研究所、国立医薬品食品衛生研究所、千葉県がんセンター研究所細胞治療開発研究部、がん研究所がん化学療法センター基礎研究部、国立がん研究センター細胞情報学研究所との共同研究が進み、AI、バイオインフォマティクス技術を利用したトランスクリプトーム解析等の研究手法を導入し、再生医学にも研究領域を広げている。Cincinnati Children's Hospital Medical Center, Division of Pulmonary, Biology, University of Cincinnati (USA), University of Illinois at Chicago, University of Florida との国際共同研究も継続している。

日本医療開発研究機構 (AMED)「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」においてシナジー拠点として採択された千葉大学「未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点」(2022-2027) には拠点メンバーとして研究に参加している。

教室あげて取り組んでいる研究として、AMED CREST「革新的先端研究開発支援事業 外部環境刺激による組織炎症記憶形成機構の解明と難治性アレルギー性疾患の病態制御治療戦略の基盤構築」(2023-2028)、AMED CREST「革新的先端研究開発支援事業 肺胞幹細胞ストレスに起因する特発性肺線維症の早期分子経路の解明と治療薬の創製」(2024-2029)、JST (国立研究開発法人科学技術振興機構)「ウィルス-人体相互作用ネットワークの理解と制御」(2022-2024)、AMED「医薬品等規制調和・評価研究事業研究 薬剤性間質性肺炎および重症薬疹の新規診断バイオマーカーの適格性確認に関する研究」(2023-2025)、厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策

研究事業「難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究」、「びまん性肺疾患に関する調査研究」、「呼吸器系先天異常疾患の医療水準向上と移行期医療に関する研究」などがある。

疾患別研究課題

【慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息の病態解析と治療戦略に関する研究】

◎ COPD 治療における胸部動態 X 線画像の有効性に関する特定臨床研究 ◎慢性閉塞性肺疾患に伴う悪液質患者を対象としたグレリン作動薬アナモレリンの有効性を探索する前向き非盲検介入試験 ◎「咳嗽・喀痰の診療ガイドライン 2019」喀痰総論の改訂に向けたエビデンスの構築（横浜市立大学との共同研究）◎慢性呼吸不全患者に対する L-menthol 嗅覚刺激が労作時呼吸困難に及ぼす影響に関する研究 ◎ COPD における好中球 NETs の病態形成に関する研究 ◎慢性難治性呼吸器疾患における肺マクロファージに関する研究、◎ COPD 病態と PBMC 機能との関連の解明、等

【急性肺障害の発症機序・修復機転に関する研究】

◎ ARDS における CD26/DPP4 を標的とした新規治療戦略 ◎間葉系幹細胞由来エクソソームの急性肺障害への治療応用

【びまん性肺疾患の病態および治療戦略に関する研究】

◎肺線維症における CD26/DPP4 を介した新規治療戦略 ◎肺サルコイドーシスの予後予測、病態関連因子の探索 ◎間質性肺炎における PBMC および免疫細胞サブセットと予後 ◎間葉系幹細胞由来エクソソームの特発性肺線維症への治療応用 ◎肺線維化における macrophage 移植治療の可能性について ◎肺線維症の病態形成における Neutrophil extracellular traps (NETs) の役割 ◎自己免疫性肺泡蛋白症患者 aPAP を対象とした多施設共同治験 ◎特発性肺線維症 (IPF) 患者を対象としたプラセボ対照試験 ◎進行性線維化を伴う間質性肺疾患 (PF-ILD) 患者を対象としたプラセボ対照試験 ◎鎮咳薬ゲーファピキサントを投与された間質性肺疾患患者の実臨床における前向き観察研究 ◎体重減少傾向のある間質性肺疾患に対する経口栄養補助剤の忍容性と有効性の検討 ◎間質性肺炎増悪のバイオマーカーとしてのストラテフィンの有用性 ◎免疫チェックポイント阻害薬肺障害の再燃リスクの検討 ◎アジア人向け悪液質診断基準を用いた線維性間質性肺疾患における悪液質の頻度と予後を調査する前向き観察研究 ◎肺泡蛋白症患者の病態および予後関連因子に関する検討 ◎薬剤性間質性肺炎の新規診断バイオマーカーの適格性確認に関する研究 ◎血液、気管支肺泡洗浄液および肺組織を用いた呼吸器疾患患者の病態解析 - 経時的検討

【悪性腫瘍に関する研究】

特定臨床試験 5、治験 6、観察研究 50 以上

◎ IP 合併 SCLC に対する術後化学療法の後方視的研究 ◎ DTX+RAM 療法にデキサメサゾンを用いた併用するランダム化比較試験 ◎ HD を受けている肺癌症例に対する CDDP+ETP に関する後方視的研究 ◎間質性肺炎合併非小細胞肺癌の治療 ◎実臨床における胸腺癌に対するレンバチニブの有効性・安全性を調査する多施設共同後方視的研究 ◎非小細胞肺癌における免疫細胞上 PD-L1 発現の臨床的意義の探索 ◎ Whole genome sequence を用いた非小細胞肺癌における脳転移のドライバー変異の探索 ◎腫瘍細胞における CD274 の alternative splicing の制御機構の解明 ◎カルボプラチンによる白金併用療法の外来導入の忍容性を検討する後方視的検討 ◎ EGFR 遺伝子変異陽性の非小細胞肺癌に対して Amivantamab and Lazertinib 投与中の VTE に関する検討 ◎ nab-パクリタキセル投与を受ける肺癌患者を対象とした簡易手足冷却療法の CIPN 予防効果を検証する非盲検ランダム化比較試験 ◎透析を受けている末期腎不全を合併した肺癌症例に対する透析併用でのシスプラチン+エトポシド療法に関する後方視的研究 ◎ C-CAT データを用いた原発性肺癌における腫瘍遺伝子変異量 (TMB) に関する研究 ◎ CDDP unfit である限局型小細胞肺癌に対する CBDCA 併用化学放射線療法の安全性と有効性を検討する多施設共同後方視的研究 ◎腫瘍に関するゲノム・遺伝子解析研究を目的とした検体の保存・利活用の体制構築 ◎局所進行非小細胞肺癌に対する 化学放射線療法を受けた患者の後ろ向き研究に附随する画像評価の検討 ◎非小細胞肺癌に対しニボルマブ単剤にて加療された患者様の診療情報を用いた解析を行う研究に対するご協力をお願い ◎間質性肺炎合併非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+パクリタキセル / nab-パクリタキセル リチャレンジの有効性の検討 ◎非小細胞肺癌の術後局所再発における化学放射線療法および化学放射線療法後デュルバルマブ維持療法の有効性および安全性を検討する多機関共同後ろ向き観察研究 ◎進展型小細胞肺癌患者に対する初回治療カルボプラチン / エトポシド / アテゾリズマブ併用療法の実地診療における有効性、安全性を検討する多施設前向き観察研究 ◎切除不能ステージⅢ非小細胞肺癌患者における同時化学放射線療法後のデュルバルマブの長期安全性及び有効性に関する観察研究 ほか

【肺高血圧症の病態解析と治療戦略に研究 / 肺血栓塞栓症の慢性化機序・病態解析・治療戦略に関する研究】

◎ PAAR γアゴニスト クリシンの Su/Hx PAH ラットの病態改善効果の検討 ◎ PH モデルに対するトリメタジジンの効果の検討 ◎慢性性血栓塞栓性肺高血圧症患者の腸内細菌解析 ◎メタボロームによる PH ラット RV における代謝リモデリング評価研究 ◎遺伝子情報解析を含む TGF βシグナル伝達系を中心としたオミックス解析による呼吸器疾患病態解明を目指す多施設共同研究 ◎肺高血圧症の病態形成における CD26/DPP4 の役割 ◎肺動脈性肺高血圧症における組織常在マクロファージの役割と治療応用 ◎肺動脈性肺高血圧症発症におけるマクロファージ内 BMPR II 欠損の影響 ◎ X 線動態画像に基づく肺循環障害評価法に関する研究 ◎CTEPH における % CSA < 5 と肺血行動態との関係およびその臨床的意義についての検討 ◎肺動脈性肺高血圧症の胸部 X 線画像検査診断を支援する AI ソフトウェアの開発研究 ◎肺動静脈瘻における右左シャント率測定の代替法の検討 ◎肺高血圧症患者における胸部 CT の定量化した肺正常領域が有する臨床的意義 ◎3 群肺高血圧症患者レジストリ (JAPHR3 群) と連携した呼吸器疾患の胸部 CT の定量評価と臨床病態解析に基づいた予後予測モデルの構築 ◎心エコーを用いた肺高血圧症の早期診断に有用な診断指標・アルゴリズムの検討 ◎CT データベースを用いた肺血管の評価と肺血栓塞栓症診断支援システムの開発

●日本肺高血圧・肺循環学会主導研究に参加

◎慢性血栓塞栓性肺高血圧症国際共同研究 CLARITY：診断・治療・管理における診療の実際、患者のアンメットニーズ、臨床診療とアンメットニーズにおける地域と国際的な違いについての調査

●日本医療研究開発機構 (AMED) 研究、厚労科研難治性疾患政策研究事業との連携研究

◎厚労科研難治性疾患政策研究事業 難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究
エビデンスの創出と診療ガイドラインの作成

◎ AMED 患者レジストリ Japan PH Registry を利活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗 IL-6 受容体抗体適応拡大のための医師主導治験 ◎ AMED 患者レジストリ Japan PH Registry を活用した肺動脈性肺高血圧症のアンメットメディカルニーズに対するエビデンス創出研究

●NPO 法人 JAPHR (Japan PH Registry) との連携研究

- ◎1 群 肺動脈性肺高血圧症レジストリ 治療成績のデータ収集・解析
- ◎3 群 呼吸器疾患に伴う肺高血圧症レジストリ 治療成績のデータ収集・解析
- ◎4 群 慢性血栓塞栓性肺高血圧症レジストリ 治療成績のデータ収集・解析

【睡眠研究】

◎オレキシン受容体拮抗薬であるダリドリレキサンが炎症反応下における睡眠の質と炎症誘発性肺障害に及ぼす影響 ◎オレキシン受容体作動薬 (TAK-925) が炎症反応下における睡眠の質と炎症誘発性肺障害に及ぼす影響

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Ikeda H, Kawase K, Nishi T, Watanabe T, Takenaga K, Inozume T, Ishino T, Aki S, Lin J, Kawashima S, Nagasaki J, Ueda Y, Suzuki S, Makinoshima H, Itami M, Nakamura Y, Tatsumi Y, Suenaga Y, Morinaga T, Honobe-Tabuchi A, Ohnuma T, Kawamura T, Umeda Y, Nakamura Y, Kaniwa Y, Ichihara E, Hayashi H, Ikeda J, Hanazawa T, Toyooka S, Mano H, Suzuki T, Osawa T, Kawazu M, Togashi Y. Immune evasion through mitochondria transfer in the tumour microenvironment. *Nature*. 2024 in press. doi:org/10.1038/s41586-024-08439-0.
2. Ohashi K, Nishito Y, Fukuda H, Sadahiro R, Yoshida Y, Watanabe S, Motoi N, Sonobe Y, Mizuno H, Tsunoda H, Tatsumi K, Suzuki T, Ochiai A, Aoki K. Neutrophil-to-lymphocyte ratio is a prognostic factor reflecting the tumor microenvironment in squamous cell lung cancer. *Sci Rep*. 2024;14:429. doi:10.1038/s41598-023-50378-9.
3. Miyakoshi J, Yoshida T, Kashima J, Shirasawa M, Torasawa M, Matsumoto Y, Masuda K, Shinno Y, Okuma Y, Goto Y, Horinouchi H, Shiraishi K, Kohno T, Yamamoto N, Yatabe Y, Suzuki T, Ohe Y. Clinical significance of inter-assay discrepancy in PD-L1 evaluation for the efficacy of pembrolizumab in advanced NSCLC with high PD-L1 expression. *Lung Cancer*. 2024;191:107788. doi: 10.1016/j.lungcan.2024.107788.
4. Tsukita Y, Tozuka T, Kushiro K, Hosokawa S, Sumi T, Uematsu M, Honjo O, Yamaguchi O, Asao T, Sugisaka J, Saito G, Shiihara J, Morita R, Katakura S, Yasuda T, Hisakane K, Miyauchi E, Morita S, Kobayashi K, Asahina H. Immunotherapy or chemimmunotherapy in older adults with advanced non-small cell lung cancer. *JAMA Oncol*. 2024;10:439-447. doi: 10.1001/jamaoncol.2023.6277.
5. Furuta M, Horinouchi H, Yokota I, Yamaguchi T, Itoh S, Fukui T, Iwashima A, Sugisaka J, Miura Y, Tanaka H, Miyawaki T, Yokouchi H, Miura K,

- Saito R, Saito G, Kamoshida T, Uchinami Y, Kato T, Kobayashi K, Asahina H. Durvalumab after chemoradiotherapy for locoregional recurrence of completely resected non-small-cell lung cancer (NEJ056). *Cancer Sci.* 2024;115:3705-3717. doi: 10.1111/cas.16340.
6. Shibaki R, Fujimoto D, Miyauchi E, Tsukita Y, Nakachi I, Arai D, Sakata Y, Shingu N, Shimokawa T, Kijima T, Tamiya M, Kawana S, Hara S, Saito G, Sato Y, Yokoyama T, Sakata S, Taniguchi Y, Hata A, Matsumoto H, Yamaguchi T, Yamamoto N. Durvalumab with etoposide and carboplatin for patients with extensive-stage small cell lung cancer and interstitial lung disease: A multicenter, open-label prospective trial. *Lung Cancer.* 2024;196:107958. doi: 10.1016/j.lungcan.2024.107958.
7. Katayama Y, Yamada T, Tanimura K, Kawachi H, Ishida M, Matsui Y, Hirai S, Nakamura R, Morimoto K, Furuya N, Arai S, Goto Y, Sakata Y, Nishino K, Tsuchiya M, Tamiya A, Saito G, Muto S, Takeda T, Date K, Fujisaka Y, Watanabe S, Fujimoto D, Uehara H, Horinaka M, Sakai T, Yano S, Tokuda S, Takayama K. YAP regulates HER3 signaling-driven adaptive resistance to RET inhibitors in RET-aberrant cancer. *Clin Cancer Res.* 2024 Online ahead of print. doi: 10.1158/1078-0432.CCR-24-1762.
8. Kawachi H, Tamiya M, Oya Y, Saito G, Taniguchi Y, Matsumoto H, Sato Y, Otsuki T, Suzuki H, Fukuda Y, Tanaka S, Tsukita Y, Uchida J, Sakata Y, Nakatani Y, Shibaki R, Arai D, Okada A, Hara S, Takayama K, Nishino K. Real-World Outcomes of Subsequent Chemotherapy after Progression Following Chemoradiation and Consolidative Durvalumab Therapy in Locally Advanced Non-small Cell Lung Cancer: An Exploratory Analysis from the CRIMSON Study (HOPE-005). *Clin Lung Cancer.* 2024;25:643-652.e4. doi: 10.1016/j.clcc.2024.07.014.
9. Sugisaka J, Fujimoto D, Tamiya M, Hata A, Matsumoto H, Yokoyama T, Taniguchi Y, Uchida J, Sato Y, Kijima T, Tanaka H, Furuya N, Masuda T, Sakata Y, Miyauchi E, Saito G, Miura S, Yamaguchi T, Daga H, Sakata S, Yamamoto N, Akamatsu H. Long-term outcome of chemoimmunotherapy for extensive-stage small-cell lung cancer according to key clinical trial eligibility: 3-year outcomes from a prospective cohort study. *Lung Cancer.* 2024 Online ahead of print.
10. Ogawa H, Koga T, Pham NA, Bernards N, Gregor A, Sata Y, Kitazawa S, Hiraishi Y, Ishiwata T, Aragaki M, Yokote F, Effat A, Kazlovich K, Li Q, Hueniken K, Li M, Maniwa Y, Tsao MS, Yasufuku K. Clinical and pathological predictors of engraftment for patient-derived xenografts in lung adenocarcinoma. *Lung Cancer.* 2024;194:107863. doi: 10.1016/j.lungcan.2024.107863.
11. Mukohara F, Iwata K, Ishino T, Inozume T, Nagasaki J, Ueda Y, Suzawa K, Ueno T, Ikeda H, Kawase K, Saeki Y, Kawashima S, Yamashita K, Kawahara Y, Nakamura Y, Honobe-Tabuchi A, Watanabe H, Dansako H, Kawamura T, Suzuki Y, Honda H, Mano H, Toyooka S, Kawazu M, Togashi Y. Somatic mutations in tumor-infiltrating lymphocytes impact on antitumor immunity. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 2024;121:e2320189121. doi: 10.1073/pnas.2320189121.
12. Aoki A, Iwamura C, Kiuchi M, Tsuji K, Sasaki A, Hishiya T, Hirasawa R, Kokubo K, Kuriyama S, Onodera A, Shimada T, Nagaoka T, Ishikawa S, Kojima A, Mito H, Hase R, Kasahara Y, Kuriyama N, Nakamura S, Urushibara T, Kaneda S, Sakao S, Nishida O, Takahashi K, Kimura MY, Motohashi S, Igari H, Ikehara Y, Nakajima H, Suzuki T, Hanaoka H, Nakada TA, Kikuchi T, Nakayama T, Yokote K, Hirahara K. Suppression of type I interferon signaling in myeloid cells by autoantibodies in severe COVID-19 patients. *J Clin Immunol.* 2024;44:104. doi: 10.1007/s10875-024-01708-7.
13. Kamata H, Takamatsu K, Fukunaga K, Chubachi S, Nakagawara K, Namkoong H, Terai H, Tanaka K, Sato S, Hagiwara E, Takei R, Kondoh Y, Takazono T, Hashimoto M, Tasaka S, Ohru T, Tanino Y, Mineshita M, Komase Y, Miyazaki K, Nishikawa M, Ando A, Kita H, Ichihara E, Ohshimo S, Murata Y, Ishida M, Kobayashi S, Uchida T, Tateno H, Ikari J, Terashima T, Kozu Y, Tateishi T, Shinkai M, Sagara H, To Y, Ito Y, Yamamoto M, Yamamoto Y, Kita T, Ito Y, Tomii K, Fujita Y, Funaki Y, Yatera K, Yamasue M, Komiya K, Kozawa S, Manabe H, Hozumi H, Horiguchi T, Kitajima T, Nakano Y, Nagaoka T, Hojo M, Ebihara A, Kobayashi M, Takayama K, Jinta T, Sawai T, Fukuda Y, Kaneko T, Chin K, Ogura T, Mukae H, Ishii M, Yokoyama A. Pulmonary function and chest CT abnormalities 3 months after discharge from COVID-19, 2020-2021: A nation-wide multicenter prospective cohort study from the Japanese respiratory society. *Respir Investig.* 2024;62:572. doi: 10.1016/j.resinv.2024.02.009.

14. Kasai H, Saito G, Takeda K, Tajima H, Kawame C, Hayama N, Shikino K, Shimizu I, Yamauchi K, Asahina M, Suzuki T, Ito S. Effect of a workplace-based learning program on clerkship students' behaviors and attitudes toward evidence-based medicine practice. *Med Educ Online*. 2024;29:2357411. doi: 10.1080/10872981.2024.2357411.
15. Kasai H, Asahina M, Tajima H, Shikino K, Shimizu I, Onodera M, Kimura Y, Araki N, Tsukamoto T, Yoshida S, Yamauchi K, Ito S. Effectiveness of a report writing training program using peer review: evidence from first-year medical students. *BMC Med Educ*. 2024;24:1132. doi: 10.1186/s12909-024-06041-6.
16. Nakamura A, Kasai H, Asahina M, Kamata Y, Shikino K, Shimizu I, Onodera M, Kimura Y, Tajima H, Yamauchi K, Ito S. Impact of group work on the hidden curriculum that induces students' unprofessional behavior toward faculty. *BMC Med Educ*. 2024;24:770. doi: 10.1186/s12909-024-05713-7.
17. Kono Y, Miura K, Kasai H, Ito S, Asahina M, Tanabe M, Nomura Y, Nakaguchi T. Breath measurement method for synchronized reproduction of biological tones in an augmented reality auscultation training system. *Sensors (Basel)*. 2024;24:1626. doi: 10.3390/s24051626.
18. Tanabe N, Kumamaru H, Tamura Y, Kondoh Y, Nakayama K, Kinukawa N, Kimura T, Nishiyama O, Tsujino I, Shigeta A, Morio Y, Inoue Y, Kuraishi H, Hirata K, Tanaka K, Kuwana M, Nagaoka T, Handa T, Sugimura K, Sakamaki F, Naito A, Taniguchi Y, Matsubara H, Hanaoka M, Inami T, Hayama N, Nishimura Y, Kimura H, Miyata H, Tatsumi K, on behalf of the JRPHS Group. Pulmonary hypertension with interstitial pneumonia: Initial treatment effectiveness and severity in a Japan registry. *JACC Asia*. 2024;4:403-417. doi:10.1016/j.jacasi.2024.01.009.
19. Okaya T, Kawasaki T, Sato S, Koyanagi Y, Tatsumi K, Hatano R, Ohnuma K, Morimoto C, Kasuya Y, Hasegawa Y, Ohara O, Suzuki T. Functional roles of CD26/DPP4 in bleomycin-induced pulmonary hypertension associated with interstitial lung disease. *Int J Mol Sci*. 2024;25:748. doi:10.3390/ijms25020748.
20. Okaya T, Shigeta A, Tanabe N, Tatsumi K, Yokota H, Nishiyama A, Naito A, Sekine A, Sugiura T, Sakao S, Suzuki T. Significance of normal lung volume on quantitative CT imaging analysis in Group1 and Group3 pulmonary hypertension. *CHEST pulmonary*. 2024;4:100062. doi: 10.1016/j.chpulm.2024.100062.
21. Imai S, Sakao S, Nagata J, Naito A, Sekine A, Sugiura T, Shigeta A, Nishiyama A, Yokota H, Shimizu N, Sugawara T, Nomi T, Honda S, Ogaki K, Tanabe N, Baba T, Suzuki T. Artificial intelligence-based model for predicting pulmonary arterial hypertension on chest x-ray images. *BMC Pulm Med*. 2024;24:101. doi: 10.1186/s12890-024-02891-4.
22. Suzuki Y, Kawasaki T, Tatsumi K, Okaya T, Sato S, Shimada A, Misawa T, Hatano R, Morimoto C, Kasuya Y, Hasegawa Y, Ohara O, Suzuki T. Transcriptome analysis of fibroblasts in hypoxia-induced vascular remodeling: functional roles of CD26/DPP4. *Int J Mol Sci*. 2024;25:12599. doi.org/10.3390/ijms252312599.
23. Takeda K, Shigeta A, Inagaki T, Hayama N, Kawame C, Naraki Y, Naito A, Sekine A, Suda R, Sugiura T, Tanabe N, Suzuki T. The utility and safety of one-minute sit-to-stand test in pulmonary hypertension: A prospective study. *Respir Investig*. Online ahead of print. doi: 10.1016/j.resinv.2024.12.003.
24. Yanagisawa A, Kim JD, Naito A, Kobayashi T, Misawa T, Sakao S, Jujo-Sanada T, Kawasaki T, Muroi SI, Sasaki SI, Suzuki T, Hayakawa Y, Nakagawa Y, Kasuya Y, Tatsumi K. Deciphering the inhibitory effects of trimetazidine on pulmonary hypertension development via decreasing fatty acid oxidation and promoting glucose oxidation. *Sci Rep*. 2024;14:27069. doi: 10.1038/s41598-024-76100-x.
25. Tamura Y, Kumamaru H, Tsujino I, Suda R, Abe K, Inami T, Horimoto K, Adachi S, Yasuda S, Sera F, Taniguchi Y, Kuwana M, Tatsumi K; Japan Pulmonary Hypertension Registry Network. Switching from beraprost to selexipag in the treatment of pulmonary arterial hypertension: Insights from a phase IV study of the Japanese registry (The EXCEL study: EXChange from beraprost to selexipag Study). *Pharmaceuticals (Basel)*. 2024;17:555. doi: 10.3390/ph17050555.
26. Lemay SE, Montesinos MS, Grobs Y, Yokokawa T, Shimauchi T, Romanet C, Sauvaget M, Breuils-Bonnet S, Bourgeois A, Théberge C, Pelletier A, El Kabbout R, Martineau S, Yamamoto K, Ray AS, Lippa B, Goodwin B, Lin FY, Wang H, Dowling JE, Lu M, Qiao Q, McTeague TA, Moy TI, Potus F, Provencher S, Boucherat O, Bonnet S. Exploring integrin $\alpha 5 \beta 1$ as a potential therapeutic target

- for pulmonary arterial hypertension: Insights from comprehensive multicenter preclinical studies. *BioRxiv [Preprint]*. 2024:2024.05.27.596052. doi: 10.1101/2024.05.27.596052.
27. Hosokawa K, Watanabe H, Taniguchi Y, Ikeda N, Inami T, Yasuda S, Murohara T, Hatano M, Tamura Y, Yamashita J, Tatsumi K, Tsujino I, Kobayakawa Y, Adachi S, Yaoita N, Minatsuki S, Todaka K, Fukuda K, Tsutsui H, Abe K; KABUKI Investigators. A multicenter, single-blind, randomized, warfarin-controlled trial of edoxaban in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension: KABUKI trial. *Circulation*. 2024;149:406-409. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.123.067528.
 28. Masaki K, Hosokawa K, Funakoshi K, Taniguchi Y, Adachi S, Inami T, Yamashita J, Ogino H, Tsujino I, Hatano M, Yaoita N, Ikeda N, Shimokawahara H, Tanabe N, Kubota K, Shigeta A, Ogihara Y, Horimoto K, Dohi Y, Kawakami T, Tamura Y, Tatsumi K, Abe K; CTEPH AC Registry Study Group. Outcomes of chronic thromboembolic pulmonary hypertension after balloon pulmonary angioplasty and pulmonary endarterectomy. *JACC Asia*. 2024;4:577-589. doi: 10.1016/j.jacasi.2024.05.007.
 29. Nakamura J, Tsujino I, Masaki K, Hosokawa K, Funakoshi K, Taniguchi Y, Adachi S, Inami T, Yamashita J, Ogino H, Hatano M, Yaoita N, Ikeda N, Shimokawahara H, Tanabe N, Kubota K, Shigeta A, Ogihara Y, Horimoto K, Dohi Y, Kawakami T, Tamura Y, Tatsumi K, Abe K. Cancer as an independent mortality risk in chronic thromboembolic pulmonary hypertension. *J Heart Lung Transplant*. 2024:S1053-2498(24)01910-7. Online ahead of print. doi: 10.1016/j.healun.2024.10.022.
 30. Ikari J, Katsumata M, Urano A, Imamoto T, Suzuki Y, Nishiyama A, Yokota H, Ono K, Okamoto K, Abe E, Kamata T, Fujii S, Okumura K, Ota J, Suzuki E, Kawata N, Ozawa Y, Masuda Y, Matsushita K, Sakao S, Uno T, Tatsumi K, Suzuki T. Dynamic chest radiographic evaluation of the effects of tiotropium/olodaterol combination therapy in chronic obstructive pulmonary disease: the EMBODY study protocol for an open-label, prospective, single-centre, non-controlled, comparative study. *BMJ Open Respir Res*. 2024;11:e002374. doi: 10.1136/bmjresp-2024-002374.
 31. Imamoto T, Kawasaki T, Sato H, Tatsumi K, Ishii D, Yoshioka K, Hasegawa Y, Ohara O, Suzuki T. Different transcriptome features of peripheral blood mononuclear cells in non-emphysematous chronic obstructive pulmonary disease. *Int J Mol Sci*. 2024;25:66. doi.org/10.3390/ijms25010066.
 32. Zhou X, Ye C, Okamoto T, Iwao Y, Kawata N, Shimada A, Haneishi H. Multi-modal evaluation of respiratory diaphragm motion in chronic obstructive pulmonary disease using MRI series and CT images. *Jpn J Radiol*. 2024;42:1425-1438. doi: 10.1007/s11604-024-01638-9.
 33. Sakuma N, Abe M, Ishii D, Kawasaki T, Arakawa N, Matsuyama S, Saito Y, Suzuki T, Tatsumi K. Serum stratifin measurement is useful for evaluating disease severity and outcomes in patients with acute exacerbation of interstitial lung disease: a retrospective study. *BMC Pulm Med*. 2024;24:364. doi: 10.1186/s12890-024-03184-6.
 34. Sun Y, Saito K, Ushiki A, Abe M, Saito Y, Kashiwada T, Horimasu Y, Gemma A, Tatsumi K, Hattori N, Tsushima K, Takemoto K, Ishikawa R, Momiyama T, Matsuyama S, Arakawa N, Akane H, Toyoda T, Ogawa K, Sato M, Takamatsu K, Mori K, Nishiya T, Izumi T, Ohno Y, Saito Y, Hanaoka M. Identification of kynurenine and quinolinic acid as promising serum biomarkers for drug-induced interstitial lung diseases. *Respir Res*. 2024;25:31. doi: 10.1186/s12931-023-02653-6.
 35. Sato S, Kawasaki T, Hatano R, Koyanagi Y, Takahashi Y, Ohnuma K, Morimoto C, Dudek SM, Tatsumi K, Suzuki T. Functional roles of CD26/DPP4 in lipopolysaccharide-induced lung injury. *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol*. 2024;326:L562-L573. doi: 10.1152/ajplung.00392.2022.
 36. Arai T, Inoue Y, Akasaka K, Masunaga A, Fujita M, Yamaguchi E, Saigusa M, Murakami K, Kurahara Y, Tsuyuguchi K, Suzuki T, Miyazaki Y, Bando M, Suda T. Severity and prognosis of COVID-19 complicated by autoimmune pulmonary alveolar proteinosis. *Respir Investig*. 2024 in press. doi: 10.1016/j.resinv.2024.11.008.
 37. Kawanobe T, Yamaguchi T, Johkoh T, Kono C, Sawahata M, Shijubo N, Konno S, Tatsumi K. Central bronchial deformity in pulmonary sarcoidosis: A finding suggestive of an upper lobe fibrotic phenotype on chest images. *Acad Radiol*. 2024;31:1160-1167. doi: 10.1016/j.acra.2023.08.034.
 38. Kawata N, Iwao Y, Matsuura Y, Higashide T, Okamoto T, Sekiguchi Y, Nagayoshi M, Takiguchi Y, Suzuki T, Haneishi H. Generation of short-term follow-up chest CT images using a latent diffusion

- model in COVID-19. *Jpn J Radiol.* 2024 Online ahead of print. doi: 10.1007/s11604-024-01699-w.
39. Suzuki H, Kawata Y, Aokage K, Matsumoto Y, Sugiura T, Tanabe N, Nakano Y, Tsuchida T, Kusumoto M, Marumo K, Kaneko M, Niki N. Aorta and main pulmonary artery segmentation using stacked U-Net and localization on non-contrast-enhanced computed tomography images. *Med Phys.* 2024;51:1232-1243. doi: 10.1002/mp.16654.
 40. Iwao Y, Kawata N, Sekiguchi Y, Haneishi H. Nonrigid registration method for longitudinal chest CT images in COVID-19. *Heliyon.* 2024;10(17): e37272. doi: 10.1016/j.heliyon.2024.e37272.
 41. Takeda K, Kasai H, Shimizu I, Hiramata R, Hayama N, Shikano K, Abe M, Naito A, Suzuki T. Complications rate and a multidimensional analysis of their causes of tube thoracostomy: a mixed-methods study. *Cureus.* 2024;16:e58563.
 42. Shikano K, Ikari J, Nakajima T, Ota M, Shiko Y, Naito A, Abe M, Kawasaki T, Ikeda JI, Ozawa Y, Suzuki T. Franseen needle in endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration: a phase II prospective study. *Jpn J Clin Oncol.* 2024; 54(9):1037-1044. doi: 10.1093/jjco/hyae077.
 43. Fujii H, Hara Y, Obase Y, Haranaga S, Takahashi H, Shinkai M, Terada J, Ikari J, Katsura H, Yamamoto K, Suzuki T, Tagaya E, Mukae H, Kaneko T. Nationwide survey in Japan of the causative diseases of bloody sputum and hemoptysis in departments of respiratory medicine at university hospitals and core hospitals. *Respir Investig.* 2024; 62:395-401. doi: 10.1016/j.resinv.2024.02.003.
 44. Atsuta R, Fujii H, Hara Y, Tanaka H, Nakamura K, Obase Y, Haranaga S, Takahashi H, Shinkai M, Terada J, Ikari J, Katsura H, Yamamoto K, Suzuki T, Tagaya E, Hozawa S, Mukae H, Kaneko T. Causative diseases of bloody sputum and hemoptysis in respiratory clinics in Japan. *Respir Investig.* Epub 2024. doi: 10.1016/j.resinv.2024.12.006.
 45. Hiwasa T, Yoshida Y, Kubota M, Li SY, Zhang BS, Matsutani T, Mine S, Machida T, Ito M, Yajima S, Shirouzu M, Yokoyama S, Sata M, Yamagishi K, Iso H, Sawada N, Tsugane S, Takemoto M, Hayashi A, Yokote K, Kobayashi Y, Matsushita K, Tatsumi K, Takizawa H, Tomiyoshi G, Shimada H, Higuchi Y. Serum anti-KIAA0513 antibody as a common biomarker for mortal atherosclerotic and cancerous diseases. *Med Int (Lond).* 2024;4:45. doi: 10.3892/mi.2024.169.
 46. Murai Y, Sakao S, Kure F, Kawasaki T, Maruyama M, Suzuki H, Yoshino I, Suzuki T. Reduction of mycophenolate mofetil dosage to limit prolonged viral shedding in solid organ transplant recipients with COVID-19: Two case reports. *Respir Investig.* 2024;62:98-101. doi: 10.1016/j.resinv.2023.10.006.
 47. Ogawa H, Takeda K, Yoneoka R, Shikano K, Abe M, Kasai H, Suzuki T. Severe Bacterial Pneumonia Due to *Legionella longbeachae* Transmitted from Potting Soil in Japan. *Intern Med.* 2024;63:1951-1957.
 48. Shionoya Y, Kasai H, Kono R, Hiramata R, Ota M, Naito A, Abe M, Kawasaki T, Ikeda JI, Suzuki T. *Mycobacterium goodii* pulmonary disease with organizing pneumonia: A case report and review of literature. *Respirol Case Rep.* 2024 in press. doi: 10.1002/rcr2.70095.
 49. Yoneoka R, Takeda K, Kasai H, Sugiura T, Shikano K, Abe M, Suzuki T. A 65-year-old man with refractory hemoptysis associated with chronic progressive pulmonary aspergillosis who failed to respond to combined endobronchial occlusion and bronchial artery embolization: A case report and literature review. *Am J Case Rep.* 2024;25:e942422. doi: 10.12659/AJCR.942422.
 50. Kotani T, Inazaki T, Kasai H, Rakuman S, Suzuki K, Urushibara T. Pneumonia due to *Achromobacter xylosoxidans* with a chronic course resembling non-tuberculous mycobacterial infection. *Respirol Case Rep.* 2024;12:e01287. doi: 10.1002/rcr2.1287.
 51. Inazaki T, Kasai H, Yato Y, Sato T, Nakamura N, Koyanagi Y, Fujiwara T, Suzuki K, Urushihara T. Tumor Rupture-induced Pleural Empyema with a Bronchopleural Fistula Treated with Bronchial Occlusion Using an Endobronchial Watanabe Spigot: A Case Report. *Respir Endosc.* 2024 in press. doi:10.58585/respend.2024-0022.
 52. Igari H, Sakao S, Ishige T, Saito K, Murata S, Yahaba M, Taniguchi T, Suganami A, Matsushita K, Tamura Y, Suzuki T, Ido E. Dynamic diversity of SARS-CoV-2 genetic mutations in a lung transplantation patient with persistent COVID-19. *Nat Commun.* 2024;15:3604. doi: 10.1038/s41467-024-47941-x.
 53. Shionoya Y, Katsumata M, Kasai H, Shikano K, Hino A, Suzuki M, Abe M, Suzuki T. Radiation-induced organizing pneumonia caused by carbon-ion radiotherapy for lung cancer. *Radiol Case Rep.* 2024;19:567-571. doi: 10.1016/j.radcr.2023.11.012.
 54. Abe K, Iwamoto T, Ikeda K, Sugiyama T, Furuta S, Saito G, Wakabayashi H, Nakajima H. Calcium

- pyrophosphate crystal arthritis associated with immune checkpoint inhibitor successfully treated with intra-articular glucocorticoid: A case report. *Mod Rheumatol Case Rep.* 2024;rxae029. Online ahead of print. doi: 10.1093/mrcr/rxae029.
55. Itoh T, Kawasaki T, Kaiho T, Shikano K, Naito A, Abe M, Suzuki H, Ota M, Yoshino I, Suzuki T. Long-term nintedanib treatment for progressive pulmonary fibrosis associated with Hermansky-Pudlak syndrome type 1 followed by lung transplantation. *Respir Investig.* 2024;62:176-178. doi: 10.1016/j.resinv.2023.12.007.
 56. Otsuji R, Kasai H, Sugiura T, Suzuki H, Suzuki T. Evaluation of a gradually enlarging complex pulmonary arteriovenous malformation consisting of innumerable small fistulae using four-dimensional computed tomography. *BMJ Case Rep.* 2024;17:e258200. doi: 10.1136/bcr-2023-258200.
 57. Takagi K, Kasai H, Tani H, Sakao S, Sugiura T, Suzuki T. Macitentan administration for pulmonary hypertension due to β -thalassemia with multiple organ failure. *Intern Med.* 2024;63:1585-1590. doi: 10.2169/internalmedicine.2307-23.
 59. Ishimoto H, Sakamoto N, Yura H, Takazono T, Kido T, Matsumoto K, Morimoto K, Nishino T, Nakata K, Mukae H; PAGE II clinical trial coordinating committee (Nakata K, Akasaka K, Ishii H, Suzuki T). Successful granulocyte-macrophage colony-stimulating factor inhalation therapy for recurrent autoimmune pulmonary alveolar proteinosis after lung transplantation: A case report. *Respir Investig.* 2024 in press. doi: 10.1016/j.resinv.2024.12.001.
 60. Kitamura M, Kasai H, Terada J, Koshikawa K, Suzuki K, Suzuki T. Management of acute and chronic hypercapnic respiratory failure in severe obesity-hypoventilation syndrome: a case study of multi-modal therapy and long-term weight loss. *Am J Case Rep.* 2024;25:e945448. doi: 10.12659/AJCR.945448.
 61. Peeters S, Lau K, Stefanidis K, Yasufuku K, Ishiwata T, Rolfo C, Schneider D, Hardavella G, Guckenberger M, Lauk O. New diagnostic and nonsurgical local treatment modalities for early stage lung cancer. *Lung Cancer.* 2024;196:107952. doi: 10.1016/j.lungcan.2024.107952.
 62. Ikeda G, Miyakoshi J, Yamamoto S, Kato K. Nivolumab in unresectable advanced, recurrent or metastatic esophageal squamous cell carcinoma. *Future Oncol.* 2024;20:665-677. doi: 10.2217/fon-2022-1092.
 63. Hirabayashi R, Nakayama H, Yahaba M, Yamanashi H, Kawasaki T; Japanese TB Clinical Practice Guideline Systematic Review Task Force. Utility of interferon-gamma releasing assay for the diagnosis of active tuberculosis in children: A systematic review and meta-analysis. *J Infect Chemother.* 2024;30:516-525. doi: 10.1016/j.jiac.2023.12.007.
 64. Takeda K, Sugiura T, Isomatsu S, Ogawa H, Murai Y, Miyata S, Imai S, Okaya T, Naito A, Sekine A, Shigeta A, Suzuki T. Hemoglobinopathy as a rare differential disease for low oxygen saturation by pulse oximetry: A case report and literature review. *Intern Med.* 2024 Online ahead of print. doi: 10.2169/internalmedicine.4011-24.
 65. Ishiwata T, Yasufuku K. Artificial intelligence in interventional pulmonology. *Curr Opin Pulm Med.* 2024;30:92-98. doi: 10.1097/MCP.0000000000001024.
- 【雑誌論文・和文】**
1. 鈴木拓児. 呼吸器系の生体防御機構 防御と過剰反応. 呼吸器疾患ベディア. 2024;153 : S39-S40.
 2. 鈴木拓児. 全身性疾患を伴わない遺伝性間質性肺疾患 3) 遺伝性 / 先天性肺胞蛋白症. 呼吸器内科. 2024;46:39-44
 3. 田邊信宏. 肺高血圧症: 疫学と歴史. *Heart View.* 2024;28:312-320.
 4. 杉浦寿彦. 呼吸器疾患と PH を合併する場合の治療はどうするか? ~ PGI2 吸入薬のエビデンスを踏まえて ~. *Heart View.* 2024;28:371-375.
 5. 杉浦寿彦. 肺高血圧症 病因と病態. *日本臨牀 増刊号 動脈・静脈の疾患* 2024 下. 2024;82:145-148.
 6. 竹田健一郎, 重田文子. 急性肺血栓塞栓症. 呼吸器疾患ベディア. 2024;153 : S109-S111.
 7. 村井優志, 川崎剛. 生物学的製剤と NTM : 呼吸器内科としての対応. *呼吸器内科.* 2024;45:639-643.
 8. 巽浩一郎. 日本人閉塞性睡眠時無呼吸に対するアトモキセチンとオキシブチニンの併用療法に関する検討. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究 令和 5 年度研究報告書. 2024.
 9. 田邊信宏. 現代における肺動脈内膜摘除術後の長期成績に対する残存肺高血圧症の影響. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究 令和 5 年度研究報告書. 2024.
 10. 鈴木拓児. 慢性血栓塞栓性肺高血圧症における CT 画像検査で測定される肺断面積の臨床的意義: 肺血行動態との相関性と限界. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 難治性呼吸器疾患・肺

高血圧症に関する調査研究 令和5年度研究報告書. 2024.

11. 杉浦寿彦. 肺動脈内膜摘除術に合併する神経学的有害事象の予防戦略についての検討. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究 令和5年度研究報告書. 2024.

【単行書】

1. 田邊信宏. 肺血栓塞栓症. In: 最新ガイドラインに基づく呼吸器疾患診療指針 第6版 (編集: 弦間昭彦) 総合医学社, 東京, 2024:213-218.
2. 寺田二郎, 巽浩一郎. 特発性中枢性肺泡低換気. In: 最新ガイドラインに基づく呼吸器疾患診療指針 第6版 (編集: 弦間昭彦) 総合医学社, 東京, 2024:385-391.
3. 杉浦寿彦. チアノーゼ, ばち状指. In: 内科診断学 第4版 (編集: 福井次矢, 奈良信雄, 松村正巳) 医学書院, 東京, 2024:941-944.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. 第1495回千葉医学会例会 / 第23回呼吸器内科例会 (2024.1.8 千葉)
巽浩一郎. 教育講演1: 使ってみよう漢方薬.
2. 第1495回千葉医学会例会 / 第23回呼吸器内科例会 (2024.1.8 千葉)
安部光洋. 教育講演2: 明日から使える間質性肺疾患診療のTips ~9年間の間質性肺炎外来の経験から~.
3. Change COPD TV Symposium (2024.1.12 Web)
巽浩一郎. 喘息、COPD、ACO 領域の10年と未来 ~街角でのCOPD患者さんの診断と治療~.
4. 新宿地区2024年の喘息診療を考える懇話会 (2024.2.1 新宿 + Web)
巽浩一郎. 喘息診療 up to date ~重症喘息 Biologics を中心に~.
5. Respiratory Seminar (2024.2.2 Web)
巽浩一郎. COPD ガイドラインの行間を読む ~低酸素血症と換気障害が生体にもたらす影響は異なる~.
6. Next Generation Respiratory Symposium (2024.2.7 Web)
齊木彩絵. 当院における病棟診療について 2023.
7. Chiba Practical Conference on Respiratory system tumor by Web (2024.2.7 Web)
齋藤合. PS 不良肺癌のエビデンスと実際.
8. 呼吸器疾患フォーラム (2024.2.13 池袋)
鈴木拓児. 難治性呼吸器疾患の病態解明と治療法開発.
9. 複十字病院漢方セミナー 地域連携講演会 (2024.2.15 Web)

巽浩一郎. 呼吸器疾患における漢方治療.

10. Change COPD Online Symposium (2024.2.21 Web)
巽浩一郎. COPD の診断と治療 ~行間を読みとるのが肝要~.
11. PH Seminar (for Medical Collaboration) (2024.3.1 千葉)
杉浦寿彦. 移行期医療の中でトレプロスト吸入液を導入した肺動脈性肺高血圧症の一例.
12. Respiratory Total Symposium (2024.3.13 Web)
平間隆太郎. 間質性肺疾患診療における気管支鏡.
13. 総合呼吸器外来診療講演会 in 千葉市西エリア (2024.3.18 千葉市 + Web)
伊狩潤. COPD の新しい目標「死亡率減少」~外来で診断するコツと治療方針の UP TO DATE ~.
14. 第2回 Chiba CTD-ILD seminar (2024.3.19 Web)
川崎剛. CTD-ILD 実臨床の課題.
15. 呼吸器感染症 ブラッシュアップセミナー (2024.3.26 Web)
竹田健一郎. 市中肺炎の診療 2024 ~症例ベースで考える診断・治療のコツ~.
16. 第64回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web)
巽浩一郎, 川崎剛. Legend から学ぶ呼吸器病学の未来: 非気腫性 COPD および IPF に対する抗線維化薬投与の影響に関する末梢血 PBMC トランスクリプトーム解析から COPD、IPF 病態を覗く.
17. 第64回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web)
田邊信宏. シンポジウム6: 肺疾患に伴う肺高血圧症: 国内登録研究からみえてきたもの.
18. 第64回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web)
川田奈緒子. 特別報告2 日本呼吸器財団研究助成成果報告 - 令和3年度受賞テーマ (令和3年度研究助成 / COVID 研究助成): Radiomics 解析による新型コロナウイルス関連肺炎の予後予測モデルの構築.
19. 第64回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web)
川田奈緒子, 杉浦寿彦, 岩男悠真, 西山晃, 石田敬一, 羽石秀昭, 鈴木拓児, 田邊信宏. ミニシンポジウム49: 慢性血栓塞栓性肺高血圧症患者における術前後での肺野濃度の不均一性の評価.
20. 第64回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web)
鈴木敏夫, 鈴木穰, Choi H, 中川智貴, 松原大祐, 関根郁夫, 永元哲治, 池尾聡, 鹿島幸恵, 鈴木絢子, 山本佑樹. 若手呼吸器研究最前線シンポジウム1: 肺オルガノイド空間的トランスクリプトーム解析による次世代創薬プラットフォーム開発 - ニッチオー

- ム介入評価系の新ツールとしての可能性ー。
21. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web)
岡谷匡, 川崎剛, 佐藤峻, 小柳悠, 波多野良, 大沼圭, 森本幾夫, 粕谷善俊, 巽浩一郎, 鈴木拓児. ミニシンポジウム 34: 間質性肺炎合併肺高血圧症における CD26/DPP4 の役割.
 22. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web)
勝又萌, 伊狩潤, 浦野亮, 鈴木英子, 巽浩一郎, 鈴木拓児. ミニシンポジウム 7: エラスターゼ誘導肺気腫モデルマウスにおける neutrophil extracellular traps の役割.
 23. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web)
丸山香苗, 安部光洋, 平間隆太郎, 堀内大, 佐久間典子, 北原慎介, 石井大介, 川崎剛, 大野泉, 滝口裕一, 鈴木拓児. ミニシンポジウム 5: 当院における免疫チェックポイント阻害薬関連肺障害の薬剤別・原疾患別発症リスクの検討.
 34. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web)
須田理香. ランチョンセミナー19: 肺高血圧症診療のパラダイムシフトー Atypical PAH の概念ー.
 25. Change COPD Seminar (2024.4.12 Web)
巽浩一郎. COPD の診断と治療ー行間を読み取るのが肝要ー.
 26. 間質性肺疾患講演会 in 船橋エリア (2024.4.25 船橋)
川崎剛. 知っておきたい間質性肺炎診療 Update.
 27. 市中病院での重症喘息治療を考える懇話会 (2024.5.10 Web)
巽浩一郎. どの様な重症喘息症例に生物学的製剤を使用するのか?ー抗 TSLP 抗体テゼベルマブの適用は?ー.
 28. 肺がんの遺伝子検査を最適化するー臨床×病理ー (2024.5.14 Web)
齋藤合. Driver 遺伝子変異を最大限見つけるために.
 29. Rheumatism & Respiratory Symposium (2024.5.16 Web)
巽浩一郎. COPD の診断と治療ー行間を読み取るのが肝要ー.
 30. 第 26 回日本医薬品情報学会総会・学術大会 (2024.6.1 千葉)
鈴木敏夫. メディカルセミナー2: 呼吸器疾患オルガノイド創薬の幕開けーtranslational bioengineering を可能にする iPS 細胞由来オルガノイドー空間オミックス統合創薬基盤プラットフォームー.
 31. Respiratory Specialist Seminar (2024.6.4 Web)
平間隆太郎. ガイドラインから見る COPD 診療ートリプル製剤の出番は?ー.
 32. Lung Cancer Special Symposium (2024.6.10 千葉 + Web)
齋藤合. EGFR 遺伝子変異陽性 NSCLC の現状と未来.
 33. 千葉県呼吸器若手医師の会 (2024.6.12 Web)
伊狩潤. 寛解を目指した喘息治療ー生物学的製剤への期待ー.
 34. 第 36 回千葉呼吸チャート (2024.6.19 千葉)
巽浩一郎. 遷延性咳嗽に対する治療戦略.
 35. HHT JAPAN 2024 第 10 回日本 HHT 研究会 (2024.6.22 千葉)
杉浦寿彦. Keynote レクチャー: 肺高血圧症.
 36. Bronchoscopy Hands-on Seminar in Chiba (2024.6.22 千葉)
川崎剛. 間質性肺疾患診療のキホン 気管支鏡の役割.
 37. 第 19 回 Keiji-Respiratory Research Seminar (2024.6.24 京都 + Web)
鈴木拓児. 呼吸器疾患微小環境とマクロファージ: 多様性と可塑性.
 38. Severe Asthma Lunch Web Symposium (2024.6.26 Web)
伊狩潤. 寛解を目指した喘息治療ー生物学的製剤への期待ー.
 39. Chiba Practical Conference on Respiratory system tumor by Web (2024.7.3 Web)
齋藤合. oligo-progression/oligo-meta の治療戦略.
 40. Academia Network Conference (2024.7.7 熊本)
佐藤峻. 難治性呼吸器疾患における CD26/DPP4 の役割.
 41. Change COPD TV Symposium (2024.7.12 Web)
巽浩一郎. COPD の診断と治療ー行間を読み取るのが肝要ー.
 42. COPD SCIENTIFIC EXCHANGE MEETING From MIYAGI 2024 (2024.7.19 仙台)
伊狩潤. 炎症と組織修復異常に着目した COPD の病態解明.
 43. 肺がん研究の明日を考える会 (2024.7.22 Web)
宮腰純. 進行期非小細胞肺癌における PD-L1 発現とその Splice variants の臨床的意義について.
 44. Change COPD Meeting (2024.7.26 Web)
巽浩一郎. COPD の診断と治療ー行間を読み取るのが肝要ー.
 45. ILD Web Academy (2024.7.26 Web)
鈴木拓児. 難治性呼吸器疾患のトランスレーショナル研究.
 46. AZ Lung Cancer Expert Web Seminar (2024.7.26

- Web)
- 齋藤合. 肺癌治療における最新トピックス.
47. 第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024.8.9-10 久留米)
坂尾誠一郎. 教育講演1: 心臓と肺から診る COPD マネジメント.
 48. 第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024.8.9-10 久留米)
重田文子. パネルディスカッション5: エラスチン遺伝子異常による末梢性肺動脈狭窄症の1例.
 49. 第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024.8.9-10 久留米)
重田文子. デイバートセッション4: 肺疾患 PH に肺血管拡張薬は“患者を選べば”用いるべきである.
 50. 第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024.8.9-10 久留米)
重田文子. スポンサーセッション: 日本における個々の肺動脈性肺高血圧症治療戦略を考える～7th WSPH, ESC/ERS GL2022 を踏まえて～.
 51. 第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024.8.9-10 久留米)
内藤亮. シンポジウム1: 深層学習ソフトウェアによる胸部 CT 解析を用いた3群 PH の病態評価.
 52. 第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024.8.9-10 久留米)
須田理香. シンポジウム4: 呼吸器疾患合併 PAH の治療ゴールを考える.
 53. 第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024.8.9-10 久留米)
須田理香. ランチョンセミナー3: 実は多い! 呼吸器疾患合併 PAH ～治療の実際～.
 54. 第56回日本医学教育学会大会 (2024.8.9-10 板橋)
葉山奈美. 特別企画5: 専門職連携教育における初回グループワークで生じる医療系学生の沈黙の要因の検討.
 55. 日本患者由来がんモデル学会・日本ヒト細胞学会合同学術集会 2024 (2024.8.21-23 築地)
鈴木敏夫. シンポジウム1: ヒト iPS 細胞由来-肺オルガノイド創薬/毒性評価-空間オミックス配備型プラットフォーム-.
 56. 千葉大学真菌医学研究センター市民向け公開セミナー (2024.8.23 千葉)
巽浩一郎. 現代における漢方とは.
 57. 第41回和漢医薬学会学術大会 (2024.8.24-25 千葉)
巽浩一郎. 医系大会長企画シンポジウム: 生体における発熱/咳嗽とは?.
 58. Chiba ILD Network Meeting (2024.8.28 千葉)
川崎剛. 間質性肺炎診療における病病・病診連携-現状と改善策の検討.
 59. Respiratory Seminar (2024.8.29 Web)
巽浩一郎. COPD の診断と治療～行間を読み取るのが肝要～.
 60. 日本新薬株式会社社内研修会 (2024.9.4 千葉)
重田文子. CTEPH・PAH 治療の現状と治療方針.
 61. 杉並内科医会学術講演会 (2024.9.13 杉並+ Web)
巽浩一郎. COPD の診断と治療～行間を読み取るのが肝要～.
 62. Change COPD Meeting (2024.9.25 Web)
巽浩一郎. COPD の診断と治療～行間を読み取るのが肝要～.
 63. MSD 株式会社社内学術研修 (2024.9.25 千葉)
重田文子. アデムパス社内学術研修.
 64. 印旛肺病学術セミナー (2024.9.25 成田)
齋藤合. エンドポイントの優先順位で考える一次治療-特に PD-L1 陰性症例に関して-.
 65. On-Line Multi-directional Communication Seminar (2024.9.26 Web)
平間隆太郎. 吸入療法より洗浄療法を先行した肺胞蛋白症の1例-当院での気管支鏡下区域洗浄の経験を踏まえて-.
 66. 中外製薬株式会社社内研修会 (2024.9.30 千葉)
宮腰純. 直近の研究活動および非小細胞肺癌に対する免疫療法のプラクティス.
 67. 重症喘息治療の医療連携を考える会 (2024.10.1 Web)
伊狩潤. 重症喘息治療におけるテゼスパイアへの期待.
 68. 亥鼻肺 NTM 症講演会 (2024.10.4 千葉)
川崎剛. 知っておきたい肺 MAC 症診療 Update.
 69. Dupixent Luncheon Webinar (2024.10.23 Web)
伊狩潤. 2型炎症を標的とした喘息治療と Dupilumab.
 70. 亀田総合病院講演会 (2024.10.24 鴨川)
杉浦寿彦. 呼吸器内科医が診る肺高血圧症.
 71. Kyorin U- ラウンジ (2024.10.24 千葉)
川崎剛. 呼吸器感染症におけるキノロン系抗菌薬の役割 Update.
 72. Chiba Chronic Cough Seminar (2024.10.28 千葉)
伊狩潤. 気管支喘息治療の向上を目指して-長引く咳の考え方-.
 73. 日本新薬株式会社社内研修会 (2024.10.31 千葉)
内藤亮. 3群 PH の疾患と薬物治療に関して.
 74. 第65回日本肺癌学会学術集会 (2024.10.31-11.2 横浜+ Web)
芦沼宏典, 高木賢人, 齋藤合, 次富亮輔, 立原素子, 宿谷威仁, 行徳宏, 坂田晋也, 毛利篤人, 三輪秀樹, 田村洋輔, 時任高章, 突田容子, 小暮啓人, 益田武, 田中洋史, 久保創介, 鈴木拓児. ワークショップ12: 進行再発胸腺癌患者に対するレンバチニブの一次治療での有効性および安全性の検討.

75. 第 65 回日本肺癌学会学術集会 (2024.10.31-11.2 横浜 + Web)
小山建一, 高木賢人, 齋藤合, 久保創介, 佐々木高明, 大場智広, 豆鞆伸昭, 玉岡明洋, 長島広相, 田宮基裕, 金村宙昌, 戸塚猛大, 古田恵, 河内勇人, 二宮崇, 長井良昭, 荻野広和, 伊藤健太郎, 石原昌志, 鈴木拓児. ワークショップ 12: 実臨床での既治療進行再発胸腺癌患者に対するレンバチニブの有効性および安全性の検討: 高齢者における解析.
76. 大鵬薬品工業株式会社社内研修会 (2024.11.1 千葉)
齋藤幹人. 肺がん治療の概略と、MET 陽性肺がんの一例 - 肺がん診療をやってよかったと思うとき -.
77. 呼吸器内科医師のための ROSE 診断トレーニング (2024.11.6 大阪 + Web)
田島寛之. 気管支鏡迅速細胞診における判読トレーニングプログラムの構築およびその効果検証
78. 東京大学大学院新領域創成科学研究科ゲノムスクール 2024 年度 (2024.11.7 八重洲)
鈴木敏夫. 肺幹細胞 - 再生技術を応用した難治性呼吸器疾患の前臨床試験プラットフォーム、そして創薬.
79. 奈良県呼吸器内科 Conference ~エビデンスでは語れない呼吸器疾患~ (2024.11.9 奈良)
鈴木拓児. 難治性呼吸器疾患のトランスレーショナル研究.
80. RS ウイルス感染症予防セミナー (2024.11.11 千葉)
伊狩潤. 喘息・COPD 患者の増悪に対するマネジメント.
81. PH ネットフォーラム (2024.11.12 Web)
重田文子. 間質性肺疾患に伴う肺高血圧症診療における治療最前線 - トレプロスト吸入液の有用性について -.
82. 山武郡市医師会学術講演会 (2024.11.15 東金 + Web)
川崎剛. 知っておきたい間質性肺炎診療 Update.
83. Lung Cancer Genomic Seminar in CHIBA (2024.11.19 Web)
齋藤合. 胸部悪性腫瘍におけるがん遺伝子パネル検査 (CGP) - データと実診療における経験から考える運用法 -.
84. 第 16 回沖縄 Airway Forum (2024.11.20 那覇)
鈴木拓児. 難治性呼吸器疾患のトランスレーショナル研究.
85. Lung Cancer Webinar (2024.11.21 Web)
齋藤幹人. ALK 陽性肺がんの治療 - ブリグチニブを有効活用できた自験例を添えて -.
86. 第 185 回内科懇話会 (2024.11.25 千葉 + Web)
伊狩潤. COMORE-By2032 COPD 死亡率減少に向けた多面的アプローチ.
87. 千葉間質性肺炎在宅 Network Meeting (2024.11.28 千葉)
川崎剛. 間質性肺炎診療における病診連携 ~ 現状と改善策の検討 ~.
88. MSD 株式会社主催講演会 (2024.11.30 新宿)
杉浦寿彦. CTEPH に関する最近の話題について.
89. ILD Short Web Seminar in Narashino (2024.12.9 習志野 + Web)
川崎剛. 間質性肺疾患診療のコツ.
90. Lung Cancer Total Care Web seminar (2024.12.9 千葉 + Web)
齋藤合. HER2 変異を検出する為に / 検出したら.
91. サルグマリオンオンライン講演会 (2024.12.10 Web)
鈴木拓児. 自己免疫性肺胞蛋白症の病態と治療.
92. 第 14 回 PCR by Web (2024.12.11 Web)
齋藤合. LCNEC の基本と考え方.
93. AstraZeneca Immuno-Oncology Web Symposium (2024.12.18 Web)
齋藤合. 切除不能Ⅲ期 NSCLC におけるエビデンスに基づいた治療の実践.
94. ちば胸部腫瘍カンファレンス 2024 (2024.12.20 Web)
齋藤合. 2025 年の EGFR 遺伝子変異陽性進行 / 再発例の初回治療を考える.
95. KRK Asthma conference 2024 in winter (2024.12.21 仙台)
鈴木拓児. 喘息治療の新潮流.

【学会発表数】

国内学会 25 学会 92 回 (うち大学院生 25 回)
国際学会 9 学会 22 回 (うち大学院生 9 回)

【外部資金獲得状況】

1. 厚生労働省科学研究費「難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究」分担者: 巽浩一郎 2023-2025
2. 厚生労働省科学研究費「難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究」分担者: 鈴木拓児 2023-2025
3. 厚生労働省科学研究費「難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究」分担者: 田邊信宏 2023-2025
4. 厚生労働省科学研究費「難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究」分担者: 坂尾誠一郎 2023-2025
6. 厚生労働省科学研究費「難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究」分担者: 杉浦寿彦 2023-2025
7. 厚生労働省科学研究費「びまん性肺疾患に関する調査研究」分担者: 鈴木拓児 2023-2025
8. 厚生労働省科学研究費「呼吸器系先天異常疾患の医

- 療水準向上の移行期医療に関する研究」分担者：杉浦寿彦 2023-2025
9. 日本医療研究開発機構研究費「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 千葉シナジーキャンパス（千葉大学 未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点）」分担者：鈴木拓児 2022-2027
 10. 日本医療研究開発機構研究費「外部環境刺激による組織炎症記憶形成機構の解明と難治性アレルギー性疾患の病態制御治療戦略の基盤構築」分担者：鈴木拓児 2023-2027
 11. 日本医療研究開発機構研究費「ストレス AT2 細胞と免疫細胞の相互作用解析（分担研究開発課題名）肺胞幹細胞ストレスに起因する特発性肺線維症の早期分子経路の解明と治療薬の創製」分担者：鈴木拓児 2024-2029
 12. 日本医療研究開発機構研究費「薬剤性間質性肺炎および重症薬疹の新規診断バイオマーカーの適格性確認に関する研究」分担者：巽浩一郎 2023-2025
 13. 日本医療研究開発機構研究費「薬剤性間質性肺炎および重症薬疹の新規診断バイオマーカーの適格性確認に関する研究」分担者：佐藤峻 2023-2025
 14. 日本医療研究開発機構研究費「患者レジストリ Japan PH Registry を利活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗 IL-6 受容体抗体適応拡大のための医師主導治験」分担者：巽浩一郎 2021-2025
 15. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「肺の恒常性維持・生体防御・組織修復を標的とした難治性呼吸器疾患治療法の開発と応用」代表者：鈴木拓児 2022-2025
 16. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「GM-CSF 吸入療法の新たな効能：肺胞 / 間質性マクロファージのバランスへの介入」分担者：鈴木拓児 2021-2024
 17. 日本学術振興会科学研究費 基盤(C)「1 細胞空間遺伝子発現による難治性呼吸器疾患に対する肺マクロファージ移植機構の解明」代表者：伊狩潤 2023-2025
 18. 日本学術振興会科学研究費 基盤(C)「Deep phenotyping 統合解析を用いた肺動脈性肺高血圧症の新規治療開発」代表者：重田文子 2023-2027
 19. 日本学術振興会科学研究費 基盤(C)「Deep phenotyping 統合解析を用いた肺動脈性肺高血圧症の新規治療開発」分担者：鈴木拓児 2023-2027
 20. 日本学術振興会科学研究費 基盤(C)「呼吸器疾患予後予測システムの開発 新型コロナウイルス感染症から慢性進行性疾患まで」代表者：川田奈緒子 2022-2024
 21. 日本学術振興会科学研究費 基盤(C)「内皮血球転換を応用した難治性呼吸器疾患における革新的ワクチン療法の開発」代表者：関根亜由美 2023-2025
 22. 日本学術振興会科学研究費 基盤(C)「肺癌微小環境再現性オルガノイド樹立による病態メカニズム解明」代表者：鈴木敏夫 2023-2025
 23. 日本学術振興会科学研究費 基盤(C)「低酸素下での呼吸調節に関わる睡眠関連物質の役割」代表者：堀内大 2024-2026
 24. 日本学術振興会科学研究費 基盤(C)「診療参加型臨床実習を推進する新たな指導法の開発：汎用化に向けた多施設共同研究」分担者：笠井大 2023-2026
 25. 日本学術振興会科学研究費 若手「実践的 EBM 能力を有する医療者養成のための教育プログラム開発とその効果検証」代表者：笠井大 2021-2025
 26. 日本学術振興会科学研究費 若手「CD26/DPP-4 を標的とした肺線維症の新規治療戦略確立に向けた分子基盤の解明」代表者：川崎剛 2022-2025
 27. 日本学術振興会科学研究費 若手「急性肺障害における骨髄由来間葉系幹細胞エクソソームの治療応用可能性の検討」代表者：内藤亮 2022-2025
 28. 日本学術振興会科学研究費 若手「肺高血圧症・肺線維症病態進展におけるマクロファージプログラミング」代表者：須田理香 2023-2025
 29. 日本学術振興会科学研究費 若手「化学放射線療法を受ける非小細胞肺癌患者における ILA が及ぼす影響の検討」代表者：齋藤合 2023-2025
 30. 日本学術振興会科学研究費 若手「EGFR-TKI 後の治療残存腫瘍における免疫微小環境の理解と抗腫瘍免疫記憶誘導への挑戦」代表者：下村巖 2023-2025
 31. 日本学術振興会科学研究費 若手「肺線維症合併肺高血圧症における CD26/DPP4 の役割」代表者：岡谷匡 2024-2026
 32. 文部科学省科学研究費特別研究員奨励費「異常ミトコンドリアが紡ぐ抗腫瘍免疫応答の本態解明」代表者：池田英樹 2022-2024
 33. ちば県民保健予防基金事業助成金 「慢性閉塞性肺疾患に伴う悪液質に対するアナモレリンの有効性と機序の探索」代表者：平間隆太郎 2024
 34. cSIMVa ワクチンチャレンジ「コロナウイルス感染症に対する CD26 抗体治療を見据えた、呼吸器領域における CD26/DPP4 の機能の解明」代表者：佐藤峻 2024
 35. cSIMVa ワクチンチャレンジ 「がん患者における免疫応答の最適化と革新的ワクチン開発」代表者：佐々木篤志 2024
 36. 日本呼吸器学会 ベーリンガーインゲルハイム 研究助成プログラム「1 細胞空間遺伝子発現による肺線維症に対する肺マクロファージ移植機構の解明」代表者：伊狩潤 2023-2024
 37. 共同研究：株式会社 UBE「新規細胞培養とその応用に関する研究」代表者：川崎剛 2019-2025

38. 共同研究：株式会社 UBE「新規細胞培養とその応用に関する研究」代表者：粕谷善俊 2019-2025
 39. 受託研究：NPO 法人 Japan PH Registry「肺高血圧症患者レジストリ Japan Pulmonary Hypertension Registry:JAPHR」代表者：重田文子 2020-2025
- 【受賞歴】
1. 佐藤広崇. European Congress of Radiology Annual Congress 2024 Radiographer EPOS (Poster) Awards : Cum Laude
 2. 川田奈緒子. 第 9 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会関東支部学術集会 優秀演題賞
 3. 笠井大. 千葉大学医学部スカラシップ指導者賞
 4. 笠井大. 第 121 回日本内科学会講演会 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ 2024 東京 優秀指導者賞
 5. 笠井大. 第 259 回日本呼吸器学会関東地方会 医学生・初期研修医セッション 優秀指導者賞
 6. 竹田健一郎. 第 121 回日本内科学会講演会 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ 2024 東京 優秀指導者賞
 7. 塩谷優. 第 185 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会関東支部学会 / 第 258 回日本呼吸器学会関東地方会合同学会 医学生・初期研修医セッション 優秀指導医賞
 8. 磯松慧. 第 121 回日本内科学会講演会 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ 2024 東京 優秀演題賞 (竹田健一郎指導)
 9. 進藤陽介. 第 262 回日本呼吸器学会関東地方会 医学生・初期研修医セッション 優秀賞 (笠井大指導)
 10. 医学部 6 年 車地亮磨. 第 121 回日本内科学会講演会 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ 2024 東京 優秀演題賞 (笠井大指導)
 11. 医学部 6 年 大辻琉加. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 ことはじめ甲子園 優秀賞 (笠井大指導)
 12. 医学部 6 年 米岡遼太郎. 千葉大学医学部スカラシップ奨励賞 (笠井大指導)
 13. 医学部 6 年 米岡遼太郎. 千葉大学医学部令和 5 年度 学術研究活動費
 14. 医学部 6 年 志鷹彩純. 第 259 回日本呼吸器学会関東地方会 医学生・初期研修医セッション 最優秀賞 (笠井大指導)
 15. 医学部 5 年 加瀬舞香. 第 260 回日本呼吸器学会関東地方会 医学生・初期研修医セッション 優秀賞 (笠井大、葉山奈美指導)

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

2024 年度外来診療状況は、外来患者数 1516 名 / 月、診療報酬外来稼働額 68,939 千円 / 月、外来新患率 6.9%、紹介割合 94.9%、逆紹介率 76.8% であった。

難治性気管支喘息、COPD、間質性肺炎、肺がんを中心とした胸部悪性腫瘍、肺循環障害、肺移植、専門外来を設けて診療にあたっている。千葉県内から紹介いただいた難治性疾患、希少疾患、高度先進医療を要する患者さんが受診し、精度の高い診断、迅速で的確な加療を努力、継続している。

【専門外来：気管支喘息・COPD・LAM】

- ・採血、PFT、FeNO、CT、ECG、心エコー等による診断、投薬、抗体製剤の適応検討
- ・併存症（COPD、GERD、好酸球性副鼻腔炎、心疾患、睡眠時無呼吸症候群等、ABPA、肥満など）の精査加療
- ・投薬安定後は近医へ処方依頼し、半年ごとに検査継続を施行
- ・在宅 NHF、HOT、NIPPV 導入、肺移植適応検討、周術期管理実施
- ・喘息診療では重症例では積極的にバイオ製剤等の新規治療を導入、30 例の治療実績
- ・好酸球性副鼻腔炎や逆流性食道炎などの存疾患では耳鼻科、消化器内科等と連携した管理を積極的に行い、共同研究を実施し治療法の探索に努力している。
- ・TSC-LAM 含め指定難病 LAM については、脳神経内科、泌尿器科、皮膚科等と連携を取り診療にあたっている。BHD が疑われる症例では遺伝子検査を実施している。

【専門外来：びまん性肺疾患】

新規外来患者は特発性間質性肺炎 162 名、サルコイドーシス 疑い 72 名、膠原病肺 37 名、肺胞蛋白症 5 名、そのほか薬剤性肺障害など 97 名、計 373 名、2023 年度の集計 262 名を更新し、142% 増過去最高数となった。臨床症例集積に努め、病因解明、診断法・治療法の確立のための基礎・臨床研究、レジストリ研究実施に取り組んでいる。

本年より、MDD (multidisciplinary discussion) カンファレンスを開始、当科びまん性肺疾患グループとアレルギー膠原病内科、病理診断科と合同で、クライオバイオプシーを施行した症例を中心に診断および治療方針に関し活発な議論を行っている。

2024 年 3 月、自己免疫性肺胞蛋白症に対するサルモグラスチム吸入療法が薬事承認され、7 月にサルゲマリリン[®]

が発売された（当科も臨床試験に参加）。外来看護師さんの協力を得ながら吸入器具の給付申請や吸入指導などを行い、治療が必要な患者さんへの導入を積極的に進めている。

【専門外来：悪性腫瘍】

新規診断例：すべての初回化学療法導入例 112 例

NSCLC、SCLC、カルチノイド、悪性胸膜中皮腫、胸腺腫瘍に対する包括的がんゲノムプロファイリング検査実績 全体 66 例、組織 45 例

がん領域では遺伝子パネル検査が保険収載され、患者検体のゲノム情報を基に治療法を選択するゲノム医療が実地診療に導入されている。千葉大学病院は「地域がん診療連携拠点病院」としてゲノム医療 遺伝子パネル検査を用いたがん診療に取り組んでおり、呼吸器内科でもエキスパートパネルの一員として臨床経験を積んでいる。近隣の関連施設との定期的な web カンファレンス、院内では毎週木曜、呼吸器外科・腫瘍内科・放射線科・病理診断科の医師、薬剤師とともに「胸部腫瘍カンファレンス」を実施、急速に進歩している抗がん剤薬治療についての議論を重ねている。

【専門外来：肺循環障害】

・肺高血圧症

肺高血圧症センターを拠点とした包括的肺高血圧症医療チームの構成員として肺移植適応となるような重症患者の受け入れをし、指定難病・希少疾患である肺高血圧症の診断と治療に努力している。

320 列 CT を用いた画像診断、換気血流シンチグラフィ、心臓超音波検査、右心カテーテル検査による診断。日本インターベンショナルラジオロジー学会（日本 IVR 学会）IVR 専門医・指導医、日本循環器学会 BPA（バルーン肺動脈形成術）実施医を有し、慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する経皮的肺動脈形成術（BPA）が可能となっている。また、肺血管拡張薬による治療については、企業治験、多施設共同医師主導治験等に参加、新薬導入に積極的である。

2024 年度の外来受診の新患者は 268 名。内訳は、静脈血栓塞栓症 140 名、肺血管奇形 / オスラー病 22 名、喀血 20 名。肺高血圧のみでは特発性 / 遺伝性肺動脈性肺高血圧症 15 名、膠慢性慢性血栓塞栓性肺高血圧症 14 名、肺疾患 / 低酸素血症を伴う肺高血圧症 10 名、原病性膠原病性肺動脈性高血圧症 7 名、門亢症門脈肺高血圧症 6 名、先天性に伴う肺高血圧症 4 名、左心系疾患に伴う肺高血圧症 3 名。紹介元別に見ると、院内紹介総計 162 名（うち静脈血栓塞栓症が 131 名）、県外 12 名、県内医療機関 94 名。

・喀血

喀血に対する経カテーテル的気管支動脈塞栓術の適応を検討し、介入が望ましい症例には積極的に治療を行っている。また喀血の原因となる気管支動脈蔓状血管腫やそれ以外の肺血管奇形（肺動静脈瘻（奇形）・部分肺静脈還流異常・肺底動脈肺動脈起始症など）に対する診療も行なっている。

・肺動静脈瘻・オスラー病

肺動静脈瘻（奇形）に対する画像診断と経カテーテル的コイル塞栓治療を行なっている。この疾患の 3 割に合併するオスラー病（遺伝性出血性毛細（末梢）血管拡張症・HHT）には他科と協力しながら治療にあたっている。2024 年度オスラー FPF300（サリドマイド）の反復性鼻出血を有するオスラー病を対象としたプラセボ対照二重盲検比較試験及びオープン試験（第 III 相）に参加、6 症例を登録した。

【専門外来：肺移植診療】

多職種合同での肺移植アセスメントミーティングを開催し、脳死肺移植・生体肺移植医療の提供に尽力している。専門外来において、肺移植連絡窓口を担当し、肺移植適応評価の実施、臓器移植ネットワークへの待機登録、移植後の全身管理については呼吸器外科と連携して行なっている。他施設にて肺移植された患者の全身管理も移植施設と連携して担当している。

= 肺移植診療実績 =

2024 年新規肺移植

脳死移植 1 例（特発性間質性肺炎 40 代女性）

肺移植外来（内科）新患受診者数 13 名

肺移植適応評価入院数 12 名（前年 4 名）

脳死肺移植新規待機登録 千葉大学 8 名（前年 2 名）

移植待機患者総数 千葉大学 18 名（前年 13 名） / 他施設 1 名

2014-2024 年実施総数

千葉大学 19 例（脳死 16 例、生体間 3 例 生存 16/19 名

他施設 移植前後当科診療 7 例 生存 6/7 名

【専門外来：禁煙外来】

保険診療の条件を満たす、「手術を控えている」「持病があり主治医に禁煙を勧められている」など禁煙を決意した患者について、禁煙支援（12週間で5回の外来受診、禁煙支援薬の処方などで）を行っている。

検査実績

【気管支鏡検査】

呼吸器疾患の診断のために実施している気管支鏡検査では新たな手技、開発により進化したデバイスを積極的に導入（クライオバイオプシー等）し、より精度の高い、安全な検査の努力をしている。気管支鏡検査に関する多様な臨床応用研究にも取り組んでいる。

気管支鏡検査実績

全件 314 件：

中枢・末梢病変 74 件 EBUS-TBNA 90 件（うち EBUS-IFB 使用例 12 件）

気管支肺胞洗浄 123 件 局所麻酔下胸腔鏡 1 件 クライオバイオプシー 65 件

気管支鏡検体での肺癌遺伝子検査

◎オンコマイン Dx Target Test マルチ CDx システム

◎ AmoyDx 肺癌® マルチ遺伝子 PCR パネル

◎肺がん® コンパクトパネル Dx マルチコンパニオン診断システム

気管支鏡ハンズオンセミナー実施

1. クライオ生検ウェットラボ（2024.6）

2. 院内臨床研修医対象（2024.12）

急変シミュレーション実施

内視鏡センター看護師・ME と合同（年 4 回）

【肺循環障害の診断・治療 検査】

右心カテーテル施行：106 件

実施総数：2347 件（1983 年から）

当院医師協力のもとでの済生会習志野病院右心カテーテル施行：78 件

JRS/JCS/CVID/JATS 認定 BPA 指導施設（2019～）・IVR 認定医 / 指導医 在籍

IVR（血管内画像下治療）：78 件

内訳＊肺動脈バルーン拡張術（BPA）施行件数：24 件 実施総数：195 件

当院医師協力下での済生会習志野病院肺動脈バルーン拡張術（BPA）施行件数：25 件

肺動静脈瘻コイル塞栓術：21 件 24 病変

BAI/BAE：23 件

下大静脈フィルター：2 件

ヒックマンカテーテル留置：4 件

SVC スtent：2 件 その他：4 件

【呼吸器内科心エコー】

主に肺高血圧症専門外来・間質性肺炎専門外来の依頼に応じて実施

施行：250 件

内訳＊入院 72 件 外来 178 件

入院診療

【2024 年の入院患者の傾向と総括】

総入院 824 件、全体の 37% となる緊急入院が 309 件であった。疾患別にみると腫瘍性肺疾患 189 名 23.0%、肺循環障害 203 名 24.7%、びまん性肺疾患 98 名 12.1%、気管支鏡検査 224 名 27%、閉塞性障害 25 名 3.0%、感染症（非 Covid-19）33 名 4.0%、Covid-19 9 名 1.2%、4 名 0.5%であった。

気管支鏡検査数、右心カテーテル検査数の回復、肺移植適応評価入院の増加がみられた。

9 月 25 日、Covid-19 感染流行の影響で再編が繰り返されていたが、呼吸器内科の主病棟が陰圧室完備されたひがし棟 3 階に移転した。

●地域貢献

地域貢献・社会貢献

地域貢献、社会貢献としては、千葉県の医療の向上を図るため基幹病院、地域プライマリーの医療者と積極的に情報交換を行っている。診断法・治療法がめざましく進歩する肺がん、治療実績では当科が国内有数となる特発性肺線維症をはじめとする間質性肺炎、重症喘息・高齢者喘息・長引く咳のマネージメント、難治希少疾患である肺高血圧症について多くの講演を行った。

患者会との連携を重視している。本年も日本肺胞蛋白症患者会第16回勉強会（2024.12.7 東京）に参加、患者会代表の「GM-CSF 製剤吸入療法の経験談、未来に向けてのお願い」を拝聴、2025.3.26に薬事承認された自己免疫性肺胞蛋白症に対する GM-CSF 吸入療法薬の導入について意見を伺う機会を得た。GM-CSF 吸入療法薬（世界初の承認となった吸入製剤サルグマリン）の開発には、長く取り組んできた当科鈴木拓児教授の研究成果、当院で実施した臨床試験が大きく寄与している。

千葉大学医学部附属病院において第10回 HTT オスラー研究会を開催（会長 杉浦寿彦診療准教授 2024.6.22 千葉）、同時開催したオスラー病患者・家族交流会に参加し、情報交換を行なった。耳鼻科、脳外科、皮膚科、消化器科、それぞれの領域から参加した医師が集まり、多診療科に受診が必要なオスラー病患者の相談にのる会は患者支援のために大変有意義であると自負している。また、厚労科研難治性疾患研究班研究者として小児・成人移行医療の最良のあり方を国（厚生労働省）に提言できる立場で「CCHS ファミリー会 [先天性中枢性低換気症候群]・代表人工呼吸器で生きる CCHS の子ども達の未来を創る会」に参加している。

●その他

国際交流

鈴木拓児教授が12年在籍した Cincinnati Children's Hospital Medical Center, Division of Pulmonary, Biology, University of Cincinnati (USA) との共同研究、川崎診療講師が中心となって進める University of Illinois at Chicago (USA)、University of Florida (USA) との共同研究は現在当科の研究の主軸になっている。

Research Fellow として当教室員が留学した研究機関 Toronto General Hospital (Canada)、Research center of Québec Heart and Lung Institute, Université Laval (Canada) との交流を継続している。

研究領域等名：	循環器内科学／不整脈先端治療学寄附講座
診療科等名：	循環器内科／冠動脈疾患治療部

●はじめに

循環器内科および冠動脈疾患治療部では、40名以上の医局員が臨床・研究・教育について精力的に活動している。特に虚血性心疾患のカテーテル治療、不整脈や重症心不全の病態解明と治療、デバイスを用いた致死性不整脈・脳卒中予防や重症心不全に対する治療、エコーやCT・MRI・PET・RIなどの循環器画像診断、弁膜症に対するカテーテル治療に力を入れている。

虚血性心疾患のカテーテル件数のみならず、大動脈弁狭窄症や僧帽弁逆流症に対するカテーテル治療の件数も増加している。不整脈診療では、左心耳閉鎖術、アブレーションの件数が増加し、全国に指導に招聘されるなど指導的立場となっている。デバイス感染症などに対するリード除去術も飛躍的に件数が増えている。さらには重症心不全症例の積極的な受け入れを行い、心臓血管外科との合同チームによって心臓移植症例や、植込型補助人工心臓の治療などの件数も順調に伸ばしている。これらの活動を地域医療に還元するのみならず、医療技術の向上・普及に貢献し、各分野の将来をリードする人材を育成することにもつながると考えている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

4年生にはテュートリアル（1クール）、心音及び心電図の臨床入門講義を行った。

また、今年度は3年生に向けて循環器ユニット講義を行った。

また、客観的臨床能力試験（OSCE）試験官を担当した。

心電図・心エコーにおけるディスカッション授業（アクティブラーニング）をリモートで行った。

5年生にはコア・クリニカルクラークシップ（臨床実習Ⅰ）として循環器内科臨床実習（通年）を行った。

6年生の志望者にアドバンストCC（臨床実習Ⅱ）としての臨床実習を行った。

学生実習においてはシミュレーターを活用し、知識の習得だけでなく手技を体験することも重視した。

また臨床教育のみならず、学生による学会発表を指導し、日本循環器学会の地方会や日本内科学会地方会において積極的に学会発表を経験させた。

・卒後教育／生涯教育

毎週2回のカンファレンスや、症例検討会を通じて、初期／後期研修医に対して専門的な指導を行っている。また学内カンファレンスのみならず、日本内科学会などで学外での学会発表の経験を積めるようよう努めている。院内では心不全・心電図に関して看護師に対する教育講義を行った。

・大学院教育

大学院修士課程講義（先端治療学特論3回）を行った。再生・移植医学特論講義1回を行った。

薬物療法情報学特論（薬学部修士課程）講義1回も行った。博士課程大学院生に対しては講義に加えて臨床データ解析、基礎実験指導を精力的に行い、定期的に教授や指導教官とともに研究検討会を行っている。

また、国内外の主要学会で、臨床研究を中心とした研究発表を指導しており、そうした研究内容から卒業論文作成の指導も行っている。大学院生は積極的な研究の推進を行い、3年で卒業した学生も存在した。また、指導により、日本循環器学会などの日本を代表する学会でシンポジウムの演者として大学院生として発表することができた。

さらに財団の助成金を獲得できたものも複数名いた。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

大学病院看護部セミナーとして、心電図講義（1回）を行った。

看護学部講義として病態生理学Ⅱを2回行った。

千葉大学薬学部薬学科：6年制コースにおいて、薬学部講義を2種類担当した。

普遍教育の現代医学について講義を施行した。

●研究

・研究内容

- ①電気生理学的検査や治療デバイスを用いた不整脈診断治療の研究、各種画像診断や虚血性心疾患・動脈硬化・心不全・高血圧関連の臨床研究を行い、多くの研究・症例を英文誌に報告している。また工学部との協同でAIによる画像解析を行い、シンポジウムなどでの発表も行っている。DPCなどビックデータベースを使用した医療政策研究での学会・論文発表も行っている。また健診施設と共同で心電図や他の患者データのAI解析による循環器予防医学研究も進めている。
- ②Co-workerの研究・発表にも力をいれており、看護師やCE（臨床工学技士）がアメリカ心臓病学会（AHA）、日本循環器学会学術集会、不整脈心電学会学術総会などにおいて、演題発表、シンポジウムでの発表をおこなっている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Abe K, Kitahara H, Suzuki S, Hiraga T, Yamazaki T, Ohno Y, Harada J, Fukushima K, Asano T, Ishio N, Uchiyama R, Miyahara H, Okino S, Sano M, Kuriyama N, Yamamoto M, Sakamoto N, Kanda J, Kobayashi Y. Prognosis of anemic patients with atrial fibrillation undergoing percutaneous coronary intervention. *Int J Cardiol*. 2024 Jun 15;405:131989. doi: 10.1016/j.ijcard.2024.131989. Epub 2024 Mar 21.
2. Aoki K, Kajiyama T, Matsumiya G, Kobayashi Y. Bacterial Pericarditis With Underlying Severe Aortic Stenosis and Myelodysplastic Syndrome. *Cureus*. 2024 Apr 15;16(4):e58290. doi: 10.7759/cureus.58290. eCollection 2024 Apr.
3. Aoki S, Ono R, Takaoka H, Suzuki-Eguchi N, Iwahana T, Kobayashi Y. Mass-like lesion in the ascending aorta by side lobe and beam width artifacts. *J Echocardiogr*. 2024 Sep;22(3):183-184. doi: 10.1007/s12574-023-00632-w. Epub 2023 Dec 21.
4. Aoki S, Takaoka H, Ota J, Kanaeda T, Sakai T, Matsumoto K, Noguchi Y, Nishikawa Y, Yashima S, Suzuki K, Yoshida K, Kinoshita M, Suzuki-Eguchi N, Sasaki H, Kobayashi Y. Strong Diagnostic Performance of Single Energy 256-row Multidetector Computed Tomography with Deep Learning Image Reconstruction in the Assessment of Myocardial Fibrosis. *Intern Med*. 2024 Sep 15;63(18):2499-2507. doi: 10.2169/internalmedicine. 2615-23. Epub 2024 Feb 12.
5. Asada K, Saito Y, Goto H, Yaginuma H, Sato T, Hashimoto O, Kitahara H, Kobayashi Y. Differential Prognostic Impact of Risk-Prediction Models for Heart Failure in Acute Myocardial Infarction: The Original and Revised Heart Failure Time-Points. *J Clin Med*. 2024 Apr 24;13(9):2501. doi: 10.3390/jcm13092501.
6. Asada K, Saito Y, Kobayashi Y. Thrombolytic therapy after cardiac arrest in patients with mechanical aortic valve thrombosis. *J Cardiol Cases*. 2023 Dec 7;29(3):112-115. doi: 10.1016/j.jccase.2023.11.007. eCollection 2024 Mar.
7. Asano T, Tanigaki T, Ikeda K, Ono M, Yokoi H, Kobayashi Y, Kozuma K, Tanaka N, Kawase Y, Matsuo H. Consensus document on the clinical application of invasive functional coronary angiography from the Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics. *Cardiovasc Interv Ther*. 2024 Apr;39(2):109-125. doi: 10.1007/s12928-024-00988-5. Epub 2024 Feb 17.
8. Chiba T, Kajiyama T, Kondo Y, Suzuki N, Nakano M, Nakano M, Ito R, Kitagawa M, Sugawara M, Yoshino Y, Ryuzaki S, Takanashi Y, Komai Y, Kobayashi Y. Right ventricular systolic function as a predictor of appropriate ICD therapy. *Clin Res Cardiol*. 2024 Oct;113(10):1469-1477. doi: 10.1007/s00392-023-02343-9. Epub 2023 Dec 13.
9. Chiba T, Kondo Y, Shiko Y, Nakano M, Takatsugu K, Nakano M, Ito R, Sugawara M, Yoshino Y, Ryuzaki S, Takanashi Y, Komai Y, Kobayashi Y. Benefit of implantable cardioverter defibrillator use in Japanese patients based on modified MADIT-ICD benefit score. *ESC Heart Fail*. 2025 Feb;12(1):369-378. doi: 10.1002/ehf2.15081. Epub 2024 Sep 20.
10. Fujiki S, Iijima K, Nakagawa Y, Takahashi K, Okabe M, Kusano K, Owada S, Kondo Y, Tsujita K, Shimizu W, Tomita H, Watanabe M, Shoda M, Watanabe M, Tokano T, Murohara T, Kaneshiro T, Kato T, Hayashi H, Maemura K, Niwano S, Umemoto T, Yoshida H, Ota K, Tanaka T, Kitamura N, Node K, Minamino T; EMPA ICD investigators. Effect of empagliflozin on ventricular arrhythmias in patients with type 2 diabetes treated with an implantable cardioverter-defibrillator: the EMPA-ICD trial. *Cardiovasc Diabetol*. 2024 Jun 28;23(1):224. doi: 10.1186/s12933-024-02309-9.
11. Goto H, Kato K, Imori Y, Wakita M, Eguchi N, Takaoka H, Murakami T, Nagatomo Y,

- Isogai T, Mitsuhashi Y, Saji M, Yamashita S, Maekawa Y, Mochizuki H, Takaoka Y, Ono M, Yamaguchi T, Kobayashi Y, Asai K, Shimizu W, Yoshikawa T. Time Course of Left Ventricular Strain Assessment via Cardiovascular Magnetic Resonance Myocardial Feature Tracking in Takotsubo Syndrome. *J Clin Med*. 2024 May 30;13(11):3238. doi: 10.3390/jcm13113238.
12. Goto H, Saito Y, Yaginuma H, Asada K, Sato T, Hashimoto O, Kitahara H, Kobayashi Y. Diagnostic Ability of Risk Models in the Field of Ischemic Stroke for Predicting Atherosclerotic Outcomes in Patients with Acute Myocardial Infarction. *J Atheroscler Thromb*. 2025 Jul 1;32(7):853-862. doi: 10.5551/jat.65162. Epub 2024 Dec 26.
13. Goto H, Takaoka H, Ota J, Noguchi Y, Nishikawa Y, Matsumoto M, Yoshida K, Suzuki K, Aoki S, Yashima S, Kinoshita M, Sasaki H, Suzuki-Eguchi N, Kobayashi Y. Computed Tomography Evaluation of Extracellular Volume for Predicting Prognosis in Patients with Severe Renal Dysfunction on Dialysis. *J Clin Med*. 2024 Dec 12;13(24):7561. doi: 10.3390/jcm13247561.
14. Hara H, Kubo S, Nakajima Y, Matsumoto T, Kondo Y, Sugane H, Okubo K, Nakagawa K, Nagatomo D, Hachinohe D, Kusa S, Goya M, Nanasato M, Arita T, Yamasaki H, Kuwabara K, Yoshiyama T, Tanaka N, Masuda M, Sakamoto T, Nakashima M, Ohno Y, Saito S, Fukunaga M. Initial results of transcatheter modification of left atrial appendage by obliteration with device in patients with nonvalvular atrial fibrillation: Real-world data from the TERMINATOR registry. *J Cardiol*. 2024 May; 83(5):298-305. doi: 10.1016/j.jjcc.2023.09.010. Epub 2023 Oct 5.
15. Hara K, Kanda M, Kobayashi Y, Miyamoto T, Inoue T. Factors affecting the length of hospital stay for total knee arthroplasty in Japan: a retrospective study using the diagnosis procedure combination database. *Eur J Med Res*. 2024 Feb 14; 29(1):122. doi: 10.1186/s40001-024-01714-w.
16. Hara K, Kanda M, Kuwabara H, Kobayashi Y, Inoue T. Association between the quantity of stroke care units and the complement of neurosurgical and neurology specialists in Japan: A retrospective study. *J Stroke Cerebrovasc Dis*. 2024 Aug;33(8):107734. doi: 10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2024.107734. Epub 2024 Apr 25.
17. Hara K, Kanda M, Kuwabara H, Kobayashi Y, Inoue T. Current status analysis of the prevalence and regional disparities of robot-assisted laparoscopic prostatectomy in Japan using diagnosis procedure combination data. *Sci Rep*. 2024 Oct 22;14(1):24823. doi: 10.1038/s41598-024-75837-9.
18. Hashimoto O, Saito Y, Sasaki H, Yumoto K, Oshima S, Tobaru T, Kanda J, Sakai Y, Yasuda S; Angina Pectoris-Myocardial Infarction Multicenter Investigators. Treatment strategies and in-hospital mortality in patients with type A acute aortic dissection and coronary artery involvement. *J Thorac Cardiovasc Surg*. 2024 Feb;167(2):596-601. e3. doi: 10.1016/j.jtcvs.2022.03.016. Epub 2022 Mar 29.
19. Higuchi A, Kubota Y, Yokota H, Miyazaki H, Ota J, Okafuji Y, Takaoka H, Uno T. Computed tomography angiography assessment of Adamkiewicz artery with sublingual nitroglycerin administration. *Neuroradiology*. 2024 Dec;66(12): 2215-2221. doi: 10.1007/s00234-024-03433-9. Epub 2024 Aug 5.
20. Hirano KI, Kodama K, Miyauchi H, Nagasawa Y, Nakano Y, Matsunaga M, Amano T, Nakajima K; Japan TGCV Study Group. Carnitine Administration and (123)I-BMIPP Washout Rate in Hemodialysis Patients with Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy. *Ann Nucl Cardiol*. 2024;10(1):38-42. doi: 10.17996/anc.23-00014. Epub 2024 Oct 31.
21. Ikeda Y, Shiba M, Yamamoto H, Itoh T, Okumura T, Nakano Y, Miyauchi H, Ide T, Yamada S, Hao H, Kato S, Hirano KI; Japan TGCV study group. Distinct myocardial triglyceride lipolysis pathways in primary and idiopathic triglyceride deposit cardiomyovasculopathy. *ESC Heart Fail*. 2024 Apr; 11(2):1275-1278. doi: 10.1002/ehf2.14722. Epub 2024 Feb 18.
22. Ikeya Y, Okumura Y, Kogawa R, Nagashima K, Nakai T, Yokoyama K, Iso K, Kato T, Tsuda T, Tachibana E, Hayashida S, Fukaya H, Ishizue N, Hayashi H, Kuroda S, Sonoda K, Nakahara S, Hori Y, Harada M, Murakami M, Iwasaki YK, Aizawa Y, Shimizu W, Fukamizu S, Takami M, Kusano K, Ishibashi K, Harada T, Nakajima I, Tabuchi H, Kunimoto M, Shoda M, Higuchi S, Morishima I, Kanzaki Y, Kato R, Ikeda Y, Makimoto H, Kabutoya T, Kario K, Arimoto T, Ninomiya Y, Yoshimoto I, Sasaki S, Kondo Y, Chiba T, Yamashita K, Mizuno Y, Inoue M, Ueyama T, Koyama J, Tsurugi T, Orita Y, Asano T, Shinke T, Tanno K,

- Murotani K; TRANSITION JAPAN - ICD/WCD study. Multicenter prospective observational study to clarify the current status and clinical outcome in Japanese patients who have an indication for implantable cardioverter defibrillator (ICD) or wearable cardioverter defibrillator (WCD) (TRANSITION JAPAN-ICD/WCD study): Rationale and design of a prospective, multicenter, observational, comparative study. *J Arrhythm.* 2024 Mar 27;40(3):423-433. doi: 10.1002/joa3.13028. eCollection 2024 Jun.
23. Inoue S, Ko T, Shindo A, Nomura S, Yamada T, Jimba T, Dai Z, Nakao H, Suzuki A, Kashimura T, Iwahana T, Goto K, Matsushima S, Ishida J, Amiya E, Zhang B, Kubota M, Sawami K, Heryed T, Yamada S, Katoh M, Katagiri M, Ito M, Nayakama Y, Fujiu K, Hatano M, Takeda N, Takimoto E, Akazawa H, Morita H, Yamaguchi J, Inomata T, Kobayashi Y, Minamino T, Tsutsui H, Kurokawa M, Aiba A, Aburatani H, Komuro I. Association Between Clonal Hematopoiesis and Left Ventricular Reverse Remodeling in Nonischemic Dilated Cardiomyopathy. *JACC Basic Transl Sci.* 2024 Jun 12;9(8):956-967. doi: 10.1016/j.jacbts.2024.04.010. eCollection 2024 Aug.
 24. Ishimura M, Yamamoto M, Himi T, Kobayashi Y. Comparison of the effect of ethanol infusion into the vein of Marshall between with and without collateral veins. *J Cardiovasc Electrophysiol.* 2024 Jan;35(1):25-34. doi: 10.1111/jce.16115. Epub 2023 Oct 27.
 25. Ishimura M, Yoshimori A, Yamamoto M, Himi T, Kobayashi Y. Left atrial dual-loop reentry with endocardial and epicardial conduction pathway. *HeartRhythm Case Rep.* 2024 Sep 13;10(12):936-940. doi: 10.1016/j.hrcr.2024.09.007. eCollection 2024 Dec.
 26. Ito R, Kondo Y, Nakano M, Kajiyama T, Nakano M, Kitagawa M, Sugawara M, Chiba T, Kobayashi Y. Interaction of left ventricular size with the outcome of cardiac resynchronization therapy in Japanese patients. *Clin Cardiol.* 2024 Apr;47(4):e24267. doi: 10.1002/clc.24267.
 27. Kajiyama T, Kondo Y, Kobayashi Y. Editorial to predictors of the need for atrioventricular nodal ablation following redo ablation for atrial fibrillation. *J Arrhythm.* 2024 Apr 17;40(3):508-509. doi: 10.1002/joa3.13041. eCollection 2024 Jun.
 28. Kato H, Iwahana T, Ono R, Okada S, Matsumiya G, Kobayashi Y. Hemodynamic parameters at rest predicting exercise capacity in patients supported with left ventricular assist device. *J Artif Organs.* 2024 Mar;27(1):7-14. doi: 10.1007/s10047-023-01388-x. Epub 2023 Mar 18.
 29. Kato K, Di Vece D, Kitagawa M, Yamamoto K, Aoki S, Goto H, Kitahara H, Kobayashi Y, Templin C. Cardiogenic shock in takotsubo syndrome: etiology and treatment. *Cardiovasc Interv Ther.* 2024 Oct;39(4):421-427. doi: 10.1007/s12928-024-01031-3. Epub 2024 Jul 22.
 30. Kinoshita M, Takaoka H, Ota J, Ikeda JI, Noguchi Y, Nishikawa Y, Aoki S, Yoshida K, Suzuki K, Yahima S, Sasaki H, Suzuki-Eguchi N, Kobayashi Y. Four-dimensional computed tomography is useful for detection of apical sparing of cardiac amyloidosis. *Int J Cardiovasc Imaging.* 2024 May 10. doi: 10.1007/s10554-024-03127-6. Online ahead of print.
 31. Kinoshita Y, Saito Y, Kikuta Y, Sato K, Taniguchi M, Goto K, Takebayashi H, Haruta S, Kobayashi Y. Safety and potential usefulness of sequential intracoronary acetylcholine and ergonovine administration for spasm provocation testing. *Ther Adv Cardiovasc Dis.* 2024 Jan-Dec;18:17539447241233168. doi: 10.1177/17539447241233168.
 32. Kitagawa I, Ishikawa N, Ono R. Infective endocarditis caused by *Lactococcus garvieae*: A case report and review of the literature. *IDCases.* 2024 Apr 15;36:e01941. doi: 10.1016/j.idcr.2024.e01941. eCollection 2024.
 33. Kitahara H, Kumamaru H, Kohsaka S, Yamashita D, Kanda T, Matsuura K, Shimamura K, Matsumiya G, Kobayashi Y. Clinical Outcomes of Urgent or Emergency Transcatheter Aortic Valve Implantation - Insights From the Nationwide Registry of Japan Transcatheter Valve Therapies. *Circ J.* 2024 Mar 25;88(4):439-447. doi: 10.1253/circj.CJ-22-0536. Epub 2023 Jan 6.
 34. Kitahara H, Yamazaki T, Hiraga T, Suzuki S, Ohno Y, Harada J, Fukushima K, Asano T, Ishio N, Uchiyama R, Miyahara H, Okino S, Sano M, Kuriyama N, Yamamoto M, Sakamoto N, Kanda J, Kobayashi Y. Impact of Underdosing of Direct Oral Anticoagulants on Clinical Outcomes in Patients With Atrial Fibrillation Undergoing Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J.* 2025 Jan 24;89(2):195-203. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0418. Epub 2024 Dec 20.
 35. Koizumi S, Keiichi I, Sakai T, Kubota Y, Yokota H, Takaoka H, Kohno H, Matsumiya G. Cardiac

- Magnetic Resonance Feature Tracking Analysis for Change in Right Ventricular Function After Cardioplegic Arrest. *Heart Lung Circ.* 2024 Oct;33(10):1457-1464. doi: 10.1016/j.hlc.2024.05.007. Epub 2024 Jul 4.
36. Kondo Y, Noda T, Takanashi Y, Sasaki S, Sato Y, Nitta T, Aizawa Y, Ohe T, Kurita T. Two-Year Outcomes of Primary Prophylactic Use of Defibrillators for Ischemic and Non-Ischemic Cardiomyopathy - Propensity Score-Matched Analysis From the Nippon Storm Study. *Circ J.* 2024 Jun 25;88(7):1107-1114. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0613. Epub 2023 Dec 7.
 37. Kondo Y, Ryuzaki S, Kobayashi Y. Editorial to "Safety and feasibility of atrial fibrillation ablation after left atrial appendage closure: A single-center experience of the left atrial appendage closure-first strategy". *J Arrhythm.* 2024 Jun 18;40(4):891-892. doi: 10.1002/joa3.13097. eCollection 2024 Aug.
 38. Kondo Y, Sakai K, Minakuchi H, Horimai T, Kuboki T; JSOI Clinical Guideline Working Group collaborators. Implant-supported fixed prostheses with cantilever: a systematic review and meta-analysis. *Int J Implant Dent.* 2024 Nov 21;10(1):57. doi: 10.1186/s40729-024-00573-8.
 39. Matsuura K, Kumamaru H, Kohsaka S, Kanda T, Kitahara H, Shimamura K, Kobayashi Y, Matsumiya G. Comparing moderate-severe and severe mitral regurgitation in transcatheter aortic valve replacement on 1-year survival: insights from a Japanese Nationwide Registry. *Heart Vessels.* 2025 Jun;40(6):523-530. doi: 10.1007/s00380-024-02491-6. Epub 2024 Dec 19.
 40. Minami Y, Ako J, Tsujita K, Yokoi H, Ikari Y, Morino Y, Kobayashi Y, Kozuma K. Drug intervention as an emerging concept for secondary prevention in patients with coronary disease. *Cardiovasc Interv Ther.* 2024 Jul;39(3):223-233. doi: 10.1007/s12928-024-00994-7. Epub 2024 Apr 8.
 41. Miura K, Takaoka H, Ota M, Irie R, Ota J, Noguchi Y, Nishikawa Y, Yoshida K, Suzuki K, Aoki S, Yashima S, Kinoshita M, Suzuki-Eguchi N, Sasaki H, Kobayashi Y. Utility of Computed Tomography for the Initial Detection and Follow-up of Silent Coincidence of IgG4-Related Pericarditis, Periaortitis, and Coronary Arteritis. *Circ Rep.* 2024 Jan 16;6(2):28-29. doi: 10.1253/circrep.CR-23-0086. eCollection 2024 Feb 9.
 42. Miyakoda K, Ono R, Kitagawa I. A Case of Pott's Disease Complicated by Tuberculous Meningitis and Psoas Abscess Diagnosed by Computed Tomography-Guided Percutaneous Drainage. *Cureus.* 2024 Nov 15;16(11):e73750. doi: 10.7759/cureus.73750. eCollection 2024 Nov.
 43. Morita J, Kasai Y, Kitai T, Fujita T, Kondo Y. Dual-chamber pacing with closed-loop stimulation in a sleep syncope case. *HeartRhythm Case Rep.* 2024 Jun 22;10(9):664-667. doi: 10.1016/j.hrcr.2024.06.015. eCollection 2024 Sep.
 44. Morita J, Kondo Y, Kasai Y, Kitai T. Retrieval of the Aveir™ leadless pacemaker with the double-snare technique. *Eur Heart J Case Rep.* 2024 May 30;8(6):ytæ267. doi: 10.1093/ehjcr/ytæ267. eCollection 2024 Jun.
 45. Nakajima K, Miyauchi H, Hirano KI, Fujimoto S, Kawahito M, Iimori T, Kudo T. Correction: Practice recommendation for measuring washout rates in (123)I-BMIPP fatty acid images. *Ann Nucl Med.* 2024 Jan;38(1):9. doi: 10.1007/s12149-023-01880-7.
 46. Nakajima K, Miyauchi H, Hirano KI, Fujimoto S, Kawahito M, Iimori T, Kudo T. Practice recommendation for measuring washout rates in (123)I-BMIPP fatty acid images. *Ann Nucl Med.* 2024 Jan;38(1):1-8. doi: 10.1007/s12149-023-01863-8. Epub 2023 Sep 11.
 47. Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Yamada M, Wakatsuki T, Nozaki Y, Kitahara H, Kato R, Kawai R, Kobayashi Y, Ishii M, Goto Y, Ono K, Kimura T. Aspirin-Free Strategy for Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Oral Anticoagulation: Prespecified Subgroup Analysis From the STOPDAPT-3 Trial. *J Am Heart Assoc.* 2024 Aug 6;13(15):e034201. doi: 10.1161/JAHA.123.034201. Epub 2024 Jul 26.
 48. Nishi T, Kume T, Saito Y, Kato K, Tateishi K, Yamada R, Kitahara H, Neishi Y, Kobayashi Y, Uemura S. Intraplaque haemorrhage, coronary spasm, and resuscitated cardiac arrest in patients with non-obstructive coronary artery disease. *Eur Heart J.* 2024 Sep 7;45(34):3181-3183. doi: 10.1093/eurheartj/ehæ460.
 49. Nishi T, Kume T, Saito Y, Kitahara H, Uemura S, Kobayashi Y. Intraplaque hematoma with focal intimal disruption in a right coronary artery lesion: differential diagnosis of intraplaque hemorrhage. *Coron Artery Dis.* 2024 Sep 1;35(6):534-535. doi: 10.1097/MCA.0000000000001367. Epub 2024 Jul 31.
 50. Nishi T, Kume T, Ueno M, Kobayashi Y, Uemura

- S. Resolution of spontaneous coronary artery dissection involving the left main coronary artery. *Cardiovasc Interv Ther.* 2024 Jul;39(3):316-317. doi: 10.1007/s12928-024-00996-5. Epub 2024 Mar 23.
51. Nishi T, Saito Y, Kobayashi Y. Letter by Nishi et al Regarding Article, "Invasive Endotyping in Patients With Angina and No Obstructive Coronary Artery Disease: A Randomized Controlled Trial". *Circulation.* 2024 Jul 2;150(1):e3-e4. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.124.068798. Epub 2024 Jul 1.
52. Nishikawa Y, Takaoka H, Kanda M, Yumita S, Ogasawara S, Daimon M, Noguchi Y, Aoki S, Suzuki K, Yoshida K, Yashima S, Kinoshita M, Sasaki H, Suzuki-Eguchi N, Kato N, Kobayashi Y. T1 Mapping Enabled Detection and Follow-up of Rare Immune Checkpoint Inhibitor Myocarditis. *Circ J.* 2024 Jan 25;88(2):259. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0823. Epub 2023 Dec 20.
53. Nishikawa Y, Takaoka H, Kato K, Ota J, Noguchi Y, Aoki S, Matsumoto M, Yashima S, Suzuki K, Yoshida K, Kinoshita M, Sasaki H, Suzuki-Eguchi N, Kobayashi Y. Extracellular Volume Analysis Using Computed Tomography Is Useful for Follow-up of Takotsubo Syndrome. *Circ J.* 2024 Jun 25;88(7):1198. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0139. Epub 2024 Apr 27.
54. Nishimura T, Toda K, Ako J, Hirayama A, Kinugawa K, Kobayashi Y, Ono M, Sato N, Shindo T, Shiose A, Takayama M, Yasukochi S, Sawa Y; J.-PVAD investigators. Prevalence of bleeding events in real-world Japanese registry for Percutaneous Ventricular Assist Device. *J Artif Organs.* 2024 Dec;27(4):375-384. doi: 10.1007/s10047-023-01429-5. Epub 2024 Feb 24.
55. Ogawa T, Sakakura K, Sumitsuji S, Hyodo M, Yamaguchi J, Hirase H, Yamashita T, Kadota K, Kobayashi Y, Kozuma K. Clinical expert consensus document on bailout algorithms for complications in percutaneous coronary intervention from the Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics. *Cardiovasc Interv Ther.* 2025 Jan;40(1):1-32. doi: 10.1007/s12928-024-01044-y. Epub 2024 Dec 3.
56. Ohnaga Y, Ono R, Aoki K, Kato H, Iwahana T, Takaoka H, Omoto A, Nakama K, Kishimoto T, Ikeda JI, Kobayashi Y. Shark Fin Sign in a Patient with Sepsis-induced Cardiomyopathy Associated with Retained Placenta: A Case Report and Review of the Literature. *Intern Med.* 2025 Apr 1;64(7):1047-1052. doi: 10.2169/internalmedicine.3501-24. Epub 2024 Sep 4.
57. Ohnaga Y, Takaoka H, Kato K, Daimon M, Ota J, Noguchi Y, Nishikawa Y, Matsumoto M, Yoshida K, Suzuki K, Aoki S, Yashima S, Kinoshita M, Suzuki-Eguchi N, Sasaki H, Kobayashi Y. IgG4-Related Coronary Arteritis With Acetylcholine-Induced Coronary Vasospasm. *Circ Rep.* 2024 Mar 19;6(4):149-150. doi: 10.1253/circrep.CR-24-0002. eCollection 2024 Apr 10.
58. Okita S, Saito Y, Yaginuma H, Asada K, Goto H, Hashimoto O, Sato T, Kitahara H, Kobayashi Y. Impact of the Stress Hyperglycemia Ratio on Heart Failure and Atherosclerotic Cardiovascular Events After Acute Myocardial Infarction. *Circ J.* 2025 Feb 25;89(3):340-346. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0612. Epub 2024 Oct 22.
59. Okita S, Saito Y, Yaginuma H, Asada K, Goto H, Hashimoto O, Sato T, Kitahara H, Kobayashi Y. Patterns and Prognostic Impact of Postdischarge Ischemic, Bleeding, and Heart Failure Events After Myocardial Infarction. *Am J Cardiol.* 2025 Mar 15;239:1-7. doi: 10.1016/j.amjcard.2024.12.004. Epub 2024 Dec 9.
60. Okuya Y, Saito Y, Kitahara H, Kobayashi Y. Relation of Vasoreactivity in the Left and Right Coronary Arteries During Acetylcholine Spasm Provocation Testing. *Am J Cardiol.* 2024 May 15;219:71-76. doi: 10.1016/j.amjcard.2024.03.020. Epub 2024 Mar 22.
61. Okuya Y, Saito Y, Kitahara H, Kobayashi Y. Vasoactive reaction to reinjected intracoronary acetylcholine during coronary spasm provocation testing. *J Cardiol.* 2024 Nov;84(5):345-346. doi: 10.1016/j.jjcc.2024.05.001. Epub 2024 May 10.
62. Ono R, Iwahana T, Aoki K, Kato H, Okada S, Kobayashi Y. Fulminant Myocarditis with SARS-CoV-2 Infection: A Narrative Review from the Case Studies. *Can J Infect Dis Med Microbiol.* 2024 Mar 4;2024:9000598. doi: 10.1155/2024/9000598. eCollection 2024.
63. Ono R, Iwahana T, Aoki K, Kato H, Tsutsui Y, Takaishi K, Takeda Y, Sakaida E, Kobayashi Y. SARS-CoV-2 infection-induced immune thrombocytopenia in a patient with orthotopic heart transplantation: A case report and literature review. *J Cardiol Cases.* 2024 Aug 22;30(6):181-184. doi: 10.1016/j.jccase.2024.08.003. eCollection 2024 Dec.
64. Ono R, Iwahana T, Kobayashi Y. Emphysematous

- cystitis with positive string test. *Am J Med Sci*. 2024 May;367(5):e53-e54. doi: 10.1016/j.amjms.2024.01.005. Epub 2024 Jan 6.
65. Ono R, Kitagawa I. Correction to: SARS-CoV-2 infection-induced immune thrombocytopenia: a systematic review of current reports. *Ann Hematol*. 2024 Sep;103(9):3837. doi: 10.1007/s00277-024-05897-4.
 66. Ono R, Kitagawa I. Rigler's Triad: A Radiological Sign of Gallstone Ileus. *JMA J*. 2025 Jan 15;8(1):293-294. doi: 10.31662/jmaj.2024-0192. Epub 2024 Nov 1.
 67. Ono R, Kitagawa I. SARS-CoV-2 infection-induced immune thrombocytopenia: a systematic review of current reports. *Ann Hematol*. 2024 Oct;103(10):3921-3939. doi: 10.1007/s00277-024-05765-1. Epub 2024 Apr 23.
 68. Ono R, Kitagawa I. Staphylococcus aureus Bacteremia With Disseminated Multiple Foci and Pyomyositis in an Immunocompetent Patient: A Case Report. *Cureus*. 2024 Feb 3;16(2):e53483. doi: 10.7759/cureus.53483. eCollection 2024 Feb.
 69. Ono R, Kohno H, Ito C, Aoki K, Kato H, Iwahana T, Harada-Kagitani S, Ikeda JI, Kobayashi Y. IgG4-related constrictive pericarditis with previous asbestos exposure: A case report and literature review. *ESC Heart Fail*. 2025 Jun;12(3):2353-2360. doi: 10.1002/ehf2.15198. Epub 2024 Dec 25.
 70. Ozaki Y, Tobe A, Onuma Y, Kobayashi Y, Amano T, Muramatsu T, Ishii H, Yamaji K, Kohsaka S, Ismail TF, Uemura S, Hikichi Y, Tsujita K, Ako J, Morino Y, Maekawa Y, Shinke T, Shite J, Igarashi Y, Nakagawa Y, Shiode N, Okamura A, Ogawa T, Shibata Y, Tsuji T, Hayashida K, Yajima J, Sugano T, Okura H, Okayama H, Kawaguchi K, Zen K, Takahashi S, Tamura T, Nakazato K, Yamaguchi J, Iida O, Ozaki R, Yoshimachi F, Ishihara M, Murohara T, Ueno T, Yokoi H, Nakamura M, Ikari Y, Serruys PW, Kozuma K; Task Force on Primary Percutaneous Coronary Intervention (PCI) of the Japanese Association of Cardiovascular Intervention, Therapeutics (CVIT). CVIT expert consensus document on primary percutaneous coronary intervention (PCI) for acute coronary syndromes (ACS) in 2024. *Cardiovasc Interv Ther*. 2024 Oct;39(4):335-375. doi: 10.1007/s12928-024-01036-y. Epub 2024 Sep 20.
 71. Saito Y, Inohara T, Kohsaka S, Muramatsu T, Ishii H, Yamaji K, Amano T, Kobayashi Y, Kozuma K; J-PCI Registry Investigators. Door-to-Balloon Time and Mortality in STEMI With Cardiogenic Shock: A Nationwide Registry. *JACC Asia*. 2024 Apr 23;4(5):421-422. doi: 10.1016/j.jacasi.2024.03.002. eCollection 2024 May.
 72. Saito Y, Kanagami T, Kobayashi Y. Reply to: The role of CT in acute type A aortic intramural hematoma. *Int J Cardiol*. 2024 Feb 15;397:131648. doi: 10.1016/j.ijcard.2023.131648. Epub 2023 Dec 10.
 73. Saito Y, Kitahara H, Kobayashi Y. Percutaneous intervention for beating coronary aneurysm in the septal branch. *Coron Artery Dis*. 2024 Nov 1;35(7):626. doi: 10.1097/MCA.0000000000001405. Epub 2024 Jun 14.
 74. Saito Y, Kobayashi Y, Tsujita K, Kuwahara K, Ikari Y, Tsutsui H, Kinugawa K, Kozuma K. Pharmacological and Device-Based Intervention for Preventing Heart Failure After Acute Myocardial Infarction - A Clinical Review. *Circ J*. 2024 Oct 25;88(11):1727-1736. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0633. Epub 2024 Sep 13.
 75. Saito Y, Kobayashi Y. Advances in Technology and Technique in Percutaneous Coronary Intervention: A Clinical Review. *Intern Med*. 2024 Sep 27. doi: 10.2169/internalmedicine.4505-24. Online ahead of print.
 76. Saito Y, Kobayashi Y. Antithrombotic management in atrial fibrillation patients following percutaneous coronary intervention: A clinical review. *J Arrhythm*. 2024 Aug 8;40(5):1108-1114. doi: 10.1002/joa3.13128. eCollection 2024 Oct.
 77. Saito Y, Nishi T, Kobayashi Y. Basal Microvascular Resistance - Another Invasively Measured Physiological Index for Predicting Future Heart Failure Events. *Circ J*. 2024 Oct 25;88(11):1798-1799. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0401. Epub 2024 Jun 21.
 78. Saito Y, Sugiura Y, Sakaguchi A, Sada T, Nishiyama C, Maeda R, Kaneko M, Kiyonari H, Kimura W. Redox-dependent purine degradation triggers postnatal loss of cardiac regeneration potential. *Redox Biol*. 2025 Feb;79:103442. doi: 10.1016/j.redox.2024.103442. Epub 2024 Nov 25.
 79. Saito Y, Tanaka A, Yoshida H, Nakashima H, Ban N, Matsuhisa M, Kobayashi Y, Node K, On Behalf Of The Prize Study Investigators. Effects of Xanthine Oxidase Inhibition by Febuxostat on Lipid Profiles of Patients with Hyperuricemia: Insights from Randomized PRIZE Study. *Nutrients*. 2024 Jul 19;16(14):2324. doi: 10.3390/nul16142324.
 80. Saito Y, Tateishi K, Kanda M, Shiko Y, Kawasaki

- Y, Kobayashi Y, Inoue T. Volume-Outcome Relationships for Intra-Aortic Balloon Pump in Acute Myocardial Infarction. *Circ J*. 2024 Jul 25;88(8):1286-1292. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0286. Epub 2024 Jun 27.
81. Saito Y, Tateishi K, Kobayashi Y. Clinical Review of Cardiogenic Shock After Acute Myocardial Infarction - Revascularization, Mechanical Circulatory Support, and Beyond. *Circ Rep*. 2024 Nov 29;7(1):6-14. doi: 10.1253/circrep.CR-24-0141. eCollection 2025 Jan 10.
82. Saito Y, Tsujita K, Kobayashi Y. No standard modifiable cardiovascular risk factors in acute myocardial infarction: prevalence, pathophysiology, and prognosis. *Cardiovasc Interv Ther*. 2024 Oct;39(4):403-411. doi: 10.1007/s12928-024-01022-4. Epub 2024 Jun 17.
83. Saito Y, Yaginuma H, Asada K, Goto H, Sato T, Kitahara H, Kobayashi Y. Prognostic Impact of Previous Atherosclerotic Cardiovascular Disease on Short- and Long-Term Outcomes in Acute Myocardial Infarction. *Am J Cardiol*. 2024 Apr 15; 217:18-24. doi: 10.1016/j.amjcard.2024.02.007. Epub 2024 Feb 23.
84. Sasaki H, Takaoka H, Yoshida K, Matsumoto M, Nishikawa Y, Noguchi Y, Aoki S, Suzuki K, Yashima S, Kinoshita M, Suzuki-Eguchi N, Takanashi S, Matsumiya G, Kobayashi Y. Preoperative mitral valve annulus area size is an important factor in avoiding functional mitral stenosis after mitral valve repair. *J Echocardiogr*. 2025 Jun;23(2):123-132. doi: 10.1007/s12574-024-00671-x. Epub 2024 Nov 21.
85. Schweiger V, Cammann VL, Crisci G, Gilhofer T, Schlenker R, Niederseer D, Chen S, Ebrahimi R, Wenzl F, Würdinger M, Citro R, Vecchione C, Gili S, Neuhaus M, Franke J, Meder B, Jaguszewski M, Noutsias M, Knorr M, Jansen T, D'Ascenzo F, Dichtl W, von Lewinski D, Burgdorf C, Kherad B, Tschöpe C, Sarcon A, Shinbane J, Rajan L, Michels G, Pfister R, Cuneo A, Jacobshagen C, Karakas M, Koenig W, Pott A, Meyer P, Roffi M, Banning A, Wolfrum M, Cuculi F, Kobza R, Fischer TA, Vasankari T, Airaksinen KEJ, Napp LC, Dworakowski R, MacCarthy P, Kaiser C, Osswald S, Galiuto L, Chan C, Bridgman P, Beug D, Delmas C, Lairez O, Gilyarova E, Shilova A, Gilyarov M, El-Battrawy I, Akin I, Poledniková K, Toušek P, Winchester DE, Massoomi M, Galuszka J, Ukena C, Poglajen G, Carrilho-Ferreira P, Hauck C, Paolini C, Bilato C, Kobayashi Y, Kato K, Ishibashi I, Himi T, Din J, Al-Shammari A, Prasad A, Rihal CS, Liu K, Schulze PC, Bianco M, Jörg L, Rickli H, Pestana G, Nguyen TH, Böhm M, Maier LS, Pinto FJ, Widimský P, Felix SB, Braun-Dullaeus RC, Rottbauer W, Hasenfuß G, Pieske BM, Schunkert H, Budnik M, Opolski G, Thiele H, et al. Temporal Trends in Takotsubo Syndrome: Results From the International Takotsubo Registry. *J Am Coll Cardiol*. 2024 Sep 24;84(13):1178-1189. doi: 10.1016/j.jacc.2024.05.076. Epub 2024 Sep 1.
86. Schweiger V, Di Vece D, Cammann VL, Koleva I, Würdinger M, Gilhofer T, Rajman K, Szawan KA, Niederseer D, Citro R, Vecchione C, Bossone E, Gili S, Neuhaus M, Franke J, Meder B, Jaguszewski M, Noutsias M, Knorr M, Jansen T, D'Ascenzo F, Bruno F, De Filippo O, Stefanini G, Campo G, Wanha W, Raposeiras Roubin S, Dichtl W, von Lewinski D, Burgdorf C, Kherad B, Tschöpe C, Sarcon A, Shinbane J, Rajan L, Michels G, Pfister R, Cuneo A, Jacobshagen C, Karakas M, Koenig W, Pott A, Meyer P, Roffi M, Banning A, Wolfrum M, Cuculi F, Kobza R, Fischer TA, Vasankari T, Airaksinen KEJ, Napp LC, Dworakowski R, MacCarthy P, Kaiser C, Osswald S, Galiuto L, Chan C, Bridgman P, Beug D, Delmas C, Lairez O, Gilyarova E, Shilova A, Gilyarov M, El-Battrawy I, Akin I, Poledniková K, Toušek P, Winchester DE, Massoomi M, Galuszka J, Ukena C, Poglajen G, Carrilho-Ferreira P, Hauck C, Paolini C, Bilato C, Kobayashi Y, Kato K, Ishibashi I, Himi T, Din J, Al-Shammari A, Prasad A, Rihal CS, Liu K, Schulze PC, Bianco M, Jörg L, Rickli H, Pestana G, Nguyen TH, Böhm M, Maier LS, Pinto FJ, Widimský P, Felix SB, Braun-Dullaeus RC, Rottbauer W, et al. Cardiac biomarkers for diagnosing Takotsubo syndrome. *Eur Heart J*. 2024 Jul 9;45(25):2254-2258. doi: 10.1093/eurheartj/ehae231.
87. Stähli BE, Schindler M, Schweiger V, Cammann VL, Szawan KA, Niederseer D, Würdinger M, Schönberger A, Schönberger M, Koleva I, Mercier JC, Petkova V, Mayer S, Citro R, Vecchione C, Bossone E, Gili S, Neuhaus M, Franke J, Meder B, Jaguszewski M, Noutsias M, Knorr M, Jansen T, D'Ascenzo F, Dichtl W, von Lewinski D, Burgdorf C, Kherad B, Tschöpe C, Sarcon A, Shinbane J, Rajan L, Michels G, Pfister R, Cuneo A, Jacobshagen C, Karakas M, Koenig W, Pott A, Meyer P, Roffi M, Banning A, Wolfrum M, Cuculi F, Kobza R, Fischer TA, Vasankari T, Airaksinen

- KEJ, Napp LC, Dworakowski R, MacCarthy P, Kaiser C, Osswald S, Galiuto L, Chan C, Bridgman P, Beug D, Delmas C, Lairez O, Gilyarova E, Shilova A, Gilyarov M, El-Battrawy I, Akin I, Poledniková K, Toušek P, Winchester DE, Massoomi M, Galuszka J, Ukena C, Poglajen G, Carrilho-Ferreira P, Hauck C, Paolini C, Bilato C, Kobayashi Y, Kato K, Ishibashi I, Himi T, Din J, Al-Shammari A, Prasad A, Rihal CS, Liu K, Schulze PC, Bianco M, Jörg L, Rickli H, Pestana G, Nguyen TH, Böhm M, Maier LS, Pinto FJ, Widimský P, Felix SB, Braun-Dullaeus RC, Rottbauer W, Hasenfuß G, Pieske BM, et al. Cardiac troponin elevation and mortality in takotsubo syndrome: New insights from the international takotsubo registry. *Eur J Clin Invest*. 2024 Dec;54(12):e14317. doi: 10.1111/eci.14317. Epub 2024 Oct 13.
88. Sugawara M, Kondo Y, Ryuzaki S, Yoshino Y, Chiba T, Ito R, Kajiyama T, Nakano M, Kobayashi Y. Long-term prognosis and prognostic factors after primary prophylactic implantable cardioverter-defibrillator therapy. *J Cardiol*. 2024 Sep;84(3):170-176. doi: 10.1016/j.jjcc.2024.02.006. Epub 2024 Feb 20.
 89. Suzuki K, Sasaki H, Takaoka H, Yoshida K, Matsumoto M, Nishikawa Y, Aoki S, Noguchi Y, Yashima S, Suzuki-Eguchi N, Kinoshita M, Hashimoto R, Ikeda JI, Kobayashi Y. Case of Infective Endocarditis With Aneurysmal Perforation of Both Aortic and Mitral Valve Leaflets. *Circ Rep*. 2024 Sep 12;6(10):469-470. doi: 10.1253/circrep.CR-24-0063. eCollection 2024 Oct 10.
 90. Takahashi M, Takaoka H, Yashima S, Suzuki-Eguchi N, Ota J, Kitahara H, Matsuura K, Matsumiya G, Kobayashi Y. Extracellular Volume Fraction by Computed Tomography Predicts Prognosis After Transcatheter Aortic Valve Replacement. *Circ J*. 2024 Mar 25;88(4):492-500. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0288. Epub 2023 Aug 9.
 91. Tanabe Y, Ono R, Kato H, Kato K, Kajiyama T, Kondo Y, Kobayashi Y. Residual Lead Infection Identified by (18)F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography. *Circ J*. 2024 May 24;88(6):1009. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0119. Epub 2024 Apr 6.
 92. Tateishi K, Hmoud H, De Gregorio I, Hastings R, De Gregorio J. The impact of gender on outcomes of transcatheter aortic valve implantation between self-expanding valve and balloon-expandable valve. *Cardiovasc Revasc Med*. 2024 Jun;63:38-42. doi: 10.1016/j.carrev.2024.01.002. Epub 2024 Jan 9.
 93. Toda K, Ako J, Hirayama A, Kinugawa K, Kobayashi Y, Ono M, Nishimura T, Sato N, Shindo T, Takayama M, Yasukochi S, Shiose A, Sawa Y. Outcomes of Veno-Arterial Extracorporeal Membrane Oxygenation With Percutaneous Left Ventricular Unloading in Fulminant Myocarditis. *ASAIO J*. 2024 Apr 1;70(4):258-263. doi: 10.1097/MAT.0000000000002104. Epub 2023 Nov 29.
 94. Wang S, Ono R, Wu D, Aoki K, Kato H, Iwahana T, Okada S, Kobayashi Y, Liu H. Pulse wave-based evaluation of the blood-supply capability of patients with heart failure via machine learning. *Biomed Eng Online*. 2024 Jan 19;23(1):7. doi: 10.1186/s12938-024-01201-7.
 95. Warisawa T, Sonoda S, Yamaji K, Amano T, Kohsaka S, Natsuaki M, Tsujita K, Hibi K, Kobayashi Y, Kozuma K. State-of-the-art percutaneous coronary intervention for left main coronary artery disease in Japan. *Cardiovasc Interv Ther*. 2024 Oct;39(4):386-402. doi: 10.1007/s12928-024-01030-4. Epub 2024 Jul 30.
 96. Watanabe R, Saito Y, Tokimasa S, Takaoka H, Kitahara H, Yamanouchi M, Kobayashi Y. Diagnostic Ability of Manual Calcification Length Assessment on Non-Electrocardiographically Gated Computed Tomography for Estimating the Presence of Coronary Artery Disease. *J Clin Med*. 2024 Apr 12;13(8):2255. doi: 10.3390/jcm13082255.
 97. Wilderman M, Tateishi K, O'Connor D, Simonian S, Ratnathicam A, Cook K, De Gregorio L, Hmoud H, De Gregorio J. Safety and efficacy of covered stent grafts in the treatment of emergent access related complications. *Cardiovasc Revasc Med*. 2025 May;74:34-39. doi: 10.1016/j.carrev.2024.08.011. Epub 2024 Aug 16.
 98. Wu D, Ono R, Wang S, Kobayashi Y, Sugimoto K, Liu H. Pulse wave signal-driven machine learning for identifying left ventricular enlargement in heart failure patients. *Biomed Eng Online*. 2024 Jun 22;23(1):60. doi: 10.1186/s12938-024-01257-5.
 99. Yaginuma H, Saito Y, Goto H, Asada K, Shiko Y, Sato T, Hashimoto O, Kitahara H, Kobayashi Y. Impact of Cancer, Inflammation, and No Standard Risk Factors in Patients With Myocardial Infarction. *JACC Asia*. 2024 May 28;4(7):507-516. doi: 10.1016/j.jacasi.2024.03.008. eCollection 2024 Jul.
 100. Yamamoto K, Saito Y, Hashimoto O, Nakayama T, Okino S, Sakai Y, Nakamura Y, Fukuzawa S, Himi T, Kobayashi Y. Biomarkers for Risk Stratification

- in Patients With Type A Acute Aortic Dissection. *Am J Cardiol*. 2024 Feb 1;212:103-108. doi: 10.1016/j.amjcard.2023.11.053. Epub 2023 Nov 30.
101. Yamazaki T, Kitahara H, Yamashita D, Sato T, Suzuki S, Hiraga T, Matsumoto T, Kobayashi T, Ohno Y, Harada J, Fukushima K, Asano T, Ishio N, Uchiyama R, Miyahara H, Okino S, Sano M, Kuriyama N, Yamamoto M, Sakamoto N, Kanda J, Kobayashi Y. Relationship between body mass index and clinical events in patients with atrial fibrillation undergoing percutaneous coronary intervention. *PLoS One*. 2024 Sep 19;19(9):e0309758. doi: 10.1371/journal.pone.0309758. eCollection 2024.
 102. Yamazaki T, Saito Y, Nakamura S, Tanabe Y, Kitahara H, Kobayashi Y. Combined assessment of fractional flow reserve, resting full-cycle ratio, and resting ratio of distal coronary to aortic pressure for clinical outcomes. *J Cardiol*. 2025 Apr;85(4):315-320. doi: 10.1016/j.jcc.2024.08.009. Epub 2024 Aug 28.
 103. Yamazaki T, Saito Y, Yamashita D, Kitahara H, Kobayashi Y. Relation of Thrombolysis in Myocardial Infarction Frame Count to Invasively Measured Coronary Physiologic Indexes. *Am J Cardiol*. 2024 Jan 15;211:282-286. doi: 10.1016/j.amjcard.2023.11.031. Epub 2023 Nov 21.
 104. Yashima S, Takaoka H, Ota J, Matsumoto M, Nishikawa Y, Noguchi Y, Aoki S, Yoshida K, Suzuki K, Kinoshita M, Sasaki H, Suzuki-Eguchi N, Kanaeda T, Kobayashi Y. Extracellular Volume by Computed Tomography Is Useful for Prediction of Prognosis in Dilated Cardiomyopathy Cases with Heart Failure with Reduced Ejection Fraction. *J Cardiovasc Dev Dis*. 2024 Dec 11;11(12):399. doi: 10.3390/jcdd11120399.
 105. Yokoshiki H, Shimizu A, Mitsuhashi T, Ishibashi K, Kabutoya T, Yoshiga Y, Kondo Y, Abe H, Shimizu W; Members of the Implantable Cardioverter - Defibrillator (ICD) Committee of the Japanese Heart Rhythm Society. Improved outcomes of cardiac resynchronization therapy with a defibrillator in systolic heart failure: Analysis of the Japan cardiac device treatment registry database. *J Arrhythm*. 2023 Nov 14;40(1):30-37. doi: 10.1002/joa3.12952. eCollection 2024 Feb.
 106. Yoshida K, Sasaki H, Takaoka H, Hashimoto R, Kawasaki K, Matsumiya G, Matsushita K, Kobayashi Y. Primary Severe Pulmonary and Tricuspid Valve Regurgitation in an Adult Patient. *CASE (Phila)*. 2024 Feb 5;8(3Part B):265-272. doi: 10.1016/j.case.2023.12.034. eCollection 2024 Mar.
 107. Yoshida K, Sasaki H, Takaoka H, Nishikawa Y, Aoki S, Suzuki K, Yashima S, Suzuki-Eguchi N, Kinoshita M, Kanaeda T, Matsusaka K, Kohno H, Matsushita K, Kobayashi Y. Rare Favorable Surgical Outcome Obtained in Löffler Endocarditis With Severe Mitral Valve Regurgitation. *Circ Rep*. 2024 May 14;6(6):230-231. doi: 10.1253/circrep.CR-24-0031. eCollection 2024 Jun 10.
- 【雑誌論文・和文】**
1. 井原正裕, 神田真人, 井上貴裕, 山本修一. 「DPC データを用いた急性期病床における介護需要の経年変化の分析」病院 83 巻 1 号, 2024 年 1 月 pp.56-61. 医学書院.
 2. 青木秀平, 高岡浩之, 野口靖允, 與子田一輝, 松本萌, 鈴木克也, 八島聡美, 西川侑成, 木下真己子, 鈴木紀子, 佐々木晴香, 大門道子, 小林欣夫 / 心臓 MRI による INOCA 診断 / 臨床生理学学会誌 2024;54:157-161
 3. 西川侑成, 高岡浩之, 野口靖允, 與子田一輝, 青木秀平, 松本萌, 鈴木克也, 八島聡美, 木下真己子, 鈴木紀子, 佐々木晴香, 小林欣夫 / INOCA 診断における心臓 CT の立ち位置 / 臨床生理学学会誌 2024;54:153-156
- 【単行書】**
1. 齋藤佑一, 小林欣夫. 「狭心症」日常診療に活かす診療ガイドライン UP-TO-DATE 2024-2025. メジカルビュー.
 2. 齋藤佑一, 小林欣夫. 「DAPT(抗血小板薬)の継続期間」エキスパートが語る高齢者循環器診療のすべて ガイドライン通りにできない場合には? 日本医事新報社.
 3. 齋藤佑一, 小林欣夫. 「不安定狭心症」私の治療. 日本医事新報社.
 4. 齋藤佑一. 「動脈硬化性疾患(動脈硬化および脳血管障害・心血管障害)」ここが知りたい! 糖尿病ハンドブック ver. 6. 中外医学社.
 5. 齋藤佑一. 「異常 Q 波と ST 上昇, T 波増高」臨床検査 68 巻 10 号. 医学書院.
 6. 龍崎智子, 近藤祐介. 「術後のフォローアップと薬剤治療」左心耳閉鎖のすべて. 2024 年 6 月発刊. pp.149-154. 医学図書出版株式会社
 7. 近藤祐介. 「ドイツ留学から 10 年を経て, 思うこと」左心耳閉鎖のすべて. 2024 年 6 月発刊. p32. 医学図書出版株式会社
 8. 近藤祐介, 千葉俊典. 「循環器疾患 洞不全症候群」週刊 日本医事新報 No.5238. p42. 株式会社日本医事新報社
 9. 近藤祐介, 千葉俊典. 「ICD・S-ICD の設定方法: どこまで識っておくべきか」Heart View 28 巻 1 号.

pp.9-13 株式会社メジカルビュー社

10. 高岡浩之, 横田元. 「11. 心外病変」心臓疾患のCTとMRI第2版. 医学書院. 2024年10月
11. 小野亮平「エキスパートが教える問診の勘どころ対話から拾い上げるコモンディジーズ. “第15回『夜寝ようとする息苦しくて眠れないです』」. Medical Practice. vol.41 no.9 2024, p1430-1433. 文光堂.
12. 岩花東吾. 「入院中・早期からのARNIはよいのか? 血行動態的に有利なのか?」心不全診療Controversy. 中外医学社. 2023年10月
13. 岩花東吾. 「心臓移植待機期間中のマネージメント: 移植準備として特有用な検査・手続」「ICU退室後から退院までのマネージメント」心臓移植後診療の指針. メディカル・サイエンス・インターナショナル社. 2024年2月
14. 岩花東吾. 「LVAD装着後の管理: 循環器内科医の役割とは?」月刊Heart View 2024年3月号. メジカルビュー社.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 第34回日本心臓血管画像動態学会(2024年1月12日, 横浜)
齋藤佑一. シンポジウム「INOCA 診断における冠攣縮誘発検査の実践」
2. 第271回日本循環器学会関東甲信越地方会(2024年2月17日, 東京)
北原秀喜. デザートセミナー3 演者. 症例から考える透析TAVI
3. 第88回日本循環器学会学術集会(2024年3月8-10日, 神戸)
北原秀喜. シンポジウム8. 日本人における至適抗血栓療法を考える. Impact of Underdose of Direct Oral Anticoagulants on Clinical Outcomes in Patients with Atrial Fibrillation after Percutaneous Coronary Intervention.
4. 第51回日本集中治療医学会学術集会(2024年3月14-16日, 札幌)
立石和也, 青山里恵, 真野敏昭, 菊地研, 田原良雄
ワークショップ「循環器集中治療をクイズで体感! 急性心筋梗塞を解き明かそう」集中治療室に入室させるべき急性冠症候群患者の重要度評価と冠動脈CTの有用性と限界
5. 第16回日本蘇生科学シンポジウム(16th J-ReSS)(2024年4月13日, 東京)
立石和也, 齋藤佑一, 小林欣夫, 田原良雄, 米本直裕, 池田隆徳. 院外心肺停止患者における神経学的予後に対する発症時間と病院前蘇生までの時間の影響
6. Tokyo Percutaneous Cardiovascular Intervention

Conference 2024 (TOPIC 2024) (2024年7月11-13日, 東京)

- 北原秀喜. ランチョンセミナー11 ACS治療戦略. ACSにおけるBioFreedom Ultra Stentの有用性.
7. 第70回日本不整脈心電学会学術大会(2024年7月18-20日, 金沢)
北原秀喜. CVIT-JHRS ジョイントシンポジウム. 心房細動合併症例での抗血栓療法-PCI
 8. 第32回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会(2024年7月25-27日, 札幌)
齋藤佑一. シンポジウム16. すぐにImpellaでしょ.
 9. 第32回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会(2024年7月25-27日, 札幌)
齋藤佑一. シンポジウム20. ISCHEMIA, REVIVED, and ORBITA-2時代における慢性冠動脈症候群に対する経皮的インターベンションの現在地
 10. 第32回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会(2024年7月25-27日, 札幌)
齋藤佑一. シンポジウム27. 非責任病変のimaging評価の意義
 11. 第32回日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会(2024年7月25-27日, 札幌)
齋藤佑一. シンポジウム30. 大動脈解離合併心筋梗塞の治療
 12. 第72回日本心臓病学会学術集会(2024年9月27-29日, 仙台)
齋藤佑一. シンポジウム1. 多枝冠動脈病変を有する急性心筋梗塞患者における完全血行再建のタイミング
 13. 第273回日本循環器学会関東甲信越地方会(2024年9月7日, 東京)
北原秀喜. 学術委員会企画セッション. 非閉塞性冠動脈疾患(INOCA)診断の意義を考える.
 14. 日本不整脈心電学会第4回関東甲信越支部地方会(2024年1月20日, 東京)
近藤祐介. スポンサーセミナー4. 低左心機能患者管理の新潮流 Heart Insight とは?
 15. 第54回日本心臓血管インターベンション治療学会東北地方会(2024年1月27日, 岩手)
近藤祐介. スポンサーセミナー4. カテ屋さんが知っておくべき、心房細動マネージメント2024～左心耳閉鎖術の立ち位置は?～
 16. 第16回植込みデバイス関連冬季大会(2024年2月9-10日, 広島)
近藤祐介. ランチョンセミナー6. NVAf 症例のStroke 予防のための内科的及び外科的アプローチ～適応症例に応じた内科手技と外科手技の共存～「内科的左心耳マネージメント-WATCHMAN(左心耳閉鎖術)治療の意義-
 17. 第16回植込みデバイス関連冬季大会(2024年2月

- 9-10 日, 広島)
- 近藤祐介. 植込み型デバイス委員会 登録評価部会セッション 日本からのエビデンスをガイドラインに! 「どうなる新しいガイドライン! CRT 編~CRT 適応を再考する~」
18. 第 16 回植込みデバイス関連冬季大会 (2024 年 2 月 9-10 日, 広島)
近藤祐介. パネルディスカッション 2. Mid-range QRS の CRT 適応をどう考えるべきなのか? ~ガイドラインとエビデンスを整理する~
 19. 第 16 回植込みデバイス関連冬季大会 (2024 年 2 月 9-10 日, 広島)
近藤祐介. メディカルプロフェッショナル教育講演 3. 一時予防と二次予防患者における ICD の設定「1 次予防と 2 次予防の ICD 設定について再考する~エビデンスと経験に基づいたプログラミングをしていますか? ~」
 20. 第 16 回植込みデバイス関連冬季大会 (2024 年 2 月 9-10 日, 広島)
梶山貴嗣. ランチョンセミナー13. デバイスマネジメントの今がわかる! ~リード抜去術者の“本音”教えます~. 「さまざまなリード抜去ストラテジー」
 21. 第 88 回日本循環器学会学術集会 (2024 年 3 月 8-10 日, 神戸)
近藤祐介. スポンサーシンポジウム 07. 明日から変わる心臓植込みデバイス治療「心不全に対するデバイス治療」
 22. 第 88 回日本循環器学会学術集会 (2024 年 3 月 8-10 日, 神戸)
近藤祐介. スポンサーシンポジウム 07. 明日から変わる心臓植込みデバイス治療「心不全に対するデバイス治療」
 23. KOKURA LIVE 2024 (2024 年 5 月 11-12 日, 小倉)
近藤祐介. ランチョンセミナー11. 「虚血性低心機能患者様への ICD の役割と ATP 治療の有用性を再考する」
 24. 第 70 回日本不整脈心電学会学術大会 (2024 年 7 月 18-20 日, 金沢)
近藤祐介. スポンサーセミナー1. 患者 QOL から ICD 治療を再考する-最新研究データによる電気ショックと PTSD との関係-. Considering the “harmful effects” of ICD shock
 25. 第 70 回日本不整脈心電学会学術大会 (2024 年 7 月 18-20 日, 金沢)
Kondo Yusuke.Symposium 4.LEFT ATRIAL APPENDAGE OCCLUSION: ARE WE ON THE SAME PAGE? -MEDICAL AND SURGICAL APPROACHES. THE CURRENT STATE OF LEFT ATRIAL APPENDAGE CLOSURE IN JAPAN: HOW ESTABLISHED HAS BEEN THE EVIDENCE?
 26. 第 70 回日本不整脈心電学会学術大会 (2024 年 7 月 18-20 日, 金沢)
近藤祐介. ランチョンセミナー21. Micra™ のいまとこれから「リードレスペースメーカー ガイドラインフォーカスアップデート解説 2024」
 27. 第 70 回日本不整脈心電学会学術大会 (2024 年 7 月 18-20 日, 金沢)
近藤祐介. スポンサーセミナー17. APPRAISE-ATP から読み解く ATP の果たす役割「日本の ICD 一次予防の課題を整理する~どうなる? 次のガイドライン! ~」
 28. 第 32 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 CVIT2024 (2024 年 7 月 25-27 日, 札幌)
近藤祐介. スポンサーセミナー4. あなたの患者で心臓突然死の経験はありませんか? ~ ICD の役割と必要な患者を再考する~ 「STOP SCD! 虚血医と考える “ICD underuse”」
 29. 第 72 回日本心臓病学会学術集会 (2024 年 9 月 27-29 日, 仙台)
龍崎智子, 近藤祐介, 仲野美代, 中野正博, 千葉俊典, 吉野裕, 駒井佑哉, 高梨友紀子, 鳴海頌子, 小林欣夫. シンポジウム 20. 脳梗塞予防に対するブレインハート診療の進歩「経皮的左心耳閉鎖術の普及に寄与する術後抗血栓療法の変更について」
 30. 第 88 回日本循環器学会学術集会 (2024 年 3 月 8-10 日, 神戸)
シンポジウム 16. 弁膜症のストラテジー決定のための画像診断 佐々木晴香, 高岡浩之, 與子田一輝, 青木秀平, 鈴木克也, 八島聡美, 鈴木紀子, 木下真己子, 高梨秀一郎, 小林欣夫. Echocardiographic Indexes for Determining the Optimal Timing of Mitral Valve Plasty for Degenerative Mitral Regurgitation in Japanese Patients.
 31. 第 88 回日本循環器学会学術集会 (2024 年 3 月 8-10 日, 神戸)
チーム医療セッション シンポジウム 2: 循環器疾患に対する最新の画像診断技術の可能性 高岡浩之, 西川侑成, 青木秀平, 野口靖允, 與子田一輝, 鈴木克也, 松本萌, 八島聡美, 木下真己子, 佐々木晴香, 鈴木紀子, 太田丞二, 小林欣夫. 進化し続ける循環器 CT 診断.
 32. 第 32 回日本心血管インターベンション治療学会 (2024 年 7 月 26 日, 札幌)
シンポジウム 21: ここまで出来る! 心臓 CT 解析の弱点を克服する Takaoka H, Aoki S, Nishikawa Y, Ota J, Ishida K, Yashima S, Kinoshita M, Suzuki K, Yoshida K, Sasaki H, Suzuki-Eguchi N, Kobayashi Y. Overcoming Motion Artifacts in Cardiac Computed Tomography

33. 第35回日本心エコー図学会学術集会（2024年4月19-21日，姫路）
鈴木（江口）紀子．指定講演2 心エコー標準化に向けて～千葉の現状と課題～
34. 第72回日本心臓病学会学術集会（2024年9月27-29日，仙台）
会長要望セッション2. 心筋疾患・弁膜症の最新マネジメント戦略 青木秀平，高岡浩之，木下真己子，八島聡美，鈴木克也，西川侑成，松本萌，野口靖充，佐々木晴香，江口紀子，北原秀喜，松浦馨，小林欣夫．CTによる左室longitudinal strain解析は経カテーテル大動脈弁置換術後の予後予測に有用である
35. 第72回日本心臓病学会学術集会（2024年9月27-29日，仙台）
シンポジウム7. 心不全・心筋疾患における不整脈マネジメント 鈴木克也，高岡浩之，近藤祐介，野口靖允，松本萌，青木秀平，八島聡美，木下真己子，小林欣夫．心臓CTによる左室細胞外容積解析は心室再同期療法後の予後予測に有用である
36. 第88回日本循環器学会学術集会（2024年3月8-10日，神戸）
シンポジウム1 緩和ケア・在宅医療：地域差の実態と今後の課題 岡田将，梅野福太郎，山崎恵一，小林欣夫．病院－在宅連携による心不全診療体制構築の試み．
37. 第88回日本循環器学会学術集会（2024年3月8-10日，神戸）
コメディカルシンポジウム1 慢性期における包括的心臓リハビリテーションの有用性と実践 小池俊光，岡田将，小林欣夫．病院－在宅連携による慢性期包括的心臓リハビリテーションの実践．
38. 第88回日本循環器学会学術集会（2024年3月8-10日，神戸）
Round Table Discussion 2. MCS管理の落とし穴. Togo IWAHANA, Hirotoishi KATO, Ryohei ONO, Kaoruko AOKI, and Yoshio KOBAYASHI. Pitfalls of Percutaneous Mechanical Circulatory Support Devices 経皮的循環補助デバイスのpitfalls
39. 第72回日本心臓病学会学術集会（2024年9月27日，仙台）
シンポジウム5 高齢化社会における循環器診療～TAVI, Mitra Clipなどの低侵襲治療の普及や多職種介入、ACP、終末期管理の現状と課題 岡田将，小林欣夫．「院内多職種連携による心不全ACP外来構築、および病院－在宅連携による心不全進行期～終末期ケアの試み」
40. 第64回関東整形災害外科学会（2024年3月15日，横浜）
シンポジウム4. 下肢静脈血栓症に対する対応 小野亮平，福島賢一，高橋秀尚，堀泰彦，小林欣夫．下肢静脈血栓症に対する直接経口抗凝固薬（DOAC）の使い分け．
41. 第56回千葉県小児循環器研究会（2024年9月6日，千葉）
岩花東吾．特別講演．重症心不全患者の在宅診療の現状と課題．
42. 第88回日本循環器学会学術集会（2024年3月8-10日，神戸）
シンポジウム17 2024年問題直前、働き方改革～私たちはこう取り組んでいます。神田真人、小林欣夫．自動打刻管理システムを用いた循環器医師の実労働時間分析と業務効率化のためのタスクシフト－大学病院の特殊性を踏まえた考察－
43. 第34回日本心血管画像動態学会（2024年1月13日，横浜）
宮内秀行．「中性脂肪蓄積心筋血管症(TGCV)」－診断における心脂肪酸代謝 SPECT の意義－
44. 第32回日本心血管インターベンション治療学会（2024年7月25-27日，札幌）
宮内秀行．「細胞内中性脂肪分解障害評価法としてのBMIPP心筋シンチグラム－TGCV診断基準と事例紹介－」
45. 第49回 New Town Conference（2024年2月17日，東京，Hybrid）
宮内秀行．中性脂肪蓄積心筋血管症（TGCV）Up to Date
46. 中性脂肪学会第7回学術集会シンポジウム（2024年10月19日，web）
宮内秀行．細胞内中性脂肪分解障害評価の最新アプローチ－123I-BMIPPシンチグラムの重要性－
47. 第64回日本核医学会総会学術総会（2024年11月9日，横浜）
宮内秀行．卒後教育プログラム（教育講座） 核医学検査担当技師が知っておくべき循環器病ガイドライン（ISCHEMIA 試験やINOCAなども含めて）

【学会発表数】

国内学会 127回（うち大学院生41回）
国際学会 32回（うち大学院生10回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「医療データベースを用いた抗がん剤による未知の循環器合併症の発見と予防法の確立」代表者：神田真人 2022-2024
2. 文部科学省科学研究費 若手研究「たこつば症候群心臓の心移植環境下における機能回復の可能性」代表者：加藤賢 2022-2024
3. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「心不全 Advance Care Planning 外来の有効性の検討」代表者：岡田将 2023-2025
4. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「大動脈弁狭窄症に対するTAVI後及びTAV in TAV後の冠動脈

閉塞リスク予測モデルの開発」代表者：北原秀喜 2023-2025

5. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「CT 画像解析による重症心不全への心臓再同期療法の最適症例の抽出」代表者：高岡浩之 2023-2025
6. 文部科学省科学研究費 若手研究「心臓超音波による局所左室仕事量解析を用いた心臓再同期療法の効果予測」代表者：江口紀子 2022-2024
7. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「左室内血流解析による心臓再同期療法適応の新しい評価法の開発」代表者：青木秀平 2023-2025
8. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「急性心筋梗塞に対する早期抗心不全薬治療の効果を検証する実践的ランダム化比較試験」代表者：齋藤佑一 2024-2028
9. 文部科学省科学研究費 若手研究「機械学習的アプローチによる、心電図を用いたたこつば症候群診断アルゴリズム」代表者：北川真理 2024-2026
10. 文部科学省科学研究費 若手研究「拡張型心筋症における心臓 CT による予後改善を見据えたリスク評価法の確立」代表者：八島聡美 2024-2026
11. 日本医療研究開発機構医療機器等研究成果展開事業「心不全予測を行う表情・音声の新規バイオマーカーに関する開発研究」分担者：北原秀喜 2024
12. 厚生労働省政策研究事業「「中性脂肪蓄積心筋血管症の診療、療養実態把握と医療水準の向上に資する研究」20FC1008.」分担者：宮内秀行 2024
13. PDR ファーマ株式会社「「虚血性心疾患患者に対する負荷血流シンチ検査における cardioREPO の性能評価に関する検討」」代表者：宮内秀行 2024
14. ちば県民保健予防基金事業助成金「非弁膜症性心房細動患者における WATCHMAN FLX Pro を用いた経皮的左心耳閉鎖術後の抗血栓療法として抗血小板薬 1 剤療法の安全性と有効性を評価する前向き介入研究」代表者：龍崎智子 2024

【受賞歴】

1. 齋藤佑一. Beyond Angiography Japan XXVIII Oral Presentation Award 優秀演題.
2. 齋藤佑一. CVIT2024 編集委員長特別賞.
3. 齋藤佑一. CVIT 最多ダウンロード論文賞.
4. 駒井佑哉, 梶山貴嗣, 高梨友紀子, 吉野裕, 龍崎智

子, 千葉俊典, 伊藤竜, 中野正博, 近藤祐介, 小林欣夫. 第 16 回植込みデバイス関連冬季大会 (2024 年 2 月 17 日, 広島) Best Abstract 最優秀演題賞. 「Micra AV における右心室への血液流入波形である A4 を術前エコーにより推定可能か?」

5. 鳴海頌子, 近藤祐介, 中野正博, 梶山貴嗣, 伊藤竜, 千葉俊典, 吉野裕, 龍崎智子, 駒井佑哉, 高梨友紀子, 小野仁, 細谷裕一, 喜多村彩, 土屋祐花, 小林欣夫. 第 16 回植込みデバイス関連冬季大会 (2024 年 2 月 17 日, 広島) メディカルプロフェッショナル優秀演題賞「植込型補助人工心臓装着患者における ICD 治療設定と作動状況の調査」
6. Takanashi Y, Kondo Y, Nakano Ma, Kajiyama T, Ito R, Chiba T, Yoshino Y, Ryuzaki S, Komai Y, Narumi S, Uchiyama T, Okino S, Kobayashi Y. 第 70 回日本不整脈心電学会学術大会 (2024 年 7 月 18-20 日, 金沢) ベストアブストラクト優秀演題賞. RESPONDERS OF CARDIAC RESYNCHRONIZATION THERAPY IN JAPANESE PATIENTS WITH MIDDLE RANGE WIDE QRS DURATION.
7. 仲野美代. 『心臓』2023 年度優秀査読者賞 日本心臓財団.
8. 與子田一輝, 佐々木晴香, 高岡浩之, 松本萌, 西川侑成, 野口靖允, 青木秀平, 鈴木克也, 八島聡美, 木下真己子, 鈴木紀子, 川崎健治, 松下一之, 小林欣夫. 第 273 回 日本循環器学会関東甲信越地方会 Clinical research award 優秀賞 (2024 年 9 月 7 日, 東京) 奇異性低流量低圧較差大動脈弁狭窄症における経皮的動脈弁置換術前後の特異的左室心筋仕事量変化の意義
9. 小野亮平. 革新医療創生 CHIBA 卓越大学院 最優秀学生賞

【特 許】

1. 宮内秀行. 国内特許第 7284540 号 (有効) 国際公開 WO2024//053646

【発明の名称】IMAGE PROCESSING METHOD, IMAGE PROCESSING DEVICE, AND PROGRAM (画像処理方法、画像処理装置及びプログラム) SPECT 解析における総カウントを用いた洗い出し率 (washout rate: WR) 算出アルゴリズム (the total count WR)

●診 療

・外来診療・入院診療・その他 (先進医療等)

外来診療について、当科では 40 名以上の循環器内科医が日夜診療にあたっており、一般外来診療だけでなく、急性疾患に対する 24 時間体制での救急医療を行っている。新患者は予約なしで紹介状なしで受診可能な体制をとっており、新来患者数は大学病院群のなかでも上位となっている。関連病院や診療所との連携を密接にし、急患の診療依頼を迅速かつ積極的に受け入れ、逆紹介を進めることで地域医療の充実に努めている。

心臓カテーテル検査については日帰りでの冠動脈造影検査を行っており、患者の利便性を向上させている。心臓カテーテル治療、不整脈に対するカテーテルアブレーション、不整脈デバイス治療、構造的な疾患に対するカ

ターテル治療、重症心不全に対する植込型補助人工心臓・心臓移植治療など、多岐にわたる先進的な治療を行っている。また、CTやMRIを用いた循環器疾患の画像診断レベルも我が国で最高水準であり、臨床研究も盛んに行っている。そのため、各専門外来には千葉県内外から多くの患者が紹介されている。

入院診療について、高い病床稼働率および短い平均在院日数を維持している。

カテーテルインターベンション治療件数は国内大学病院の中でトップクラスであり、ロータブレータなどの先進治療についても認定施設となっている。経皮的動脈弁置換術（TAVI）や経皮的僧帽弁クリップ術（MitraClip）、およびカテーテルによる卵円孔閉鎖術などについて順調に症例数を伸ばしている。不整脈に対する各種カテーテルアブレーション、植え込み型除細動器（ICD）などの不整脈ハイパワーデバイスの認定施設であり、治療件数も大学病院でトップクラスである。リードレスペースメーカーや左心耳閉鎖術など先進的な治療も国内適応早期から導入しており、各施設に指導を行う立場である。また植え込み型デバイス症例の感染時などにおけるデバイス抜去術に関して、県内の症例の多くを引き受けている。さらに心臓血管外科と共同で、植込型補助人工心臓（VAD）や心移植を行っているため、他院からの重症心不全患者の転院受け入れや、経皮的補助循環デバイスを使用した集中治療を行っている。

以上のように、他院で治療困難な循環器疾患患者に対する先進治療を提供できている。

心臓血管外科との合同プロジェクトとして当施設が心臓移植施設認定施設となり、重症心不全症例を他院から積極的に受け入れた上、心臓血管外科と協力して植込型補助人工心臓留置、心移植へとつなげる流れを形成できている。

また、不整脈診療グループで行っている不整脈デバイスの植え込み件数は、本年度も国立大学群でトップをほこる。アブレーションと左心耳閉鎖術については、他大学病院を含め全国の施設から指導依頼があり、全国で指導にあたっている。

重症動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療は、順調に治療数を伸ばしており、僧帽弁閉鎖不全症に対してもカテーテル治療も行っている。

●地域貢献

平成26年4月より循環器内科診療を開始した東千葉メディカルセンターへは、常勤医師4名を派遣している。同様に県立循環器病センターや君津中央病院、成田赤十字病院など、過疎地域の県内中核病院および地域の中核病院へ当科出身医師の常勤および当科大学院生を中心とした非常勤の医師を当教室より派遣している。また心不全患者の包括的診療を展開するにあたり地域の訪問看護施設との連携を強化している。県内各地域および近隣都県で開催される循環器系勉強会・セミナー・医師会講演会において当科医師が講演を行い、循環器診療の最新の知見の普及とともに病診連携および地域連携の推進に努めている。心電図学習についても、毎年当科医師により主に若手看護師を対象に公開講座を開催している。2022年度からは、不整脈診療に関する県民公開講座を定期的で開催しており、県民の健康増進にも貢献している。

また、将来的に千葉県で循環器診療を行う希望のある初期研修医に対しては積極的に診療見学の受け入れを行っている。

●その他

循環器系への進路を希望する初期研修医および医学部生を対象に、当院での診療見学は夏季を中心に積極的に行った。

研究領域等名：	呼吸器病態外科学
診療科等名：	呼吸器外科

●はじめに

2024 年は大学病院スタッフも一部異動があり、診療・教育・研究面のさらなる充実を目指した1年となった。千葉大学呼吸器外科では、診断から手術、化学療法に至るまで一貫した診療を行っていることが特徴であり、新たな治療法にも積極的に取り組んできた。基幹施設として肺癌を中心とする千葉の医療体制を維持している。手術治療に関して、集学的治療を含めた進行肺癌への積極的な外科療法や、手術支援ロボットを用いた低侵襲手術など多岐にわたる治療戦略を実践している。特に近年使用可能となった進行肺癌に対する周術期化学免疫療法も積極的に行っている。また間質性肺炎や心疾患など、治療選択が難しい合併症を有する肺癌に対しても、より安全な治療法開発に努めている。診断では従来からの最先端の内視鏡診断技術に基づいた最適な治療方針選択を行っているほか、気道内病変に対する内視鏡的治療も広く行っており、遠方からの紹介症例も多い。術後は補助または再発治療として分子標的薬治療や、免疫チェックポイント阻害薬を含めた最先端の化学療法を積極的に導入している。また当科は脳死肺移植認定施設であり、肺移植待機患者登録数は増加し待機期間中や肺移植後症例の外来管理も増加している。2024 年末までに 19 例目の生体および脳死肺移植を施行しており、今後肺移植手術症例の増加が予想される。全国的な臨床試験グループ（JCOG、WJOG、NEJ 等）に所属し、国際臨床試験にも積極的に参加している。特に間質性肺炎合併肺癌の治療では我が国をリードする立場にある。

●教 育

・学部教育／卒前教育

- ・3 年次：医師見習い体験として、医師に付き添い業務の見学実習を行った。
- ・3 年次：ユニット講義（呼吸器疾患）・チュートリアル（呼吸器疾患）を呼吸器内科と共同で担当した。
- ・4－6 年次：ベットのサイドラーニングを行った。臨床実習Ⅰでは、1 組約 10 名の学生を呼吸器内科と共同で合計 3 週間ずつ教育した。呼吸器外科をメインとする学生は 3 週間、手術患者を複数名受け持ち、医師と共に手術前後の評価検討を行い、術後報告・詳細な治療記録および症例に関連したレポートを提出させた。その他、初診外来、病棟回診、検査（気管支鏡・CT ガイド下生検）を見学させ、最終日に修得状況を把握するための口頭試問を行った。呼吸器内科と共同で講義（対面およびオンライン）を行い呼吸器内科・外科についての理解を深めてもらった。臨床実習Ⅱでは選択性で 3 週間の実習を行った。
- ・5, 6 年次：希望者に、実際の症例について学会発表・論文作成を行わせ、その指導をした。

・卒後教育／生涯教育

< 初期研修教育 >

希望者に、1ヶ月～2ヶ月間の初期研修医研修を指導した。

タイムテーブル：朝の病棟報告・カンファレンス参加、回診・包交、午前中の検査、手術、術後管理、回診。

気管支鏡検査：検査の初歩的な操作を指導している。

手術：胸腔鏡操作を中心に、1ヶ月で約 10 例の手術に参加させ指導した。

< 後期研修教育 >

希望者に、1～12ヶ月間に多くの手術症例において術者を経験させた。呼吸器外科領域の検査の術者として実績を積ませた。抄読会で英語論文の発表を指導し、学会発表を筆頭演者として行わせた。

< 生涯教育 >

3D 肺モデルを用いたドライラボ、ブタ摘出肺を用いたウェットラボ、CAL（Clinical Anatomy Laboratory）による手術シミュレーションを定期的に行い、段階的に肺葉切除から気管支・肺動脈形成術、さらに肺移植まで手術トレーニングを行った。

・大学院教育

- ①肺再生、肺移植に関する研究
- ②呼吸器悪性腫瘍の病理、遺伝子異常に関する研究
- ③NKT 細胞、免疫療法に関する研究
- ④難治性肺瘻孔に対する新規呼吸器内視鏡デバイスの開発
- ⑤気管支鏡生検検体を用いた分子生物学的研究
- ⑥肺癌手術に関連する臨床研究、低侵襲手術法の開発

⑦肺気腫や間質性肺炎などの呼吸器基礎疾患を有する肺癌に関する研究

⑧肺癌と腸内細菌叢の関連に関する研究

⑨胸部手術デバイスに関する研究

上記のテーマについて上級医とのディスカッションを重ね研究を進め、当該テーマについて学会、研究会での発表及び英語論文の作成を指導している。大学院生全体のユニット講義として、呼吸器外科の総論・各論についてと肺移植に対する外科領域を担当して講義を行っている。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

＜Journal Club＞

毎週火曜日開催。一般胸部外科と肺移植にテーマを分けて、幅広い領域における知識の習得と応用を目指して実施している。

＜呼吸器腫瘍カンファレンス＞

毎週木曜日に呼吸器内科、腫瘍内科、放射線科、薬剤部で合同カンファレンスを実施している。

＜肺移植カンファレンス＞

隔月1回、呼吸器内科、移植コーディネーター、感染症内科、リハビリテーション部、薬剤部、臨床栄養部で合同カンファレンスを実施している。

＜他学部・普遍教育＞

生命コア「外科治療と疾患」

●研究

・研究内容

＜臨床研究＞

肺切除に使用するステープラーの有効性を検証する単施設無作為化試験を完遂し、その成果は現在論文投稿中である。さらに、胸部手術における腹部用酸化セルロースシートの有効性、術前気管支拡張薬吸入療法、自己血フィブリン糊、ステープラースローモード、術前化学免疫療法における整腸薬の有効性などを対象とした無作為化試験を次々と立案し、実施している。また、JCOG、WJOG、CReGYTといった臨床試験グループが主導する研究にも積極的に症例登録を行い、周術期および術後治療に関するエビデンスの創出に貢献した。加えて、学会主導の全国登録事業や企業主導のグローバル治験にも精力的に参加している。その他、多くの観察研究を遂行し、その成果を学会発表や論文として報告した。

＜呼吸器内視鏡領域＞

呼吸器内視鏡関連の研究では、超音波気管支内視鏡（EBUS）を中心に、周波数解析技術や人工知能を利用した画像診断の開発、生検検体のバイオマーカー診断への最適化及びマルチプレックス遺伝子変異解析および超高感度転移診断法の開発を継続して行っている。呼吸器インターベンションのアプローチ方法については、新規デバイスを用いて工夫することで安全に手技を完遂できる方法を臨床研究を行い模索している。現在行っている医工連携をさらに推進していき、新たな診断法を含めた研究を推進している。臨床においても気管支鏡の全国データベースへの参画、新規デバイスの前向き臨床試験に着手している。

＜肺移植・再生領域＞

- ・ラット肺移植モデルで拒絶反応に関する各種研究より、その後マウス肺移植モデルや気管移植に移行し研究を継続している。当教室独自のマウス慢性拒絶モデルを確立し、その病態解明を行うため網羅的遺伝子解析やリンパ節からの早期診断の研究や、抗体関連拒絶反応に対するモデル作成や治療薬の効果検証の研究を行った。免疫チェックポイント分子の関与や保存中肺および移植後肺のミトコンドリア治療に関する研究も開始している。現在は線維化の抑制に着目した研究に着手した。
- ・臨床の肺移植症例に対しても特徴的な症例に対し学会・研究会等での症例報告を行い、全国の予後調査などに協力してデータ提供を行っている。
- ・ラット肺全摘モデルにおける代償性肺成長の遺伝子解析により分子機構を明らかにし、さらに詳細に検証するためマウスでの肺全摘モデルを確立し、遺伝子解析による機械的牽引による肺組織の成長を証明した。さらに臨床でも肺移植や肺癌患者、さらに間質性肺炎症例、漏斗胸など様々な疾患を対象に代償性肺成長に関する研究を行ってきた。3D構築ソフトでの解析なども検討している。

【雑誌論文・英文】

1. Itoh T, Kawasaki T, Kaiho T, Shikano K, Naito A, Abe M, Suzuki H, Ota M, Yoshino I, Suzuki T. Long-term nintedanib treatment for progressive pulmonary fibrosis associated with Hermansky-Pudlak syndrome type 1 followed by lung transplantation. *Respir Investig*. 2024 Jan;62(1):176-178. doi: 10.1016/j.resinv.2023.12.007. Epub 2023 Dec 27. PMID: 38154291
2. Yamanaka T, Matsui H. Modeling familial and sporadic Parkinson's disease in small fishes. *Dev Growth Differ*. 2024 Jan;66(1):4-20. doi: 10.1111/dgd.12904. Epub 2023 Dec 11. PMID: 37991125.
3. Tanaka K, Suzuki H, Yoshino I. [Management of Tracheobronchial Injuries due to Blunt Trauma]. *Kyobu Geka*. 2024 Apr;77(4):250-255. Japanese. PMID: 38644170.
4. Aoki S, Ishikawa H, Nakajima M, Yamamoto N, Mori S, Omatsu T, Tada Y, Mizobuchi T, Ikeda S, Yoshino I, Yamada S. Safety and Efficacy of Single-Fraction Carbon-Ion Radiotherapy for Early-Stage Lung Cancer with Interstitial Pneumonia. *Cancers (Basel)*. 2024 Jan 29;16(3):562. doi: 10.3390/cancers16030562. PMID: 38339314; PMCID: PMC10854500.
5. Otsuji R, Kasai H, Sugiura T, Suzuki H, Suzuki T. Evaluation of a gradually enlarging complex pulmonary arteriovenous malformation consisting of innumerable small fistulae using four-dimensional computed tomography. *BMJ Case Rep*. 2024 Feb 17;17(2):e258200. doi: 10.1136/bcr-2023-258200. PMID: 38367987; PMCID: PMC10875502.
6. Okuma Y, Shintani Y, Sekine I, Shukuya T, Takayama K, Inoue A, Okamoto I, Kiura K, Yamamoto N, Kawaguchi T, Miyaoka E, Yoshino I, Date H. Efficacy of Epidermal Growth Factor Receptor-Tyrosine Kinase Inhibitors in Metastatic Non-Small Cell Lung Cancer Patients with Poor Performance Status and Epidermal Growth Factor Receptor Mutations: Findings from the Japanese Lung Cancer Registry Database. *Clin Lung Cancer*. 2024 Feb 2:S1525-7304(24)00007-X. doi:10.1016/j.clcl.2024.01.005. Epub ahead of print. PMID: 38360497.
7. Aoki S, Ishikawa H, Nakajima M, Yamamoto N, Mori S, Wakatsuki M, Okonogi N, Murata K, Tada Y, Mizobuchi T, Yoshino I, Yamada S. Long-Term Outcomes of Ablative Carbon-Ion Radiotherapy for Central Non-Small Cell Lung Cancer: A Single-Center, Retrospective Study. *Cancers (Basel)*. 2024 Feb 25;16(5):933. doi:10.3390/cancers16050933. PMID: 38473295; PMCID: PMC10931128.
8. Yamanaka T, Sakairi Y, Sata Y, Toyoda T, Inage T, Tanaka K, Suzuki H, Matsui Y, Yoshino I. What are the risk factors for postoperative home oxygen therapy inpatients with lung cancer? *J Thorac Dis*. 2024 Feb 29;16(2):989-996. doi:10.21037/jtd-23-1539. Epub 2024 Feb 26. PMID: 38505039; PMCID: PMC10944715.
9. Chida M, Inoue T, Nakajima T, Okada Y, Oishi H, Nakajima J, Sato M, Yoshino I, Suzuki H, Nakajima D, Shintani Y, Kanou T, Toyooka S, Miyoshi K, Shiraishi T, Sato T, Matsumoto K, Nagayasu T, Hoshikawa Y, Matsuda Y, Maeda S, Date H. Effects of case volume on short- and long-term outcomes following cadaveric lung transplantation in Japan. *J Thorac Dis*. 2024 Feb 29;16(2):1473-1479. doi:10.21037/jtd-23-90. Epub 2024 Feb 1. PMID: 38505082; PMCID: PMC10944781.
10. Kaihou T, Toyoda T, Cerier E, Yagi Y, Manerikar A, Thomae BL, Kandula V, Bharat A, Kurihara C. The Risk of Pretransplant Blood Transfusion for Primary Graft Dysfunction After Lung Transplant. *Ann Thorac Surg Short Rep*. 2024 Mar 5;2(3):573-577. doi: 10.1016/j.atssr.2024.02.004. PMID: 39790394; PMCID: PMC11708632.
11. Bando M, Homma S, Date H, Kishi K, Yamauchi H, Sakamoto S, Miyamoto A, Goto Y, Nakayama T, Azuma A, Kondoh Y, Johkoh T, Nishioka Y, Fukuoka J, Miyazaki Y, Yoshino I, Suda T; Ministry of Health, Labour and Welfare, the Study Group on Diffuse Pulmonary Disorders, Scientific Research/Research on Intractable Diseases, and Japanese Respiratory Society. Japanese guidelines for the treatment of idiopathic pulmonary fibrosis 2023: Revised edition. *Respir Investig*. 2024 Mar 13;62(3):402-418. doi: 10.1016/j.resinv.2024.02.014. Epub ahead of print. PMID: 38484504.
12. Imamura Y, Nakajima D, Kanou T, Shintani Y, Sugimoto S, Toyooka S, Hoshikawa Y, Matsumoto K, Nagayasu T, Suzuki H, Maeda S, Chida M, Shiraishi T, Sato T, Sato M, Nakajima J, Oishi H, Okada Y, Date H. Effect of revised organ transplant law in Japan on lung transplantation. *Surg Today*. 2024 Apr 15. doi: 10.1007/s00595-024-02839-5. Epub ahead of print. PMID: 38619591.
13. Tane S, Okami J, Maniwa Y, Shintani Y, Ito H,

- Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T, Watanabe SI, Chida M, Endo S, Nakanishi R, Kadokura M, Suzuki H, Miyaoka E, Yoshino I, Date H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. Clinical outcomes of left upper segmentectomy vs. lobectomy for early non-small-cell lung cancer: a nationwide database study in Japan. *Surg Today*. 2024 Apr 18. doi: 10.1007/s00595-024-02844-8. Epub ahead of print. PMID: 38635057.
14. Tamura H, Suzuki H, Yamanaka T, Kaiho T, Inage T, Ito T, Tanaka K, Sakairi Y, Wada H, Yoshino I. Surgical treatment for chronic pulmonary coccidioidomycosis: a retrospective study from a single institution. *Surg Today*. 2024 Apr;54(4):325-330. doi:10.1007/s00595-023-02736-3. Epub 2023 Aug 9. PMID: 37555929.
15. Hishida T, Okami J, Asamura H, Miyaoka E, Shintani Y, Kadokura M, Endo S, Chida M, Suzuki H, Yoshino I, Date H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. Clinicopathological Features and Survival Outcomes of Resected Lung Adenosquamous Carcinoma: Results From a Nationwide Japanese Registry Data. *Clin Lung Cancer*. 2024 May 27:S1525-7304(24)00107-4. doi: 10.1016/j.clcc.2024.05.010. Epub ahead of print. PMID: 38906754.
16. Yagishita S, Goto Y, Nishio M, Akamatsu H, Hayashi H, Miura S, Tamada K, Kagamu H, Hamada A, Ohuchi M, Gemma A, Yoshino I, Misumi T, Hata A, Hara S, Kijima T, Masaki F, Iwasawa S, Nakagawa S, Tatsuno M, Mitsudomi T. Real-World Pharmacokinetics, Effectiveness, and Safety of Atezolizumab in Patients With Unresectable Advanced or Recurrent NSCLC: An Exploratory Study of J-TAIL. *JTO Clin Res Rep*. 2024 May 16;5(7):100683. doi: 10.1016/j.jtocrr.2024.100683. PMID:39091595; PMCID: PMC11293501
17. Hiroki Matsumoto, Hidemi Suzuki, Kazuhisa Tanaka, Yuichi Sakairi, Tadanaga Shimada, Noriyuki Hattori, Ichiro Yoshino. Perioperative management for patients with lung cancer on dialysis: a retrospective study. *Chiba Medical J*. 100E:21-28, 2024 doi:10.20776/S03035476-100E-3-P21
18. Mizuno T, Chen-Yoshikawa TF, Yoshino I, Okumura M, Ikeda N, Kuroda K, Maniwa Y, Kanzaki M, Suzuki M; Japanese Association for Research on the Thymus. Updated outcomes of surgical treatment for recurrent thymic tumour: a report from the Japanese nationwide database. *Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg*. 2024 Jun 5;38(6):ivae064. doi: 10.1093/icvts/ivae064. PMID: 38897650; PMCID: PMC11193311
19. Toyoda T, Kurihara C, Kaiho T, Arunachalam A, Lysne J, Thomae BL, Kandula V, Manerikar AJ, Cerier EJ, Tomic R, Budinger GRS, Bharat A. Predictors of Cytomegalovirus Recurrence Following Cessation of Posttransplant Prophylaxis. *J Surg Res*. 2024 Jul;299:129-136. doi: 10.1016/j.jss.2024.04.012. Epub 2024 May 15. PMID: 38754251.
20. Toyoda T, Thomae BL, Kaiho T, Cerier EJ, Tomic R, Budinger GRS, Bharat A, Kurihara C. Impact of bridging veno-venous extracorporeal membrane oxygenation to COVID-19 lung transplantation. *J Thorac Dis*. 2024 Jul 30;16(7):4417-4428. doi: 10.21037/jtd-24-132. Epub 2024 Jul 26. PMID: 39144296; PMCID: PMC11320280.
21. Uematsu Y, Toyoda T, Tanaka K, Sata Y, Inage T, Yukiko Matsui, Yuichi Sakairi, Hidemi Suzuki, Ichiro Yoshino. Thoracoscopic Right Upper Lobectomy for Lung Cancer with Supernumerary Tracheal Bronchus: A Case Report. *The Japan Society for Respiratory Endoscopy*. July 30, 2024;2024 Volume 2 Issue 2 Pages 60-63. DOI <https://doi.org/10.58585/respend.2023-0049>
22. Kaseda K, Asakura K, Shintani Y, Okami J, Toyooka S, Sato Y, Watanabe SI, Chida M, Suzuki H, Miyaoka E, Yoshino I, Date H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. Surgically resected sarcomatoid carcinoma of the lung: a nationwide retrospective study in 2010. *BMC Cancer*. 2024 Aug 2;24(1):938. doi: 10.1186/s12885-024-12728-2. PMID: 39095716; PMCID: PMC11295483.
23. Onozato Y, Suzuki H, Matsumoto H, Ito T, Yamamoto T, Tanaka K, Sakairi Y, Matsui Y, Iwata T, Iida T, Iizasa T, Yoshino I. Machine learning models from computed tomography to diagnose thymic epithelial tumors requiring combined resection. *J Thorac Dis*. 2024 Aug 31;16(8):4935-4946. doi: 10.21037/jtd-23-1840. Epub 2024 Aug 15. PMID: 39268145; PMCID: PMC11388251
24. Waseda R, Yamamoto H, Shintani Y, Sato T, Suzuki K, Maniwa Y, Sato Y, Yoshino I, Chida M. Preoperative risk-factors for secondary spontaneous pneumothorax surgery in Japan: a nationwide database study. *Surg Today*. 2024 Aug 27. doi: 10.1007/s00595-024-02926-7. Epub ahead of print. PMID: 39190110
25. Yamauchi Y, Sato M, Iwata T, Endo M, Ikeda N,

- Hashimoto H, Hato T, Suzuki H, Matsuguma H, Shintani Y, Kondo H, Oyama T, Azuma Y, Iida T, Sakakura N, Mun M, Asakura K, Ohtsuka T, Uehara H, Sakao Y. Survival after Lung Metastasectomy from Urothelial Carcinoma: A Multi-Institutional Database Study. *Cancers (Basel)*. 2024 Sep 29;16(19):3333. doi: 10.3390/cancers16193333. PMID: 39409952; PMCID: PMC11475196.
26. Liu X, Ren Z, Tan C, Núñez-Santana FL, Kelly ME, Yan Y, Sun H, Abdala-Valencia H, Yang W, Wu Q, Toyoda T, Milisav M, Casalino-Matsuda SM, Lecuona E, Cerier EJ, Heung LJ, Abazeed ME, Perlman H, Gao R, Chandel NS, Budinger GRS, Bharat A. Inducible CCR2+ nonclassical monocytes mediate the regression of cancer metastasis. *J Clin Invest*. 2024 Oct 1;134(22): e179527. doi: 10.1172/JCI179527. PMID: 39545417; PMCID: PMC11563681.
 27. Ochi T, Suzuki H, Sata Y, Toyoda T, Inage T, Tanaka K, Sakairi Y, Matsui Y, Shiko Y, Yoshino I. Efficacy and safety of applying oxidized regenerated cellulose sheets to the parietal pleura of open chest wounds in thoracic surgery: a prospective randomized controlled trial protocol. *J Thorac Dis*. 2024 Nov 30;16(11):8149-8155. doi: 10.21037/jtd-24-1296. Epub 2024 Nov 29. PMID: 39678868; PMCID: PMC11635273.
 28. Arunachalam A, Toyoda T, Nayak T, Jankowski M, Cerier EJ, Kaihou T, Joudi A, Mohsin S, Yeldandi A, Venkata Subramani M, Myers C, Tomic R, Bharat A, Maganti K, Kurihara C. Right Heart Recovery Post Lung Transplant With COVID-19-Related Acute Respiratory Distress Syndrome. *J Transplant*. 2024 Nov 16;2024:8483800. doi: 10.1155/2024/8483800. PMID: 39583316; PMCID: PMC11585368.
 29. Hayashi H, Nishio M, Akamatsu H, Goto Y, Miura S, Gemma A, Yoshino I, Misumi T, Kijima T, Takase N, Fujita M, Tasaka S, Mouri A, Kondo T, Takamura K, Kawashima Y, Imaizumi K, Iwasawa S, Nakagawa S, Mitsudomi T. Association between Immune-Related Adverse Events and Atezolizumab in Previously Treated Patients with Unresectable Advanced or Recurrent Non-Small Cell Lung Cancer. *Cancer Res Commun*. 2024 Nov 1;4(11):2858-2867. doi: 10.1158/2767-9764.CRC-24-0212. PMID: 39392339; PMCID: PMC11528261
 30. Kayawake H, Okami J, Shintani Y, Ito H, Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T, Watanabe SI, Asamura H, Chida M, Endo S, Kadokura M, Nakanishi R, Miyaoka E, Yoshino I, Date H; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. Predictors of nodal upstaging in clinical N1 nonsmall cell lung cancer. *Jpn J Clin Oncol*. 2024 Nov 13;hyae161. doi: 10.1093/jjco/hyae161. Epub ahead of print. PMID:39537201
 31. Wada H, Suzuki H, Toyoda T, Sata Y, Inage T, Tanaka K, Sakairi Y, Matsui Y, Yoshida S, Yoshino I. Loco-regional relapse pattern and timing after segmentectomy in patients with c-IA non-small cell lung cancer. *J Thorac Dis*. Submitted May 12, 2024. Accepted for publication Sep 23, 2024. Published online Nov 22, 2024. doi: 10.21037/jtd-24-783
 32. Akamatsu H, Koh Y, Nishio M, Goto Y, Hayashi H, Miura S, Tamada K, Kagamu H, Gemma A, Yoshino I, Misumi T, Mouri A, Saito R, Takase N, Yanagitani N, Nokihara H, Seike M, Takamura K, Mori M, Iwasawa S, Nakagawa S, Mitsudomi T. Comprehensive serum biomarker analysis reveals IL-8 changes as the only predictor of the effectiveness of immune checkpoint inhibitors for patients with advanced non-small cell lung cancer. *Lung Cancer*. 2024 Dec;198:108017. doi: 10.1016/j.lungcan.2024.108017. Epub 2024 Nov 9. PMID: 39571250
 33. Yusa J, Tanaka K, Takahashi K, Shiko Y, Sugawara T, Yoshino I, Suzuki H. Evaluating air leakage from staple line reinforcements in anatomical pulmonary resection (AIRSTOP): a prospective randomized controlled trial protocol. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*. 2024 Dec 26. doi: 10.1007/s11748-024-02111-0. Epub ahead of print. PMID: 39724298.
- 【雑誌論文・和文】**
1. 鈴木秀海. まい・てくにつく. 胸部外傷時の緊急開胸法 胸部外科. 2024;77(3):183
 2. 田中教久(千葉大学 呼吸器病態外科学), 鈴木秀海, 吉野 一郎. 【呼吸器の胸部外傷】胸部外傷でkeyとなるcase 外傷性気管・気管支損傷の治療経験. 胸部外科 (0021-5252), 77 巻 4 号 Page250-255 (2024.04)
 3. 荻田涼, 藤原大樹, 松本寛樹, 柴光年, 飯田智彦. 頸部および胸腔鏡アプローチにより完全摘出し得た嚢胞成分を伴う胸腺腫の1例. 肺癌 64 (3) 151-157, 2024.
 4. 松井由紀子, 安部光洋, 植松靖文, 小野里優希, 山本高義, 岩田剛和. 周術期にニンテグニブからピルフェニドンへ薬剤変更した特発性肺線維症合併肺癌の一切除例. 日本呼吸器外科学会雑誌 (0919-0945) 38 巻 5 号 Page446-452 (2024.07)
 5. 鈴木秀海, 植松靖文, 山中崇寛, 松本寛樹, 海寶大

輔, 佐田諭己, 畑敦, 豊田行英, 稲毛輝長, 田中教久, 坂入祐一, 和田啓伸, 千代雅子, 本橋新一郎, 吉田成利, 吉野一郎. 肺移植における拒絶反応発症のメカニズム－動物実験からみえてきたこと. 呼吸器内科 第46巻 第6号 Page606-611 (2024.12)

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 松井由紀子, 多田夕貴, 今林宏樹, 植松靖文, 清水大貴, 山中崇寛, 越智敬大, 由佐城太郎, 太枝帆高, 佐田諭己, 豊田行英, 稲毛輝長, 田中教久, 坂入祐一, 鈴木秀海, 吉野一郎. 「女性外科医をとりまく課題解決への鍵」第124回日本外科学会定期学術集会 名古屋 2024.4.18 シンポジウム
2. 豊田行英, 鈴木秀海, 海賓大輔, 八木悠里子, 吉野一郎, 栗原知多流. 「北米単施設臨床データからみたCOVID-19関連ARDS肺移植の臨床的特徴と日本での課題」第124回日本外科学会定期学術集会 名古屋 2024.4.18 シンポジウム
3. 稲毛輝長, 鈴木秀海, 川崎剛, 多田夕貴, 今林宏樹, 植松靖文, 清水大貴, 越智敬大, 山中崇寛, 由佐城太郎, 太枝帆高, 佐田諭己, 豊田行英, 田中教久, 坂入祐一, 和田啓伸, 松井由紀子, 鈴木拓児, 吉野一郎. 「本邦肺移植医療の未来像；ローボリウムセンターの役割」第41回呼吸器外科学会学術総会 軽井沢 2024.5.31 ワークショップ
4. 鈴木秀海, 吉野一郎, 新谷康, 四倉正也, 渡辺俊一, 豊岡伸一, 佐藤幸夫, 千田雅之, 伊達洋至. 「肺癌登録事業報告2024年」第41回呼吸器外科学会学術総会 軽井沢 2024.5.31 委員会
5. 佐田諭己, 多田夕貴, 今林宏樹, 植松靖文, 清水大貴, 越智敬大, 山中崇寛, 由佐城太郎, 太枝帆高, 豊田行英, 稲毛輝長, 松井由紀子, 田中教久, 坂入祐一, 鈴木秀海, 吉野一郎. 「気管支鏡検査時の咳嗽反射を抑えるコツについて」第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 大阪 2024.6.27 ワークショップ
6. 稲毛輝長, 佐田諭己, 山中崇寛, 多田夕貴, 今林宏樹, 植松靖文, 清水大貴, 越智敬大, 由佐城太郎, 太枝帆高, 豊田行英, 田中教久, 坂入祐一, 松井由紀子, 鈴木秀海, 吉野一郎. 「当院におけるEBUS-TBNA診療の実践－How to Do It」第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 大阪 2024.6.27 ワークショップ
7. 鈴木秀海, 吉野一郎, 新谷康, 四倉正也, 渡辺俊一, 川口知哉, 山本信之, 清家正博, 高橋和久, 高山浩一, 豊岡伸一, 佐藤幸夫, 千田雅之, 宮岡悦良, 服部聡, 伊達洋至. 「肺癌登録事業報告2024年」第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 大阪 2024.6.27 委員会報告
8. 田中教久, 佐田諭己, 豊田行英, 稲毛輝長, 田村創, 松井由紀子, 鈴木秀海. 「局所進行胸腺腫に対する術前導入化学療法の有効性についての検討」第65回日本肺癌学会学術集会 横浜 2024.10.31 ワークショップ
9. 鈴木秀海. 「肺癌登録事業報告2024年」第65回日本肺癌学会学術集会 横浜 2024.10.31 委員会報告
10. 鈴木秀海, 稲毛輝長, 荏田涼1, 植松靖文, 今林宏樹, 清水大貴, 越智敬大, 山中崇寛, 由佐城太郎, 佐田諭己, 豊田行英, 田村創, 松井由紀子, 千代雅子, 田中教久, 吉野一郎. 「肺移植患者の周術期管理の標準化は可能か？」第77回日本胸部外科学会定期学術集会 金沢 2024.11.1 パネルディスカッション
11. 四倉正也, 渡辺俊一, 鈴木秀海, 吉野一郎, 山本信之, 豊岡伸一, 千田雅之, 佐治久, 佐藤幸夫, 清家正博, 高橋和久, 高山浩一, 服部聡, 伊達洋至, 新谷康. 「肺癌登録合同委員会報告肺癌登録事業報告2024年」第77回日本胸部外科学会定期学術集会 金沢 2024.11.1 委員会報告

【学会発表数】

国内学会 23学会 71回（うち大学院生28回）
国際学会 4学会 10回（うち大学院生4回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「fibroblastic fociの細胞起源解明による革新的線維化抑制治療の開発」分担者：鈴木秀海 2022-2025
2. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「HER2/CD3二重特異性抗体を用いたNKT細胞療法による肺癌免疫治療の検討」分担者：鈴木秀海 2023-2026
3. 文部科学省科学研究費 若手研究「セノリティックセラピーによるドナー肺の新規移植前治療の開発」代表者：稲毛輝長 2024-2025
4. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「肺移植後の在宅呼吸機能モニタリング・解析と予測モデル開発：多施設共同研究」分担者：鈴木秀海 2024-2026
5. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「肺移植後の慢性移植肺機能不全に対する抗線維化治療の開発」代表者：鈴木秀海 2024-2026

【その他】

鈴木秀海は、各種学会で重要な役割を担い、呼吸器診療における学術的・社会的活動に従事している。

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

呼吸器悪性腫瘍を中心に、幅広い呼吸器外科診療を行っている。

対象疾患は、原発性肺癌や転移性肺腫瘍を中心とした腫瘍性疾患、気胸等の嚢胞性疾患、縦隔腫瘍、重症筋無力症、胸膜および胸壁腫瘍、先天性肺疾患（肺動静脈瘻や分画症など）、膿胸などで外科的介入を必要とする炎症性肺疾患、肺移植が必要な慢性進行性呼吸器疾患などである。

特に肺癌に関しては、半世紀以上の診療実績を元に、常に最新の治療法を取り入れている。また内視鏡診断（最新の超音波気管支内視鏡など）やインターベンションにより、正確な診断と術前評価や局所進行肺癌に対する集学的治療、早期肺癌に対するレーザー治療を高品質で行っている。安全・正確な組織採取は、術前や再発時の治療選択（分子標的治療、免疫療法など）に大きく貢献しており、常に最新の治療に対応できるため近隣施設からの紹介も多い。

呼吸器インターベンション（レーザー、ステント、ブジー、異物除去など）により、難治性気道疾患の治療を積極的に行っており、特に小児気道異物や高難易度の気管・気管支ステント留置は関東一円から紹介がある。

肺移植外来では、移植の適応評価、移植後の管理を行っている。

一般病院での対応が困難な重症例や緊急性の高い疾患（降下性壊死性縦隔炎、胸部外傷、感染性肺疾患など）、さらに慢性腎不全による維持透析、心疾患、神経難病など他臓器疾患を合併する複雑症例に対しても、集中治療部や疾患部位の各専門科との顕密な協力体制のもと、最適な診療を提供している。また、セカンドオピニオン外来を開設している。

肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜腫瘍、気胸・嚢胞性肺疾患、重症筋無力症、炎症性肺疾患、胸部外傷等に対する手術を中心とした入院加療を行っている。

集学的治療として、肺癌及び胸膜中皮腫等に対する術前術後の化学療法、放射線療法も入院で行っている。

呼吸器インターベンション技術による気管気管支腫瘍の切除、気道狭窄に対するステント治療、難治性気胸・膿胸に対する気管支塞栓術などを行っている。

中枢型早期肺癌症例に対する、光線力学的治療（PDT）による低侵襲治療を行っている。

脳死肺移植の認定施設であり、予後不良の慢性肺疾患に対する肺移植が施行可能である。これまでは肺移植を20例行い、当院の登録待機患者数も増加中である。

（手術）

2024年（令和6年）の手術総数：437例

- ・疾患内訳：原発性肺癌196例、転移性肺腫瘍35例、嚢胞性肺疾患51例、縦隔腫瘍59例、炎症性疾患（膿胸・縦隔炎など）35例、など。
- ・術式内訳：肺葉切除および区域切除199例、部分切除19例、縦隔腫瘍摘出術29例、胸壁腫瘍手術59例、肺移植1例、など。
- ・ロボット支援下手術の数が増大している。開胸で行う手術はほとんどなくなり、胸腔鏡を使用した低侵襲手術が主流となっている。また、肺機能を温存するための複雑な亜区域切除や吻合を要する形成術だけではなく、必要により積極的な拡大手術も行っている。国内でも有数の内視鏡技術を用いた正確な術前診断、科学的根拠に基づき、患者の生活の質（QOL）を重視した治療法を選択している。

（当科で可能な治療）

- ・肺癌の確定診断やリンパ節転移診断のために行う気管支鏡検査、経気管支もしくは経食道下超音波内視鏡検査。
- ・気管支・食道に接した臓器への超音波内視鏡での穿刺診断。
- ・早期肺癌に対する低侵襲胸腔鏡下・ロボット支援下手術、光線力学的内視鏡治療。
- ・局所進行肺癌症例に対する免疫療法を併用した術前化学療法、および拡大手術。
- ・術後に判明した局所進行肺癌症例に対する免疫療法や分子標的薬を併用した術後補助療法。
- ・術後再発をきたした肺癌の最新知見に基づいた抗がん剤治療。
- ・前縦隔腫瘍・重症筋無力症に対するロボット支援下手術による腫瘍切除術、胸腺摘除術。
- ・気道狭窄に対するステント留置、気道内病変に対する気管支鏡インターベンション。
- ・膿胸、難治性有癭性膿胸、急性縦隔炎に対する手術治療とそれに引き続く根治治療。
- ・肺アスペルギルス症、難治性非定型抗酸菌症、希少真菌症（肺コクシジオイデス症など）に対する手術治療。
- ・血管治療が奏功しない、もしくは適応とならない肺血管・気管支動脈の動静脈瘻に対する手術治療。
- ・予後不良な慢性肺疾患に対する肺移植。
- ・合併症リスクが高く手術困難と判断された症例（間質性肺炎合併、透析、低心機能）の手術検討と、可能と判断

した場合の積極的治療。

●地域貢献

- ・吉野一郎 千葉県がん診療連携協議会 肺がん部会 部会長、クリティカルパス・臓器別腫瘍専門部会委員、縦隔腫瘍分科会 委員
- ・鈴木秀海 肺癌診断コンソーシアム 世話人幹事 QST 病院重粒子線治療臨床研究検討会肺・縦隔腫瘍班会議委員
- 千葉県診療報酬審査委員会審査委員 日本移植学会臓器提供普及啓発 全国世話人（千葉県代表） 千葉県外科医会 幹事 千葉医学会評議員 公益財団法人ちば県民保健予防財団精度管理委員会呼吸器専門委員会委員 成田赤十字病院肺がん治療センター・センター長
- ・松井由紀子 千葉市公害健康被害報酬等審査会 千葉市公害健康被害認定審査会
- ・田中教久 県立大学講義（千葉県立保健医療大学）
- ・稲毛輝長 地域呼吸器内視鏡教育支援プログラム（EBUS-TBNA アンバサダープログラム、オリンパスマーケティング株式会社）
- ・鈴木秀海・松井由紀子・千代雅子・田中教久・稲毛輝長・豊田行英・佐田諭己 日本臓器移植ネットワーク メディカルコンサルタント委託医師
- ・連携病院への医師派遣（千葉県がんセンター、千葉医療センター、千葉労災病院、君津中央病院、国際医療福祉大学熱海病院、国際医療福祉大学成田病院、重粒子医科学センター病院、東京女子医科大学八千代医療センター、松戸市立病院、日産厚生会玉川病院、成田赤十字病院、千葉県済生会習志野病院、鎗田病院）
- ・肺癌健診の支援（君津健康センター、（財）ちば県民保健予防財団）

●その他

千葉大学呼吸器外科では、肺や気管・気管支などの一般的な呼吸器領域だけでなく、頸胸境界領域、縦隔・胸膜、横隔膜など心・大血管、食道を除く胸部臓器全般を対象としている。最も多い対象疾患は肺癌をはじめとする胸部悪性腫瘍だが、縦隔炎や膿胸といった難治性の炎症性疾患や、肺移植認定施設であるため肺高血圧症やびまん性汎細気管支炎などの内科的疾患や ECMO などの補助循環にも密接に関わっている。基礎疾患を有し、他の施設では治療が困難な症例の治療を行うことも多く、内科系診療科や集中治療科を含めた診療科連携を密に行い、手術では心臓血管外科、頭頸部外科、食道胃腸外科、形成外科、整形外科などと共同で行うこともある。また他科手術時のサポートも積極的に行っている。

我々は 21 世紀に生きる呼吸器外科医として、悪性腫瘍に対しては Surgical Oncologist のあるべき姿を追求し、さらには Academic Surgeon として癌・移植・再生医療など研究面でも大きく展開できるよう日々研鑽を積んでいる。

研究領域等名：	心 臓 血 管 外 科 学
診療科等名：	心 臓 血 管 外 科

●はじめに

近年、心臓血管疾患罹患率の増加とともに心臓血管外科手術は増加の一途をたどっています。特に病変の複雑化・重症化、高齢化、様々な合併症など、手術の危険性が高い症例が増加しており、他科と連携し総合的に診療にあたることのできる千葉大学心臓血管外科が果たす役割は大きいと考えています。完全血行再建を目指した冠動脈バイパス術、可弓的に自己弁を温存する弁形成術、心房細動に対するメイズ手術、左室形成術など、症例ごとに適応を詳細に検討して適切で質の高い外科治療を行っております。またステントグラフト手術、経カテーテル弁膜症手術の導入により開胸／開腹手術の危険性が高い患者さんに対してもより侵襲の低い治療を行うことができるようになりました。さらに重症心不全治療に関しては千葉県のセンター的機能をはたしており、外科手術に加え補助人工手術を含む種々の機械的補助循環を組み合わせた高度医療を行っています。2018年から心臓移植実施施設となっています。

●教 育

・学部教育／卒前教育

学部教育／卒前教育においては、各年次において講義および実習を行いました。

【主な講義】

「外科医の米国臨床留学」(講義)

「胸部2」(講義および実習)

3年次はユニット講義(循環器ユニット)を循環器内科の先生方と協力し循環器疾患についての教育、臨床チュートリアル(呼吸器・循環器)の循環器の一部分を担当し、循環器疾患に対する教育を行いました。

4, 5, 6年次の臨床実習では心疾患の病態生理、手術適応決定に関する理論、循環を含む全身管理に関する基礎的知識を習得のために、1組約4名の学生を4週間ずつ指導しました。受け持ち患者の術前・術後カンファレンス、手術手洗い、患者の疾患について文献を検索しレポートを作成させ、口頭試問を行いました。

また、年間を通じて豚の心臓を用いた心臓手術手技実習(WETLAB)を行っています。予約制で、1回あたり数人程度ですが、臨床解剖・心臓血管外科手術基本手技に関する実習を行いました。

・卒後教育／生涯教育

心臓血管外科では外科専門医・心臓血管外科専門医、その他各種実施医・指導医を取得するために、心臓大血管手術及び末梢血管手術を経験するカリキュラムの一環として、術前・術後カンファ、抄読会などを通じ、心臓血管外科手術の適応・手術手技・術後管理に関する教育・指導を行っています。

・大学院教育

当科所属の大学院生には通常の診療業務に加え、研究指導を行い「心臓血管外科特論」「心臓血管外科学演習」「心臓血管外科学実習」を行っています。

他科所属の博士課程卒業予定者4名の学位審査において、主査・副査を担当しました。

・その他(他学部での教育、普遍教育等)

普遍教育 生命コア「外科治療と疾患」、工学部授業「臨床医学概論」を担当しました。

●研 究

・研究内容

- ・虚血性心疾患に対する外科的治療
- ・心臓弁膜症に対する外科的治療
- ・大血管および末梢血管疾患に対する外科的治療
- ・心不全に対する外科的治療法の開発
- ・心筋虚血再還流障害の制御
- ・心臓移植における急性、慢性拒絶反応の制御
- ・心臓血管疾患の再生治療
- ・人工心臓を用いた循環制御

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Committee for Scientific Affairs, The Japanese Association for Thoracic Surgery; Matsumiya G, Sato Y, Takeuchi H, Abe T, Endo S, Hirata Y, Ishida M, Iwata H, Kamei T, Kawaharada N, Kawamoto S, Kohno K, Kumamaru H, Minatoya K, Motomura N, Nakahara R, Okada M, Saji H, Saito A, Shimizu H, Suzuki K, Takemura H, Taketani T, Toh Y, Tatsuishi W, Yamamoto H, Yasuda T, Watanabe M, Yoshimura N, Tsuchida M, Sawa Y. Thoracic and cardiovascular surgeries in Japan during 2020 : Annual report by the Japanese Association for Thoracic Surgery. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Jan;72(1):61-94.
 2. Committee for Scientific Affairs, The Japanese Association for Thoracic Surgery; Yoshimura N, Sato Y, Takeuchi H, Abe T, Endo S, Hirata Y, Ishida M, Iwata H, Kamei T, Kawaharada N, Kawamoto S, Kohno K, Kumamaru H, Minatoya K, Motomura N, Nakahara R, Okada M, Saji H, Saito A, Tsuchida M, Suzuki K, Takemura H, Taketani T, Toh Y, Tatsuishi W, Yamamoto H, Yasuda T, Watanabe M, Matsumiya G, Sawa Y, Shimizu H, Chida M. Thoracic and cardiovascular surgeries in Japan during 2021 : Annual report by the Japanese Association for Thoracic Surgery. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Feb 29.
 3. Matsuura K, Yamamoto H, Matsumiya G, Motomura N. Descriptive analysis of long-term survival after aortic valve replacement for dialysis patients: importance of renal pathologies and age. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Sep;72(9):577-584.
 4. Imamura T, Nakai M, Iwanaga Y, Sumita Y, Tao M, Ohno Y, Hayashida K, Morino Y, Seo Y, Saiki Y, Anzai T, Toda K, Matsumiya G, Yamamoto K, Hirata K, Kinugawa K; J-MITRA Investigators. Two-Year Clinical Outcome of MitraClip Transcatheter Edge-to-Edge Repair From the J-MITRA Registry Data. Circ J. 2024 Mar 25;88(4):539-548.
 5. Ito C, Kohno H, Matsuura K, Watanabe M, Inui T, Matsumiya G. Mid-term outcomes of right ventricular papillary muscle approximation for severe functional tricuspid regurgitation. Eur J Cardiothorac Surg. 2024 Mar 29;65(4):eae151.
 6. Umibe T, Nishiori H, Koizumi S, Ikeuchi H, Matsumiya G. Saccular abdominal aortic aneurysm in adolescence with tuberous sclerosis. Clin Case Rep. 2024 Mar 31;12(4):e8715.
 7. Koizumi S, Keiichi I, Sakai T, Kubota Y, Yokota H, Takaoka H, Kohno H, Matsumiya G. Cardiac Magnetic Resonance Feature Tracking Analysis for Change in Right Ventricular Function After Cardioplegic Arrest. Heart Lung Circ. 2024 Jul 3: S1443-9506(24)00629-2.
 8. Umibe T, Nishiori H, Ikeuchi H, Koizumi S, Ueda H, Matsumiya G. False lumen embolization and false lumen stent-graft techniques for ruptured post-dissection thoracoabdominal aneurysm. J Surg Case Rep. 2024 Aug 5;2024(8):rjae478.
 9. Mukasa K, Nishiori H, Ikeuchi H, Inui T, Matsumiya G. Surgical explantation of the WATCHMAN device and right atrial thrombus: a case report. J Surg Case Rep. 2024 Sep 23;2024(9):rjae601.
 10. Matsuura K, Kumamaru H, Kohsaka S, Kanda T, Kitahara H, Shimamura K, Kobayashi Y, Matsumiya G. Comparing moderate-severe and severe mitral regurgitation in transcatheter aortic valve replacement on 1-year survival: insights from a Japanese Nationwide Registry. Heart Vessels. 2024 Dec 19.
- 【雑誌論文・和文】
1. 黄野皓木, 松宮 護郎 【「各分野の進捗状況 (2023 年) 日本における重症心不全外科治療の進捗」】日本心臓血管外科学会雑誌, 2024;53 巻 3 号 : 155-157
- 【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】
1. 西織浩信 第 54 回日本心臓血管外科学会学術総会 (2024 年 2 月 24 日 静岡)「当院における EVAR 後の Open conversion の手術成績及びその工夫」
 2. 渡邊倫子 第 43 回日本心臓移植学会学術集会 (2024 年 10 月 16 日 埼玉)「当院の心臓移植治療成績の検討」
 3. 西織浩信 第 77 回日本胸部定期外科学会学術集会 (2024 年 11 月 3 日 石川)「大動脈二尖弁に対する大動脈弁形成術の遠隔成績」
 4. 伊東千尋 第 77 回日本胸部定期外科学会学術集会 (2024 年 11 月 4 日 石川)「重度三尖弁閉鎖不全症に対する右室乳頭筋間縫縮術後の成績と右心機能の変化に関する検討」
 5. 渡邊倫子 第 30 回日本臨床補助人工心臓研究会学術集会 (2024 年 11 月 14 日 栃木)「LVAD の長期予後改善に必要なことは何か」
- 【学会発表数】
- 国内学会 24 回 (うち大学院生 5 回)
国際学会 5 回 (うち大学院生 1 回)

【外部資金獲得状況】

1. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究「スマートウォッチを利用した機械学習による発作性心房細動診断アルゴリズム開発研究」代表者：乾友彦 2020-2024
2. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究「Vector flow mapping を用いた非侵襲的心拍出量測定法の開発」代表者：諫田朋佳 2020-2024
3. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「インターロイキン-11 による新規治療法の確立：投与方法とミトコンドリア保護の解明」代表者：黄野皓木 2022-2024
4. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究「腹部ステントグラフト術後血管イベントの早期予測システムの開発」代表者：渡邊倫子 2022-2024
5. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究「心筋虚血再灌流障害に関する IL-11 による心筋ミトコンドリア保護効果の解明」代表者：池内博紀 2022-2024
6. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「重症虚血性僧帽弁閉鎖不全症に対する弁下組織介入形成術の NCD 利用多施設共同研究」分担者：松宮護郎 2022-2024
7. 日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業(研究代表機関：東北大学)「高ずり応力を伴う循環器疾患に随伴する消化管血管異形成の形成・消退の実態解明」分担者：松宮護郎 2021-2028
8. 日本医療研究開発機構先進的研究開発・開発体制強化事業(研究代表機関：茨城大学)「ALL JAPAN で挑む革新的植込型小児用補助人工心臓の開発」分担者：松宮護郎 2024-2025

●診療

・外来診療・入院診療・その他(先進医療等)

【外来診療】

2024 年度の外来患者数は 2907 名でした。手術を希望する患者さんの診察や当科で手術を行った患者さんの術後の経過観察などを行っています。

【入院診療】

2024 年度の入院患者総数は 5288 名、病床数は 25 床です。ベッドマネージャーを配置し、病床稼働、入退院の調整を図り、他院からの転院患者、緊急入院を受け入れられる体制を整えています。

【その他(先進医療等)】

2018 年から心臓移植実施施設に認定され、移植を実施しています。お陰様で、移植を受けられた患者様は全員とても元気に過ごされています。

現在も植込型補助人工心臓を装着し心臓移植待機をしている患者がおり、コーディネーターと連携を図り定期的に外来にて患者の体調管理をしています。

2017 年 1 月より経カテーテル大動脈弁置換術(TAVR)を導入し、2019 年 11 月からは専門施設となり、有意なトラブルなく順調に成果をあげております。

また、2019 年 5 月には経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設に認定されました。

●地域貢献

- ・関連病院への医師派遣(千葉県総合救急災害医療センター、千葉県循環器病センター、君津中央病院、成田赤十字病院、船橋市立医療センター、千葉県済生会習志野病院、千葉県こども病院、千葉市立海浜病院)
- ・県内各地域及び近隣都県で開催される勉強会・セミナーにおいて当科医師が講演を行い、心臓血管外科の最新の診療・知見の普及とともに、病診連携および地域連携の推進に努めています。

研究領域等名：	麻 酔 科 学
診療科等名：	麻酔・疼痛・緩和医療科／緩和ケアセンター

●はじめに

「すべての患者に対する安全かつ快適な医療提供の実現」を目標に、手術麻酔、疼痛治療、緩和医療を行う。麻酔科医として高い専門能力が要求される手術麻酔において、2024年度の年間麻酔科管理症例数は7345件であった。周術期管理センターでは多職種が連携し、2024年度は6776件の予定全身麻酔患者に対して術前患者教育と全身管理を実施した。術後管理に関してはHCUでのベッド運用を継続し、常に90%前後の病床稼働率を維持した。HCUでは、とくに重症全身合併症を有する術後患者の管理に積極的に関与した。さらに、多職種による術後疼痛管理チームによる各病棟の術後疼痛管理への介入も精力的に行った。また、当科は、緩和ケアセンター（緩和ケア支援チーム、緩和ケア相談外来）においても活動の中心となっている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

麻酔科学全般にわたる講義、実習、研修を通して、基礎医学の知識を臨床医学へ応用することの有用性と、麻酔科学の重要性の理解を目指している。医学部4年次の麻酔・救急ユニット講義では、様々な合併症を有する患者症例に対してグループごとに麻酔計画を立てて発表する参加型の授業を実施した。医学部5、6年次の臨床実習では、手術室での麻酔見学や実習の他、シミュレーションを用いた全身管理・気道管理の学習やペインクリニック外来・緩和病棟や千葉県がんセンターにおいて緩和ケアについての実習を行った。6年次の学内選択実習学生には担当麻酔科医とマンツーマンで麻酔計画の相談や実際の麻酔管理の経験を得られるよう指導を行っている。

・卒後教育／生涯教育

麻酔科選択の初期研修医に対しては、手術患者に対する全身麻酔の実施や循環・呼吸管理を指導し、緩和医療プログラム選択者には、治療することが困難な疾患をもつ患者及び家族のQOL向上を目的とした緩和医療を学ぶための研修を行っている。専攻医に対しては全身合併症を有する患者の麻酔管理や産科麻酔・小児麻酔・心臓血管外科麻酔などの特殊麻酔に加え、集中治療・ペインクリニック・緩和医療研修など積極的な指導を行っている。日々の担当麻酔症例のプレゼンテーションに加え、勉強会では麻酔の基礎から特殊麻酔、疼痛管理や緩和医療、統計学など専門医が講義している。抄読会では最新の論文についてプレゼンテーションを行い、活発な意見交換を行っている。

・大学院教育

12名の大学院生がPhysician Scientistを目指し、麻酔科学、呼吸生理・気道管理、非心臓手術の術後心筋障害、疼痛科学や緩和医療に関連する臨床研究、および基礎研究を精力的に行っている。各自が麻酔の臨床において問題意識を持った研究テーマに対し、臨床医学の進歩に結びつくような研究モデルの計画、実行を目指している。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

他学部教育では看護学部2年次で麻酔科学の講義を担当している。また耳鼻専門職連携教育（IPE）に積極的に協力している。日本麻酔科学会等の麻酔関連学会において評議員や学術会議のシンポジストなど中心的な役割を担っている。

●研 究

・研究内容

生理学的・薬理学的手法を用いた臨床研究と基礎研究を行っている。臨床研究では全身麻酔導入時と全身麻酔覚醒時の気道管理の安全性向上を目的とした研究などを積極的に行っている。基礎研究では当科で開発したマウスへの気管挿管器具を用いて麻酔下自発呼吸マウスのモデルを確立し、異なる麻酔薬や生理学的負荷や薬剤を投与して呼吸リズムの変化や循環呼吸動態についての研究を進めている。特にgaspingsなど従来研究が困難とされていた呼吸リズムに注目し、そのメカニズムを研究している。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Hasegawa-Moriyama M, Morioka Y, Hiroi S, Naya N, Suzuki Y, Koretaka Y, Hara E, Abe H, Uchida K, Sumitani M. High prevalence of severe pain is associated with low opioid availability in patients with advanced cancer: Combined database study and nationwide questionnaire survey in Japan. *Neuropsychopharmacol Rep*. 2024 Sep;44(3): 502-511.
2. Son K, Tarao K, Daimon M, Yoshii T, Nakagomi A, Hasegawa-Moriyama M. Preoperative echocardiography and anesthetic drugs as predictors of post-induction hypotension during general anesthesia: a prospective observational study. *Sci Rep*. 2024 Oct 28;14(1):25717. doi: 10.1038/s41598-024-76279-z. PMID: 39468124; PMCID: PMC11519647.
3. Tarao K, Son K, Ishizuka Y, Nakagomi A, Hasegawa-Moriyama M. Impact of zero-positive end-expiratory pressure on blood transfusion rates in off-pump coronary artery bypass surgery: a retrospective cohort study. *BMC Anesthesiol*. 2024 Dec 19;24(1):461. doi: 10.1186/s12871-024-02853-7. PMID: 39695985; PMCID: PMC11657985.
4. Takai, Hiromichi MD; Nozaki-Taguchi, Natsuko MD, PhD; Shono, Koyo MD, PhD; Sato, Yasunori PhD; Isono, Shiroh MD, PhD. Relationship Between Patient-reported Outcome Measures and Accelerometer-measured Physical Activity and Sleep in Patients With Postherpetic Neuralgia. *The Clinical Journal of Pain* 2024 年 9 月第 40 巻第 9 号 520-525 ページ
5. Fumihiro Yoshikawa, Natsuko Nozaki-Taguchi, Ayumi Yamamoto, Nozomi Tanaka, Aika Tanzawa, Katsuhiko Uzawa, Shiroh Isono. Preoperative sleep-disordered breathing and craniofacial abnormalities are risk factors for postoperative sleep-disordered breathing in patients undergoing skin-flap oropharyngeal reconstruction surgery for oral cavity cancer: a prospective case-control study. *Sleep Breath*. 2024 May;28(2):797-806.
6. Yoshimura A, Nozaki-Taguchi N, Suganuma D, Sakashita Y, Fujisato M, Isono S. Respiratory Effects of Benzodiazepine in Patients with Advanced-Stage Cancer Receiving Opioid Analgesics: A Prospective Observational Study. *Palliative Medicine Reports* 2024;5(1):399-407

【雑誌論文・和文】

1. 竹生浩人、橋田真由美、鐘野弘洋、田口奈津子. 「エ

- ゴグラムを用いた慢性一次性疼痛患者と慢性二次性疼痛患者の性格特性に関する調査：横断的研究」日本ペインクリニック学会誌. 2024 年, 31 巻, 9 号, p.189-194
2. 重症僧帽弁閉鎖不全症を合併した Löffler 心内膜炎患者の一例 張本 英男, 孫慶淑, 横田 堇, 山田 高之, 山地 芳弘, 坂口 雄一 *Cardiovascular Anesthesia* 2024 年 28 巻 1 号 p.141-145
 3. アルガトロバン使用下での IMPELLA 交換時に血栓閉塞をきたし再入れ替えを要した一例 久松成史, 石川秀爾, 石塚祐成, 孫慶淑 *Cardiovascular Anesthesia* 28 (Suppl.) 253-253 2024 年 9 月
 4. 長谷川麻衣子, 森岡靖英, 廣居伸蔵, 納谷憲幸, 鈴木 ゆら, 惟高裕一, 原瑛里奈, 阿部博昭, 内田寛治, 住谷昌彦 進行がん患者における重度の疼痛を訴える割合はオピオイドの低い利用と関連している日本におけるデータベース研究と全国アンケート調査の複合解析 (二次出版) *新薬と臨牀* 73 巻 11 号 Page1209-1227 (2024.11)
 5. 上里昌也, 松村倫明, 奥山めぐみ 内視鏡診療を含めた侵襲的処置に対する安全かつ持続可能な鎮静法への多職種による院内標準化の試み *日本消化器がん検診学会雑誌* 2024 年, 62 巻
 6. 松村倫明, 上里昌也, 奥山めぐみ, 沖本謙一郎, 加藤順 内視鏡室における非麻酔科医によるプロポフォルを用いた鎮静標準化への取り組み *Progress of Digestive Endoscopy* 2024 年 106 巻

【単行書】

1. 長谷川麻衣子 *臨床麻酔* 2024 年 10 月号 巻頭言
2. 長谷川麻衣子 *麻酔* 2025 年 1 月号 巻頭言
3. 長谷川麻衣子 *関東医事新報* 2025.3.25

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. 長谷川麻衣子 ランチョンセミナー 第 37 回日本老年麻酔学会 高齢者の術中体温管理 2025.2.15・日光
2. 長谷川麻衣子 シンポジウム 第 46 回日本疼痛学会 痛みと免疫－臨床の立場から－ 2024.11.17・東京
3. 長谷川麻衣子 特別講演 栃木麻酔・集中治療セミナー 2024.11.29 栃木
4. 長谷川麻衣子 講演 いのはな同門会東京支部で講演 2025.11.18 東京
5. 長谷川麻衣子 講演 東京大学麻酔科 2025.1.11 東京
6. 山地 芳弘 予期される DAM における待機的 ECMO 日本麻酔科学会 2024 年 6 月 7 日 神戸ポートピアホテル
7. 奥山めぐみ Education and practical training

system of sedation for non-anesthesiologists. – Our challenging pursuit of safe and sustainable goal-
International Conferense on Anesthesia patient Safety 2024年2月9-11日、京王プラザホテル(新宿)

【学会発表数】

国内学会 6学会 13回(うち大学院生0回)

国際学会 1学会 1回(うち大学院生0回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「周術期免疫抑制が神経活動へ及ぼす影響と術後認知障害の関連の解明」代表者：長谷川麻衣子 2022-2025
2. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「血液脳関門および軸索損傷バイオマーカーを用いた術後せん妄の病態解明と評価法の開発」分担者：長谷川麻衣子 2022-2025
3. 文部科学省科学研究費 基盤(若手)「術中高二酸化炭素血症の周術期心筋傷害発症予防効果に関する研究」代表者：孫慶淑 2023-2025
4. 文部科学省科学研究費 基盤(若手)「マスク換気困難のメカニズムの解明とマスク人工呼吸法の改善の研究」代表者：奥山めぐみ 2020-2025
5. 文部科学省科学研究費 基盤(若手)「スガマデクス投与による声門狭窄発生のメカニズム：ランダム化比較試験」代表者：石橋克彦 2020-2024
6. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「ウェアラブル端末を用いた患者のADL客観的評価を慢性疼痛治療

指標とする試み」代表者：高井啓有 2022-2024

7. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「咽頭浮腫と喉頭浮腫を区別可能なカフリークテスト(CLP)の開発と臨床応用」代表者：山田高之 2022-2024
8. 文部科学省科学研究費 基盤(若手)「麻酔下成熟マウスにおけるセボフルラン誘発性 gasping の体温変化による影響の検討」代表者：泰地沙季 2023-2025
9. 文部科学省科学研究費 基盤(若手)「非心臓手術後心筋障害と重症閉塞性睡眠時無呼吸の関連性とその病態解明」代表者：山地芳弘 2024-2026
10. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「自発呼吸下挿管マウスを用いた sigh の発生機序と生理学的意義の解明」代表者：橋田真由美 2024-2026
11. 文部科学省科学研究費 基盤(若手)「ウイルス感染症後遺症による神経炎症の分子機構の解明」代表者：神久予 2022-2025

【受賞歴】

1. 石橋克彦 日本麻酔科学会学術集会 呼吸部門 最優秀演題賞
2. 石塚祐成 日本区域麻酔学会第11回学術集会 優秀演題

【特 許】

1. 長谷川麻衣子 特開 2025-120553 せん妄判定方法

【その他】

- ・奥山めぐみ 日本呼吸器内視鏡学会「呼吸器内視鏡診療における鎮静に関する安全指針」外部委員

●診 療

・外来診療・入院診療・その他(先進医療等)

(麻酔法別統計)

麻酔科管理症例 7345件、全身麻酔(吸入) 3987件、全身麻酔(TIVA; 完全静脈麻酔) 1505件、全身麻酔(吸入) + 硬膜外・脊髄くも膜下麻酔、伝達麻酔 879件、全身麻酔(TIVA) + 硬膜外・脊髄くも膜下麻酔、伝達麻酔 405件、脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA) 171件、脊髄くも膜下麻酔 176件、伝達麻酔 82件、静脈内鎮静法 9件、その他 131件

(外来診療)

のべ患者数：2600名、新患患者数：224名(うち緩和ケア外来62名)、緩和ケア相談外来：311名。ペインクリニック外来：2289名

(ペインクリニック疾患別新患数)

癌性疼痛：7名、帯状疱疹痛・帯状疱疹後神経痛：49名、三叉神経痛：7名、筋骨格系疼痛：19名、顔面痛・頭痛：4名、CRPS(I, II)：1名、四肢血行障害：4名、外傷性疼痛障害：2名、慢性術後疼痛：14名、その他：54名(入院診療)病床数4床、緩和ケア入院45名

(がん疼痛に対するブロック)

持続硬膜外カテーテル 1件、腹腔神経叢ブロック 1件、サドルブロック 1件、脊髄くも膜下フェノールブロック 2件、脊髄くも膜下カテーテル 1件

(臓器移植麻酔件数)

心臓移植 4件

脳死肺移植 1件、生体肺移植 0件

脳死肝移植 0件、生体肝移植 2件

●地域貢献

- ・長谷川麻衣子 講演 第10回タムスグループ地域連携講演会 2024.11.26 千葉
- ・長谷川麻衣子 講演 テルモ講演会 2024.12.11 千葉
- ・長谷川麻衣子 WEB サイト監修 第一三共ヘルスケア くすりと健康の情報局
- ・橋田真由美 2024年度千葉大学主催緩和ケア研修会 ファシリテーター (2024/11/23)
- ・田口奈津子 九十九里がん治療セミナー「難治性がん疼痛治療戦略」神経ブロックという“いち”選択肢 2024/10/16
- ・田口奈津子 第15回 Majo の会 麻酔科医が緩和医療に関わること 東京 2024/3/9

●その他

(気道管理)

術前の睡眠検査や周術期の困難気道外来など独自の周術期の気道管理方法を確立し、日本麻酔科学会気道管理ガイドライン (JSA-AMA) 作成に大きく貢献している。

(安全な鎮静のための研修)

病院内の鎮静法の安全性を向上する目的で、医療安全管理部と協働し、院内鎮静ガイドラインと教育用動画を作成した。院内で鎮静に関わる職員に対して、全身麻酔患者での気道確保、マスク換気研修の指導を行い、院内鎮静の安全性向上に寄与している。

研究領域等名：	病 態 病 理 学
診療科等名：	_____

●はじめに

病態病理学は、千葉大学大学院の医学研究院中核研究部門、消化器治療学研究講座に所属し、病理学領域を担当する研究領域である。肝・胆・膵や消化管など消化器系疾患の病理組織学的解析、腫瘍の浸潤・転移および分化形質の制御機構について研究している。さらに、附属病院病理部の臨床病理診断業務、病理解剖業務、および医学部・大学院学生の病理学教育を行っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

病理学総論講義・実習（炎症、アレルギー、自己免疫疾患）を行った。

病理学各論講義・実習（消化器、腎・泌尿器、乳腺、男性生殖器、女性生殖器、骨・軟部組織）を行った。

スカラシッププログラムにて1年生4名、2年生4名、3年生4名を担当した。スカラシップアドバンスとして日本病理学会の学生発表を指導した。

・卒後教育／生涯教育

病理解剖症例の臨床病理カンファレンス（CPC）を通じて、初期／後期研修医に対して専門的な指導を行っている。

●研 究

・研究内容

消化管腫瘍、主に腺癌の浸潤転移、分化形質の変化に関する基礎的および臨床病理学的研究を行っている。

- 1) AFP産生腺癌の肝様分化獲得のメカニズムおよび肝細胞形質獲得にともなう悪性形質の変化
- 2) 胆道腫瘍や膵腫瘍に関する病理学的研究
- 3) 消化器癌の間質浸潤部における基底細胞様分化
- 4) ステロイド刺激による膵癌細胞形質の変化とその意義

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Kouchi Y, Sakai N, Harada-Kagitani S, Eto R, Mishima T, Takano S, Nasu K, Ikeda JI, Ohtsuka M, Kishimoto T. SMARCB1-deficient malignant neoplasm of the pancreas with heterogeneous morphologies that cannot be classified into existing histologic types. *Pathol Int.* 2024;74:691-696.
2. Harada-Kagitani S, Kouchi Y, Shinomiya Y, Kodama M, Ohira G, Matsubara H, Ikeda JI, Kishimoto T. Keratin 6A Is Expressed at the Invasive Front and Enhances the Progression of Colorectal Cancer. *Lab Invest.* 2024;104:102075.
3. Shinomiya Y, Kouchi Y, Harada-Kagitani S, Ishige T, Takano S, Ohtsuka M, Ikeda JI, Kishimoto T. ECM1 and KRT6A are involved in tumor progression and chemoresistance in the effect of dexamethasone on pancreatic cancer. *Cancer Sci.* 2024;115:1948-1963.
4. Harada-Kagitani S, Kouchi Y, Shinomiya Y, Hiramoto T, Arai T, Hanazawa T, Onodera K, Nakama K, Aihara T, Ota M, Ikeda JI, Kishimoto T. Cystic primary squamous cell carcinoma of the thyroid. *Pathol Int.* 2024;74(5):292-294.
5. Tamura K, Ito K, Kishimoto R, Yoshida K, Kishimoto T, Obata T, Yamaguchi T. The Effect of Steatosis on Shear-Wave Velocity and Viscoelastic Properties Related to Liver Fibrosis Progression in Rat Models. *Ultrasound Med Biol.* 2024;50:592-599.
6. Mishima T, Takano S, Takayashiki T, Kuboki S, Suzuki D, Sakai N, Hosokawa I, Konishi T, Nishino H, Nakada S, Kouchi Y, Kishimoto T, Ohtsuka M. Serum elastase-1 predicts malignancy in intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. *Pancreatol.* 2024;24:93-99.
7. Kan M, Kouchi Y, Ohyama H, Usui G, Fukuyo M, Takano S, Kishimoto T, Kaneda A, Ohtsuka M, Kato N. Genomic Analysis of Undifferentiated Carcinoma of the Pancreas with Squamous Differentiation: A Case Report. *Cureus.* 2024;16:e55175.
8. Shinomiya Y, Kouchi Y, Onodera K, Yamamoto H, Harada-Kagitani S, Sakakibara J, Nagashima T, Ikeda JI, Kishimoto T. Imprint Cytology of Tall Cell Carcinoma with Reversed Polarity of the Breast: A Case Report. *Acta Cytol.* 2024;68:73-79.

【学会発表数】

国内学会 16 回（うち大学院生 0 回）
国際学会 0 回（うち大学院生 0 回）

【外部資金獲得状況】

1. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究「クロモスリプシスに着目した篩状腺癌の分子基盤や新規バイオマーカー、治療標的の開発」代表者：高地 祐輔 2024 年 4 月－2026 年 3 月

●診 療**・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）**

外来診療は行っていないが、千葉大学医学附属病院病理部において外来患者の病理診断業務を行っている。
入院診療は行っていないが、千葉大学医学附属病院病理部において入院患者の病理診断業務を行っている。

●地域貢献

千葉県内の病院から依頼される病理解剖を行っている。

●その他

重粒子線治療多施設共同臨床研究組織（J-CROS）膵腫瘍分科会委員を担当している。

研究領域等名：	消化器内科学
診療科等名：	消化器内科

●はじめに

消化器内科は、肝・胆膵・消化管の3つの診療グループに分かれ、各グループが連携しながら外来・入院診療を行っている。診療ガイドラインに基づく**エビデンスに基づいた医療（EBM）**を提供するのみならず、治験や医師主導臨床試験にも積極的に参画している。また、千葉県肝疾患相談センターの運営を担い、県民に対する専門的支援と情報発信を行っている。研究面では、悪性腫瘍や難治性消化器疾患を対象としたトランスレーショナルリサーチを推進し、新規治療法の開発に取り組んでいる。県内外に複数の連携施設を有し、医療連携の強化とともに研究アライアンスミーティングを定期的に開催し、多施設共同研究を展開している。教育面では、教育チームを組織し、専攻医の研修手技の均一化と早期習得を図る体制を整備している。働き方改革では、秘書や技術補佐員の雇用によるタスクシフトを進めるとともに、多職種による定期ミーティングを通じて業務の効率化と負担軽減を推進している。さらに、カンファレンスを朝の時間帯に実施するなど勤務時間の見直しを行い、時間外勤務の削減にも取り組んでいる。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部教育においては消化器内科の教育として3年次学生に対する消化器・栄養ユニットを6コマ担当した。臨床テュートリアル、医師見習い体験、IPE、OSCE 評価者を担当した。4、5年次学生に対して臨床実習Ⅰでは1グループ3週間のクリニカルクラークシップの指導を行い、各グループ10～12名の学生を担当した。教育チームを編成し、レクチャー、回診、カンファレンス参加、エコーや内視鏡、血管造影などの検査・治療見学、アテンディング回診、レポート作成等を指導した。実習終了時に全学生へアンケートを実施し改善を図っている。医学部6年次生に対して臨床実習Ⅱでは院内選択型実習、アスパイアプロジェクトを担当した。

・卒後教育／生涯教育

初期研修医のローテーション研修の受け入れを行った。令和6年度は専攻医が7名入局し、学内・学外での研修を行った。指導教官と大学院生が中心となって、日々の臨床指導を行うとともに、疾患別カンファレンス、画像カンファレンス、入退院カンファレンス、症例検討会を通じ、症例プレゼンテーションの機会を多くし、専門的な指導を行っている。また、当診療科の特徴として、内視鏡、腹部超音波、レントゲンを使用した検査、処置を数多く行っており、手技をできるかぎり体験できるよう配慮している。腹部エコーや内視鏡等の基本手技について習得状況の評価を行っている。学会での発表や症例報告を中心とした論文執筆の指導も併せて行っている。学外の専攻医に対しても消化器内科独自の研修手帳を作成し、手技の早期取得を目指している。生涯教育においては、研修登録医が内視鏡検査の研修を行っており、画像読影の知識・技術習得に勤しんでいる。また、千葉県医師キャリアアップ・就職支援センター主催の腹部エコーハンズオンセミナーの講師を当科医師が務めた。

・大学院教育

修士課程、博士課程の学生を対象とした先端生命科学特論、先端治療学特論、病態制御治療学特論Ⅱ、難治性疾患診断学特論において消化器疾患に関する講義を担当した。所属する博士課程の大学院生については、肝臓疾患、胆道・膵疾患、消化管疾患の3つの研究グループに分かれ、それぞれ基礎研究、臨床研究を進めている。

専攻を決定し専門領域での診療に従事すると同時に各専門グループの指導医の元で研究を開始し、4年生の終了時まで論文をまとめ、博士課程の学位を取得する。研究に関しては定期的に開催しているカンファレンスに出席して成果を確認するとともに、学会発表や学術誌への論文投稿を行う。2024年度は13名が博士課程を修了し学位（医学博士）を授与された。2024年度は2名の留学生を受け入れ、計3名の留学生が博士課程に在籍した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

薬学部学生を対象にした疾病学Ⅰ／Ⅱ、腫瘍制御学において、消化器疾患に関する講義を担当した。

大学院生を対象とした薬物療法情報学特論を担当した。幕張総合高校での講義を担当した。

●研究

・研究内容

消化器癌や難治性慢性疾患に対する臨床研究、基礎研究を行っており、具体例を以下に示す。進行肝細胞癌における大血管侵襲の評価法と治療成績を多施設データベースで解析し、治療選択と予後層別化に資する指針を提案した。さらに、進行期肝細胞癌に対する多様な治療法の組合せによる画像的 CR (cancer-free) 達成と持続性を検討し、実臨床における治療戦略の最適化に示唆を与えた。内視鏡領域では、拡大観察と色調強調内視鏡を併用した新規診断法を開発し、Crystal Violet の代替可能性と診断精度を検証した。潰瘍性大腸炎において新規画像強調内視鏡所見が寛解維持予測に有用であることを明らかにし、個別化モニタリング戦略に貢献した。さらに、胃食道逆流症に対する異常酸逆流を予測する機械学習モデルを構築し、非侵襲的スクリーニング法としての実用性を示した。炎症性腸疾患および慢性肝疾患に関する多施設共同前向き長期観察研究を継続している。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Akizue N, Okimoto K, Matsumura T, Matsusaka K, Inaba Y, Horio R, Takahashi S, Goto C, Kurosugi A, Sonoda M, Kaneko T, Ohta Y, Taida T, Kato J, Ikeda JI, Kato N. Utility of prophylactic clipping after colorectal cold snare polypectomy in patients on oral antithrombotic agents. *Gastrointest Endosc.* 2024 May;99(5):826-829.e3.
2. Ishikawa T, Tashima T, Muramatsu T, Mashimo Y, Ryozaawa S. Endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal cancer with ulcer scarring using a combination of pocket creation, gel immersion, and red dichromatic imaging. *Endoscopy.* 2024 Dec;56(S 01):E87-E88.
3. Takahashi K, Ohyama H, Takiguchi Y, Kan M, Ouchi M, Nagashima H, Okitsu K, Ohno I, Kato N. Penetration of duodenal wall by proximal end of biliary straight plastic stent in a patient with ampullary carcinoma. *DEN Open.* 2024 Jan 22;4(1):e337.
4. Taida T, Kato J, Ishikawa K, Akizue N, Ohta Y, Okimoto K, Saito K, Matsusaka K, Matsumura T, Kato N. Severe ulcerative colitis induced by COVID-19 vaccination. *Clin J Gastroenterol.* 2024 Jun;17(3):447-450.
5. Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Takiguchi Y, Kato N. Parathyroid Hormone-Related Peptide-Producing Gallbladder Cancer Presenting With Humoral Hypercalcemia of Malignancy: A Case Report. *Cureus.* 2024 Jan 25;16(1):e52951.
6. Shiratori W, Ohta Y, Matsusaka K, Ohyama Y, Mamiya Y, Nakazawa H, Takahashi S, Horio R, Goto C, Sonoda M, Kurosugi A, Kaneko T, Akizue N, Ishigami H, Taida T, Okimoto K, Saito K, Matsumura T, Shiko Y, Ozawa Y, Kato J, Ikeda J, Kato N. Differences in mucosal permeability among patients with ulcerative colitis classified based on the colonic location and disease activity. *Clin Transl Gastroenterol.* 2024 May 1;15(5):e00692.
7. Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Takiguchi Y, Kato N. Asymptomatic Pneumoperitoneum With a Large Amount of Gas Appeared During Endoscopic Ultrasound-Guided Biliary Drainage. *Cureus.* 2024 Feb 16;16(2):e54330.
8. Kan M, Kouchi Y, Ohyama H, Usui G, Fukuyo M, Takano S, Kishimoto T, Kaneda A, Ohtsuka M, Kato N. Genomic Analysis of Undifferentiated Carcinoma of the Pancreas with Squamous Differentiation: A Case Report. *Cureus.* 2024 Feb 28;16(2):e55175.
9. Kaneko T, Iwamura C, Kiuchi M, Kurosugi A, Onoue M, Matsumura T, Chiba T, Nakayama T, Kato N, Hirahara K. Amphiregulin-producing TH2 cells facilitate esophageal fibrosis of eosinophilic esophagitis. *J Allergy Clin Immunol Glob.* 2024 Jun 4;3(3):100287.
10. Fujiwara K, Kondo T, Fujimoto K, Yumita S, Ogawa K, Ishino T, Nakagawa M, Iwanaga T, Tsuchiya S, Koroki K, Kanzaki H, Inoue M, Kobayashi K, Kiyono S, Nakamura M, Kanogawa N, Ogasawara S, Nakamoto S, Chiba T, Koizumi J, Kato J, Kato N. Clinical risk factors for portal hypertension-related complications in systemic therapy for hepatocellular carcinoma. *J Gastroenterol.* 2024 Jun;59(6):515-525.
11. Miura Y, Ohyama H, Mikata R, Hirotsu Y, Amemiya K, Mochizuki H, Ikeda J, Ohtsuka M, Kato N, Omata M. The efficacy of bile liquid biopsy in the diagnosis and treatment of biliary tract cancer. *J Hepatobiliary Pancreat Sci.* 2024 May;31(5):329-338.
12. Ohyama H, Hirotsu Y, Amemiya K, Amano H, Hirose S, Oyama T, Iimuro Y, Kojima Y, Mikata R, Mochizuki H, Kato N, Omata M. Liquid biopsy of wash samples obtained via endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy: Comparison with liquid biopsy of plasma in pancreatic cancer. *Diagn Cytopathol.* 2024 Jun;52(6):325-331.

13. Takahashi S, Okimoto K, Matsumura T, Oyama Y, Nakazawa H, Mamiya Y, Goto C, Horio R, Kurosugi A, Sonoda M, Kaneko T, Akizue N, Ohta Y, Taida T, Saito K, Kato J, Kato N. Characteristics of factors contributing to follow-up for suspect delayed bleeding after colorectal endoscopic submucosal dissection. *Gastrointest Endosc.* 2024 Oct;100(4): 718-727.
14. Okimoto K, Matsumura T, Akizue N, Ohta Y, Taida T, Kato J, Kato N. Novel self-assembling peptide for management of bleeding associated with colorectal angiodysplasia. *Endoscopy.* 2024 Dec;56(S 01):E412-E413.
15. Akizue N, Okimoto K, Matsumura T, Matsusaka K, Kato J, Kato N. Gel immersion EMR for hemorrhagic gastric hyperplastic polyp. *VideoGIE.* 2024 Mar 26;9(7):324-325.
16. Oike T, Akizue N, Ohta Y, Koseki H, Saito M, Yokoyama Y, Imai Y, Taida T, Okimoto K, Saito K, Ogasawara S, Matsumura T, Nakagawa T, Arai M, Katsuno T, Fukuda Y, Kitsukawa Y, Kato J, Kato N. Efficacy and safety of biosimilar infliximab in bio-naïve patients with Crohn's disease. *Arab J Gastroenterol.* 2024 Aug;25(3):257-262.
17. Matsumura T, Sonoda M, Okimoto K, Dao HV, Takahashi S, Akizue N, Horio R, Goto C, Kurosugi A, Kaneko T, Ohta Y, Taida T, Kikuchi A, Fujie M, Kato J, Kato N. Differences Between Patients with Heartburn Refractory to Vonoprazan and Those Refractory to Proton Pump Inhibitors. *Dig Dis Sci.* 2024 Jun;69(6):2132-2139.
18. Iwasaki M, Okimoto K, Akizue N, Ota Y, Taida T, Matsumura T, Kato J, Kato N. Underwater modified strip biopsy for colorectal polyp invading into the appendiceal orifice. *VideoGIE.* 2024 Mar 26;9(7):344-347.
19. Inoue M, Ogasawara S, Kobayashi K, Okubo T, Itokawa N, Obu M, Fujimoto K, Unozawa H, Yumita S, Fujiwara K, Nakagawa M, Kanzaki H, Koroki K, Kiyono S, Nakamura M, Kanogawa N, Kondo T, Nakamoto S, Nagashima K, Itobayashi E, Atsukawa M, Koma Y, Azemoto R, Kato N. Assessment of Macrovascular Invasion in Advanced Hepatocellular Carcinoma: Clinical Implications and Treatment Outcomes with Systemic Therapy. *Liver Cancer.* 2024 May 21;14(1):8-18.
20. Okimoto K, Matsumura T, Matsusaka K, Ohta Y, Taida T, Kato J, Kato N. Successful closure of large mucosal defect with novel anchor-pronged clip after gastric endoscopic submucosal dissection. *Endoscopy.* 2024 Dec;56(S 01):E534-E535.
21. Fujimoto K, Kondo T, Unozawa H, Koizumi J, Kato N. First Experience With the Utility of ReMAP (Repeatable Microcatheter Access Port) in Portal Vein Stenting. *Cureus.* 2024 Apr 18;16(4):e58530.
22. Sonoda M, Matsumura T, Dao HV, Shiko Y, Do PN, Nguyen BP, Okimoto K, Akizue N, Ohyama Y, Mamiya Y, Nakazawa H, Takahashi S, Horio R, Goto C, Kurosugi A, Kaneko T, Ohta Y, Saito K, Taida T, Kikuchi A, Fujie M, Kato J, Dao LV, Kato N. A prediction model of abnormal acid reflux in gastroesophageal reflux disease. *J Gastroenterol Hepatol.* 2024 Sep;39(9):1847-1855.
23. Kobayashi K, Ogasawara S, Itobayashi E, Okubo T, Itokawa N, Nakamura K, Moriguchi M, Watanabe S, Ikeda M, Kuroda H, Kawaoka T, Hiraoka A, Yasui Y, Kuzuya T, Sato R, Kanzaki H, Koroki K, Inoue M, Nakamura M, Kiyono S, Kanogawa N, Kondo T, Nakamoto S, Ozawa Y, Tsuchiya K, Atsukawa M, Aikata H, Aramaki T, Oka S, Morimoto N, Kurosaki M, Itoh Y, Izumi N, Kato N. Ramucirumab for advanced hepatocellular carcinoma in the current real world: A Japanese single-arm study post-REACH-2 (The R-evolution Study). *Invest New Drugs.* 2024 Aug;42(4):394-404.
24. Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Kato N. Tardive Peritonitis After Endoscopic Ultrasound-Guided Pancreatic Pseudocyst Drainage: A Case Report. *Cureus.* 2024 May 13;16(5):e60179.
25. Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Kato N. Stent Deployment Without Tract Dilation in Endoscopic Ultrasound-Guided Hepaticogastrostomy Using a Novel Partially Covered Metal Stent With a Super-Slim Stent Delivery System: A Case Report. *Cureus.* 2024 May 16;16(5):e60406.
26. Okimoto K, Matsumura T, Akizue N, Takahashi S, Horio R, Goto C, Kurosugi A, Sonoda M, Kaneko T, Ohta Y, Taida T, Saito K, Matsusaka K, Kato J, Ikeda JI, Kato N. Intensive triamcinolone acetone injection regimen can highly prevent stricture after extensive esophageal endoscopic submucosal dissection. *Scand J Gastroenterol.* 2024 Aug;59(8): 996-1001.
27. Okimoto K, Matsumura T, Matsusaka K, Ohta Y, Taida T, Kato J, Kato N. Successful prevention of balloon dilatation after complete circumferential endoscopic submucosal dissection including long-segment Barrett's esophagus. *Endoscopy.* 2024 Dec;56(S 01):E582-E583.

28. Kurosugi A, Matsumura T, Sonoda M, Kaneko T, Takahashi S, Okimoto K, Akizue N, Ohyama Y, Mamiya Y, Nakazawa H, Horio R, Goto C, Ohta Y, Taida T, Kikuchi A, Fujie M, Murakami K, Uesato M, Ozawa Y, Kato J, Matsubara H, Kato N. Two Onset Types of Achalasia and the Long-Term Course to Diagnosis. *Esophagus*. 2024 Oct;21(4):546-551.
 29. Taida T, Ohta Y, Saito K, Okimoto K, Matsumura T, Kato J, Kato N. Endoscopic ischemic polypectomy using large endoclip for Peutz-Jeghers polyps. *Endoscopy*. 2024 Dec;56(S 01):E626-E627.
 30. Ozaki T, Yumita S, Ogasawara S, Fujiya M, Tsuchiya T, Yoshino R, Sawada M, Akatsuka T, Izai R, Miwa C, Yonemoto T, Fujimoto K, Unoza H, Fujiwara K, Kojima R, Kanzaki H, Koroki K, Inoue M, Kobayashi K, Nakamura M, Kiyono S, Kanogawa N, Kondo T, Nakagawa R, Nakamoto S, Kato N. Cytokine release syndrome following durvalumab and tremelimumab in advanced hepatocellular carcinoma: A case report with cytokine and damage-associated molecular pattern analysis. *Hepatol Res*. 2024 Jun 29.
 31. Akizue N, Okimoto K, Matsumura T. Response. *Gastrointest Endosc*. 2024 Jul;100(1):163.
 32. Horio R, Kato J, Taida T, Ohta Y, Saito K, Oyama Y, Nakazawa H, Mamiya Y, Goto C, Takahashi S, Ouchi M, Kurosugi A, Sonoda M, Kan M, Kaneko T, Nagashima H, Akizue N, Takahashi K, Okimoto K, Ohyama H, Matsumura T, Ohno I, Kato N. Clinical outcomes and reintervention after endoscopic retrograde cholangiopancreatography in primary sclerosing cholangitis in absence of cholangitis. *Indian J Gastroenterol*. 2024 Oct;43(5):1021-1029.
 33. Horio R, Kato J, Ohta Y, Taida T, Saito K, Iwasaki M, Ozeki Y, Koshibu Y, Shu N, Furuya M, Oyama Y, Nakazawa H, Mamiya Y, Goto C, Takahashi S, Kurosugi A, Sonoda M, Kaneko T, Akizue N, Okimoto K, Matsumura T, Kato N. Risk factors for clinical relapse in patients with ulcerative colitis who are in clinical remission but with endoscopic activity. *JGH Open*. 2024 Jul 24;8(7):e70011.
 34. Takahashi S, Okimoto K, Matsumura T. Response. *Gastrointest Endosc*. 2024 Sep;100(3):581-582.
 35. Ao J, Qiang N, Kanzaki H, Nakamura M, Kakiuchi R, Zhang J, Kojima R, Koroki K, Inoue M, Kanogawa N, Nakagawa R, Kondo T, Ogasawara S, Nakamoto S, Muroyama R, Kato J, Kato N. Dual effects of targeting neuropilin-1 in lenvatinib-resistant hepatocellular carcinoma: inhibition of tumor growth and angiogenesis. *Am J Physiol Cell Physiol*. 2024 Oct 1;327(4):C1150-C1161.
 36. Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Kato N. Outcomes and Post-removal Course of Lumen-Apposing Metal Stent Placement for Peripancreatic Fluid Collections: A Comparative Study of Pancreatic Pseudocysts and Walled-Off Necrosis. *Cureus*. 2024 Oct 15;16(10):e71561.
 37. Koroki K, Ogasawara S, Izai R, Yonemoto T, Akatsuka T, Miwa C, Yumita S, Inoue M, Kobayashi K, Kiyono S, Nakamura M, Kanogawa N, Kondo T, Nakamoto S, Nakada S, Sakai N, Yokoyama M, Ohtsuka M, Kato N. Comprehensive Analysis of Radiologic Cancer-Free Status through Various Treatment Approaches in Advanced-Stage Hepatocellular Carcinoma. *Liver Cancer*. 2024 Nov 13;14(3):286-301.
- 【雑誌論文・和文】**
1. 加藤順：「IBDはどうモニタリングし、どのように治療を変えていくのか」*臨牀消化器内科* 2024;39(2):119-126
 2. 小笠原定久, 神崎洋彰, 加藤直也：「肝癌の進化と腫瘍微小環境の変遷」*肝胆脾* 2024;88(4):397-402
 3. 高橋知也, 大山広, 加藤直也：「TXIを併用し副乳頭アプローチにて膵管ステント留置し得た1例」*Progress of Digestive Endoscopy* 2024; accepted
 4. 井上将法, 興梶慧輔, 小林和史, 叶川直哉, 小笠原定久, 加藤直也：「肝細胞癌に対する薬物療法の治療シークエンスの変遷と今後の展望」*臨牀消化器内科* 2024;39(5):540-544
 5. 加藤順, 對田尚, 太田佑樹, 堀尾亮輔：「内科治療の疫学より治療ストラテジーを考える」*IBD Research* 2024;18(2):99-104
 6. 加藤順, 對田尚, 太田佑樹：「炎症性腸疾患の内視鏡診断の心構えと pitfall」*日本消化器内視鏡学会雑誌* 2024;66(9):1672-1682
 7. 小笠原定久, 叶川直哉, 加藤直也：「肝細胞癌診療における unmet needs」*日本消化器病学会雑誌* 2024;121(9):737-744
 8. 加藤直也：「肝疾患診療の進歩 肝がん」*日本医師会雑誌* 2024;153(8):861-865
- 【単行書】**
1. 加藤直也. 「暮らしの便利帳 健康のこと～Vol.35 お酒と健康～」アエルデ 第35巻12号通巻701号. スターツ出版. 2024;15
 2. 小笠原定久. 「コラム 進行肝細胞癌における advance care planning と病診・病病連携」もう迷わない！肝癌薬物療法ナビ. 南江堂. 2024;16
 3. 小笠原定久. 「第2章 1 アテゾリズマブ＋ペバシズマブ」もう迷わない！肝癌薬物療法ナビ. 南江

堂. 2024;64-71

4. 小笠原定久.「第2章 2 デュルバルマブ+トレメリムマブ」もう迷わない! 肝癌薬物療法ナビ. 南江堂. 2024;72-77

5. 加藤直也.「C型肝炎の最新治療」ドクターサロン 68 巻 10 月号. 杏林製薬株式会社. 2024;9-12

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 第 110 回日本消化器病学会総会（2024/5/9）にてイブニングセミナー（加藤直也）
2. 第 110 回日本消化器病学会総会（2024/5/10）にてモーニングセミナー（加藤順）
3. 第 60 回日本肝臓学会総会（2024/6/14）にてランチョンセミナー（小笠原定久）
4. 第 60 回日本肝癌研究会（2024/7/12）にてランチョンセミナー（小笠原定久）
5. 日本消化器病学会 関東支部第 382 回例会（2024/12/14）にてランチョンセミナー（小笠原定久）
6. 第 31 回日本肝がん分子標的治療研究会（2025/1/17）にてスポンサードセッション（小笠原定久）
7. 第 31 回日本肝がん分子標的治療研究会（2025/1/17）にてイブニングセミナー（小笠原定久）
8. 第 44 回アルコール医学生物学研究会学術集会（2025/1/31）にてスポンサードセミナー（小笠原定久）
9. 第 107 回日本消化器内視鏡学会総会（2024/6/1）にて特別講演（沖元謙一郎）
10. 第 60 回日本肝癌研究会（2024/7/12）にて教育講演（小笠原定久）

【学会発表数】

国内学会 25 学会 99 回（うち大学院生 46 回）

国際学会 8 学会 30 回（うち大学院生 16 回）

【外部資金獲得状況】

1. 日本医療研究開発機構「インターフェロンフリー治療が C 型肝炎変患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究」分担者：中村昌人 2022-2024
2. 日本学術振興会 基盤研究(B)「進行肝癌に対する全方位型複合免疫療法の開発」代表者：加藤直也 2023-2025
3. 日本学術振興会 基盤研究(C)「肝細胞癌の背景肝に蓄積した T 細胞の腫瘍抗原認識に着目した機能解析」代表者：小笠原定久 2022-2025
4. 日本学術振興会 基盤研究(C)「5- アミノサリチル製剤不耐と潰瘍性大腸炎増悪の免疫学的 mimicry の検証」代表者：加藤順 2024-2027
5. 日本学術振興会 基盤研究(C)「N-Ras 制御による原発性胆汁性胆管炎の病態解明と治療の可能性」代表者：中川良 2024-2027
6. 日本学術振興会 基盤研究(C)「シングルユース

内視鏡と AI を活用した消化管がん診療における新規医療提供モデルの構築」代表者：松村倫明 2024-2027

7. 日本学術振興会 基盤研究(C)「十二指腸微生物叢の歪みに着目した膵発癌機構の解明と早期診断法の開発」代表者：大山広 2024-2027
8. 日本学術振興会 基盤研究(C)「HBx を標的とした B 型肝炎発癌抑制に関する創薬研究」代表者：中本晋吾 2024-2027
9. 日本学術振興会 基盤研究(C)「社会実装可能な人工知能による画期的十二指腸腫瘍 risk 層別内視鏡診断システムの開発」代表者：沖元謙一郎 2024-2027
10. 日本学術振興会 基盤研究(C)「大腸がん制御を目的とした、食事が関与する NKT 細胞活性化を用いた新規免疫治療の開発」代表者：對田尚 2024-2027
11. 日本学術振興会 若手研究「膵癌における細菌叢および真菌叢の検討」代表者：山田俊儒 2022-2025
12. 日本学術振興会 若手研究「腸肝相関に着目した非アルコール性脂肪性肝疾患由来肝癌の腫瘍免疫制御法の創出」代表者：佐久間崇文 2022-2025
13. 日本学術振興会 若手研究「潰瘍性大腸炎と原発性硬化性胆管炎の免疫コモンリティによる病態解明」代表者：太田佑樹 2023-2026
14. 日本学術振興会 若手研究「肝細胞癌に対する iNKT 細胞療法の安全性と有効性について」代表者：小川慶太 2024-2026
15. 日本学術振興会 若手研究「B 型肝炎ウイルスのゲノム組み込みは染色体外 DNA を発生させて肝臓癌を導くか？」代表者：兒島隆太 2024-2026
16. 日本学術振興会 若手研究「門脈血の iTRAQ 解析に基づく門脈大循環短絡路塞栓術後の肝機能改善のメカニズムの解明」代表者：藤原希彩子 2024-2026
17. 日本学術振興会 若手研究「脈管侵襲を伴う進行肝細胞癌の免疫応答性と分子メカニズムの解明」代表者：井上将法 2024-2027
18. 日本学術振興会 若手研究「好酸球性炎症に伴う食道神経叢障害の機序と食道アカラシアの病態解明」代表者：金子達哉 2024-2027
19. 日本学術振興会 若手研究「膵液中エクソソームの高精度プロテオーム解析による膵癌の革新的診断法の開発」代表者：菅元泰 2024-2027
20. 日本学術振興会 若手研究「食道粘膜の免疫寛容誘導機構の解明」代表者：黒杉茜 2024-2027
21. 医療・福祉ネットワーク「Red dichromatic imaging は内視鏡的粘膜下層剥離術における粘膜下層の視認性の向上性」代表者：石川翼 2024 年度
22. 内視鏡医学研究振興財団「膵腫瘍性病変に対する超音波内視鏡下組織採取における異なる先端形状の穿刺針の有用性を検証するランダム化比較試験」代表

- 者：大山広 2024 年度
23. 令和 6 年度中小企業政策推進事業費補助金「MPC ポリマー表面加工による NiTi 合金の胆泥汚染の軽減効果の検証」代表者：菅元泰 2024 年度
- 【受賞歴】
- | | |
|---|---|
| 1. 興 杵 慧 輔 ASCO Breakthrough 2024 Conquer Cancer®, the ASCO Foundation Abstract Award | 3. 松村倫明 DDW 2024 優秀ポスター賞 |
| 2. 澤田翠 APASL oncology 2024 Young Investigator Award 受賞 | 4. 大山広 DDW 2024 本胆道学会国際交流奨励賞 |
| | 5. 米本卓弥 第 30 回 日本肝がん分子標的治療研究会 第 30 回最優秀演題 Award |
| | 6. 大山広 JDDW 2024 優秀演題賞受賞 |
| | 7. 興杵慧輔 JDDW 2024 優秀演題賞受賞 |
| | 8. 黒杉茜 JDDW 2024 優秀演題賞受賞 |
| | 9. 遠山翔大 JDDW 2024 優秀演題賞受賞 |
| | 10. 石川翼 JDDW 2024 優秀演題賞受賞 |

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

<外来診療>

2024 年度における消化器内科の外来患者総数は 44,999 名、新規受診患者数は 2,745 名であった。対象疾患は肝疾患、胆・膵疾患、上部および下部消化管疾患を含む消化器疾患全般にわたり、各分野の専門医が常時 6～9 室の診療室で診療を行っている。疾患の特性に応じた高度な専門的診療を提供するとともに、他院では対応が困難な症例に対しても積極的に治療を行っている。

外来患者数は近年一貫して増加傾向にある。この背景には、専門的医療の提供体制が地域に定着していることに加え、紹介・逆紹介を通じた地域医療連携の強化、新患外来や午後外来の設置など、受診しやすい環境整備への取り組みが寄与していると考えられる。当科は今後も、専門性の高い診療と地域連携を両立させながら、質の高い外来医療を継続していく方針である。

<入院診療>

2024 年度における消化器内科の病床数は 47 床で、入院患者総数は 16,967 名、新入院患者数は 1,984 名であり、前年度より増加を示し、延べ 2,000 名に迫った。当科の入院対象疾患は多岐にわたり、肝細胞がん、膵癌、胆道癌などの悪性腫瘍をはじめ、胃・小腸・大腸の消化管腫瘍、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患、胆石・膵石などの結石症、急性肝不全、肝硬変に伴う門脈圧亢進症などを幅広く診療している。

肝細胞がんに対しては、病態に応じて血管内治療、ラジオ波焼灼療法（RFA）、全身薬物療法を適切に組み合わせた集学的治療を実施している。胆道・膵領域では、胆道癌や膵癌の診断・治療に加え、胆管結石・胆管炎などに対し、採石術や胆道ステント留置などの内視鏡的治療を積極的に行っている。さらに、閉塞性黄疸症例に対しても迅速かつ安全な内視鏡治療を提供している。消化管疾患領域では、胃・十二指腸・大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜切除術（EMR）や粘膜下層剥離術（ESD）を行い、早期病変の根治的治療を目指している。治療困難例や重篤な合併症を有する症例に対しても、安全性を最優先に高度な治療を提供している。

入院業務の効率化にも継続的に取り組んでおり、2018 年以降、入院待機患者数および待機期間の大幅な短縮を実現した。その結果、平均在院日数の短縮と高い病床稼働率を維持しつつ、質の高い入院医療の提供体制を確立している。

<その他>

当科では、企業治験、医師主導臨床試験、特定臨床研究、多施設共同研究を積極的に実施・推進している。肝細胞癌および炎症性腸疾患を中心に、複数の先進的臨床研究プロジェクトを展開しており、新規治療法の開発や診療標準の確立に寄与している。

●地域貢献

- 千葉県肝疾患診療連携拠点病院として、下記を開催
 - ① 2024 年度 肝がん撲滅運動 市民公開講座（開催日 2024 年 11 月 9 日）
 - ② 肝臓病教室・家族支援講座（開催日 2025 年 2 月 23 日）

研究領域等名：	腎臓内科学
診療科等名：	腎臓内科

●はじめに

腎臓内科は、『消化器・腎臓内科学』であった旧体制から、2017年5月『腎臓内科学』として浅沼克彦初代教授のもと発足した。外来・入院診療と順次開始し、腎生検による診断治療、慢性腎臓病（CKD）の患者教育、血液透析・腹膜透析・腎移植を含めたすべての腎臓疾患における診療を千葉大学病院内で選択できる体制を構築した。研究面においては、未だ有効な治療法が確立されていない腎臓病の進展メカニズムの解明と創薬に向けた研究、腎臓の発生と再生に関する基礎研究、AIを利用した安全な血液透析システム構築を目指す研究、最適な患者教育の手法に関する研究など、幅広い分野で行っている。さらに、千葉県で行うCKD重症化予防対策にも中心的役割を果たし、増加するCKD患者の受け入れだけでなく、市民講座での講演、腎臓病教室の開催など、千葉県の腎臓病診療への貢献を目指して活動している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

[学部教育]

医学入門Ⅰ腎臓内科学1コマ、医学入門Ⅱ腎臓内科学1コマ、腎・泌尿器ユニット講義3コマを担当した。スカラーシップ学生（3年生）1名に対して研究指導を行った。アテンディング医師を中心に亥鼻IPE（多職種連携）の学生に指導を行うとともに、3年次医師見習い実習において2日間で4名の学生を受け入れた。

[卒前教育]（クリニカルクラークシップ）

医学部4・5年次学生に対して1グループ×3週間のクリニカルクラークシップをアレルギー・膠原病内科とともに指導した。

・卒後教育／生涯教育

2024年度は専攻医1名が新入局し腎臓病診療の指導を行った。また、月ごとにローテートする初期研修医および他診療科の専攻医に対しても一般的な内科管理～専門的な腎臓病診療について教育・指導を行った。病棟指導医より日々の臨床指導を行うことに加えて、毎週行われる症例カンファレンス・腎病理カンファレンスではプレゼンテーションを通して病態への理解を深めて自習を促すよう指導した。透析関連業務（血液透析、腹膜透析、アフェリシス）に関しては人工腎臓部医師と協力し、日常の透析管理業務を行いながら実践的な指導を行った。さらに、学生・研修医・専攻医に内科学会・腎臓学会・透析学会いずれかで学会発表を経験させ、スライドの準備や発表について複数人で指導した。

・大学院教育

1人が新たに入学し大学院生5名と海外からの研究生1名が研究室に所属した。ポドサイト障害の機序や創薬に関する研究、腎透明化による糸球体の3次元構造の解析など基礎研究を中心に指導を行い、学会発表や論文文化をサポートした。また、透析患者の腸内細菌叢の研究、遺伝性血管浮腫に対する臨床研究を行い、シンポジウムを含む学会発表を行った。修士課程講義1コマを行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

順天堂大学医学部「医学研究 入門Ⅰ」1コマ、千葉大学薬学部「疾病学Ⅰ 腎臓1・2」2コマ、千葉大学教育学部 教員養成課程 養護教諭コース3年次1コマを担当した。

●研 究

・研究内容

1. 慢性腎臓病進展メカニズムの解明
2. ネフローゼ症候群の発症機序解明
3. 慢性腎臓病の新規治療薬の開発
4. 糸球体足細胞（ポドサイト）障害の新規バイオマーカーの開発
5. 腎老化におけるポドサイト障害の役割の解明
6. 慢性腎臓病患者（透析患者を含む）の病態と腸内細菌叢の関連についての検討
7. 構造化マニュアルの慢性腎臓病診療への活用の検討
8. 人工知能（AI）を用いた透析管理補助システムの開発

9. iPS 細胞を用いた腎臓病の病態解明と治療薬開発
10. ポドサイトへの薬剤デリバリーシステムの開発

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Honda D, Ohsawa I, Miyata T, Ozaki M, Aizawa M, Tomino Y, Asanuma K. Fibrin and fibrinogen degradation products/D-dimer ratio can be a useful marker for differentiating an acute attack of hereditary angioedema from thrombotic conditions. *Allergol Int.* 2024 Jan;73(1):174-176. doi: 10.1016/j.alit.2023.08.001. Epub 2023 Aug 18.
 2. Honda D, Philip Hei Li, Ankur Kumar Jindal, Constance H Katelaris, Yu-Xiang Zhi, Bernard Yu-Hor Thong, Hilary J Longhurst. Uncovering the true burden of hereditary angioedema due to C1-inhibitor deficiency: A focus on the Asia-Pacific region. *J Allergy Clin Immunol.* 2024 Jan;153(1):42-54. doi: 10.1016/j.jaci.2023.09.039. Epub 2023 Oct 28.
 3. Takeda R, Takahashi K, Kronbichler A, Akiyama D, Hanai S, Kobayashi Y, Matsuki A, Umibe T, Ito C, Sugimoto T, Sugiyama T, Yoshida S, Nishio Y, Nukui I, Nakashima A, Wakabayashi H, Asanuma K, Furuta S, Nakajima H, Nakagomi Daiki. Development of a Kidney Prognostic Score in a Japanese Cohort of Patients With Antineutrophil Cytoplasmic Autoantibody Vasculitis. *Kidney Int Rep.* 2024 Jan 8;9(3):611-623. doi: 10.1016/j.ekir.2024.01.007. eCollection 2024 Mar.
 4. Honda D, Hide M, Fukuda T, Koga K, Morita E, Moriwaki S, Sasaki Y, Suzuki Y, Phil Collis, Douglas T. Johnston, Dianne Tomita, Bhavisha Desai, Ohsawa I. Berotralstat for long-term prophylaxis of hereditary angioedema in Japan: Parts 2 and 3 of the randomized APeX-J Phase III trial. *WAO Journal.* 2024 Mar 2;17(3):100882. doi:10.1016/j.waojou.2024.100882. eCollection 2024 Mar.
 5. Honda D, Okunaga I, Omote D, Inoue H, Yamasaki K, Wakabayashi H, Suzuki M, Aizawa M, Tomita S, Ikeda I, Asanuma K. Anti-Neuron-Derived Neurotrophic Factor Antibodies in Secondary Membranous Nephropathy Caused by Syphilis: A Case Report. *Am J Kidney Dis.* 2024 Aug;84(2):250-254. doi: 10.1053/j.ajkd.2024.02.007. Epub 2024 Mar 22.
 6. Marc A Riedl, Henriette Farkas, Emel Aygören-Pürsün, Fotis Psarros, Daniel F Soteres, Maria Staevska, Mauro Cancian, David Hagin, Honda D, Isaac Melamed, Sinisa Savic, Marcin Stobiecki, Paula J Busse, Eunice Dias de Castro, Nancy Agmon-Levin, Richard Gower, Aharon Kessel, Marcin Kurowski, Ramon Lleonart, Vesna Grivcheva Panovska, H James Wedner, Paul K Audhya, James Hao, Matthew Iverson, Michael D Smith, Christopher M Yea, William R Lumry, Andrea Zanichelli, Jonathan A Bernstein, Marcus Maurer, Danny M Cohn. Oral Sebetralstat for On-demand Treatment of Hereditary Angioedema Attacks. *NEJM.* 2024 May 31. doi: 10.1056/NEJMoa2314192. Online ahead of print.
 7. Omote D, Makino S, Okunaga I, Ishii M, Tatsumoto N, Aizawa M, Asanuma K. Unusual course of glyphosate-induced acute kidney injury: a case report of tubulointerstitial nephritis treated with steroids. *CEN Case Rep.* 2024 Jul 29. doi: 10.1007/s13730-024-00914-x. Online ahead of print.
 8. Kimura M, Honda D, Okura M, Shiko Y, Kawasaki Y, Aizawa M, Asanuma K. Comparison of the efficacy of educational materials for chronic kidney disease during outpatient waiting time. *Clinical Nephrol.* 2024 Nov;102(5):285-294. doi: 10.5414/CN111413.
 9. Wakabayashi H, Hattori N, Uzawa A, Ito M, Hasegawa H, Mimura N, Empitu M, Aizawa M, Kuwabara S, Asanuma K, Oda S. Tryptophan-immunoabsorption plasmapheresis regulates polymorphonuclear-myeloid-derived suppressor cells and pro-inflammatory cytokines. *Ther Apher Dial.* 2024 Nov 7. doi: 10.1111/1744-9987.14228. Online ahead of print.
- ##### 【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】
1. 浅沼克彦. 「新しいCKDガイドラインとCKD診療連携」. 松戸市医師会学術講演, (2024.2.21) 会聖徳大学
 2. 浅沼克彦. 「CKD診療ガイドライン 2023を踏まえた治療戦略」. Diabetes Update Seminar, (2024.3.6) WEB
 3. 本田大介. 「多くの診療科に関わる致死性疾患「遺伝性血管性浮腫」. その症状、もしかしてHAEかもしれない～HAE（遺伝性血管性浮腫）を知る～, (2024.3.7) ベリエホール
 4. 大久保直人. 「実臨床におけるARNIの使用経験」. ARNI Special Symposium, (2024.4.2) WEB
 5. 浅沼克彦. 「CKD進行とポドサイト障害－基礎研究からわかること－」. 東京腎・高血圧懇話会, (2024.4.13) 東京ドームホテル
 6. 本田大介. 「How to improve care for patients with

- HAE ～ Early diagnosis and early treatment with icatibant ～」.HAE Round table meeting in Korea, (2024.5.9) Seoul national university hospital
7. 浅沼克彦.「CKD 診療の現状と未来」. 心腎代謝連関治療戦略, (2024.5.23) WEB
 8. 大久保直人.「実臨床における ARNI の使用経験」. ARNI WEB Seminar CKD × 高血圧, (2024.5.31) WEB
 9. 浅沼克彦.「千葉県における慢性腎臓病対策について」. Chiba IMAGINE Project Web Seminar, (2024.6.3) WEB
 10. 本田大介.「HAE 治療は長期的トータルコントロールを目指す時代に突入した」. 第 123 回日本皮膚科学会総会イブニングセミナー11, (2024.6.7) 国立京都国際会館
 11. 若林華恵.「血液透析患者の腸内細菌叢の解析とトリメチルアミン N オキシド産生の関連」. 第 69 回日本透析医学会学術集会・総会 シンポジウム, (2024.6.9) パシフィコ横浜
 12. 浅沼克彦.「ポドサイト障害のメカニズム」. 第 36 回北海道腎フォーラム, (2024.7.12) ANA クラウンプラザホテル札幌
 13. 浅沼克彦.「千葉県 CKD 重症化予防と CKD ガイドラインを踏まえた治療戦略」. TORII CKD Seminar, (2024.7.18) WEB
 14. 本田大介.「HAE 治療の根底を支える『オンデマンド治療』～今こそ原点回帰～」. 第 60 回日本補体学会学術集会 特別企画：補体疾患シンポジウム, (2024.9.15) グランドプリンスホテル大阪ベイ
 15. 浅沼克彦.「ポドサイト研究の最前線（教育講演 1）」. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 (2024.9.28) ライトキューブ宇都宮
 16. 石井公祥.「当院におけるネフローゼ症候群に対する LDL アフェレシスの治療経験」. 第 54 回日本腎臓学会東部学術大会 ランチョンセミナー12, (2024.9.29) ライトキューブ宇都宮
 17. 吉岡友基.「動画を用いた外来患者指導」. 千葉県腎疾患対策 web 講演会 2024, (2024.10.3) TKP ガーデンシティ千葉
 18. 井上宏子.「CKD 患者に対する SGLT2 阻害薬の使用経験と使用のポイント」. 最新の CKD 診断と治療を考える, (2024.10.15) WEB
 19. 本田大介.「遺伝性血管性浮腫 (HAE) の疾病負荷の最新情報 -HAE 患者調査」. 日本アレルギー学会教育セミナー7, (2024.10.18) 国立京都国際会館
 20. 本田大介.「HAE がたどり着いた治療目標『長期的トータルコントロール』」. 第 73 回日本アレルギー学会教育セミナー, (2024.10.20) 国立京都国際会館
 21. 浅沼克彦.「上皮細胞関連基礎」. ASN Essence. 一般社団法人腎臓血管加齢医療研究機構主催 (2024.11.10) WEB 開催
 22. 本田大介.「日本における遺伝性血管性浮腫の診断と治療」. ベトナムにおける遺伝性血管性浮腫の診断方法の確立・治療の強化、ガイドライン策定の支援事業, (2024.12.9) Hotel Nikko Saigon
- 【学会発表数】**
- 国内学会 8 学会 17 回 (うち大学院生 2 回)
国際学会 2 学会 3 回 (うち大学院生 3 回)
- 【外部資金獲得状況】**
1. 文部科学省科学研究費 若手研究「透析患者の免疫能低下における腸内細菌叢変化の寄与」代表者：若林華恵 2022-2024
 2. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「スリット膜裏打ち蛋白 MAGI-2 の 7 機能解析と新規 CKD 治療薬の開発」代表者：浅沼克彦 2023-2025
 3. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「遺伝性血管性浮腫における線溶凝固系異常の病態を発展的に解明するための研究」代表者：本田大介 2023-2025
 4. 文部科学省科学研究費 若手研究「人工知能を利用した血液透析至適ドライウェイト設定システムの開発」代表者：井上宏子 2023-2025
 5. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「ポドサイト特異的蛋白デンドリンの機能解析」代表者：奥永一成 2023-2025
 6. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「診療参加型臨床実習を推進する新たな指導法の開発：汎用化に向けた多施設共同研究」分担者：若林華恵 2023-2027
 7. 科学技術振興機構「脱分化細胞の細分化誘導法の確立による機能蘇生医学の開発」代表者：太口敦博 2024-2026
- 【受賞歴】**
1. 本田大介、日本内科学会ことはじめ 2024 東京 学生・研修医・専攻医の日本内科学会、優秀指導者賞、日本内科学会、2024.4.13
 2. 本田大介、KAAACI 2024 Travel Grants Award、、指導教官賞、2024.5.11
 3. 本田大介、第 20 回日本アレルギー学会学術大会賞、2024.10
 4. 若林華恵、第 51 回千葉透析研究会会長賞、2024.12.1

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

・外来診療

2024 年度も 3 診察室にて外来診療を行った。2024 年度外来患者総数は、8980 人となり増加傾向が続いている（2023 年度 8640 人、2022 年度 7891 人）。新規紹介患者は、1 日 3 名を原則として 482 人／年が紹介となったが、それ以外にも救急当番 2 名を配置して救急患者も積極的に受け入れた。2024 年度も透析関連手術の外来（VA 外来）は週 2 枠で対応し、手術件数はこれまでで最も多い 104 件／年（バスキュラーアクセス手術、PTA、腹膜透析カテーテル挿入術を含む）となった。

2021 年に設置した腎代替療法外来では、血液透析以外の腎代替療法として腹膜透析や腎移植への働きかけを進め、腹膜透析は 2024 年に新たに 6 名を導入、腎移植を希望する症例は食道胃腸外科腎移植外来へ紹介し、ドナー評価入院は腎臓内科で行った。

・入院診療

外来紹介患者数の増加と共に、入院患者総数も 2023 年度は 316 名から 2024 年度 386 人と増加した。病床数は人工腎臓部との合併により 11 床となり、稼働率は年間平均 101.0%、DPC I + II 期間退院割合 73.5%であった。診療内容は例年同様に腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害に対する診断および治療、末期腎不全患者の透析導入が中心であった。2024 年の腎生検数は 140 例とわずかであるが前年（2023 年度 138 件）を越えて最多であった。透析導入は 95 件（人工腎臓部での導入も含む）、透析関連手術は 104 件、これらも前年を上回る結果であった。2021 年度から腹膜透析を本格的に開始し 2024 年度は 6 名の腹膜透析導入を行った。透析導入期の患者指導においては、医師だけでなく看護師・管理栄養士の協力も得て指導マニュアルに沿った指導を行った。

●地域貢献

浅沼克彦

千葉県透析研究会 幹事・会長

千葉県指定難病審査会委員

千葉県中央障害者相談センター非常勤医師（腎臓）

千葉県人工透析審査委員会委員

千葉県糖尿病性腎症重症化予防対策推進検討会オブザーバー

千葉県慢性腎臓病（CKD）重症化予防対策部会 委員

千葉市指定難病審査会委員

千葉県医師会男女共同参画推進委員会委員・副委員長

千葉県内科医会特別顧問

研究領域等名：	臓器制御外科学
診療科等名：	肝胆膵外科／乳腺外科

●はじめに

（肝胆膵外科）肝胆膵疾患におけるハイボリュームセンターとして機能しており、近年では千葉県内あるいは近隣県のみならず日本全国から来院されており、2024年においても消化器内科や食道胃腸外科をはじめとした他科との連携や地域医療連携により、多くの患者さんを診療した。また、さらなる治療成績の向上をめざした臨床研究を積極的に行うとともに、癌研究や再生医療などの基礎研究を行い、その結果を国内外に発表し、研究費取得の努力をしている。（乳腺外科）現在の乳がん診療は非常に多岐にわたっており、多くの診療科や関連部門の協力を得なければ成り立たないのが現状である。千葉大学医学部附属病院ではそれぞれの分野のエキスパートが多数在籍していることから、そのメリットを最大限活用して、乳がん診療に関連する診療科・部門と横断的に連携した医療体制を構築し、チーム医療を推進するためのプレストセンターを開設した。乳がん患者さん一人ひとりに質の高い最適な医療を提供している。

●教育

・学部教育／卒前教育

（肝胆膵外科）クリニカルクラークシップの臨床教育を通年、およびユニット講義（消化器・栄養ユニット：5コマ）、チュートリアル（消化器：8コマ）を行った。また、OSCE 外科 実習（臨床入門）を行った。（乳腺外科）クリニカルクラークシップの臨床教育を通年、ユニット講義1コマ、臨床入門実習（乳房診察）3コマを担当した。臨床実習前 OSCE 評価者を担当した。

・卒後教育／生涯教育

前期研修 General Surgery Training (GST) 卒後3－6年では、1年目に6－8ヶ月間の大学病院での外科研修を行った後、関連病院での外科研修を4－6ヶ月間受け、前期研修2年目から4年目までの3年間は、関連病院において、全ての領域の一般外科研修（消化器外科を中心とした）を、原則として1年ごとに病院を移動して研修する。この前期研修4年間で日本外科学会の外科専門医を取得するための手術症例経験を十分に満たすことができ、前期研修終了時に外科専門医を取得する。

後期研修 Advanced Subspecialty Surgery Training (ASST) 卒後11－12年では、再び関連病院での外科研修のblush-upとして、副医長（時に医長）レベルのスタッフとして勤務し、ここで外科各領域のsubspecialty 専門医（消化器外科専門医、乳腺専門医）の取得ができるレベルに到達する。

・大学院教育

主に臨床系大学院生として大学病院で肝胆膵外科あるいは乳腺外科の臨床に従事しながら、助教以上の教官の指導の下に臨床・基礎研究を行う。終了時までに英文論文を仕上げて、その間、国内国外の学会発表を行う。またその後のsubspecialty 専門医取得および将来の外科指導医資格取得に必要な論文（邦文含めて）を作成するように指導する。希望する場合には、大学院の4年間において基礎系教室で基礎研究に2年間従事することも可能である。大学院期間には臨床外科医として必要最低限の臨床での科学的姿勢および臨床研究方法を身につけるとともに、大学院卒業時には学位（医学博士）の取得ができる。2024年度は肝胆膵外科16名、乳腺甲状腺外科2名の大学院生が在籍し、そこから4名が医学博士号を取得した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

普遍教育の「外科治療と疾患」講座と医学部入門の講座をそれぞれ1コマを担った。千葉大学看護学部において健康障害と看護Ⅰ 2コマ、千葉県立保健医療大学 看護学科 専門基礎科目 病態学Ⅱ 外科系疾病論 9コマ および、幕張総合高校にて成人看護 外科 4コマを担当した。

●研究

・研究内容

（肝胆膵外科）肝胆膵外科における基礎研究：肝胆膵領域癌に対する病理学的研究、分子生物学的研究、新規バイオマーカーの探索、肝再生や肝移植に関する研究などを行い、国内・国際学会で発表し、海外学術誌にその成果を発表している。臨床研究：悪性疾患に対する術前化学療法や周術期栄養療法などの臨床研究を行い、よりよい医療を行うための積極的外科切除を中心とした治療を考えている。（乳腺外科）臨床的研究として、手術体位MRIを用いたナビゲーション手術の開発、超音波と他のモダリティ画像fusionによる病変範囲の同定、乳房

オンコプラスティックサージャリーにおける根治性と整容性の研究に関する研究を行った。

基礎的研究として、末梢血核酸情報の網羅的解析、末梢血中の糖鎖修飾蛋白の解析、乳癌進展における脂肪組織環境の果たす役割の解明、遺伝子改変前脂肪細胞を担体とする乳癌抗体療法の開発、Electrical impedance tomography を用いた乳癌検出機器の開発に関する研究を行った。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Sakai N, Takayashiki T, Takano S, Suzuki D, Ohtsuka M. Low functional liver imaging score is associated with poor prognosis following hepatectomy for hepatocellular carcinoma. *Scientific Report*. 2024; 28;14(1):31290
2. Mishima T, Takano S, Takayashiki T, Kuboki S, Suzuki S, Sakai N, Hosokawa I, Konishi T, Nishino H, Nakada S, Kouchi Y, Kishimoto T, Ohtsuka M. Serum elastase-1 predicts malignancy in intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. *Pancreatology* 2024;24(1):93-99
3. Konishi T, Takano S, Takayashiki T, Kuboki S, Suzuki D, Sakai N, Hosokawa I, Mishima T, Nishino H, Nakada S, Ohtsuka M. Clinical benefits of pulmonary resection for lung metastases from pancreatic cancer. *Langenbeck's Archives of Surgery* 2024;409:11
4. Konishi T, Takano S, Takayashiki T, Suzuki D, Sakai N, Hosokawa I, Mishima T, Nishino H, Suzuki K, Nakada S, Ohtsuka M. Preoperative Prediction of Long-Term Survival After Surgery in Patients with Resectable Pancreatic Ductal Adenocarcinoma. *Ann Surg Oncol* 2024;31: 6992-7000
5. Tabe S, Takeuchi K, Aoshima K, Okumura A, Yamamoto Y, Yanagisawa K, Eto R, Matsuo M, Ueno Y, Konishi T, Furukawa Y, Yamaguchi K, Morinaga S, Miyagi Y, Ohtsuka M, Tanimizu N, Taniguchi H. A pancreatic cancer organoid incorporating macrophages reveals the correlation between the diversity of tumor-associated macrophages and cancer cell survival. *Biomaterials* 2024;314:122838
6. Togasaki K, Hosokawa I, Takayashiki T, Takano S, Ohtsuka M. Impact of the course of the segment 4 hepatic artery on proximal ductal margin status in right hepatectomy for perihilar cholangiocarcinoma. *Surgery* 2024;175(4):947-954
7. Shimamaki Y, Hosokawa I, Takayashiki T, Takano S, Sonoda I, Ohtsuka M. Pathological complete response following neoadjuvant chemotherapy for locally advanced intrahepatic cholangiocarcinoma. *Surg Case Rep*. 2024;10:35
8. Yamada H, Takada M, Ghone D, Yu M, Nagashima T, Fujimoto H, Sakakibara J, Hasegawa Y, Takao S, Yamada A, Narui K, Ishikawa T, Suzuki A, Otsuka M. Eribulin induces micronuclei and enhances the nuclear localization of cGAS in triple-negative breast cancer cells. *Sci Rep* 14: 14146, 2024.
9. Takahashi S, Fujimoto H, Nasu K, Nakaguchi T, Ienaga N, Kuroda Y. FEM simulation of breast deformation with semi-fluid representation. *Int J Comput Assist Radiol Surg* 20: 817-824, 2024.
10. Shinomiya Y, Kouchi Y, Onodera K, Yamamoto H, Harada-Kagitani S, Sakakibara J, Nagashima T, Ikeda JI, Kishimoto T. Imprint Cytology of Tall Cell Carcinoma with Reversed Polarity of the Breast: A Case Report. *Acta Cytol* 68: 73-79, 2024. +D88:W90
11. Ishida M, Fujii T, Kishiwada M, Shibuya K, Satoi S, Ueno M, Nakata K, Takano S, Uchida K, Ohike N, Masugi Y, Furukawa T, Hirabayashi K, Fukushima N, Yi SQ, Isayama H, Itoi T, Ohtsuka T, Okusaka T, Inoue D, Kitagawa H, Takaori K, Tani M, Nagakawa Y, Yoshitomi H, Unno M, Takeyama Y. Japanese classification of pancreatic carcinoma by the Japan Pancreas Society: Eighth edition. *J Hepatobiliary Pancreat Sci* 2024;31(11):755-768
12. Shinomiya Y, Kouchi Y, Harada-Kagitani S, Ishige T, Takano S, Ohtsuka M, Ikeda JI, Kishimoto T. ECM1 and KRT6A are involved in tumor progression and chemoresistance in the effect of dexamethasone on pancreatic cancer. *Cancer Sci* 2024;115(6):1948-1963
13. Kan M, Kouchi Y, Ohyama H, Usui G, Fukuyo M, Takano S, Kishimoto T, Kaneda A, Ohtsuka M, Kato N. Genomic Analysis of Undifferentiated Carcinoma of the Pancreas with Squamous Differentiation: A Case Report. *Cureus*. 2024;16(2): e55175
14. Kouchi Y, Sakai N, Harada-Kagitani S, Eto R, Mishima T, Takano S, Nasu K, Ikeda JI, Ohtsuka M, Kishimoto T. SMARCB1-deficient malignant neoplasm of the pancreas with heterogeneous morphologies that cannot be classified into existing histologic types. *Pathol Int*. 2024 Dec;74(12): 691-696.
15. Koroki K, Ogasawara S, Izai R, Yonemoto T, Akatsuka T, Miwa C, Yumita S, Inoue M,

- Kobayashi K, Kiyono S, Nakamura M, Kanogawa N, Kondo T, Nakamoto S, Nakada S, Sakai N, Yokoyama M, Ohtsuka M, Kato N. Comprehensive analysis of cancer-free status by multidisciplinary treatment in advanced-stage hepatocellular carcinoma. *Liver Cancer* 2025;14 (3): 286-301.
15. Alina L. Li, Kensuke Sugiura, Noriyuki Nishiwaki, Kensuke Suzuki, Dorsay Sadeghian, Jun Zhao, Anirban Maitra, David Falvo, Rohit Chandwani, Jason R. Pitarresi, Peter A. Sims, Anil K. Rustgi FRA1 controls acinar cell plasticity during murine KrasG12D induced pancreatic acinar to ductal metaplasia. *Developmental Cell*. 2024;59(22): 3025-3042
- 【雑誌論文・和文】**
1. 船津悠也, 酒井望, 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 大腸癌肝転移術後の再発に対する repeat resection の有用性と予後規定因子に関する検討 癌と化学療法 癌と化学療法 2024 ; 51:1286-1288
 2. 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 指導医養成講座「胆道にまつわるトラブル～予防と対策～」(第 38 巻) 第 1 回 第 1 号「PTBD における合併症の予防と対策」胆道 2024 ; 38:118-124
 3. 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之【肝門部胆管癌～診断と治療の標準化へ向けて～】外科治療：短期 安全な血管合併切除法 胆と膵 2024;45:651-655
 4. 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 エキスパートレクチャー「肝切除における門脈再建」胆道癌肝切除における門脈再建胆道 (in press)
 5. 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 胆道癌に対する肝切除・胆道再建後胃内容排泄遅延の予防と治療 胆と膵 (in press)
 6. 高野重紹, 小西孝宜, 高屋敷史, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 Current Organ Topics - 肝胆膵癌における Precision Medicine の展開 - IV. 膵癌における Precision Medicine の展開 癌と化学療法 2024 ; 51(10):996-1001
 7. 高野重紹, 江藤亮太郎, 高屋敷史, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 特集 膵・胆道癌の発生・進展メカニズムを探る 5. 膵癌進展における微小環境の役割 胆と膵 45(8):793-800, 2024
 8. 酒井望, 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 大塚将之 胆道癌術後肝転移再発における肝切除の是非とその適応 胆道 (in press)
 9. 細川勇, 大野達矢, 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 高齢者胆道癌の外科治療～75 歳以上高齢者肝門部領域胆管癌に対する拡大肝切除の治療成績～ 胆と膵 2024;45:499-504
 10. 細川勇, 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 局所進行肝門部領域胆管癌に対する conversion surgery の成績と問題点 肝胆膵 2024;89:69-74
 11. 細川勇, 戸ヶ崎賢太郎, 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 尾状葉門脈枝のバリエーションと肝門部領域胆管癌外科切除における尾状葉門脈枝の処理の実際 臨床外科 2024;79: 201-206
 12. 西野仁恵, 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 永川裕一, 大塚将之 日本内視鏡外科学会技術認定合格のための集中講座 膵臓編 (第 1 回) 腹腔鏡下尾側膵切除術 (脾合併切除) 消化器外科 2024 ; 47(6) :717-728
 13. 西野仁恵, 宮坂義浩, 川元真, 保坂優斗, 大塚隆生, 大塚将之【エビデンスに基づく膵 IPMN 国際診療ガイドライン改訂版(Kyoto guidelines)のポイント】切除後経過観察 残膵病変の診断法と至適経過観察法は? 胆と膵 2024;4:411-417
 14. 西野仁恵, 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 永川裕一, 大塚将之 日本内視鏡外科学会技術認定合格のための集中講座 膵臓編 (第 2 回) 腹腔鏡下尾側膵切除術 (脾合併切除) 消化器外科 2024 ; 47(8) :963-974
 15. 西野仁恵, 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 永川裕一, 大塚将之 日本内視鏡外科学会技術認定合格のための集中講座 膵臓編 (第 3 回) 腹腔鏡下尾側膵切除術 (脾合併切除) 消化器外科 2024 ; 47(10) :1217-1232
 16. 西野仁恵, 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 永川裕一, 大塚隆生, 大塚将之 特集：低侵襲胆膵手術の precision anatomy 13. 尾側膵切除～静脈走行破格 (脾静脈, IMV, CIPV, 左腎静脈など)～胆と膵 (in press)

17. 江藤亮太郎, 高野重紹, 高屋敷吏, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 鈴木謙介, 西野仁恵, 仲田真一郎, 大塚将之 C5-C5aR1/2 axis 活性が膵癌微小環境と腫瘍免疫に与える影響 胆と膵 2024;45(2):159-163
 18. 山本祐也, 竹内健太, 谷水直樹, 谷口英樹 ヒト iPS 細胞を活用した膵癌模倣モデルの開発とその応用 胆と膵 2024;45:807-813
 19. 八木翔太郎, 細川勇, 高屋敷吏, 高野重紹, 大塚将之 肝類上皮血管内皮腫の3例 日本臨床外科学会雑誌 (in press)
 20. 百武佳晃, 西野仁恵, 高屋敷吏, 藤井康矢, 木口剛造, 大塚将之 後腹膜鏡下に切除した腹腔動脈神経叢由来神経鞘腫の1例 日本臨床外科学会雑誌 (in press)
 21. 百武佳晃, 高屋敷吏, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 術前診断の上で一次的切除した肝門部領域胆管癌と肝細胞癌の同時性重複癌の1例 癌と化学療法 (in press)
 22. 内藤慶, 高屋敷吏, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 大塚将之 イマチニブによる術前化学療法後に根治切除した十二指腸 GIST の1例 日本臨床外科学会雑誌 2024;85(3):379-384
 22. 藤本浩司, 大塚将之. 手術の tips and pitfalls : Volume replacement : 有茎穿通枝皮弁を用いた乳房温存オンコプラスチックサージャリー 日本外科学会雑誌 2024;125:78-81.
- 【単行書】**
1. 鈴木大亮 がん患者診療のための栄養治療ガイドライン 2024 年度版 - 総論編 日本栄養治療学会 (2024)
 2. 藤本浩司. 乳房温存オンコプラスチックサージャリーステップアップガイド : 有茎穿通枝皮弁を用いたオンコプラスチックサージャリー. p123-139. 春恒社
- 【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】**
1. 胆道外科医による経皮経肝胆道ドレナージ 高屋敷吏, 細川勇, 西野仁恵, 鈴木謙介, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 三島敬, 小西孝宜, 仲田真一郎, 大塚将之 第 60 回日本腹部救急医学会総会
 2. Prosaposin の膵癌における肝転移と血清診断マーカーとしての可能性 高野重紹, 曾川一幸, 宮原洋司, 高屋敷吏, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 鈴木謙介, 西野仁恵, 仲田真一郎, 大塚将之 第 33 回日本がん転移学会学術集会・総会
 3. 膵癌における転移臓器により異なる臨床予後と病理像 小西孝宜, 高野重紹, 高屋敷吏, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 第 33 回日本がん転移学会学術集会・総会
 4. 浸潤性膵管癌におけるリンパ節転移様式の新規分類における臨床的意義 江藤亮太郎, 高野重紹, 高地祐輔, 高屋敷吏, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 鈴木謙介, 西野仁恵, 仲田真一郎, 岸本充, 大塚将之 第 33 回日本がん転移学会学術集会・総会
 5. 膵癌周囲免疫微小環境での Complement factor B の腫瘍進展への影響 周達仁, 高野重紹, 高屋敷吏, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 第 33 回日本がん転移学会学術集会・総会
 6. Limits of Resection for Perihilar Cholangiocarcinoma - Trisectionectomy with Vascular Resection Tsukasa Takayashiki, Shigetsugu Takano, Daisuke Suzuki, Nozomu Sakai, Isamu Hosokawa, Takashi Mishima, Takanori Konishi, Hito Nishino, Kensuke Suzuki, Shinichiro Nakada, Masayuki Ohtsuka 第 36 回日本肝胆膵外科学会学術集会
 7. Countermeasures for infectious complications of pancreaticoduodenectomy for elderly patients with pancreatic cancer Daisuke Suzuki, Tsukasa Takayashiki, Shigetsugu Takano, Nozomu Sakai, Isamu Hosokawa, Takashi Minima, Kensuke Suzuki, Takanori Konishi, Hito Nishino, Shinichiro Nakada, Masayuki Ohtsuka 第 36 回日本肝胆膵外科学会学術集会
 8. Potential benefit of regional lymph node dissection during radical surgical resection for intrahepatic cholangiocarcinoma Kensuke Suzuki, Tsukasa Takayashiki, Shigetsugu Takano, Daisuke Suzuki, Nozomu Sakai, Isamu Hosokawa, Takashi Mishima, Takanori Konishi, Hito Nishino, Shinichiro Nakada, Masayuki Ohtsuka 第 36 回日本肝胆膵外科学会学術集会
 9. Treatment outcomes and clinicopathological analysis of intraductal papillary mucinous neoplasm (IPMN) associated invasive carcinoma. Takashi Mishima, Tsukasa Takayashiki, Satoshi Kuboki, Shigetsugu Takano, Daisuke Suguki, Nozomu Sakai, Isamu Hosokawa, Takanori Konishi, Hito Nishino, Shinichirou Nakada, Masayuki Ohtsuka 第 36 回日本肝胆膵外科学会学術集会
 10. 肝門部領域胆管癌に対する術前化学療法の意義と新規集学的治療の展望 高屋敷吏, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 賀川真吾, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 大塚将之 第 79 回日本消化器外科学会総会
 11. Definition of BR colorectal liver metastasis and the

- effect of perioperative chemotherapy Nozomu Sakai, Tsukasa Takayashiki, Shigetsugu Takano, Daisuke Suzuki Isamu Hosokawa Takashi Mishima, Takanori Konishi, Hitoe Nishino, Kensuke Suzuki, Shinichiro Nakada, Masayuki Ohtsuka 第79回日本消化器外科学会総会
12. Definition of BR colorectal liver metastasis and the effect of perioperative chemotherapy Nozomu Sakai, Tsukasa Takayashiki, Shigetsugu Takano, Daisuke Suzuki Isamu Hosokawa Takashi Mishima, Takanori Konishi, Hitoe Nishino, Kensuke Suzuki, Shinichiro Nakada, Masayuki Ohtsuka 第79回日本消化器外科学会総会
 13. 胆道癌外科切除困難例および再発例に対する集学的治療戦略 高屋敷史, 高野重紹, 大塚将之 第60回日本胆道学会学術集会
 14. 当院における十二指腸乳頭部腫瘍に対する治療戦略と成績 鈴木大亮, 高屋敷史, 高野重紹, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 鈴木謙介, 西野仁恵, 仲田真一郎, 大塚将之 第60回日本胆道学会学術集会
 15. 75歳以上高齢者肝門部領域胆管癌に対する拡大肝切除の治療成績 細川勇, 高屋敷史, 大塚将之 第60回日本胆道学会学術集会
 16. 術前に病理学的悪性診断に至らなかった胆道狭窄切除88例の検討 鈴木謙介, 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 仲田真一郎, 園田至人, 大塚将之 第60回日本胆道学会学術集会
 17. Tandem Mass Tagを用いたタンデム質量分析法による膵癌バイオマーカーの探索 高野重紹, 曾川一幸, 宮原洋司, 高屋敷史, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 第55回日本膵臓学会大会
 18. 「IPMNの切除断端診断及び長期予後の検討」三島敬, 高野重紹, 高屋敷史, 久保木知, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 第55回日本膵臓学会大会
 19. IPMN切除後の残膵病変発生のリスク因子の系統的レビュー: 切除断端に注目して 西野仁恵, 宮坂義浩, 川元真, 保坂優斗, 大塚隆生, 大塚将之 第55回日本膵臓学会大会
 20. Liquid biopsyによるsecretomeで同定されたフコシル化C4BPAの早期膵癌診断の可能性 Shigetsugu Takano, Kazuyuki Sogawa, Tsukasa Takayashiki, Daisuke Suzuki, Nozomu Sakai, Isamu Hosokawa, Takashi Mishima, Takanori Konishi, Hitoe Nishino, Kensuke Suzuki, Shinichiro Nakada, Masayuki Ohtsuka 第62回日本癌治療学会学術集会
 21. 肝門部領域胆管癌における術前および切除不能・再発症例に対する化学療法の変化 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 第22回日本消化器外科学会大会 JDDW
 22. 切除可能境界膵癌における組織学的効果判定による予後の検討 高野重紹, 小西孝宜, 高屋敷史, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 第28回日本外科病理学会学術集会
 23. Digital pathologyを活用した肝内胆管癌における腫瘍内間質比評価 内藤慶, 仲田真一郎, 高野重紹, 高屋敷史, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 鈴木謙介, 西野仁恵, 高地祐輔, 岸本充, 大塚将之 第28回日本外科病理学会学術集会
 24. 進行胆嚢癌に対する外科切除の意義と集学的治療戦略 鈴木大亮, 高屋敷史, 高野重紹, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 鈴木謙介, 西野仁恵, 仲田真一郎, 大塚将之 第86回日本臨床外科学会総会
 25. 肝門部領域胆管癌術前画像進展度診断および術後病理診断における根治切除の検討 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 第86回日本臨床外科学会総会
 26. 肝門部領域胆管癌に対する右側肝切除後の門脈血栓症発症の予測因子の解析 細川勇, 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 高田護, 大塚将之 第86回日本臨床外科学会総会
 27. ロボット支援下尾側膵切除術の導入: High volume centerでない施設の工夫 西野仁恵, 高屋敷史, 高野重紹, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之 第37回日本内視鏡外科学会総会
 28. 大腸癌多発肝転移の治療戦略 酒井望, 高屋敷史, 久保木知, 高野重紹, 鈴木大亮, 細川勇, 三島敬, 小西孝宜, 西野仁恵, 仲田真一郎, 大塚将之 第86回日本臨床外科学会総会
 29. 磁場空間におけるMRI detected lesionに対する乳房2nd look US. 榎原淳太, 藤本浩司, 高田護, 長嶋健, 大塚将之, 日本超音波医学会第97回学術集会
 30. 全て見せます, 千葉大学病院で培った乳がんの超音波画像診断~1mm大の超早期乳がんの検出から進行乳がんの病態に対応する眼を持つ~. 榎原淳太 第40回日本核医学技術学会関東地方会総会特別講演
- 【学会発表数】**
- | | | | |
|------|------|-----|-------------|
| 国内学会 | 20学会 | 92回 | (うち大学院生24回) |
| 国際学会 | 5学会 | 9回 | (うち大学院生1回) |

【外部資金獲得状況】

1. 日本学術振興会「肝内胆管癌病態形成におけるメカノトランスダクションの役割」代表者：大塚将之 2024
2. 日本学術振興会「癌微小環境内の補体免疫相互作用の多角的解析による癌進展機序解明と診断・治療応用」代表者：高野重紹 2024
3. 日本学術振興会「ING5 による大腸癌の進展、転移および化学療法抵抗性に対する抑制的制御機構の解明」代表者：酒井望 2024
4. 日本学術振興会「肝門部領域胆管癌における肝門部の立体解剖にもとづいた新規切除可能性分類の開発」代表者：細川勇 2024
5. 日本学術振興会「大腸癌肝転移における Histopathological growth pattern に基づいた新規治療戦略の構築」代表者：小西孝宜 2024
6. 日本学術振興会「肝内胆管癌新規 Biomarker の同定及び癌周囲間質を標的とした新規治療開発」代表者：鈴木謙介 2024
7. 日本学術振興会「大腸癌肝転移の TWEAK/Fn14 axis を介した腫瘍進展メカニズムの解明と新規治療薬の開発」代表者：松山尚樹 2024
8. 日本学術振興会「ポリコームタンパク YAF2 による大腸癌の進展、転移、再発における制御機構の解明」代表者：佐藤駿介 2024
9. 日本学術振興会「C5-C5aR1/2 axis を標的とした癌進展機構の解明と新規補体免疫賦活化療法への応用」代表者：江藤亮太郎 2024
10. 日本学術振興会「胆道癌における相同組換え修復欠損に基づいた precision medicine の構築」代表者：藤井康矢 2024
11. 日本学術振興会「大腸癌における RYBP を介した腫瘍制御機構の解明」代表者：森中孝至 2024
12. 日本学術振興会「SEMA3C が及ぼす HGF/c-MET 経路の活性化と癌進展機構の解明」代表者：富澤聡史 2024
13. 日本学術振興会「消化器癌の進展、転移制御における BAP1 の機能解析」代表者：岡義人 2024
14. 日本学術振興会「膵臓癌細胞株を用いた網羅的 secretome 解析により見出された分泌蛋白の臨床応用」代表者：高野重紹、大塚将之 2024
15. 日本学術振興会「大腸癌の腫瘍進展、転移形成における RING1 の促進的機構の解明」代表者：船津悠也 2024
16. 日本学術振興会「肝胆膵領域癌における Ly6D を介した腫瘍進展促進機序・抗癌剤耐性増強機序の解明および治療応用」代表者：園田至人 2024
17. 日本膵臓病研究財団「膵癌に対する RAD51 に基づいた新たな治療戦略の開発」代表者：小西孝宜 2024
18. 日本膵臓病研究財団「LIN28B による膵神経内分泌癌(PanNEC)発癌機構の解明」代表者：鈴木謙介 2024
19. 日本学術振興会 基盤研究(C)「拡張現実と疑似体位画像生成技術を応用した乳癌術前・術中支援システムの開発」代表者：藤本浩司 2023-2025
20. 日本学術振興会 基盤研究(C)「in vivo エストロゲン非依存性乳癌細胞株による内分泌療法抵抗性機序の解析研究」代表者：山田英幸 2022-2024
21. 日本学術振興会 挑戦的研究(萌芽)「長鎖 DNA 解析を基盤とする臨床検査群を可能とする本邦発のプラットフォームの開発」分担者：高田護 2022-2024

【受賞歴】

1. 第 28 回日本外科病理学会学術集会 優秀演題賞 三島敬
2. 第 30 回侵襲とサイトカイン研究会 優秀演題賞 松山尚樹
3. 第 46 回日本癌局所療法研究会 奨励賞 船津悠也
4. 第 24 回関東ホルモンと癌研究会研究奨励賞 高田護

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

（肝胆膵外科）

2024 年の延べ手術総数は 380 件であった。手術患者の内訳は、肝疾患 126 例、胆道疾患 117 例、膵臓疾患 98 例 などであり、ハイボリュームセンターの一つとして治療成績の向上に寄与している。手術症例の中心は肝疾患では原発性肝癌、転移性肝癌、胆道疾患では胆嚢癌、胆管癌、膵臓疾患では膵臓癌といった悪性腫瘍であり、我々は新しい手術手技の開発や治療成績の改善を目指すとともに、術前・術後化学療法や Interventional radiology (IVR) 治療などと組み合わせることにより、これらの悪性腫瘍に対する治療成績の向上を目指している。近年、腹腔鏡下の肝・胆・膵手術も積極的に行っており、ロボット支援下手術は尾側膵切除より導入を開始し、2024 年には膵頭十二指腸切除術、肝切除にも適応を拡大して、症例数を増やしているところである。生体部分肝移植も症例数を増やしており、肝不全に対する有効な治療法として確立している。また、2014 年度には脳死肝移植認定施設となっており、千葉県唯一の認定施設として、急性肝不全症例を含め肝移植適応症例を多数受け入れている。

(乳腺外科)

高度先進医療施設として最新の技術を用いた診断とエビデンスに基づいた診療を実践した。乳房温存手術・センチネルリンパ節生検・乳房再建術など術後の整容性を考慮した手術を積極的に取り入れたほか、多職種連携のもと、放射線・化学療法・内分泌療法・分子標的療法などを効果的に組み合わせた集学的治療を行った。2024年の乳癌手術件数は269例(279乳房)、うち乳房温存手術を122例、同時再建手術を20例に実施した。遺伝性乳がん卵巣がん症候群に対するリスク低減(予防的)乳房切除にも対応している。

●地域貢献

(肝胆膵外科)

大塚教授が第47回日本癌局所療法研究会の当番世話人を担当した。大塚教授が第31回侵襲とサイトカイン研究会の会長を担当した。千葉県下の地域関連施設とは密に連携を取り、人的派遣を含め地域医療に貢献している。

(乳腺外科)

千葉県がん診療連携協議会乳がん部会委員、千葉検診精度管理専門委員会乳腺専門委員、日本乳癌学会評議員、日本臨床細胞学会評議員、日本乳癌学会関東地方会および千葉県乳腺診断フォーラム世話人を担当した。

研究領域等名：	先端応用外科学
診療科等名：	食道・胃腸外科／メドテック・リンクセンター

●はじめに

最先端の研究・診療活動を真摯に行い、安定した心・技術・倫理的科学的思考を兼ね備えた医師を育て、国民の高い期待に応えるべく活動することを目標としている。約100年続く伝統を重んじつつも日進月歩する診療、研究、教育の分野において活発に取り組んでいる。

●教育

・学部教育／卒前教育

医学部2年生対象に解剖学実習の際に講義を担当し、実習のサポートを行った。医学部3年生4年生で、ユニット授業、臨床入門、テュートリアルを担当しており、外科学総論、各論を通して外科学の広い知識と基本的態度について教育した。また5年生6年生には、クリニカル・クラークシップを通して、消化器疾患における画像診断、周期管理、ベッドサイドならびに手術手技の実際を教育した。毎週の術前術後カンファレンスは、学生・研修医参加で質疑を行い、診断から治療まで一貫性を持った実践的な臨床教育を行った。

・卒後教育／生涯教育

初期研修医に対する外科の基礎教育も担っており、手術だけでなく幅広い診療技術や知識を教えて外科への興味が高まるよう期待している。カンファレンスでは、学生・研修医参加で質疑を行い、実践的な臨床教育を行った。入局者には後期研修で心臓血管外科、小児外科、呼吸器外科の短期研修を行い、幅広い知識と技術の取得、手術症例を経験し、外科専門医の資格を取得するよう指導した。さらには消化器外科、消化器内視鏡、内視鏡外科等の各専門医資格取得を目指して修練を重ねるよう指導した。

・大学院教育

食道癌を中心とした消化管癌の発生・進行に関する分子生物学的・免疫学的研究、先駆的な技術を用いた画像診断、内視鏡診断に関する研究を大学院生に指導しながら行った。また医療工学系大学院とも交流研究し最新技術や機器開発に尽力した。修士課程の先端治療学特論、病態制御治療学特論、臨床医科学特論を担当した。博士課程では先端応用外科特論、演習、実習、特別研究と発表論述方法論を担当した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

普遍教育、生命コア・外科治療と疾患、現代医学を担当した。看護学部で、健康障害と看護について担当した。工学部で医用統計、生体生理、工学入門、メディカルシステム実験を担当した。工学部修士課程で臨床解剖学、生理学特論を担当した。また、幕張総合高校看護科で腎移植についての講義、外科全般に関する講義を担当した。

●研究

・研究内容

教室のメイン研究テーマは食道癌の診断と治療であり、新たな治療開発を追求し、多くの臨床研究を実施しており、また、日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）による食道癌の臨床研究に主要メンバー施設として参加し、新しい治療法の開発やその有効性の検証などを行っている。平成15年度から19年度にかけての21世紀COE拠点形成プログラムで開始された食道扁平上皮癌に対する重粒子線治療研究では、その治療効果を検証している。また、食道癌を中心に消化管癌の発生・進展に関する分子生物学的研究も行っており、基礎的な研究成果を臨床診断・治療に還元できるよう努力している。胃癌・大腸癌、良性腫瘍、良性疾患など消化管疾患全般において新しい医療の研究・開発に努め、研究成果を患者さんへ還元することを目標としている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Uesato M, Kurata Y, Matsumoto Y, Kainuma S, Hirotsuna T, Otsuka R, Hayano K, Matsubara H. Use of inducible and limiting fluorescence in laparoscopic endoscopic cooperative surgery. VideoGIE. 2023 Sep 27;9(1):14-18. 2. Okazumi S, Ohira G, Hayano K, Aoyagi T, Imanishi S, Matsubara H. Novel Advances in Qualitative	Diagnostic Imaging for Decision Making in Multidisciplinary Treatment for Advanced Esophageal Cancer. J Clin Med. 2024 Jan 22;13(2):632. 3. Kurata Y, Ohira G, Hayano K, Imanishi S, Tochigi T, Takahashi Y, Mamiya H, Iwata M, Uesato M, Murakami K, Toyozumi T, Matsumoto Y, Nakano A, Otsuka R, Hayashi H, Matsubara H.

- Peripherally inserted central catheter securement with cyanoacrylate glue and bloodstream infection: A retrospective cohort study. *JPEN J Parenter Enteral Nutr.* 2024 Feb;48(2):215-223.
4. Matsumoto Y, Iida S, Kano M, Suito H, Hayashi H, Hayano K, Kurata Y, Otsuka R, Takahashi Y, Matsubara H. A case of laparoscopic revision surgery 30 years after vertical banded gastroplasty for morbid obesity. *Asian J Endosc Surg.* 2024 Apr; 17(2):e13282.
 5. Hayano K, Kano M, Matsumoto Y, Kurata Y, Otsuka R, Hirata A, Nakano A, Toyozumi T, Murakami K, Uesato M, Ohira G, Matsubara H. Intraoperative assessment of blood flow using transabdominal ultrasound during laparoscopic surgery of celiac artery compression syndrome. *Asian J Endosc Surg.* 2024 Apr;17(2):e13288.
 6. Maiyulan A, Matsumoto Y, Wang H, Murakami K, Toyozumi T, Otsuka R, Shiraishi T, Kinoshita K, Hu J, Iida S, Morishita H, Makiyama T, Nishioka Y, Kano M, Matsubara H. Hypoxia-regulated exosomal miR-185 inhibits esophageal squamous cell carcinoma progression and predicts prognosis. *Oncol Lett.* 2024 May 22;28(1):334.
 7. Hike S, Endo S, Ota M, Ohira G, Maruyama M, Imanishi S, Maruyama T, Tochigi T, Amagai H, Shiraishi T, Hirata A, Mamiya H, Iwata M, Kakimoto A, Matsubara H. A case of rectal metastasis of prostate cancer mimicking extramural growth-type rectal tumor. *J Surg Case Rep.* 2024 May 18;2024(5):rjae314.
 8. Sekino N, Kano M, Murakami K, Toyozumi T, Hayano K, Ohira G, Matsubara H. Current findings on the antitumor effects of metformin on esophageal squamous cell carcinoma (Review). *Mol Clin Oncol.* 2024 Jun 28;21(2):58.
 9. Nishioka Y, Matsumoto Y, Murakami K, Endo S, Toyozumi T, Otsuka R, Shiraishi T, Iida S, Morishita H, Makiyama T, Hu J, Maiyulan A, Matsubara H. Establishment of a novel small bowel adenocarcinoma cell line using patient-derived xenografts, which produces CEA and CA19-9. *Oncol Lett.* 2024 Jun 5;28(2):360.
 10. Ohira G, Endo S, Imanishi S, Tochigi T, Maruyama T, Hayano K, Maruyama M, Matsubara H. Prognosis and predictive factors of conversion surgery for initially unresectable advanced colorectal cancer. *Langenbecks Arch Surg.* 2024 Jun 11;409(1):182.
 11. Harada-Kagitani S, Kouchi Y, Shinomiya Y, Kodama M, Ohira G, Matsubara H, Ikeda JI, Kishimoto T. Keratin 6A Is Expressed at the Invasive Front and Enhances the Progression of Colorectal Cancer. *Lab Invest.* 2024 Jul;104(7):102075.
 12. Mamiya H, Tochigi T, Hayano K, Ohira G, Imanishi S, Maruyama T, Kurata Y, Takahashi Y, Hirata A, Matsubara H. Texture analysis of CT colonography to develop a novel imaging biomarker for the management of colorectal cancer. *Ann Gastroenterol Surg.* 2024 Aug 26;9(1):145-152.
 13. Kinoshita K, Maruyama T, Kobayashi N, Imanishi S, Maruyama M, Ohira G, Endo S, Tochigi T, Kinoshita M, Fukui Y, Kumazu Y, Kita J, Shinohara H, Matsubara H. An artificial intelligence-based nerve recognition model is useful as surgical support technology and as an educational tool in laparoscopic and robot-assisted rectal cancer surgery. *Surg Endosc.* 2024 Sep;38(9):5394-5404. doi: 10.1007/s00464-024-10939-z. Epub 2024 Jul 29. Erratum in: *Surg Endosc.* 2024 Sep;38(9):5481.
 14. Hu J, Toyozumi T, Murakami K, Endo S, Matsumoto Y, Otsuka R, Shiraishi T, Iida S, Morishita H, Makiyama T, Nishioka Y, Uesato M, Hayano K, Nakano A, Matsubara H. Prognostic value of tumor-infiltrating lymphocytes and PD-L1 expression in esophageal squamous cell carcinoma. *Cancer Med.* 2024 Sep;13(17):e70179.
 15. Hayano K, Ohira G, Matsumoto Y, Kurata Y, Otsuka R, Hirata A, Toyozumi T, Murakami K, Uesato M, Matsubara H. CT-derived skeletal muscle change before immunotherapy predicts survival of advanced gastric cancer: associations with inflammatory markers and liver lipid metabolism. *Int J Clin Oncol.* 2024 Sep;29(9):1255-1262.
 16. Arimatsu N, Amemiya A, Hayano K, Murakami K, Toyozumi T, Matsumoto Y, Kurata Y, Matsubara H. Factors associated with physical activity in patients with upper gastrointestinal cancer during outpatient chemotherapy: A cross-sectional study. *Asia Pac J Oncol Nurs.* 2024 Sep 2;11(11):100585.
 17. Kurosugi A, Matsumura T, Sonoda M, Kaneko T, Takahashi S, Okimoto K, Akizue N, Ohyama Y, Mamiya Y, Nakazawa H, Horio R, Goto C, Ohta Y, Taida T, Kikuchi A, Fujie M, Murakami K, Uesato M, Ozawa Y, Kato J, Matsubara H, Kato N. Two onset types of achalasia and the long-term course to diagnosis. *Esophagus.* 2024 Oct;21(4):546-551.

18. Ogawa K, Ishikawa H, Toyozumi T, Noma K, Kono K, Hojo H, Tamamura H, Azami Y, Ishida T, Nabeya Y, Iwata H, Araya M, Tokumaru S, Maruo K, Oda T, Matsubara H. Comparison of proton-based definitive chemoradiotherapy and surgery-based therapy for esophageal squamous cell carcinoma: a multi-center retrospective Japanese cohort study. *Esophagus*. 2024 Oct;21(4):484-494. doi: 10.1007/s10388-024-01068-6. Epub 2024 Jun 6. Erratum in: *Esophagus*. 2024 Oct;21(4):484-494.
 19. Isozaki T, Ishikawa H, Yamada S, Nabeya Y, Minashi K, Murakami K, Matsubara H. Outcomes of definitive carbon-ion radiotherapy for cT1bN0M0 esophageal squamous cell carcinoma. *Esophagus*. 2024 Oct;21(4):523-529.
 20. Watanabe Y, Yamaguchi T, Sasaki A, Naitoh T, Matsubara H, Yokote K, Okazumi S, Ugi S, Yamamoto H, Ohta M, Ishigaki Y, Kasama K, Seki Y, Tsujino M, Shirai K, Miyazaki Y, Masaki T, Nagayama D, Tatsuno I, Saiki A. Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on weight loss and metabolic improvement in subjects aged 65 years or older: a subanalysis of J-SMART study. *Diabetol Int*. 2024 Oct 13;16(1):56-64.
 21. Iida S, Matsumoto Y, Toyozumi T, Otsuka R, Shiraishi T, Morishita H, Makiyama T, Nishioka Y, Yamada M, Hirata A, Hayano K, Ohira G, Kano M, Matsubara H. High Subcutaneous Adipose Tissue Radiodensity Predicts Poor Prognosis in Patients With Gastric Cancer. *Cancer Diagn Progn*. 2024 Nov 3;4(6):754-761.
 22. Morishita H, Otsuka R, Toyozumi T, Matsumoto Y, Sekino N, Okada K, Shiraishi T, Kamata T, Iida S, Makiyama T, Nishioka Y, Yamada M, Matsubara H. Correlation Between Serum and Tissue SIRT1 Levels in Patients With Esophageal Squamous Cell Carcinoma. *Cancer Diagn Progn*. 2024 Nov 3;4(6):762-768.
- 【雑誌論文・和文】**
1. 上里昌也. 医学の窓 各科の話題 外科 食道アカラシア治療法の最新事情. 千葉県医師会雑誌. 2024;76(1):16.
 2. 上里昌也, 奥山めぐみ, 柴田みづほ, 横山威一郎, 桑原麻理子, 水島舞, 岸田友治, 清水郁夫, 磯野史朗, 相馬孝博. 侵襲的処置に対する安全かつ持続可能な鎮静法への院内標準化. 医療の質・安全学会誌. 2024;19(1):38-45.
 3. 上里昌也. 薬の使い方がすぐわかる泌尿器科処方ガイド 10. 周術期《予定手術》消化管術前処置. 臨床泌尿器科. 2024;78(4):263-265.
 4. 上里昌也. 薬の使い方がすぐわかる泌尿器科処方ガイド 10. 周術期《術後愁訴と合併症》悪心・嘔吐. 臨床泌尿器科. 2024;78(4):306-308.
 5. 池田優子, 田崎健太郎, 福長徹, 菅本祐司, 久保嶋麻里, 水町遼矢, 木下麻優子, 江口正信, 松原久裕. 外傷性破裂を来した膵粘液性嚢胞腺癌の1例. 日本消化器外科学会雑誌. 2024;57(4):197-203.
 6. 三浦良太, 池田優子, 水町遼矢, 渡邊裕樹, 福田安希代, 松原久裕. 鼠径ヘルニアの症状を呈した子宮円靱帯平滑筋腫に対して腹腔鏡下に診断・治療し得た1例. 日本ヘルニア学会誌. 2024;10(1):25-30.
 7. 木下和也, 林秀樹, 松本泰典, 上里昌也, 早野康一, 村上健太郎, 藏田能裕, 豊住武司, 大塚亮太, 中野明, 松原久裕. MSI - High 胃癌症例における化学療法の戦略. 癌と化学療法. 2024;51(5):553-555.
 8. 井上潤一, 大友康裕, 庄古知久, 森下幸治, 松島一英, 比良英司, 溝端康光, 渡部広明, 中田孝明, 松原久裕. 【Acute Care Surgeon - その活躍の場 -】多数傷病者事案 mass casualty incident (MCI) における活躍. 日本外科学会雑誌. 2024;125(3):207-215.
 9. 丸山通広, 森下弘基, 牧山展士, 松原久裕. 献腎移植(成人)の動向と治療成績. 腎と透析. 2024;97(2):147-151.
 10. 龍崎貴寛, 泉對貴子, 小林清二, 宮澤幸正, 塚本総一郎, 村上博和, 山川久美, 金丸良平, 小出義雄, 渡辺義二, 鎗田努, 松原久裕. 切除不能胃癌に対する免疫療法導入後の臨床成績への影響. 癌と化学療法. 2024;51(10):1056-1058.
 11. 廣砂琢也, 藏田能裕, 早野康一, 大平学, 林秀樹, 松原久裕. 胃切除後早期に発症しTAEで救命した短胃動脈仮性動脈瘤破裂の1例. 日本臨床外科学会雑誌. 2024;85(12):1676-1680.
 12. 青柳智義, 坂田治人, 南村真紀, 玉貫圭甲, 岩井美香, 大平学, 早野康一, 松原久裕, 松崎弘志. 局所進行乳癌に対して化学療法中に局所増大し摘出術を行い再発が抑えられている1例. 癌と化学療法. 2024;51(13):1342-1344.
 13. 渡邊裕樹, 柿元綾乃, 水野歩実, 佐々木拓馬, 鎌田敏希, 浅井陽, 田崎健太郎, 菅本祐司, 松原久裕. 切除不能胃癌に対してSOX+Nivolumab療法施行中にPseudo Progression後奏効した1例. 癌と化学療法. 2024;51(13):1440-1442.
- 【単行書】**
1. 松原久裕 他共著. がん治療 Year Book Key Reference 2022-2023. へるす出版 東京 2024
 2. 松原久裕. 序文. 食道癌2024 - 基礎・臨床の最新動向 -. 日本臨床社 東京 2024:1-3
 3. 中野明, 豊住武司, 松原久裕, 村上健太郎, 上里昌也. 食道癌の治療 外科治療 食道癌手術の周術期

- 管理. 食道癌 2024 – 基礎・臨床の最新動向 –. 日本臨床社 東京 2024:374-380
4. 天海博之, 上里昌也, 松原久裕. 食道癌の治療 内視鏡的治療 食道癌内視鏡的治療の適応の変遷. 食道癌 2024 – 基礎・臨床の最新動向 –. 日本臨床社 東京 2024:273-278
 5. 豊住武司, 松原久裕. 食道癌の治療 食道癌の治療戦略 概論 頸部食道癌. 食道癌 2024 – 基礎・臨床の最新動向 –. 日本臨床社 東京 2024:253-259
 6. 早野康一, 平田篤史, 佐藤広崇, 藏田能裕, 松原久裕. 食道癌の診断 MRI 診断の進歩. 食道癌 2024 – 基礎・臨床の最新動向 –. 日本臨床社 東京 2024:229-233
 7. 岡住慎一, 大平学, 矢野嘉政, 松原久裕. 食道癌の診断 食道癌深達度診断・リンパ節診断の進歩. 食道癌 2024 – 基礎・臨床の最新動向 –. 日本臨床社 東京 2024:179-183
 8. 松原久裕, 松本泰典 他共著. 減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン 2024. コンパス出版局 東京 2024
 9. 松原久裕. 特集 消化器患者が抱える主な併存疾患と術後のみかた ベッドサイドで使える観察点チェックシートつき. 消化器ナーシング. メディカ出版 大阪 2024:693
 10. 早野康一. Special Feature 1 糖尿病の患者さん. 消化器ナーシング. メディカ出版 大阪 2024:6-9
 11. 藏田能裕. Special Feature 2 狭心症の患者さん. 消化器ナーシング. メディカ出版 大阪 2024:11-16
 12. 豊住武司. Special Feature 3 COPD の患者さん. 消化器ナーシング. メディカ出版 大阪 2024:17-22
 13. 丸山通広. Special Feature 5 慢性腎不全の患者さん. 消化器ナーシング. メディカ出版 大阪 2024:30-36
 14. 松本泰典. Special Feature 6 肥満症の患者さん. 消化器ナーシング. メディカ出版 大阪 2024:37-41
 15. 大平学. Special Feature 8 感染症を伴う患者さん. 消化器ナーシング. メディカ出版 大阪 2024:48-52
 16. 中野明. Special Feature 9 低栄養・サルコペニアの患者さん. 消化器ナーシング. メディカ出版 大阪 2024:53-57
 17. 丸山哲郎. Special Feature 10 血液疾患を有する患者さん. 消化器ナーシング. メディカ出版 大阪 2024:58-64
- 【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】**
1. 松原久裕. 食道癌の最新治療戦略. とちぎるのはな会 学術講演会. 2024.1.28 宇都宮
 2. 松原久裕. 難治性食道癌への挑戦. 第 17 回ちば Basic & Clinical Research Conference. 2024.2.1 千葉
 3. 松原久裕. 消化器外科における Acute Care Surgery の展開と日本外科学会 TSAT について. 第 2 回 Osaka Digestive Surgery Acute Care Forum. 2024.2.14 大阪
 4. 豊住武司. 食道癌 1 次治療における ICI レジメンのリアルワールドデータ. 山形食道癌 WEB セミナー. 2024.2.29 web 開催
 5. 坂井大介, 斎藤絢介, 杉本直俊, 有上貴明, 松原久裕, 古川陽菜, 岡義雄, 三谷誠一郎, 川上尚人, 下川敏雄, 朴成和, 佐藤太郎. Ramucirumab 抵抗性進行胃癌に対する ramucirumab + Irinotecan のインターグループ第Ⅲ相試験: RINDBeRG 試験. 第 96 回日本胃癌学会総会. 2024.2.29 京都
 6. 豊住武司, 胡捷, 村上健太郎, 上里昌也, 中野明, 藏田能裕, 早野康一, 松本泰典, 大塚亮太, 高橋有未子, 林秀樹, 松原久裕. 腫瘍内浸潤 T リンパ球の phenotype および腫瘍 PD-L1 発現は食道扁平上皮癌の予後を予測する. 第 33 回日本癌病態治療研究会. 2024.5.16 佐賀
 7. 牧山展士, 松本泰典, 佐々木拓馬, 上里昌也, 村上健太郎, 豊住武司, 中野明, 早野康一, 藏田能裕, 大塚亮太, 荒澤孝裕, 松原久裕. CRT を行った食道扁平上皮癌の腸内細菌叢解析と sPD-L1 との関連. 第 33 回日本癌病態治療研究会. 2024.5.16 佐賀
 8. 上里昌也. 術後難治性消化管呼吸器系瘻孔に対する OTSC の可能性. 第 49 回日本外科系連合学会学術集会. 2024.6.6 東京
 9. 大平学, 丸山通広, 遠藤悟史, 今西俊介, 栃木透, 丸山哲郎, 天海博之, 松原久裕. 回腸囊の肛門到達困難度予測と経肛門鏡視下アプローチ. 第 79 回日本消化器外科学会総会. 2024.7.19 下関
 10. Takeshi Toyozumi, Jie Hu, Kentaro Murakami, Masaya Uesato, Akira Nakano, Yoshihiro Kurata, Koichi Hayano, Yasunori Matsumoto, Ryota Otsuka, Takahiro Arasawa, Yumiko Takahashi, Hisahiro Matsubara. Prognostic Value of T Cell Phenotypes and PD-L1 Expression In Esophageal Squamous Cell Carcinoma. 21st ISDE World Congress for Esophageal Diseases (ISDE 2024). 2024.9.24 Edinburgh, UK
 11. 豊住武司. 自施設症例から考察する切除不能進行・再発食道癌 1 次化学療法. 食道癌オプジーボ WEB LECTURE. 2024.10.7 web 開催
 12. Hisahiro Matsubara. Selection of gastric cancer surgery. The 27th China-Japan Digestive Surgery Academic Conference. 2024.10.12 北京

13. Hisahiro Matsubara. Discussion. The 27th China-Japan Digestive Surgery Academic Conference. 2024.10.12 北京
14. Gaku Ohira. Discussion. The 27th China-Japan Digestive Surgery Academic Conference. 2024.10.12 北京
15. Gaku Ohira. Two team surgery for low rectal cancer by three surgeons. The 27th China-Japan Digestive Surgery Academic Conference. 2024.10.12 北京
16. 丸山通広. 腎移植長期フォロー施設における移植後貧血の現状と治療. 移植後腎性貧血セミナー. 2024.10.24 web開催
17. 松原久裕. 食道癌治療の最先端 topics. 第32回日本消化器関連学会週間 (JDDW2024). 2024.11.1 神戸
18. Takeshi Toyozumi, Akira Nakano, Hisahiro Matsubara. Examination of our multimodal treatment for esophagogastric junction cancer. 第32回日本消化器関連学会週間 (JDDW2024). 2024.11.1 神戸
19. 中野明, 上里昌也, 白石匡, 大塚亮太, 藏田能裕, 松本泰典, 豊住武司, 早野康一, 松原久裕. 当院における食道アカラシアに対する POEM の短期治療成績. 第77回日本胸部外科学会学術集会. 2024. 11.4 金沢
20. 栃木透, 大平学, 丸山哲郎, 岡田晃一郎, 平田篤史, 丸山通広, 松原久裕. デジタルイラストレーションによる業務の効率化と SNS を用いた手術動画の記録. 第86回日本臨床外科学会学術集会. 2024.11.21 宇都宮
21. 松本泰典, 大塚亮太, 高橋有未子, 林秀樹, 藏田能裕, 早野康一, 松原久裕. 当科における腹腔鏡下スリープ状胃切除術の定型化. 第86回日本臨床外科学会学術集会. 2024.11.22 宇都宮
22. Toru Tochigi, Koichi Hayano, Gaku Ohira, Yoshinori Kurata, Atsushi Hirata, Hisashi Mamiya, Hisahiro Matsubara. new method to evaluate CT colonography using texture analysis. RSNA 2024 (第110回北米放射線学会). 2024.12.1-5 Chicago, USA
23. Koichi Hayano, Atsushi Hirata, Toru Tochigi, Yoshihiro Kurata, Gaku Ohira, Hisahiro Matsubara. Histogram Analysis of Whole-Tumor Apparent Diffusion Coefficient Value to Select Optimal Neoadjuvant Therapy for Advanced Esophageal Squamous Cell Carcinoma. RSNA 2024 (第110回北米放射線学会). 2024.12.3 Chicago, USA
24. Atsushi Hirata, Koichi Hayano, Toru Tochigi, Yoshihiro Kurata, Gaku Ohira, Hisahiro Matsubara.

FDG uptake of metastatic lymph node enables prognostic stratification of lymph node-positive esophageal cancer patients. RSNA 2024 (第110回北米放射線学会). 2024.12.3 Chicago, USA

【学会発表数】

国内学会 63 学会 163 回 (うち大学院生 51 回)
国際学会 3 学会 8 回 (うち大学院生 1 回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 若手研究「食道扁平上皮癌における長寿遺伝子サーチユインの生物学的意義解明と革新的治療の開発」代表者：大塚亮太 2022-2024
2. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「消化管内視鏡を用いた縦隔内革新的手術のための消化管壁外同期可視化システムの開発」代表者：中野明 2023-2025
3. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「腫瘍と宿主のマルチモーダル画像解析による上部消化管癌プレシジョンメディシンの実現」代表者：早野康一 2024-2026
4. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「がん悪液質における全身性炎症機構の解明とエクソソームを標的とした新規治療開発」分担者：松本泰典 2022-2024
5. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「肝・脂肪連関における肝 FoxO1/PPAR α による糖代謝特異的制御機構の解明と臨床応用」分担者：松本泰典 2024-2026
6. 共同研究 東ソー株式会社「胃癌エクソソームマーカー候補群の臨床的有用性評価」代表者：松原久裕 2019-2025
7. 共同研究 日腸工業株式会社「シアノアクリレート」の臨床使用における有用性と課題に関する研究」代表者：松原久裕 2021-2025

【受賞歴】

1. 第124回日本外科学会定期学術集会 優秀演題賞 栃木透他
2. 第77回日本胸部外科学会学術集会 演題賞 中野明他

【その他】

食道癌においては、日本臨床腫瘍研究グループ (JCOG) による食道癌の臨床研究に主要メンバー施設として参加している。胃癌においても、日本がん臨床試験推進機構 (JACCRO) のメンバー施設として臨床試験に参加している。また、千葉県下の主要病院を中心として千葉腫瘍外科開発協議会 (SOAC) を組織し、消化管癌の治療に関する多施設共同研究や、企業との産学協同研究に積極的に参加し、新しいエビデンスの構築に努めている。

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

当科は、「食道・胃腸外科」として消化管外科全体を担当するとともに、「移植外科」にも携わり、教授、准教授、講師、助教に加え、医員、大学院生、シニアレジデント、初期研修医の約 30 名のスタッフとともに病床数 55 床を担当している。2024 年度の入院患者総数は 18,898 人、外来患者総数は 15,562 人、全身麻酔手術症例数 661 例であった。

治療対象疾患は食道癌、胃癌、大腸癌などの悪性疾患が多く、正確な術前診断に基づき術前後の化学・放射線治療を含む集学的治療まで QOL を考慮した surgical oncology を実践している。食道癌・噴門部癌治療においては多数の経験があり、食道癌手術症例数は全国でもトップクラスで、高い品質の医療を提供している。特に、化学放射線治療施行後の手術では、高い安全性と良好な生存率を実証している。一方、手術のみならず、早期食道癌の内視鏡的粘膜下層剥離術についても、わが国導入早期から積極的に施行しており、その症例数は世界でも有数の施設となっている。また、胃癌・大腸癌手術においては、癌の進行度やバイオマーカーに応じた治療法選択を行っており、内視鏡的粘膜下層剥離術から鏡視下手術、ロボット手術、センチネルノードナビゲーション手術、術前化学放射線療法・化学療法まで、患者さんに最善、最適な治療が提供出来るよう工夫している。特に最先端の治療と考えられるロボット手術では、保険認可を受けて以来積極的に導入し、より安全な手術法の開発及び効率的な教育体制の構築に努力している。また、これら消化器癌の新規バイオマーカーの開発や、機械の開発にも携わり、新しい手術法や手術教育法の開発も行っている。臓器移植分野においては、日本の草分けとして長く携わっており、現在生体腎および献腎移植を行っている。その他、食道アカラシア、炎症性腸疾患、ヘルニアなどの良性疾患に対する手術、内視鏡治療や、耳鼻咽喉科、泌尿器科、婦人科などとの合同手術も多く、多彩な病態に対応できる体制を整えている。肥満症に対する減量手術も以前から行っており、保険収載となっている腹腔鏡下スリーブ状胃切除術においても施設基準をみたし、代謝内科や栄養科との協力のもと、千葉県肥満症治療を支えている。

このように当科では、診断から治療まで一貫性を持った診療が同一チームで行われ、患者さんに最善の治療がシームレスに行えることが大きな特徴であり、今後も大切にしたいと考えている。

●地域貢献

千葉県内外の 20 以上の関連施設で当科出身の医師が勤務しており、それらの施設は地域の中心、中核となる医療機関として十分な役割を果たしている。さらに、千葉県内を中心に多数の施設で当科の医師が非常勤医師として勤務しており、医師不足に悩む地域の医療に大きく貢献している。

研究領域等名：	病原細菌制御学
診療科等名：	

●はじめに

当研究室の主要研究テーマである病原細菌の病原性に関する研究が順調に行われた。国内外の学会活動も活発に行った。また、医学部・大学院における教育・研究指導等も例年と同様に順調に実施された。また、当研究室が長年取り組んできた実験を通して中学生・高校生に対してサイエンスの魅力を伝える活動では、今年も研究室をあげて実施した。当研究室のスタッフ一同の業績が高く評価されているので大変光栄である。さらにチームワークでこれらの研究・奉仕活動を推進させたい。

●教育

・学部教育／卒前教育

医学部2年生に対して微生物学入門の講義を行った。この講義は8コマで構成されている。医学部3年生に対して統合臨床微生物学の講義と実習を行った。この講義は4コマ、実習は12コマで構成されている。また医学部3年生に対して基礎医学ゼミを8コマ行った。医学部1年生に対して医系生物学の講義を1コマ行った。スクラシップの指導は医学部1年生1人に対して1年間通して行った。

・大学院教育

医科学修士課程の学生に「生体防御医学特論」の講義を2コマ行った。形式はMoodleを用いた動画配信とレポート提出であった。内容は細菌学全般の概説した後、腸管出血性大腸菌 O157 等に関する内容で講義をした。特に、病原細菌の産生するトキシンの作用機構やその無毒化機構等について解説した。博士課程の「ワクチン学コース」、「感染症学コース」の「ワクチン学・感染症学特論 Essential」の講義を1コマ行なった。形式はMoodleを用いた動画配信とレポート提出であった。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

千葉大学の1年生に対して Moodle を用いた動画配信とレポート提出の形式で、普遍教育 生命コア「感染症」を企画し、3コマの講義を行った。微生物が起こす感染症を解り易く紹介し、病原微生物の特徴とそれらが引き起こす感染症に対する予防策等の知識を持ってもらうようにした。非常勤講師として千葉県立保健医療大学の微生物学の講義を対面で15コマを1年生約150名に対して行なった。非常勤講師として船橋市立看護専門学校で微生物学の講義を15コマを1年生40名に対して行なった。

●研究

・研究内容

主な研究テーマは病原細菌の病原性発現機構の解析である。この研究室では腸管出血性大腸菌、特に志賀毒素の産生機構に関して研究しており、感染時の病原性上昇に関して外部環境の変化を感知して、志賀毒素の産生を増強して、感染成立につなげていることを明らかにしている。このことは腸管出血性大腸菌が非常に少ない菌数でも感染が成立する要因の一つである。

また、当研究室は緑膿菌の低濃度マクロライド療法の有効性の理論的な解析を行っている。この中で低濃度のマクロライドは生体防御機構が産生する一酸化窒素（NO）に対する感受性を上昇させるが、臨床分離株の中にはその効果が十分でない菌株も存在する。その要因として、緑膿菌が保持する薬剤排出ポンプが関与すること明らかにしており、薬剤排出ポンプ阻害剤の有効性を示すことによって、臨床応用への重要な情報を発表できると考えている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Shin Suzuki, Yuji Morita, Shota Ishige, Kiyohiro Kai, Kenji Kawasaki, Kazuyuki Matsushita, Kohei Ogura, Tohru Miyoshi-Akiyama, Takeshi Shimizu. 2024. Effects of quorum sensing-interfering agents, including macrolides and furanone C-30, and an efflux pump inhibitor on nitrosative stress sensitivity in *Pseudomonas aeruginosa*. Microbiology, doi: 10.1099/mic.0.001464
2. Masayuki Imajoh, Masahiro Mori, Takeshi Shimizu, Yume Koizumi, Yuma Kobayashi, Miyu Kawahara, and Masanori Daibata. 2024. Complete genome sequence of *Edwardsiella tarda* strain GBS0709 isolated from a Japanese patient with the acute motor axonal neuropathy subtype of Guillain-Barré syndrome. Microbiology Resource Announcements, doi: 10.1128/mra.00456-24.

【学会発表数】

国内学会 2回（うち大学院生1回）

国際学会 1回（うち大学院生0回）

●地域貢献

千葉市教育委員会が主催する「千葉市未来の科学者育成プログラム」講座の講師を務め、千葉市の中学生と高校生に細菌学の講義と実習を行い、科学に対して興味を持ってもらうように努めた。

●その他

国際交流に関する活動としては、日米医学協力会議（コレラ関連下痢症専門部会）の日本側のコレラ・細菌性腸管感染症専門部会研究員の一人として、日米医学合同会議で米国の研究者と定期的に学術交流を行っている。

研究領域等名：	感 染 病 態 学
診療科等名：	

●はじめに

教育では、教室としてウイルス学を担当した。

研究では、腫瘍融解ウイルスとしてのトガウイルス科アルファウイルスのシンドビスウイルスの基礎研究・臨床応用研究、新型コロナウイルス感染症の分子疫学研究を行った。

腫瘍溶解ウイルスにおける主なテーマは、腫瘍融解ウイルスによる免疫療法の開発および腫瘍融解機序の解明である。

●教 育

・学部教育／卒前教育

- (1) 2年次学生に対して、微生物学入門（ウイルス）の講義を行った。
- (2) 3年次学生に対して、ウイルス学の講義と実習を担当した。
- (3) スカラーシッププログラム学生（1年次：1名、2年次：2名）の指導を行った。

・大学院教育

大学院普遍教育「感染症（医学）」を分担した（齋藤）。
大学院博士課程（1名）の研究指導を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

普遍教育コアF「感染症」を分担した（齋藤）。

●研 究

・研究内容

教室の研究テーマは、

1. 「腫瘍融解ウイルスであるトガウイルス科アルファウイルス属 Sindbis virus の臨床応用の開発、腫瘍融解性の解明」、そして「新型コロナウイルスに関する遺伝子解析と治療薬探索研究」である。

- ・ Sindbis virus の腫瘍融解活性が癌細胞における抗ウイルス応答の脆弱性によるものであることを示した。
- ・ 腫瘍溶解ウイルスによる免疫療法および併用化学療法剤の探索と作用機序の解明を行った。それにより、免疫チェックポイント阻害剤との併用により、腫瘍融解ウイルスの抗腫瘍効果が増強することを明らかにした。
- ・ 新型コロナウイルスに関しては、2020年以後世界中で流行している SARS-CoV-2 株の変異状況に関して附属病院と真菌医学研究センターの協力の下、随時変異株を分離し、その遺伝子解析を行った。特記すべきこととして移植患者よりレムデシビル耐性変異株が分離され、その詳しい性質が解析されたことが上げられる。

また効果的な治療薬探索に向けた基礎的研究として、特に経口投与薬である Ensitrelvir や新規 RNA 合成阻害剤である VV116 の抗ウイルス効果を評価した。低ウイルス量の場合、単剤でも十分に有効であるが高ウイルス量になると抑制に限界があること、しかし二つの薬剤を併用することによりウイルス増殖抑制効果が格段に増強することを明らかにした。

2. 「ウイルスゲノム配列からヒト感染リスクを評価する機械学習モデルの構築」

ヒト感染リスクを評価する機械学習モデルの構築については、自然言語分野で発達してきた BERT モデルをゲノム解析に活用することでモデル構築を行った。本手法は既存手法を上回る性能でヒト感染ウイルスを検知できることを示した一方で、一部の人獣共通感染症ウイルスはどのモデルでも予測が困難であるという問題点を提唱した。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Igari H, Sakao S, Ishige T, Saito K, Murata S, Yahaba M, Taniguchi T, Suganami A, Matsushita K, Tamura Y, Suzuki T, Ido E. Dynamic diversity of SARS-CoV-2 genetic mutations in a lung transplantation patient with persistent COVID-19. Nat Commun. 2024 Apr 29;15(1):3604. doi: 10.1038/s41467-024-47941-x.
2. Tanzawa A, Saito K, Ota M, Takahashi K, Ohno I, Hanazawa T, Uzawa K, Takiguchi Y. Salivary

gland-type cancers: cross-organ demographics of a rare cancer. Int J Clin Oncol. 2024 Jun;29(6):755-763. doi: 10.1007/s10147-024-02505-3. Epub 2024 Mar 16.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 第28回日本ワクチン学会・第65回日本臨床ウイルス学会 合同学術集会にて招待公演（川崎純菜）
2. 第71回日本ウイルス学会学術集会にて招待講演（川崎純菜）

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

毎週金曜日に千葉県がんセンターの歯科で外来診療を行った（齋藤）。

【学会発表数】

国内学会 3回（うち大学院生0回）
国際学会 3回（うち大学院生0回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「口腔癌への合成致死療法を応用した新規腫瘍溶解性ウイルス療法の開発」代表者：齋藤謙悟 2024-2026
2. 科学技術振興機構さがけ「動物由来ウイルス感染症の発生リスクを評価する技術基盤の構築」代表者：川崎純菜 2023-2026

研究領域等名：	感 染 生 体 防 御 学
診療科等名：	

●はじめに

基礎医学教育として寄生虫学の講義・実習を（1）医学部学生、（2）大学院修士課程学生、（3）本部普遍科目専攻学生に対し行った。また、本教室に所属している大学院生および学部学生の研究指導・教育を行った。

研究面では、マラリア原虫について薬剤耐性発生機序の解析およびミトコンドリアリボソームの構造解析に関する研究を実施した。トキソプラズマについては宿主標的阻害剤の抗トキソプラズマ効果に関する研究を推進した。また、寄生性原虫類のオートファジーの分子機構および腔トリコモナスの薬剤耐性獲得機構についての研究を実施した。さらに今年度はパラグアイでの寄生性原虫の疫学調査を開始した。本研究領域は我が国のトキソプラズマ症研究の中心施設となっており、先天性および後天性トキソプラズマ症に関する臨床医からの問い合わせが多く受け、また、その他の寄生虫感染症に関しても診断依頼・治療相談に対応している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

- （1）医学部3年次および2年次の学生に対して寄生虫学の講義を90分×計20コマ担当した（彦坂・坂本）。
- （2）医学部3年次学生に対して基礎ゼミを90分×8コマ担当した（彦坂）。
- （3）医学部1年次学生に対して医系生物学の講義を90分×2コマ担当した（彦坂・坂本）。
- （4）スカラシッププログラム学生（2年次学生3名、3年次学生2名）の指導を行った（彦坂・坂本）。

・大学院教育

- 大学院講義の生体防御医学特論 1コマを担当した（彦坂）。
- 大学院程講義のワクチン学・感染症学特論 1コマを担当した（坂本）。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

- 本部普遍科目：教養コアF 感染症 90分×2コマを担当した（彦坂）。

●研 究

・研究内容

- （A）寄生性真核生物が持つ多様なミトコンドリアの解析（彦坂）
- （B）寄生性真核生物の薬剤耐性獲得機構の解明（彦坂・坂本・陳）
- （C）寄生性真核生物が持つ光合成しない葉緑体の機能解析（坂本）
- （D）寄生性真核生物のオートファジーの分子機構の解明（坂本）
- （E）宿主標的療法による原虫発育抑制法の開発（彦坂・陳）
- （F）野生動物における寄生虫感染のフィールド調査（彦坂・陳・坂本）
- （G）臨床医学分野への応用研究（関根・彦坂・坂本）

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Zhang ZZ, Norose K, Shinjyo N, Lin XX, Suganami A, Tamura Y, Sakamoto H, Hikosaka K. Suppressive effects of oroxylin A on intracellular proliferation of *Toxoplasma gondii* via host cell ERK phosphorylation inhibition. *bioRxiv*, 2024, DOI: 10.1101/2024.03.17.585380
2. Ihara F, Kyan H, Takashima Y, Ono F, Hayashi K, Matsuo T, Igarashi M, Nishikawa Y, Hikosaka K, Sakamoto H, Nakamura S, Motooka D, Yamauchi K, Ichikawa-Seki M, Fukumoto S, Sasaki M, Ikedai H, Kusakisako K, Ohari Y, Yoshida A, Sasai M, Grigg ME, Yamamoto M*. Far-East Asian *Toxoplasma* isolates share ancestry with North and South/Central American recombinant lineages. *Nat Commun*, 2024, 15, 4278.
3. Yazaki E*, Uehara T, Sakamoto H, Inagaki Y. Dinotoms possess two evolutionary distinct autophagy-related ubiquitin-like conjugation systems. *Protist*, 2024, 175(6), 126067.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 第17回 Japanese Academic Seminars at Stanford. 坂本寛和. 意外進化生物学：あの日学んだ生命現象の本質を僕たちはまだ知らない。
2. 第1回川渡研究交流セミナー～原虫のバイオロジーから創薬まで～. 彦坂健児. 鰭脚類におけるトキソプラズマの生態の解明.

3. 第1回川渡研究交流セミナー～原虫のバイオロジーから創薬まで～、坂本寛和、絨毛虫テトラヒメナにおけるオートファジー関連因子 ATG12 の発見。

【学会発表数】

国内学会 4学会 17回（うち大学院生 10回）
国際学会 1学会 2回（うち大学院生 2回）

【外部資金獲得状況】

1. 公益財団法人シオノギ感染症研究振興財団、2024年度創薬研究助成金「宿主細胞 MAPK 経路を標的としたマラリア原虫のデュアルステージ発育阻害剤の開発」代表者：彦坂健児 2024-2025
2. 公益財団法人平和中島財団国際学術共同研究助成「ラプラタ水系における人獣共通病原体トキソプラズマの自然交雑株ゲノム型から紐解く強毒化の軌跡」代表者：彦坂健児 2024
3. 一般財団法人濱口生化学振興財団研究助成金「マラリア原虫がもつ縮退進化型ミトコンドリアリボソームの構造解析に向けた生化学的単離法の確立」代表者：彦坂健児 2024
4. 長崎大学熱帯医学研究所 熱帯医学研究拠点一般共同研究「オートファジー関連因子を標的としたシャーガス病の新規治療薬の開発」代表者：彦坂健児 2024
5. 帯広畜産大学原虫病研究センター共同研究「北海道における海獣由来トキソプラズマの単離培養法の確立と全ゲノム解析」代表者：彦坂健児 2023-2024
6. 千葉大学未来医療機構 医療・医薬アーリーシーズ研究助成「宿主因子を創薬標的とした新たなトキソプラズマ治療薬の開発」代表者：彦坂健児 2023-2024
7. 公益財団法人ヒロセ財団「オートファジー分子機構が退化した真核生物から紐解く新たな ATG8 局在制御機構の解明」代表者：坂本寛和 2023-2025
8. 公益財団法人シオノギ感染症研究振興財団、2024年度次世代育成支援研究助成金「新規抗マラリア薬の開発へ向けた高速大規模スクリーニングによるマラリア原虫オートファジー阻害化合物の同定」代表者：坂本寛和 2024-2025
9. 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))「アピコンプレクサ門原虫が持つ退化葉緑体の比較プロテオミクスによる普遍的機能の解明」代表者：坂本寛和 2022-2025

●地域貢献

日本国内のトキソプラズマ症の診断・治療に関する相談に対応し、トキソプラズマの PCR 診断を実施した。更に、本学を含む千葉県内の診療現場における寄生虫症の診断・治療の相談に対応した。

研究領域等名：	産婦人科学
診療科等名：	産科／婦人科

●はじめに

今年度は、子宮頸がんワクチンの接種と健診を呼びかける「ちば HPV zero プロジェクト」を千葉県産科婦人科医学会と共に開始した。

妊娠を希望するカップルがワントップで診療を受けられる「リプロダクション支援センター」の運用を開始した。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部3年生向けに生殖・周産期・婦人科腫瘍・乳房の領域のユニット講義、医学部4年生向け臨床入門でシミュレーター実習を行っている。

臨床実習では、1グループ11～12名が3週間の産婦人科病院実習を行った。

選択実習では、医学部5～6年生が2回目実習を行った。

・卒後教育／生涯教育

初期臨床研修医向けに、専攻医によるミニレクチャーを毎週水曜日に行っている。産婦人科志望の研修医には学会発表など一歩進んだ研修を行っている。

専攻医（後期研修）は、実践的なスタートアップセミナーから始め、周産期・腫瘍・生殖内分泌の3グループに分かれて順次ローテーションを行っている。分娩・内診シミュレーターによるトレーニングや、腹腔鏡トレーニングも実施している。学会発表や論文作成についても指導を行っている。

・大学院教育

・修士課程講義（先端生命科学特論／1コマ／甲賀かをり教授）

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

・亥鼻キャンパス工学部講義（臨床医学概論／1コマ／石川博士講師）

●研 究

・研究内容

- ①子宮内膜症・子宮腺筋症に起因した周産期合併症の克服を目指した研究
- ②リキッドバイオプシーに基づく絨毛性腫瘍発症・薬剤耐性の分子機序解明と臨床応用
- ③卵巣癌における尿中 microRNA による相同組み換え修復経路異常の予測
- ④びまん性平滑筋腫症における FH 遺伝子変異解析とフマル酸ヒドラターゼ機能解析
- ⑤子宮内膜症の痛みに対する医療機器の臨床研究を行っている。
- ⑥子宮内膜異型増殖症・子宮体がんに対する治療による妊孕性温存を目指すメトホルミンの医師主導治験（FELICIA Trial）

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Usui H, Katayama E, Nakamura N, Koga K. Letter to the editor on Donzel M et al. "Androgenetic/biparental mosaicism in a diploid mole-like conceptus: report of a case with triple paternal contribution". Virchows Arch. 2024 Jul;485(1):161-162. doi: 10.1007/s00428-023-03669-5. Epub 2023 Dec 5. PMID: 38051350
2. Hosoya S, Piedvache A, Nakamura A, Nasu R, Hine M, Itoi S, Yokomizo R, Umezawa A, Hiraike O, Koga K, Osuga Y, Narumi S, Morisaki N. Prolongation of the Menstrual Cycle After Receipt of the Primary Series and Booster Doses of mRNA Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) Vaccination. Obstet Gynecol. 2024 Feb 1;143(2):284-293. doi: 10.1097/AOG.0000000000005476. Epub 2023 Dec 14. PMID: 38061045
3. Kato K, Iriyama T, Hara K, Suzuki K, Hashimoto A, Sayama S, Ichinose M, Toshimitsu M, Seyama T, Sone K, Kumasawa K, Nagamatsu T, Hirota Y, Koga K, Osuga Y. Increased risk of placenta previa and preterm birth in pregnant women with endometriosis/adenomyosis: A propensity-score matching analysis of a nationwide perinatal database in Japan. J Obstet Gynaecol Res. 2024 Mar;50(3):351-357. doi: 10.1111/jog.15849. Epub 2023 Dec 10. PMID: 38072834
4. Sayama S, Iriyama T, Takeiri Y, Hashimoto A,

- Toshimitsu M, Ichinose M, Seyama T, Sone K, Kumasawa K, Nagamatsu T, Koga K, Osuga Y. Clinical characteristics and outcomes of women with adenomyosis pain during pregnancy: a retrospective study. *J Perinat Med*. 2023 Dec 15;52(2):186-191. doi: 10.1515/jpm-2023-0263. Print 2024 Feb 26. PMID: 38098276
5. Ishikawa H, Yoshino O, Taniguchi F, Harada T, Momoeda M, Osuga Y, Hikake T, Hattori Y, Hanawa M, Inaba Y, Hanaoka H, Koga K. Efficacy and safety of a novel pain management device, AT-04, for endometriosis-related pain: study protocol for a phase III randomized controlled trial. *Reprod Health*. 2024 Jan 26;21(1):12. doi: 10.1186/s12978-024-01739-8. PMID: 38279180
 6. Usui H, Hoshimoto K, Sato A, Kano M, Fukusato T, Nakatani Y, Shozu M. Evaluation of Combined p57KIP2 Immunohistochemistry and Fluorescent in situ Hybridization Analysis for Hydatidiform Moles Compared with Genotyping Diagnosis. *Int J Gynecol Pathol*. 2024 Sep 1;43(5):474-486. doi: 10.1097/PGP.0000000000001000. Epub 2024 Jan 31. PMID: 38291567
 7. Sato A, Usui H, Nakamura N, Katayama E, Shozu M, Koga K. Removal of an Intrauterine Polypoid Lesion Resolved Chemotherapy-resistant Gestational Trophoblastic Neoplasia: A Case Report. *Cancer Diagn Progn*. 2024 Mar 3;4(2):193-197. doi: 10.21873/cdp.10307. eCollection 2024 Mar-Apr. PMID: 38434909
 8. Hirano M, Wada-Hiraike O, Fukui M, Shibata S, Uehara M, Nagumo A, Urata Y, Sone K, Harada M, Koga K, Osuga Y. Ulipristal (UPA) effects on rat ovaries: Unraveling follicle dynamics, ovulation inhibition, and safety implications for prolonged use. *Reprod Toxicol*. 2024 Apr;125:108571. doi: 10.1016/j.reprotox.2024.108571. Epub 2024 Mar 6. PMID: 38458359
 9. Ishida R, Koga K, Ohbe H, Izumi G, Matsui H, Yasunaga H, Osuga Y. Impact of government-issued financial incentive to medical facilities on management of secondary dysmenorrhea. *J Obstet Gynaecol Res*. 2024 Jul;50(7):1208-1215. doi: 10.1111/jog.15946. Epub 2024 Apr 10. PMID: 38597093
 10. Matsuoka A, Tate S, Nishikimi K, Otsuka S, Usui H, Tajima S, Habu Y, Nakamura N, Okuya R, Katayama E, Shozu M, Inaba Y, Koga K. Therapy-related myeloid neoplasms after treatment for ovarian cancer: A retrospective single-center case series. *J Obstet Gynaecol Res*. 2024 Jul;50(7):1148-1154. doi: 10.1111/jog.15954. Epub 2024 Apr 17. PMID: 38634254
 11. Suzuki Y, Usui H, Katayama E, Sato A, Nakamura N, Nakada E, Omoto A, Okayama J, Sato M, Nagasawa A, Hirosawa A, Shozu M, Koga K. Single-nucleotide polymorphism array and fluorescence in situ hybridization analysis to decode the cytogenetic profile of atypical partial hydatidiform moles diagnosed by short tandem repeat polymorphism analysis. *Genes Chromosomes Cancer*. 2024 Feb;63(2):e23220. doi: 10.1002/gcc.23220. PMID: 38780072
 12. Usui H, Sato A, Katayama E, Nakamura N, Koga K. A phantom human chorionic gonadotropin in the case of molar pregnancy. *Oxf Med Case Reports*. 2024 May 20;2024(5):omae038. doi: 10.1093/omcr/omae038. eCollection 2024 May. PMID: 38784771
 13. Hosoya S, Itoi S, Piedvache A, Osuga Y, Morisaki N, Koga K. Timing of Coronavirus Disease 2019 (COVID-19) Vaccination and Effects on Menstrual Cycle Changes. *Obstet Gynecol*. 2024 Jul 1;144(1):e10-e12. doi: 10.1097/AOG.0000000000005624. PMID: 38949547
 14. Yazaki T, Matsuoka A, Tate S, Nishikimi K, Okuya R, Otsuka S, Koga K, Usui H. Successful Management of Upper Gastrointestinal Obstruction With Primary Advanced Ovarian Cancer. *Cancer Diagn Progn*. 2024 Jul 3;4(4):454-458. doi: 10.21873/cdp.10347. eCollection 2024 Jul-Aug. PMID: 38962539
 15. Ishida R, Ohbe H, Izumi G, Shigemi D, Matsui H, Koga K, Yasunaga H, Osuga Y. National trends in treatments for ectopic pregnancy in Japan from 2010 to 2020: a retrospective observational study. *J Obstet Gynaecol*. 2024 Dec;44(1):2373938. doi: 10.1080/01443615.2024.2373938. Epub 2024 Jul 15. PMID: 39007782
 16. Ishikawa H, Goto Y, Hirooka C, Katayama E, Baba N, Kaneko M, Saito Y, Kobayashi T, Koga K. Role of inflammation and immune response in the pathogenesis of uterine fibroids: Including their negative impact on reproductive outcomes. *J Reprod Immunol*. 2024 Sep;165:104317. doi:10.1016/j.jri.2024.104317. Epub 2024 Aug 15. PMID: 39154624
 17. Piao H, Ishikawa H, Kobayashi T, Kitajo K, Yamaguchi A, Koga K, Shozu M. Progesterone improves motor coordination impairments caused by postnatal hypoxic-ischemic brain insult in neonatal male rats. *Pediatr Neonatol*. 2024

Aug 22:S1875-9572(24)00133-5. doi: 10.1016/j.pedneo.2024.03.012. Online ahead of print. PMID: 39181832

18. Ohnaga Y, Ono R, Aoki K, Kato H, Iwahana T, Takaoka H, Omoto A, Nakama K, Kishimoto T, Ikeda JI, Kobayashi Y. Shark Fin Sign in a Patient with Sepsis-induced Cardiomyopathy Associated with Retained Placenta: A Case Report and Review of the Literature. Intern Med. 2024 Sep 4. doi: 10.2169/internalmedicine.3501-24. Online ahead of print. PMID: 39231682
19. Mori K, Komatsu H, Shimizu M, Sakaguchi K, Koga K, Taniguchi F, Sano H. What preferences do potential obstetrics-gynecology specialists have regarding their working environment? Results of a questionnaire survey of participants in the Summer School 2023 of the Japanese Society of Obstetrics and Gynecology. J Obstet Gynaecol Res. 2024 Oct;50(10):1952-1964. doi: 10.1111/jog.16079. Epub 2024 Sep 6. PMID: 39239910
20. Kaneko M, Ishikawa H, Kaneko T, Sato A, Shozu M, Koga K. Remnant ureter abscess linked to obstructed hemivagina and ipsilateral renal anomaly syndrome. J Obstet Gynaecol Res. 2025 Jan;51(1):e16171. doi: 10.1111/jog.16171. Epub 2024 Nov 28. PMID: 39605170
21. Shioya M, Hashizume R, Okabe-Kinoshita M, Kojima K, Nishi S, Nakano S, Koga K, Fujita M, Takahashi K. One-step warming of vitrified human cleavage and blastocyst stage embryos does not adversely impact embryo survivability and subsequent developmental potential. Hum Reprod. 2024 Dec 23;deae283. doi: 10.1093/humrep/deae283. Online ahead of print. PMID: 39715345

【雑誌論文・和文】

1. 松岡歩、石川博士、片山恵里、奥谷理恵、羽生裕二、大塚聡代、碓井宏和、甲賀かをり 意思疎通不能の重症心身障害者に対し全腹腔鏡下子宮全摘術を施行した1例－早期退院を目指した術式の工夫と多職種連携の必要性－ 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 (1884-9938) 40 巻 1 号 Page139-145 (2024.)
2. 真壁友子、甲賀かをり、泉玄太郎、原田美由紀、廣田泰、平池修、大須賀穰. 腹腔鏡下子宮全摘術における摘出検体回収時に意図せず卵巣摘出に至った1例. 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 (1884-9938) 39 巻 2 号 Page82-86 (2024.)
3. 大河原眞、木内理世、村松圭司、松田晋哉、藤野善久、藤本賢治、岩佐武、井手久満、甲賀かをり、堀江重郎、安井敏之 健康保険組合のレセプトデータを用いた女性更年期障害の受診状況に関する研究

日本医師会雑誌 (0021-4493) 152 巻 11 号 Page1293-1297 (2024.02)

4. 辻美里、秋田新介、長西裕樹、松岡歩、甲賀かをり、三川信之、野村行弘 深層学習を用いた骨盤 CT 画像による各脚の下肢リンパ浮腫スクリーニング手法の検討 日本医用画像工学会大会予稿集 43 回 Page204-205 (2024. 08)
5. 長澤亜希子、尾本暁子、廣岡千草、山本敬介、篠原佳子、廣澤聡子、佐藤美香、岡山潤、中田恵美里、甲賀かをり. 胎児腹水と子宮留水症を伴う後部総排泄腔遺残症に臍帯血栓を合併し子宮内胎児死亡となった一例. 日本周産期・新生児医学会雑誌 (1348-964X) 60 巻 2 号 Page304-309 (2024.09)
6. 合阪幸三、山村菜実、平池春子、長阪一憲、甲賀かをり. 子宮内膜症に伴う慢性骨盤痛に対して交番磁界を用いた治療機器 (AT-04) が有用であった1例. 産科と婦人科 (0386-9792) 91 巻 9 号 Page1069-1073 (2024.09)
7. 中村名律子、碓井宏和、片山恵里、大塚聡代、佐藤明日香、奥谷理恵、羽生裕二, et al. “Low-Dose Etoposide Cisplatin 療法で治療した高齢絨毛癌の一例.” 日本婦人科腫瘍学会雑誌 42, no.4 (2024) : 301-09. https://doi.org/DOI:10.57291/jsgo.42.4_301.
8. 片山恵里、碓井宏和, and 中村名律子. “【婦人科がん化学療法の進化－最適レジメンと管理を考える－】その他の悪性腫瘍 絨毛がんに対する多剤併用療法のレジメン選択.” 産科と婦人科 91, no.3 (2024) :321-27.
9. 田嶋晋弥、松岡歩、大塚聡代、片山恵里、奥谷理恵、中村名律子、羽生裕二、楯真一、碓井宏和、甲賀かをり. ペムブロリズマブ長期投与中に肺炎を発症した再発子宮体癌の1例. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 (1347-8559) 42 巻 4 号 Page316-322 (2024.10)

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 第45回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会 (1月20日～21日、東京) 子宮内膜症/子宮筋腫の治療に関するプロフェッショナルからのメッセージ 子宮内膜症の治療：プロフェッショナルはこう考える 甲賀かをり
2. 第45回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会 (1月20日～21日、東京) 子宮筋腫のドライバー遺伝子変異－治療の個別化に向けた発症機序の理解と妊孕能へのインパクト－ 石川博士
3. 第45回日本エンドメトリオーシス学会学術講演会 (1月20日～21日、東京) エストロゲン概論 どこでどのように作られ、どこでどのように働くのか？子宮内膜症の制御と女性の健康の両立を目指して 甲賀かをり
4. 第28回千葉内視鏡外科研究会 (2月17日、千葉)

- 右卵卵巣 腫茎捻転を疑い腹腔鏡手術を施行し、術中に急性虫垂炎が判明した一例 奥谷理恵、石川博士、大塚聡代、片山恵里、羽生裕二、松岡歩、酒井希望、黒田香織、玉地智英、甲賀かをり
5. 千葉市医師会学術講演会（2月21日、千葉） 変化する月経困難症の診断・管理・薬物療法～婦人科特定疾患治療管理料導入から見えてきたもの～甲賀かをり
 6. 第441回神奈川産科婦人科学会学術講演会（3月2日、神奈川） 女性を月経関連疾患から解放するために産婦人科医ができること 甲賀かをり
 7. 第22回秋田県生殖・内分泌・婦人科悪性腫瘍研究会（3月7日、Web開催） Abnormal Uterine Bleeding (AUB) の診断と治療 PALM COEIN 分類に基づいて 甲賀かをり
 8. 岡山県医師会産婦人科部会研修会（岡山県産婦人科専門医会）（3月17日、岡山） 産婦人科医が知っておくべきプロゲスチンを使う3つのシチュエーション 甲賀かをり
 9. 第3回三重ウィメンズヘルスケアネットワーク（3月23日、三重） 生理痛も更年期もコワくない！産婦人科医が教える女子のカラダのしくみ 甲賀かをり
 10. 令和5年度 第4回滋賀県産科婦人科医会学術研修会（3月23日、滋賀） 産婦人科医が知っておくべきプロゲスチンを使う3つのシチュエーションとは？ 甲賀かをり
 11. 第22回広島生殖医療研究会（3月30日、広島） 現代の子宮内膜症診断－生殖医療の観点から 甲賀かをり
 12. 第21回阪神婦人科・内分泌研究会（4月13日、兵庫） 産婦人科医が知っておくべきプロゲスチンを使う3つのシチュエーションとは？ 甲賀かをり
 13. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会（4月19日～21日、神奈川、ハイブリッド開催） 全国大学における女性産婦人科主任教授職の増加のために～産婦人科医療改革グランドデザイン2023より 現職女性産婦人科主任教授へのインタビューから 甲賀かをり
 14. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会（4月19日～21日、神奈川、ハイブリッド開催） 病因・病態にもとづいて考える理想的な子宮内膜症の管理 甲賀かをり
 15. 第163回山形県産婦人科集談会（4月27日、山形） 獅膽鷹目行以女手 甲賀かをり
 16. 第32回生殖医学研究会講演会（5月10日、京都、ハイブリッド開催） 病態生理から子宮内膜症の管理法を考える 甲賀かをり
 17. 第23回思春期診療研究会（5月11日、大阪、ハイブリッド開催） 子宮内膜症に対する内分泌療法－レルゴリクスを使うのはどんな時？－ 甲賀かをり
 18. 第50回品川地区産婦人科臨床研究会（5月16日、東京、ハイブリッド開催） プレコンセプションケアの観点からみた月経困難症の取り扱い 甲賀かをり
 19. 第24回日本抗加齢医学会総会（5月31日～6月2日、熊本） 異次元の少子化対策をアンチエイジングの観点から考える 甲賀かをり
 20. 第97回日本内分泌学会学術総会（6月6日～8日、神奈川） 患者の半分は女性だからこそ産婦人科以外の内分泌の先生も“知らなきゃいけない”子宮内膜症・子宮腺筋症 甲賀かをり
 21. 第33回骨盤外科機能温存研究会（6月15日、東京） 再発骨盤腫瘍に対する治療戦略 楯真一
 22. 2024年度第1回千葉県妊婦・授乳婦専門・認定薬剤師講習会（6月29日、Web開催） いま、薬剤師に知って欲しい「プレコンセプションケア」 佐藤美香
 23. 第263回大分市医師会産婦人科臨床検討会（7月5日、大分、ハイブリッド開催） LEP製剤に関する誤解と連続投与の月経減少効果について～患者さんとのコミュニケーションの重要性～ 甲賀かをり
 24. 第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会（9月12～14日、東京） オベする時もホルモンを考えよう！LEPにエストロゲンが入っているのは何のため？ 甲賀かをり
 25. 第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会（9月12～14日、東京） 婦人科内視鏡・ロボット支援手術術式の保険収載に向けて 石川博士
 26. 第38回関東臨床細胞学会学術集会（9月14日、千葉） 女性ヘルスケアの観点からみた婦人科腫瘍の予防と管理 甲賀かをり
 27. The 12th Asian Congress on Endometriosis（9月20日、Indonesia） Endometriosis adverse outcome in ovarian reserve reduction: an insight from bench to bedside. Kaori Koga
 28. 第32回日本胎盤学会学術集会・第42回日本絨毛性疾患研究会（10月18～19日、岡山） 「絨毛性疾患取り扱い規約第4版 改訂のポイント」絨毛性疾患の分類・定義・診断基準 碓井宏和
 29. 第69回日本生殖医学会学術講演会・総会（11月14日～15日、愛知） 生殖における子宮腔内病変の病態・診断・治療（11月14日～19日、岡山） OVERVIEW CSDi（帝王切開子宮癒着症）の新しい診断基準と外科的介入の適応とタイミング 石川博士、後藤優希、甲賀かをり

【学会発表数】

国内学会 26学会 77回（うち大学院生61回）
国際学会 1学会 2回（うち大学院生0回）

【外部資金獲得状況】

1. 厚生労働科学研究費補助金「女性の健康課題、特にやせ、飲酒等の課題の解決に向けた方策及び、新たな女性の健康課題の指標・目標も策定を推進するための研究」代表者：甲賀かをり 2023-2025
2. 厚生労働科学研究費補助金「若年期から老年期に至るまでの切れ目のない女性の健康支援のための評価手法・検診項目の開発に向けた研究」分担者：甲賀かをり 2022-2024
3. 厚生労働科学研究費補助金「性差にもとづく更年期障害の解明と両立支援開発の研究」分担者：甲賀かをり 2022-2024
4. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構「ヘルスケアで用いるうつ・不安と月経前症候群のPRO指標のエビデンスの整理と開発」分担者：甲賀かをり 2023-2025
5. MSD 医学教育事業助成「千葉県医療機関・医療従事者対象 HPV 関連疾患・HPV ワクチン理解推進教育事業」代表者：甲賀かをり 2024
6. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構「リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対する標準的リンパ節郭清確立のための多施設共同臨床試験」分担者：碓井宏和 2022-2025
7. 科学研究費助成事業「リキッドバイオプシーに基づく絨毛性腫瘍発症・薬剤耐性の分子機序解明と臨床応用」代表者：碓井宏和 2022-2024
8. 科学研究費助成事業「びまん性平滑筋腫症におけるFH遺伝子変異解析とフマル酸ヒドラターゼ機能解析」代表者：石川博士 2023-2025
9. 公財)武田科学振興財団医学系研究助成金「明細胞癌におけるテロメラーゼ逆転写酵素プロモーター変異の意義についての研究」代表者：錦見恭子 2024-2029
10. 公財)タムス岡本記念財団「血糖・インスリン値経時変化と妊娠糖尿病の予後予測」代表者：廣岡千草 2024
11. 一社)関東連合産科婦人科学会臨床研究助成金 2024「精神疾患を有する女性に対するプレコンセプションケアの効果と外来受診契機の検討」代表者：佐藤美香 2024-2026

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

婦人科外来は新患 954 人、患者総数は 19,981 人、産科外来は新患 508 人、患者総数 6,831 人が受診した。2024 年 4 月当院にリプロダクション支援センターが設置され、合併症を有する不妊カップルの紹介・相談が増加した。不妊治療を行う患者の多くが内科疾患等を合併するため、産科や他診療科と緊密に連携し、きめ細やかな診療を展開している。

婦人科病床数 24 床に対して入院患者総数は 8,502 人、産科病床数 24 床に対し入院患者総数は 6,569 人。2024 年夏から、妊婦さんやご家族に対してより質の高い出産体験を提供するために、条件付き無痛分娩や経陰分娩時の家族の立ち会いを行っている。2024 年 6 月から 12 月までの無痛分娩は、経陰分娩 178 例中 58 例 (33%) であった。

●地域貢献

- ・月一回のオンライン報告会を通じて地域全体の周産期管理の強化を図っている。
- ・千葉県産科婦人科医学会と共に県内の 10～20 代女性に対し、子宮頸がんワクチンの接種やがん検診受診の啓発活動を行った。
- ・がん市民公開講座 講演 ワクチンで予防できるがんー子宮頸がんー（1 月 28 日、Web 開催、中村名律子助教）
- ・千葉県消防学校 講義（1 月 31 日、5 月 30 日、9 月 26 日、長澤亜希子助教）
- ・県民公開講座 講演 がん治療後、妊娠に向けて（2 月 3 日、千葉、齊藤佳子助教）
- ・千葉県立幕張総合高等学校看護科 講義（4 月 15 日、後藤優希医員）
- ・高校生向け性教育講演会（6 月 28 日、千葉県安房西高等学校、金子明夏助教）
- ・千葉県災害時小児周産期対応研修（10 月 6 日、千葉県総合救急災害医療センター、長澤亜希子助教）
- ・思春期における性教育について（10 月 18 日、千葉市立朝日ヶ丘中学校、金子明夏助教）

研究領域等名：	泌 尿 器 科 学
診療科等名：	泌 尿 器 科

●はじめに

今年度も、前立腺癌に関する基礎的研究を推進し、癌の進展に関連する遺伝子の制御などについて解析を進めた。共同研究は、ゲノム機能学講座、腫瘍病理学講座、分子腫瘍学講座、薬理学講座、ならびに人工知能（AI）医学と行っている。診療面では、前立腺癌の手術はすべて内視鏡下手術用ロボット「ダ・ヴィンチ」(da Vinci Xi) によるロボット支援前立腺全摘除術を施行し、手術の低侵襲化や術後早期の機能回復を図った。ロボット支援手術は腎細胞癌に対する腎部分切除術、膀胱癌に対する膀胱全摘除術・尿路変向術、腎盂尿管移行部通過障害に対する腎盂形成術に対しても行っている。さらに副腎腫瘍に対する副腎摘除術、腎盂尿管癌に対する腎尿管全摘除術、腎腫瘍に対する腎摘除術も施行し症例数は増加している。前立腺癌に加えて、腎癌、膀胱癌などに関する臨床的研究を進め論文発表も行った。

●教 育

・学部教育／卒前教育

ユニット講義、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅱ学内選択実習、肉眼的解剖実習、医学入門Ⅰ、医師見習い体験実習、IPE（専門連携教育）などを担当した。ユニット講義では腎・泌尿器ユニットを3コマ担当した。臨床実習Ⅱは1週間を1クールとして、6年次学生30グループを2023年11月～2024年10月にかけて行った。5年次学生の臨床実習Ⅱは30グループを2024年12月～2025年10月にかけて行っている。

・卒後教育／生涯教育

卒後教育については、卒後3年目以降の後期研修医に対して、専門的診療、手術、また基礎研究の指導を行っている。

地域の他科診療医の一般泌尿器科診療教育目的に研修登録医プログラムに参加している。

内分泌カンファレンス、手術検討会、グループカンファレンスを通じて、後期研修医に対して専門的な指導を行っている。他大学の泌尿器科教授を招聘し、研究会等を開催することを通じて、後期研修医、泌尿器科専門医、一般医家を対象として泌尿器科疾患に関する専門的な教育を行っている。

内分泌糖尿病代謝内科との副腎カンファレンスを継続し、課題のある症例について検討している。研修の一環として後期研修医にも参加してもらっている。

・大学院教育

修士課程講義 先端生命科学特論 90分×1コマ、臨床医科学特論 90分×1コマを担当した。

泌尿器科学博士課程大学院生4年次3名、3年次2名、2年次2名、1年次3名に対して、研究の指導、論文の執筆に関する指導を行った。

遺伝カウンセラーコースの修士大学院生2年次3名に対して、研究の指導、遺伝カウンセリングロールプレイならびに実習の指導、修士論文の執筆に関する指導を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

本学看護学研究科のナースィング・フィジカル・アセスメントの講義90分を1コマ担当した。現代医学（教養展開科目）の講義90分を1コマを担当した。本学工学部の臨床医学概論の講義90分を1コマならびにフロンティア医工学センターの治療支援工学総論の講義90分を1コマ非常勤講師として担当した。福島県立医科大学医学部の講義を1コマ、ならびに千葉県立保健医療大学 病態学2 泌尿器科の講義を1コマ担当した。

●研 究

・研究内容

泌尿器癌の中でも特に前立腺癌を中心に、新規バイオマーカー及び治療戦略の開発に取り組んでいる。

分子腫瘍学講座と共同で、次世代シーケンサーを用いた網羅的エピゲノム解析（ChIP-seq）およびトランスクリプトーム解析を行い、前立腺癌における発癌分子機構および去勢抵抗性前立腺癌（CRPC）に至る分子機構を解明し、これまでとは異なる新たな治療法の探索に取り組んでいる。

また、トランスポーターと呼ばれる主に細胞膜に存在し、水溶性物質の膜透過に寄与する膜輸送タンパク質の解析を行っている薬理学講座とも共同研究を行なっている。様々な癌においてLAT1と呼ばれるアミノ酸トランスポーターが発現していることが報告されており、前立腺癌、腎癌、副腎癌のLAT1解析を行い、新規バイ

オマーカー開発ならびにアミノ酸トランスポーター阻害による細胞増殖抑制を主な機序とする新規抗悪性腫瘍薬の開発を目指している。

腫瘍病理学講座との共同研究では、前立腺癌の発生ならびに去勢抵抗性の獲得に関する、診断・治療に用いる新規バイオマーカーの開発を行っている。網羅的な遺伝子解析ならびに糖鎖を用いた前立腺癌バイオマーカーの探索に取り組んでいる。また、癌細胞の特定・同定のため近赤外光を用いた方法の進展ならびに機器の開発を行っている。

さらに近年では治療学人工知能（AI）研究センターとの共同研究を行っており、AIを用いた予後予測因子の解析を中心に、臨床研究を進めている。

尿路結石症では、引き続きシスチン尿症の遺伝子解析・機能解析を行っている。

泌尿器癌診療における臨床研究、ホルモン活性のある副腎腫瘍に対する手術療法の有効性などに関する臨床的研究を進めている。

男性不妊症の臨床的因子の解析のため、東邦大学、亀田総合病院、桐友クリニックとの多施設共同研究を進めている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Saito S, Ando K, Sakamoto S, Xu M, Yamada Y, Rii J, Kanaoka S, Wei J, Zhao X, Pae S, Kanesaka M, Goto Y, Sazuka T, Imamura Y, Reien Y, Hamaguchi-Suzuki N, Saito S, Hirayama Y, Hashimoto H, Kanai Y, Ichikawa T, Anzai N. The LAT1 inhibitor JPH203 suppresses the growth of castration-resistant prostate cancer through a CD24-mediated mechanism. *Cancer Sci.* 2024 Jul; 115(7):2461-2472. doi: 10.1111/cas.16191. Epub 2024 Apr 24. PMID: 38655663
2. Miki J, Fukuokaya W, Taoka R, Saito R, Matsui Y, Hatakeyama S, Kawahara T, Matsuda A, Kawai T, Kato M, Sazuka T, Sano T, Urabe F, Kashima S, Naito H, Murakami Y, Nishiyama N, Nishiyama H, Kitamura H, Kimura T; Japan Urological Oncology Group. Oncological outcomes of prophylactic urethrectomy at the time of radical cystectomy for bladder cancer: A nationwide multi-institutional study. *Int J Urol.* 2024 Sep;31(9):1009-1016. doi: 10.1111/iju.15505. Epub 2024 May 31. PMID: 38822533
3. Fumihiko Urabe, Takaaki Tamura, Shinichi Sakamoto, Takahiro Kimura, Takahiro Ochiya, Extracellular vesicles as novel uro-oncology biomarkers: insights toward clinical applications. *Curr Opin Urol.* 2025 Jan 1;35(1):13-18. doi: 10.1097/MOU.0000000000001194. Epub 2024 Jun 4. PMID: 38835180
4. Kurokawa K, Yamada Y, Sakamoto S, Horikoshi T, Sato K, Nanba S, Kubota Y, Kanesaka M, Fujimoto A, Takeuchi N, Shibata H, Sazuka T, Imamura Y, Tsuzuki T, Uno T, Ichikawa T. Implications of unconventional histological subtypes on magnetic resonance imaging and oncological outcomes in patients who have undergone radical prostatectomy. *Sci Rep.* 2024 Jun 27;14(1):14868. doi: 10.1038/s41598-024-65681-2. PMID: 38937563
5. Murakami Y, Sazuka T, Tsukamoto R, Sato H, Ando K, Kanesaka M, Yamada Y, Imamura Y, Sakamoto S, Ichikawa T. Association Between Residual Urine Volume and Recurrence Among Patients at High Risk of Non-Muscle-Invasive Bladder Carcinoma With Versus Without Bacillus Calmette-Guérin Treatment. *Cureus.* 2024 May 30; 16(5):e61345. doi: 10.7759/cureus.61345. eCollection 2024 May. PMID: 38947615
6. Yusuke Goto, Keiichi Koshizuka, Toshinori Ando, Hiroki Izumi, Xingyu Wu, Kuniaki Sato, Tomohiko Ishikawa, Kyle Ford, Xiaodong Feng, Zhiyong Wang, Nadia Arang, Michael M Allevato, Ayush Kishore, Prashant Mali, J Silvio Gutkind A Kinome-Wide Synthetic Lethal CRISPR/Cas9 Screen Reveals That mTOR Inhibition Prevents Adaptive Resistance to CDK4/CDK6 Blockade in HNSCC. *Cancer Res Commun.* 2024 Jul 1;4(7):1850-1862. doi: 10.1158/2767-9764.CRC-24-0247. PMID: 38954773
7. Sakamoto S, Sato K, Kimura T, Matsui Y, Shiraishi Y, Hashimoto K, Miyake H, Narita S, Miki J, Matsumoto R, Kato T, Saito T, Tomida R, Shiota M, Joraku A, Terada N, Suekane S, Kaneko T, Tatarano S, Yoshio Y, Yoshino T, Nishiyama N, Kawakami E, Ichikawa T, Kitamura H. PSA doubling time 4.65 months as an optimal cut-off of Japanese nonmetastatic castration-resistant prostate cancer. *Sci Rep.* 2024 Jul 3;14(1):15307. doi: 10.1038/s41598-024-65969-3. PMID: 38961131
8. Isoda B, Kandori S, Sazuka T, Kojima T, Nitta S, Shiga M, Nagumo Y, Fujimoto A, Arai T, Sato H, Mathis BJ, Wu CL, Jan YH, Ichikawa T, Nishiyama H. TNFSF9 Is Associated with Favorable Tumor Immune Microenvironment in Patients with

- Renal Cell Carcinoma Who Are Treated with the Combination Therapy of Nivolumab and Ipilimumab. *Int J Mol Sci.* 2024 Jul 6;25(13):7444. doi: 10.3390/ijms25137444. PMID: 39000552
9. Sheng-Yu Ku, Yanqing Wang, Maria Mica Garcia, Yasutaka Yamada, Kei Mizuno, Mark D Long, Spencer Rosario, Meenalakshmi Chinnam, Majd Al Assaad, Loredana Puca, Min Jin Kim, Martin K Bakh, Varadha Balaji Venkadakrishnan, Brian D Robinson, Andrés M Acosta, Kristine M Wadosky, Juan Miguel Mosquera, David W Goodrich, Himisha Beltran, Notch signaling suppresses neuroendocrine differentiation and alters the immune microenvironment in advanced prostate cancer. *J Clin Invest.* 2024 Jul 18;134(17):e175217. doi: 10.1172/JCI175217. PMID: 39024561
 10. Takahiro Yasui, Eiji Kikuchi, Hiroyuki Yamamoto, Daisuke Ishii, Ryuichi Mizuno, Shingo Hatakeyama, Takashi Kobayashi, Junji Uchida, Masayuki Takahashi, Shinichi Sakamoto, Shuichi Morizane, Toshiyuki Kamoto, Masatoshi Eto, Annual record on the number of general urological surgeries registered in the National Clinical Database system between April 2018 and December 2021 in Japan. *Int J Urol.* 2024 Nov;31(11):1256-1262. doi: 10.1111/iju.15551. Epub 2024 Aug 6. PMID: 39105577
 11. Goto Y. Editorial Comment on Japanese clinical practice guidelines for prostate cancer 2023. *Int J Urol.* 2024 Nov;31(11):1222. doi: 10.1111/iju.15562. Epub 2024 Aug 14. PMID: 39140201
 12. Eiji Kikuchi, Hiroyuki Yamamoto, Takahiro Yasui, Shingo Hatakeyama, Ryuichi Mizuno, Shinichi Sakamoto, Kentaro Mizuno, Shuichi Morizane, Nozomi Hayakawa, Takashi Kobayashi, Toshiyuki Kamoto, Masatoshi Eto, The first detailed annual record on the National Clinical Database Urology Division in Japan: A report on five surgical procedures. *Int J Urol.* 2024 Dec;31(12):1344-1355. doi: 10.1111/iju.15561. Epub 2024 Aug 18. Affiliations Expand PMID: 39154336
 13. Fukuokaya W, Miki J, Taoka R, Saito R, Matsui Y, Hatakeyama S, Kawahara T, Matsuda A, Kawai T, Kato M, Sazuka T, Sano T, Urabe F, Kashima S, Naito H, Murakami Y, Nishiyama N, Nishiyama H, Kitamura H, Kimura T. Development and validation of a model to predict the outcomes of radical cystectomy in patients with bladder cancer. *Int J Urol.* 2024 Dec;31(12):1414-1422. doi: 10.1111/iju.15585. Epub 2024 Sep 18. PMID: 39291802
 14. Tomioka Y, Seki N, Suetsugu T, Hagihara Y, Sanada H, Goto Y, Kikkawa N, Mizuno K, Tanaka K, Inoue H. Identification of Tumor Suppressive miR-144-5p Targets: FAM111B Expression Accelerates the Malignant Phenotypes of Lung Adenocarcinoma. *Int J Mol Sci.* 2024 Sep 16;25(18):9974. doi: 10.3390/ijms25189974. PMID: 39337462
 15. Kaga K, Mikami K, Kaga M. Utilizing Bladder Diaries to Prevent Unnecessary Treatment in Patients With Storage Dysfunction: A Retrospective Study. *Cureus.* 2024 Sep 2;16(9):e68437. doi: 10.7759/cureus.68437. eCollection 2024 Sep. PMID: 39360064
 16. Kato M, Taoka R, Miki J, Saito R, Fukuokaya W, Matsui Y, Yamamoto S, Matsue T, Hatakeyama S, Kawahara T, Matsuda A, Kawai T, Sazuka T, Sano T, Urabe F, Kashima S, Naito H, Murakami Y, Miyake M, Daizumoto K, Matsushita Y, Hayashi T, Inokuchi J, Sugino Y, Shiga K, Yamaguchi N, Yamamoto S, Yasue K, Abe T, Nakanishi S, Hashine K, Fujii M, Nishihara K, Matsumoto H, Tatarano S, Wada K, Sekito S, Maruyama R, Nishiyama N, Nishiyama H, Kitamura H, Uchida J; Reproductive organ involvement in women undergoing radical cystectomy for urothelial bladder cancer: a nationwide multicenter study. Japan Urological Oncology Group. *Int J Clin Oncol.* 2024 Dec;29(12):1937-1945. doi: 10.1007/s10147-024-02636-7. Epub 2024 Oct 9. PMID: 39379757
 17. Sato K, Sazuka T, Arai T, Sato H, Kanesaka M, Ando K, Saito S, Pae S, Yamada Y, Imamura Y, Sakamoto S, Ichikawa T. Machine learning analysis for detecting late recurrence and loss to follow-up after renal cell carcinoma surgery. *BJUI Compass.* 2024 Sep 2;5(10):950-956. doi: 10.1002/bco.2.425. eCollection 2024 Oct. PMID: 39416750
 18. Goto Y Editorial comment on the Role of cytoreductive nephrectomy in the era of immune checkpoint inhibitors: A review of current evidence and ongoing trials *Int J Urol.* 2024 Oct 21. doi: 10.1111/iju.15618. Online ahead of print. PMID: 39434406
 19. Xingyu Wu, Sendi Rafael Adame-Garcia, Keiichi Koshizuka, Pham Thuy Tien Vo, Thomas S Hoang, Kuniaki Sato, Hiroki Izumi, Yusuke Goto, Michael M Allevato, Kris C Wood, Scott M Lippman, Jorge Silvio Gutkind Oncogenic HRAS Induces Metformin Resistance in Head and Neck Cancer by Promoting Glycolytic Metabolism. *Cancer Prev Res (Phila).* 2024 Dec 3;17(12):571-583. doi: 10.1158/1940-6207.CAPR-24-0124. PMID: 39463147

20. Zhao X, Sakamoto S, Ishikawa H, Yamada Y, Aoki S, Nakajima M, Sato K, Kobayashi K, Saito S, Wakatsuki M, Ichikawa T. Significant Effect of Carbon-Ion Radiation Therapy Combined With Androgen Deprivation on Biochemical Recurrence Rates in High-Risk Prostate Cancer Patients: A Two-Center Controlled Trial Compare With X-Ray External Beam Radiation Therapy. *Prostate*. 2025 Feb;85(3):232-242. doi: 10.1002/pros.24818. Epub 2024 Nov 3. PMID: 39488848
 21. Mori K, Numakura K, Matsushita Y, Kojima T, Osawa T, Sazuka T, Hatakeyama S, Goto K, Yamana K, Kandori S, Kimura T, Nishiyama N, Bando Y, Fujita K, Ueda K, Tanaka H, Tomida R, Kurahashi T, Kitamura H, Miyake H, Habuchi T. Primary resistance to nivolumab plus ipilimumab therapy affects second-line treatment outcomes in patients with metastatic renal cell carcinoma. *Cancer Sci*. 2024 Nov 17. doi: 10.1111/cas.16326. Online ahead of print. PMID: 39550694
 22. Sato K, Sakamoto S, Saito S, Shibata H, Yamada Y, Takeuchi N, Goto Y, Tomokazu S, Imamura Y, Ichikawa T, Kawakami E. Time-dependent personalized prognostic analysis by machine learning in biochemical recurrence after radical prostatectomy: a retrospective cohort study. *BMC Cancer*. 2024 Nov 25;24(1):1446. doi:10.1186/s12885-024-13203-8. PMID: 39587521
 23. Yamada Y, Sato K, Sakamoto S, Tsujino T, Saito S, Nishimura K, Fukushima T, Nakamura K, Yoshikawa Y, Matsunaga T, Maenosono R, Kanesaka M, Arai T, Sazuka T, Imamura Y, Komura K, Mikami K, Nakamura K, Fukasawa S, Chiba K, Naya Y, Nagata M, Komaru A, Nakatsu H, Azuma H, Ichikawa T. Characterization of PSA dynamics and oncological outcomes in patients with metastatic hormone-sensitive prostate cancer treated with androgen receptor signaling inhibitors. *Int J Clin Oncol*. 2024 Dec 10. doi: 10.1007/s10147-024-02676-z. Online ahead of print. PMID: 39656401
 24. Nozumi K, Sakamoto S, Zhao X, Pae S, Tamura T, Taguchi K, Yamada Y, Goto Y, Imamura Y, Sazuka T, Awa Y, Yasui T, Nozumi K, Naya Y, Akakura K, Ichikawa T. Stone at the same location for 2months predicts impacted stones and stone-free status after shock wave lithotripsy for ureteral stones: A Funabashi clinic expert study. *Int J Urol*. 2024 Dec 30. doi: 10.1111/iju.15662. Online ahead of print. PMID: 39740093
 25. Kato H, Goto Y, Kojima S, Onoda Y, Wakai K, Hou K, Araki K, Sakamoto S, Ichikawa T, Naya Y. Time to Castration Resistance is Associated With Overall Survival Even After the Achievement of Castration Resistance in Metastatic Prostate Cancer. *Prostate*. 2025 Jan 7:e24850. doi: 10.1002/pros.24850. Online ahead of print. PMID: 39777749
 26. Daisuke Obinata, Yasutaka Yamada, Takayuki Sumiyoshi, Tokiyoshi Tanegashima, Ryuta Watanabe, Hiroaki Kobayashi, Daisuke Ito, Fumihiko Urabe; Japanese Young Urologist Basic Research Collaboration Recent advances in basic research on prostate cancer: Where we are heading? *Int J Urol* 2024 Oct 30. doi: 10.1111/iju.15628. Online ahead of print. PMID: 39474871
 27. Sato K, Takenaka S, Kitaguchi D, Zhao X, Yamada A, Ishikawa Y, Takeshita N, Takeshita N, Sakamoto S, Ichikawa T, Ito M. Objective surgical skill assessment based on automatic recognition of dissection and exposure times in robot-assisted radical prostatectomy. *Langenbecks Arch Surg*. 2025 Jan 15;410(1):39. doi: 10.1007/s00423-024-03598-0. PMID: 39812861
 28. Sazuka T. Editorial Comment to "Differential Risk Factors for Early Intravesical Recurrence After Radical Nephroureterectomy for Upper Urinary Tract Carcinoma According to the History of Nonmuscle Invasive Bladder Cancer". *Int J Urol*. 2025 May;32(5):575. doi: 10.1111/iju.70028. Epub 2025 Mar 3. PMID: 40033787
 29. Yamada Y, Sakamoto S, Tsujino T, Saito S, Sato K, Nishimura K, Fukushima T, Nakamura K, Yoshikawa Y, Matsunaga T, Maenosono R, Kanesaka M, Arai T, Sazuka T, Imamura Y, Komura K, Mikami K, Nakamura K, Fukasawa S, Chiba K, Naya Y, Nagata M, Komaru A, Nakatsu H, Azuma H, Ichikawa T. Clinical significance of primary tumor progression in metastatic hormone-sensitive prostate cancer. *Prostate Int*. 2025 Mar;13(1):60-66. doi: 10.1016/j.prnil.2024.11.005. Epub 2024 Nov 22. PMID: 40213348
- 【雑誌論文・和文】**
1. 今村有佑、坂本信一、市川智彦：臨床泌尿器科 2023；第78巻：6-10.
 2. 市川智彦：泌尿器科外科 2023；第37巻：22-27.
 3. 今本敬、市川智彦：生殖補助医療（ART）2023；改訂版：18-21.
 4. 鎌田修平：オルガノイド研究 2024；8月号.
 5. 佐塚智和、安藤敬佑、市川智彦：日本臨牀増刊号8「臨床腎・泌尿器癌(上)」2024；82巻：343-347.
 6. 金坂学斗、佐塚智和、市川智彦：日本臨牀増刊号

- 10 「臨床腎・泌尿器癌(下)」2024;82 巻: 44-48.
7. 今村有佑、坂本信一、市川智彦: 腎と透析増刊号
2024;97 巻: 408-412.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 第 124 回日本外科学会定期学術集会
2. 第 111 回日本泌尿器科学会総会
3. 第 89 回日本泌尿器科学会東部総会
4. 第 38 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会
5. 第 20 回関東ウロダイ研究会
6. 第 17 回日本ロボット外科学会学術集会
7. 第 62 回日本癌治療学会学術集会
8. 第 33 回日本腎泌尿器疾患予防医学研究会
9. 第 40 回泌尿器科漢方研究会学術集会

【学会発表数】

国内学会 29 学会 81 回（うち大学院生 14 回）
国際学会 1 学会 3 回（うち大学院生 0 回）

【外部資金獲得状況】

1. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「残尿・排尿機能に注目した尿路上皮癌膀胱内再発の病態解明と新規予防法の開発」代表者: 佐塚智和 2022-2024
2. 科学研究費助成事業 若手研究「補体レクチン経路が尿路結石形成に与える影響の解析」代表者: 若井健 2022-2024
3. 科学研究費助成事業 若手研究「網羅的シストローム解析に基づく AR 非依存性前立腺癌の分子病態解明」代表者: 金坂学斗 2023-2025
4. 科学研究費助成事業 若手研究「アミノ酸トランスポーター LAT1 を中心とした去勢抵抗性前立腺癌の新規治療戦略の開発」代表者: 梨井卓菱 2023-2025
5. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「プレコンセプションケアによる男性妊孕能への影響の解析」代表者: 小宮顕 2023-2025
6. 科学研究費助成事業 若手研究「超音波ベクターフォーイメージングによる尿流動態最適化システム開発の基盤構築」代表者: 加賀勘家 2023-2025

7. 科学研究費助成事業 研究スタート支援「エピゲノム修飾に基づく神経内分泌前立腺癌に対する新規治療戦略」代表者: 山田康隆 2023-2024
8. 科学研究費助成事業 若手研究「進行前立腺癌における RB1 変異と DNA メチル化異常の解明」代表者: 山田康隆 2024-2025
9. 科学研究費助成事業 基盤研究(B)「致死性前立腺癌に対するアミノ酸トランスポーターを基軸とした包括的治療戦略」代表者: 坂本信一 2024-2026
10. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「4F2hc を基軸とした泌尿器科癌における新規治療戦略の構築」代表者: 今村有佑 2024-2026
11. 科学研究費助成事業 若手研究「去勢抵抗性前立腺癌における LAT1 阻害薬の有効性と分子機構の解明」代表者: 安藤敬佑 2024-2028
12. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「機能性 RNA 時間的階層性に基づく腎癌細胞の薬剤耐性獲得に関わるマスター分子の探索」代表者: 加藤繭子 2024-2029
13. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「前立腺癌の治療抵抗性を予測する新規バイオマーカーの探索」代表者: 黒住顕 2024-2030
14. 科学研究費助成事業 若手研究「去勢抵抗性前立腺癌におけるクロマチン構造変化がもたらす悪性化機構の解明」代表者: 金岡尚志 2024-2031

【受賞歴】

1. 山田康隆: 第 111 回日本泌尿器科学会総会 総会賞: 総会賞ポスター 前立腺癌 / 基礎部門
2. 新井隆之: 第 31 回日本泌尿器科学会総会 学会賞: 臨床
3. 杉浦正洋: IJU Editorial Board Meeting Top cited article award
4. 佐塚智和: 第 37 回日本内視鏡外科学会総会 優秀演題 一般演題(口演) 156/泌尿器 膀胱 治療成績 O156-3
5. 五島悠介: 第 83 回一般社団法人日本泌尿器科学会 坂口賞

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

今年度の当科の外来患者数は延べ 17651 人（内新患 996 人）であった。

対象疾患は前立腺癌、腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、精巣腫瘍、陰茎癌、副腎腫瘍などの腫瘍性疾患をはじめとして、前立腺肥大症、夜尿症、尿失禁、神経因性膀胱など排尿機能に関する疾患、停留精巣などの先天疾患、尿路結石症、男性不妊症、男性性機能障害等である。これら様々な疾患に対して、それぞれの専門分野における診療グループを形成し、どの分野においても先進的かつ高度な診断、治療が提供できる体制を整えている。特に低侵襲、機能温存など QOL の維持に重点を置き、患者の価値観を尊重した診療を目指している。

今年度の当科の入院患者数は延べ 7123 人であった。

手術の総数は 573 件であった。腎細胞癌や腎盂尿管癌などに対する腹腔鏡手術 12 件、腹腔鏡下副腎摘除術 25 件、膀胱癌・尿路結石症・前立腺肥大症等に対する経尿道的手術 107 件、ロボット支援前立腺全摘術 78 件、ロボット支援副腎摘除術 42 件、ロボット支援腎盂形成術 6 件、ロボット支援腎全摘・部分切除術 71 件、ロボット

支援腎尿管全摘 19 件、ロボット支援膀胱全摘除 23 件、開放手術による腎細胞癌の手術 1 件、精索静脈瘤に対する顕微鏡下低位結紮術 24 件、精巣悪性腫瘍に対する高位精巣摘除術 6 件、精索捻転症に対して緊急で行う精巣固定術 3 件であった。

内視鏡下手術用ロボット「ダ・ヴィンチ」(da Vinci S)を導入し、2012 年 4 月から保険診療としてロボット支援前立腺全摘除術を行っている。小径腎細胞癌に対する腎部分切除術に対しても適応を拡大し症例を蓄積している。2018 年より da Vinci Xi を導入し、膀胱全摘除術についてもロボット支援手術を導入し体腔内で尿路変更まで行っている。2020 年より腎盂尿管移行部通過障害に対してロボット支援腎盂形成術を開始し、2022 年度から腎全摘除術、腎尿管全摘除術、副腎摘除術についてもロボット支援手術を開始している。

また、非閉塞性無精子症に対する顕微鏡下精巣内精子採取術についても積極的に行っている。

●地域貢献

医師の派遣：国保いすみ医療センター、国保さんむ医療センター、船橋中央病院、松戸市立総合医療センター、千葉市立青葉病院、千葉市立海浜病院、千葉県立こども病院、成田赤十字病院、済生会習志野病院、香取おみがわ医療センター、千葉県立佐原病院、国立病院機構千葉東病院、みはま病院、井上記念病院、九十九里ホーム病院、原村医院、山王病院、高橋ウイメンズクリニック、船橋クリニック、鴨川市立国保病院、斉藤労災病院、船橋二和病院、千葉ろうさい病院、茂原中央病院、東陽病院、国保旭中央病院、国保君津中央病院、井上記念病院、東千葉メディカルセンターなど

●その他

2024 年 9 月 13～15 日 第 34 回日本性機能学会総会（会場：お茶の水ソラシティ カンファレンスセンター）（会長：市川智彦）

研究領域等名：	分子病態解析学
診療科等名：	

●はじめに

最近のテクノロジーの進歩の結果、ゲノムレベルでの1分子シーケンスはもちろんのこと、細胞・臓器・生体の多様な変化を“動的”に捉えたり、細胞内小器官の微細構造を可視化したり、プロテオミクス技術の発達によって分子間相互作用や高次複合体情報を“質的”・“空間的”・“多層的”に解析することが可能になり、従来の単一的・一面的研究から多面的・高次機能的な研究へとパラダイムシフトしている。医学研究院では、「疾患分子病態の解明」と「生病老死における分子基盤の統合的理解」を目的に、マルチオミクス解析、Single Cell RNA sequence、空間トランスクリプトーム解析を行いながら、疾患分子病態解析学を展開している。同時にデータサイエンス手法と発展させて、1遺伝子－1分子－1細胞－1個体を動的・質的・視的・システムの捉えて、細胞→臓器→個体へと広く結びつける疾患病態研究を実施している。また、今年度も、多くの診療科と連携して、若手医師・専門医を対象に基礎医学研究の推進と研究医養成に力を注いでいる。海外トップの研究機関と先端的共同研究を推進し、製薬企業との創薬共同研究も行い、先端医薬開発において大きな成果を挙げている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

①医学部1年生；早期体験講座（1コマ）、さらにクリニカルクラークシップとして学生（定員）2名を約1年半（1年生）にわたり週1回受け入れる体制である。②2年生；遺伝分子医学（2コマ）③4年生；ユニット講義（4－6月にわたって計12コマ）、内分泌の指導医資格のある教官が内分泌学ユニット講義の一部を担っている。④4年生；チュートリアル、⑤4年生；臨床入門『チーム医療』（1月に計6コマ）⑥全学普遍教育科目（3コマ）、⑦試験関連：4年生のCBT、臨床総合試験、6年生の問題作成。FD（ファカルティデベラップメント）の講習会に参加。⑧教育カリキュラムの改変に伴い施行されている共用試験（OSCE、CBT）、臨床実習（クリニカル・クラークシップ：CC）に参画している。特に、CCベーシックでは一般手技と検査手技の習得が必須となり、医学部4年生がコアCCに進む前に必要な臨床的に必須の内容を講義と実習で評価するものである。CCベーシック終了後にはWBTによる評価試験を経て合格者には白衣式への参加が認められるが、この実施に協力を継続している。

・卒後教育／生涯教育

主任教授・講座助教など講座教員が、その活動に参加している千葉大学附属病院遺伝子診療部において、毎回遺伝医療に関するテーマを決めて月一回の遺伝症例検討会を行い、近隣の開業医、心理カウンセラー、認定遺伝カウンセラー、臨床遺伝専門医、公衆衛生学の教員・スタッフ、婦人科、当院の看護師等、多くの参加者を得ており、臨床遺伝専門医（日本人類遺伝学会／日本遺伝カウンセリング学会）育成に寄与している。また、教室の内分泌専門医および指導医をもつ教官が中心となり、千葉県における内分泌疾患を中心として、甲状腺疾患から骨粗鬆症、さらには生活習慣病や糖尿病の実臨床を対象として、医療連携の推進・若手医師の育成・糖尿病治療薬などの実臨床のエビデンス構築などを目的に、卒後教育・医師生涯教育活動を実施している。

・大学院教育

①修士課程 遺伝情報応用学特論：科目責任者 田中知明

あらゆる領域の疾患の遺伝的要因が日々明らかにされつつある現在、遺伝子・染色体を含む遺伝学的検査や遺伝医学が診療と密接に関わってきている。一方、法医学領域の個人識別においてもDNA情報は不可欠である。

しかし、これらの遺伝情報を扱うにあたっては倫理的諸問題に対する十分な配慮が求められる。本コースではヒトの遺伝の仕組み、その遺伝情報の取り扱い方について多角的に学ぶことを目指す。

②博士課程 機能ゲノム学、生命情報科学：7回の講義のうち、1コマを担当

講義名：転写因子 p53 とエピジェネティクス制御

テーマ：「ゲノムの守護神」と称される癌抑制遺伝子 p53 の新たな側面として、解糖系や活性酸素調節、呼吸・エネルギー代謝調節、PS 制御などが報告され、p53 は想像以上に多彩な生理機能をもつことがわかってきた。p53 転写因子として機能し、生理作用の異なる様々な下流遺伝子群を支配するための、クロマチン機能とエピジェネティクス制御機構に関する最近の知見を概説する。

● 研究

・ 研究内容

生体制御の司令塔である転写因子に着目し、特にがん抑制遺伝子 p53 や免疫細胞制御の鍵分子である GATA3 の多彩な生理作用に着目し、がん研究の枠組みを飛び越えて、老化、内分泌代謝・生活習慣病、免疫、幹細胞機能制御と分化に関連する先進的な研究を推進した。特に、高次複合体解析のエキスパートとして、ミトコンドリア呼吸鎖超複合体解析により、エネルギー調節制御機構と生活習慣病との関わりを明らかにしたり、がん幹細胞制御に機能する miRNA のがん代謝に関わる新規メカニズムを世界に先駆け明らかにした。また、Akt シグナルによる GATA3 転写複合体制御のスイッチ機構を解明し、代謝と複合体解析を融合させた先駆的研究を進め多くの成果を生み出した。国際共同研究の新展開としては、カルフォルニア工科大学の Ellen Rosenberg 教授との共同研究で、免疫細胞の発生分化における転写複合体解析を推進し、GATA3 および PU1 複合体における新規機能的会合分子を見出し、T 細胞発生分化制御の新しいメカニズムとして、転写因子ネットワーク制御の新たなモデル「Stealing Theory」を提示することができた。製薬企業との共同研究においては、大鵬薬品工業との共同研究において、新規抗がん剤の作用機序を分子レベルで明らかにした。さらに、レコルダティ・レア・ディージェズ・ジャパン株式会社との国際共同研究で Osilodrostat の国際共同治験を主導した。臨床検体を用いたトランスレーショナルリサーチでは、機能性内分泌疾患（特に褐色細胞腫、副腎皮質腫瘍、下垂体腫瘍）を中心とした NGS を用いたゲノムワイド解析とシングルセル解析を行い、新規の遺伝子変異を同定することに成功している。また、神経変性疾患の遺伝子多型解析、神経免疫疾患の新規エピトープの探索や病態発生機序などについてプロテオミクス解析を駆使して、研究を推進している。

・ 研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Taki Y, Kono T, Teruyama K, Ichijo T, Sakuma I, Nagano H, Miyagawa H, Kono S, Fujimoto M, Hashimoto N, Yokoyama M, Kawakami E, Miki T, Tanaka T. Comparative analysis of aldosterone and renin assays for primary aldosteronism screening. *Sci Rep* 2024;14:26040.
2. Takemoto M, Yamaguchi A, Hayashi A, Kono T, Ishida A, Maezawa Y, Hayashi H. Long-term follow up of a single case of metabolic surgery in an elderly Japanese patient with severe obesity. *Geriatr Gerontol Int* 2024;24:1243-1244.
3. Matsuda T, Kono T, Taki Y, Sakuma I, Fujimoto M, Hashimoto N, Kawakami E, Fukuhara N, Nishioka H, Inoshita N, Yamada S, Nakamura Y, Horiguchi K, Miki T, Higuchi Y, Tanaka T. Deciphering craniopharyngioma subtypes: Single-cell analysis of tumor microenvironment and immune networks. *iScience* 2024;27:111068.
4. Kono S, Nagano H, Taki Y, Kono T, Nakamura Y, Inoshita N, Ohtsuka M, Tanaka T. Prognostic marker of immunohistochemistry-based somatostatin receptors 2 and 5 H-scores in patients with pancreatic neuroendocrine neoplasms. *Endocrine Metab Sci* 2024;15:100176.
5. Amagai R, Otomo R, Yoshioka S, Nagano H, Hashimoto N, Sakakibara R, Tanaka T, Okado-Matsumoto A. C-terminal truncation is a prominent post-translational modification of human erythrocyte α -synuclein. *J.Biochem.*175:649-658, 2024. doi: 10.1093/jb/mvae012.
6. de Queiroz RM, Efe G, Guzman A, Hashimoto N, Kawashima Y, Tanaka T, Rustgi AK, Prives C. Mdm2 requires Sprouty4 to regulate Focal Adhesion Formation and Metastasis independent of p53. *Nat Commun.* 15:7132, 2024.
7. Gaspar RC, Sakuma I, Nasiri A, Hubbard BT, LaMoia TE, Leitner BP, Tep S, Xi Y, Green EM, Ullman JC, Petersen KF, Shulman GI. Small molecule inhibition of glycogen synthase I reduces muscle glycogen content and improves biomarkers in a mouse model of Pompe disease *Am J Physiol Endocrinol Metab* 2024 327(4):E524-E532.
8. LaMoia TE, Hubbard BT, Guerra MT, Nasiri A, Sakuma I, Kahn M, Zhang D, Goodman RP, Nathanson MH, Sancak Y, Perelis M, Mootha VK, Shulman GI. Cytosolic calcium regulates hepatic mitochondrial oxidation, intrahepatic lipolysis, and gluconeogenesis via CAMKII activation *Cell Metab* 2024 36(10):2329-2340.e4.
9. Sakuma I, Ishibashi R, Matsue K, Vatner DF, Nakamura Y, Yokote K, Tanaka T. Primary adrenal insufficiency due to lymphomatoid granulomatosis in a 32-year-old man. *Lancet* 2024 Vol. 403 Issue 10442 Pages e33
10. Sakuma I, Vatner DF. Fatty Acid Esterification as a NASH Therapeutic Target *Cell Mol Gastroenterol Hepatol* 2024 Vol. 17 Issue 2 Pages 311-312
11. Ryo Hatano, Xilin Z, Eunyoung L, Atsushi K, Tomoaki Tanaka, Takashi Miki, Mosaic ablation of pancreatic β cells induces de-differentiation and repetitive proliferation of residual β cells in adult

mice, 2024 Aug 3;27(9):110656. doi: 10.1016/j.isci.2024.110656. eCollection 2024 Sep 20.

12. Ryo Hatano, Eunyoung L, Hiromi S, Masahiro K, Kiyoshi H, Yoshimi N, Hitoshi S, Toshinori N, Tomoaki Tanaka, Takashi Miki, Hepatic ketone body regulation of renal gluconeogenesis, *Mol Metab.* 2024 Jun;84:101934. doi: 10.1016/j.molmet.2024.101934. Epub 2024 Apr 9.
13. Ryosuke Amagai, Riki O, Sakura Y, Hidekazu N, Naoko H, Ryuji S, Tomoaki Tanaka, Ayako Okado-Matsumoto, C-terminal truncation is a prominent post-translational modification of human erythrocyte α -synuclein, *J Biochem.* 2024 May 31; 175(6):649-658. doi: 10.1093/jb/mvae012.
14. Takahiro Fuchigami, Yutaka Itokazu, Robert K. Yu. Ganglioside GD3 regulates neural stem cell quiescence and controls postnatal neurogenesis. *Glia*, 2024; 72(1):167-183.
15. Lin Y, Gil C-H, Banno K, Yokoyama M, Wingo M, Go E, Prasain N, Liu Y, Hato T, Naito H, Wakabayashi T, Sominskaia M, Gao M, Chen K, Geng F, Gomez-Saliner JM, Chen S, Shelley WC, Yoshimoto M, Li Calzi S, Murphy MP, Horie K, Grant MB, Schreiner R, Redmond D, Basile DP, Rafii S, Yoder MC. ABCG2-Expressing Clonal Repopulating Endothelial Cells Serve to Form and Maintain Blood Vessels. *Circulation.* 2024; 150(6): 451-465.

【雑誌論文・和文】

1. 佐久間一基, 田中 知明「【内分泌疾患の温故知新ー日本内分泌学会創設 100 周年を目前にして】副腎コルチゾール産生副腎腫瘍の遺伝子異常」医学のあゆみ 290 巻 9 号 Page751-755 (2024.08)
2. 瀧由樹, 宮川宏佳, 河野貴史, 田中知明「ステロイド合成酵素阻害薬の特性と違いに関する機能的副腎腫瘍組織を用いた in vitro での作用比較検討」ACTH RELATED PEPTIDES Vol.35 Page34-36 (2024.03).
3. 榊原隆次, 澤井摂, 天谷亮介, 吉岡さくら, 大友利輝, 松本紋子, 永野秀和, 橋本直子, 田中知明「赤血球 α シヌクレインの解析 (健常人での検討)」千葉医学雑誌 医中誌 Web ID: 2024219662 2024 年 100 巻 2 号 37 頁
4. 赤嶺博行, 鶴沢顕之, 横山真隆, 車田賢太郎, 半田秀雄, 鋸屋悦子, 安田真人, 田中知明, 桑原聡「後期発症重症筋無力症では Age-associated B cell が病態と関連している」神経免疫学 医中誌 Web ID: Y927320094 2024 年 29 巻 1 号 173 頁

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. 加齢・肥満に応答する血管内皮細胞の臓器間相違と制御機構 横山真隆 共創の場プロジェクト シンポジウム 2024 年 2 月 13 日
2. Oran-Specific Transcriptional Regulations of Endothelial Cells to Aging and Obesity Stress Masataka Yokoyama, Yoshio Kobayashi, Tomoaki Tanaka 第 88 回日本循環器学会総会 2024 年 3 月 8 日

【学会発表数】

国内学会 9 学会 17 回 (うち大学院生 12 回)
国際学会 2 学会 3 回 (うち大学院生 0 回)

【外部資金獲得状況】

1. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「神経変性疾患患者末梢血 α -synuclein の翻訳後修飾の解析」分担者: 田中知明 2021-2025
2. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「脂質合成代謝機能プロファイルの変化がもたらす腫瘍制御の解明」分担者: 田中知明 2022-2025
3. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「一細胞レベルで肝細胞の局在と機能の関係を明らかにし、肝糖代謝に新知見を加える」分担者: 田中知明 2022-2025
4. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「難治性乳がんに対する変異 p53 依存性の悪性化・転移機構に対する分子基盤の解明」分担者: 田中知明 2022-2025
5. 科学研究費助成事業 基盤研究(B)「皮下脂肪組織由来細胞のシングルセル解析と計算生物学に基づく革新的脂肪移植の開発」分担者: 田中知明 2022-2025
6. 科学研究費助成事業 挑戦的研究(開拓)「一細胞解析と空間的トランスクリプトームによる肝臓糖代謝ー免疫関連機構の解明」代表者: 田中知明 2023-2026
7. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「がん染色体外環状 DNA を標的とした新規リキッドバイオブシー検査の開発」分担者: 田中知明 2025-2029
8. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「血管内皮細胞の心臓特異性がもたらす動脈硬化リスクの解明」代表者: 横山真隆 2023-2025
9. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「シングルセル RNA 解析を用いた重症筋無力症の分子病態解明」分担者: 横山真隆 2023-2025
10. 科学研究費助成事業 挑戦的研究(萌芽)「長鎖 DNA 解析を基盤とする臨床検査群を可能とする本邦発のプラットフォームの開発」代表者: 西村基 2022-2024

11. 科学研究費助成事業 基盤研究(B)「1本鎖DNA/RNA選択的解析によるCOVID-19を含む感染症検査の広範な改良」代表者：西村基 2021-2025
12. 武田科学振興財団 医学系研究助成(基礎)「FBP1ノックダウンマウスを用いたフルクトースによる代謝関連脂肪性肝疾患進展のメカニズム解析に関する研究」代表者：佐久間一基 2024
13. 小野医学研究財団 研究奨励助成「脂肪滴膜タンパクによる代謝異常関連脂肪性肝炎の病態制御機構の解明に関する研究」代表者：佐久間一基 2024
14. 日本応用酵素協会 酵素研究助成「中性脂肪合成関連酵素による白色脂肪細胞・骨髄脂肪細胞の制御機構の解明に関する研究」代表者：佐久間一基 2024
15. 日本応用酵素協会 酵素研究助成「幹細胞フィロスタシスとその破綻による老化の統合的理解」分担者：山形一行 2023-2026
16. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「ヒト幹細胞内に内在するlnc-p53RNAの抗がん剤耐性獲得分子メカニズムの解明」代表者：山形一行 2024-2028
17. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「難治性乳がんに対する変異p53依存的悪性化・転移機構に対する分子基盤の解明」代表者：中山哲俊 2022-2024

【受賞歴】

1. 2025年日本血管生物医学会特別集会 優秀演題賞, 2025, 東京 横山真隆
2. 千葉大学医学部スカラーシップ指導者賞, 千葉大学大学院医学研究院 横山真隆
3. 第34回臨床内分泌代謝 Update ポスター発表優秀発表賞 瀧由樹
4. 第36回日本神経免疫学会学術集会 富山きときと賞 赤嶺博行

【その他】

研究室のビジョンとして、海外の主要な研究拠点との連携・共同研究推進は、先駆的研究競争力の維持だけではなく、若手研究者に研究のグローバルスタンダードを身に付けさせるという意味において、きわめて重要と考えている。Columbia大学のCarol Prives教授、Yale大学のGerald Shulman教授、California Institute of TechnologyのEllen Rothenbergと共同研究を推進する中で、年数回のlab meetingを実施している。さらに、ドイツTechnische Universitat DarmstadtのNorbert Dencher教授、およびWashington大学の太島淳子教授との共同研究も展開している。

●診療

・外来診療・入院診療・その他(先進医療等)

外来診療

千葉大学医学部附属病院遺伝子診療部の外来診療ならびにカンファレンス・症例検討会業務に従事している。また、スタッフは、それぞれの専門医資格に応じて、糖尿病・代謝・内分泌内科外来診療業務や循環器内科の業務に従事した。

●地域貢献

内分泌疾患・骨代謝疾患を中心とする地域診療において、地域診療所に専門医の外来派遣を行い、千葉県内を中心とした地域の専門診療への貢献、若手医師の教育、円滑な患者紹介といった医療連携を行う体制の構築に貢献している。また、これらの施設において、実臨床でのエビデンス構築を目的として、複数の後方視的解析の臨床研究を行うことで、クリニックを含む地域医療におけるEBMの実践と普及を行っている。

また、内分泌疾患における難治症例や診断に難渋する症例にして、生化学的解析や分子生物学的解析などを支援し、基礎と臨床の橋渡しとして、重要な役割担っている。

ポスト/ウィズコロナ禍社会の新たなリスクとして、慢性期や長期に及ぶストレス疾患やホルモンバランスの変化や、台風と地震が同時に起こった際の避難所での新興感染症蔓延など、長期戦への不安や複合型災害に対する備えと対策が急務となっている。本講座は、災害治療学シンポジウム開催の中心的役割を果たし、これまでの医療や医学研究の枠組みや縦割り社会を大きく飛び越えて、「行政と住民－地域基幹病院－大学が一体となった取り組み」の整備と地域社会に大きく貢献した。

●その他

日本内分泌学会 臨床重要課題「原発性アルドステロン症ガイドライン実施の実態調査と普及に向けた標準化に関する検討」にて、主要委員としてガイドライン作製に貢献した。また、副腎性サブクリニカルクッシング症候群新診断基準案の策定委員として、その診断基準策定に貢献した。千葉県外の外部医療機関や研究機関と連携して、患者の適切な診断や治療の推進に貢献している。虎ノ門病院での下垂体疾患症例検討会でのアドバイザーや、福岡大学、東北大学、神戸大学などと内分泌診療の連携を行っている。

研究領域等名：	救 急 集 中 治 療 医 学
診療科等名：	救急科/集中治療部/救命救急センター

●はじめに

救急集中治療医学は開講以来 28 年が経過、中田孝明が 3 代目教授となり 4 年が経過した。また、新中央診療棟へ移転してから 4 年が経過した。教育面では従来どおり、救急医学、集中治療医学、災害医学等に関する学生教育、研修医教育、専攻医教育を行っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

救急科・集中治療部としては、1 年生に対する BLS 実習、4 年生に対するユニット講義では「麻酔・救急ユニット」の救急・集中治療関連の 4 コマを担当、臨床入門では一次救命処置（BLS）と AED の講義・実習を行った。また 5 年生に対する臨床実習 I は前年同様 10～12 名ずつが 3 週間の実習を通年で行った。講義は ZOOM でのオンライン授業とし、グループの学生全員が集合することが無いようシフトを組むなど工夫して実習を行なった。

・卒後教育／生涯教育

救急科・集中治療部では、初期研修医がローテートして実習を行った。救命救急センター患者の診療と ICU における重症患者管理を中心に診療指導を行った。救急科は救急科専門医プログラムの基幹病院として専攻医指導を行っており、2024 年度は 8 名の専攻医を受け入れた。また、3 名がプログラムを修了し専門医を取得した。一方集中治療部は集中治療専門医指定施設であり、専門医教育にも力を注いでいる。M&M カンファレンス、CPC などを通じて、医師のみでなく、メディカルスタッフに対して幅広く教育を行っている。

・大学院教育

今年度は 15 名の大学院生が在籍した。集中治療専門医を取得するのに必要な、臨床手技、知識、判断力を身に付けられるよう、臨床の現場で教育を行うとともに、各自の研究テーマについて週 1 回の抄読会とリサーチカンファレンスを中心に指導を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

今年度も普遍教育のコア F を担当、「救急医学」というタイトルで 8 コマの講義を行ったが、こちらも全てオンライン授業となった。千葉市のメディカルコントロール体制充実を図るため、千葉市消防局救急救命士の就業前及び就業後の病院実習の受け入れを引き続き行った。また、千葉県及び千葉市消防学校での講義も例年同様受け持っている。

●研 究

・研究内容

救急集中治療医学では、リサーチカンファレンスを定期的に開催し各自が行っている研究の進捗状況を報告、全員でディスカッションしている。臨床研究としては、心肺停止患者に体温管理法の効果に関する研究等を引き続き行なった。大学院生が学位のテーマとして取り組んでいる、救急集中治療領域における機械学習を用いた研究、急性腎障害を有する重症患者における転帰の研究などの成果を英文誌に投稿した。また、DPC データを用いた敗血症に関する疫学研究、全身性炎症反応に伴う血管透過性亢進に関する基礎研究などが、精力的に進められている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

- Oami T, Okada Y, Sakuraya M, Fukuda T, Shime N, Nakada TA. Efficiency and workload reduction of semi-automated citation screening software for creating clinical practice guidelines: a prospective observational study. Journal of epidemiology 2024; 34:380-396.
- Aoki A, Iwamura C, Kiuchi M, Tsuji K, Sasaki A, Hishiya T, Hirasawa R, Kokubo K, Kuriyama S, Onodera A, Shimada T, Nagaoka T, Ishikawa S, Kojima A, Mito H, Hase R, Kasahara Y, Kuriyama N, Nakamura S, Urushibara T, Kaneda S, Sakao S, Nishida O, Takahashi K, Kimura MK, Motohashi S, Igari H, Ikehara Y, Nakajima H, Suzuki T, Hanaoka H, Nakada TA, Kikuchi T, Nakayama T, Yokota K, Hirahara K. Suppression of type I interferon signaling in myeloid cells by autoantibodies in severe COVID-19 patients. Journal of clinical immunology 2024; 44: 104
- Shinozaki M, Saito D, Tomita K, Nakada TA,

- Nomura Y, Nakaguchi T. Usability evaluation of a glove-type wearable device for efficient biometric collection during triage. *Scientific reports* 2024; 14: 9874.
4. Kurita T, Oami T, Tochigi Y, Tomita K, Naito T, Atagi K, Fujitani S, Nakada TA, IHER-J collaborators. Machine learning algorithm predicting 30-day mortality in patients receiving rapid response system activation: A retrospective nationwide cohort study. *Heliyon* 2024; 10:e32655.
 5. Oami T, Okada Y, Nakada TA. Performance of a large language model in screening citations. *JAMA network open* 2024; 7:e2420496.
 6. Sakai Y, Tsuyuguchi T, Kumagai J, Ohyama H, Nakada TA, Ohtsuka M, Naoya K. Usefulness of Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography (ERCP)-Related Procedures for Gallstone Pancreatitis. *Cureus* 2024; 16: e67133.
 7. Abe T, Umemura Y, Ogura H, Kushimoto S, Fujishima S, Shiraishi A, Saitoh D, Mayumi T, Otomo Y, Nakada TA, Gando S. Relationship between Fluid administration during the first three hours of sepsis resuscitation and mortality: a multicenter observational study. *Cureus* 2024; 16: e65480.
 8. Iizawa Y, Hayashi Y, Saito D, Kondo K, Yamashiro M, Kanematsu R, Hirose K, Nakamura M, Miyazaki T. Prediction of Neurological Outcomes in Elderly Patients With Head Trauma Using the Geriatric Trauma Outcome Score: A Retrospective Observational Study. *Cureus* 2024; 16: e66768.
 9. Iwase S, Kitamura N, Fusada T, Kheirandish F, Shinozaki Y. Veno-venoarterial Extracorporeal Membrane Oxygenation for Septic Cardiomyopathy Caused by Invasive Pneumococcal Infection: A Case Report. *Cureus* 2024; 16:e70463
 10. Oami T, Imaeda T, Nakada TA, Aizimu T, Takahashi N, Abe T, Yamao Y, Nakagawa S, Ogura H, Shime N, Umemura Y, Matsushima A, Fushimi K. Association of intensive care unit case volume with mortality and cost in sepsis based on a Japanese nationwide medical claims database study. *Cureus* 2024; 16: e65697
 11. Ishikawa N, Tomita K, Tochigi Y, Nakada TA. Increased number of dispatches in emergency medical services correlates to response time extension. *Acute medicine & surgery* 2024; 11: e70017.
 12. Shimazui T, Oami T, Shimada T, Tomita K, Nakada TA. Age-dependent differences in the association between blood interleukin-6 levels and mortality in patients with sepsis: a retrospective observational study. *Journal of intensive care* 2025; 13: 3.
 14. Nurfauzi R, Baba A, Nakada TA, Nakaguchi T, Nomura Y. Automated detection of traumatic bleeding in CT images using 3D U-Net# and multi-organ segmentation. *Biomedical physics & engineering express* 2025; 11: 025026.
 15. Ohira G, Hayano K, Tochigi T, Maruyama T, Toyozumi T, Kurata Y, Maruyama M, Arai S, Nakada TA, Matsubara H. Treatment outcomes in non-occlusive mesenteric ischemia and post-treatment return to social activities. *Surgery today* 2025; 55: 360-369.
- 【雑誌論文・和文】**
1. 服部憲幸. 「重症呼吸管理－人工呼吸とECMOの最前線－：II. ECMO編 14. 水分管理のコツ」. 救急・集中治療 2024;36:104-109.
 2. 服部憲幸. 「抗凝固管理の基礎と合併症 治療と評価の手段を識り, 患者と病態を知る」. INTENSIVIST 2024;16:367-373.
 3. 糸川恵未, 新津富央, 橘真澄, 荒井美音里, 林陸, 田邊恭子, 今枝太郎, 中田孝明, 伊豫雅臣. 「総合病院に勤務する救急科と精神科所属医療従事者におけるメンタルヘルス支援ニーズとポストベンションの現状に関する痰ケート調査」. ストレス科学 2024;39:46-58.
 4. 大網毅彦, 岡田遥平, 中田孝明. 「診療ガイドライン作成におけるシステマティックレビューの自動化」. ICUとCCU 2024;48:731-739.
- 【単行書】**
1. 竹田雅彦, 服部憲幸, 中田孝明. 「3章 心原性ショックの治療 7. AKI・血液浄化」心原性ショック 最強の教科書 (朔啓太編). メジカルビュー社, 東京. 2024:190-197.
 2. 砂原聡, 中田孝明. 「第Ⅷ章 重症患者管理と集中治療 3. 侵襲から臓器障害に至るメカニズム」改訂第6版 救急診療指針 外科. (日本救急医学会指導医・専門医制度委員会, 日本救急医学会専門医認定委員会編, 一般社団法人日本救急医学会監修). へるす出版. 東京. 2024:1118-1123.
- 【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】**
1. 第52回日本救急医学会総会・学術集会にて講演 (服部憲幸)
 2. 第33回日本腎不全外科研究会学術集会にて講演 (服部憲幸)
 3. 第98回日本感染症学会学術講演会 第72回日本化学療法学会総会 合同学会にて講演 (中田孝明)

4. 第35回日本急性血液浄化学会学術集会にて講演（服部憲幸）
5. 第52回日本救急医学会総会・学術集会にて講演（中田孝明）
6. 第46回日本呼吸療法医学会学術集会にて講演（服部憲幸）
7. 第50回大分救急医学会にて講演（中田孝明）
8. 第26回日本救急看護学会学術集会にて講演（中田孝明）
5. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「オートファジーを介した腸管恒常性の制御による敗血症治療への応用」代表者：大網毅彦 2023-2025
6. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「重症急性膵炎における claudin2 の機能解析と腸管透過性の制御による治療への応用」代表者：石田茂誠 2023-2025
7. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「定量的 CRT 値と臨床の有用性の確立および高精度 CRT 測定装置の開発」代表者：三輪弥生 2024-2026
8. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「重症患者に合併する腸管恒常性の破綻と下痢の病態解析」代表者：山本晃之 2024-2026

【学会発表数】

国内学会 17 回（うち大学院生 1 回）
国際学会 0 回（うち大学院生 0 回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「A novel treatment for REBOA complications: Hydrogen gas inhalation therapy to alleviate oxidative stress due to ischemia-reperfusion injury」代表者：松村洋輔 2021-2024
2. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「重症急性膵炎における CD 69-Myl9/12 システムの関与について」代表者：大村拓 2022-2024
3. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「CRT 測定条件の標準化と臨床的有用性の確立および高精度 CRT 測定装置の開発」代表者：齋藤大輝 2022-2024
4. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「敗血症の遺伝的素因の詳細解析と検証基盤構築」代表者：中田孝明 2023-2025
9. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「シングルセル遺伝子発現とエクソソームに着目した間葉系幹細胞の敗血症治療への応用」代表者：宮内清司 2024-2026
10. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「敗血症における細胞外マトリックス蛋白質 SVEP1 の遺伝子改変動物を用いた機能解明」代表者：栗田健郎 2024-2026
11. 厚生労働科研「ICT と AI を活用した患者の病院間搬送支援システムの構築研究」代表者：中田孝明 2022-2024
12. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構「AI 救急予測アルゴリズムの実用化を目指した検証の研究開発」分担：大島拓 2022-2024

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

救命救急センターにおいては、高エネルギー外傷、熱傷、急性中毒、重症急性膵炎、昏睡型急性肝不全、敗血症、敗血症性ショック、心肺停止などの3次救急患者のみならず、1次・2次救急患者も含めた幅広い重症度の救急患者を受け入れて地域の救急医療提供体制に貢献している。

ICU/CCU では、例年通り院内外で発生した重症患者を受け入れ診療を実施した。主な緊急入室症例の疾患のうちわけは、院外心停止、多発外傷、敗血症・敗血症性ショック、多臓器不全、重症呼吸不全などであった。

千葉県消防局との提携によるドクターピックアップ方式によるヘリ診療を引き続き行った。これは、当院及び千葉県救急医療センターから5Km 圏外で発生した3次救急事案で医師の診療が必要と判断される場合、千葉県防災ヘリが当院ヘリポートに着陸し、医師と看護師をピックアップして現場近くのヘリポートへ着陸、その場で診療を開始し、ヘリで患者を早期に搬送するというものである。また、同様に2012年度から稼働している院内の急変に対応するシステム MET（medical emergency team）も引き続き行った。これは、入院、外来に限らず院内で急変した患者が発生した場合、内線 6999 をコールすれば ICU 医師と看護師のチームが直ちに現場に駆けつけ医療を開始するシステムである。院内急変例の重症化や院内心停止症例減少の効果が認められている。千葉市内で起きた局地災害や多数傷病者発生時に、当科のスタッフが現場に駆け付けて救急医療を展開する COMET（Chiba outreach MET）の活動も引き続き行っている。

●地域貢献

関連病院として、千葉県総合救急災害医療センター、君津中央病院救命救急センター、成田赤十字病院救命救急センター、千葉市立青葉病院救急集中治療科、千葉大学医学部附属病院東金九十九里地域臨床教育センターを併設した東千葉医療センター救命救急センターに医師を派遣し、それぞれの地域の救急医療の充実に貢献している。さらに千葉市の救急医療を改善するために、千葉市消防局の常駐医体制、ドクターピックアップ方式のヘリ救急、救急救命士の教育等に積極的に協力している。

●その他

海外からの医学生や臨床研修見学生等について、今年度は医学生 3 名、臨床研修見学生 2 名の受け入れを行なった。医学生はフランス コートダジュール大学 4 年生が 2 週間、ドイツ ゲッティンゲン大学 6 年生が 4 週間、台湾 国立台湾大学 6 年生が 2 週間 臨床研修見学生はタイからそれぞれ 1 週間の受け入れを行った。

研究領域等名：	皮	膚	科	学
診療科等名：	皮	膚	科	科

●はじめに

人事面では、新入局員が6名が加わった。

外来診療では、新患は月水金（完全紹介予約制）、専門外来としては、アトピー性皮膚炎・尋常性乾癬・悪性腫瘍・ダーモスコピー・円形脱毛症・膠原病・パッチテストを設けている。紹介される患者は、悪性腫瘍の症例が多い特徴は継続している。入院症例は悪性腫瘍の手術・薬物療法に加え、水疱症や重症薬疹、蜂窩織炎などを主に受け入れており、木曜日午前中には科長回診を行っている。

研究面では岡山大学、千葉県がんセンターと共同で免疫チェックポイント阻害剤の効果に関するT細胞を解析して、精密な個別化がん免疫療法を目指す研究をしている。

臨床研究面ではカシオ計算機株式会社との共同研究としてダーモスコピー学習システムの開発を継続中である（これまでに総計2000症例以上を提供）。

●教 育

・学部教育／卒前教育

学部学生（4年生）を対象に皮膚科・形成外科ユニットとして、12コマの系統講義を行った。2024年は外部講師を含め、全て対面授業を執り行った。

学部学生（5年生～6年生）を対象としたアドバンスドCC実習は、各班1週間ずつの実習であり、実地研修では1班に5～6名の学生を受け入れ、曜日ごとに外来での診療2～3名、残りの学生には手術見学実習に分けてローテーションし、実習を行った。実習で学び得たことのまとめとして、当科カンファレンス内にてプレゼンを行わせている。

スカラシップでは2年生2名、3年生2名に実際に実験を経験させつつ、隔週のジャーナルクラブに解説資料をつけたうえで、参加させている。IPE指導、医師見習い教育も行った。

・卒後教育／生涯教育

初期研修医に関しては多数の研修を受け入れた。昨年度入局の6名が関連病院へ出向した。

毎週月曜日の病理組織カンファレンス、毎週木曜日の外来クリニカルカンファレンス、病棟科長回診および病棟カンファレンスでは、症例検討を通じて、初期・後期研修医に対して専門的な指導を行っている。また、専攻医向けレクチャーを毎週開催した。

当科主任・関連セミナーに関しては、千葉アレルギークリニカルカンファレンス（アレルギー膠原病内科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科合同、年1回）、ゐのはな皮膚科セミナー（当科主任、年1回）、を主催した。コロナ禍以前近い規模、回数に回復してきている。

・大学院教育

当科に所属している大学院生2名が引き続き免疫チェックポイント阻害剤の効果に関するT細胞を解析して、精密な個別化がん免疫療法を目指す研究を開始している。

教授が博士、修士課程講義を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

千葉大学大学院医学研究院修士課程講義1コマ

千葉大学大学院医学研究院博士課程講義1コマ

千葉大学医学部の皮膚科学ユニット講義を計12コマ

千葉県立鶴舞看護学校の皮膚科学の講義を3コマ

東京医療保健大学の皮膚科学の講義を2コマ

千葉大学教育学部の皮膚科学の講義を8コマ

千葉大学薬学部疾病学1.2を2コマ

●研究

・研究内容

メイン研究テーマはメラノーマに対するがん免疫である。患者体内でメラノーマを拒絶したT細胞を同定し、その特徴を網羅的に解明して報告した。メラノーマを拒絶するために重要なT細胞の特異的マーカーを発見し、それらのT細胞を制御する特徴的な遺伝子変化も明らかにした。

基盤研究 (C)「抗PD-1抗体治療の効果を示す直接的バイオマーカーの検索」,「抗PD-1抗体への獲得耐性に関する候補分子CD109とCD276の機能解析」,「紫外線ダーモスコピー画像によるメラノーマの病巣範囲の自動決定法の開発」,若手研究「IFN-gシグナル非依存的ながん免疫療法の感受性及び耐性機序の解明」,白斑学会助成の「進行期のメラノーマ患者に生じる白斑における浸潤リンパ球の腫瘍反応性と性質、利用可能性の検証」の5課題を当教室が研究代表者として遂行した。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Izumi T, Teramoto Y, Kamimura A, Doi R, Takai S, Mori T, Koizumi S, Kawahara Y, Aitake U, Lei X, Inomata N, Inafuku K, Nakamura Y.(2024) Favorable efficacy of S-1 treatment for locoregionally advanced cutaneous squamous cell carcinoma in the head and neck region. *J Dermatol.* 2024;51:271-279.
2. Pietkiewicz P, Navarrete-Dechent C, Togawa Y, Szlęzak P, Salwowska N, Marghoob AA, Leszczyńska-Pietkiewicz A, Errichetti E.(2024) Applications of Ultraviolet and Sub-ultraviolet Dermatoscopy in Neoplastic and Non-neoplastic Dermatoses: A Systematic Review. *Dermatol Ther (Heidelb).* 2024;14(2):361-390.
3. Zhou W, Kawashima S, Ishino T, Kawase K, Ueda Y, Yamashita K, Watanabe T, Kawazu M, Dansako H, Suzuki Y, Nishikawa H, Inozume T, Nagasaki J, Togashi Y.(2024) Stem-like progenitor and terminally differentiated TFH-like CD4+ T cell exhaustion in the tumor microenvironment. *Cell Rep.* 2024;43:113797.
4. Miyachi H, Sato D, Sakamaki K, Togawa Y, Yoshimura K.(2024) Impact of new antifungal medications on onychomycosis prescriptions and costs in Japan: A nationwide claims database study. *J Dermatol.* 2024;51:1172-1179.
5. Naoi Y, Morinaga T, Nagasaki J, Ariyasu R, Ueda Y, Yamashita K, Zhou W, Kawashima S, Kawase K, Honobe-Tabuchi A, Ohnuma T, Kawamura T, Umeda Y, Kawahara Y, Nakamura Y, Kiniwa Y, Yamasaki O, Fukushima S, Kawazu M, Suzuki Y, Nishikawa H, Hanazawa T, Ando M, Inozume T, Togashi Y.(2024) CD106 in tumor-specific exhausted CD8+ T cells mediates immunosuppression by inhibiting TCR signaling. *Cancer Res.* 2024;84:2109.
6. Mukohara F, Iwata K, Ishino T, Inozume T, Nagasaki J, Ueda Y, Yamashita K, Suzawa K, Ueno T, Ikeda H, Kawase K, Saeki Y, Kawashima S, Yamashita K, Kawahara Y, Nakamura Y, Honobe-Tabuchi A, Watanabe H, Dansako H, Kawamura T, Suzuki Y, Honda H, Mano H, Toyooka S, Kawazu M, Togashi Y.(2024) Somatic mutations in tumor-infiltrating lymphocytes impact on antitumor immunity. *Proc Natl Acad Sci USA.* 2024;121(35):e2320189121
7. Miyachi H, Shibata R, Makrinioti H, Kyo M, Camargo CA Jr, Zhu Z, Hasegawa K.(2024) Association between nasopharyngeal airway lipidome signatures of infants with severe bronchiolitis and risk of recurrent wheeze: A prospective multicenter cohort study. *Pediatr Allergy Immunol.* 2024;35:e14274.
8. Koizumi S, Doi R, Aitake U, Lei X, Izumi T, Mori T, Shojiguchi N, Kawasaki T, Inozume T, Akiko Kishi.(2024) Unfavorable efficacy of pembrolizumab for advanced extramammary Paget's disease with high tumor mutation burden after failure of taxane-based regimens. *J Dermatol.* 2024;51:e203-e204.
9. Kameda E, Matsuzawa T, Togawa Y, Hashimoto R, Saito T, Suzuki T, Inozume T. (2024) Amelanotic melanoma in oculocutaneous albinism type 4 detected using violet-light dermoscopy. *J Dermatol.* 2024;51:e261-e263.
10. Kawano A, Miyachi H, Ota M, Ikeda J, Inozume T. (2024) Acquired tufted angioma with perinatal progression and complete spontaneous regression post-delivery: a case report and literature review on the expression of sex hormone receptors. *Eur J Dermatol.* 2024;34:322-323.
11. Inozume T, Fukushima S, Fukuda T, Harada K. (2024) Does dermatophytosis of the feet cause acral melanoma? *J Dermatol.* 2024;Online ahead of print.
12. Yoshino K, Matsuzawa T, Aihara T, Ikeda J, Inozume T. (2024) A case of basal cell carcinosarcoma with a melanocytic component.

Eur J Dermatol. 2024;34:559-561.

【雑誌論文・和文】

1. 熊田大樹、行木佑美香、岡崎大二郎、中野倫代 (2024) : N-ヒドロキシフタルイミドによる接触皮膚炎の2例 皮膚臨床. 2024;66:1355-1358.
2. 木下真太郎、井関梢、亀田瑛佑 (2024) : G-CSF 製剤投与により Sweet 病と大動脈炎を併発した1例 臨床皮膚. 2024;78:817-822.
3. 山本麻琴、山本洋輔、松澤高光、塚本利朗、外川八英、松江弘之、猪爪隆史 (2024) : Merkel 細胞癌に対しアベルマブ投与後に筋炎を生じた1例 皮膚臨床. 2024;66:1819-1822.
4. 高地由奈、川原祐、山本洋輔、高地祐輔、岸本充、猪爪隆史 (2024) : 包括的ゲノムプロファイリング検査により MSI - High が判明した孤発性右臀部脂腺癌の1例 Skin Cancer. 2024;39(3):306-311.
5. 田頭良介、外川八英 (2024) : 毛包系腫瘍のダーモスコピー 皮膚病診療. 2024;46(2):110-115.
6. 外川八英 (2024) : 2. 鑑別診断の実際 4) 外陰部丘疹・結節の鑑別診断 皮膚臨床. 2024;66:953-960.
7. 猪爪隆史 (2024) : -皮心伝心- 視点を変えれば皮膚病診療. 2024;46(7):658-658.
8. 猪爪隆史 (2024) : メラノーマにおける研究と診療の進歩 医学のあゆみ. 2024;289:24913-24917.
9. 猪爪隆史 (2024) : Melanoma and Non-melanoma Skin cancers メラノーマ・皮膚がん Ⅲ. 遺伝子情報に基づいた皮膚がんの治療選択 癌と化学療法. 2024;51:404-408.
10. 川島秀介、富樫庸介 (2024) : ゲノム医療からみた併用療法 がん分子標的●免疫治療. 2024;21:10-18.
11. 外川八英 (2024) : 特集 すぐに役立つ すごく役立つ 皮膚科検査の基本マニュアル 機器の使い方 -ダーモスコピーの使い方のコツ- 皮膚病診療. 2024;46(13):9-11.
12. 外川八英 (2024) : 【まるわかり! 爪疾患】 検査 ビギナーズサマリー ダーモスコピーによる爪の腫瘍性病変の鑑別 Derma. 2024;352:32-38.
13. 外川八英 (2024) : 【ダーモスコピーでのぞく美容医療】 顔面の黒っぽい扁平病変 Bella Pelle. 2024;9(3):168-172.
14. 外川八英 (2024) : 【皮疹が伝えるメッセージ】 皮疹とダーモスコピーとの対比 Derma. 2024;350:30-36.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 外川八英 (2024) : 教育講演 3 顔面皮膚悪性腫瘍のダーモスコピーによる鑑別 顔面の色素性病変 (第40回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2024年5月10-11日, 宮崎市)

2. 猪爪隆史 (2024) : 教育講演 皮膚がんへの免疫チェックポイント阻害薬による最新治療-基礎から臨床まで- EL25-4. 臨床研究と基礎研究から考える現状と課題 (第123回日本皮膚科学会総会, 2024年6月7日, 京都市)
3. 宮地秀明 (2024) : 教育講演 日々の皮膚科診療における疑問から、臨床研究を始めてみよう! EL45-4. 皮膚科臨床研究の実例2: 大規模レセプトデータベースを用いた皮膚科領域の臨床疫学研究 (第123回日本皮膚科学会総会, 2024年6月9日, 京都市)
4. 外川八英, 小熊玲奈 (2024) : 教育実習セミナー「ダーモスコピー」(第123回日本皮膚科学会総会, 2024年6月7日, 9日, 京都市)
5. 猪爪隆史 (2024) : 教育講演 6 メラノーマに対するがん免疫療法の軌跡と展望 (第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2024年11月16日, 東京都)
6. 外川八英 (2024) : ハンズオンセミナー4【ダーモスコピーの基本を押さえて実力を試そう!】(第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2024年11月17日, 東京都)

【学会発表数】

国内学会 29回 (うち大学院生4回)

国際学会 8回 (うち大学院生1回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤C「免疫チェックポイント阻害剤の課題克服を目指した腫瘍特異的T細胞の解析」代表者: 猪爪隆史 2022-2024
2. 文部科学省科学研究費 基盤C「抗PD-1抗体への獲得耐性に関わる候補分子CD109とCD276の機能解析」代表者: 松澤高光 2022-2024
3. 文部科学省科学研究費 基盤C「紫外線ダーモスコピー画像によるメラノーマの病巣範囲の自動決定法の開発」代表者: 外川八英 2022-2024
4. 文部科学省科学研究費 若手「IFN-g シグナル非依存的ながん免疫療法の感受性及び耐性機序の解明」代表者: 川島秀介 2023-2024
5. 文部科学省科学研究費 基盤C「メラノーマに対する免疫反応を評価する定量的非動物モデルの確立と新規治療標的の検証」代表者: 川原祐 2024-2026
6. 文部科学省受託研究費 amed「時空間的ミトコンドリア免疫代謝異常の解明」分担者: 猪爪隆史 2023-2025
7. 日本白斑学会寄付金「進行期のメラノーマ患者に生じる白斑における浸潤リンパ球の腫瘍反応性と性質、利用可能性の検証」代表者: 猪爪隆史 2022-2024
8. 高木賞マルホ高木皮膚科学振興財団寄付金「白斑組織内と腫瘍組織内におけるメラノサイト抗原特異的T細胞の制御機構の相違の解明」代表者: 猪爪隆史 2024-2025

9. 令和6年度医療・医薬アーリーシーズ研究助成「細胞外ATP受容体P2RX7シグナルによる腫瘍得意的T細胞の機能増強効果の検証」代表者：猪爪隆史 2024
10. 文部科学省科学研究費 基盤B「腫瘍に対する免疫記憶の解明と制御法の開発」分担者：猪爪隆史 2024-2026
11. カシオ計算機株式会社受託研究費「無料版ダーモスコピー学習用サービスに係る症例画像の提供」代表者：外川八英 2015-2025
12. カシオ計算機株式会社受託研究費「カシオ AI 診断のプロトコルの相談」代表者：外川八英 2024
13. 文部科学省科学研究費 基盤B「がん関連stiff-collagen制御機構の解明を基盤とした新規がん免疫強化治療戦略の開拓」分担者：猪爪隆史 2024-2026
14. 日本白斑学会トラベルグラント助成金「白斑研究に関する国内学会参加・発表するための旅費」代表者：青山和弘 2024
15. 日本白斑学会白斑研究助成金「白斑内のメラノサイト抗原特異的T細胞を選択的に抑制するための新規治療標的の探索」代表者：青山和弘 2024-2025

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

2024年度における外来延べ患者数は19,252人（月平均1,604人）、初診患者数は1,251人（月平均104人）、そのうち338人が悪性腫瘍であった。

皮膚生検を年間480件、ダーモスコピー検査を900件、体表エコー検査を423件、光線療法を2,745件、真菌鏡検を587件、パッチテストを17件施行した。乾癬に対する生物学的製剤、皮膚悪性腫瘍に対する外来がん化学療法、進行期の悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害薬治療など最新の治療を、通院治療室や入院で行っている。2023年度の新入院患者数は延べ348人で、そのうち199人が皮膚腫瘍手術関連であった。

研究領域等名：	小 児 外 科 学
診療科等名：	小 児 外 科

●はじめに

「小児外科」は病気の種類も身体の特徴も成人とは異なる“こども”を対象とした外科であり、その特質を端的に表現した言葉として「こどもは、おとなのミニチュアではない」というフレーズがある。小児は成長・発達の途上にあり、形態的にも機能的にも、また精神的にも発育に応じた特性を有する。そのため小児に特有な専門的、総合的知識と技術、患者へのアプローチが必要とされる。さらに最近は生殖医療・胎児医療の進歩、そして小児難病の成人化への対応など、その内容、対象年齢がいわゆる「小児医療」の中には納まらなくなってきており、小児医療をライフサイクルの中で捉え直す必要性がでてきている。当教室も胎児期より診療に関わり、思春期・青年期の治療を含むトランジション（移行期）診療にも目を向けている。他科との連携のもと、時間軸に沿ったその個人の加齢とともに進む患者中心の医療を提供している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部1年生を対象とした医学入門の講義をおこなった（教官1名1コマ）。医学部3年生を対象としたイノベティブ先端治療学の講義をおこなった（教官1名1コマ）。医学部4年生を対象に成長発達ユニット講義（教官4名計5コマ）を、臨床テュートリアル（教官2名計2コマ、2週）を行った。医学部6年生（一部5年生）を対象に、約11ヵ月間臨床実習を各1週間行った。臨床実習では、小児の特殊性、小児外科の対象疾患を理解し、臨床現場で患者の有する問題点を解決することを目指した。また自ら積極的に情報を収集し、解決のための計画を立案し、計画を実施できるよう指導した。診療技能については、コミュニケーション技能、身体診察技能、検査・処置手技、機器操作技能などを学ばせた。さらに患者・家族に対する配慮、他のスタッフやコメディカルとの信頼関係を確立することなどを体験させた。

・卒後教育／生涯教育

初期研修医11人（のべ4ヵ月間）に対し小児外科患児や家族との関わり方、基本的な周術期管理、代表的疾患の病態などの理解が深まるよう指導と教育を行った。外科系ローテーターに対し、各1ヵ月間、基本的小児外科疾患の病態・診断・治療を講義し、手術を指導した。また医局員に対しては、卒後10年をめぐり小児外科専門医資格を、15年をめぐり指導医資格を取得できるよう、手術を含む診療および学術活動を包括的に指導している。

・大学院教育

卒後6－8年時に大学院に入学し、基礎系教室と共同研究を行い、臨床で出会った問題や疑問を理論的・科学的に洞察することを目指している。現在下記研究が進行中である（括弧内は共同研究先）。①神経芽腫のNKT（natural killer T）細胞免疫を標的とした治療法の検索（未来開拓センター）、②腸管神経増生が観察されるNcxノックアウトマウスを用いて腸炎モデル（ヒルシュスプルング病に類似）を作成し、腸管神経と腸管恒常性の関わりを検討（疾患生命医学講座）、③網羅的エピゲノム解析とゲノム編集技術を用いた肝芽腫の新規治療候補遺伝子の同定（分子腫瘍学講座）、④胆道閉鎖症の病因・病態形成における免疫学的機序（特に制御性T細胞の意義）について検討（疾患生命医学講座）、⑤先天異常の発生機序に関する分子機構の解明（予防医学センター）、⑥深層学習を用いた医用画像に対するRadiomics研究（人工知能医学）

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

普遍教育 教養コアF（いのちと科学）「外科治療と疾患」の1コマと「こどもと医療」の2コマの計3コマを担当し、小児外科医療の進歩とそれに伴い顕在化してきた問題点、ならびに我が国のこどもが置かれている現状について他学部学生に講義した。これにより学問全般に対する興味・関心を喚起し、個々の学生の専門分野の学問的・社会的位置づけを意識させるようにした。医学概論Ⅰ「小児医療と小児外科」医学概論Ⅳ「成長・発達ユニット」：実際の臨床の場で患者を目の前にして、その病態を正しく把握し、適切な治療方針がたてられるように、疾患の成り立ちと症状の関係、そして診断・治療の方法について講義した。教育学部 養護教諭 外科学・整形外科 養護教諭が日常業務上遭遇する可能性のある小児胸腹部外傷について授業を行い、基礎的知識、対処方法、指導方法について講義を行った。また臨床の現場を体験させる目的で病院での外来診療を見学する機会を与えた。看護学部講義「小児看護学」 日常よくみかける小児外科疾患、小児外科医療の進歩と課題に関する講義を行った。IPE（Interprofessional education） 医学部3名・看護学部1名・薬学部1名の病院実習（STEP2）を1日間行った。

●研究

・研究内容

(ア) 小児悪性固形腫瘍の発生分化に関する分子機構解明と新規治療開発

① NKT (natural killer T) 細胞免疫系を標的にした新規免疫療法の開発

NKT 細胞は、腫瘍細胞に対して直接細胞傷害活性を示すとともに、樹状細胞の成熟化を介し NK 細胞や細胞傷害性 T 細胞の活性を増強する。現在、小児悪性固形腫瘍に対するヒト NKT 細胞免疫系を標的にした免疫細胞療法の開発、がん関連微小環境における抗腫瘍免疫の抑制機構の解明を目的に研究を進めている。神経芽腫細胞が NKT 細胞や抗原提示細胞にもたらす効果について、神経芽腫細胞株の培養上清中の免疫抑制性サイトカインの解析、樹状細胞への抑制効果の検討をおこなっている。さらに、末梢血中の希少性や抗体依存性細胞傷害活性の欠如といった、従来の NKT 細胞における課題を克服し得る新たな抗腫瘍エフェクター細胞として iPS 細胞由来 NKT 細胞に着目し、神経芽腫免疫療法への応用を目指した研究開発を進めている。

② 網羅的エピゲノム解析とゲノム編集技術を用いた肝芽腫の新規治療候補遺伝子の同定

肝芽腫はほとんどの症例に CTNNB1 遺伝子変異を有するが、総遺伝子変異数は非常に少ない。そのため、肝芽腫の発生や予後規定因子は、遺伝子変異の蓄積に寄与しない別の機構が働いていると考えられ、エピゲノム異常の側面から研究を行っている。主な解析対象は、臓器および腫瘍特異性を規定する転写因子と、エピゲノム状態を制御するエピゲノム修飾因子であり、ゲノム編集技術とマルチオミクス解析を組み合わせた研究を行っている。肝芽腫の病態形成に関わる分子制御メカニズムを解明するとともに、臨床応用を見据えた治療候補遺伝子の探索を進めている。

(イ) 小児胆道系疾患の発生と進展に関する研究

① 胆道閉鎖症 (Biliary Atresia : BA) の病因は今もって不明だが、個体の免疫寛容が破綻し、何らかの trigger により生じた肝胆道炎症を制御できないとする説が有力である。当科では制御性 T 細胞 (regulatory T cell : Treg) の動向に着目し、その frequency と function を解析している。現在、患者末血検体を用い flow cytometry による Treg frequency の検討と並行し、CFSE assay によるリンパ球増殖抑制試験を施行している。また肝組織検体において、局所の Treg の免疫組織学的な検索や TSDR (Treg specific demethylation region) を利用した定量化を予定している。今後これらの免疫学的変化が腸内細菌叢・代謝物に与える影響につき検討する予定である。

② 先天性胆道拡張症は小児期に好発し、ほぼ全例に膵・胆管合流異常 (pancreaticobiliary maljunction : PBM) を合併する。PBM は胆道癌発症の重要なリスク因子であり、膵液の胆管内逆流に起因する慢性炎症から癌化に至ると考えられている。発癌前の拡張した胆管上皮の一部では既に KRAS や P53 遺伝子変異が生じているとされ、癌化のプロセスは癌発生のはるか以前から始まっていると考えられてきた。しかし、その詳細な分子機構はほとんど解明されていない。そこで、PBM を背景とする胆道癌発生の機序解明につき、ゲノム・エピゲノムの観点から研究を行っている。PBM を伴う胆道癌組織および胆道癌を有しない PBM の胆道組織をそれぞれ解析し、ゲノム・エピゲノム異常が生じるプロセスを解析する予定である。

(ウ) 消化管発生のメカニズムと先天性疾患の病態解明に関する研究

① 腸管神経増生を伴うノックアウトマウスを用いた腸管神経発生過程の解析

Hirschsprung 病類縁疾患とは、腸管神経節細胞が存在するにも関わらず、腸閉塞症状、腸管拡張、慢性便秘等を示す疾患群であり指定難病に認定されている。今なおその病因は全く不明であり、根治的な治療はない。近年このような腸神経疾患において、幹細胞を用いた新規細胞治療法への可能性が積極的に研究されている。我々は Hirschsprung 病類縁疾患 (IND : intestinal neuronal dysplasia) のモデルマウスとされる Ncx ノックアウトマウスを用いて、腸管神経分化および機能形成の分子機構を解明し、iPS 細胞を用いた細胞治療等の神経再生治療への応用を視野に入れた、本症に対する新規治療法の可能性を検討している。

② Hirschsprung 病 (HSCR) において RET 遺伝子とそのリガンドは極めて重要な役割を果たしているが、実際の症例では家族性の 50%、孤発性の 15-20% を説明できるに過ぎない。我々は従来の Exon 領域中心の解析で既知遺伝子に異常がない場合、Intron・Promotor 領域を含む大規模な遺伝子解析 (Long-read sequence) を行うことにより既知遺伝子の関与する割合が上昇すると考えている。遺伝子診断可能な HSCR 児が増加すれば遺伝子診断の汎用性が高まるため、遺伝子診断サポート体制を構築し、これを広く提供することが第一の目標である。更に前方視的に対象症例の病型と臨床経過を最低 10 年間追跡し、遺伝情報と連動した HSCR 情報バンクを構築する。

(エ) 小児上部消化管機能に関する研究

胃食道内圧検査、24時間多チャンネルインピーダンス・pH (MII-pH) 検査、上部消化管内視鏡検査を組み合わせ、胃食道逆流症や先天性食道閉鎖・狭窄症術後をはじめとする上部消化管疾患の食道・嚥門機能を包括的に検討している。24時間 pH-MII 検査の導入により、酸・非酸逆流を定量化し、その詳細を客観的に把握することが可能となった。

(オ) 希少疾患の病因解明と新規治療開発

慢性偽性腸閉塞症は、腸管蠕動の異常から進行性の腸閉塞症状を呈する稀な疾患である。病態は依然として不明で、治療法はなく、生存するためには外科的処置を含めた長期間に渡る栄養管理が必要である。単一遺伝子疾患の可能性が高いと考え、家系分析を行い、次世代シーケンサーを用いた網羅的ゲノム解析により原因遺伝子を探索している。

(カ) 統合オミックス解析を用いた腸エコシステムの解明

腸内細菌は代謝物などを介して宿主の免疫機能の構築・維持に大きな影響を与えているが、その詳細なメカニズムは不明である。次世代シーケンサー、質量分析計などを用いて網羅的に菌叢の構成・ゲノム・機能遺伝子・代謝物を測定し、それらを統合することによって腸内細菌が疾患に与える影響を明らかにする。

(キ) 小児患者におけるサルコペニアの実態解明と包括的支援プログラムの構築

サルコペニアは、筋量・筋質・筋機能の低下を特徴とする疾患であり、当初は加齢に伴って生じるものとされ、高齢者を主な対象として研究が進められてきた。しかし近年、慢性疾患や悪性腫瘍がサルコペニアを惹起することが明らかとなり、その影響は若年者、さらには小児にまで及ぶことが示されている。我々は、小児におけるサルコペニア研究の基盤を確立するため、成人領域で広く用いられている CT 画像による骨格筋面積の定量化と標準化を導入し、小児がん患者に適応した。その結果、初診時の骨格筋量低下が有意な予後因子であることを明らかにした。現在は、サルコペニアを含め、小児外科疾患治療中に生じる身体活動や栄養摂取の低下に対して、包括的に支援可能なプログラムの構築を目指して研究を進めている。

(ク) 深層学習を用いた医用画像に対する Radiomics 研究

①膀胱尿管逆流症における排泄時膀胱尿道造影検査画像の深層学習解析と予後予測モデルの構築

膀胱尿管逆流症の診断には排尿時膀胱尿道造影検査による逆流の直接的評価を行うことがゴールドスタンダードとされており、1981年に提唱された国際 Grade 分類に基づいた診療や研究が広く行われている。一方で、Grade 分類評価には主観が介在し検者間誤差が大きく信頼性に欠けるとの指摘もあり、より客観的な評価方法が求められているのが現状である。近年、機械学習の発展が著しく、医用画像領域における解析や研究にも機械学習、とりわけ深層学習が数多く用いられている。そこで、排尿時膀胱尿道造影検査画像から深層学習を応用して画像特徴の抽出し、さらに画像特徴と臨床情報とを統合することにより新たな予後予測モデルの構築を目指す。

②小児固形腫瘍における統合的画像解析と AI 技術を活用した高精度診断モデルの開発

現在、小児固形腫瘍の確定診断、リスク層別化、治療方針の決定には腫瘍生検が必要不可欠であるが、小児固形腫瘍における腫瘍生検は、感染や出血、腫瘍の播種などの合併症リスクや腫瘍内の壊死や不均一性に伴う診断の不正確性などの課題が存在する。近年、がん研究において、医用画像から高次元の定量的な特徴量を抽出し、網羅的な解析を行う Radiomics 研究が普及しつつある。Radiomics で得られるデータは数値データにとどまらず生物学的な特徴をも反映するとされる。さらに、人工知能を用いた機械学習、特に深層学習技術を組み合わせることで、これまでに無い高精度な診断およびリスク層別化モデルの構築が期待できる。

(ケ) 先天異常の発生機序に関する分子機構の解明

器官形成過程の異常にともない発生する先天異常の多くはいまだ原因不明であり、詳細な分子機構はいまだ解明されていない。近年エピゲノム研解析技術の進歩により、小児・成人期のさまざまな疾患が子宮内、周産期、または生後早期の環境因子と関連しているとする DOHaD (The developmental origins of health and disease) 学説の分子学的な裏付けが急速に進んでおり、子宮内環境の key regulator である胎盤や臍帯のエピゲノムの変化がこれらの疾患発症に極めて重要な役割を担うとされている。そこで子宮内環境の影響を受けやすい胎盤・臍帯・臍帯血のエピゲノム異常プロファイリングを行い、先天異常の発生の発端となる子宮内環境の異常とそれに続く遺伝子発現の変化を解明し、先天性疾患の分子機構を明らかにする。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Fumita T, Terui K, Shibata R, Takenouchi A, Komatsu S, Oita S, Yoshizawa H, Hirano Y, Yoshino Y, Saito T, Hishiki T. Surgical outcomes of very-early-onset ulcerative colitis: retrospective comparative study with older pediatric patients. *Pediatr Surg Int.* 2024;40:73.
2. Wataru K, Keita Te, Ryoya F, Ayako T, Shugo K, Yunosuke K, Katsuhiro N, Daisuke K, Tomoro H. Clinical significance of sarcopenia in children with neuroblastic tumors. *Pediatr Surg Int.* 2024;40:237
3. Satoru O, Miki T, Koji H, Takayuki M, Toru S, Sakika S, Kojiro M, Nobuyoshi A, Toshihiro Y. Assessment of the utility of two-dimensional shear wave elastography and superb microvascular imaging in postoperative patients with biliary atresia. *Pediatr Surg Int.* 2024;40:219
4. Takenouchi A, Kudo W, Terui K, Komatsu S, Oita S, Yoshizawa H, Kawaguchi Y, Fumita T, Nishimura K, Hishiki T. Impaired Aortic Growth in Neuroblastoma Patients after Intensive Treatment. *J Pediatr Surg.* 2024;59:593-598.
5. Terui K, Tachimori H, Oita S, Fujiogi M, Fujishiro J, Hirahara N, Miyata H, Hishiki T. Influence of surgical volume on the mortality and morbidity of gastrointestinal perforation in children. *Surg Today.* 2024;54:419-427.
6. Fumita T, Terui K, Shibata R, Takenouchi A, Komatsu S, Oita S, Yoshizawa H, Hirano Y, Yoshino Y, Saito T, Hishiki T. Surgical outcomes of very-early-onset ulcerative colitis: retrospective comparative study with older pediatric patients. *Pediatr Surg Int.* 2024;40:73.
7. Nishimura K, Takenouchi A, Komatsu S, Kawaguchi Y, Kudo W, Takiguchi S, Hishiki T. Effect of emergent nephrostomy on long-term total and split renal function in patients with upper urinary tract obstruction due to pelvic malignant tumors. *Pediatr Surg Int.* 2024;40:234
8. Hiyama E, Hishiki T, Yoshimura K, Krailo M, Maibach R, Haeberle B, Rangaswami A, Lopez-Terrada D, Malogolowkin MH, Ansari M, Alaggio R, O'Neill AF, Trobaugh-Lotrario AD, Watanabe K, Schmid I, Ranganathan S, Tanaka Y, Inoue T, Piao J, Lin J, Czauderna P, Meyers RL, Aronson DC. Upfront or delayed surgery in resectable hepatoblastoma: analysis from the children's hepatic tumors international collaboration databa. *EClinicalMedicine.* 2024;76:102811.
9. Kouchi K, Takenouchi A, Matsuoka A, Yabe K, Yoshizawa H, Nakata C, Fujishiro J, Sugiyama H. Case Series of Endoscopic Papillary Balloon Dilation for Children with Common Bile Duct Stones and a Review of the Literature. *J Clin Med.* 12;13:2251, 2024.
10. Katsunori K, Ayako T, Aki M, Hiroko Y, Chikako N. Pancreaticobiliary Reflux with Normal and Relatively Long Common Channels Causing Cholelithiasis and Acute Pancreatitis in Children. *J Clin Med.* 16;13(24):7650, 2024.
11. Terui K, Tachimori H, Oita S, Fujiogi M, Fujishiro J, Hirahara N, Miyata H, Hishiki T. Influence of surgical volume on the mortality and morbidity of gastrointestinal perforation in children. *Surg Today.* 2024;54:419-427.
12. Demir S, Hotes A, Schmid T, Cairo S, Indersie E, Pisano C, Hiyama E, Hishiki T, Vokuhl C, Branchereau S, Brock P, Schmid I, Zsiros J, Kappler R. Drug prioritization identifies panobinostat as a tailored treatment element for patients with metastatic hepatoblastoma. *J Exp Clin Cancer Res.* 2024;43:299.
13. Saeki I, Ida K, Kurihara S, Watanabe K, Mori M, Hishiki T, Yokoi A, Fujimura J, Honda S, Nogami Y, Iehara T, Kazama T, Sekiguchi M, Kitagawa N, Matsumura R, Nomura M, Yamada Y, Hanaki R, Kaneda H, Takama Y, Inoue T, Tanaka Y, Miyazaki O, Nagase H, Takimoto T, Yoshimura K, Hiyama E. Successful treatment of young childhood standard-risk hepatoblastoma with cisplatin monotherapy using a central review system. *Pediatr Blood Cancer.* 2024;71:e31255.
14. Yoneda A, Shichino H, Hishiki T, Matsumoto K, Ohira M, Kamijo T, Kuroda T, Soejima T, Nakazawa A, Takimoto T, Yokota I, Teramukai S, Takahashi H, Fukushima T, Hara J, Kaneko M, Ikeda H, Tajiri T, Mugishima H, Nakagawara A. A nationwide phase II study of delayed local treatment for children with high-risk neuroblastoma: The Japan Children's Cancer Group Neuroblastoma Committee Trial JN-H-11. *Pediatr Blood Cancer.* 2024;71:e30976.

【雑誌論文・和文】

1. 川口雄之亮, 照井慶太, 武之内史子, 小松秀吾, 西村雄宏, 瀧口翔太, 菱木知郎. 【小児内視鏡外科手術と医療安全】先天性横隔膜ヘルニアにおける胸腔鏡手術の安全な適応選択. *小児外科.* 2024;56: 231-234.

2. 川口雄之亮, 照井慶太, 武之内史子, 小松秀吾, 秦佳孝, 笈田諭, 對田尚, 中川倫夫, 加藤直也, 菱木知郎. 【腸管不全症; 基礎研究・臨床のトピックス】短腸症候群に伴う D- 乳酸アシドーシスに対する糞便移植. 【腸管不全症; 基礎研究・臨床のトピックス】短腸症候群に伴う D- 乳酸アシドーシスに対する糞便移植. 小児外科. 2024;56:1029-1032
3. 照井慶太, 小松秀吾, 笈田諭, 吉澤比呂子, 文田貴志, 平野祐一, 吉野優作, 菱木知郎. 【CDH 難治例手術の要点と盲点 (重症症例・合併症症例の対応と胸腔鏡手技の実際) 先天性横隔膜ヘルニア肝脱出症例に対する手術】. 日周産期・新生児会誌. 2024;59:490-492
4. 川口雄之亮, 光永哲也, 齋藤武, 照井慶太, 中田光政, 吉田英生. 捻転にて発症した副肝葉の 1 小児例. 日小外会誌. 2018;54:1134-9.
5. 文田貴志, 勝俣善夫, 藤村理紗, 坂本明美, 菱木知郎, 幡野雅彦. 【腸管神経形成異常症モデルマウスにおける腸管好酸球の保護的役割 (解説)】小児外科. 2024;56:981-3
6. 文田貴志, 勝俣善夫, 藤村理紗, 坂本明美, 菱木知郎, 幡野雅彦. 【腸管神経形成異常症モデルマウスにおける腸管好酸球の保護的役割 (解説)】小児外科. 2024;56:981-3

【単行書】

1. 菱木知郎. 今日の治療指針「小児の消化管異物」. 2024/1

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. Tomoro Hishiki. 113th Annual Meeting of Taiwan Surgical Association. International collaboration in childhood liver tumors. (2024/3/16-17)
2. 菱木知郎. BLINCYTO WEB symposium for Pediatric ALL~Okinawa・Kyushu & Yamaguchi. 小児肝腫瘍アップデート. (2024/2/3)
3. 菱木知郎. 令和 5 年度小児医学川野賞 受賞記念講演. 小児肝腫瘍の予後改善と副作用軽減を目指した治療開発. (2024/3/2)
4. 菱木知郎. 第 124 回日本外科学会学術集会. 知っておきたい外科学の最新トピックス 小児悪性固形腫瘍治療の現状と今後の展望. (2024/4/20)
5. 菱木知郎. 第 61 回日本小児外科学会学術集会. 【ランチョンセミナー】小児悪性固形腫瘍におけるスパーサー留置併用放射線療法～吸収性スパーサーの有用性についての検討を中心に. (2024/5/29-31)
6. 菱木知郎. 千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学令和 6 年度例会. 千葉大学から発信する日本の外科の展望～超少子高齢化社会における小児外科の現状と課題～. (2024/12/22)
7. 武之内史子, 小松秀吾, 川口雄之亮, 西村雄宏, 瀧

口翔太, 菱木知郎. 第 61 回日本小児外科学会学術集会 福岡 小児外科医が内視鏡外科手術手技を習得するための成人消化器外科での再研修は有用である. (2024/5/29-31)

【学会発表数】

国内学会 33 学会 43 回 (うち大学院生 18 回)
国際学会 1 学会 1 回 (うち大学院生 0 回)

【外部資金獲得状況】

1. 学術研究助成基金助成金「脾・胆管合流異常を背景とする胆管癌発生の分子機構解明」代表者: 菱木知郎 2022-2025
2. 学術研究助成基金助成金「神経芽腫による抗腫瘍免疫抑制機序を応用した新規免疫療法の開発」代表者: 吉澤比呂子 2022-2024
3. 学術研究助成基金助成金「神経芽腫に対する抗 GD2 抗体及び iPS 細胞由来 NKT 細胞を用いた免疫療法の開発」代表者: 西村雄宏 2023-2025
4. 学術研究助成基金助成金「先天性横隔膜ヘルニア患児の臍帯組織を用いた網羅的エピゲノム解析による原因探索」代表者: 武之内史子 2023-2025
5. 学術研究助成基金助成金「小児短腸症候群患者の腸管順応における腸内細菌叢がもたらす役割の解明」代表者: 川口雄之亮 2023-2025
6. 学術研究助成基金助成金「腸管神経異常疾患における腸管好酸球集積の機構と生理的意義の解明」代表者: 文田貴志 2023-2025
7. 学術研究助成基金助成金「新規遺伝子解析法によるヒルシュスプルング病の包括的原因遺伝子解析」分担者: 川口雄之亮 2024-2028
8. 学術研究助成基金助成金「H 病類縁疾患モデルマウスを用いた腸管神経発生と腸管蠕動不全の分子機構の解明」代表者: 笈田諭 2024-2026
9. 学術研究助成基金助成金「新生児 X 線画像の AI 画像解析による疾患スクリーニングシステムの構築」代表者: 勝俣善夫 2024-2026
10. 厚生労働科学研究費補助金「希少難治性消化器疾患の長期的 QOL 向上と小児期からのシームレスな医療体制構築」分担者: 菱木知郎 2023-2025
11. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構「小児・AYA 世代肝腫瘍の治療率向上と合併症低減を目指した 3D シミュレーションによる外科療法最適化: 成人小児多施設共同研究」代表者: 菱木知郎 2024-2026
12. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構「小児胎児性固形がんに対する標準的治療法開発」分担者: 菱木知郎 2023-2025

【受賞歴】

1. 川口雄之亮. 第 13 回遼太郎ちゃん基金優秀論文賞. (2024/11/30)

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

日本小児外科学会の認定する指導医 3 名、専門医 6 名を中心としたチーム医療を行っている。わが国における小児外科治療の柱となるべく日々の診療に力を注ぐと同時に、小児外科緊急疾患に対しては 24 時間対応し、地域医療の主体となるよう積極的に取り組んでいる。そして常に患児の成長や長期的な QOL（quality of life）を考慮した診療を目指している。2024 年度の外来患者数は 3823 人で、うち新患は 475 人である。診療内容は以下のとおりである。

- ・日常よくみられる疾患：鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、臍ヘルニア、正中頸嚢腫、体表腫瘤など
- ・小児救急疾患：虫垂炎、腸重積症、熱傷、異物誤飲など
- ・新生児外科疾患：先天性食道閉鎖症、先天性小腸閉鎖症、直腸肛門奇形（鎖肛）、臍帯ヘルニア、腹壁破裂、横隔膜ヘルニアなど
- ・胸部外科疾患：嚢胞性肺疾患、漏斗胸、縦隔腫瘍など
- ・肝胆膵疾患：胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、門脈圧亢進症、膵腫瘍、脾腫など
- ・泌尿生殖器疾患：停留精巣、包茎、先天性水腎症、膀胱尿管逆流症、卵巣腫瘍など
- ・悪性固形腫瘍：神経芽腫、腎芽腫、肝芽腫、横紋筋肉腫など
- ・外傷：胸腹部外傷など

2024 年の入院患者数は 351 人で、手術件数は 302 件（新生児手術 22 件、鏡視下手術 55 件）となっている。主な手術実績は以下の通りとなる（重複あり）。

- ・新生児手術（先天性食道閉鎖症、横隔膜ヘルニア、胃破裂、十二指腸閉鎖症、腸回転異常症、小腸閉鎖症、鎖肛、臍帯ヘルニア、腹壁破裂など） 22 例
- ・日常的疾患手術（鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、臍ヘルニアなど） 73 例
- ・消化管手術（肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、虫垂炎、腸瘻造設閉鎖、鎖肛、ヒルシュスプルング病、イレウスなど） 49 例
- ・泌尿生殖器手術（停留精巣、膀胱尿管逆流症、腎盂形成術、精巣捻転症、卵巣腫瘍など） 53 例
- ・肝胆道系手術（胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、肝切除術、脾摘など） 7 例
- ・悪性腫瘍手術（神経芽腫、腎腫瘍、肝芽腫、悪性胚細胞性腫瘍など） 12 例
- ・呼吸器系手術（肺嚢胞性疾患、肺分画症、縦隔腫瘍、気管切開、漏斗胸など） 14 例
- ・内視鏡処置（上下部消化管内視鏡など） 25 例
- ・鏡視下手術：低侵襲な治療を目的とし腹・胸腔鏡手術に取り組んでいる。主な対象疾患は先天性横隔膜ヘルニア、先天性肺嚢胞性疾患、先天性食道閉鎖症、副腎腫瘍、卵巣腫瘍、急性虫垂炎、胃食道逆流症、遺伝性球状赤血球症、ヒルシュスプルング病、直腸肛門奇形、クローン病、潰瘍性大腸炎などである。
- ・悪性腫瘍治療：予後良好な腫瘍に対しては、必要最小限の治療を選択して患児の負担を少なくし、難治例に対しては、機能温存に努めつつ強力な化学療法と適切な外科治療を含む集学的治療を行うことで予後改善をはかっている。
- ・在宅栄養法：短腸症候群、炎症性腸疾患、ヒルシュスプルング病類縁疾患等を対象に患児の QOL 向上を目的として在宅栄養法を積極的に行っている。
- ・炎症性腸疾患：小児潰瘍性大腸炎やクローン病の治療にあたっては、その病型・重症度を正確に判定した後、血球成分除去療法や免疫抑制療法などの内科治療から、外科治療まで一貫して行っている。
- ・重症呼吸不全の治療：先天性横隔膜ヘルニア等の重症呼吸不全症例を対象に NO（一酸化窒素）や ECMO（膜型人工肺体外循環）を中心とした循環呼吸管理を行っている。
- ・医師主導治験や特定臨床研究など、新しい治療の開発にも積極的に取り組んでいる。

●地域貢献

千葉市全域の他船橋市東部・習志野市・四街道市・成田市・市原市・千葉県東部（銚子市・旭市・匝瑳市・香取市）・外房地区（茂原市・山武市・東金市）を診療域とする。365 日 24 時間小児外科医が常駐している千葉県内で唯一の小児外科であり、一次～三次救急まで広く対応している。全手術に占める緊急手術の割合は 20% 弱を占め地域密着型の医療を提供している。

研究領域等名：	形 成 外 科 学
診療科等名：	形 成 ・ 美 容 外 科

●はじめに

形成外科は現在本邦における 18 基本診療科の一つとして体表の形態異常の再建、修復を行う臨床中心の科であり、2024 年度は今まで以上に頭蓋顔面骨の先天異常や後天的異常の治療など、難易度の高い治療に取り組んできた。このような患者は全国より当科に来院している。また再建外科としては乳癌切除に関連した乳房再建手術を多く行っている。乳癌ならびに婦人科領域における悪性腫瘍切除後、放射線照射後の上下肢のリンパ流の停滞に伴う随伴症状に対して、昨年同様、リンパ管細静脈吻合手術やリンパ管移植の件数が増加している。皮膚や腹部臓器の悪性腫瘍切除後の再建手術の依頼も急増している。顔面外傷を主体とした顔面および体表の熱傷や機械的外傷の治療、再建手術も今まで通り数多く行っている。また内科的慢性疾患に伴う四肢の血行不全、虚血性皮膚潰瘍に対しての専門外来の患者数が増加している。循環器内科による血管内治療後、陰圧閉鎖療法を駆使した足の救済に取り組んでおり、患者数も増加の一途を辿っている。さらには加齢に伴う眼瞼などの加齢性変化に対する外科的治療や加齢による色素性変化に対するレーザー治療、あるいは先天性の色素性疾患に対するレーザー光線治療もかなり増加している。その他美容外科的加療を必要とする顔面などの変形に対する手術も行われている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部 4 年次の学生教育は形成外科の系統講義として例年通り行っている。5 - 6 年次の学生には臨床実習として 4 - 5 人前後の学生を 1 週間の単位で教育している。内容は形成外科が手術主体の科であるために、担当患者の病態の把握と形成外科的治療の必要性、妥当性を患者および家族の立場で考察することを指導している。形成外科的な手技の習得は学生には求めないが、手技の特殊性やその効果、合併障害の可能性とその回避法の学習などを伝えるとともに、形成外科学の学習を義務づけている。

・卒後教育／生涯教育

初期研修医が形成外科を選択している場合には、形成外科の手技の習得を務めて教示している。しかしその前に患者の状態の把握とそれに対する形成外科的対処の必要性や妥当性の理解が極めて重要となる。またマイクロサージャリー（微小血管外科）技術の習得に興味のある者には、わずかな期間でも積極的に技術の習得を教示している。さらに学会参加や講演会への積極的な参加による生涯学習を義務づけて指導している。

・大学院教育

形成外科の大学院では形成外科的手技に関連した研究をテーマとすることが多い。とくに近年本大学で特記すべき Clinical Anatomy Laboratory (CAL) が充実してきているために、頭蓋顔面の特殊手術を想定した解剖研究を多く行ってきた。また皮膚の血管解剖を主体とした皮弁血行の詳細な解明や血行の動的解明などに研究の主眼を置いている。2020 年度からはリンパ管の解剖など基礎研究、難治性皮膚潰瘍や肥厚性瘢痕・ケロイドに対する新治療などの臨床研究にも着手した。さらには脂肪由来の幹細胞を使用した再生細胞の研究による教室の主たるテーマである頭蓋顔面骨の欠損に対する再生医療の応用と展開についての研究が教室の大学院の研究テーマとなっている。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

三川信之：非常勤講師（形成外科学）として、高知大学医学部 6 年生に 2 単位 / 年の講義（小児の形成外科、先天異常、顔面外傷）

三川信之：非常勤講師（形成外科学）として、秋田大学医学部 4 年生に 2 単位 / 年の講義（形成外科総論、先天異常、顔面外傷）

三川信之：非常勤講師（形成外科学）として、富山大学医学部 4 年生に 2 単位 / 年の講義（小児の形成外科、先天異常、顔面外傷）

窪田吉孝：乳がん看護認定看護師教育課程講義 千葉大学看護学部

●研究

・研究内容

- ①当教室でしばしば行う小顎症や中顔面骨の低形成症に対しての顔面骨の骨延長術、特に上気道の狭窄・閉鎖による睡眠時無呼吸などの呼吸障害を伴う患者の術前後の形態学的・理学的変化の探求を麻醉学教室と共同で研究している。
- ②頭蓋顔面骨の骨延長術をテーマとした研究では小動物の下顎骨への骨延長術を行った新生骨の増勢を短期間で可能とできるような治療方法にむけて脂肪幹細胞を使用した再生医療の研究を行っている。
- ③リンパ浮腫に対する治療介入と時期、方法と治療効果の検討など、リンパ浮腫に関する臨床および基礎研究を今まで以上に行っている。
- ④さらには細胞治療学内科との共同研究として特殊内分泌疾患治療の一環としての遺伝子組み換え研究において、安定した遺伝子導入を目標に当科で採取した脂肪細胞から抽出した脂肪前細胞を使用した研究を行っている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Kosaka K, Takayama N, Paul SK, Kanashiro MA, Oshima M, Fukuyo M, Rahmutulla B, Tajiri I, Mukai M, Kubota Y, Akita S, Furuyama N, Kaneda A, Iwama A, Eto K, Mitsukawa N. iPSC-derived megakaryocytes and platelets accelerate wound healing and angiogenesis Stem Cell Res Ther. 2024 Oct 14;15(1):364.
2. Yamada K, Mitsukawa N. A Case of Glomus Tumor of the Anterior Neck J Plast Reconstr Surg. 2024 Jun 7;3(4):175-178
3. Ishigaki T, Akita S, Udagawa A, Suzuki H, Mitsukawa N. What are the key risk factors of keloid formation after repair of syndactyly of the toe? J Orthop Sci. 2024 Nov;29(6):1406-1410
4. Ishigaki T, Akita S, Udagawa A, Suzuki H, Mitsukawa N. The Relationship between Submucous Cleft Palate and a History of Nasal Regurgitation in Patients during Infancy J Plast Reconstr Surg. 2024 Feb 16;3(3):99-103
5. Akita S, Tokumoto H, Yamaji Y, Kosaka K, Arai M, Ando N, Maei H, Kubota Y, Fujimoto H, Mitsukawa N. Scarless Donor Site for Breast Reconstruction by Endoscopically Assisted Extended Latissimus Dorsi Flap plus Lipofilling Plast Reconstr Surg. 2024 Jun 1;153(6):1209-1219
6. Tokumoto H, Akita S, Yamamoto E, Nakamura R, Hayama S, Kosaka K, Kubota Y, Mitsukawa N. Open-Y technique for the internal mammary vein in the free abdominal flap of unilateral breast reconstruction J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2024 Aug;95:97-103.
7. Arai T, Shiga Y, Mukai M, Takayama N, Tashiro S, Tajiri I, Kosaka K, Sato M, Nakamura S, Okamoto H, Kimura S, Inage K, Suzuki-Narita M, Eguchi Y, Orita S, Eto K, Ohtori S. Osteogenic effects and safety of human induced pluripotent

stem cell-derived megakaryocytes and platelets produced on a clinical scale. Regen Ther. 2024 Oct 3; 26:850-858.

8. Sakaguchi S, Tsutsumi M, Akita S, Konyo M, Kajiya K. Human Merkel Cells as the Initiator of Mechanotransduction in the Skin: Linking the Animal Model to Humans. J Invest Dermatol. 2024 Oct;144(10):2332-2335

【雑誌論文・和文】

1. 辻美里（千葉大学大学院融合理工学府基幹工学専攻医工学コース）、秋田新介、長西裕樹、松岡歩、甲賀かをり、三川信之、野村行弘 深層学習を用いた骨盤CT画像による各脚の下肢リンパ浮腫スクリーニング手法の検討（原著論文）日本医用画像工学会大会予稿集 43 回 Page204-205（2024.08）
2. 高宮桃香（千葉大学大学院融合理工学府）、恵藤陸、秋田新介、三川信之、岡本尚之、羽石秀昭 血流を阻害したラット皮弁の分光画像解析（原著論文）日本医用画像工学会大会予稿集 43 回 Page174-175（2024.08）
3. 辻美里（千葉大学大学院融合理工学府基幹工学専攻医工学コース）、秋田新介、長西裕樹、松岡歩、甲賀かをり、三川信之、野村行弘 深層学習を用いた骨盤CT画像による各脚の下肢リンパ浮腫スクリーニング手法の検討（原著論文）日本医用画像工学会大会予稿集 43 回 Page66（2024.08）
4. 安藤暢浩（千葉大学医学部形成外科）、窪田吉孝、秋田新介、三川信之 グルコン酸カルシウムの経皮的投与と局所皮下注射を併用して治療したフッ化水素酸による化学熱傷の3例（原著論文）日本形成外科学会会誌（0389-4703）44 巻 11 号 Page541-547（2024.11）
5. 林稔（雪ノ聖母会聖マリア病院形成外科）、三川信之【みんなに役立つ形成外科手術シミュレーション！】顎変形症に対する骨切り術のシミュレーション（解説）PEPARS（1349-645X）215 号 Page32-38（2024.11）

6. 吉良智恵（労働者健康安全機構千葉労災病院形成外科），三川信之，森下格 舌リンパ管奇形による重度開咬症の治療経験（原著論文）日本頭蓋顎顔面外科学会誌（0914-594X）40 巻 3 号 Page102-106（2024.09）
7. 辛路徳（千葉大学医学部形成外科），秋田新介，加賀美聡子，窪田吉孝，三川信之 乳房リンパ浮腫に対する胸背動脈穿通枝皮弁を用いたリンパ流の橋渡しによる再建を行った 1 例（原著論文）日本マイクロサージャリー学会会誌（0916-4936）37 巻 2 号 Page57-62（2024.06）
8. 緒方英之（東邦大学医療センター佐倉病院形成外科），三川信之【まずこの 1 冊！新しい創傷治療材料を使いこなす】OASIS細胞外マトリックス（解説）PEPARS（1349-645X）211 号 Page37-45（2024.07）
9. 秋田新介（千葉大学医学部附属病院形成美容外科），加治屋健太郎，三川信之【それぞれの創傷治療】リンパ管の創傷治療（解説）形成外科（0021-5228）67 巻増刊 Page S30-S33（2024.06）
10. 山本衣里奈（千葉大学医学部形成外科），三川信之 巨趾を伴う合趾症術後に発生したケロイドの治療経験（原著論文）日本形成外科学会会誌（0389-4703）44 巻 4 号 Page181-186（2024.04）
11. 籠浦英里子（松戸市立総合医療センター形成外科），相沢みづな，有川俊輔，三川信之 筋強直性ジストロフィーに合併した腹直筋鞘膿瘍の治療経験（原著論文）創傷（1884-880X）15 巻 1 号 Page22-26（2024.01）
12. 安田紗緒里（千葉大学医学部附属病院形成・美容外科），三川信之 巨大卵巣腫瘍による腹部皮膚弛緩 二期的に腹部形成術を行った 1 例（原著論文）日本美容外科学会会報（0288-2027）46 巻 1 号 Page1-7（2024.03）
13. 小川良磨（千葉大学大学院工学研究院），Sejati Prima Asmara，秋田新介，武居昌宏 電気インピーダンス・トモグラフィ（EIT）法によるリンパ浮腫の新たな評価方法（解説）リンパ学（0910-4186）47 巻 1 号 Page2-6（2024.06）
14. 秋田新介（千葉大学医学部附属病院形成・美容外科）【今すぐ始めるリンパ浮腫治療】リンパ浮腫治療に必要な基礎知識 リンパ浮腫の画像診断（解説）PEPARS（1349-645X）210 号 Page9-16（2024.06）
15. 安藤暢浩（千葉大学医学部形成外科），窪田吉孝，秋田新介，三川信之 グルコン酸カルシウムの経皮的投与と局所皮下注射を併用して治療したフッ化水素酸による化学熱傷の 3 例（原著論文）日本形成外科学会会誌（0389-4703）44 巻 11 号 Page541-547（2024.11）

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 第 32 回形成外科 特別講演会 特別講演
2. 第 149 回日本美容外科学会学術集会 一般演題
3. 第 29 回日本形成外科手術手技学会 教育講演 一般演題
4. 第 7 回日本リンパ浮腫学会総会 リンパ浮腫ランチョンセミナー 基調講演
5. 第 67 回日本形成外科学会総会・学術集会 シンポジウム 教育講演
6. The 10th world symposium for LYMPHEDEMA SURGERY フリーペーパー
7. 令和 6 年千葉大学病理同窓会 千葉病理研究会 講演
8. 第 48 回日本リンパ学会総会 シンポジウム 一般演題
9. 第 50 回日本熱傷学会総会・学術集会 パネルディスカッション
10. 第 16 回日本創傷外科学会総会・学術集会 一般演題 教育セミナー講演
11. 第 41 回 年会 プラズマ・核融合学会 シンポジウム
12. 次世代スーパーマイクロサージャリー研究会 第 20 回オンライン講演会 招待講演
13. 第 51 回マイクロサージャリー学会学術集 シンポジウム
14. 2024 年度リンパ浮腫研修 E-LEARN プログラム 症例検討
15. International Plastic Surgery Research Council (IPSRC) 一般演題

【学会発表数】

国内学会 34 回（うち大学院生 8 回）

国際学会 7 回（うち大学院生 5 回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤 C「CT 画像上の器質的变化に着目した下肢リンパ浮腫診断支援手法に関する研究」分担者：秋田新介 2024-2027
2. 文部科学省科学研究費 基盤 B「術後壊死リスクの低減に向けた複数種光学像による組織内灌流の解析と計測技術の高度化」分担者：秋田新介 2024-2028
3. 文部科学省科学研究費 基盤 B「リンパ管内皮細胞の再生と誘導による革新的皮膚抗老化治療の開発」代表者：秋田新介 2023-2027
4. 若手研究 基金「ウェルナー症候群患者の運動機能の変化と関連因子の解明」分担者：秋田新介 2023-2028
5. 文部科学省科学研究費 基盤 C「カテーテル自己除去予測アルゴリズムとケア方法の開発」分担者：秋

- 田新介 2023-2027
6. 文部科学省科学研究費 基盤 C「BK ウイルス感染で脾臓に生じる小胞輸送の破綻と脾炎顕在化のメカニズム解明」分担者：秋田新介 2023-2027
 7. 文部科学省科学研究費 基盤 A「誘電分光電気トモグラフィー法と進行モデルによるリンパ浮腫進行の学理探索」分担者：秋田新介 2023-2026
 8. 特別研究員奨励費「高精度 EIT を用いた皮下脂肪組織評価による非侵襲的リンパ浮腫早期発見法の確立」分担者：秋田新介 2023-2025
 9. 国際共同研究加速基金「散乱特性探索照明を併用した拡散反射型生体イメージングの特性把握と実験的検証」分担者：秋田新介 2021-2025
 10. 文部科学省科学研究費 基盤 C「年代別によるヒト脂肪細胞の違いと、ヒト脂肪細胞への遺伝子導入に関する研究」分担者：窪田吉孝 2024-2027
 11. 文部科学省科学研究費 基盤 B「治療タンパク質の過剰発現による細胞ストレスを回避した遺伝子治療用脂肪細胞の開発」分担者：窪田吉孝 2023-2026
 12. 文部科学省科学研究費 基盤 B「皮下脂肪組織由来細胞のシングルセル解析と計算生物学に基づく革新的脂肪移植の開発」代表者：窪田吉孝 2022-2025
 13. 文部科学省科学研究費 基盤 C「冷却刺激誘導ベージュ (beige) 脂肪細胞を用いた新しい脂肪移植法の確立」代表者：三川信之 2023-2026
 14. 文部科学省科学研究費 基盤 C「年代別によるヒト脂肪細胞の違いと、ヒト脂肪細胞への遺伝子導入に関する研究」代表者：山田香穂子 2024-2027
 15. 文部科学省科学研究費 基盤 C「転写因子 Hivep3 による骨芽細胞制御機構と頭蓋顎顔面変形症への関与」代表者：新井美波 2022-2025
 16. 文部科学省科学研究費 基盤 C「転写因子 HIVEP3 の皮膚線維芽細胞制御：骨・皮膚老化 regulator 解明への展開」代表者：新井美波 2025-2028
 17. 文部科学省科学研究費 基盤 C「慢性創傷における血小板・マクロファージの相互作用の解析と細胞治療への応用」代表者：小坂健太朗 2023-2026

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

・外来診療

外来診療では一般形成外科および美容外科を月曜日から金曜日まで毎日に行っている。頭蓋顎顔面外来と先天異常外来、乳房外来、リンパ浮腫外来、眼瞼下垂外来、あしのきずケア外来、顔面神経麻痺外来を設けて診療を行っている。また当科では外来手術室を使用しての外来手術を月曜日から金曜日まで行える体制となっており、必要に応じた外来手術を局所麻酔下で行っているが、時には入院加療を要する局所麻酔手術を行うことにより入院稼働率の向上にも努力している。

・入院診療

当科では中央手術室においては、月曜日～木曜日が全身麻酔下、金曜日が局所麻酔下で手術を行っている。入院診療は基本的に全身麻酔での手術を要する患者の治療が主体となるが、それには頭蓋顔面骨異常を呈した特殊患者の治療や悪性腫瘍切除後の再建治療を要する患者の手術治療が行われる。入院診療では重症手術後の術直後の ICU での加療から安定期における一般病棟での入院加療を行っている。入院中には放射線療法やリハビリ加療を要する患者さんも多く、他面的な回復期加療を心掛けているが、基本的には長期入院の回避を目した手術加療を行っている。乳幼児の体表の色素性疾患に対するレーザー治療も外来手術を稼働することにより入院診療として多く行っている。

●地域貢献

患者会、地域医師会での講演などを通して形成外科学の啓蒙に努めている。

●その他

2021 年度 4 月より、形成外科の寄附講座「先端再生形成外科学講座」を開設し、再生医学やアンチエイジングに関する先端的基礎研究を行っている。

研究領域等名：	環 境 生 命 医 学
診療科等名：	_____

●はじめに

本教室は、主に肉眼解剖学教育を担当するとともに、主な研究テーマに「化学物質のヒトへの影響」を掲げ、コホート研究を用いた化学物質曝露評価・影響評価方法の開発に取り組んでいる。

特に、胎児組織である臍帯を用いた曝露影響評価法の開発について研究を推進している。

また臨床講座と共同で御遺体を用いた臨床解剖学の研究に取り組んでいる。

●教 育

・学部教育／卒前教育

1 年次学生に対して導入チュートリアルを担当。2 年次学生に対して、肉眼解剖学（骨筋学含む）の講義・実習、発生学の講義を担当している。

・卒後教育／生涯教育

医師の臨床解剖学の教育および研究に資するためのクリニカルアナトミーラボ（CAL）の運営において中核的役割を担った。教育プログラム 22 件、研究プログラム 17 件を実施し、参加人数は 792 名を数えた。

・大学院教育

医学薬学府の博士課程および修士課程において、科目責任者として以下の講義を実施した：

「医学基礎」、「環境と遺伝」、「マクロ環境」、「サステイナブル環境健康科学」、「グローバルヘルス医学実習」(8 コマ)、外科系臨床医学研究における新展開コースにおける「臨床医学・外科解剖セミナー」「医療機器開発概論」「外科教育概論」「臨床解剖概論」「CST 実習」の 5 科目を担当している。(鈴木・成田)

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

国際教養学部で 1 年生対象の生命科学基礎を担当している。(鈴木)

看護学部で形態機能実習を担当している。(鈴木・成田)

コメディカル養成校から受託事業として解剖見学を実施している。(鈴木・成田・稲熊)

千葉県立保健医療大学の看護科および植草学園大学理学療法科の非常勤講師として地域のコメディカル教育の為に貢献している。(成田)

●研 究

・研究内容

- (1) 「化学物質のヒトへの影響」を研究テーマとして、環境と健康および胎児期の環境化学物質曝露の子供への影響をテーマに研究を進めている。大規模出生コホートを用いた研究を進めながら、次世代やその先の世代までの健康影響についても研究を進めている。
- (2) 臨床講座と共同で御遺体を用いた臨床解剖学の研究に取り組んでいる。
厚生労働省（代表者：鈴木）助成を受け研修・調査・研究を受託した。千葉県国庫補助事業「実践的手術手技向上研修実施機関設備整備事業」を担当した。
- (3) 運動器疼痛研究、とくに骨粗鬆症と痛みの関連についてを研究テーマとし、海外大学と協力しながら基礎研究をすすめている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Ma L, Eguchi A, Liu G, Qu Y, Wan X, Murayama R, Mori C, Hashimoto K. A role of gut-brain axis on prophylactic actions of arketamine in male mice exposed to chronic restrain stress. Pharmacol Biochem Behav. 2024 May;238:173736. doi: 10.1016/j.pbb.2024.173736. Epub 2024 Feb 23. PMID: 38401573.
2. Sato K, Todaka E, Tonna M, Mori C. Graduate school international study tour in Geneva visiting UN Organizations and other international institutions. Chiba Medical J. 2024 June 10;100E:29-37. doi:10.20776/S03035476-100E-3-P29.
3. Yang Y, Eguchi A, Mori C, Hashimoto K. Dietary sulforaphane glucosinolate mitigates depression-like behaviors in mice with hepatic ischemia/reperfusion injury: A role of the gut-liver-brain axis. J Psychiatr Res. 2024 Aug;176:129-139. doi: 10.1016/j.jpsychires.2024.06.005. Epub 2024 Jun 5. PMID: 38857554.

4. Yang Y, Eguchi A, Mori C, Hashimoto K. Splenic nerve denervation attenuates depression-like behaviors in Chrna7 knock-out mice via the spleen-gut-brain axis. *J Affect Disord.* 2024 Oct 1;362:114-125. doi: 10.1016/j.jad.2024.06.091. Epub 2024 Jun 27. PMID: 38944290.
5. Eguchi A, Sakurai K, Yamamoto M, Mori C. Elucidation of endogenous and exogenous chemicals in maternal serum using high-resolution mass spectrometry. *Ecotoxicol Environ Saf.* 2024 Nov 1;286:117256. doi: 10.1016/j.ecoenv.2024.117256. Epub 2024 Oct 26. PMID: 39490107.
6. Koshizaka M, Eguchi A, Takaguchi K, Yamamoto M, Takatani R, Hisada A, Kawanami A, Konno Y, Watanabe M, Tsumura K, Shimatani K, Suzuki N, Mori C, Sakurai K; Chiba Study of Mother and Child Health Group; Chiba Study of Mother and Child Health Group. Second phase Chiba study of mother and child health (C-MACH): Japanese birth cohort study with multiomics analyses. *BMJ Open.* 2024 Dec 9;14(12):e085682. doi: 10.1136/bmjopen-2024-085682. PMID: 39653579; PMCID: PMC11628962.
7. Doi H, Furui A, Ueda R, Shimatani K, Yamamoto M, Eguchi A, Sagara N, Sakurai K, Mori C, Tsuji T. Risk of autism spectrum disorder at 18 months of age is associated with prenatal level of polychlorinated biphenyls exposure in a Japanese birth cohort. *Sci Rep.* 2024 Dec 30;14(1):31872. doi: 10.1038/s41598-024-82908-4. PMID: 39738397; PMCID: PMC11686058.
8. Kisaka Y, Yamamoto M, Yanase K, Sakurai K, Eguchi A, Watanabe M, Mori C, Todaka E; and the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Association Between Antibiotic Exposure During Pregnancy and Postpartum Depressive Symptoms: The Japan Environment and Children's Study. *Res Nurs Health.* 2025 Apr;48(2):211-221. doi: 10.1002/nur.22442. Epub 2025 Jan 8. PMID: 39777688; PMCID: PMC11873760.
9. Fénichel P, Todaka E, Etzel RA, Chan C-C, Barouki R, Chevalier N, Fini J-B, Poore KR, Sakabe K, Siroux V, Yamamoto M, Mori C. Call to introduce environmental preventive medicine courses to the medical curriculum. An initial experience of an education program at the Faculty of Medicine of Nice, University of Côte d'Azur. *Front. Med.* 2024 Jan 9;11:1412674. doi: 10.3389/fmed.2024.1412674.
10. Xu D, Eguchi A, Murayama R, Liu G, Zhao M, Zhu T, Cai Y, Yue Y, Wan X, Fujita Y, Mori C, Hashimoto K. Effects of 3,4-methylenedioxy methamphetamine on the gut microbiota and metabolites in the small intestine, cecum, and colon of male rats. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry.* 2025 Jan 10;136:111223. doi: 10.1016/j.pnpbp.2024.111223. Epub 2024 Dec 17. PMID: 39701173.
11. Kawasaki T, Noda Y, Hirano Y, Kawanami A, Sakurai K, Mori C, Shimizu E. The effects of mother-infant bonding on children's strengths and difficulties. *Heliyon.* 2025 Jan 6;11(3):e41727. doi: 10.1016/j.heliyon.2025.e41727. PMID: 39944337; PMCID: PMC11815701.
12. Yuan TH, Tai CJ, Tsai CH, Chien JW, Eguchi A, Li CY, Lin CW, Mori C, Chan CC. Exploring the influence of PCB exposure on neonatal birth outcomes and neurobehavioral development after 15 years of prohibition. *Environ Pollut.* 2025 Mar 1;368:125761. doi: 10.1016/j.envpol.2025.125761. Epub 2025 Jan 28. PMID: 39884548.
13. Zhao M, Eguchi A, Murayama R, Xu D, Zhu T, Xu B, Liu G, Mori C, Yang J, Hashimoto K. Repeated intermittent administration of 3,4-methylenedioxy methamphetamine mitigates demyelination in the brain from cuprizone-treated mice. *Eur J Pharmacol.* 2025 Mar 15;991:177345. doi: 10.1016/j.ejphar.2025.177345. Epub 2025 Feb 2. PMID: 39904416.
14. Namiki M, Fukayama T, Suzuki T, Masaiwa A. Relationship between Ear Temperature, Behaviour and Stress Hormones in Guinea Pigs (*Cavia porcellus*) during Different Interactive Activities in Zoos. *Animals (Basel).* 2024 Apr 4;14(7):1111. doi: 10.3390/ani14071111. PMID: 38612351
15. Akazawa T, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Torii Y, Ueno J, Yoshida A, Tomochika K, Orita S, Eguchi Y, Inage K, Shiga Y, Nakamura J, Matsuura Y, Suzuki T, Niki H, Ohtori S, Minami S. Intervertebral Disc Degeneration in Long-Term Postoperative Patients with Adolescent Idiopathic Scoliosis: MRI Evaluation 34-51 Years after Surgery and its Changes during Middle and Older Age for an Average of 6.9 Years. *Spine Surg Relat Res.* 2024 Jun 10;9(1):61-70. doi: 10.22603/ssrr.2024-0043. eCollection 2025 Jan 27. PMID: 39935976
16. Matsuura Y, Suzuki T, Akasaka T, Kanazuka A, Ozawa Y, Shiko Y, Ohtori S. Recovery of Forearm Bone Strength After Plate Removal: A Finite Element Analysis Study. *J Hand Surg Am.* 2024 Jun;49(6):608.e1-608.e8. doi: 10.1016/j.jhsa.

- 2022.07.017. Epub 2022 Sep 16. PMID: 36123221
17. Yamazaki T, Matsuura Y, Toguchi Y, Suzuki T, Ohtori S. Biomechanical characterization of the central fibrous region of the forearm interosseous Membrane: Implications for finite element modeling. *J Biomech*. 2024 Jul;172:112204. doi: 10.1016/j.jbiomech.2024.112204. Epub 2024 Jun 21. PMID: 38950484
 18. Kawarai Y, Nakamura J, Hagiwara S, Suzuki-Narita M, Inage K, Ohtori S. Alterations in DNA methylation machinery in a rat model of osteoarthritis of the hip. *J Orthop Surg Res*. 2024 Jun 16;19(1):357. doi: 10.1186/s13018-024-04847-0. PMID: 38880910
 19. Okuyama K, Inage K, Kim G, Mukaihata T, Tajiri I, Shiga Y, Inoue M, Eguchi Y, Suzuki-Narita M, Otagiri T, Tsuchiya R, Hishiya T, Arai T, Toshi N, Tokeshi S, Tashiro S, Ohyama S, Suzuki N, Furuya T, Maki S, Nakamura J, Hagiwara S, Kawarai Y, Aoki Y, Kotani T, Koda M, Takahashi H, Akazawa T, Ohtori S, Orita S. Bone union-promoting effect of romosozumab in an ovariectomized rat posterolateral lumbar fusion model. *J Orthop Res*. 2024 Aug;42(8):1831-1840. doi: 10.1002/jor.25834. Epub 2024 Apr 3. PMID: 38567415 Free article.
 20. Arai T, Shiga Y, Mukai M, Takayama N, Tashiro S, Tajiri I, Kosaka K, Sato M, Nakamura S, Okamoto H, Kimura S, Inage K, Suzuki-Narita M, Eguchi Y, Orita S, Eto K, Ohtori S. Osteogenic effects and safety of human induced pluripotent stem cell-derived megakaryocytes and platelets produced on a clinical scale. *Regen Ther*. 2024 Oct 3;26:850-858. doi: 10.1016/j.reth.2024.09.012. eCollection 2024 Jun. PMID: 39430581
 21. Chikubu H, Inage K, Orita S, Shiga Y, Inoue M, Shimizu K, Suzuki-Narita M, Tajiri I, Mukai M, Nozaki-Taguchi N, Ohtori S. Analgesic effects of co-administration of mirogabalin and diclofenac sodium on neuropathic pain in rats. *J Orthop Res*. 2025 Jan;43(1):200-209. doi: 10.1002/jor.25977. Epub 2024 Sep 22. PMID: 39306710
 22. Mukaihata T, Inage K, Shiga Y, Kim G, Tajiri I, Toshi N, Suzuki-Narita M, Inoue M, Ohtori S, Orita S. Mechanical Analysis of Romosozumab's Effects on Bone Strength in a Rat Posterolateral Lumbar Fusion Model. *Cureus*. 2025 Feb 27;17(2):e79802. doi: 10.7759/cureus.79802. eCollection 2025 Feb. PMID: 40161136
 23. Chikubu H, Inage K, Orita S, Shiga Y, Inoue M, Okuyama K, Tokeshi S, Shimizu K, Suzuki-Narita M, Ohtori S. A Study on Subjective Symptoms and Plantar Temperature Imbalance in Lumbar Spinal Stenosis: A Preliminary Study. *Cureus*. 2025 Feb 20;17(2):e79388. doi: 10.7759/cureus.79388. eCollection 2025 Feb. PMID: 40130088
 24. Tokeshi S, Suzuki-Narita M, Tajiri I, Inage K, Takeuchi J, Arai T, Kawarai Y, Terakawa H, Ohtori S, Orita S. Comparison of effects of intra-articular diclofenac etalhyaluronate and hyaluronic acid in a monoiodoacetate rat osteoarthritis model. *J Orthop Res*. 2025 Mar;43(3):557-566. doi: 10.1002/jor.26012. Epub 2024 Nov 11. PMID: 39528346
- 【雑誌論文・和文】**
1. 頓名幸, 戸高恵美子, 坂部貢, 山本緑, 佐藤圭吾, 森千里. フランス コート・ダジュール大学での共催集中講義を終えて. *千葉医学雑誌*. 2024年6月. 100:61-70.
 2. 戸高恵美子, 頓名幸, 佐藤圭吾, 佐久間里子, 山本緑, 森千里. 2023年度予防医学センター主催日独シンポジウムと日独共催集中講義開催報告. *千葉医学雑誌*. 2024年9月. 100:85-94.
 3. 成田都, 大鳥精司. 骨関節疾患(変形性関節症, 骨粗鬆症)と痛みの基礎研究 Basic research on pain caused by osteoporosis and osteoarthritis. *日本運動器疼痛学会誌* 2024;16:85-91.
- 【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表(一般の学会発表は除く)】**
1. 成田都 第32回日本腰痛学会 2024.10.26 教育研修講演 骨粗鬆症では何が起こっているのか? 腰痛にまつわる基礎研究
 2. 鈴木崇根 第129回日本解剖学会総会 2024.3.23 シンポジウム CST実施におけるボトルネックの解消法を探る part6
 3. 鈴木崇根 第56回日本医学教育学会 2024.8.10 シンポジウム 解剖実習からCSTへ
 4. 鈴木崇根 第7回CST研究会 2024.8.17 シンポジウム CSTの現状
- 【学会発表数】**
- 国内学会 13回(うち大学院生1回)
国際学会 2回(うち大学院生0回)
- 【外部資金獲得状況】**
1. 受託事業(国立環境研究所)「子どもの健康と環境に関する全国調査千葉ユニットセンター委託業務」代表者: 森千里 2020-2024
 2. 共同研究(株式会社ニッポン)「コホート研究を用いた健康に寄与する食事や背景因子の探索的評価」代表者: 森千里 2020-2024
 3. 共同研究(積水ハウス株式会社)「住環境と人の健康に関する疫学調査」代表者: 森千里 2022-2026
 4. 寄付研究部門(積水ハウス株式会社)「健やか住環

境創造のためのシックハウス症候群対策研究」代表者：森千里 2017-2026

5. 寄付研究部門（株式会社山田養蜂場本社）「近年発症増加疾患（認知症、小児疾患）の疫学調査と早期発見・予防対応に関する環境予防医学」代表者：森千里 2019-2025
6. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「骨関連疾患（骨粗鬆症、変形性関節症、骨折）における疼痛関連神経の可視化の確立」分担者：森千里 2021-2024
7. 受託研究（北海道大学）「新鮮凍結屍体を用いたDARTS 人工手関節の機能評価に係る動態解析」代表者：鈴木崇根 2022-2024
8. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「骨関連疾患（骨粗鬆症、変形性関節症、骨折）における疼痛関連神経の可視化の確立」代表者：成田都 2021～2025
9. 受託研究（株式会社メディカロイド）「hinotori サージカルロボットシステムによるロボット支援胸腔鏡下手術の安全性」代表者：鈴木崇根 2023-2024
10. 受託研究（株式会社 ME システム）「橈骨遠位端骨折用 Anatomical Volar Locking Plate の開発」代表者：鈴木崇根 2024-2025

【受賞歴】

1. 岩山遼太郎, 鈴木規道, 嶋谷圭一, 高口倅暉, 津村佳余, 中山誠健, 森千里. 2023 室内環境学会学術大会 大会長奨励賞 大会技術賞. 住環境における1人当たりの換気量と建物関連症状に関する横断研究. 2023 年室内環境学会学術大会. 2023 年 12 月.
2. Kayo Inaguma, Toshiaki Kotani, Shunji Kishida, Tsuyoshi Sakuma, Keisuke Ueno, Yasushi Iijima, Daisuke Kajiwara, Kohei Okuyama, Kotaro Sakashita, Shun Okuwaki, Shiho Nakano, Noritaka Suzuki, Shun Nokariya, Ryo Umeda, Tsutomu Akazawa, Kazuhide Inage, Yasuhiro Shiga, Shohei Minami, Yasuchika Aokii, Seiji Ohtori. Spine Surgery and Related Research 2023 Best Paper Award

【その他】

寺山隼人, 永堀健太, 清島大資, 佐藤勉, 山本緑, 戸高恵美子, 櫻井健一, 森千里, 坂部貢.
スルホキサフロル含有農薬における影響
ニューサイエンス社 月刊「昆虫と自然」第 59 巻第 13 号 2024 年 12 月 30 日

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

附属病院にて毎週月曜日専門外来. 他市民病院にて毎週火曜日 専門外来担当. (鈴木、成田、稲熊)

●地域貢献

- (1) CAL 運営により, 全国の医師の教育・研究のために貢献. (鈴木、成田、稲熊)
- (2) コメディカル養成校から受託事業として解剖見学を実施している (鈴木、成田、稲熊)
- (3) 県立保健医療大学看護学科の 1 科目（病態学Ⅱ）の非常勤講師、植草学園大学理学療法・作業療法科の I 科目（整形外科学）の非常勤講師を務めている。(成田)

●その他

予防医学センター主催の大学院生向け海外研修が医学薬学府の部局公式留学プログラムに認定され, 9 月にジュネーブの WHO を始めとした国連国際機関訪問研修を実施. 11 月にはフランスのコート・ダジュール大学にて共催集中講義を開催. 次いで 11 月にドイツのライプツィヒ大学にてベルリン・シャリテ医科大学との 3 大学共催で「環境と健康」についての集中講義を開催し, 千葉大学が目指すグローバル人材の育成に貢献した.

研究領域等名：	公 衆 衛 生 学
診療科等名：	_____

●はじめに

当教室は公衆衛生学および人類遺伝学を主要なテーマに教育・研究を推進している。

研究の主要なテーマは遺伝性疾患の原因究明や治療・予防法の開発、生活習慣病発症要因の解明である。

●教 育

・学部教育／卒前教育

以下の科目を担当した。

1年 遺伝分子医学ユニット 90分×8コマ（ユニット責任者）、医系生物学 90分×2コマ

4年 公衆衛生学ユニット 90分×16コマ（ユニット責任者）

6年 地域医療実習（公衆衛生学実習）厚生労働省、千葉県衛生研究所、千葉県庁、学生が選択した医療機関において、地域医療・公衆衛生行政の実地演習、千葉県公衆衛生学会への参加、および報告会・レポート作成を実施した。

尾内が医学部4年次の学年担当を担当した。

・卒後教育／生涯教育

日本人類遺伝学会「遺伝医学セミナー」実行委員として企画・運営に携わった。

・大学院教育

修士課程

講義

公衆衛生学特論 90分×3コマを担当した。

遺伝情報応用学特論 90分×2コマを担当した。

博士課程

医学薬学府

講義

環境と遺伝 90分×3コマを担当した。

ワクチン学・感染症学特論 Essential 90分×1コマを担当した。

先進予防医学共同専攻

講義

レギュラトリーサイエンス 90分×8コマ（講義責任者）を担当した。

医療統計学・疫学 90分×2コマを担当した。

研究指導

副指導教官として、6名の他大学の学生に研究実践レポートの指導を担当した。

その他中間発表会において、採点官を務めた。

●研 究

・研究内容

研究テーマとして①多因子疾患、難病の発症、薬剤応答性などに関連する遺伝子の研究 ②遺伝性疾患が疑われる未診断症例の原因遺伝子検索を進めている。

①に関しては、尾内教授・山崎講師を中心とした川崎病の罹患感受性および重症化に関連する遺伝的要因の探索、新型コロナワクチン接種後の抗体応答の遺伝的要因の研究、②に関しては、遺伝子診療部において遺伝カウンセリングを受けた未診断症例についての全エクソーム解析研究とモデル動物を用いた新規疾患原因遺伝子候補の機能解析研究を、山崎講師、真下技術専門職員を中心に眼科学教室・形成外科学教室と共同で行っている。藤田客員研究員はナショナルデータベースを用いた様々な疾患の疫学研究を行っている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Matsubara D, Matsubara Y, Ayusawa M, Hamada H, Seki M, Yamagishi H, Mitani Y, Onouchi Y, Moriuchi H, Miyairi I, Tanaka-Taya K, Katsuta T, Kurosawa H, Aoki K, Shimizu N, Nakamura Y. Nationwide Survey of Multisystem Inflammatory Syndrome in Children Associated with Coronavirus Disease 2019 in Japan. *J Clin Immunol*. 2024 Nov 30;45(1):51.
2. Ito M, Sasaki A, Haga M, Iwatani A, Nishimura E, Arai H, Nagano N, Suga S, Araki S, Konishi A, Onouchi Y, Namba F. Association of hyaluronan and proteoglycan link protein 1 gene with the need of home oxygen therapy in premature Japanese infants with bronchopulmonary dysplasia. *J Matern Fetal Neonatal Med*. 2024 Dec;37(1):2332914.
3. Saito Y, Shimizu N, Mashimo Y, Tatsumi T, Yokouchi H, Baba T. The Etiology of Intraocular Lens Dislocation and Changes in Intraocular Pressure After Intracapsular Intraocular Lens Fixation Surgery. *Cureus*. 2024 Dec 7;16(12):e75295.
4. Nakamura H, Kikuchi A, Sakai H, Kamimura M, Watanabe Y, Onuma R, Takayama J, Tamiya G, Mashimo Y, Ebata R, Hamada H, Suenaga T, Onouchi Y, Kumaki S. Case Report: Identification of a CARD8 variant in all three patients with PFAPA syndrome complicated with Kawasaki disease. *Front Pediatr*. 2024 Mar 5;12:1340263.
5. Fukunaga K, Tsukagoshi E, Kurata M, Mizukawa Y, Niihara H, Morita E, Watanabe Y, Yamaguchi Y, Watanabe H, Nakajima S, Nomura T, Kabashima K, Tohyama M, Azukizawa H, Asada H, Hasegawa A, Hama N, Ozeki T, Mashimo Y, Sekine A, Matsunaga K, Tanaka Y, Nakamura R, Abe R, Mushiroda T, Saito Y. Differential Effects of HLA-B*15:11 and HLA-A*31:01 on Carbamazepine-Induced Cutaneous Adverse Reactions. *J Invest Dermatol*. 2024 Apr;144(4):908-911.e7.
6. Misuzu Fujita, Kengo Nagashima, Minobu Shimazu, Misae Suzuki, Ichiro Tauchi, Miwa Sakuma, Setsuko Yamamoto, Hideki Hanaoka, Makio Shozu, Nobuhide Tsuruoka, Tokuzo Kasai, Akira Hata. Effectiveness of self-sampling human papillomavirus test on precancer detection and screening uptake in Japan: The ACCESS randomized controlled trial. *Int J Cancer*. 2024 Sep 1;155(5):905-915. doi: 10.1002/ijc.34970.
7. Misuzu Fujita, Kengo Nagashima, Takashi

Uno, Hideyuki Hashimoto, Kiminori Suzuki, Tokuzo Kasai, Kazuya Yamaguchi, Yoshihiro Onouchi, Daisuke Sato, Takehiko Fujisawa, Akira Hata. Impact of the COVID-19 Pandemic on Hypofractionated Radiation Therapy Use for Breast Cancer in Japan: A Nationwide Study. *Advances in Radiation Oncology*. 2024;9(8):101555. doi: 10.1016/j.adro.2024.101555.

8. Misuzu Fujita, Kazuya Yamaguchi, Kengo Nagashima, Kiminori Suzuki, Tokuzo Kasai, Hideyuki Hashimoto, Yoshihiro Onouchi, Daisuke Sato, Takehiko Fujisawa, Akira Hata. Impact of the COVID-19 pandemic on gastric surgery in Japan: A nationwide study using interrupted time-series analyses. *J Gastroenterol Hepatol*. 2024;39(7):1277-1284. doi: 10.1111/jgh.16533.
9. Misuzu Fujita, Takehiko Fujisawa, Kiminori Suzuki, Kengo Nagashima, Tokuzo Kasai, Hideyuki Hashimoto, Kazuya Yamaguchi, Yoshihiro Onouchi, Daisuke Sato, Akira Hata. Impact of the coronavirus disease 2019 pandemic on primary and metastatic lung cancer treatments in Japan: A nationwide study using an interrupted time series analysis. *Cancer Epidemiol*. 2024;90:102549. doi: 10.1016/j.canep.2024.102549.

【雑誌論文・和文】

1. 尾内善広「川崎病研究の最前線」カレントセラピー 2024年 42巻 16-18頁

【単行書】

1. トンプソン&トンプソン遺伝医学・ゲノム医学第3版 福嶋義光監修 櫻井晃洋監訳 メディカルサイエンスインターナショナル 2025.3.24 発行 第9章「多因子疾患の複雑遺伝」の和訳を尾内、山崎が担当

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 尾内善広「Research on the Genetic Factors of Kawasaki Disease-Achievements and Future perspectives」日本人類遺伝学会第69回大会シンポジウム15 小児医療における臨床遺伝の役割と展望 2024.10.12, 札幌

【学会発表数】

国内学会 3学会 4回
国際学会 4学会 5回

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費補助金 基盤B「新型コロナウイルスワクチンへの抗体応答および副反応の予測モデル構築に関する研究」代表者：尾内善広 R4-R6
2. ちば県民保健予防基金 ちば県民保健予防基金事業 助成事業「SARS-CoV-2 ワクチン接種による抗体価

上昇関連 HLA アレルの探索」代表者：山崎慶子
2024

3. 材料科学技術振興財団 研究助成「COVID-19 ワク

チン接種後の抗体応答と女性特異的な関連がみられた HLA アレルの意義の解明」代表者：山崎慶子
2024/10 から

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

遺伝子診療部において、遺伝カウンセリングに従事した。

●地域貢献

尾内：「新型インフルエンザ等対策連絡会議専門部会委員」に部会長として参加

尾内：「健康ちば地域・職域連携推進協議会」に委員として参加

尾内：「千葉県食品等安全・安心協議会」に委員として参加

尾内：「千葉県がん対策審議会 予防・早期発見部会」に委員として参加

尾内：「千葉県公衆衛生協会」に理事として参加

尾内：「千葉市健康づくり推進協議会」に委員として参加

山崎：「千葉市保健所運営協議会」に委員として2回会議に参加

藤田：「千葉市建築審査会」に委員として参加

藤田：「君津市国民健康保険運営協議会」に委員として参加

藤田：「大網白里市国民健康保険運営協議会」に委員として参加

研究領域等名：	環 境 労 働 衛 生 学
診療科等名：	_____

●はじめに

当研究室においては、最新の統計学的手法を用いて、環境衛生学・労働衛生学分野のコホート研究を行っており、具体的には環境衛生学においてはカドミウムの人体影響について、労働衛生分野では交替勤務における健康影響や高齢労働者の身体機能・認知機能に関する研究を行っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部4年生を対象に環境衛生学と労働衛生学を主体とした「衛生学」ユニット講義、環境測定実習を実施した。3年生を対象に基礎医学ゼミ「環境労働衛生学」、1・2・3年生を対象にスカラシップ「環境労働衛生学」を開講した。1年生を対象に「導入チュートリアル」チューターを担当した。

・卒後教育／生涯教育

千葉県医師会・千葉市医師会主催の日本医師会認定産業医研修会の講師を担当した。

・大学院教育

先進予防医学専攻博士課程の院生に対して、環境労働衛生学特論2単位、演習2単位、実習1単位、医療統計学・疫学2単位、環境医学特論1単位を担当した。修士課程の院生に対する公衆衛生学特論講義を6コマ担当した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

薬学部3年生を対象に「衛生薬学Ⅰ」を1単位担当した。環境マネジメントシステム実習Ⅱを2単位担当した。

●研 究

・研究内容

研究テーマは1 環境中カドミウムの慢性暴露による生体影響に関する研究、2 労働者の健康管理活動における産業疫学的研究、3 遺伝子多型と生活習慣病との関連を中心とした遺伝子疫学、の3つに大別される。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Sakuma S, Nogawa K, Watanabe Y, Suwazono Y. (2024). Effects of lifestyle factors on job-related stress and stress responses in police officers in Japan. *Journal of Public Health*. doi: 10.1007/s10389-024-02217-y
2. Hayashi T, Nogawa K, Watanabe Y, Kido T, Sakurai M, Nakagawa H, Suwazono Y. Benchmark Dose of Urinary Cadmium for Assessing Renal Tubular and Glomerular Function in a Cadmium-Polluted Area of Japan. *Toxics*. 2024;12
3. Sugiura S, Aoki Y, Oyama T, Toyooka T, Shiga T, Ishizaki T, Kiguchi Y, Otsuki T, Tsukioka A, Omori Y, Takata A, Kato K, Suwazono Y, Okamoto Y, Ohtori S, Nishikawa S. Low back pain characteristics in adolescent patients with early-stage spondylolysis: a prospective study. *European Spine J*. 2024;33:3709-3714.
4. Sun XL, Okamoto R, Phuc HD, Kido T, Oanh NTP, Nakada A, Nogawa K, Suwazono Y, Nakagawa H, Sakurai M. Current Situation and Causes Analysis of Cadmium Pollution in the Kakehashi River Basin. *Biol Trace Elem Res*. 2024;202:2036-2041.

【雑誌論文・和文】

1. 諏訪園靖 第5章4 喫煙行動, 第7章9 産業保健, 10 学校保健, 11 国際保健, 公衆衛生学 第3版(由田克士・櫻井勝・諏訪園靖 編著) 光生館, 東京: 110-112, 190-211, 2024 (Mar).
2. 諏訪園靖 産業保健総論, 産業保健各論－法規と職業性疾患－, 公衆衛生マニュアル 2024 (中村好一、佐伯圭吾編集) 南山堂, 東京: 221-249, 2024 (Apr).

【学会発表数】

国内学会 1回(うち大学院生1回)
国際学会 2回(うち大学院生1回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「運輸業従事者コホートの縦断調査によるストレス及び身体健康度の事故発生リスクの解明」代表者: 渡邊由美香 2022-2025
2. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「警察職の長期縦断調査によるストレス・疾病リスク評価と予防対策の解明」代表者: 諏訪園靖 2024-2026
3. 労災疾病臨床研究事業費補助金「遅発性健康障害起因物質による健康影響の予防に資する健康モニタリング手法に関する研究」分担者: 能川和浩 2022-2024

研究領域等名：	法 医 学
診療科等名：	_____

●はじめに

千葉県警、千葉地方検察、千葉県、茨城県警からの嘱託により 433 件の法医学解剖を行い、さらに CT 検査、薬毒物検査、病理検査など各種検査を実施し、主に千葉県内における異状死体の適正な死因究明をおこなった。また、臨床法医学では、児童相談所、警察、検察からの依頼により調査し意見書などを提出した。これらに関連する、法医学病理、死後画像、薬毒物、DNA 型、法歯科学、死亡調査制度などを対象に研究を行い、関連学会および国際誌において、その成果を発表した。学部教育においては、法医学の目的・意義を学ぶことを第一の目的とし、特に 4 年次学生には、将来的に医師となり、死亡診断書、死体検案書を作成する際に、必須となる法医学的知識や適切な対応・診断書、検案書作成法の習得を目標とし、講義・実習を行った。また、法科大学院においても、将来法曹になるために必要な法医学の知見について講義を行った。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部 1～3 年次：スカラシップを受け入れ、解剖の見学、小講義、論文抄読、実験などの指導を行った。

医学部 3 年次：基礎医学ゼミユニットを担当した。

医学部 4 年次：法医学全般にわたり講義・実習を行った。（講義 90 分×24 コマ 実習 90 分×10 コマ）

・卒後教育／生涯教育

法科大学院：以下の表題の講義 90 分×8 コマを行った。法医学概論、死因究明制度の歴史、法医画像診断学、法中毒学、法遺伝学、法歯科学、子供に関わる法医学、診療関連死問題。

・大学院教育

大学院生はそれぞれ研究テーマを定めて研究を行った。また博士課程に所属する医師は、卒後に法医認定医が取得できるよう解剖実務の研修を行った。

講義 90 分×4 コマを行った。

- ・法医学総論「法医学の存在意義と、その目的」について学ぶ。
- ・法医学と法律、ガイドライン「法医学における鑑定試料に関する法規定とガイドライン」に関する知識を修得する。
- ・親子鑑定、現場試料における遺伝情報「親子鑑定の方法や、そのガイドライン、その他現場試料における遺伝情報の有用性」に関して学ぶ。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

岩瀬博太郎教授が、日本医師会死体検案研修会、警察大学校検視官講習、消防大学校火災調査科講義等で、死因究明及び法医学について講義を担当している。

岩瀬が 2024 年 4 月まで東京大学教授を併任していたため、東大医学部、法学部、大学院医学系研究科、法科大学院の講義の多くを当教室所属教員が担当している。また、岩瀬ほかが、他大学の医学部などで多数講義を行っている。また、千葉大薬学部で、法医学所属の教員が法中毒学に関する多くの講義を行っている。

主に子どもを対象にした虐待等の法医診断、及び傷害事件に関連した生体鑑定について、教員が各所で講義を行っている。千葉県警察学校、千葉地検で教員が法医学に関する講義を行っている。

●研 究

・研究内容

- ・骨の CT 画像を用いた年齢・性別・身長 の推定
- ・歯を用いた放射性炭素測定による年齢推定
- ・死後に分解する薬物の血中濃度の推定
- ・覚醒剤のキラル分析法の確立
- ・解剖時における補助的診断ツールの確立を目指す死後血管造影に関する研究
- ・ヒトの組織の力学的特性に関する研究
- ・遺体より検出されるウイルス及び細菌の解析
- ・わが国と海外の死因究明制度及びその歴史の研究

- ・質量分析計を用いた炎症細胞における脂質酸化物の検出に関する研究
- ・死後CTの誤診パターンを調べ、読影の質を向上させる研究
- ・小児の被虐待リスクアセスメントの構築
- ・法昆虫学的に重要な昆虫種の調査
- ・診療関連死法医解剖事例の検証
- ・類似の死亡の再発防止に資するデータベースの構築
- ・遺体における新型コロナウイルスの感染性に関する評価研究

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Hoshioka Y, Torimitsu S, Makino Y, Yajima D, Chiba F, Yamaguchi R, Inokuchi G, Motomura A, Tsuneya S, Iwase H. Sex estimation from skull measurements of a contemporary Japanese population using three-dimensional computed tomography images. *Int J Legal Med.* 2025; 139: 383-391. Epub 2024 Aug 30.
2. Kojima M, Makino Y, Yamaguchi R, Motomura A, Yajima D, Inokuchi G, Saito N, Torimitsu S, Hoshioka Y, Urabe S, Yoshida M, Iwase H, Miyati T. Gray-white matter contrast reversal on Ti-weighted spin-echo on postmortem brain. *Forensic science international.* 2024; 360: 112031.
3. Kawauchi M, Kim K, Inokuchi G. A vertebral artery aneurysm that elicited occipital pain, showed no abnormalities on imaging studies, but ruptured the next day: illustrative case. *J Neurosurg Case Lessons.* 2024;11;7(11): CASE23723.
4. Nagasawa S, Hirata Y, Miyamoto S, Ozono S, Iida S, Katano H, Tsuneya S, Kira K, Kobayashi S, Nakajima M, Abe H, Ikemura M, Yamamoto I, Nakagawa K, Kubota K, Akitomi S, Hasegawa I, Ushiku T, Suzuki T, Iwase H, Makino Y, Saitoh H. Changes in SARS-CoV-2 viral load and titers over time in SARS-CoV-2-infected human corpses. *PLOS ONE.* 2024.
5. Mizuno S, Ono S, Makino Y, Kobayashi S, Torimitsu S, Yamaguchi R, Chiba F, Tsuneya S, Iwase H. Mandibular torus thickness associated with age: Postmortem computed tomographic analysis. *Leg Med (Tokyo).* 2024; 69: 102449.
6. Nagano S, Unuma K, Makino Y, Mori H, Uemura K. Acute upper airway obstruction due to cervical hematoma after cervicofacial liposuction. *J Forensic Leg Med.* 2024; 104: 102697.
7. Wen S, Makino Y, Inaji M, Arai N, Unuma K. Importance of repeated computed tomography on pediatric traumatic acute posterior fossa subdural hematoma: A case study. *Leg Med (Tokyo).* 2024; 70: 102466.
8. Torimitsu S, Nakazawa A, Flavel A, Swift L, Makino Y, Iwase H, Franklin D. Estimation of ancestry from cranial measurements based on MDCT data acquired in a Japanese and Western Australian population. *Int J Legal Med.* 2024; 138: 1193-1203.
9. Torimitsu S, Nakazawa A, Flavel A, Swift L, Makino Y, Iwase H, Franklin D. Population affinity estimation using pelvic measurements based on computed tomographic data acquired from Japanese and Western Australian populations. *Int J Legal Med.* 2024; 138: 1381-1390.
10. Torimitsu S, Nakazawa A, Flavel A, Swift L, Makino Y, Iwase H, Franklin D. Estimation of population affinity using proximal femoral measurements based on computed tomographic images in the Japanese and western Australian populations. *Int J Legal Med.* 2024; 138: 2169-2179.
11. Torimitsu S, Nishida Y, Yajima D, Inokuchi G, Motomura A, Chiba F, Yamaguchi R, Hoshioka Y, Tsuneya S, Iwase H, Makino Y. Assessment of differences in mechanical properties and thickness of temporal and occipital bones and correlation with age in Japanese forensic samples. *Leg Med (Tokyo).* 2024; 71: 102503.
12. Motomura A, Inoue H, Ishii N, Horioka K, Okaba K, Moue C, Ohashi R, Yajima D. A suicide case of liquid nicotine intoxication. *Leg Med.* 2024 May; 68:102400.
13. Yamagishi Y, Nagasawa S, Iwase H, Ogra Y. Evaluation of organophosphorus pesticide tyrosine adducts for post-mortem change by human serum albumin with liquid chromatography quadrupole orbitrap mass spectrometry. *Toxicological sciences* 2024; 199, 40–48.
14. Yamagishi Y, Nagasawa S, Iwase H, Ogra Y. Identification of post-mortem product of zolpidem degradation by hemoglobin via the Fenton reaction. *J. Toxicol Sci.* 2024; 46, 261–268.
15. Okaba K, Inokuchi G, Horioka K, Iwase H, Inoue H, Motomura A, Ishii N, Moue C, Shiomi T, Yajima D. Forensic application of three interstitial pneumonia markers: search for new pneumonia markers in

dead bodies. Int J Legal Med. 2024; 138: 1583-1592.

16. Toi T, Tsuneya S, Inokuchi G, Chiba F, Hoshioka Y, Nagasawa S, Yoshida M, Yamaguchi R, Torimitsu S, Inoue H, Motomura A, Yajima D, Makino Y, Iwase H. Characteristics of indoor and outdoor fatal hypothermia cases in Chiba, Japan. Leg Med (Tokyo). 2024; 71: 102494.
17. Tsuneya S, Nakajima M, Yoshida M, Hoshioka Y, Chiba F, Inokuchi G, Torimitsu S, Iwase H. Detection of diatoms in a case of mud aspiration at a coastal area. Leg. Med. (Tokyo) 2024; 66:102354.
18. Tsuneya S, Matsuyama TA, Yoshida M, Hoshioka Y, Chiba F, Inokuchi G, Torimitsu S, Makino Y, Iwase H. Lethal hemopericardium caused by infection of mitral annular calcification: An autopsy case report. Leg. Med. (Tokyo) 2024; 68:102431.

【雑誌論文・和文】

1. 山口るつ子, 永澤明佳, 星岡佑美, 本村あゆみ, 榎野陽介, 矢島大介, 岩瀬博太郎. 法医学解剖となった医療従事者の医薬品自己使用による死亡事例の検討. 中毒研究. 38 巻 1 号 2024 ; Page31-35.
2. 奥田勝博, 榎野陽介, 森香苗, 難波亮, 高橋悠太, 浅利優, 清水恵子. 観光船沈没事故における検案・解剖・DNA 鑑定. 法医学の実際と研究 2024;67 : 149-153.
3. 石原憲治, 岩瀬博太郎. 死因・身元調査法の成立から今日まで. 日本法歯科医学雑誌. 17 巻 2 号. 32-38. 2024.
4. 矢島大介, 本村あゆみ, 石井名実子, 堀岡希衣, 岡馬恵介, 井上博之. 新型コロナウイルス (COVID-19) 感染事例の法医学解剖 (その 2) 国際医療福祉大学法医学教室の対応と, みえてきた課題. 法医病理. 30 巻 1 号 Page37-39.
5. 矢島大介, 山口晃志, 本村あゆみ. 法医学の立場からー薬毒物分析の試料採取から分析, 結果解釈までー. 中毒研究. 38 巻 1 号. 2024 ; Page10-14.
6. 榎野陽介: ニューメキシコ州における死後 CT 読影事情. Rad Fan. 2024;22(3):77-79.

【単行書】

1. Torimitsu S, Makino Y, Iwase H. Anthropology: Stature Estimation From the Skeleton. In: Jason Payne-James, Roger W. Byard, editors. Encyclopedia of Forensic and Legal Medicine. 3rd edition. Oxford: Elsevier; 2024 Vol.1 p.294-298.
2. 本村あゆみ. 第 6 章 テロ災害での死者とその家族への対応 第 1 節 災害時の検案、身元確認作業のために各機関が配慮すべきポイント. 実戦 CBRNe テロ・災害対処 2 訂版, 事態対処研究会. 東京法令出版, 東京, 2024:168-172.
3. 中村磨美著, 本村あゆみ, 矢島大介監修, 死亡診断

書・死体検案書 現場のための記載の仕方と考え方, シチズンシップ, 東京. 2024.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. 榎野陽介. 乳幼児に対する法医学解剖前画像検査の基礎と実践. 第 29 回日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会学術集会. 抄録集. 2024 ; p37. 北九州.
2. 榎野陽介. ヒトにおける法医学の実際と、法獣医学への応用. 日本法獣医学会企画シンポジウム「法獣医学を解く」. 第 167 回日本獣医学会. 抄録集. 2024 ; 帯広.
3. 矢島大介. 法医学の立場における中毒分析の意味と位置づけー法医学の常識ー、第 9 回日本臨床・分析中毒学会 シンポジウム、2024 年 9 月、東京
4. 矢島大介. 看護師の ICT を用いた死亡診断の補助業務についてー法医学の立場からー、第 10 回日本 NP 学会学術集会 シンポジウム、2024 年 11 月、東京
5. 岩瀬博太郎: 日本医師会死体検案研修会 (上級). 死後画像検査. 2024 年 12 月. e-learning.
6. 岩瀬博太郎: 警察大学校検視官講習. 日本の死因究明と死後画像診断. 2024 年 4 月, 10 月. 府中.
7. 岩瀬博太郎: 消防大学校火災調査科講義. 火災による死. 2024 年 6 月, 11 月. 調布.
8. 猪口剛: 法医学鑑定・臨床 (生体) 法医学. 日弁連九州地区夏季研修. 2024 年 7 月. 福岡.
9. 猪口剛: 法医学鑑定について. 東京三弁護士会多摩支部法医学研修会. 2024 年 8 月. 立川.
10. 齋藤直樹: 虐待対応. 一般社団法人巨樹の会講演会. 2024 年 2 月. Web.
11. 吉田真衣子. 法医学でみる死後 CT「解剖になっても膜下出血」. 第 1 回千葉県死後画像研究会 (千葉大学法医学・千葉県医師会共催). 2024 年 12 月. 千葉.
12. 本村あゆみ. 大規模災害時の DVI 活動における多職種連携の重要性. 令和 5 年度 都道府県医師会「警察活動協力医会」学術大会基調講演. 大会記録集. 2023. 1-39. 東京.

【学会発表数】

国内学会 31 学会 54 回 (うち大学院生 14 回)
国際学会 8 学会 12 回 (うち大学院生 8 回)

【外部資金獲得状況】

1. 厚労科研「安置所等における衛生基準の確立に向けた実証研究」分担者: 猪口剛 R54.1 ~ R73.31
2. 科研費 若手研究「質量分析計を用いた炎症細胞における脂質酸化物の検出に関する研究」代表者: 星岡佑美 H31.4.1 ~ R73.31
3. 科研費 基盤研究 C「地域における児童虐待予防教育についての研究」代表者: 小橋孝介 R34.1 ~ R73.31

4. 科研費 基盤研究C「死後冠動脈造影CTにおける石灰化サブトラクション法の開発と同法の有用性の検討」代表者：猪口剛 R3.4.1~R7.3.31
5. 科研費 基盤研究C「チャイルドデスレビュー(CDR)における司法解剖情報の必要性の検討」代表者：千葉文子 R4.4.1~R9.3.31
6. 科研費 若手研究「遠隔画像撮像システムの確立による超早期臨床法医学的虐待医学評価」代表者：齋藤直樹 R4.4.1~R8.3.31
7. 科研費 若手研究「ケトアシドーシスの死後診断に応用可能な病理所見診断基準及び脂質マーカーの探索」代表者：星岡佑美 R4.4.1~R7.3.31
8. 科研費「人工知能(AI)を用いた死後CT学習による死因究明支援」分担者：岩瀬博太郎、吉田真衣子 R5.4.1~R8.3.31
9. 科研費 若手研究「ヒト血清アルブミンによる有機リン系殺虫剤の死後の血中濃度変化の解明」代表

者：山岸由和 R5.4.1~R8.3.31

【受賞歴】

1. 岡馬恵介 日本法医学会学生研究優秀賞
2. 吉田真衣子 放射線専門医会からJCRフェローの称号を授与

【その他】

臨床現場への解剖結果のフィードバックとして、

- ・救急領域とのカンファレンス
- ・千葉県内交通事故死亡事例検討会への参加
- ・放射線科と合同の画像カンファレンス
- ・小児科医などの医師や行政等とのチャイルド・デス・レビュー研究会
- ・救急医とのカンファレンス

をそれぞれ定期的に開催した。

大規模災害時の多数遺体取扱いの訓練(DVI訓練)を、本年度は国際医療福祉大学と共催で、同大学にて開催した。

●診療

・外来診療・入院診療・その他(先進医療等)

かねてより、法医学教室では損傷の成因の考察を専門とする法医学者による外表評価や、法医画像診断の経験が豊富な放射線専門医による画像読影を行って、詳細な意見書の作成を行ってきたが、法医学教室は医療機関ではないため、損傷の評価に必要な場合でも通常診療で行われる医学的検査の実施は困難だった。そこで2018年7月、千葉大学医学部附属病院小児科に「臨床法医外来」を開設し、診療を行うことで、病院で行える検査(血液を用いた貧血や出血傾向、栄養状態の評価、医用画像を用いた頭蓋内の新旧血腫や陳旧性骨折、歯科レントゲンなどの画像評価など)、専門他科(眼科や整形外科など)へのコンサルテーション、必要に応じた医学的フォローアップ、他機関紹介などが可能になった。また、小児科と法医学教室が連携することによって各々単体の診療ではカバーできない薬毒物評価(意識障害などの鑑別における処方薬物及び覚醒剤、大麻など違法薬物の分析)や歯科ネグレクト等の法歯学的評価も可能となっている。

●地域貢献

- ・主に千葉県内の異状死体の死因究明を行っている。今年度は433体のご遺体について、解剖、各種検査を行った。また、千葉県警が行う検視業務に同行し、検案を行い、医学的助言、考察を行った。
- ・千葉県内児童虐待事例について、児童相談所などからの事例の画像や診察など法医学分野での知識を生かして相談に応じ、意見書の作成を行った。
- ・千葉県警、千葉地検から生体鑑定の依頼を受け、傷害事件被害者等の法医学的診断を行った。

●その他

昨今、海外からの研究者が多く訪れ、主に大学院生として法医学に関する研究と実務を行っている。今年度は、台湾、タイなどから医師が来日し、解剖実務の学習に加え、特にわが国の先進分野である死後画像診断について研究を重ねている。

研究領域等名：	和	漢	診	療	学
診療科等名：	和	漢	診	療	科

●はじめに

当部門は、研究・診療・教育の3本柱を中心とし実績を積み上げてきている。研究においては、1. 漢方方剤の基礎的研究や生薬成分の抗癌作用の研究、2. 漢方医学の病態解析などを推進している（サルコペニアと小腹不仁の相関、及び補腎剤の有効性）。これらを通じて漢方・和漢生薬の有用性の証明を試みた。診療では外来患者総数とならび逆紹介率上昇を目指した。鍼灸師外来治療は患者数を増やしている。入院患者では稼働率を考慮した。入院での処方（煎じ薬が主体）が奏功する例が70%と考えている。教育ではクラークシップを医学部5年生の1月～6年生10月まで行った。また他大学からも見学生を受け入れた。

●教 育

・学部教育／卒前教育

学部教育：医学部での講義においては2016年度より4年次「総合医学ユニット講義」から独立し、「和漢診療学ユニット」として5コマ（試験日を除く）を担当した。

卒前教育：2014年2月より、医学部全5-6年生にかけての1週間の実習（クリニカル・クラークシップ）が義務化され、従来の選択臨床教育に加え従事することになった。漢方に関連する当教室独自の実習をはじめ、外来および入院診療見学、テュートリアル形式の症例検討を中心に行っている。本年もクラークシップを医学部5年生の1月～6年生10月まで行っている。

また、他大学から研修希望の医学生も積極的に受け入れ、本学学生と同様のクリニカル・クラークシップを行っている。

・卒後教育／生涯教育

卒後教育：今年は、10名の前期・後期研修医が1～2カ月当科の研修を選択し、外来見学・病棟担当・ミニレクチャー等を行った。

生涯教育：当科では、研修登録医も積極的に受け入れ、外来診療を中心とした開業医や勤務医への漢方医学教育を行い、漢方専門医を目指す医師の登録（2024年度実績：2名）、鍼灸外来を開始したことにより医療職研修としてはり師・きゅう師の見学・受け入れもより積極的に行っている。

さらに、前年度に引き続き、市民公開講座などの漢方医学の啓蒙活動にも積極的に取り組んでおり今後も継続していく方針である。

・大学院教育

和漢診療学所属の大学院生は2024年度において博士課程1名である。また、平崎准教授が大学院授業の薬物療法情報学特論1コマを担当した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

他学部においては、薬学部薬学科4年次の病態治療学6コマを平崎准教授ほか合計5人の和漢診療学の講師で担当した。また普遍教育「和漢診療学概論」において、平崎准教授ほか7名の講師で8コマを担当した。千葉大学における漢方教育を学部に関わらず精力的に取り組んでいる。

●研 究

・研究内容

1. 新型コロナウイルス感染症に対する漢方治療の多施設共同の特定臨床研究の推進
2. 漢方の特性を利用したエビデンス創出と適正使用支援システムの構築（本学フロンティア医工学センターとの共同研究）
3. ISO/TC249における国際規格策定に資する科学的研究と調査 および統合医療の一翼としての漢方・鍼灸の基盤研究
4. 放射線性口内炎に対する漢方薬の効果（放射線科との共同研究）
5. 天然成分由来の抗がん機序の解明（本学分子腫瘍学との共同研究）。
6. 健常者におけるアルコール代謝に関わる漢方薬（JPS五苓黄解）投与効果のランダム化比較試験
7. 腎虚証の高齢者に対する八味地黄丸（丸剤）の探索的検討
8. 新型コロナウイルスワクチン接種予定者を対象とした麻黄湯の越婢加朮湯の併用による副反応予防療法の有効性及び安全性を評価するための探索的単群外部コントロール比較試験

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Sakoda R, Ishiuchi K, Yoshino T, Tsunoo Y, Namiki T, et al.: 3-epi-18 β -Glycyrrhetic Acid or Its Glucuronide, the Metabolites of Glycyrrhizic Acid with Individual Differences, Correlated with Diagnostic Marker for Licorice-Induced Pseudoaldosteronism in Humans, DOI: 10.1124/dmd.124.001840. Drug Metab Dispos. 2024 Nov 15; 52(12):1407-1416.
2. Murakami A, Morita A, Watanabe Y, Ishikawa T, Nakaguchi T, Ochi S, Namiki T.: Effects of Sitting and Supine Positions on Tongue Color as Measured by Tongue Image Analyzing System and Its Relation to Biometric Information, Evid Based Complement Alternat Med. 2024 Mar 23;2024: 1209853. doi: 10.1155/2024/1209853. eCollection 2024.
3. Maeda-Minami A, Yoshino T, Katayama K, Horiba Y, Hikami H, Shimada Y, Namiki T, Tahara E, Minamizawa K, Muramatsu SI, Yamaguchi R, Imoto S, Miyano S, Mima H, Uneda K, Nogami T, Fukunaga K, Watanabe K.: Machine learning model for predicting the cold-heat pattern in Kampo medicine: a multicenter prospective observational study, Front Pharmacol. 2024 Oct 25;15:1412593.

doi: 10.3389/fphar.2024.1412593.

【雑誌論文・和文】

1. 平崎能郎：漢方薬による癌の支持療法. 臨床外科, 79 (7) 804-810, 2024.
2. 龍興一, 森瑛子, 大橋範之, 平崎能郎：月経不順をきたしたダウン症女児に漢方治療を試みた1症例. 産婦人科漢方研究のあゆみ (40):107-110, 2024.
3. 並木隆雄：「基礎と臨床の“二刀流”を極める」薬事日報 4-5, 2024.8.21

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 平崎能郎：シンポジウム3：漢方薬の癌治療におけるアートとサイエンス「和漢薬を用いた癌治療」. 第41回和漢医薬学会学術大会. 2024.8.24. 千葉
2. 内原拓宗：科学的視点で見る、鍼灸の効く理由. 第41回和漢医薬学会学術大会. 市民公開講座. 2024.8.25. 千葉

【学会発表数】

国内学会 12回

国際学会 0回

【その他】

第41回和漢医薬学会学術大会を当院、医学部の会場にて行った。並木隆雄が会頭となり、平崎能郎が実行委員長、プログラム委員長を担当した。

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

「外来診療」

外来は午前中心で、2-3ブースの診察を行い、一部の曜日では午後にも1ブースを設けている。

外来患者総数 6,597 名、うち新患 167 名であった。

附属病院緩和ケアチームは、八木明男が中心となって活動した。

また 2017 年 6 月よりプレストセンターで平崎能郎は乳癌患者に対して漢方治療を行っている。

附属病院における当科の鍼灸診療外来は、渡邊悠紀（月）、橋場則昭（水）、内原拓宗（木）が、漢方診療外来の患者を主とした鍼灸外来を行っている。（毎日 3-5 名）

2022 年度より新型コロナウイルス感染症の治療後も臓器別がはっきりしない症状（疲労感、脱毛など）でお困りの方を対象に、漢方の専門家による新型コロナ感染症の関連症状を治療する「新型コロナ感染後症状漢方外来」を開設した。

「入院診療」

和漢診療科の割当病床は、ひがし 9 階病棟に 2 床であったが、24 年 10 月 1 日より 1 床に移行した。

入院患者総数は 24 名で平均 66.3%前後の病床稼働率を示した。

病棟は、平崎能郎・森 瑛子・龍興一が中心となり担当した。

●地域貢献

「連携病院」(当教室からの出向外来)

- ・山武医療センター（千葉県山武郡）漢方外来（毎週火曜、一診体制：島田博文）
- ・東京女子医大八千代医療センター（八千代市）：和漢診療外来（毎週水曜、一診体制：並木 隆雄）
- ・千葉労災病院（市原市）：和漢診療科外来（毎週水曜、一診体制：並木 隆雄）
- ・なのはなクリニック：漢方外来（毎週水曜、一診体制：平崎能郎）
- ・証クリニック神田：漢方外来（隔週金曜：平崎能郎）

研究領域等名：	医学教育学／医学教育研究室
診療科等名：	総合医療教育研修センター

●はじめに

学部教育、卒後教育、生涯教育の継続的改善に取り組んだ。学部教育においては、導入教育・リメディアル教育、専門職連携教育（IPE）、倫理・プロフェッショナリズム教育、地域医療教育、医学英語教育、診療参加型臨床実習を含む臨床教育について、所属教員自らが担当する授業を実践するとともに、メンター制度の運営や学部教育関連委員会での活動を行った。

医学教育リトリートを開催し、教育改善のための講演、ワークショップを企画・実施した。各学年の wbt（web-based test）による試験を行うとともに、教員向けの FD を行った。卒後教育においては、医師臨床研修や看護師特定行為研修、新入職員研修、BLS 研修の更なる充実を目標として、プログラムの運営・改善を行った。上記の教育の継続的改善のためのデータは、当組織の IR 部門が収集、解析した。

●教 育

・学部教育／卒前教育

- ・1 年次の医療プロフェッショナリズムⅠ「導入 PBL テュートリアル」18 コマ、「チーム医療Ⅰ（IPEⅠ）」23 コマ、専門基礎科目「ヒューマン・バイオロジー」8 コマ、医療と社会「地域医療学」23 コマを担当した。また普遍科目である「現代医学」を 2 コマ担当した。
- ・2 年次の医療プロフェッショナリズムⅡ「チーム医療Ⅱ（IPEⅡ）」17 コマ、「生命倫理実習」11 コマ、「生理学」（自律神経）1 コマを担当した。
- ・3 年次の医療プロフェッショナリズムⅢ「医師見習い体験学習」20 コマ、「チーム医療Ⅲ（IPEⅢ）」10 コマ、臨床医学総論（臨床入門）「コミュニケーションⅠ、Ⅱ」20 コマ、「プロフェッショナリズム」2 コマ「診療録」2 コマ、「診療録実習」6 コマを担当した。
- ・4 年次の臨床医学総論（臨床入門）「コミュニケーションⅢ」9 コマ、「医療プロフェッショナリズムⅣ『チーム医療Ⅳ』（IPEⅣ）」30 コマを担当した。臨床テュートリアルにおいて、テュートリアルの企画、運営、実施、評価に取り組み、テュータも実践した。
CC ベーシック「プロフェッショナリズム」2 コマ、「症例プレゼンテーション」1 コマ、「医療安全」1 コマ、「病棟でのマナーとルール」1 コマ、「診療録」1 コマ、「地域志向型 PBL」16 コマ、「CC オリエンテーション」2 コマを担当し、シャドウイング実習の企画・実施を担当した。
- ・4 年次「臨床実習前 OSCE」の運営、実施を行った。OSCE「医療面接」の課題責任者、副課題責任者を担当した。6 つのステーションで、OCR を活用した集計システムを設計し、運用した。
- ・共用試験 CBT の説明会・体験テスト・本試験・再試験について、医学部情報担当と協働し、実施、運営を行った。
- ・4 年次「白衣式」の運営・実施を行った。
- ・5 年次「臨床実習Ⅰ」で地域臨床実習を実施した（オリエンテーション 8 コマ、実習 3 週間を 3 ターム、成果報告会 8 コマ）。
- ・5 年次「医療プロフェッショナリズム・ワークショップ」を 4 コマ実施した。
- ・専門職連携教育（IPE）で、医学部・薬学部・看護学部の 1～4 年次の各授業を学部合同で行った。5 年次の一部の学生を対象に「クリニカル IPE」を実践した。
- ・6 年次の臨床実習後 OSCE の企画、運営、実施を担当した。全ステーションで、OCR を活用した集計システムを設計し、運用した。
- ・6 年一貫英語プログラムとして 1 年次「医学英語Ⅰ」21 コマ、2 年次「医学英語Ⅱ」18 コマ、3 年次「医学英語Ⅲ」15 コマ、4～5 年次「医学英語・アドバンスト」37 コマを担当した。
- ・1～3 年次を対象としたスカラーシップにおいて、医学教育研究室に配属された 1 年および 3 年の学生指導を行った。
- ・国際交流協定にもとづいた交換留学の企画・管理・運営を行った。
- ・模擬患者の育成および模擬患者による授業・試験の管理、運営を行った。
- ・5 年次「臨床実習Ⅰ」で地域臨床実習の実習受入施設に対する FD を実施した（合計 8 回、38 施設）。
- ・6 年次の総合統一試験（2 日間・400 問）や、各授業科目において wbt を実施した。

- ・千葉大学医学部の医学教育の検証と改善を目的として、医学教育リトリートを実施し、報告書を作成した。
- ・1～6年次の希望者を対象として地域医療機関で実施される「夏季フィールドワーク in 千葉」の管理・運営を行い、亥鼻祭にてその成果報告会の機会を提供した。
- ・千葉大学 Moodle、wbt サーバーを運用して e ラーニングシステム管理を行った。
- ・医学教育の検証と改善を目的として、IR 部門による情報収集・分析を行った。
- ・メンター制度を運営し、新たにメンター候補となる教員向け FD を実施した。
- ・医学教育に関する学部学務委員会、臨床カリキュラム部会、基礎／普遍カリキュラム部会、学務・学生支援部会、自己点検・評価委員会、学部入試委員会と協働し、医学教育の改善に貢献した。

研究領域等名：医学教育学／医学教育研究室

診療科等名：総合医療教育研修センター

・卒業教育／生涯教育

- ・千葉大学病院の新入職員研修（医療法に基づく各講義、IPW 研修、接遇研修、メンタルヘルス研修、感染対策研修、合同採血研修など）を企画、管理、運営した。
- ・千葉大学病院の医師臨床研修プログラムおよび看護師特定行為研修の 4 プログラムを作成した。
- ・千葉大学病院の研修医選抜試験を実施した。
- ・千葉大学病院の研修医ガイダンスを企画、管理、運営した。
- ・千葉大学病院の研修医を対象に定期的なミーティング及びレクチャーを実施し、個別面談を通してキャリアプラン形成の支援等を行った。
- ・IR 部門等による各種評価の実施により、研修プログラムの改善に努めた。
- ・アテンディングの教育能力向上のための FD を定期的に実施した。
- ・研修修了のための臨床研修報告会を企画・管理・運営した。
- ・研修医確保のため、研修プログラム説明会を企画・参加し、広報活動を行った。
- ・臨床研修指導医のための指導医講習会（年 3 回）を企画・運営した。
- ・NPO 法人千葉医師研修支援ネットワークと協働し、千葉県内の臨床研修医を対象とした「Chiba Clinical Skills Boot Camp」の企画・運営に関わった。
- ・看護職員院内研修として、基礎研修 12 件、スキルアップ研修 17 件、施設要件研修 12 件を実施した。
- ・看護師特定行為研修として、受講者 25 人（科目別受講者のべ 101 人）に、特定行為研修修了者フォローアップ研修として、修了者 19 人に指導を行った。

・大学院教育

- ・大学院生の研究指導を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

- ・専門職連携教育（IPE）で、医学部・薬学部・看護学部・工学部の 1～4 年次の各授業を学部合同で行った。5 年次の一部の学生を対象に「クリニカル IPE」を実践した。

●研究

・研究内容

- ・教室の研究テーマは、「医学教育」、「医療者教育」である。
- ・専門職連携教育（IPE）や専門職連携実践（IPW）に関する研究を行った。
- ・効果的な教育方法の開発と研究を行った。
- ・地域医療教育の改善に向けての研究を行った。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Tomoko Kotani, Toshiaki Inazaki, Hajime Kasai, Shintaro Rakuman, Kenichi Suzuki, Takashi Urushibara. Pneumonia due to *Achromobacter xylosoxidans* with a chronic course resembling non-tuberculous mycobacterial infection. *Respirology case reports* 12(2) e01287 2024 年 2 月
2. Yu Shionoya, Megumi Katsumata, Hajime Kasai, Kohei Shikano, Aoi Hino, Masaki Suzuki, Mitsuhiro Abe, Takuji Suzuki. Radiation-induced organizing pneumonia caused by carbon-ion radiotherapy for lung cancer. *Radiology case reports* 19(2) 567-571 2024 年 2 月
3. Ruka Otsuji, Hajime Kasai, Toshihiko Sugiura, Hidemi Suzuki, Takuji Suzuki. Evaluation of a gradually enlarging complex pulmonary arteriovenous malformation consisting of innumerable small fistulae using four-dimensional

- computed tomography. *BMJ case reports* 17(2) 2024 年 2 月 17 日
4. Yukiko Kono, Keiichiro Miura, Hajime Kasai, Shoichi Ito, Mayumi Asahina, Masahiro Tanabe, Yukihiro Nomura, Toshiya Nakaguchi. Breath Measurement Method for Synchronized Reproduction of Biological Tones in an Augmented Reality Auscultation Training System. *Sensors* 24 (5) 1626-1626 2024 年 3 月 1 日
 5. Kenichiro Takeda, Hajime Kasai, Hiroshi Tajima, Nami Hayama, Mikihiro Saito, Chiaki Kawame, Takuji Suzuki. Effectiveness of Lung Ultrasound Training Utilizing a High-Fidelity Simulator. *ATS scholar* 5(1) 133-141 2024 年 3 月
 6. Kosuke Ishizuka, Kiyoshi Shikino, Akira Kuriyama, Yoshito Nishimura, Emiri Tanaka, Saori Nonaka, Michito Sadohara, Mitsuru Moriya, Noriko Yamamoto, Yohnosuke Wada, Tetsuya Makiishi. A proposal for coping strategies on burnout among Japanese resident physicians. *Journal of General and Family Medicine* 25(1) 83-84 2024 年 1 月
 7. Kiyoshi Shikino, Masaki Tago, Takashi Watari, Yosuke Sasaki, Hiromizu Takahashi, Taro Shimizu. Educational strategies related to information science and technology for medical students: General medicine physicians' perspective. *Journal of General and Family Medicine* 25(1) 81-82 2024 年 1 月
 8. Shiori Kase, Kiyoshi Shikino, Tatsuro Katahira, Kazuki Higuchi, Shinya Aoki. Mediastinal hematoma due to traumatic injury to the azygous vein. *Clinical Case Reports* 12(1) e8441 2024 年 1 月
 9. Yuki Otsuka, Kosuke Ishizuka, Yukinori Harada, Taku Harada, Kiyoshi Shikino, Yoshihiko Shiraishi, Takashi Watari. Three Subtypes of Cutaneous Nerve Entrapment Syndrome: A Narrative Review. *Internal medicine (Tokyo, Japan)* 2024 年 1 月 13 日
 10. Kazuya Nagasaki, Hiroyuki Kobayashi, Yuji Nishizaki, Masaru Kurihara, Takashi Watari, Taro Shimizu, Yu Yamamoto, Kiyoshi Shikino, Sho Fukui, Sho Nishiguchi, Kohta Katayama, Yasuharu Tokuda. Association of sleep quality with duty hours, mental health, and medical errors among Japanese postgraduate residents: a cross-sectional study. *Scientific reports* 14(1) 1481-1481 2024 年 1 月 17 日
 11. Masaki Tago, Risa Hirata, Hiromizu Takahashi, Shun Yamashita, Masayuki Nogi, Kiyoshi Shikino, Yosuke Sasaki, Takashi Watari, Taro Shimizu. How Do We Establish the Utility and Evidence of General Medicine in Japan? *International Journal of General Medicine* 17 635-638 2024 年 2 月
 12. Masaki Tago, Risa Hirata, Naoko E Katsuki, Eiji Nakatani, Midori Tokushima, Tomoyo Nishi, Hitomi Shimada, Shizuka Yaita, Chihiro Saito, Kaori Amari, Kazuya Kurogi, Yoshimasa Oda, Kiyoshi Shikino, Maiko Ono, Mariko Yoshimura, Shun Yamashita, Yoshinori Tokushima, Hidetoshi Aihara, Motoshi Fujiwara, Shu-Ichi Yamashita. Validation and Improvement of the Saga Fall Risk Model: A Multicenter Retrospective Observational Study. *Clinical interventions in aging* 19 175-188 2024 年 2 月
 13. Daiki Yokokawa, Yasutaka Yanagita, Yu Li, Shiho Yamashita, Kiyoshi Shikino, Kazutaka Noda, Tomoko Tsukamoto, Takanori Uehara, Masatomi Ikusaka. For any disease a human can imagine, ChatGPT can generate a fake report. *Diagnosis (Berlin, Germany)* 2024 年 2 月 23 日
 14. Kiyoshi Shikino, Yuji Nishizaki, Sho Fukui, Daiki Yokokawa, Yu Yamamoto, Hiroyuki Kobayashi, Taro Shimizu, Yasuharu Tokuda. Development of a Clinical Simulation Video to Evaluate Multiple Domains of Clinical Competence: Cross-Sectional Study. *JMIR medical education* 10 e54401 2024 年 2 月 29 日
 15. Risa Hirata, Naoko Katsuki, Hitomi Shimada, Eiji Nakatani, Kiyoshi Shikino, Chihiro Saito, Kaori Amari, Yoshimasa Oda, Midori Tokushima, Masaki Tago. The Administration of Lemborexant at Admission is Not Associated with Inpatient Falls: A Multicenter Retrospective Observational Study. *International Journal of General Medicine* 17 1139-1144 2024 年 3 月
 16. Kosuke Ishizuka, Kiyoshi Shikino, Yu Li, Daiki Yokokawa, Tomoko Tsukamoto, Yasutaka Yanagita, Jumpei Kojima, Shiho Yamashita, Kazutaka Noda, Takanori Uehara, Masatomi Ikusaka. The differential diagnosis of medical and psychogenic disease in primary care. *Journal of General and Family Medicine* 25(2) 110-111 2024 年 3 月
 17. Kiyoshi Shikino, Miwa Sekine, Yuji Nishizaki, Yu Yamamoto, Taro Shimizu, Sho Fukui, Kazuya Nagasaki, Daiki Yokokawa, Takashi Watari, Hiroyuki Kobayashi, Yasuharu Tokuda. Distribution of internal medicine rotations among resident physicians in Japan: a nationwide, multicenter, cross-sectional study. *BMC medical*

- education 24(1) 316-316 2024 年 3 月 20 日
18. Jiaqi Wang, Atsuhiko Sugiyama, Hajime Yokota, Shigeki Hirano, Tatsuya Yamamoto, Yoshitaka Yamanaka, Nobuyuki Araki, Shoichi Ito, Friedemann Paul, Satoshi Kuwabara. Differentiation between Parkinson's Disease and the Parkinsonian Subtype of Multiple System Atrophy Using the Magnetic Resonance T1w/T2w Ratio in the Middle Cerebellar Peduncle. *Diagnostics* 14(2) 201-201 2024 年 1 月 17 日
19. Daichi Sogai, Kiyoshi Shikino, Kazuyo Yamauchi, Nobuyuki Araki, Yota Katsuyama, Shinya Aoki, Yohei Muroya, Mai Miyamoto, Yu Kamata, Shoichi Ito. Influencing physician distribution through education: a qualitative study on retention in Japan's rural hospitals *BMC medical education* 24 (1) 1147-1147 2024 年 10 月 15 日
20. Hajime Kasai, Mayumi Asahina, Hiroshi Tajima, Kiyoshi Shikino, Ikuo Shimizu, Misaki Onodera, Yasuhiko Kimura, Nobuyuki Araki, Tomoko Tsukamoto, Sachie Yoshida, Kazuyo Yamauchi, Shoichi Ito. Effectiveness of a report writing training program using peer review: evidence from first- year medical students *BMC medical education* 24(1) 1132-1132 2024 年 10 月 11 日
21. Junji Haruta, Yuka Urushibara-Miyachi, Shoichi Ito, Akiteru Takamura, Yoshio Nitta, Rika Moriya, Masanaga Yamawaki. The impact of core curriculum revisions on Japanese medical schools: Navigating curriculum evolution *Medical teacher* 46(sup1) S67-S75 2024 年 9 月
22. Aoba Nakamura, Hajime Kasai, Mayumi Asahina, Yu Kamata, Kiyoshi Shikino, Ikuo Shimizu, Misaki Onodera, Yasuhiko Kimura, Hiroshi Tajima, Kazuyo Yamauchi, Shoichi Ito. Impact of group work on the hidden curriculum that induces students' unprofessional behavior toward faculty *BMC Medical Education* 24(1) 770-770 2024 年 7 月 19 日
23. Kiyoshi Shikino, Kazuyo Yamauchi, Nobuyuki Araki, Ikuo Shimizu, Hajime Kasai, Tomoko Tsukamoto, Hiroshi Tajima, Yu Li, Misaki Onodera, Shoichi Ito. Understanding Community Health Care Through Problem-Based Learning With Real-Patient Videos: Single-Arm Pre-Post Mixed Methods Study *JMIR Medical Education* 11 e68743-e68743 2025 年 1 月 31 日
24. Ikuo Shimizu. Social interdependence in collaborative learning *Doctoral Thesis* 2024 年 12 月 18 日
25. Ikuo Shimizu, Kazumi Tanaka, Jun-Ichirou Mori, Aiga Yamauchi, Sawako Kato, Yuichi Masuda, Yuichi Nakazawa, Hiroyuki Kanno. Objective Structured Clinical Examination to Assess Patient Safety Competencies of Japanese Medical Students: Development and Validation Argument *Cureus* 16 (11) e73969 2024 年 11 月 19 日
26. Yasushi Matsuyama, Osamu Nomura, Sayaka Oikawa, Makoto Kikukawa, Ikuo Shimizu, Harumi Gomi. Competency-based medical education guidelines are context-based: Lessons from national guidelines in five countries *Medical Teacher* 2024 年 11 月 15 日
27. Hajime Kasai, Go Saito, Kenichiro Takeda, Hiroshi Tajima, Chiaki Kawame, Nami Hayama, Kiyoshi Shikino, Ikuo Shimizu, Kazuyo Yamauchi, Mayumi Asahina. Effect of a workplace-based learning program on clerkship students' behaviors and attitudes toward evidence-based medicine practice *Medical education online* 29(1) 2357411-2357411 2024 年 12 月 31 日
28. Kenichiro Takeda, Hajime Kasai, Ikuo Shimizu, Ryutaro Hirama, Nami Hayama, Kohei Shikano, Mitsuhiro Abe, Akira Naito, Takuji Suzuki. Complications Rate and a Multidimensional Analysis of Their Causes of Tube Thoracostomy: A Mixed-Methods Study *Cureus* 16(4) e58563 2024 年 4 月 18 日
29. Miori Kitamura, Hajime Kasai, Jiro Terada, Ken Koshikawa, Kenichi Suzuki, Takuji Suzuki. Management of Acute and Chronic Hypercapnic Respiratory Failure in Severe Obesity-Hypoventilation Syndrome: A Case Study of Multimodal Therapy and Long-Term Weight Loss. *The American journal of case reports* 25 e945448 2024 年 11 月 14 日
30. Kiyoshi Shikino, Yuji Nishizaki, Kazuya Nagasaki, Hiroyuki Kobayashi, Koshi Kataoka, Taro Shimizu, Yasuharu Tokuda. Residency Program Directors' Perspectives on Overtime Duty Hours and Professional Development Time in Japan *Advances in Medical Education and Practice* 15 1185-1194 2024 年 12 月
31. Kiyoshi Shikino, Yuji Nishizaki, Koshi Kataoka, Sho Fukui, Daiki Yokokawa, Taro Shimizu, Yu Yamamoto, Kazuya Nagasaki, Hiroyuki Kobayashi, Yasuharu Tokuda. A novel resident physician examination using clinical simulation video to assess clinical competence in Japan: a cross-sectional study. *BMC medical education* 24(1)

1402-1402 2024 年 11 月 30 日

32. Risa Hirata, Masaki Tago, Hiromizu Takahashi, Takashi Watari, Kiyoshi Shikino, Yosuke Sasaki, Taro Shimizu A Questionnaire Study of Leadership in General Medicine: General Physicians in Japan are Facing Challenges in Education and Research *International Journal of General Medicine* 17 5465-5470 2024 年 11 月
33. Yoshinori Tokushima, Risa Hirata, Shun Yamashita, Kiyoshi Shikino, Taro Shimizu, Masaki Tago Enhancing Clinical Reasoning Education: Implementing Case Conferences with Semantic Qualifiers and the Dual-Process Theory *Advances in Medical Education and Practice* 15 1149-1154 2024 年 11 月
34. Kiyoshi Shikino Yuji Nishizaki Koshi Kataoka Masanori Nojima Taro Shimizu Yu Yamamoto Sho Fukui Kazuya Nagasaki Daiki Yokokawa Hiroyuki Kobayashi Yasuharu Tokuda Association between physicians' maldistribution and core clinical competency of resident physicians: a nationwide cross-sectional study *BMJ Open* 14(10) e083184 2024 年 10 月 18 日
35. Sho Nishiguchi Yuji Nishizaki Miki Hamaguchi Atshushi Goto Masahiko Inamori Kiyoshi Shikino Tomohiro Shinozaki Koshi Kataoka Taro Shimizu Yu Yamamoto Sho Fukui Hiroyuki Kobayashi Yasuharu Tokuda Experience of caring for patients with COVID-19 and educational achievement among Japanese resident physicians: a nationwide survey with general medicine in-training examination. *BMC medical education* 24(1) 1125-1125 2024 年 10 月 11 日
36. Hirohisa Fujikawa, Takayuki Ando, Amane Endo, Makoto Kaneko, Kiyoshi Shikino, Yuiko Nagamine, Takeo Nakayama, Hiroshi Nishigori, Hirotomo Yamanashi, Junji Haruta Competencies related to generalism for Japanese medical undergraduates: Essential skills for comprehensive care. *Medical teacher* 46(sup1) S21-S30 2024 年 9 月
37. Hiromizu Takahashi, Kiyoshi Shikino, Takeshi Kondo, Akira Komori, Yuji Yamada, Mizue Saita, Toshio Naito Educational Utility of Clinical Vignettes Generated in Japanese by ChatGPT-4: Mixed Methods Study. *JMIR medical education* 10 e59133 2024 年 8 月 13 日
38. Risa Hirata Naoko E. Katsuki Hitomi Shimada Eiji Nakatani Kiyoshi Shikino Maiko Ono Chihiro Saito Kaori Amari Kazuya Kurogi Mariko Yoshimura Tomoyo Nishi Shizuka Yaita Yoshimasa Oda Midori Tokushima Yuka Hirakawa Masahiko Nakamura Shun Yamashita Yoshinori Tokushima Hidetoshi Aihara Motoshi Fujiwara Masaki Tago Criterion-related Validity of the Cognitive Function Score with the Revised Hasegawa's Dementia Scale and the Bedriddenness Rank with the Barthel Index and the Katz Index: A Multi-center Retrospective Study *Dementia and Geriatric Cognitive Disorders Extra* 14(1) 75-80 2024 年 7 月 30 日
39. Sho Fukui, Taro Shimizu, Yuji Nishizaki, Kiyoshi Shikino, Yu Yamamoto, Hiroyuki Kobayashi, Yasuharu Tokuda The Utility of Wearable Cameras in Developing Examination Questions and Answers on Physical Examinations: Preliminary Study. *JMIR medical education* 10 e53193 2024 年 7 月 19 日
40. Risa Hirata, Masaki Tago, Kiyoshi Shikino, Takashi Watari, Hiromizu Takahashi, Yosuke Sasaki, Taro Shimizu Standardizing Generalist Definitions to Improve Evidence in General Medicine: Addressing Diverse Interpretations and Lack of Consistency. *International journal of general medicine* 17 2939-2943 2024 年 7 月
41. Kiyoshi Shikino Taro Shimizu Yuki Otsuka Masaki Tago Hiromizu Takahashi Takashi Watari Yosuke Sasaki Gemmei Iizuka Hiroki Tamura Koichi Nakashima Kotaro Kunitomo Morika Suzuki Sayaka Aoyama Shintaro Kosaka Teiko Kawahigashi Tomohiro Matsumoto Fumina Orihara Toru Morikawa Toshinori Nishizawa Yoji Hoshina Yu Yamamoto Yuichiro Matsuo Yuto Unoki Hirofumi Kimura Midori Tokushima Satoshi Watanuki Takuma Saito Fumio Otsuka Yasuharu Tokuda Evaluation of ChatGPT-Generated Differential Diagnosis for Common Diseases With Atypical Presentation: Descriptive Research. *JMIR medical education* 10 e58758 2024 年 6 月 21 日
42. Koshi Kataoka Yuji Nishizaki Taro Shimizu Yu Yamamoto Kiyoshi Shikino Masanori Nojima Kazuya Nagasaki Sho Fukui Sho Nishiguchi Kohta Katayama Masaru Kurihara Rieko Ueda Hiroyuki Kobayashi Yasuharu Tokuda Hospital Use of a Web-Based Clinical Knowledge Support System and In-Training Examination Performance Among Postgraduate Resident Physicians in Japan: Nationwide Observational Study *JMIR Medical Education* 10 e52207 2024 年 5 月 30 日
43. Fumitoshi Fukuzawa Yasutaka Yanagita Daiki Yokokawa Shun Uchida Shiho Yamashita Yu Li

- Kiyoshi Shikino Tomoko Tsukamoto Kazutaka Noda Takanori Uehara Masatomi Ikusaka. Importance of Patient History in Artificial Intelligence-Assisted Medical Diagnosis: Comparison Study. JMIR medical education 10 e52674 2024 年 4 月 8 日
44. Miki Yoshitake, Atsuhiko Sugiyama, Takayoshi Shimohata, Nobuyuki Araki, Masahide Suzuki, Kazumoto Shibuya, Kengo Nagashima, Nobutaka Hattori, Satoshi Kuwabara. Delivering the diagnosis of multiple system atrophy: a multicenter survey on Japanese neurologists' perspectives BMC Neurology 24(1) 2024 年 5 月 13 日
 45. Tomoko Kamei, Aki Kawada Kotoko Minami Zaiya Takahashi Yasunori Ishigaki Takashi Yamanaka Noriko Yamamoto Yuko Yamamoto Yusuke Suzuki Takamasa Watanabe Katsuya Iijima. Effectiveness of an interdisciplinary home care approach for older adults with chronic conditions: A systematic review and meta-analysis. Geriatrics & gerontology international 2024 年 7 月 17 日
 46. Yumiko Iwasaki, Hiroki Fukahori, Akemi Okumura-Hiroshige, Ikuko Sakai, Shuichi Inoue, Tomoko Sugiyama, Katsumi Nasu, Hirofumi Ogawara. Family Caregivers' Needs in Long-Term Care Facilities: A Descriptive Qualitative Study. Research in gerontological nursing 17(4) 177-187 2024 年 6 月 20 日
 47. Masatoshi Saiki, Yoko Fujisawa, Naoko Sakai, Nobuko Tsukahara, Yuriko Okamoto, Motohiro Sano, Junko Kusunoki, Mariko Masujima, Ikuko Sakai, Tomoko Majima. Nurses' Perceptions of Support in Cancer Pharmacotherapy at a University Hospital: A Descriptive Quantitative Study. SAGE open nursing 10 23779608241288718-23779608241288718 2024 年
 48. Ai Tomotaki, Ikuko Sakai, Hiroki Fukahori, Yasunobu Tsuda. Evaluation of an evidence-based practice education workshop focused on critical appraisal for advanced practice nurses: A before-after intervention study. BMC medical education 24(1) 1351-1351 2024 年 11 月 23 日
 49. Yusako Morishita, Yuya Oura, Hiroshi Oyama, Izumi Usui, Yukihiro Nomura, Toshiya Nakaguchi. Pupil Dilation as an Indicator of Cognitive Load During Multi-tasking in a Virtual Environment The Japanese Journal for Medical Virtual Reality 21(1) 1-11 2024 年 9 月
- 桑原麻理子, 水島舞, 岸田友治, 清水郁夫, 磯野史朗, 相馬孝博 侵襲的処置に対する安全かつ持続可能な鎮静法への院内標準化 医療の質・安全学会誌 19(1) 38-45 2024 年 2 月
2. 藤田博一, 野田康子, 荒関かやの, 石原慎, 岡田隆夫, 清水郁夫, 清水貴子, 原田芳巳, 山内かづ代, 瀬戸山陽子 障害のある医学生の実験における合理的配慮の方針 医学教育 55(2) 169-176 2024 年 4 月 25 日
 3. 鈴木みずえ, 金盛琢也, 内藤智義, 稲垣圭吾, 吉村浩美, 御室総一郎, 酒井郁子, 澤木圭介, 松下君代, 佐々木菜名代, 石原哲郎, 大庭富美子, 石垣香ほり, 河島智子, 八木純, 寺田千尋, 池田千枝子, 達家好美, 杉村ますみ, 山梨美鈴, 内田聡美, 下山美穂, 宮城島知弘, 鈴木美佳 急性期病院の看護師に対する認知症看護実践能力育成プログラムの多施設ランダム化比較研究 パーソン・センタード・ケアと認知症の種類別プログラムの比較 日本老年医学会雑誌 61(2) 204-217 2024 年 4 月 25 日
 4. 井出成美, 臼井いづみ, 孫佳茹, 酒井郁子 IPE 最終段階プログラム終了後の Interprofessional アイデンティティ 文化看護学会誌 16(1) 55-55 2024 年 5 月
 5. 出穂麻智子, 佐伯昌俊, 西宮岳, 酒井郁子 特定行為研修を修了した手術室看護師による肝切除術高齢患者へのせん妄予防を焦点とした周術期看護 老年看護学 29(1) 112-120 2024 年 7 月
 6. 酒井郁子, 長谷川直, 窪田容子, 瀬尾智美, 西垣昌和, 友滝愛, 佐伯昌俊 【EBP から実装へ2 -実装科学と社会への普及】より良いケアをめざすためのEBP 実装 千葉大学医学部附属病院 包括的せん妄ケアチームの活動から 看護研究 57(3) 230-243 2024 年 6 月

【単行書】

1. Ikuo Shimizu Social interdependence in collaborative learning 2024 年 12 月 (ISBN : 9789464962901)
2. 木村武司, 清水郁夫 (担当: 分担執筆, 範囲: レジリエンスの高い職場の作り方) スタッフが離職しない病院・看護部の作り方: 集まる、辞めない、成長する職場づくり メディカ出版 2024 年 8 月 20 日 (ISBN : 9784840484800)
3. 田島寛之 エキスパートが教える問診の勘どころ 対話から拾い上げるコモンディージーズ (第 14 回) 「寝ても疲れが取れないんです」(株)文光堂 2024 年 8 月
4. 日本大学総合診療リーダーシップ・教育円卓会議, 多胡雅毅, 鋪野紀好, 志水太郎, 佐々木陽典, 高橋宏瑞, 和足孝之 内科外来診療の掟: 診断力を上げる総合診療のアプローチ 中外医学社 2024 年 6

【雑誌論文・和文】

1. 上里昌也, 奥山めぐみ, 柴田みづほ, 横山威一郎,

月 (ISBN : 9784498120204)

5. “日本エンドオブライフケア学会, 浅見洋, 足立智孝, 高橋在也, 長江弘子, 平原佐斗司, 島田千穂” エンドオブライフケア学: “自分らしく生きる” 哲学 日本看護協会出版会 2024年8月 (ISBN : 9784818027817)
6. 酒井郁子 高齢者総合機能評価 (CGA) に基づく診療・ケアガイドライン 2024 南江堂 2024年6月
7. 酒井郁子 (担当: 共著, 範囲: 2040年に期待するプライマリ・ケア(3)看護の立場から) プライマリ・ケアの理論と実践〈完全版〉日本医事新報社・日本プライマリ・ケア連合学会 2024年12月

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. 伊藤彰一 医学生臨床実習前 OSCE 実施後調査票のまとめ 試験信頼性妥当性検討委員会第24回講演会 2024年1月30日
2. 酒井郁子 会長講演 老年看護の Journey - Presidential Address : Journey of Gerontological Nursing - 特集 日本老年看護学会第28回学術集会 老年看護学 = Journal of Japan Academy of Gerontological Nursing : 日本老年看護学会誌 / 日本老年看護学会学会誌編集委員会編 2024年1月
3. 酒井郁子 2) 看保連における 2024年度 (令和6年度) 診療報酬・介護報酬の評価. 第23回三保連合同シンポジウム 2024年3月
4. 酒井郁子 教育講演6 回復期リハ病棟におけるこれからの生活の再構築と自立支援 回復期リハビリテーション病棟協会第43回研究大会 2024年3月8日
5. 鋪野紀好 千葉大学・東邦大学における取り組み 地域医療への高い情熱と好奇心を涵養して総合力・適応力・教育力を醸成する地域志向型医療人材養成プログラム 文部科学省補助事業 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 第2回全国フォーラム 2024年1月19日
6. 鋪野紀好 海外における OSCE の実施状況について 2024年度実施に向けた医学生共用試験 OSCE (前・後) 全国説明会 2024年2月16日 医療系大学間共用試験実施評価機構
7. 鋪野紀好 医師のバーンアウト 米国内科学会日本支部3委員会合同セミナー「これからの医師人生を豊かにするために」 2024年2月28日
8. 鋪野紀好 レジデントのための Difficult Patient Encounter 対応技法 明石医療センター レジデントセミナー 2024年3月1日
9. 鋪野紀好 研修医座談会～病院選びの決め手は? ～ Web ちば臨床研修病院ナビ 2023春 2024年3月4日 NPO 法人千葉医師研修支援ネットワーク
8. 鋪野紀好 専攻医・指導医のためのポートフォリオ

作成支援 (関東甲信越ブロック専攻医継続支援企画) 第12回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会 2024年3月10日

9. 鋪野紀好 ホスピタリスト Boot Camp ～外来診療編～ 第28回日本病院総合診療医学会学術総会 2024年3月29日
10. 鋪野紀好 ロールモデルの実践例から学ぶ病院総合診療の臨床研究 第28回日本病院総合診療医学会学術総会 2024年3月29日
11. 鋪野紀好 Meet the fascinating general hospitalists! (Vol.5) 第28回日本病院総合診療医学会学術総会 2024年3月30日
12. 鋪野紀好 症例検討から学ぶ診断推論戦略 by JUGLER (vol.8) 第28回日本病院総合診療医学会学術総会 2024年3月30日
13. 臼井いづみ 学生の学びを支援するーシミュレーション教育の基本ー 周南公立大学地域健康交流センター研修会 2024年3月17日
14. 桐山加奈子 米国ナラティブ・メディスンの世界ーナラティブと人間としての医師 第47回ママトクターの会 2024年1月28日
15. 桐山加奈子 ステイグマとナラティブ 第3回千葉糖尿病スキルアップセミナー 2024年3月28日
16. 田中和美, 清水郁夫 患者安全の視点を多職種連携教育に取り入れるー patient journey mapping を体験してみよう 第56回日本医学教育学会大会 2024年8月10日
17. 鋪野紀好 日本医学教育学会大会プログラムの共創ー多様性を力に変える医療者教育へ 第56回日本医学教育学会大会 2024年8月9日
18. 清水郁夫, 江幡智栄, 岩瀬有希, 横山威一郎, 坂井直子, 伊藤彰一, 相馬孝博 ロールプレイを用いて患者協働を学ぶ医学生対象のワークショップ 第19回医療の質・安全学会 2024年11月29日
19. 田中和美, 清水郁夫 真の多職種連携のために学ぶ、お互いの患者安全コンピテンシー 第19回医療の質・安全学会 2024年11月29日
20. 鋪野紀好 ピットフォールを回避するための診断推論戦略 Kobe Master Class for GIM 2024 Winter 2024年12月19日
21. 鋪野紀好, 山中克郎, 小泉俊三 第10回 Choosing Wisely Japan オンライン・レクチャー「提言: 日本の Choosing Wisely、こうして進めよう」 Choosing Wisely Japan 2024年10月6日
22. 鋪野紀好 日本医療 AI アカデミー 第10回オンライン勉強会「臨床推論 2.0」 日本医療 AI アカデミー第10回オンライン勉強会 2024年9月29日
23. 多胡雅毅, 志水太郎, 鋪野紀好, 和足孝之, 佐々木陽典, 高橋宏瑞 病院総合診療専門研修と試験の Tipsー FHGM 1期生の経験から学ぶー (オンライ

ンシンポジウム 12) 第 29 回日本病院総合診療医学会学術総会 2024 年 9 月 7 日～2024 年 10 月 11 日

24. 鋪野紀好, 多胡雅毅, 志水太郎, 佐々木陽典, 和足孝之, 高橋宏瑞 ホスピタリストブートキャンプ vol.2～外来診療応用編 第 29 回日本病院総合診療医学会学術総会 2024 年 9 月 7 日
25. 鋪野紀好, 多胡雅毅, 吉村文孝, 國友耕太郎, 志水太郎, 佐々木陽典, 和足孝之, 高橋宏瑞 症例検討から学ぶ診断推論戦略 byJUGLER (Vol.10) 第 29 回日本病院総合診療医学会学術総会 2024 年 9 月 7 日
26. 鋪野紀好, 他 医師のためのウェルビーイングコーチング 米国内科学会日本支部年次総会・講演会 2024 2024 年 6 月 23 日
27. 鋪野紀好, 他 Refeeding 症候群の予防と治療: Uptodate 米国内科学会日本支部年次総会・講演会 2024 2024 年 6 月 22 日
28. 鋪野紀好, 他 鼻血 (Epilexis): いざ! という時のピンチを切り抜ける方法ーハンズオンセミナー 米国内科学会日本支部年次総会・講演会 2024 2024 年 6 月 22 日
29. 鋪野紀好 症例検討から学ぶ診断推論戦略 by JUGLER (vol.9) 第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2024 年 6 月
30. 酒井郁子 シンポジウム 3「患者中心の医療を実現するチーム医療と教育」日本における専門職連携教育のいままでとこれから 第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学術大会 2024 年 8 月 30 日
31. 酒井郁子 理事会企画 今後の学会活動の探求ー 30 年の学会の歩みをふまえて 第 30 回千葉看護学会学術集会 2024 年 9 月 7 日
32. 酒井郁子 シンポジウム II 災害時の生活支援と専門職連携 3) 大学院教育における災害時専門職連携演習 (災害 IP 演習) 第 17 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会 2024 年 11 月 10 日
33. 鋪野紀好 総合診療医の視点から迫る慢性疼痛患者への診断アプローチ (シンポジウム 4: 慢性疼痛に潜む pit fall) 第 17 回日本運動器疼痛学会 2024 年 11 月 30 日
34. 半田秀雄, 鶴沢顕之, 湊谷和幹, 荒木信之, 水地智基, 安田真人, 桑原聡 MG & LEMS 【WS1】 Lambert-Eaton 症候群の診断に関わる因子および免疫治療効果の解析 第 36 回日本神経免疫学会学術集会 2024 年 10 月 4 日

【学会発表数】

国内学会 37 学会 78 回

国際学会 5 学会 6 回

※当室の大学院生は教員を兼務しており、内訳省略。

【外部資金獲得状況】

1. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 「尊厳あるケアのための多層的リーダーシップ発揮による身体拘束縮小戦略の理論化と普及」代表者: 酒井郁子 2024-2026
2. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 「看護の役割拡大に伴う判断に係る教育プログラム構築: コンピテンシー、EPAs の明文化」分担者: 酒井郁子 2024-2026
3. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 「特定行為に係る看護師の研修制度の政策過程の分析」分担者: 酒井郁子 2024-2026
4. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 「専門職連携教育が有する学習者のエージェンシーに対する教育効果の多機関共同研究」分担者: 酒井郁子 2024-2028
5. 厚生労働科学研究費補助金「令和 2 年度の医師臨床研修制度の見直しの影響の評価のための研究」分担者: 伊藤彰一 2024-2025
6. 同上「同上」研究協力者: 鋪野紀好 2024-2025
7. 厚生労働省行政推進調査事業費「医師臨床研修制度における基本的臨床能力評価試験の活用等に関する研究」分担者: 鋪野紀好 2024-2026
8. 厚生労働省厚生労働科学研究費補助金 政策科学総合研究事業政策科学推進研究事業「総合的な診療能力を有する医師の活躍推進方策に関する調査研究」研究協力者: 鋪野紀好 2024-2026
9. 厚生労働省厚生労働科学研究費補助金事業「ICT を利用した医師国家試験の評価方法の開発と検証のための研究」研究協力者: 鋪野紀好 2024-2026
10. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 「医学教育プログラムのモニタ・評価・改善に資する質保証の好循環システムに関する研究」分担者: 笠井大, 鋪野紀好, 伊藤彰一 2024-2026
11. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (A) 「AI による対話技術を活用した模擬患者アバターでの仮想空間医療面接教育基盤の創生」分担者: 山内かつ代, 伊藤彰一, 鋪野紀好 2024-2028
12. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 「人工呼吸管理に習熟した医療人材育成の為の多職種連携教育手法の開発および効果検証」代表者: 田島寛之 2024-2028
13. 同上「同上」分担者: 伊藤彰一, 笠井大 2024-2027
14. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 「診療参加型臨床実習を推進する新たな指導法の開発: 汎用化に向けた多施設共同研究」分担者: 笠井大, 鋪野紀好, 塚本知子, 伊藤彰一 2023-2026
15. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (C)

- 「卒前卒後の地域医療学修を支える地域実践型指導
医育成プログラムの開発と評価」代表者：山内かつ
代 2023-2025
16. 同上「同上」分担者：鋪野紀好, 伊藤彰一 同上
 17. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)
「DXに基づく急性期病院の認知症ケア専門職連携
を促進するSimulation Platformの開発」分担者：
酒井郁子 2023-2026
 18. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)
「軽度認知機能障害者に対する睡眠データを活用し
たハイブリッド型看護外来の構築」分担者：酒井郁
子 2022-2025
 19. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)
「在宅移行期にある多疾患併存状態の高齢患者に関
し病院医が在宅医に提供すべき診療情報」分担者：
酒井郁子 2022-2024
 20. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)
「行政と協働した日本型対話促進 ACP モデルによ
る教育的介入と社会的スキームの実装」分担者：高
橋在也 2022-2026
 21. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究「実
践的EBM能力を有する医療者養成のための教育
プログラム開発とその効果検証」代表者：笠井大
2021-2025
 22. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)
「医療系学部・大学院の全員留学による学びの包括
的評価に関する実証研究」分担者：伊藤彰一, 酒井
郁子 2021-2025
 23. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)
「理系アカデミアのパワハラ・アカハラ尺度の開発」
分担者：清水郁夫 2021-2024
 24. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)
「生涯学習としての患者安全：事故事例から自己研
鑽をもたらし学習科学的戦略の確立」代表者：清
水郁夫 2021-2024
 25. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究「自
然言語処理による自動ICFコーディングシステム
の構築」代表者：尾崎尚人 2020-2024
 26. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究「定
着村事業に着目した韓国ハンセン病政策史再考」代
表者：吉田幸恵 2020-2024
 27. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究
(B)「1960年代の教育・労働裁判が教育政策に与
えた影響に関する実証的研究」分担者：木村康彦
2024-2027
 28. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)
「日本型福祉国家における臨時教育審議会に関する
研究」分担者：木村康彦 2023-2027
 29. 早稲田大学教育総合研究所・研究部会公募研究助成
費「私立大学における高大接続に関する研究：内部
進学など多様な入試形態に着目して」分担者：木村
康彦 2023-2024
 30. 日本学術振興会科学研究費助成事業 研究活動
スタート支援「社会変動に直面する私立高等学
校経営に関する実証的研究」代表者：木村康彦
2020-2024

【受賞歴】

1. 笠井大, 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会こ
とはじめ 2024 (2024年4月)
2. 笠井大, 千葉大学医学部スカラシップ指導者賞
2024 (2025年2月)

●地域貢献

- ・NPO 法人千葉県医師研修支援ネットワークの運営委員として、医療専門職の研修を支援した。
- ・千葉県 健康福祉部 医療整備課 医師のキャリア形成プログラムに係るワーキンググループの委員として、千葉県
医師修学資金受給生の支援活動を行った。
- ・医療系大学間共用試験実施評価機構 医学系 OSCE 推進会議の副委員長として活動した。
- ・医療系大学間共用試験実施評価機構 医学系 OSCE の関連委員会である、評価解析委員会、到達基準検討委員
会の委員長として活動した。また、実施管理委員会、学修評価項目改訂小委員会、認定評価者小委員会、認定標
準模擬患者小委員会、動画製作小委員会の委員として活動した。
- ・医療系大学間共用試験実施評価機構 試験信頼性妥当性検討委員会の委員として活動した。
- ・国立大学病院長会議 常置委員会（教育担当）教育ワーキンググループ委員 として活動した。
- ・文部科学省高等教育局医学教育課「医学・歯学教育指導者のためのワークショップ」に技術参与として活動した。
- ・国際交流として、レスター大学からの学生・医師に対する受け入れと教育プログラムの提供した（レクチャー、
ワークショップ、地域医療機関でのサービスラーニング、インターンシップ）。・千葉大学教育学部附属中学校の
生徒を対象に、講義を行った。

●その他

- ・千葉大学大学院医学研究院附属クリニカル・スキルズ・センター（CCSC）を整備・運営して、医学生、研修医、
その他の医療専門職の研修を行った。

研究領域等名：	診	断	推	論	学
診療科等名：	総	合	診	療	科

●はじめに

今年度は、研究として、エキスパートモデルと AI を融合させた診断推論アプリの開発、ChatGPT を用いた医学教育、総合診療科による千葉大学病院全診療科の領域横断的診療支援など、臨床や教育を基盤とした研究を中心に実践した。また臨床では、他院で診断不明とされた診断困難症例を中心に、セカンドオピニオン外来を軸とした外来診療で収益を確保した上で、臓器横断的な切り口で取り組んだ。教育は、診断推論カンファレンス（年 48 回）、東千葉メディカルセンターとの遠隔カンファレンス（年 30 回）、さんむ医療センターとの遠隔カンファレンス（年 1 回）、青葉病院との合同カンファレンス（年 9 回）を中心に様々な教育環境を構築し、学内外から多数の医学生や臨床研修医、医師の見学者が訪れた。生涯教育として、卒前：学生（医学教育および医薬看 IPE）から卒後：若手医師、大学院生、復職女性、研修登録医（他専門領域からの学び直し）に至る、シームレスなキャリアプランを提示して、育てた医師が次世代を教える育成サイクルを構築した。さらに看護師特定行為研修臨床推論実習の指導を受け入れ、計 9 名の看護師特定行為研修生を受け入れた。研究論文の発表や講演に加えて、診断推論の学びを広く共有するために当科の各種取組み、実践について、対外的な発信を積極的に行った。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医・薬・看の 1－4 年次の学生に対する IPE：専門職連携教育および診断推論学の領域でユニット講義（「総合診療の専門性」「コモンディジーズレクチャー」「症候学」など）、ベッドサイドラーニングならびに臨床クラークシップ（以下 CC）を実施した。CC は 5 年次 2 週間、6 年次 4 週間の診療参加型実習を行った。PBL テュートリアルは、各グループ 1 症例、計 38 回実施した。年 48 回の外来症例検討会、年 30 回の東千葉メディカルセンター、年 1 回のさんむ医療センターとの遠隔カンファレンスおよび年 9 回の千葉市立青葉病院合同カンファレンス、を実施し、発表者が提示した臨床情報を元に参加者全員がディスカッションを行い診断に至る過程を学習させた。

・卒後教育／生涯教育

●卒後教育

初期研修医 8 名、専攻医 5 名に対して、他院で診断が付かず紹介されてきた診断困難例を中心に、外来・病棟の専門的教育を行った。全症例で屋根瓦式教育方式を採用しており、当該患者の正確な診断、診断エラーの考察などを指導医からフィードバックしている。卒前卒後の学生・医師を対象とした科内カンファレンスは今年度総計 87 回実施した。

●生涯教育

復職女性 2 名（24 年度は 0）、研修登録医 21 名に対して症例検討会年 87 回を中心に、それぞれの教育段階で必要なカリキュラムの共有と実践を行った。育てた医師が若手医師を教える育成サイクルを構築して、持続可能な教育体制を提供した。

・大学院教育

大学院生 1 名を対象に博士過程 90 分×15 コマ（2 単位）の臨床推論学特論および臨床推論学実習を実施した。診断推論を重視したトレーニングを行い、地域医療での幅広い問題解決能力を身につけて、指導医として若手医師を教育するためのスキルを身につけている。

外来診療、在宅医療、緩和ケア、予防医学、リハビリ、地域保健活動を専門職連携のもとで研修している。

臨床研究の方法論を概説し、研究の立案、実施について指導を行い、学会、論文発表を行った。

総合内科専門医あるいは家庭医療専門医を取得し、指導医としての研修を受けながら学位を取得するプログラムを構築、実践した。

●研 究

・研究内容

診断推論学、医学教育、AI 診療に関する研究を中心に行っている。令和 6 年度科研費「臓器専門診療科入院患者を対象とした領域横断的診療支援システムの開発および効果測定」（4 年間、総事業費 468 万円）、令和 6 年度厚労科研「DPC とタイムスタディを用いた臓器専門医のプライマリ・ケア診療可視化に基づく医師偏在指標

の開発」(3年間、総事業費 301 万円)、令和 6 年度科研費「診断に特化した BERT ファインチューニングモデルの開発」(3年間、総事業費 468 万円)、「高精度な診断推論 AI の実用化」(1 年間、総事業費 15 万円)、「AI 模擬患者を活用した医療面接実習の有用性の検証」(1 年間、総事業費 50 万円)等を研究中である。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Yokokawa D, Shikino K, Nishizaki Y, et al. Evaluation of a Computer-Based Morphological Analysis Method for Free-Text Responses in the General Medicine In-Training Examination: Algorithm Validation Study. *JMIR Med Educ*. 2024 Dec 5;10:e52068.
2. Yanagita Y, Yokokawa D, Uchida S, et al. Can AI-Generated Clinical Vignettes in Japanese Be Used Medically and Linguistically?. *J Gen Intern Med*. 2024 Dec;39(16):3282-3289
3. Fukuzawa F, Yanagita Y, Yokokawa D, et al. Importance of Patient History in Artificial Intelligence-Assisted Medical Diagnosis: Comparison Study. *JMIR Med Educ*. 2024 Apr 8;10:e52674
4. Yanagita Y, Yokokawa D, Fukuzawa F, et al. Expert assessment of ChatGPT's ability to generate illness scripts: an evaluative study. *BMC Med Educ*. 2024 May 15;24(1):536.
5. Yokokawa D, Uehara T, Ohira Y, et al. A Cross-Sectional Study on Whether Comprehensively Gathering Information From Medical Records Is Useful for the Collection of Operational Characteristics. *Cureus*. 2024 Jun 4;16(6):e61641
6. Shikino K, Shimizu T, Otsuka Y, et al. Evaluation of ChatGPT-Generated Differential Diagnosis for Common Diseases With Atypical Presentation: Descriptive Research. *JMIR Med Educ*. 2024 Jun 21;10:e58758
7. Shikino K, Nishizaki Y, Nagasaki K, et al. Residency Program Directors' Perspectives on Overtime Duty Hours and Professional Development Time in Japan. *Adv Med Educ Pract*. 2024 Dec 9;15:1185-1194.
8. Shikino K, Nishizaki Y, Kataoka K, et al. Association between physicians' maldistribution and core clinical competency of resident physicians: a nationwide cross-sectional study. *BMJ Open*. 2024 Oct 18;14(10):e083184
9. Shikino K, Nishizaki Y, Kataoka K, et al. A novel resident physician examination using clinical simulation video to assess clinical competence in Japan: a cross-sectional study. *BMC Med Educ*. 2024 Nov 30;24(1):1402
10. Kurihara M, Yanagita Y, Yokokawa D, et al. Atypical Kikuchi-Fujimoto Disease: FDG-PET Contribution To The Diagnosis. *Eur J Case Rep Intern Med*. 2024 Jan 25;11(2)
11. Tamura H, Ishizuka K, Mori T, et al. 'I Have Been an Anomaly': Transcortical Sensory Aphasia. *Am J Med*. 2024 Mar;137(3):e52-e53.
12. Yokokawa D, Yanagita Y, Li Y, et al. For any disease a human can imagine, ChatGPT can generate a fake report. *Diagnosis (Berl)*. 2024 Feb 23;11(3):329-332.
13. Shikino K, Sekine M, Nishizaki Y, et al. Distribution of internal medicine rotations among resident physicians in Japan: a nationwide, multicenter, cross-sectional study. *BMC Med Educ*. 2024 Mar 20;24(1):316
14. Shikino K, Nishizaki Y, Fukui S, et al. Development of a Clinical Simulation Video to Evaluate Multiple Domains of Clinical Competence: Cross-Sectional Study. *JMIR Med Educ*. 2024 Feb 29;10:e54401

【雑誌論文・和文】

1. 田村弘樹, 塚本知子, 山本大基, 上原孝紀, 生坂政臣「キーフレーズで読み解く外来診断学」部位が変わる腹痛発作を主訴に受診した 43 歳女性 日本医事新報 2024;5202:1-2
2. 田村弘樹, 横川大樹, 小島淳平, 上原孝紀, 生坂政臣「キーフレーズで読み解く外来診断学」霧視、手足の痠痺感、むくみ感などの多愁訴で受診した 67 歳男性 日本医事新報 2024;5206:1-2
3. 横川大樹, 山内陽介, 小島淳平, 上原孝紀, 生坂政臣「キーフレーズで読み解く外来診断学」新型コロナウイルスワクチン接種後に指の痛みを訴えた 35 歳女性 日本医事新報 2024;5237:1-2
4. 田村弘樹, 小島淳平, 野田和敬, 上原孝紀, 生坂政臣「キーフレーズで読み解く外来診断学」発作性の四肢痛を主訴に受信した 18 歳女性 日本医事新報 2024;5239:1-2
5. 田村弘樹, 横川大樹, 小島淳平, 上原孝紀, 生坂政臣「キーフレーズで読み解く外来診断学」右手が部分的に黄色くなったと訴える 41 歳男性 日本医事新報 2024;5241:1-2
6. 田村弘樹, 柳田育孝, 横川大樹, 上原孝紀, 生坂政臣「キーフレーズで読み解く外来診断学」右腰背部痛を主訴に受診した 76 歳男性 日本医事新報 2024;5243:1-2
7. 田村弘樹, 上原孝紀, 柳田育孝, 横川大樹, 生坂政臣「キーフレーズで読み解く外来診断学」伸び、

および床に就く際のめまいを主訴に受診した 58 歳
日本医事新報 2024;5245:1-2

8. 近藤健, 塚本知子, 野田和敬, 上原孝紀, 生坂政臣
「キーフレーズで読み解く外来診断学」階段での転
倒後に左足の脱力を主訴に受診した 70 歳女性 日
本医事新報 2024;5247:1-2
9. 田村弘樹, 上原孝紀, 柳田育孝, 横川大樹, 生坂
政臣「キーフレーズで読み解く外来診断学」急性
の手足のしびれを訴えた 52 歳女性 日本医事新報
2024;5250:1-2
10. 近藤健, 塚本知子, 上原孝紀, 野田和敬, 生坂政
臣「キーフレーズで読み解く外来診断学」左肩から
左側胸部の痛みを訴えた 58 歳女性 日本医事新報
2024;5252:1-2

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会 発表は除く）】

1. 第 15 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
pharmG presented by 千葉大総診
2. 上原孝紀 第 56 回日本医学教育学会 大学病院を
フィールドとしたジェネラルな生涯教育の可能性
3. 横川大樹 令和 6 年度プライマリ・ケア学術講演会
ワールドカフェ～千葉のキラキラ Dr に聞いてみよ
う～
4. 千葉大学医学部・病院 150 周年記念 いすみ鉄道タ
イアップ企画 総合診療ってな～に？&病気のサイ
ンと予防
5. 第 2 回昭和大学リウマチ膠原病カンファレンス～
General Rheumatologist を育む会～ 脳トレ診断推
論～ Big picture と detail を使いこなす～
6. 千葉県小児科・総合診療専門研修プログラム オン
ラインセミナー 2 キャリアガイダンス 総合診療
という選択
7. 適々斎塾 クリスマス記念セミナー 診断力のネク
ストステージ：推論スキルの鍛え方

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

●外来診療

院内外から当科への紹介率は 99%あり、他院で診断が付かなかった診断困難症例を中心に外来診療を行った。初再診合わせた総外来患者数は 2060 人、初診患者数が 684 人（うち保険 268 人、セカンドオピニオン 416 人）であった。セカンドオピニオン患者 437 人のうち 10 人はオンライン・セカンドオピニオン診療で実施した。診断は、精神 32%, 神経系 21%, 筋骨格系 15%が上位を占めており、生物・心理・社会的な問題を包括的に扱う臓器横断的な診療を実践した。外来新患率は 33.2%（前年差 5.9%）と維持し、逆紹介割合（新基準）は 199.0%（前年度逆紹介率 -12.6%（旧基準））と積極的に病診連携を行う事によって再診患者を減らし、新患を県内外から積極的に獲得した。千葉県外からの受診は 234 人（うちオンライン・セカンドオピニオン診療 6 人）であり、新患の 34.2%を占め、本院のブランディングにも繋がっていると考えられる。

8. 2024 年度第 1 回専門医の集い 一般社団法人日本
専門医機構 総合診療専門医検討委員会
9. 横川大樹 地域医療に診断を、ちいここ合宿 in 館
山
10. 東京都学校保健研究会 8 月研究会 保健室で使える
フィジカルアセスメント 2024 -こころがからだに
影響するとき- BioPsychoSocial アプローチ
11. 東部高等学校保健会合同研修会 健室における
フィジカルアセスメント-こころがからだに影響す
るとき- BioPsychoSocial アプローチ
12. マイナビ座談会 総合診療医としての医師ライフ～
女性医師が語る総合診療の魅力～

【学会発表数】

国内学会 3 学会 7 回（うち大学院生 1 回）

国際学会 1 学会 1 回（うち大学院生 0 回）

【外部資金獲得状況】

1. 日本学術振興会「臓器専門診療科入院患者を対象と
した領域横断的診療支援システムの開発および効果
測定」代表者：上原孝紀 2024 年度
2. 厚生労働省「DPC とタイムスタディを用いた臓器
専門医のプライマリ・ケア診療可視化に基づく医師
偏在指標の開発」代表者：上原孝紀 2024 年度
3. 日本学術振興会「診断に特化した BERT ファイ
ンチューニングモデルの開発」代表者：横川大樹
2024 年度
4. ハロラボ合同会社「高精度な診断推論 AI の実用化」
代表者：上原孝紀 2024 年度
5. 公益財団法人 医学教育振興財団「録画カンファレ
ンスを用いた臨床推論能力向上カリキュラムの開
発」代表者：上原孝紀 2024 年度

【受賞歴】

1. 上原孝紀 第 121 回日本内科学会総会・講演会～医
学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ
2024 東京 優秀指導者賞

●地域貢献

東千葉メディカルセンター総合診療科に常勤3名非常勤3名、さんむ医療センターに常勤5名、千葉市立青葉病院に常勤2名・非常勤2名、東京ベイ・浦安市川医療センターに常勤1名、いすみ医療センターに非常勤2名医師を派遣し、大学との連携を計りつつ地域貢献を実践している。また、千葉県ならびに他県の医師生涯教育や養護教諭対象の講演を行った。

研究領域等名：	臨床研究・治療評価学／グローバル臨床試験学／医療行政学連携講座
診療科等名：	臨床試験部

●はじめに

我が国においても規制に関する十分な知識と連携体制を持つ ARO を整備して ICH-GCP に基づく臨床試験を行うこと、さらに global ARO の一員として、自ら国際社会の一員として主体的に試験を計画立案しこれを実践する体制を構築することは、その成果を社会へ還元する道筋となり、我が国が抱えている臨床研究の問題点を解決する一つの方法となりうる。さらに、次のステップとして Global ARO のアジアにおけるリーダーになること、最終的には世界のリーダーになることを目指すことは、千葉大学のみならず我が国の臨床研究の発展に重要である。従って、千葉大学では、これらを実現するための具体的方策として、平成 15 年より Duke 大学 ARO との連携を行い、長期的な目標と展望に立ち「人材育成」として faculty leader となる医師、研究者の育成、臨床試験専門職となる専門スタッフの育成を行い、規制当局を始めとする連携体制のもと ARO を構築し、ICH-GCP にもとづく臨床試験を実施している。さらに再生医療分野への対応が急務である。

●教 育

・学部教育／卒前教育

- ・医学部 総合臨床薬理学 講義「臨床試験」
- ・医学部 生物統計 講義（8 回）

・卒後教育／生涯教育

I 薬剤部レジデント 臨床試験部研修

薬剤部研修の一環として、薬剤部研修生を対象に臨床試験部の業務について研修を行った。

II 職員教育

- (1) 臨床研究入門講義（講演 90 分 6 回）
 - ① 10/4 ② 10/10 ③ 10/21 ④ 11/6 ⑤ 11/15 ⑥ 11/26
- (2) 臨床研究応用講義（講演 90 分 7 回）
 - ① 1/8 ② 1/17 ③ 1/27 ④ 2/4 ⑤ 2/14 ⑥ 2/25 ⑦ 3/28
- (3) 研究倫理セミナー（特別セミナー）（講演 60 分 3 回）
 - ① 7/24 曾根三郎先生 ② 1/29 江花有亮先生 ③ 3/21 富金原悟先生
- (4) 専門職セミナー（生物統計学中級と品質マネジメント）（講演 60 分 5 回）
 - ① 2/5 北西由武先生 ② 2/20 小山田隼佑先生 ③ 2/28 松岡伸篤先生 ④ 3/12 大庭真梨先生、⑤ 3/19 杉浦友雅先生
- (5) 初期データマネジャー養成研修（講演 2 日間）
 - ① 12/11 横堀真先生、宮里盛幸先生 12/12 池田裕弥先生、横堀真先生
- (6) 倫理審査委員会研修会（講演 60 分 3 回）
 - ① 9/17 中村哲也先生 ② 10/21 尾内善広先生 ③ 3/17 島津実伸
- (7) 治験・倫理審査委員会委員研修（講演 1 日間）
 - ① 1/11 栗原千絵子、丸祐一、土田直子、島津実伸、青柳玲子、土屋楓
- (8) 医師研修（医師・歯科医師）臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム（講演 1 日間）
 - ① 11/9 菅原岳史
- (9) モニター研修（初中級）（講演 1 日間）
 - ① 1/19 樋掛民樹
- (10) 新人 OJT 研修
 - ・新人専門職スタッフを対象（4 名）

・大学院教育

- (1) 臨床研究入門 1 単位 年 6 回開催
 - ① 10/4 ② 10/10 ③ 10/21 ④ 11/6 ⑤ 11/15 ⑥ 11/26
- (2) 臨床研究応用 1 単位 年 7 回開催
 - ① 1/8 ② 1/17 ③ 1/27 ④ 2/4 ⑤ 2/14 ⑥ 2/25 ⑦ 3/28

(3) 医薬統計概論 1単位 年8回開催

① 10/3 ② 10/10 ③ 10/17 ④ 10/24 ⑤ 10/31 ⑥ 11/7 ⑦ 11/14 ⑧ 11/21

(4) 医学薬学研究序説・生命倫理学特論 講義「薬剤の臨床試験」

(5) イノベティブ先端治療学 講義「総論」

・その他(他学部での教育、普遍教育等)

(薬学部)

・薬学部3年 臨床研究総論

●研究

・研究内容

医薬品、医療機器、再生医療製品の開発を目的とした研究を学内外の研究者と連携して実施している。再生医療に関するプロジェクト、ドラッグリポジショニングに関する課題、医療機器に関する課題など多くの課題について取り組んでいる。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Hidaka M, Hanaoka H, Uyama Y. Different Development Strategies Affecting Japan's Drug lag between Japan-Based and Foreign-Based Companies. *Ther Innov Regul Sci* 58:714-720, 2024.
2. Aoki A, Iwamura C, Kiuchi M, Tsuji K, Sasaki A, Hishiya T, Hirasawa R, Kokubo K, Kuriyama S, Onodera A, Shimada T, Nagaoka T, Ishikawa S, Kojima A, Mito H, Hase R, Kasahara Y, Kuriyama N, Nakamura S, Urushibara T, Kaneda S, Sakao S, Nishida O, Takahashi K, Kimura MY, Motohashi S, Igari H, Ikehara Y, Nakajima H, Suzuki T, Hanaoka H, Nakada TA, Kikuchi T, Nakayama T, Yokote K, Hirahara K. Suppression of Type I Interferon Signaling in Myeloid Cells by Autoantibodies in Severe COVID-19 Patients. *J Clin Immunol* 44:104, 2024.
3. Fujita M, Nagashima K, Shimazu M, Suzuki M, Tauchi I, Sakuma M, Yamamoto S, Hanaoka H, Shozu M, Tsuruoka N, Kasai T, Hata A. Effectiveness of self-sampling human papillomavirus test on precancer detection and screening uptake in Japan: The ACCESS randomized controlled trial. *Int J Cancer* 155:905-915, 2024.
4. Shimizu E, Sato D, Hirano Y, Ebisu H, Kagayama Y, Hanaoka H. Digital cognitive-behavioural therapy application compared with zolpidem for the treatment of insomnia: protocol for an exploratory randomised controlled trial. *BMJ Open* 14:e081205, 2024.
5. Ishibashi R, Inaba Y, Koshizaka M, Takatsuna Y, Tatsumi T, Shiko Y, Kashiwagi Y, Maezawa Y, Kawasaki Y, Kawakami E, Yamamoto S, Yokote K. Sodium-glucose co-transporter 2 inhibitor therapy reduces the administration frequency of anti-vascular endothelial growth factor agents in patients with diabetic macular oedema with a history of anti-vascular endothelial growth factor agent use: A cohort study using the Japanese health insurance claims database. *Diabetes, Obesity and Metabolism* 26:1510-1518, 2024.
6. Matsuoka A, Tate S, Nishikimi K, Otsuka S, Usui H, Tajima S, Habu Y, Nakamura N, Okuya R, Katayama E, Shozu M, Inaba Y, Koga K. Therapy-related myeloid neoplasms after treatment for ovarian cancer: A retrospective single-center case series. *J Obstet Gynaecol Res* 50:1148-1154, 2024.
7. Kurosugi A, Matsumura T, Sonoda M, Kaneko T, Takahashi S, Okimoto K, Akizue N, Ohyama Y, Mamiya Y, Nakazawa H, Horio R, Goto C, Ohta Y, Taida T, Kikuchi A, Fujie M, Murakami K, Uesato M, Ozawa Y, Kato J, Matsubara H, Kato N. Two set types of achalasia and the long-term course to diagnosis. *Esophagus : official journal of the Japan Esophageal Society*. *Esophagus* 21:546-551, 2024.
8. Kobayashi K, Ogasawara S, Itobayashi E, Okubo T, Itokawa N, Nakamura K, Moriguchi M, Watanabe S, Ikeda M, Kuroda H, Kawaoka T, Hiraoka A, Yasui Y, Kuzuya T, Sato R, Kanzaki H, Koroki K, Inoue M, Nakamura M, Kiyono S, Kanogawa N, Kondo T, Nakamoto S, Ozawa Y, Tsuchiya K, Atsukawa M, Aikata H, Aramaki T, Oka S, Morimoto N, Kurosaki M, Itoh Y, Izumi N, Kato N. Ramucirumab for advanced hepatocellular carcinoma in the current real world: a Japanese single-arm study post-REACH-2 (The R-evolution study). *Invest New Drugs* 42:394-404, 2024.
9. Shikano K, Ikari J, Nakajima T, Ota M, Shiko Y, Naito A, Abe M, Kawasaki T, Ikeda JI, Ozawa Y, Suzuki T. Franseen needle in endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration:

a phase II prospective study. Jpn J Clin Oncol 54: 1037-1044, 2024.

10. Ikari J, Katsumata M, Urano A, Imamoto T, Suzuki Y, Nishiyama A, Yokota H, Ono K, Okamoto K, Abe E, Kamata T, Fujii S, Okumura K, Ota J, Suzuki E, Kawata N, Ozawa Y, Masuda Y, Matsushita K, Sakao S, Uno T, Tatsumi K, Suzuki T. Dynamic chest radiographic evaluation of the effects of tiotropium/olodaterol combination therapy in chronic obstructive pulmonary disease: the EMBODY study protocol for an open-label, prospective, single-centre, non-controlled, comparative study. BMJ Open Respir Res 11: e002374, 2024.
11. Nakao S, Tsukamoto S, Takeda Y, Ohwada C, Ri C, Izumi S, Kamata Y, Matsui A, Shibamiya S, Ishii A, Takaishi K, Takahashi K, Shiko Y, Oshima-Hasegawa N, Muto T, Mimura N, Yokote K, Nakaseko C, and Sakaida E. Clinical impact of airflow obstruction after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Int J Hematol 120:501-511, 2024.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. Hanaoka H. The REACTA FORUM 2024 (Aug 2-3, 2024, Taipei) Session 5: Country Updates from the Region “CCRC Activities and Clinical Trial Networks as AROs in Japan”
2. Kawakami M. The REACTA FORUM 2024 (Aug 2-3, 2024, Taipei) Part IV: Future of Decentralised Clinical Trials “Activities to Promote DCTs in Japan”
3. 稲葉洋介. 第41回和漢医薬学会学術大会（2024年8月24日～8月25日、亥鼻キャンパス）ワークショップ2「臨床研究における生物統計学の役割」
4. 高橋康平. ARO協議会第11回学術集会（2024年9月20日～9月21日、兵庫）若手統計家の集い 疫学研究における pitfalls ～バイアスとその対処～「リアルワールドデータを扱う上で発生するバイアスについて～医療機器の自発的な不具合報告を用いた経験より～」
5. 高橋康平. 第44回医療情報学連合大会（2024年11月22日～11月24日、福岡）公募ワークショップ 医療機器安全対策のための情報科学的アプローチ「不具合報告数の変化をシグナルとして用いるための検討について」
6. 花岡英紀. 第45回日本臨床薬理学会学術集会（2024年12月13日～12月14日、埼玉）シンポジウム8

医師主導治験の新しい挑戦「新しい医師主導治験の取り組み」

【学会発表数】

国内学会 5学会 9回（うち大学院生0回）

国際学会 1学会 2回（うち大学院生0回）

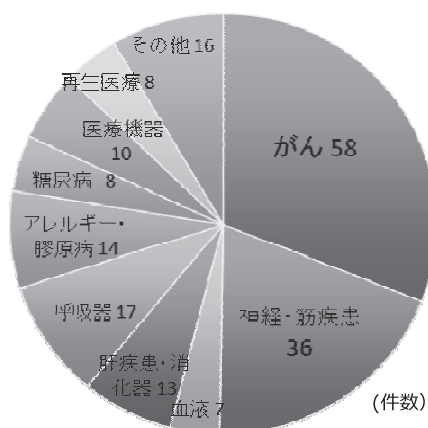
【外部資金獲得状況】

1. 日本医療研究開発機構 医薬品技術実用化総合促進事業「新治療法開発のための医薬品・医療機器・再生医療等製品創造と科学の双翼プロジェクト」代表者：花岡英紀 2024
2. 厚生労働省臨床研究総合促進事業「臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム／臨床研究審査委員会質向上プログラム」代表者：花岡英紀 2024
3. 日本医療研究開発機構臨床研究・治験推進研究事業「子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメトホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験」分担者：花岡英紀 2019-2024
4. 科学研究費補助金 基盤研究(C)「生存時間をエンドポイントとする用量反応性試験の評価指標の研究：ベイズ流アプローチ」代表者：稲葉洋介 2020-2024
5. 科学研究費補助金 若手研究「NDBを用いた環境変動による耳鼻咽喉科関連疾患への影響評価手法の確立」代表者：黒川友哉 2022-2024
6. 日本医療研究開発機構 ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 千葉シナジーキャンパス」分担者：花岡英紀 2022-2026
7. 厚生労働行政推進調査事業費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業「ICH-CGP改定における日本からのステークホルダー参画のための研究」分担者：花岡英紀 2023-2025
8. 日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究事業「川崎病患者に対する免疫調節療法の最適な適応基準を見いだす探索的研究」分担者：花岡英紀 2023-2025
9. 厚生労働科学研究費補助金 臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業「ICT技術を利用した新規安全性情報報告の基盤構築に資する調査研究」代表者：花岡英紀 2023-2025
10. 日本医療研究開発機構 ワクチン・新規モダリティ研究開発事業「コメ型経口ワクチン MucoRice-CTB_19A の開発とヒトでの粘膜免疫誘導効果実証とそれを応用した呼吸器感染症に対する新規常温安定備蓄型経口ワクチンプラットフォームを目指す研究開発」分担者：花岡英紀 2023-2026

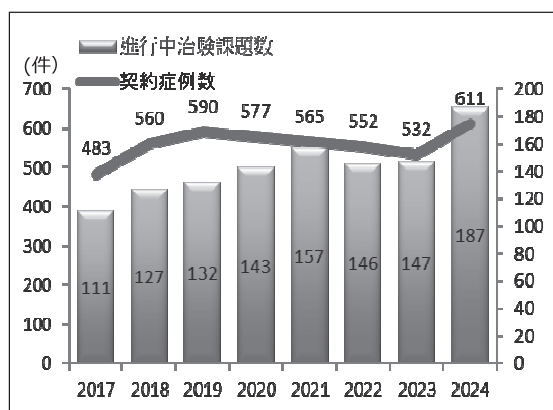
●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

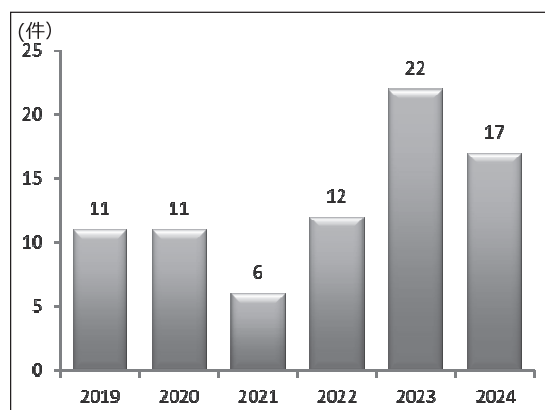
専門別治験実施件数



治験の契約数と症例数



特定臨床研究受入れ件数（新規） （千葉大主導）＊臨床研究法下



医師主導治験

- ①家族性レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ（LCAT）欠損症に対する LCAT 遺伝子導入前脂肪細胞の自家投与による再生医療／遺伝子治療の医師主導治験（投与後 24 週間）
- ②家族性レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ（LCAT）欠損症に対する LCAT 遺伝子導入前脂肪細胞の自家投与による再生医療／遺伝子治療の医師主導治験（投与後 240 週間）
[長期継続試験]
- ③不眠症患者に対する認知行動療法アプリ（IHIP MED：スリーピーメド）の有効性および安全性を評価するためのゾルピデム酒石酸塩を対照とした 2 群のランダム化非盲検多施設共同探索試験
- ④間質性肺炎を合併する抗 MDA5 抗体陽性皮膚筋炎患者を対象とした、triple therapy・トファシニブ併用療法の有効性を検討する シングルアーム・第Ⅱ相試験
- ⑤肝細胞癌に対する重粒子線治療後の補助療法としてのアテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法の安全性と有効性を評価する第Ⅰb/Ⅱ相臨床試験

他 3 件

●地域貢献

- 1) 県立千葉中学授業（対象：中学 3 年生 約 80 名、① 7/1 ② 7/17 7 時間 30 分）

実験を通じた授業を実施

対象：中学 3 年生 約 80 名

- ①人体の仕組みと薬の関わりを知り、個人差について理解する
- ②臨床試験を疑似体験し、臨床試験を理解する
- ③臨床試験のデザインに挑戦しよう！

研究領域等名：	医 療 情 報 学
診療科等名：	企 画 情 報 部

●はじめに

業務では総合病院情報システムのリブレースにおいて、ベンダー変更かつノンカスタマイズでの導入という難易度の高いミッションを遂行した。新しいシステムを基盤に業務の効率化や厚労省モデル事業への参加を行った。また、年々厳しさを増すサイバー攻撃に対する情報セキュリティ対策・対応を継続して実施した。情報セキュリティに関するインシデント事例に関してはセミナー等を通じて教職員や学生に対して情報を共有し、再発防止とモラル・リテラシーの向上を図った。

教育では院内に加えて、千葉県内の他の教育機関等でも講義を担当し、医療情報学の基本的知識の普及に努めた。研究では、文部科学省、内閣府、厚生労働省、AMED、PMDA、国立がん研究センターなどからの外部資金を獲得し、医療の高度情報化に向けた研究・開発を行った。

●教 育

・学部教育／卒前教育

- ・医療経済情報学ユニット：医学部4年次学生を対象に現在の医療システムを国際的視野に立って理解し、この環境のもとでの病院管理の基本事項を理解するために、基盤となる病院情報システム・電子カルテ、電子健康情報（EHR）、医療経済、セキュリティ、診療情報管理に関する教育を行った。
- ・臨床入門：医学部3年次学生を対象に「診療録・POMR」「医療面接から診療録記載」の講義および実習を担当した。
- ・CC ベーシック：医学部4年次学生を対象に「電子カルテの使い方」の講義を担当した。

・卒後教育／生涯教育

- ・新規採用となった教員・医員・研修医・シニアレジデント・メディカルスタッフ・事務系職員に対する、情報モラル・リテラシー、診療情報管理、病院情報システムの利用に関する教育を行った。
- ・安全セミナーなどを通じて、在籍中の教職員に対しても情報モラル・リテラシーの周知に努めている。
- ・東京大学、名古屋大学の社会人向け医療情報関連講義に講師を派遣している。

・大学院教育

遺伝情報学特論において、「Bioinformatics と EHR、Big Data」を担当し、ゲノム医療に有用な最新の医療情報に関する技術・動向に関する教育を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

- ・亥鼻 IPE：看護学部1年次学生、薬学部1年次学生を対象に「個人情報保護」の講義を担当した。
- ・保健情報学：看護学部2年次学生を対象に「医療情報～看護師に求められる情報モラル・リテラシー～」の講義を担当した。
- ・ガイダンス：薬学部5年次学生を対象に「電子カルテの使い方」の講義を担当し、情報モラル・リテラシー、病院情報システムの利用に関する教育を行った。
- ・工学部：医工学コース3年次学生を対象に「医用機器産業概論」の講義を担当し、電子カルテ開発の歴史と課題に関する教育を行った。
- ・外部：次の学校に講師を派遣した。（東京保健医療大学、山王看護専門学校、千葉市青葉看護専門学校）

●研 究

・研究内容

「NDB データによるわが国の肺非小細胞がんに対する化学療法の現状分析」において、主任研究者として、国内複数施設への訪問とデータ収集・分析を行った。

その他、下記（「外部資金獲得状況」欄内）企業と共同研究・開発を行った。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Hiroki Sugane, Yasuhide Asaumi, Soshiro Ogata, Michito Kimura, Tomoaki Kanaya, Tomoya Hoshi, Akira Sato, Hiroyuki Miura, Yoshiyuki Tomishima, Yoshiaki Morita, Kazuhiro Nakao, Fumiyuku Otsuka, Yu Kataoka, Tomohiro Kawasaki, Kunihiro Nishimura, Jagat Narula, Satoshi Yasuda, Teruo Noguchi. Evaluation of fractional flow reserve and

atherosclerotic plaque characteristics on coronary non-contrast T1-weighted magnetic resonance imaging. Atherosclerosis 392 117530-117530 2024. March.26

【雑誌論文・和文】

1. 鈴木隆弘, 「ベンダー変更を伴う電子カルテリプレイスにおけるデータ継承」, 新医療 2024:51(11) 20-24
2. 澤田実佳, 大熊香菜子, 相原允一, 土井俊祐, 関根里恵, 大江和彦, 山内敏正, 窪田直人, 「COVID-19 流行が糖尿病患者に与えた影響に関する年齢別の検討」日本体質医学会雑誌 (1347-7137) 86 巻 1 号 Page65-66 (2024.02)

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 医療 AI の新興研究者達（日本医療情報学会関西支部会 2023 年度第 2 回講演会（春の講演会））
2. 情報をつなぐ、縦軸と横軸（第 28 回日本医療情報学会春期学術大会 大会長講演）
3. 医療現場での生成 AI 活用への期待～「時短」だけではなく「質向上」を目指して～（第 44 回医療情報学連合大会 招待講演）
4. 感染症法に基づく届出様式（個票）の HL7 FHIR 記述仕様書について（第 12 回 NeXEHRs 勉強会 招待講演）

【学会発表数】

国内学会 2 学会 6 回（うち大学院生 0 回）
国際学会 1 学会 1 回（うち大学院生 0 回）

【外部資金獲得状況】

1. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構「医療情報データベース（MID-NET）システムの運用等に係る業務」代表者：鈴木隆弘 2018-2024
2. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構「医療施設における標準コードの効率的なマッピング手法に関する調査および実証研究」分担者：鈴木隆弘 2024-2025
3. 内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「統合型ヘルスケアシステムの構築」分担者：土井俊祐 2023-2027

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

・2024 年 1 月に電子カルテシステムの大規模リプレイスを実施した。

●地域貢献

- ・旭中央病院にて医療情報アドバイザーを務めている。
- ・千葉市医師会医療情報研究委員会の委員を務めている。
- ・令和 6 年能登半島地震における千葉県 DPAT 活動（被災地者支援活動）を行った。

4. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (C)「データ駆動型の医療インシデント集中監視システムの開発に関する研究」代表者：土井俊祐 2023-2025

5. 日本学術振興会科学研究費助成事業 挑戦的研究 (開拓)「近未来の介護ロボットの開発と社会実装のための Ethical Platform 構築」分担者：土井俊祐 2022-2025

6. 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「公的に標準化された医療情報を活用した感染症流行状況と一般診療状況を把握するための分析手法の開発および評価方法に関する研究」分担者：土井俊祐 2023-2024

7. 厚生労働省厚生労働科学研究費補助金 行政政策研究分野政策科学総合研究「ICT 技術を利用した新規安全性情報報告の基盤構築に資する調査研究」分担者：土井俊祐 2023-2025

8. 厚生労働省厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究分野地域医療基盤開発推進研究「次世代の医療情報の標準規格拡充等に資する研究」分担者：土井俊祐 2024

9. 2024 年度国立がん研究センター研究開発費「がん医療の質および提供体制の検討に資する情報基盤の構築・活用に関する研究」分担者：土井俊祐 2024

【特 許】

1. 特許第 7602214 号 医療情報管理システム、医療情報管理プログラムおよび医療情報管理方法
2. 特開 2024-037622 号 プログラムおよび医療情報管理システム

【その他】

以下の医学系学術団体に教員を派遣している。

日本医療情報学会 理事

日本 M テクノロジー学会 理事、代表理事

社会医学系専門医協会 専門医、指導医認定委員会委員

保健医療福祉情報安全管理適合性評価協会（HISPRO）理事

所属学協会としては、上記に加え日本内科学会がある。

●その他

- ・第28回日本医療情報学会春季学術大会（2024年6月・千葉県木更津市）を主催し、大会長・実行委員長・大会事務局を当部が務めた。

研究領域等名：	薬	物	治	療	学
診療科等名：	薬		剤		部

●はじめに

業務では例年通り病棟業務を中心に積極的に薬物療法に関わり、医療安全や病院経営を意識した運営を心がけた。日常化した医薬品の供給不安定への対応に相当の労力を費やし、診療への影響を最小限にする努力を続けた。また、病棟業務向上加算の算定開始により病院経営にも貢献した。

薬学部学生との長期実務実習、薬剤部レジデントへの卒後初期研修、各学会からの研修生受け入れなど教育にも継続して充実化に取り組んだ。

研究は可能な限り継続し、成果を論文化することを目標としたが、システムリプレイス以降の業務増加の影響がここ数年では低い水準となった。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部教育については、探索的先端治療学を90分×1コマ、薬理学を90分×1コマ、およびクリニカルクラシック(CC) basicを90分×1コマを担当した。亥鼻IPEプログラムstep2では、医・薬・看護学部生のMixグループによる専門職インタビューに薬剤師が対応した。また、step4では模擬症例に対して、薬剤師が医・薬・看護学部生グループのコンサルトとして指導した。さらにdaily IPEにも携わった。

薬学部教育については長期実務実習11週間×3クールに対応した。

・卒後教育／生涯教育

薬剤部と薬学部協力講座（医療薬学研究室）の合同セミナーを週1回開催し、論文抄読や研究報告、症例検討などを実施した。薬剤部レジデント生への卒後教育としては、レジデント1、2年生（計13名）に計60コマ程度の講義を行った。また、レジデント2年生に対しては、年間を通じて薬剤管理指導の研修を2病棟にわたり実施した。

さらに日本臨床腫瘍薬学会や日本病院薬剤師会の専門・認定薬剤師の研修生数名の受け入れを行った。この他、当薬剤部、大学院薬学研究院、薬友会の共催により薬剤師卒後教育研修講座を開催し、企画運営や講師を担当した。

・大学院教育

医学薬学府の講義として医療薬学・分子心血管薬理学特論を90分×4コマ、薬物療法情報学特論を90分×6コマ、医学薬学研究序説・生命倫理学特論を1コマ担当した。また、看護学研究科の講義として臨床薬理学を90分×2コマ担当した。

2020年12月より、タイ王国からの留学生（大学院博士課程）を受け入れ研究指導を行うとともに、社会人大学院生も5名在籍し、指導に当たっている。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

薬学部教育においては、薬学教育6年制コース（薬学科）の4年次前期の学生に対し、調剤学を90分×15コマ、薬物治療解析学Ⅰを90分×5コマ、臨床感染症学を90分×2コマ、医療薬学Ⅰを90分×1コマ、薬物治療学Ⅱを90分×2コマを薬剤部の教職員で担当した。さらに、3年次の学生に対して、薬剤師と地域医療を90分×2コマ講義した。その他、4年次の学生に対し漢方治療学を90分×2コマ担当した。普遍教育では、薬学への招待Ⅱを90分×2コマ担当した。

●研 究

・研究内容

2024年度は、持続的血液浄化療法によるガンシクロピルの除去に関する研究や、機械学習を活用した食道がん化学療法後の好中球減少症予測モデル構築に関する研究で2名の学位取得者を輩出した。また、診療科の医師や企業との共同研究として、乳幼児苺状血管腫に対するβブロッカー外用薬の開発、多能性幹細胞の新規培養法に関する研究、薬物の中枢移行に関する数理モデルの確立などに取り組んだ。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Hikasa S, Ishihara M, Tsukiji M, Kunimoto Y, Nobori K, Kimura T, Onishi K, Yamamoto Y, Haruta K, Kasiwabara Y, Fujii K, Kimura T: Factors associated with patient satisfaction with antiretroviral therapy in Japan: A cross-sectional, multicenter study. J Infect Chemother. 2024;30(8):746-751.
2. Kunimoto Y, Hikasa S, Ishihara M, Tsukiji M, Nobori K, Kimura T, Onishi K, Yamamoto Y, Haruta K, Kasiwabara Y, Fujii K, Fukudo M: Factors associated with incomplete adherence to integrase strand transfer inhibitor-containing single-tablet regimen among Japanese people living with HIV. J Pharm Health Care Sci. 2024;10(1):27.
3. Hirayama Y, Le HPN, Hashimoto H, Ishii I, Koizumi S, Anzai N: Preconditioning-induced facilitation of lactate release from astrocytes is essential for brain ischemic tolerance. eNeuro. 2024;11(4):ENURO.0494-23.2024
4. Handa H, Uzawa A, Mori M, Yasuda M, Onishi Y, Akamine H, Ogaya E, Niibe Y, Yokota H, Kuwabara S: Effects of denosumab and bisphosphonates on glucocorticoid-induced osteoporosis in patients with neuroimmunological disorders. Intern Med. 2025;64(4):543-549. doi: 10.2169/internalmedicine.3954-24. Epub 2024 Jul 11.
5. Nemoto H, Hino M, Aoki T, Yamashita Y, Okunishi T, Nagasawa K, Ishiwada N, Watanabe A, Yamazaki S, Hamada H: Effectiveness of isavuconazole in invasive cerebral aspergillosis during hematopoietic stem cell transplantation in a pediatric patient with myelodysplastic syndrome: A case report. J Infect Chemother. 2025;31(1):102478. doi: 10.1016/j.jiac.2024.07.018. Epub 2024 Jul 22.
6. Roongpaiboj Y, Uchida M, Yamazaki S, Sawada M, Suzuki T, Kawasaki K, Niibe Y, Goto Y, Suzuki T, Ishikawa M, Ishii I: Contribution of adsorption and hematocrit levels to ganciclovir clearance in an in vitro continuous hemodiafiltration model. Biol Pharm Bull. 2024;47(7):1396-1404.

【雑誌論文・和文】

1. 上里昌也, 奥山めぐみ, 柴田みづほ, 横山威一郎, 桑原麻理子, 水島舞, 岸田友治, 清水郁夫, 磯野史

朗, 相馬孝博: 侵襲的処置に対する安全かつ持続可能な鎮静法への院内標準化. 医療の質・安全学会誌. 2024;19(1):38-45.

2. 長谷川哲也, 柴田ゆうか, 柴田みづほ, 阿部猛, 宮田祐一, 竹之内正記, 舟越亮寛: 周術期における薬学的管理業務の実態調査－日本病院薬剤師会令和3年度学術第7小委員会「周術期医療における薬学的介入に関するアンケート調査」より－. 日本病院薬剤師会雑誌. 2024;60(7):746-753.
3. 溝神文博, 水野智博, 田口怜奈, 那須いずみ, 新井さやか, 東敬一郎, 松本彩加, 亀井美和子, 小島太郎, 阪井丘芳, 柴田ゆうか, 竹屋泰, 茂木正樹, 山田静雄, 秋下雅弘: 日本版抗コリン薬リスクスケール. 日本老年薬学雑誌. 2024;7(S1):1-26.
4. 舟越亮寛, 阿部猛, 柴田みづほ, 柴田ゆうか, 竹之内正記, 長谷川哲也, 宮田祐一: 令和5年度学術委員会学術第2小委員会報告 周術期医療における薬学的介入効果を実証する調査・研究(最終報告). 日本病院薬剤師会雑誌. 2024;60(10):1151-1155.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表(一般の学会発表は除く)】

1. Canadian Society for Pharmaceutical Sciences より招聘講演
2. 日本病院薬剤師会東北ブロック第13回学術大会にて招聘講演
3. 第9回日本薬学教育学会大会にて招聘講演
4. 第57回日本薬剤師会学術大会にて招聘講演
5. 第34回日本医療薬学会年会にて招聘講演

【学会発表数】

国内学会 8学会 9回(うち大学院生1回)
国際学会 1学会 1回(うち大学院生1回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費(基盤C)「薬物中枢移行性の変動を考慮した薬物療法の実施に向けた情報基盤の構築」代表者: 石川雅之 2024
2. 厚生労働省科学研究費「添付文書における腎機能指標の統一に係る研究」代表者: 石井伊都子 2024
3. 文部科学省科学研究費(奨励研究)「mRNA 搭載脂質ナノ粒子の凍結乾燥状態における活性低下メカニズムの解明」代表者: 白根大貴 2024

【受賞歴】

1. 第72回日本化学療法学会総会 / 第98回日本感染症学会学術講演会合同学会 学術奨励賞受賞(山崎伸吾)

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

調剤・注射室：

入院、外来処方箋に付記される検査値情報を基に処方適正化に向け早期の段階からチェックを行っている。がん患者に対する外来化学療法はさらに増加を続けており、入院も併せて年間約 35,000 件の抗がん薬調製に対応した。化学療法レジメンの管理・登録についてもがん専門薬剤師を中心に整備を進めている。

医薬品管理室：

国内で流通している医薬品のうち 4,000 品目近い医薬品が何らかの影響を受ける中で在庫の確保のための取り組みを行ってきた。他院では安定供給が困難な医薬品についても、当院では比較的安定的な入手を可能としている。

医薬品情報室：

医薬品の安全性に関わる情報を中心として定期的なミーティングを通じて部員への情報提供を行っている。後発医薬品への切り替えも年 2 回の機会を設けて継続して進めており、後発医薬品使用比率は 90% 以上を維持している。近隣保険薬局との協働でトレーシングレポート利用について運用を継続し、医師が外来診療にて処方する際のサポートをおこなっている。

病棟薬剤業務室：

病棟薬剤業務実施加算の算定を継続しながら、薬剤管理指導料算定件数は約 20,000 件を維持している。

TDM・製剤室：

TDM・製剤室では、免疫抑制剤や抗菌薬、抗てんかん薬を中心として約 10,000 件の薬物血中濃度測定および投与量設計を実施し薬物療法をサポートした。また、製剤に関する業務として診療で用いた院内製剤の評価や有効性・安全性管理をするためのシステムにより適正な管理体制となっている。

その他：

患者支援センター、周術期管理センターでの薬剤師による入院前服薬情報聴取業務は約 4,200 件に対応しており、休薬が必要な薬剤の抽出と推奨休薬期間の提案などチーム医療の観点から積極的に関与した。

●地域貢献

薬学部、千葉県病院薬剤師会、製薬企業などと連携して、卒後教育研修講座、千葉病院薬剤師スキルアップセミナーをはじめとする研修会、研究会等を企画、開催し、多くの講演者を当薬剤部からも担当した。また、診療報酬上の連携充実加算の算定に向け保険薬局向けに研修会（薬薬 Table Talk）を実施した。

研究領域等名：	腫瘍病理学
診療科等名：	_____

●はじめに

腫瘍病理学は、大学院医学研究院病理学の他2講座（診断病理学と病態病理学）とともに、病理学総論と病理学各論の講義・実習、死体解剖保存法に基づく病理解剖の実施と臓器や標本の適正な保管管理を担当した。地域医療と専門医教育に関連して、旭中央病院や千葉市立海浜病院との連携により、文部科学省・基礎研究医養成活性化プログラムで「病理・法医学教育イノベーションハブの構築」を実施している。また、千葉大学と山梨大学、群馬大学との間でオンラインCPCも実施しているところである。

主な研究活動は、企業共同研究で行う「低侵襲医療機器の開発と実用化」と、JST ムーンショット型研究開発事業（MS）での「免疫モジュールの計測解析技術開発」、科研費で行う基礎・基盤研究であり、これらを通じて、新たな知の創成と社会への還元を進めている。

●教育

・学部教育／卒前教育

腫瘍病理学は病理学総論（講義9コマ）、病理学各論（講義・実習7コマ）、医学入門を担当した。病理学各論では、外部機関より病理医を非常勤講師として招聘し、病理診断と疾患理解を基軸に、形態情報や遺伝子・生化学の理解、分子機能と分析機器による計測原理などに関する講義・実習を実施していただいた。非常勤講師は、濱田 新七（近江八幡医療センター）、佐藤慎哉（神奈川県立がんセンター臨床研究所）、森井英一（大阪大学）、東守洋（埼玉医科大学）、武田貴裕（千葉東病院）5名である。

・卒後教育／生涯教育

2017年度よりスタートした文部科学省・基礎研究医養成活性化プログラムにおいて、「病理・法医学教育イノベーションハブの構築」を推進することで、卒後教育／生涯教育の拡充につとめた。千葉大学・腫瘍病理学は、基礎研究医養成活性化プログラムの代表機関でその実施責任を担うことから、千葉大、群馬大、山梨大とそれぞれの大学の関連病院をつなぐWEB会議システムの運営を担当するとともに、千葉県内の基幹病院と教育・研究に関する包括協定を締結することで、卒後教育／生涯教育の体制整備と運営を進めた。

病理解剖の実施等、病理学の卒後・生涯教育を担う連携協定書の締結機関は、千葉メディカルセンター、徳洲会千葉病院、市立青葉病院、千葉県循環器センター、国立国際医療センター国府台病院、千葉県救急医療センター、亀田総合病院、医療法人社団誠馨会3病院（新東京病院、セコメディック病院、千葉中央メディカルセンター）と、千葉市立海浜病院である。また、旭中央病院（マクロ病理診断学連携講座）、量研機構・放射線医学総合研究所、産業技術総合研究所（医療機器国際基準認証学講座）に連携大学院講座を設置により卒後・生涯教育を実施した。

・大学院教育

大学院生を対象に病理解剖・外科病理、および分子病理学的病因病態解析の講義・実習演習を行った。革新医療創生 CHIBA 卓越大学院では革新医療創生演習で病理イメージング解析ユニットを担当するとともに、臨床医科学特論の開講を担当した。非常勤講師は、榊田創（産業技術総合研究所）、濱口行雄（兵庫県立大）、中山文明（QST 病院放射線医学研究所）の3名である。

マクロ病理診断学連携講座（旭中央病院）で開催された3回のCPC（①～③）と千葉市立海浜病院で開催された2回のCPC（④⑤）を担当しており、そのタイトルは以下の通り。

- ①ブドウ球菌菌血症治療中に突然の心停止に至った一例（7月5日）
- ②DIC、原発不明癌、MCTD、多発脳梗塞、心不全（9月20日）
- ③外科切除後に確定診断に至った希な肺病変の3例（3月14日）
- ④ジョギング中急変、2日後の死亡例（9月24日）
- ⑤剖検前に確定診断が困難であった肝腫瘍の1剖検例（2月20日）

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

名古屋大学・大学院工学研究科・電気／電子／情報通信工学特別講義「プラズマによる医療革新－ウイルス粒子を可視化して病理組織診断を行う」(2024年10月9日)

●研究

・研究内容

- ① AMED 先端計測技術・機器開発プログラムに代表者として採択され、1450nm 計測イメージングによる分子病理解析システムの開発研究を実施している。
- ②企業との共同研究により、低温大気圧プラズマを用いた低侵襲医療機器プロトタイプを開発し、その評価研究を実施している。
- ③ JST ムーンショット型研究開発事業 (MS) では、次世代の半導体材料や加工技術を取り入れた元素イメージング技術でウイルス検出技術の開発を進めている。
- ④科研費 (山口高志) では、心不全より進展する肺と肝・腎の線維化進展のメカニズム解明に取り組んでいる。
- ⑤科研費 (池原早苗) では、BK ウイルス感染で膵臓に生じる小胞輸送の破綻と膵炎顕在化のメカニズム解明に取り組んでいる。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Ami Aoki, Chiaki Iwamura, Masahiro Kiuchi, Kaori Tsuji, Atsushi Sasaki, Takahisa Hishiya, Rui Hirasawa, Kota Kokubo, Sachiko Kuriyama, Atsushi Onodera, Tadanaga Shimada, Tetsutaro Nagaoka, Satoru Ishikawa, Akira Kojima, Haruki Mito, Ryota Hase, Yasunori Kasahara, Naohide Kuriyama, Sukeyuki Nakamura, Takashi Urushibara, Satoru Kaneda, Seiichiro Sakao, Osamu Nishida, Kazuhisa Takahashi, Motoko Y Kimura, Shinichiro Motohashi, Hidetoshi Igari, Yuzuru Ikehara, Hiroshi Nakajima, Takuji Suzuki, Hideki Hanaoka, Taka-Aki Nakada, Toshiaki Kikuchi, Toshinori Nakayama, Koutaro Yokote, Kiyoshi Hirahara. Suppression of Type I Interferon Signaling in Myeloid Cells by Autoantibodies in Severe COVID-19 Patients. Journal of clinical immunology 2024 April 44(4):104 doi:10.1007/s10875-024-01708-7
2. Emiri Yamamoto, Shinsuke Akita, Sanae Ikehara, Kazuhiko Azuma, Syota Ohki, Yoshihiro Nakano, Shigehito Sakai, Hiroyuki Matsuyama, Takashi Yamaguchi, Hajime Sakakita, Emilio Martines, Nobuyuki Mitsukawa, Yuzuru Ikehara. Application and Evaluation of Plasma Generated by Asymmetric Surface Discharge on the Ceramic Surface to Hemostatic Equipment. Plasma Medicine 2024 Oct18 14(3):23-36 doi:10.1615/PlasmaMed.v14.i3.20
- a conductive treatment method for pathological specimens using plasma for the diagnosis using electron microscopy. 10th International Conference on Plasma Medicine (ICPM10) Hotels Slovenia (Slovenia) 2024 年 9 月 12 日
2. 池原譲: S2 ソフトマテリアルへのプラズマプロセス: 材料、計測・評価の進化 (シンポジウムオーガナイザー講演) 第 41 回プラズマ・核融合学会年会 (東京) 2024 年 11 月 18 日
3. 池原譲, 近藤博基 ソフトマテリアルのナノイメージング技術 第 41 回プラズマ核融合学会年会 シンポジウム「ソフトマテリアルへのプラズマプロセス: 材料、計測・評価の進化」(東京) 2024 年 11 月 18 日
4. 松山浩之, 吉富秀幸, 池原譲, 花澤豊行 重粒子線治療 第 41 回プラズマ核融合学会年会 シンポジウム「ソフトマテリアルへのプラズマプロセス: 材料、計測・評価の進化」(東京) 2024 年 11 月 18 日
5. 榊田創, 秋田新介, 池原譲, 三川信之 低侵襲止血 第 41 回プラズマ核融合学会年会 シンポジウム「ソフトマテリアルへのプラズマプロセス: 材料、計測・評価の進化」(東京) 2024 年 11 月 18 日
6. Yuzuru Ikehara (Invited Speaker) The application of carbon ion reactions enables the measurement and comprehension of biological and morphological functions through Scanning Electron Microscopy (SEM) and Atomic Force Microscopy (AFM). International Symposium 34th Material Research Society of Japan 神奈川県中小企業共済会館 (横浜) 2024 年 12 月 17 日

【雑誌論文・和文】

1. 池原早苗、池原譲 空間オミクス解析で電子顕微鏡解析を行うために 臨床免疫・アレルギー科第 82 巻第 4 号 科学評論社、東京、2024 年 10 月 25 日

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. Sanae Ikehara, Kazuhiko Azuma, Syota Ohki, Hiroki Kondo, Yoko Iizumi, Toshiya Okazaki, Masaru Hori, Komei Baba, Yuzuru Ikehara Developing

【学会発表数】

- 国内学会 3 学会 6 回 (うち大学院生 2 回)
国際学会 2 学会 3 回 (うち大学院生 0 回)

【外部資金獲得状況】

1. ムーンショット型研究開発事業「免疫モジュールの計測解析技術開発」代表者: 池原譲 2020-2025
2. プロジェクト・共同研究「低侵襲プラズマ止血装置の開発研究」代表者: 池原譲 2018-2024

3. 科研費 基盤研究(B)「腫瘍間質形成におけるグリコサミノグリカン鎖を介するシグナルモジュールの解明」分担者：池原譲 2023-2026
4. 科研費 基盤研究(C)「心不全より進展する肺と肝・腎の線維化進展のメカニズム解明」代表者：山口高志 2023-2026
5. 科研費 基盤研究(C)「BK ウイルス感染で膵臓に生じる小胞輸送の破綻と膵炎顕在化のメカニズム解明」代表者：池原早苗 2023-2026
6. 科研費 基盤研究(B)「リンパ管内皮細胞の再生と誘導による革新的皮膚抗老化治療の開発」分担者：

池原譲 2023-2026

7. 科研費 基盤研究(B)「がん関連 stiff-collagen 制御機構の解明を基盤とした新規がん免疫強化治療戦略の開拓」分担者：池原譲 2024-2026

【受賞歴】

1. 松山浩之 ISPlasma2025/IC-PLANTS2025 Bio Applications 分野 Best Presentation Award 2025年3月

【特許】

1. 中埜吉博、池原譲 プラズマ照射装置及びプラズマ照射方法 特開 2024-065258 2024年5月15日

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

1 件の病理解剖を実施し、剖検カンファレンスを通じてマクロ病理診断を行った。

病理学講座は、死体解剖保存法に基づき、平成 13 年 11 月 26 日の病理学会による「病理解剖の倫理的課題に対する提言」の第 4 項「臓器や標本の保存」に示された答申に基づき、剖検臓器および標本の保管管理を担当した。また、医学部新棟への引っ越しに際して、保管している標本ブロック・臓器の管理状況を再確認したうえで、保管臓器と標本の移設をおこなった。なお、2015 年度以前に剖検が行われ診断の完了している保管臓器については、死体解剖保存法と火葬埋葬法に定める手続きに基づいて最終処理を行った。

●地域貢献

千葉大学大学院・医学研究院の病理学 3 講座は、各月 10 日間ずつを当番日として、病理学の卒後・生涯教育を担う連携協定書を締結している千葉県内の医療機関から依頼のあった症例について剖検を実施している。2024 年度において腫瘍病理学は 1 件の剖検を実施。

また WEB Meeting として行う CPC の事務局を担当し、マクロ病理診断学連携講座（旭中央病院）で開催された 3 回の CPC について、千葉大・山梨大・群馬大の病理学講座関連の病院に所属となっている病理医も参加できるように運営した。

研究領域等名：	免 疫 細 胞 医 学
診療科等名：	

●はじめに

免疫細胞医学では、悪性腫瘍に対する NKT 細胞を中心とする免疫系を用いた新規治療法の開発研究を行っている。2024 年は、NKT 細胞を用いた免疫療法の機序解明を行った論文などを公表した。今後も NKT 細胞を用いた免疫療法の治療効果向上を目指して、NKT 細胞活性化による抗腫瘍効果発現のメカニズム解析および免疫療法の有効性を予測可能とするバイオマーカーの探索といった基礎研究を継続的に行い、その結果をもとにしたトランスレーショナルリサーチを推進する。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部では、「イノベティブ先端治療学」「医学入門Ⅰ」「基礎医学ゼミ」の講義を担当した。またイノベティブ先端治療学の科目責任者を務めている。

・大学院教育

博士課程において、「創薬キャリアパス特論」「実践英語 1・2・3・4」「臨床腫瘍学特論」の科目責任者を務め、「臨床腫瘍学特論」「革新医療創生演習」「治療学演習」「臨床研究応用」では講義や演習を担当した。

修士課程において「先端治療学特論」の講義を担当した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

普遍教育授業「免疫と疾患」についての講義を担当し、薬学部において「腫瘍制御学」の講義を担当し、千葉工業大学 修士課程において「ウイルス学・免疫学特論」の講義を担当した。

●研 究

・研究内容

抗腫瘍効果をもつ免疫細胞を利用したがん治療の開発研究を行う。治療用免疫細胞の詳細な作用機序およびがんの免疫抑制作用を解明し、有効で安全な新規治療法を開発する。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Aoki, T., Motohashi, S.: Progresses in NKT cell-based immunotherapy for cancers: Use of allogeneic and gene-edited cells. Crit. Rev. Oncog. 29(1):1-9. DOI: 10.1615/CritRevOncog.2023049526 (2024).
2. Takami, M., Aoki, T., Nishimura, K., Tanaka, H., Onodera, A., Motohashi, S.: Anti-*Vα24Jα18* TCR Antibody Tunes iNKT Cell Responses to Target and Kill CD1d-negative Tumors in an $\text{Fc}\gamma\text{RII}$ (CD32)-dependent Manner. Cancer Res. Commun. 4(2):446-459 (2024).
3. Aoki, A., Iwamura, C., Kiuchi, M., Tsuji, K., Sasaki, A., Hishiya, T., Hirasawa, R., Kokubo, K., Kuriyama, S., Onodera, A., Shimada, T., Nagaoka, T., Ishikawa, S., Kojima, A., Mito, H., Hase, R., Kasahara, Y., Kuriyama, N., Nakamura, S., Urushibara, T., Kaneda, S., Sakao, S., Nishida, O., Takahashi, K., Kimura, M. Y., Motohashi, S., Igari, H., Ikehara, Y., Nakajima, H., Suzuki, T., Hanaoka, H., Nakada, T., Kikuchi, T., Nakayama, T., Yokote, K., Hirahara, K.: Suppression of Type I Interferon Signaling in

Myeloid Cells by Autoantibodies in Severe COVID-19 Patients. J Clin Immunol. 44(4):104 (2024).

4. Takami, M., Motohashi, S.: Comparative assessment of autologous and allogeneic iNKT cell transfer in iNKT cell-based immunotherapy. Front Immunol. 15:1457771 (2024).

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 本橋新一郎 同種 NKT 細胞を用いたがん免疫療法の開発 第 21 回日本免疫治療学会学術集会 2024 年 5 月 18 日、福島

【学会発表数】

国内学会 4 学会 8 回（うち大学院生 2 回）
国際学会 0 学会 0 回（うち大学院生 0 回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「膠芽腫微小環境の理解に基づく NKT 細胞標的治療の開発」代表者：本橋新一郎 2022-2024
2. 日本医療研究開発機構 (AMED) 再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム「難治性固形がんに対する PRIME CAR 導入 iPS 細胞由来抗原提示細胞を用いた NKT 細胞標的免疫療法の開発研

究」代表者：本橋新一郎 2023-2025

3. 日本医療研究開発機構（AMED） 再生医療実用化研究事業「頭頸部癌放射線療法が引き起こす重症口腔乾燥症に対する自家唾液腺細胞移植法を用いた唾液腺機能再生治療の開発」分担者：本橋新一郎 2023-2025
4. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「神経芽腫に対する抗GD2抗体およびNKT細胞を用いた新規複合免疫療法の開発」分担者：本橋新一郎 2023-2025
5. 日本医療研究開発機構（AMED） 再生医療実用化研究事業「再発・進行頭頸部がん患者を対象とした他家iPS-NKT細胞および自家DC/Gal併用療法に関する臨床研究の第2用量」分担者：本橋新一郎 2024-2026
6. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「固形がんを対象とする新規キメラ抗原受容体(CAR)マクロファージ療法の開発」分担者：本橋新一郎 2024-2025
7. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「がん関連stiff-collagen制御機構の解明を基盤とした新規が

ん免疫強化治療戦略の開拓」分担者：本橋新一郎 2024-2026

8. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「肺移植後の慢性移植肺機能不全に対する抗線維化治療の開発」分担者：本橋新一郎 2024-2026
9. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「HER2/CD3二重特異性抗体を用いたNKT細胞療法による肺癌免疫治療の検討」代表者：高見真理子 2023-2025
10. 特定非営利活動法人医療・福祉ネットワーク千葉先端がん医療研究助成「肺癌をターゲットとしたNKT細胞療法およびAhRアンタゴニスト併用療法の開発」代表者：高見真理子 2024-2024
11. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「白血病に対するiPS-NKT細胞とalpha-GalCer添加抗原提示細胞併用療法の開発」代表者：青木孝浩 2023-2025
12. 公益財団法人臨床薬理研究振興財団「小児急性骨髄性白血病治療において予後に寄与する薬剤代謝動態指標の探索」代表者：青木孝浩 2022-2024

【受賞歴】

1. 第24回日本再生医療学会総会 優秀演題賞 青木孝浩

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

呼吸器外科外来診療の一部を担当した。

研究領域等名：	機 能 ゲ ノ ム 学
診療科等名：	

●はじめに

機能性 RNA 分子であるマイクロ RNA に着目し、癌細胞における癌抑制型・癌促進型マイクロ RNA の探索と、マイクロ RNA が制御する機能性 RNA 分子ネットワークの探索を継続している。今年度は、癌細胞の周辺に存在する癌関連線維芽細胞に着目した。肺癌および頭頸部扁平上皮癌患者から、癌関連線維芽細胞の初代培養を行い、マイクロ RNA の発現プロファイルを作成した。癌関連線維芽細胞で特異的に発現しているマイクロ RNA を癌細胞に核酸導入する事で、癌細胞の機能性 RNA 分子ネットワークの変化を認めた。これら細胞内の分子ネットワークの変化と、癌細胞の悪性化獲得機構について検討を行っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

非常勤講師として、鹿児島大学・医学部において、分子生物学を担当している。非常勤講師として、君津中央病院付属看護学校において、分子生物学を担当している。

●研 究

・研究内容

機能性 RNA 分子の 1 種であるマイクロ RNA に着目し、癌抑制型マイクロ RNA が制御する分子ネットワークの探索を継続している。特に、難治性癌である膵臓癌、小細胞肺癌、食道扁平上皮癌について、患者組織から RNA シークエンスによりマイクロ RNA 発現プロファイルを作成した。マイクロ RNA 発現プロファイルから、新規癌抑制型マイクロ RNA の探索と、マイクロ RNA が制御する機能性 RNA 分子ネットワークの一旦を明らかにした。膵癌においては、インテグリンを介するシグナルの活性化が、膵癌の転移に重要な役割を担っている事を明らかにした。小細胞肺癌においては、DNA 複製関連蛋白である、minichromosome maintenance 2-7 の異常発現が、抗癌剤耐性に重要な役割を担っている事を明らかにした。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Suetsugu T, Masada Y, Kozono T, Morita K, Yonezawa H, Tabata K, Seki N, Mizuno K, Tanaka K, Inoue H. *Respir Investig*. 2024 Nov;62(6):1157-1160. doi: 10.1016/j.resinv.2024.09.013. Epub 2024 Oct 11.
2. Tomioka Y, Seki N, Suetsugu T, Hagihara Y, Sanada H, Goto Y, Kikkawa N, Mizuno K, Tanaka K, Inoue H. *Int J Mol Sci*. 2024 Sep 16;25(18):9974. doi: 10.3390/ijms25189974.
3. Kasamatsu A, Nozaki R, Kawasaki K, Saito T, Minemura C, Seki N, Moss J, Uzawa K. *Cancers (Basel)*. 2024 Mar 21;16(6):1242. doi: 10.3390/cancers16061242.
4. Mitsueda R, Nagata A, Toda H, Tomioka Y, Yasudome R, Kato M, Shinden Y, Nakajo A, Seki N. *Noncoding RNA*. 2024 Nov 30;10(6):60. doi: 10.3390/ncrna10060060.

【外部資金獲得状況】

1. 基盤研究(C)「合成致死性に基づいた KRAS 変異陽性肺癌におけるソラシブ併用新規治療法の開発」
分担者：関直彦 2024-2026
2. 基盤研究(C)「肺癌細胞が血液脳関門を破壊し、脳

転移を可能にする機能性 RNA ネットワークの解明」分担者：関直彦 2024-2026

3. 基盤研究(C)「オープンクロマチン領域を指標とした小細胞肺癌薬物耐性に関する分子機構の解明」
分担者：関直彦 2024-2026
4. 基盤研究(C)「HER2 陽性乳癌細胞が脳転移を可能にする際に関与する機能性 RNA 分子の解明」
分担者：関直彦 2024-2026
5. 基盤研究(C)「エクソソーム由来マイクロ RNA に着目した新規大腸癌免疫療法の未来像」
分担者：関直彦 2024-2026
6. 基盤研究(C)「膵癌治療抵抗性への挑戦：機能性 RNA の「時間的」階層性によるマスター分子の探索」
分担者：関直彦 2024-2026
7. 基盤研究(C)「クロマチン変化の時間軸に着目した消化器癌治療耐性因子の解明」
分担者：関直彦 2024-2026
8. 基盤研究(C)「機能性 RNA 時間的階層性に基づく腎癌細胞の薬剤耐性獲得に関わるマスター分子の探索」
分担者：関直彦 2024-2026
9. 基盤研究(C)「機能性 RNA 分子・時間的階層性の理解に基づく、頭頸部癌・薬剤耐性獲得機構の解明」
代表者：関直彦 2024-2026

10. 基盤研究(C)「転写調節領域を指標にした抗癌剤耐性獲得に関わる機能性 RNA の探索」分担者：関直彦 2023-2025
11. 基盤研究(C)「治療抵抗性獲得に関与する小細胞肺癌機能性 RNA 分子アトラスの構築」分担者：関直彦 2022-2024
12. 基盤研究(C)「トリプルネガティブ乳癌・転写調節領域解析に基づく抗癌剤耐性機構の解明」分担者：関直彦 2022-2024
13. 基盤研究(C)「頭頸部扁平上皮癌・スーパーエンハンサー解析に基づく抗癌剤耐性機構の解明」分担者：関直彦 2022-2024
14. 基盤研究(C)「細胞外小胞を介した口腔扁平上皮癌細胞の悪性化能獲得機構の解明」分担者：関直彦 2022-2024
15. 基盤研究(B)「癌抑制型人工合成環状 RNA による癌進展抑制メカニズムの解明と創薬の開発」分担者：関直彦 2022-2024
16. 基盤研究(C)「頭頸部癌・転写調節領域を指標とした薬剤耐性に関与する機能性 RNA 分子の探索」代表者：関直彦 2021-2024

研究領域等名：	口 腔 科 学
診療科等名：	歯 科 ・ 顎 ・ 口 腔 外 科

●はじめに

当科は大正7年に創設され、日本の口腔外科の発祥の地の一つに数えられるほどにその歴史は古い。特に口腔外科の草創期に多くの先駆的指導者を世に輩出し、多くの大学の口腔外科創設に関わり、また千葉県内を中心に数多くの関連病院と共に地域医療を固く守ってきた。臨床においては口腔癌を中心に各種疾患に対する専門的治療を行っており、また研究においては癌研究・再生医療に力を入れている。臨床・研究を両立し、その特色を生かして多くの成果を上げてきた。このような歴史の上に当科では教育、臨床、研究、卒後研修、地域医療への弛まぬ努力を継続している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部学生4年生に対してはユニット講義、6年生に対してはCC（クリニカル・クラークシップ）を行っている。医学部の通常授業では含まれない材料学や人工生体材料、特殊なX線撮影法や画像診断法、歯牙や骨などの硬組織疾患の治療法、口腔内の複雑な形態と混合感染環境の理解、重症菌性感染症をはじめとする口腔と全身疾患の関係などに重点を置いて教育を行っている。

・卒後教育／生涯教育

歯科医師の卒後研修について他施設が1年制であるのに対し、当院では医師卒後研修と同等の完全2年制を採用している。また他施設で研修修了した歯科医師のために1年間のアドバンス・コースも設置し、加えて卒後3年目の後期研修医制度も実施している。口腔外科学草創期から多くの指導者を輩出してきた草分けの口腔外科学教室としての自負のもと、歯科界に貢献できる人材育成に力を尽くすべく努力をしている。歯科専門コースとしての口腔外科医育成コースでは口腔外科学会認定医、専門医、指導医の育成に力を入れている。1年を通じ、火曜日に基礎研究検討会、金曜日に臨床症例検討会、抄読会を行っている。またCLINICAL ANATOMY LABを積極的に利用し、頭頸部癌手術および再建術、下顎矢状分割術、インプラント埋入術、一般的な外科手技などさまざまな領域・レベルの手術シミュレーションや研究、教育を多数行っている。

・大学院教育

大学院医学薬学府博士課程においては臨床腫瘍学講義を行っている。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

千葉大学教育学部養護教諭課程学生の講義（口腔保健学）を行っている。

千葉医学会歯科口腔外科例会を開催している。

●研 究

・研究内容

大型予算を複数獲得し、他科や他施設の大学院生も研究に参加して活発に研究活動を展開した。ほとんどの業績が自らの教室が中心となり行った研究である。研究内容としては抗癌剤耐性メカニズムの解明とその阻害剤による増強治療法の開発、癌の放射線耐性メカニズムの解明とその阻害剤による増強治療法の開発、細胞接着因子増強剤による癌転移抑制治療法の開発など、多くの研究が癌とその治療に関するものである。また歯牙や唾液腺など口腔組織再生に関する研究も多くの成果を上げている。研究の進捗は極めて順調であり、学会からの表彰など高い外部評価を得た。癌の研究は単なる研究に留まらず、実際の治療に役立つトランスレーショナル・リサーチに発展している。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Kasamatsu A, Nozaki R, Kawasaki K, Saito T, Minemura C, Seki N, Moss J, Uzawa K. Synthetic Circular RNA for microRNA-1269a Suppresses Tumor Progression in Oral Squamous Cell Carcinoma. *Cancers*. 2024;21:16(6):1242.
2. Tsuneizumi K, Kasamatsu A, Saito T, Fukushima R, Taga Y, Mizuno K, Sunohara M, Uzawa K, Yamauchi M. Generation of bone-specific lysyl hydroxylase 2 knockout mice and their phenotypes. *Biochem Biophys Rep*. 2024;19:39:101790.
3. Yamakawa N, Umeda M, Yoshii Y, Mitsudo K, Noguchi M, Kusukawa J, Katakura A, Nakayama H, Sasaki M, Noguchi T, Ueda M, Bukawa H,

Yagihara K, Horie A, Miyazaki A, Chikazu D, Tomihara K, Mishima K, Otsuru M, Asoda S, Fujiwara S, Ohyama Y, Kurita H, Kawamata H, Fukuda M, Shintani Y, Kobayashi T, Kanno T, Oh-Iwa I, Kawano K, Yamashita Y, Kobayashi W, Ohiro Y, Uzawa K, Ota Y, Kirita T. Multicenter retrospective study of nivolumab for recurrent/metastatic oral squamous cell carcinoma. Oral Dis. 2024;30(2):247-258.

4. Uzawa K, Kasamatsu A, Yamauchi M. Collagen cross-linking in oral cancer. Oral Sci Int. 2024;21(1):3-14.
5. Fukushima R, Nakashima D, Yoshimura S, Kase Y, Nozaki R, Saito T, Kasamatsu A, Uzawa K. Non-calcifying/Langerhans cell-rich variant of calcifying epithelial odontogenic tumor: A case report and review. Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 2025;37:234-238.

【雑誌論文・和文】

1. 笠松厚志, 鵜澤一弘. Dd 診断力ですと「頬部打撲による開口障害」. 月刊「デンタルダイヤモンド」2025 年;1 月号
2. 齋藤智昭, 鵜澤一弘. Topics from special edition「ECM を制御する LH2 とコラーゲンクロスリンク」. 月刊「細胞」2025 年;3 月号

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 笠松厚志, 齋藤智昭, 峯村周, 五島悠介, 横江秀隆, 鵜澤一弘. 口腔癌における Cetuximab 治療抵抗性克服を目指した新規標的制御療法の開発. 第 69 回日本口腔外科学会総会・学術大会.

【学会発表数】

国内学会 14 回（うち大学院生 7 回）
国際学会 0 回（うち大学院生 0 回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「がん関連 stiff-collagen 制御機構の解明を基盤とした新規がん免疫強化治療戦略の開拓」代表者：鵜澤一弘 2024-2026
2. 国際共同研究加速基金(海外連携研究)「Japan-US Research Collaboration on the Development of a Novel Therapeutic Strategy Targeting the Cancer-Associated Extracellular Components to Disrupt Cancer Progression」代表者：笠松厚志 2024-2026

3. 日本医療研究開発機構 (AMED) 再生医療実用化研究事業「頭頸部放射線治療で引き起こされる口腔乾燥症に対する自家唾液腺細胞移植法を用いた唾液腺機能再生治療の開発」代表者：笠松厚志 2023-2026
4. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「癌抑制型人工合成環状 RNA による癌進展抑制メカニズムの解明と創薬の開発」代表者：笠松厚志 2022-2024
5. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「Heterogeneity に着目した口腔癌抗癌剤耐性機構の解明と制御薬の開発」代表者：坂本洋右 2022-2024
6. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「LH2-Col をターゲットとする免疫チェックポイント耐性克服療法の開発」代表者：中嶋大 2022-2024
7. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「CRISPR/Cas9 ノックアウトスクリーニングによる放射線耐性メカニズムの同定」代表者：伊豫田学 2022-2024
8. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「scRNA-seq 解析による癌細胞と癌関連 ECM の両方に着目した癌細胞の転移制御機構の解明」代表者：宮本勲 2023-2025
9. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「抗癌剤耐性スーパーエンハンサーによるコラーゲンバリアの解明と制御薬剤の開発」代表者：齋藤智昭 2023-2025
10. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「癌促進型環状 RNA の口腔癌における癌進展メカニズムの解明」代表者：大和地正信 2023-2025
11. 文部科学省科学研究費 若手「コラーゲン水酸化酵素 LH2 による新たな創傷治癒メカニズムの解明」代表者：野崎龍之介 2023-2024
12. 文部科学省科学研究費 若手「口腔扁平上皮癌・機能性 RNA 分子の時間的階層性解析に基づく治療標的分子の探索」代表者：駒綾香 2023-2024
11. 文部科学省科学研究費 若手「PDE ファミリーによる白金系抗癌剤の排泄メカニズムの解明と阻害薬の同定」代表者：小出奈央 2020-2026

【受賞歴】

1. 第 69 回日本口腔外科学会総会・学術大会 優秀ポスター発表賞受賞 福嶋玲雄
2. 第 69 回日本口腔外科学会総会・学術大会 優秀ポスター発表賞受賞 富来早織
3. 第 78 回日本口腔科学会学術集会 優秀ポスター賞受賞 齋藤智昭

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

総合病院の歯科という面から、一般開業歯科医院では治療困難な心身の有病者に対する歯科治療や、入院患者の高度医療を妨げる口腔内感染巣のチェックや処置、化学療法・骨髄移植などで治療中患者の口腔内出血・感染症の処置などを行っている。その他、全身麻酔における挿管時の口腔内損傷の予防・処置やスポーツ医学に基づいた予防処置など、幅広く診療を展開した。また他科との連携に努め、例えば、睡眠時呼吸障害に関しては麻酔科、呼吸器内科との共同で診療を行っている。口腔ケア外来では、全ての癌治療を受けている患者の口腔環境の悪化の防止と改善に力を注いでいる。

口腔外科としては、抜歯などの観血的小手術、奇形、顎・顔面の変形症、外傷、嚢胞、関節疾患、感染症、腫瘍などの治療を担当している。特に、口腔癌治療を含めた難治性疾患に対しては、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、放射線科、臨床腫瘍部など関連診療領域と緊密に連携を取って治療を行っている。このことによって、難症例に対する対応するシステムが構築できているばかりでなく更に強化する形として、術後の口腔機能も視野に入れた包括的な口腔癌治療が実践できている。また、心身にもともと障害や疾患を有する患者の高度管理治療はICUや他科との緊密な連携もあり、他の施設の追従を許さないレベルである。

●地域貢献

千葉県内を中心に関東において多数の関連病院を有しており、多くの医局員を派遣している。また千葉県内各所において口腔がん検診に参加し、地域住民の口腔癌早期発見に貢献している。その他、地域歯科医師会と協力し、各種講演を行い、口腔外科疾患について啓蒙活動を行っている。

●その他

当科および関連病院だけでなく、他大学でも多くの当科出身医師が活躍しており、日本の口腔外科における役割や貢献も極めて大きいものがある。

研究領域等名：	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学
診療科等名：	耳鼻咽喉・頭頸部外科

●はじめに

当教室では従来より頭頸部腫瘍疾患の治療、病態の研究が多く、診療面でも頭頸部腫瘍患者の受診、入院が多い。頭頸部癌に対して予後の改善を目指して新規治療として細胞免疫治療の研究を続けているが、その一部が先進医療の認可を受け実施している。その他、トランスレーショナル研究が多数継続され、細胞免疫治療以外に、早期介入治療の検討など花粉症に関する様々な研究がおこなわれている。また、他講座、他施設との共同研究にも力を入れ、分子腫瘍学と共同で頭頸部がん組織中の遺伝子発現の網羅的な解析、免疫発生学との慢性上気道炎症病態が進み成果を挙げた。特に希少癌である悪性黒色腫、腺様嚢胞癌、嗅神経芽細胞腫の新規治療開発を基礎研究レベルから注力して進めている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

- ・医学部4年生を対象にトランスレーショナル免疫治療学で鼻アレルギーに対するトランスレーショナル研究を担当した。
- ・医学部4年生の臨床病態治療学（ユニット講義）では頭頸部ユニットの10コマの講義を担当し、4年終了時の診察・診断法の実技試験（OSCE）と記述式の共用試験（CBT）の総合評価に参加した。
- ・医学部5年生アドバンスドCCでは助教以上の教官がそれぞれ耳鼻咽喉・頭頸部外科領域分野の診療実践に適した臨床実習を積極的に実施した。また、県内の関連病院に派遣して、第1線での耳鼻咽喉科実習を受けることでモチベーションの向上が得られた。

・卒後教育／生涯教育

- ・例年、教室スタッフ、関連病院スタッフを対象に凍結ご献体を用いて、頭頸部手術セミナーの鼻・副鼻腔編および中耳側頭骨編を行っており、本年は各回7名が参加した。
- ・専攻医は5名で関連病院中心に、耳鼻咽喉・頭頸部外科の基本的手術手技を習得した。
- ・専攻医は耳鼻咽喉科学会、研究会で症例報告を中心に上級医の指導の下に発表を行った。

・大学院教育

- ・臨床アレルギー学特論（展開講義科目）でアレルギー性鼻炎の現状と免疫応答について担当した。
- ・頭頸部癌の免疫治療研究、遺伝子解析、アレルギー性鼻炎の新規治療研究について教育を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

東京医療保健大学看護学部の授業を担当した。

●研 究

・研究内容

- ・頭頸部癌病変での遺伝子解析および免疫制御機構を解析した。
- ・耳下腺癌における治療成績を解析した。
- ・「免疫療法による花粉治療の新しい展開を目指した研究」について、舌下免疫療法、早期介入などについての臨床研究を継続した。
- ・理化学研究所とiPS-NKT細胞を用いた頭頸部癌治療の臨床試験を開始し研究を進めた。
- ・慢性好酸球性副炎症の病態解明、治療研究に免疫発生学とのAMEDによる共同研究を継続した。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Yoshihisa Ishiura, Masaki Fujimura, Haruhiko Ogawa, Johsuke Hara, Hiromoto Shintani, Soichiro Hozawa, Ryo Atsuta, Kensuke Fukumitsu, Hideki Inoue, Takanobu Shioya, Masato Muraki, Tokunao Amemiya, Noriyuki Ohkura, Yoshitaka Oribe, Hiroshi Tanaka, Takechiyo Yamada, Mikio Toyoshima, Katsuya Fujimori, Tamotsu Ishizuka,

Manabu Kagaya, Takeshi Suzuki, Toshiyuki Kita, Koichi Nishi, Akihito Ueda, Yoshito Miyata, Junya Kitada, Kenta Yamamura, Miki Abo, Norihisa Takeda, Toshihiro Shirai, Tomoko Tajiri, Shigemi Yoshihara, Taisuke Akamatsu, Hirochiyo Sawaguchi, Tatsuya Nagano, Soichiro Hanada, Sawako Masuda, Mitsuhide Ohmichi, Tomoki Ito, Hironori Sagara, Hisako Matsumoto, Akio Niimi;

- Japan Cough Society. Prevalence and causes of chronic cough in Japan. *Respir Investig* 2024;62: 442-448.
 2. Goto Y*, Koshizuka K*, Ando T, Izumi H, Wu X, Sato K, Ishikawa T, Ford K, Feng X, Wang Z, Arang N, Allevato M, Kishore A, Mali P and Gutkind JS. A kinome-wide synthetic lethal CRISPR/Cas9 screen reveals that mTOR inhibition prevents adaptive resistance to CDK4/CDK6 blockade in HNSCC. *Cancer Res Commun*.2024;4: 1850-1862.
 3. Allevato MM, Trinh S, Koshizuka K, Nachmanson D, Nguyen TC, Yokoyama Y, Wu X, Andres A, Wang Z, Watrous J, Molinalo AA, Mali P, Harismendy O, Jain M, Wild R and Gutkind JS. A genome-wide CRISPR screen reveals that antagonism of glutamine metabolism sensitizes head and neck squamous cell carcinoma to ferroptotic cell death. *Cancer Lett* 2024;598:217089.
 4. Wu X, Adame-Garcia SR, Koshizuka K, Vo PTT, Hoang TS, Sato K, Izumi H, Goto Y, Allevato MM, Wood KC, Lippman SM and Gutkind JS. Oncogenic HRAS Induces Metformin Resistance in Head and Neck Cancer by Promoting Glycolytic Metabolism. *Cancer Prev Res (Phila)* 2024;17:571-583.
 5. Nakagawa T, Santos J, Nasamran CA, Sen P, Sadat S, Monther A, Bendik J, Ebisumoto K, Hu J, Preissl S, Guo T, Vavinskaya V, Fisch KM, Califano JA. Defining the relationship of salivary gland malignancies to novel cell subpopulations in human salivary glands using single nucleus RNA-sequencing. *Int J Cancer* 2024;154(8):1492-1503.
 6. Katsushige Kawase, Ayumi Taguchi, Aya Ishizaka, Jason Lin, Toshihide Ueno, Daisuke Yoshimoto, Satoko Eguchi, Seiichiro Mori, Kenbun Sone, Mayuyo Mori, Syuji Yonekura, Toyoyuki Hanazawa, Daichi Maeda, Iwao Kukimoto, Hiroyuki Mano, Yutaka Osuga, Kei Kawana, Masahito Kawazu. Allelic loss of HLA class I facilitates evasion from immune surveillance in cervical intraepithelial neoplasia. *HLA* 2024;103:e15509.
 7. Wenhao Zhou, Shusuke Kawashima, Takamasa Ishino, Katsushige Kawase, Youki Ueda, Kazuo Yamashita, Tomofumi Watanabe, Masahito Kawazu, Hiromichi Dansako, Yutaka Suzuki, Hiroyoshi Nishikawa, Takashi Inozume, Joji Nagasaki, Yosuke Togashi. Stem-like progenitor and terminally differentiated TFH-like CD4+ T cell exhaustion in the tumor microenvironment. *Cell reports* 2024;43:113797.
 8. Yuto Naoi, Takao Morinaga, Joji Nagasaki, Ryo Ariyasu, Youki Ueda, Kazuo Yamashita, Wenhao Zhou, Shusuke Kawashima, Katsushige Kawase, Akiko Honobe-Tabuchi, Takehiro Ohnuma, Tatsuyoshi Kawamura., Yoshiyasu Umeda, Yu Kawahara, Yasuhiro Nakamura, Yukiko Kiniwa, Osamu Yamasaki, Satoshi Fukushima, Masahito Kawazu, Yutaka Suzuki, Hiroyoshi Nishikawa, Toyoyuki Hanazawa, Mizuo Ando, Takashi Inozume, Yosuke Togashi. CD106 in Tumor-Specific Exhausted CD8+ T Cells Mediates Immunosuppression by Inhibiting TCR Signaling. *Cancer research* 2024;84:2109.
 9. Fumiaki Mukohara, Kazuma Iwata, Takamasa Ishino, Takashi Inozume, Joji Nagasaki, Youki Ueda, Ken Suzawa, Toshihide Ueno, Hideki Ikeda, Katsushige Kawase, Yuka Saeki, Shusuke Kawashima, Kazuo Yamashita, Yu Kawahara, Yasuhiro Nakamura, Akiko Honobe-Tabuchi, Hiroko Watanabe, Hiromichi Dansako, Tatsuyoshi Kawamura, Yutaka Suzuki, Hiroaki Honda, Hiroyuki Mano, Shinichi Toyooka, Masahito Kawazu, Yosuke Togashi. Somatic mutations in tumor-infiltrating lymphocytes impact on antitumor immunity. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 2024;121: e2320189121.
 10. Yonekura S, Okamoto Y, Yamaide F, Nakano T, Hirano K, Funakoshi U, Hamasaki S, Iinuma T, Hanazawa T, Shimojo N. Factors contributing to the diagnosis and onset prediction of perennial allergic rhinitis in high-risk children: A sub-analysis of the CHIBA study. *Allergol Int* 2024;73:436-444.
 11. Tanaka S, Yamamoto T, Iwata A, Kiuchi M, Kokubo K, Iinuma T, Sugiyama T, Hanazawa T, Hirahara K, Ikeda K, Nakajima H. Single-cell RNA sequencing of submandibular gland reveals collagen type XV-positive fibroblasts as a disease-characterizing cell population of IgG4-related disease. *Arthritis Res Ther* 2024;26:55.
 12. Bousquet J, Schünemann HJ, Sousa-Pinto B, Iinuma T et al. (A member of ARIA 2024). Concepts for the Development of Person-Centered, Digitally Enabled, Artificial Intelligence-Assisted ARIA Care Pathways (ARIA 2024). *The Journal of Allergy and Clinical Immunology*: 2024;12(10): 2648-2668.
- 【雑誌論文・和文】
1. 亀田茜、米田理葉、栗田惇也、福本一郎、新井智之、木下崇、鈴木猛司、花澤豊行：「総頸動脈に仮性動脈瘤を生じた下咽頭癌化学放射線療法後の3例」頭

頸部外科 2024;33:393-400.

2. 渡邊雄介, 野上兼一郎, 川島佳代子, 吉村理, 鈴木猛司, 渡部一雄, 浅井英世, 日本臨床耳鼻咽喉科医会 LPRD (咽喉頭酸逆流症) WG:「耳鼻咽喉科開業医も診断・治療していかなければならない疾患 LPRD について (解説)」日本臨床耳鼻咽喉科医会会報 2024;4:63-66.
3. 白石健悟:「長期聴力経過を観察しえた HDR 症候群の同胞例」小児耳鼻咽喉科 2024;44:65-70.
4. 新井智之, 松山浩之, 中川拓也, 山崎一樹, 米倉修二, 花澤豊行:「嗅神経芽細胞腫に対する経鼻内視鏡下手術から見てきた課題-重粒子線治療の併用を中心に-」頭頸部外科 2024;34(2):131-136.
5. 布施宏樹, 飯沼智久, 亀田茜, 岸野愛子, 武田宜高, 平本琢人, 新井智之, 山崎一樹, 米倉修二, 花澤豊行:「確定診断に難渋した喉頭病変を伴う IgG4 関連疾患の 1 例」頭頸部外科 2024;34:217-223.
6. 栗田惇也, 新井智之, 花澤豊行:「【花粉症・アレルギー性鼻炎の最新情報】舌下免疫療法の最新情報」アレルギーの臨床 2024;44:705-709.
7. 飯沼智久:「舌下免疫療法の作用機序」臨床免疫・アレルギー科 2024;44:394-395.
8. 米倉修二:「【鼻副鼻腔炎と type2 炎症】アレルギー性鼻炎の診断と治療」アレルギーの臨床 2024;22:513-516.
9. 米倉修二, 山崎一樹, 花澤豊行:「【みみ・はな・のど鑑別診断・治療法選択の勘どころ】頭頸部 唾液腺腫脹 (悪性疾患) の鑑別診断勘どころ」ENTONI 2024;296:168-174.
10. 米倉修二:「【ポストコロナ時代のアレルギー性鼻炎診療】ポストコロナ時代の耳鼻咽喉科医の役割 難治例に対する治療 アレルゲン免疫療法」JOHNS 2024;40:535-538.
11. 米倉修二, 飯沼智久:「新しい診療技術 290 アレルゲン免疫療法の治療効果を判定する指標」アレルギーの臨床 2024;44:213-217.
12. 米倉修二:「実践!花粉症治療マニュアル 2024」花粉症の予防 花粉の回避と除去」耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2024;96:117-121.
13. 米倉修二:「【知っておくべきアレルギー・免疫の知識】アレルギー性鼻炎の免疫病態」ENTONI 2024;292:17-25.
14. 鈴木猛司:「見逃しやすい LPRD (咽喉頭逆流症) (解説)」日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 2024;127:50-53.
15. 鈴木猛司:「GERD と咳嗽」気管食道外科学会専門医通信 2024;69
16. 鈴木猛司, 関洋介, Toshitaka Hoppo:「【てこずった症例・難治症例にどう対応するか】喉頭気管食道領域 難治性慢性咳嗽症例 (解説)」2024;40:

1109-1112.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. 第 86 回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会 セミナー (米倉修二)
2. 第 26 回日本咳嗽学会学術大会にてシンポジウム (鈴木猛司)
3. 2nd Joint meeting of Tri-Head and Neck Society 2024 シンポジウム (中川拓也)

【学会発表数】

国内学会 12 学会 18 回 (うち大学院生 3 回)

国際学会 5 学会 7 回 (うち大学院生 0 回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「ecDNA を介した希少癌治療抵抗性獲得の分子機構の解明と新規治療標的の開発」代表者:花澤豊行 2024-2026
2. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「ダニアレギー性鼻炎発症の機序解明と予防に向けた多角的アプローチ」代表者:米倉修二 2024-2026
3. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「人工知能を用いた高精度 LPRD 診断支援システムの開発」代表者:鈴木猛司 2023-2026
4. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「シングルセル解析からつなげる舌下免疫療法の作用機序の解明」代表者:飯沼智久 2022-2024
5. 文部科学省科学研究費 若手研究「ダニアレギー性鼻炎の新規診断法と舌下免疫療法の効果に関するバイオマーカーの確立」代表者:新井智之 2022-2024
6. 厚生労働省科学研究費補助金「季節性アレルギー性鼻炎の診療実態と経済的影響等の解明のための研究」代表者:岡本美孝 2024-2025
7. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「患者由来細胞を用いた頭頸部腺様嚢胞癌における遺伝子変異の機能的意義の解明」代表者:福本一郎 2024-2027
8. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「嗅神経芽細胞腫における高悪性度獲得メカニズムの解明と革新的新規治療法の開発」代表者:山崎一樹 2024-2026
9. 文部科学省科学研究費 若手研究「頭頸部癌患者エクソソーム由来機能性 RNA 解析に基づく治療抵抗性分子機序の探索」代表者:越塚慶一 2019-2024
10. 文部科学省科学研究費 若手研究「鼻ポリープに常在する特殊なメモリー T 細胞に着目した好酸球性副鼻腔炎の病態解明」代表者:米田理葉 2022-2025
11. 文部科学省科学研究費 若手研究「DNA メチル化異常特性と HPV 感染による中咽頭癌の層別化と発癌機構の解明」代表者:中川拓也 2018-2024
12. 文部科学省科学研究費 若手研究「 α -galcer シートと NKT 細胞免疫系を用いたアレルギー性鼻炎の

- 新規治療」代表者：栗田惇也 2020-2024
13. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「細胞外小胞を介した口腔扁平上皮癌細胞の悪性化能獲得機構の解明」分担者：花澤豊行 2022-2024
 14. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)「ウイズコロナ時代に適合した鼻誘発試験の開発、ダニ舌下免疫療法の臨床マーカー検索」分担者：米倉修二 2022-2024
 15. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)「再発・進行頭頸部癌患者を対象として IPS-NKT 細胞動注療法に関する第 I 相試験」分担者：飯沼智久 2022-2024
 16. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)「生体内における病原性 Th2 細胞誘導機構解明による難治性アレルギー性疾患の治療法開発」分担者：飯沼智久 2022-2024
 17. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)「気道組織における病的リモデリング(線維化)機構の解明と病態制御治療戦略の基盤構築」分担者：飯沼智久 2022-2024
- 【受賞歴】**
1. 日本アレルギー学会 2024 年度サノフィ優秀論文賞(飯沼智久)

●診療

・外来診療・入院診療・その他(先進医療等)

- ・外来診療
 - ・大学病院、特定機能病院としての対応を図り、新患は原則紹介患者としているが、外来患者数は増加している。
 - ・外来診療は腫瘍患者の紹介、治療後の経過観察が多いが、鼻・副鼻腔炎、慢性中耳炎などの耳疾患、唾液腺疾患、発声、嚥下障害など耳鼻咽喉科領域の様々な疾患を診療した。
 - ・外来手術の実施を進め、鼻ポリープ、慢性副鼻腔炎といった鼻・副鼻腔疾患、頸部リンパ節生検等含め外来手術件数が 50 件であった。
 - ・また、難聴外来を第 2 および 4 火曜日に 2 名の医師で開始した。
 - ・夜間、休日で、鼻出血、頸部膿瘍、急性喉頭炎など緊急入院を必要とする患者に対応した。
- ・入院診療
 - ・頭頸部腫瘍患者が多くを占め、入院手術件数は 400 件であった。遊離皮弁を中心とした再建手術は 35 件であった。
 - ・照射・化学療法の受療者、あるいは術前・術後の照射・化学療法受療者も多いが、通院治療を導入することで在院日数を短縮した。
 - ・進行頭頸部癌には拡大切除を行い、治癒率の向上を目指した。一方で、鼻副鼻腔腫瘍、咽喉頭腫瘍、甲状腺腫瘍に対して最新の内視鏡を利用した低侵襲手術も積極的に取り入れ、患者負担の少ない治療を行った。
- ・その他(先進医療等)
 - ・2020 年より、頭頸部がんに対する免疫細胞療法として、「臨床研究再発・進行頭頸部がん患者を対象とした iPS-NKT 細胞動注療法(治験; 第 I 相試験)」を開始、現在継続中である。

●地域貢献

- ・耳鼻咽喉・頭頸部外科領域の疾患に対して千葉県の中核病院に医師を派遣し、外来および手術診療を行っている。県外からの受診も多い。
- ・耳鼻咽喉・頭頸部領域の救急疾患に対し県内の 3 次救急施設としての役割を担っている。休日、夜間の 2 次救急でも中心的な役割を果たしている。
- ・千葉県の房総地区に存在する病院に週に 1~3 回出張し、地域の耳鼻咽喉・頭頸部外科領域の疾患に対する診療を行っている。
- ・2024 年 9 月 14 日 千葉市科学館「大人が楽しむ科学教室」(飯沼智久)
- ・2024 年 11 月 3 日 千葉県医師会医学会学術集会・耳鼻咽喉科講習会【補聴器相談】

●その他

- ・毎週、医局会での手術検討会、入院患者症例検討会を行うことで、手術手技、放射線治療・化学療法、術後管理の理解を深めることが出来た。また、第 1 および 3 月曜日にはキャンサーボードとして、当科に加えて歯科口腔外科、放射線科、腫瘍内科との合同カンファレンスを行い、頭頸部癌症例の治療方針を多診療科で討議・確定している。
- ・定期的に大学院生のプロGRESSレポートを行い、研究の進捗状況をスタッフ内で共有した。

研究領域等名：	画像診断・放射線腫瘍学
診療科等名：	放射線科／放射線部／画像診断センター

●はじめに

画像診断部門は新たな撮像法の研究を進め、MRI、CT および PET による高度な機能画像診断を提供する体制を構築した。IVR 認定施設として多様な疾患に対する低侵襲 IVR 治療体制を確立した。1.5 テスラ MR リニアックシステムによる MR 画像誘導即時適応放射線治療では、前立腺癌、肝臓癌、脾臓癌、腎癌、オリゴ転移などに対する体幹部定位放射線治療や強度変調放射線治療による超寡分割照射が提供される体制となった。MR ガイド下画像誘導小線源治療で我が国の子宮頸癌放射線治療を先導した。各診療科と連携して画像診断・放射線治療研究のテーマと機会を提供し、本学の研究業績の向上に寄与した。

●教 育

・学部教育／卒前教育

臨床実習Ⅱの画像診断・血管造影（IVR）部門では、基本手技の指導・読影レポートの書き方・診断の実際などを指導した。臨床実習の学生には単純写真の読影の基礎、胸部、腹部、骨軟部および頭頸部の CT 画像の基礎知識について、そして血管造影（IVR）の実技や器具、適応などの基礎について、解説・講義を行った。治療部門では実際の患者データを用いて放射線治療計画のシミュレーションを行い、プレゼンテーションする実習を通して卒前教育を行った。医学部 4 年次の総合医学ユニットでは画像・放射線ユニット講義を 8 コマ行った。スカラシップでは、医学部生 6 名を受け入れ、抄読会やレクチャーを通じて、画像研究手法の指導を行った。

・卒後教育／生涯教育

画像診断・血管造影（IVR）部門では院内の症例検討にて日常診断の学習を行い、典型的な画像を呈する症例、診断の難しい症例やまれな症例を提示し、画像診断の教育の質を向上させた。各科と院内のカンファレンスを行い、様々な疾患に対して診断から治療まで各診療科の専門家との症例検討を経験した。放射線治療では、臨床腫瘍学を中心としたセミナーを行った。さらに、耳鼻科、外科、婦人科、緩和ケアチームなどとカンファレンスを通じて、症例検討への参加を促進した。専攻医に対しては、臨床腫瘍学を更に深く学習する環境を提供するとともに、興味ある疾患について、文献の検索を含めて、臨床データの取りまとめ方と発表法を指導した。

・大学院教育

関心のある研究分野、興味ある疾患について、文献の検索方法、論文の読み方、臨床データの取りまとめ方、データ解析と発表法などを指導した。博士過程 3 年生以上では学位論文作成を指導した。

●研 究

・研究内容

中枢神経及び末梢神経に対するミエリンイメージングを用いた評価や MRI bone imaging の新たな臨床応用の検討などの臨床研究を行った。MRI 部門では 1) Philips 社との共同研究による神経系の新たな撮像技術、2) MRI を用いた局所励起法による拡散強調画像や脊髄病変強調画像の条件検討など、CT 部門では 1) 高速多相撮影における患者被ばく線量の評価、2) ヘリカル撮影におけるオーバーレンジの評価、3) Dual Energy CT の基礎的検討など、一般透視部門では X 線検査によって患者が受ける放射線被ばくの測定と要因分析を、血管撮影部門では IVR における従事者被ばく、患者被ばく管理、および IVR における画像支援・画像評価を行い、核医学部門では 1) 核医学検査における深層学習を用いたノイズ除去システムの開発、2) 心臓検査における解析方法の検討、放射線治療部門では、MR 画像誘導即時適応放射線治療と AI 技術の臨床的応用に関して検討を行った。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

2024.08.002.

1. Yoshimoto Y, Yamaguchi S, Kimura S, Kitsukawa K, Matsumoto K, Shiko Y, Horii M, Watanabe S, Sasho T, Ohtori S. Intra- and interrater measurement reliability of lateral ankle ligament attachment locations using three-dimensional magnetic resonance imaging. J Orthop Sci. 2024 Aug 19;S0949-2658(24)00154-4. doi: 10.1016/j.jos.
2. Kono K, Yamaguchi S, Kimura S, Mikami Y, Kitsukawa K, Matsumoto K, Edama M, Shiko Y, Horii M, Sasho T, Ohtori S. Anterior talofibular ligament footprint dimension measured using three-dimensional magnetic resonance imaging. Skeletal Radiol. 2024 Sep 7. doi: 10.1007/s00256-024-04778-1.
3. Zhihui Tang, Shigeki Hirano, Yume Koizumi,

- Michiko Izumi, Yoshihisa Kitayama, Kosuke Yamagishi, Mitsuyoshi Tamura, Ai Ishikawa, Kouichi Kashiwado, Takashi Iimori, Hiroki Mukai, Hajime Yokota, Takuro Horikoshi, Takashi Uno, Satoshi Kuwabara. Diagnostic Sensitivity and Symptomatic Relevance of Dopamine Transporter Imaging and Myocardial Sympathetic Scintigraphy in Patients with Dementia with Lewy Bodies. *J Alzheimer's Dis.* 2024;100:127-137.
4. Koichiro Kurokawa, Yasutaka Yamada, Shinichi Sakamoto, Takuro Horikoshi, Kodai Sato, Sakie Nanba, Yoshihiro Kubota, Manato Kanesaka, Ayumi Fujimoto, Nobuyoshi Takeuchi, Hiroki Shibata, Tomokazu Sazuka, Yusuke Imamura, Toyonori Tsuzuki, Takashi Uno, Tomohiko Ichikawa. Implications of unconventional histological subtypes on magnetic resonance imaging and oncological outcomes in patients who have undergone radical prostatectomy. *Sci Rep.* 2024;14:1-8.
 5. Shigeki Hirano, Zhihui Tang, Yume Koizumi, Michiko Izumi, Yoshihisa Kitayama, Kosuke Yamagishi, Mitsuyoshi Tamura, Ai Ishikawa, Kouichi Kashiwado, Takashi Iimori, Hiroki Mukai, Hajime Yokota, Takuro Horikoshi, Takashi Uno, Satoshi Kuwabara. Cross sectional dopamine transporter imaging and myocardial sympathetic scintigraphy study in patients with dementia with Lewy bodies. *Alzheimer's Dement.* 2024;20:e087839.
 6. Nitta K, Matsumoto K, Yokota H, Murata T, Masuda Y, Uno T. Relationship between patient-friendly audiovisual systems and MRI contrast agent to adverse reactions. *J Magn Reson Imaging* 2024;59:2013-2020.
 7. Iwai Y, Mori S, Ishikawa H, Kanematsu N, Matsumoto S, Nakaji T, Okonogi N, Kobayashi K, Wakatsuki M, Uno T, Yamada S. Inter-fractional error and intra-fractional motion of prostate and dosimetry comparisons of patient position registrations with versus without fiducial markers during treatment with carbon-ion radiotherapy. *Radiol Phys Technol* 2024;17:504-517.
 8. Fujiwara K, Kondo T, Fujimoto K, Yumita S, Ogawa K, Ishino T, Nakagawa M, Iwanaga T, Tsuchiya S, Koroki K, Kanzaki H, Inoue M, Kobayashi K, Kiyono S, Nakamura M, Kanogawa N, Ogasawara S, Nakamoto S, Chiba T, Koizumi J, Kato J, Kato N. Clinical risk factors for portal hypertension-related complications in systemic therapy for hepatocellular carcinoma. *J Gastroenterol* 2024;59:515-525.
 9. Kurokawa K, Yamada Y, Sakamoto S, Horikoshi T, Sato K, Nanba S, Kubota Y, Kanesaka M, Fujimoto A, Takeuchi N, Shibata H, Sazuka T, Imamura Y, Tsuzuki T, Uno T, Ichikawa T. Implications of unconventional histological subtypes on magnetic resonance imaging and oncological outcomes in patients who have undergone radical prostatectomy. *Sci Rep* 2024;14:14868.
 10. Inoue T, Maki S, Yokota H, Furuya T, Yoda T, Matsumoto K, Yunde A, Miura M, Shiratani Y, Nagashima Y, Maruyama J, Inoue M, Shiga Y, Inage K, Orita S, Masuda Y, Uno T, Yamazaki M, Ohtori S. A novel evaluation for vertebral artery course using 3D magnetic resonance imaging with computed tomography-like bone contrast and Magnetic Resonance Angiography: A proof of concept study. *World Neurosurg* 2024;187:e166-e173.
 11. Handa H, Uzawa A, Mori M, Yasuda M, Onishi Y, Akamine H, Ogaya E, Niibe Y, Yokota H, Kuwabara S. Effects of denosumab and bisphosphonates on glucocorticoid-induced osteoporosis in patients with neuroimmunological disorders. *Intern Med* 2024. doi: 10.2169/internalmedicine. 3954-24.
 12. Saito T, Shikama N, Takahashi T, Nakamura N, Mori T, Nakajima K, Koizumi M, Sekii S, Ebara T, Kiyohara H, Higuchi K, Yorozu A, Nishimura T, Ejima Y, Harada H, Araki N, Miwa M, Yamada K, Kawamoto T, Imano N, Heianna J, Nozaki M, Wada Y, Ohkubo Y, Uchida N, Watanabe M, Kosugi T, Miyazawa K, Yasuda S, Onishi H. Quality of palliative radiotherapy assessed using quality indicators: a multicenter survey. *J Radiat Res* 2024;65:532-539.
 13. Sakai T, Yoneyama M, Zhang S, Kitsukawa K, Yokota H, Ichikawa R, Aoki Y, Watanabe A, Sato Y, Yanagawa N, Murayama D, Ito H, Ochi S, Miyati T. Clinical evaluation of 3D high-resolution isotropic knee MRI using Multi-Interleaved X-prepared TSE with inTuitive RELaxometry (MIXTURE) for simultaneous morphology and T2 mapping. *Eur J Radiol* 2024;177:111579.
 14. Nishibe T, Dardik A, Akiyama S, Kano M, Fukuda S, Koizumi J, Nishibe M. Reduced muscle mass and muscle quality in patients with intermittent claudication due to peripheral artery disease. *Ann Vasc Surg* 2024;105:275-281.
 15. Ito K, Nakajima Y, Ogawa H, Furusawa A, Murofushi KN, Kito S, Kino N, Yasugi T, Uno T,

- Karasawa K. Phase I/II study of stereotactic body radiotherapy boost in patients with cervical cancer ineligible for intracavitary brachytherapy. *Jpn J Radiol* 2024;42:909-917.
16. Higuchi A, Kubota Y, Yokota H, Miyazaki H, Ota J, Okafuji Y, Takaoka H, Uno T. Computed tomography angiography assessment of Adamkiewicz artery with sublingual nitroglycerin administration. *Neuroradiology* 2024. doi: 10.1007/s00234-024-03433-9.
 17. Fujita M, Nagashima K, Uno T, Hashimoto H, Suzuki K, Kasai T, Yamaguchi K, Onouchi Y, Sato D, Fujisawa T, Hata A. Impact of the COVID-19 pandemic on hypofractionated radiation therapy use for breast cancer in Japan: A nationwide study. *Adv Radiat Oncol* 2024;9:101555.
 18. Takatani T, Shiohama T, Takatani R, Hattori S, Yokota H, Hamada H. Brain morphometric changes in children born as small for gestational age without catch up growth. *Front Neurosci* 2024;18:1441563.
 19. Iramina H, Tsuneda M, Okamoto H, Kadoya N, Mukumoto N, Toyota M, Fukunaga J, Fujita Y, Tohyama N, Onishi H, Nakamura M. Multi-institutional questionnaire-based survey on online adaptive radiotherapy performed using commercial systems in Japan in 2023. *Radiol Phys Technol* 2024;17:581-595.
 20. Harada H, Shikama N, Notsu A, Shirato H, Yamada K, Uezono H, Koide Y, Kubota H, Yamazaki T, Ito K, Heianna J, Okada Y, Tonari A, Katoh N, Wada H, Ejima Y, Yoshida K, Kosugi T, Takahashi S, Komiyama T, Uchida N, Miwa M, Watanabe M, Nagakura H, Ikeda H, Saito T, Asakawa I, Takahashi T, Shigematsu N. Multi-institutional prospective observational study of radiotherapy for metastatic bone tumor. *J Radiat Res* 2024;65:701-711.
 21. Koizumi S, Keiichi I, Sakai T, Kubota Y, Yokota H, Takaoka H, Kohno H, Matsumiya G. Cardiac magnetic resonance feature tracking analysis for change in right ventricular function after cardioplegic arrest. *Heart Lung Circ* 2024;33:1457-1464.
 22. Utsumi N, Saito T, Shikama N, Takahashi T, Harada H, Nakamura N, Ueno S, Notsu A, Shirato H, Yamada K, Uezono H, Koide Y, Kubota H, Yamazaki T, Ito K, Heianna J, Okada Y, Tonari A, Katoh N, Wada H, Ejima Y, Yoshida K, Kosugi T, Takahashi S, Komiyama T, Uchida N, Miwa M, Watanabe M, Nagakura H, Ikeda H, Asakawa I, Shigematsu N. Quality of life improvement after radiotherapy for bone metastases assessed using real-world data: a secondary analysis of a Nationwide Multicenter Cohort Study. *Jpn J Clin Oncol* 2024. doi: 10.1093/jjco/hyae150.
 23. Wada T, Koizumi J, Takeuchi T, Akutsu A, Tsuchiya S, Kubota Y, Kondo H, Fujimoto H, Uno T. Feasibility and safety of the distal transradial access for noncardiac intervention. *Interv Radiol* 2024;9:186-191.
 24. Saito M, Abe K, Tsuneda M, Fujita Y, Abe Y, Nishimura T, Kodate A, Kanazawa A, Harada R, Watanabe M, Uno T. Feasibility of creating a daily adaptive plan using automatic DIR-created target and OARs contours in patients with prostate cancer magnetic-resonance-guided adaptive radiotherapy. *J Radiat Res* 2024;65:845-850.
 25. Fujimoto K, Kondo T, Unoza H, Koizumi J, Kato N. First experience with the utility of ReMAP (repeatable microcatheter access port) in portal vein stenting. *Cureus* 2024;16:e58530.
 26. Namba S, Yokota H, Mukai H, Hashiba J, Kogayo N, Nakao T, Sugiyama A, Ogaya E, Aotsuka Y, Kuwabara S, Uno T. Neurosarcoidosis with enlargement of the dorsal root ganglia: A case report. *Radiol Case Rep* 2024;19:1718-1721.
 27. Kouchi Y, Sakai N, Harada-Kagitani S, Eto R, Mishima T, Takano S, Nasu K, Ikeda J-I, Ohtsuka M, Kishimoto T. SMARCB1-deficient malignant neoplasm of the pancreas with heterogeneous morphologies that cannot be classified into existing histologic types. *Pathol Int* 2024. doi: 10.1111/pin.13489.
 28. Ikari J, Katsumata M, Urano A, Imamoto T, Suzuki Y, Nishiyama A, Yokota H, Ono K, Okamoto K, Abe E, Kamata T, Fujii S, Okumura K, Ota J, Suzuki E, Kawata N, Ozawa Y, Masuda Y, Matsushita K, Sakao S, Uno T, Tatsumi K, Suzuki T. Dynamic chest radiographic evaluation of the effects of tiotropium/olodaterol combination therapy in chronic obstructive pulmonary disease: the EMBODY study protocol for an open-label, prospective, single-centre, non-controlled, comparative study. *BMJ Open Respir Res* 2024;11:e002374.
 29. Zenda S, Kashihara T, Saito T, Okamoto H, Kadoya N, Chiba T, Noda S-E, Kawaguchi T, Jingu K, Shibuya K, Uno T, Igaki H. Two-fractionated stereotactic magnetic resonance-guided adaptive

radiation therapy for patients with prostate cancer (SMART PRO trial): protocol for a confirmatory clinical trial. BMJ Open 2024;14:e082899.

30. Murata T, Hashimoto T, Onoguchi M, et al. Verification of image quality improvement of low-count bone scintigraphy using deep learning. Radiol Phys Technol. 2024 Feb;17(1):269-279.

【雑誌論文・和文】

1. 服部真也, 久保田姫子, 横田元. 続 General Radiology 診断演習 死せざるもの 画像診断 44 巻 9 号 Page957-960.
2. 阿久津陽, 吉田薫, 堀越琢郎, 那須克宏. 【臍胆道周囲の後腹膜腫瘍性病変の診断と治療】臍胆道周囲の後腹膜腫瘍性病変 傍神経節腫 (パラガングリオーマ). 胆と臍 2024;45:931-935.
3. 小茅生直輝, 西山晃, 向井宏樹, 遠藤正浩, 藤本肇, 宇野隆. 【胸部の最新画像情報 2024】胸部異常影を契機に発見された血管型 Ehlers-Danlos 症候群の 1 例 臨床放射線 (0009-9252) 69 巻 1 号 Page101-104 (2024.01)
4. 吉田薫, 那須克宏. 【絶対苦手分野にしない 消化管の画像診断】直腸 MRI の読影. 臨床画像 2024; 40:1294-1300.
5. 恒田雅人. 【RADIATION THERAPY TODAY 2024 放射線治療最前線 進化し続ける高精度放射線治療とその臨床応用】即時適応放射線治療の最新トピックス MR リニアックにおける技術と物理学的側面. INNERVISION 2024;39:16-18.
6. 堀越琢郎. 【臍胆道周囲の後腹膜腫瘍性病変の診断と治療】CT, MRI による後腹膜腫瘍の画像診断. 胆と臍 2024;45:889-895.
7. 横田元. 【画像検査を使いこなすー放射線科医からの贈り物】(第Ⅲ部) 各疾患の画像診断 全身性疾患 末梢神経疾患. Nihon Ishikai Zasshi 2024a; 153: S341-S342.
8. 服部真也, 羽柴淳, 向井宏樹. General Radiologist に贈る, 押さえておきたい小児疾患 58. 画像診断増刊号 2024; Vol.44: A126-A137.
9. 横田元. 【MRI 撮像の工夫と解釈ーわかりにくい病変と解剖】神経根の評価法および肥厚する疾患. 脊椎脊髄ジャーナル 2025;37:1083-1090.
10. 横田元. 【末梢神経・筋肉の自己免疫性・炎症性疾患ハンドブック】(第 1 章) 検査法概論 画像検査をどのように行うか (1)MRI. Brain and Nerve 2024b; 76:0481-0486.
11. 宇野隆. 【食道癌 2024 -基礎・臨床の最新動向-】食道癌の治療 化学放射線療法 高齢者に対する化学放射線療法の考え方. Nihon Rinsho 2024;82: 448-451.
12. 向井宏樹. 【「どっちなんだ?!」をはずさないための画像診断の急所】骨軟部領域の「どっちなんだ?!」. 臨床画像 2024b; 40:757-766.
13. 向井宏樹. 【出会ったときに悩まない 医原性病変の画像診断】皮下異物 美容外科分野を中心に. 臨床画像 2024a; 40:965-973.
14. 向井宏樹. 【“経過観察”の脳画像診断: ホントに著変ありません?】脱髄・炎症性疾患. 画像診断 2024;44:1306-1314.
15. 宇野隆. 化学放射線療法 (1) 高齢者に対する化学放射線療法の考え方. 食道癌 2024 VIII 食道癌の治療. 日本臨牀増刊号、日本臨牀社、2024, p448-451.
16. 吉田薫, 那須克宏 直腸 MRI の読影 臨床画像 vol.40, No.11, 2024 1294-1300
17. 窪田吉紘, 智史土屋, 陽阿久津, 嵩武内, 星騎下田, 裕己宮崎, 淳小泉, 隆宇野. エキスパートによる IVR 症例集 Tug-of-wire 法で bidirectional にシャント閉塞を行った腎 AVF 疑いの一例. Rad Fan 2024;22:91-94.

【単行書】

1. 渡辺未歩 放射線治療計画ガイドライン 2024 年度版 金原出版 東京 2024 婦人科 p312-350
2. 橘川薫 II 臨床編 10) 関節・骨軟部 MRI Q79 肘関節 MRI プロトコルの基本とピットフォールを教えてください Gakken KEYBOOK Beginners MRI 一問一答. Gakken
3. Uno T. Radiological Treatment of Cervical Cancer. In Aoki D (ed). Recent Topics on Prevention, Diagnosis, and Clinical Management of Cervical Cancer. Comprehensive Gynecology and Obstetrics. Springer Nature, 2024, 165-174.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. 黒澤隆那: 第 71 回関東支部研究発表大会 シンポジウム「AI 技術が MRI 臨床画像にもたらす革新ー診療放射線技師の役割と展望」
2. 笠原哲治: 第 88 回日本循環器学会学術集会 シンポジウム「心房細動治療における画像支援」
3. 澤田晃一: 日本核医学会春季大会 PET 施設認証セミナー「認証業務の経験」
4. 渡辺未歩: ワークショップ「安全・安心な小線源治療のために」日本放射線腫瘍学会小線源治療部会第 26 回学術大会 2024 年 5 月 25 日(土) 会場: G メッセ群馬
5. 斎藤真: 第 37 回高精度放射線外部照射部会学術大会 シンポジウム 2「Adaptive RT の臨床実践 (臍臓以外)」
6. 斎藤真: 第 3 回日本 MR 画像誘導適応放射線治療研究会 シンポジウム「腹部・骨盤領域における即時適応放射線治療の有用性と有意性」

7. 渡辺未歩：日本放射線腫瘍学会小線源治療部第26回学術大会 2024年5月24日 ランチョンセミナー
8. 山口智生：第37回日本放射線腫瘍学術大会 ACT スポンサーセミナー
9. 服部真也：第60回日本小児放射線学会学術集会 現場主義！小児がんの画像診断 画像ステージングシステムの理解 2024.6.21~2024.6.22
10. 橋川薫：骨軟部画像診断入門 手・手関節 JCR ミッドサマーセミナー 2024.7.13
11. 橋川薫：ワンランク上の骨軟部画像診断を目指して末梢神経疾患（上肢） 第34回骨軟部放射線診断セミナー 2024.7.20
12. 橋川薫：教育講演2 骨軟部の感染症 四肢の感染症 第52回日本磁気共鳴医学会大会 2024.9.21
13. 渡辺未歩：第83回日本医学放射線学会総会 研修医セミナー1 (IVR・治療)
14. 向井宏樹：リンパ腫：“Primary” CNS lymphomaを中心にー末梢神経のリンパ腫も含めてー 関東地方会セミナー 2024年2月1日ー29日
15. 向井宏樹：総合臨床セミナー1 中枢神経 頭痛と画像診断 第43回画像医学会 2024年2月23日
16. 横田元：神経鞘腫色々。神経放射線学会, 2024/2/9
17. 横田元：実臨床におけるハイエンドCTの活用。画像医学会, 2024/2/24
18. 横田元：会長企画：末梢神経の更なる可視化。第83回医学放射線学会総会, 2024/4/13
19. 横田元：炎症性脱髄疾患の画像診断。脊椎神経疾患に親しみ強くなる会, 2024/6/15
20. 横田元：レカネマブ関連の画像診断。認知症ネットワークセミナー in 千葉, 2024/7/19
21. 横田元：Evidenceに基づいた Dual Energy の進展。日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2024/10/18
22. 横田元：教育講演 感染性脊髄炎。日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2024/10/20
23. 横田元：画像からNMOSDを考えると。MS/NMOSD 疾患啓発連携セミナー, 2024/11/1
24. 横田元：Clinical Applications of MR Neurography: Upper Extremity. International Congress on MRI (ICMRI), Seoul, 2024/11/8
25. 横田元：失敗から学ぶ神経放射線：奮闘記。NeuroImaging Refresher Course (NIRC), 2024/11/10
26. 横田元：認知症の画像診断ことはじめ。画像診断WEBセミナー in Ibaraki, 2024/11/27
27. 横田元：レジデントセミナー【脳神経】。日本放射線科専門医会・医会専攻医セミナー, 2024/12/20
28. 横田元：シンポジウム Radiogenomics の現状と今後の展望 第83回医学放射線学会総会。2024/4/13
29. 横田元：シンポジウム 神経筋疾患の病態を捉える

新たなモダリティー。MR neurography の技術的到達点。日本神経学会学術大会。2024/5/31

30. 宇野隆：前立腺がん放射線治療の進歩 ～MR リニアックに至るまで～ Mo-FESTA CANCER FORUM 2024 東京 2024/11/24
31. 宇野隆：婦人科疾患における放射線治療の最新の話題。JSAWI 2024 モーニングセミナー 2024/10/12
32. 宇野隆：1.5T MR リニアック導入による即時適応放射線治療。山口県放射線治療セミナー 2024/10/25
33. 宇野隆：MR リニアックによる適応放射線治療の現在とその将来。公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団 施設研究会 2024/2/22

【学会発表数】

国内学会 12 学会 31 回（うち大学院生 4 回）
国際学会 2 学会 5 回（うち大学院生 0 回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「子宮の変位と変形に即時に対応する高磁場 MR リニアックによる適応放射線治療法の開発」代表者：宇野隆 2022-2024
2. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「MR 画像誘導即時適応放射線治療中の革新的線量検証システムの確立」代表者：恒田雅人 2022-2024
3. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「高磁場 MR リニアックによる時系列画像を用いたがんの超早期予後予測バイオマーカー確立」代表者：滝嶋葉月 2023-2025
4. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「炭酸ガス血管造影とポリドカノールを組み合わせた静脈瘤硬化療法の改善」代表者：土屋智史 2023-2025
5. 日本医療研究開発機構「前立腺癌に対する MR 画像誘導即時適応定位放射線治療の臨床応用を目指す研究」分担者：宇野隆 2022-2024
6. 共同研究費「Radiogenomics を用いた肝細胞癌患者の遺伝子発現予測モデルの検討」代表者：横田元 2023-2027

【受賞歴】

1. 中西一成：第71回関東支部研究発表大会 最優秀演題賞
2. 岡田浩樹：第71回関東支部研究発表大会 優秀演題賞
3. 中西一成：Gyro Cup 2024 Gold Award
4. 山岸嘉希：第19回 Signa 甲子園 2024 匠の技 銀賞
5. 田岡淳一：第71回関東支部研究発表大会 優秀演題賞
6. 伊藤僚：第71回関東支部研究発表大会 新人賞
7. 廣山陽太：第71回関東支部研究発表大会 優秀演題賞
8. 横田元：Japanese Journal of Radiology (JJR) Excellent

Reviewer Award

9. 横田元：日本磁気共鳴医学会：大会長最優秀賞
『Diffusion-relaxation matrix (DRM) を用いた脳梗

塞の発症後時間推定』(DRM から算出される T2 値
で脳梗塞発症時間推定を行った研究)

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

放射線治療（外照射 793 名、小線源治療 39 名）、血管造影（3,457 件）、CT 検査（43,994 件）、MRI 検査（13,740 件）、核医学検査（4,336 件）であった。放射線被ばくの低減に努め、各検査の適正な管理を行った。MR リニアックを用いた超寡分割照射による高精度放射線治療が首都圏で唯一施行され、県内外からの患者紹介を受け入れることで 101 名に対して高精度治療を行った。また、県内の他施設から依頼され小線源治療を提供した。これにより、当施設から遠く離れ放射線診療機器が十分に配置されていない地域に居住する患者などへの対応している。各種血管内治療（IVR）に対応し、短期入院での治療にも対応している。

●地域貢献

千葉県がんセンター、君津中央病院、成田赤十字病院、済生会習志野病院、山王病院、船橋市立医療センター、聖隷佐倉病院、千葉医療センター、東邦大学佐倉医療センター、松戸市立総合医療センター等に配置された常勤放射線科専門医との連携を構築した。県外では、沼津市立病院（静岡県）および上都賀総合病院（栃木県）に常勤診断医を派遣して地域がん診療拠点病院としての活動を支えている。県内全域の放射線腫瘍医、診療放射線技師、医学物理士を集めて「千葉県放射線治療の会」を主催し、千葉県全体の放射線治療レベルの向上に貢献した。画像診断、核医学に関する各種研究会を開催し、臨床および基礎研究の推進に努めている。

研究領域等名：	臨 床 腫 瘍 学
診療科等名：	腫瘍内科／臨床腫瘍部

●はじめに

研究領域としては、悪性腫瘍の基礎的研究を進めている。領域横断的・先端のがん薬物療法の臨床・橋渡し研究のための人材養成・研究体制確立に力を注いでいる。

診療部門としては、「臨床腫瘍部」では中央診療部の使命として通院治療室の運営を担い、院内がん薬物療法レジメンの審査・登録制度による院内がん診療体制の整備を行い、各診療科と連携し適切な医療提供を行うことに貢献している。

また「腫瘍内科」では診療科として、原発不明がん、成人軟部肉腫も含めた臓器横断的がん診療を入院・外来症例とともに提供し、最適な集学的治療の実施と、専門医療者教育に尽力している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部4年生に対する「腫瘍内科・リハビリテーション」ユニット講義は任教室として実施。医学部5・6年生に対しては、アドバンスト・クリニカルクラークシップを実施している。

・卒後教育／生涯教育

附属病院で初期研修医のローテート研修の受け入れを行い、入院症例・通院治療室症例の診療経験をもとに専門的指導を行っている。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

通院治療室、病棟・外来診療において病院内外の医療従事者が「がん薬物療法専門医」、「がん看護専門看護師」「がん薬物療法認定薬剤師」、「がん専門薬剤師」などの専門資格を取得するための研修の場を提供している。

●研 究

・研究内容

原発不明がんの診断・治療方法を開発するための研究、がんの precisionmedicine に関する治療研究として、企業治験、医師主導治験、先進医療Bなどに取り組んでいる。その他、悪性腫瘍における薬物療法耐性機序解明・克服などをテーマとした臨床的・基礎的研究に加え、外来化学療法における安全管理に関する研究、腫瘍内科医養成のための効果的カリキュラム作成に関する研究に取り組んでいる。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Kato N. Outcomes and Post-removal Course of Lumen-Apposing Metal Stent Placement for Peripancreatic Fluid Collections: A Comparative Study of Pancreatic Pseudocysts and Walled-Off Necrosis. Cureus. 2024 Oct 15;16(10):e71561. doi: 10.7759/cureus.71561. PMID: 39553082; PMCID: PMC11565458.
2. Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Kato N. Tardive Peritonitis After Endoscopic Ultrasound-Guided Pancreatic Pseudocyst Drainage: A Case Report. Cureus. 2024 May 13;16(5):e60179. doi: 10.7759/cureus.60179. PMID: 38868273; PMCID: PMC11167511.
3. Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Takiguchi Y, Kato N. Asymptomatic Pneumoperitoneum With a Large Amount of Gas Appeared During Endoscopic Ultrasound-Guided Biliary Drainage. Cureus. 2024 Feb 16;16(2):e54330. doi: 10.7759/cureus.54330. PMID: 38500944; PMCID: PMC10944802.
4. Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Takiguchi Y, Kato N. Parathyroid Hormone-Related Peptide-Producing Gallbladder Cancer Presenting With Humoral Hypercalcemia of Malignancy: A Case Report. Cureus. 2024 Jan 25;16(1):e52951. doi: 10.7759/cureus.52951. PMID: 38406045; PMCID: PMC10894057.
5. Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Kato N. Stent Deployment Without Tract Dilation in Endoscopic Ultrasound-Guided Hepaticogastrostomy Using a Novel Partially Covered Metal Stent With a Super-Slim Stent Delivery System: A Case Report. Cureus. 2024 May 16;16(5):e60406. doi: 10.7759/cureus.60406. PMID: 38882994; PMCID: PMC11179154.
6. Takahashi K, Ohyama H, Takiguchi Y, Kan M, Ouchi M, Nagashima H, Okitsu K, Ohno I, Kato

N. Penetration of duodenal wall by proximal end of biliary straight plastic stent in a patient with ampullary carcinoma. DEN Open. 2024 Jan 22;4(1):e337. doi: 10.1002/deo2.337. PMID: 38264463; PMCID: PMC10803890.

7. Horio R, Kato J, Taida T, Ohta Y, Saito K, Oyama Y, Nakazawa H, Mamiya Y, Goto C, Takahashi S, Ouchi M, Kurosugi A, Sonoda M, Kan M, Kaneko T, Nagashima H, Akizue N, Takahashi K, Okimoto K, Ohyama H, Matsumura T, Ohno I, Kato N, Clinical outcomes and reintervention after endoscopic retrograde cholangiopancreatography in primary sclerosing cholangitis in absence of cholangitis, Indian J Gastroenterol. 2024 Oct;43(5): 1021-1029. doi: 10.1007/s12664-024-01630-1. Epub 2024 Jul 12.

【雑誌論文・和文】

1. 大野泉、日本神経内分泌腫瘍研究会 NEN Policy recommendation (2024) v1.1

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 大野泉、日本消化器病学会総会（2024）消化器癌に対する遺伝子パネル検査の現状と課題（口演）
2. 大野泉、第5回標的アイソトープ治療線量評価研究会（2024）シンポジウム演者（招待）：ネットワークで開くNEN診療新時代
3. 大野泉、第21回日本臨床腫瘍学会学術集会モーニングセミナー（2024）演者 PRRTで切り開く新しいNEN治療

【学会発表数】

国内学会 6学会 10回（うち大学院生0回）
国際学会 0学会 0回（うち大学院生0回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 若手「ゲノム解析を用いた原発性硬化性胆管炎からの胆管癌発癌メカニズムの解明」代表者：高橋幸治 2024-2025

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

外来診療では、胸部悪性腫瘍、消化器悪性腫瘍、神経内分泌腫瘍、原発不明がん、頭頸部がん、メラノーマ（皮膚以外）、成人軟部肉腫、重複がんなど、領域にとらわれることなく腫瘍横断的な診療を行っている。また、がんゲノム医療については院内の中心的役割を担いつつ、院内体制の整備にも貢献している。他施設・診療科からの診療依頼を積極的に受け入れ、外来受診者数の増加を認めている。良好な患者QOLを得るために、積極的に外来化学療法を施行している。

また、全国の共同臨床試験グループにも複数所属し、臨床試験への症例登録を行っている。通院治療室では、「がん薬物療法・生物学的製剤療法委員会」によるレジメン審査・登録制度を整備し、その安全性を管理している。

入院診療においても、全てのがん腫の診療を対象としており、外科的治療・放射線治療・薬物療法を適切に組み合わせた集学的治療を提供している。悪性腫瘍を対象とした企業治験、自主臨床試験を推進している。

●地域貢献

地域での希少癌診療における円滑な連携を目指して、県内7施設とNET SQUARE CHIBAを形成し、診療連携を進めている。

研究領域等名：	代 謝 生 理 学
診療科等名：	

●はじめに

代謝生理学研究室では、糖代謝制御とエネルギー代謝制御の研究を行っている。特に、様々な遺伝性因子や環境因子が、肝臓、腎臓、膵臓、脂肪組織、脳など様々な臓器による臓器間ネットワークを通じた代謝機能の制御やその異常に伴う代謝性疾患の発症に関与する分子メカニズムを解析している。また、生体の栄養素を感知する機構や膵β細胞の分化・再生の制御機構の解明を目指した研究にも取り組んでいる。これらの研究に関して、ケンブリッジ大学（Videl-Puig 教授）、南京大学（Li 准教授）、京都大学（木村教授）との共同研究も行っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部2年次学生に「生理学ユニット」の講義（90分×16コマ、三木、李、波多野）を行った。

3年次学生に「基礎医学ゼミ」の講義（90分×4コマ、三木、李、波多野）、「統合臨床薬理学」(90分×1コマ、三木)を行った。

・大学院教育

修士課程「先端生命科学特論」の講義（90分×1コマ、三木）、博士課程「機能ゲノム学」の講義（90分×2コマ、三木、波多野）を行った。卓越大学院博士課程に対し、「革新医療創生演習」(三木、李、波多野)を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

千葉大学薬学部1年次学生に「機能形態学」の講義（90分×2コマ、三木）、大阪大学医学部2年次学生に「薬理学」の講義（90分×2コマ、三木）を行った。

●研 究

・研究内容

糖尿病の発症機序と病態の解明を進めている。特に、腸管での栄養素感知の分子メカニズムや、その際の腸内分泌ホルモンの分泌制御の解析を行った。また、高脂肪食を摂取した際に糖尿病を発症するモデルマウスを作製し、その病態解析から脂肪組織と肝臓の相互作用を介して糖代謝の恒常性が維持されていることを見いだした。インスリンを分泌する膵β細胞量の制御機構の研究を進めた。腎臓尿管における代謝制御について解析し、腎尿管での代謝変化が感知される機構を解析する実験系を構築した。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

- Matsuda T, Kono T, Taki Y, Sakuma I, Fujimoto M, Hashimoto N, Kawakami E, Fukuhara N, Nishioka H, Inoshita N, Yamada S, Nakamura Y, Horiguchi K, Miki T, Higuchi Y, Tanaka T. Deciphering craniopharyngioma subtypes: Single-cell analysis of tumor microenvironment and immune networks. *iScience*. 2024 Oct 1;27(11):111068.
- Taki Y, Kono T, Teruyama K, Ichijo T, Sakuma I, Nagano H, Miyagawa H, Kono S, Fujimoto M, Hashimoto N, Yokoyama M, Kawakami E, Miki T, Tanaka T. Comparative analysis of aldosterone and renin assays for primary aldosteronism screening. *Sci Rep*. 2024 Oct 29;14(1):26040.
- Hatano R, Lee E, Sato H, Kiuchi M, Hirahara K, Nakagawa Y, Shimano H, Nakayama T, Tanaka T, Miki T. Hepatic ketone body regulation of renal gluconeogenesis. *Mol Metab*. 2024 Jun;84:101934.
- Suzuki J, Furuta S, Kameoka Y, Suzuki O, Ito F, Uno K, Kishi F, Yamakawa Y, Matsushita K, Miki T, Nakajima H, Suzuki K. Dynamics of scFv-targeted VAP2 correlating with IL-16, MIF and IL-1Ra in ANCA-associated vasculitis. *Microvasc Res*. 2024 Nov;156:104720.
- Hatano R, Zhang X, Lee E, Kaneda A, Tanaka T, Miki T. Mosaic ablation of pancreatic β cells induces de-differentiation and repetitive proliferation of residual β cells in adult mice. *iScience*. 2024 Aug 3;27(9):110656.
- Koura M, Kameoka Y, Kishi F, Yamakawa Y, Ito F, Sugamata R, Doi Y, Uno K, Nakayama T, Miki T, Nakajima H, Suzuki K, Suzuki O. Enhanced efficacy of the novel recombinant clone VasSF in a mouse model of antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. *Clin Exp Immunol*. 2024 Mar 12;216(1):55-67.
- Lee E, Korf H, Vidal-Puig A. Reply to: "Liver-adipose tissue crosstalk in nonalcoholic fatty liver

disease: the emerging role of remnant cholesterol": "BAT activation might improve NAFLD in patients, but this might require developing and/or maintaining functionally relevant levels of BAT mass.". J Hepatol. 2024 Mar; 80(3): e112-e114.

【雑誌論文・和文】

1. 芳川隼登、三木隆司 GLP-1 の分泌および作用機序と糖尿病、肥満症治療への普及 実験医学 2024/9;42(14):2141-2148

【単行書】

1. 三木隆司、波多野亮. 生理学用語ハンドブック (監修: 日本生理学会、編集: 日本生理学会用語委員会) 丸善出版 2024

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. 李恩瑛「低血糖および高血糖時のグルカゴン分泌調節における KATP チャネルの役割」第 17 回千葉糖尿病診療研究会 (2024.2)
2. 三木隆司「大規模災害時の糖尿病管理と問題」Teijin DPP-4i Family Web Seminar (2024.4)
3. 波多野亮「膵 β 細胞に再生能はあるか? - 糖尿病根治治療の可能性 -」第 42 回千葉糖尿病研究会 (2024.10)

【学会発表数】

国内学会 3 回 (うち大学院生 0 回)
国際学会 0 回 (うち大学院生 0 回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤研究 B「構造特異的胆

汁酸シグナルによる新規脂肪肝抑制機構のマルチオミクス解析」代表者: 三木隆司 2022-2026

2. 文部科学省科学研究費 基盤研究 C「臓器間ネットワークを介した腎糖新生制御とその生理学的役割」代表者: 波多野亮 2023-2025
3. 文部科学省科学研究費 基盤研究 C「褐色脂肪組織と白色脂肪組織のクロストークによる脂肪量の制御機構 - Lgr6 の役割 -」代表者: 李恩瑛 2024-2026
4. 公益財団法人鈴木万平糖尿病財団「臓器間ネットワークを介した腎糖新生制御機構の解明」代表者: 波多野亮 2023-2025
5. 共創の場 (JST)「災害など危機的状況から住民を守るレジリエントな広域連携医療拠点に関する国立大学法人千葉大学による研究開発」代表者: 三木隆司 2023-2025
6. 日本糖尿病財団・欧州交換留学プログラム「脂肪組織での FADS3 の生理的役割の解明についての研究」代表者: 李恩瑛 2024-2025
7. 第 4 回日本糖尿病財団・ノボノルディスクファーマ研究助成「ケトン体の腎糖新生制御による糖尿病性腎障害に対する保護的役割」代表者: 波多野亮 2024-2025

研究領域等名：	疾 患 生 命 医 学
診療科等名：	

●はじめに

生殖発生に関連する研究テーマで、減数分裂の制御メカニズムや精子形成プログラム遺伝子群の活性化メカニズムを解明した。また新規に学術変革領域 A の領域代表として、生殖とトランスポゾンに関連する異分野融合型の境界学術領域の立ち上げを行ってチーム研究を推進している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

基礎演習を実施した。

・大学院教育

修士課程講義 90 分×1 コマ，博士課程 90 分×2 コマを行った。博士課程大学院生 2 名の学位指導を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

非常勤講師として北海道大学理学部で発生生物学の講義を担当している。

●研 究

・研究内容

主な研究テーマは生殖発生であり，減数分裂の雌雄の制御の違いのメカニズムを解明した。また 2025 年度より学術変革領域 A「機動性ゲノム」の領域代表として、生殖とトランスポゾンに関連する境界学術領域の立ち上げを行って異分野融合型のチーム研究を推進している。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Kaneko S, Miyoshi K, Tomuro K, Terauchi M, Kondo S, Tani N, Ishiguro K, Toyoda A, Noguchi H, Iwasaki S, Saito K : Mettl1-dependent m7G tRNA modification is essential for maintaining spermatogenesis and fertility in *Drosophila melanogaster*. *Nature Communications* 15, 8147 (2024)
2. Yoshimura S, Shimada R, Kikuchi K, Kawagoe S, Abe H, Iisaka S, Fujimura S, Yasunaga K, Usuki S, Tani N, Ohba T, Kondoh E, Saio T, Araki K, *Ishiguro K : Atypical heat shock transcription factor HSF5 is critical for male meiotic prophase under non-stress conditions. *Nature Communications* 15, 3330 (2024)
3. Akiyama T, Ishiguro K, Chikazawa N, Ko SBH, Yukawa M, Ko MSH : ZSCAN4-binding motif -TGACAC is conserved and enriched in CA/TG microsatellites in both mouse and human genomes. *DNA Research* 31(1), dsad029 (2024)
4. Alavattam KG, Esparza JM, Hu M, Shimada R, Kohrs AR, Abe H, Munakata Y, Otsuka K, Yoshimura S, Kitamura Y, Yeh YH, Hu YC, Kim J, Andreassen PR, *Ishiguro K, *Namekawa SH. (*co-corresponding) : ATF7IP2/MCAF2 directs H3K9 methylation and meiotic gene regulation in the male germline. *Genes & Development* 38, 115-130 (2024)
5. Shimada R., *Ishiguro K : Female-specific mechanisms of meiotic initiation and progression in mammalian oocyte development. *Genes to Cells* 29 (10), 797-807 gtc.13152 (2024)
6. Ishiguro K: Mechanisms of meiosis initiation and meiotic prophase progression during spermatogenesis. *Molecular Aspects of Medicine* 97 101282 (2024)

【雑誌論文・和文】

1. 石黒啓一郎：企画者概論「不妊の原因解明に挑む生殖細胞研究」羊土社 実験医学 2024 年 2 月号(3) 376-381, 2024
2. 島田龍輝，石黒啓一郎：減数分裂開始の制御機構とその雌雄性差 羊土社 実験医学 2024 年 2 月号(3) 389-397, 2024

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. Kei-ichiro Ishiguro : Initiation of meiosis with or without STRA8. Cold Spring Harbor Laboratory Meeting 2024 GERM CELLS 2024 年 10 月 6 日 NY, USA
2. Kei-ichiro Ishiguro : The Mechanisms Underlying the Transcriptional Activation of Meiotic Genes by the STRA8-MEIOSIN Complex. Gordon Research conference-MEIOSIS (NH, USA) 2024 年 6 月 4 日 NH, USA

3. 石黒啓一郎：減数分裂開始機構の種差 第 47 回日本分子生物学会大会 シンポジウム「有性生殖における染色体・クロマチン・核動態」(福岡) 2024 年 11 月 29 日
4. 石黒啓一郎：The molecular mechanism underlying switch from mitosis to meiosis 第 69 回日本人類遺伝学会大会 (札幌) 2024 年 10 月 12 日
5. 石黒啓一郎：減数分裂を原因とする染色体異数性 第 64 回日本先天異常学会学術集会 (東京 船堀) 2024 年 7 月 27 日
6. 石黒啓一郎：卵母細胞に特異的な減数分裂開始の制御機構 日本繁殖生物学会特別講演 2024 年 4 月 27 日

【学会発表数】

国内学会 14 回 (うち大学院生 2 回)
国際学会 4 回 (うち大学院生 0 回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(A)「減数分裂と体細胞分裂との本質的な違いを決定するメカニズムの解明」代表者：石黒啓一郎 2023～2026
2. 文部科学省科学研究費 学術変革領域研究 A 公募

- 研究「細胞周期の G2 期を減数分裂仕様に特殊化する仕組みの解明」代表者：石黒啓一郎 2024～2025
3. AMED-PRIME 革新的先端研究開発支援事業「疾患モデル動物を用いた生殖可能ライフスパンに関する研究開発」代表者：石黒啓一郎 2021-2024
4. 公益財団法人内藤記念科学振興財団「雄性不妊の原因解明に向けた雄性減数第一分裂前期の制御機構の研究」代表者：石黒啓一郎 2024-2025
5. 公益財団法人上原記念生命科学財団「減数分裂における減数第一分裂前期のパキテン期と体細胞分裂の G2 期との違いを生み出す遺伝子発現制御機構」代表者：石黒啓一郎 2024-2025
6. 文部科学省科学研究費 学術変革領域研究 A 計画研究「生殖細胞における機動性 DNA エLEMENT の伝達と減数分裂チェックによる制御」代表者：石黒啓一郎 2025-2029
7. 文部科学省科学研究費 学術変革領域研究 A 総括班「機動性 DNA エLEMENT と宿主がおりなす生物多様性創出：宿主対応と継世代伝播」代表者：石黒啓一郎 2025-2029

●その他

大会会長として以下の 3 つの研究会議を主催した。

5th KeyForum International Symposium -Frontiers in Epigenetics- Health Path and Disease Path & Reproduction Dynamics -大会会長- 2024 年 11 月 20-22 日
第 42 染色体ワークショップ・第 23 核ダイナミクス研究会 大会会長 2025 年 1 月 29-31 日
第 5 回有性生殖研究会 大会会長 2025 年 3 月 7-9 日

研究領域等名：	発 生 再 生 医 学
診療科等名：	_____

●はじめに

神経系の発生を研究し、神経系の構築で用いられる分子や分子機構を利用することにより、再生医学における新しい治療法の開発を目指している。特に、神経幹細胞が個体発生の過程で老化し様々な種類のニューロンを作る能力を喪失することを克服し臨床応用に道を拓くべく、神経幹細胞を初期の多能性を有する状態に若返らせることを目的として、当研究室で発見し初期の脳の神経幹細胞で働く Nepro などを中心に研究している。神経幹細胞とニューロン分化の新しい制御機構を分子レベルで詳細に解明するとともに、深層学習を用いた新規の解析法を開発している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

1 年次学生の「遺伝分子医学ユニット」の講義 90 分×1 コマ、3 年次学生の基礎医学ゼミ「神経系構築の分子機構」で講義 90 分×8 コマ、スカラシッププログラム「神経系発生の分子機構の解析」を実施している。

・大学院教育

修士課程の「先端生命科学特論」の講義 90 分×2 コマ、博士課程の「発生再生医学特論」の講義 90 分×15 コマ、「発生再生医学演習」を 90 分×15 コマ、「発生再生医学実習」を 90 分×15 コマ、卓越大学院プログラムの「治療学演習」90 分×7 コマを実施した。また、博士課程の「卓越教養特論」と「CITIP 特論」を科目責任者として組織している。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

文科省の卓越大学院プログラム「革新医療創生 CHIBA 卓越大学院」のコーディネーターとしてプログラムを運営している。また、文科省の博士課程教育リーディングプログラム「免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム」を責任者として、科学技術振興機構の次世代研究者挑戦的研究プログラム「全方位・挑戦的融合イノベーター博士人材養成プロジェクト」を事業統括として実施している。

●研 究

・研究内容

脳の神経細胞の分化における核内動態を解析できる実験系を開発した。また、理学研究院の村田武士教授等との共同研究により、薬剤誘発性心突然死の原因タンパク質 hERG チャンネルと誘発薬剤との結合モデルをクライオ電子顕微鏡を用いて解明した。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Miyashita Y, Moriya T, Kato T, Kawasaki M, Yasuda S, Adachi N, Suzuki K, Ogasawara S, Saito T, Senda T, Murata T. Improved higher resolution cryo-EM structures reveal the binding modes of hERG channel inhibitors. Structure 2024;32:1926-1935

【学会発表数】

国内学会 2 学会 2 回（うち大学院生 1 回）
国際学会 1 学会 1 回（うち大学院生 1 回）

【外部資金獲得状況】

1. 科学技術振興機構 次世代研究者挑戦的研究プログラム「全方位・挑戦的融合イノベーター博士人材養成プロジェクト」代表者：斎藤哲一郎 2024-2026
2. 日本学術振興会科学研究費 基盤研究(C)「長期に持続するシナプス可塑性の可視化と遺伝子発現解析」代表者：田中洋光 2024-2026

研究領域等名：	アレルギー・臨床免疫学
診療科等名：	アレルギー・膠原病内科

●はじめに

アレルギー・膠原病内科では、アレルギー疾患、膠原病、及びその類縁疾患を対象とした専門診療に加え、診断に難渋する発熱・炎症性疾患、好酸球増多症の鑑別診断・診療を行っている。

アレルギー疾患や膠原病は全身の臓器を冒しうる疾病であるため、内科全般をカバーする知識が求められる。

主な対象疾患は、気管支喘息、食物アレルギー、アナフィラキシー、薬物アレルギー、関節リウマチ、全身性エリテマトーテス（SLE）、強皮症、多発性筋炎／皮膚筋炎、血管炎症候群、成人スティル病、ベーチェット病、IgG4 関連疾患、自己炎症性疾患などである。

臨床免疫学の進歩に伴い、これらの疾患の診断法・治療法も急速に変化している。

当科では最先端の診断法・治療を積極的に導入するとともに、世界に向けて情報を発信すべく基礎研究および臨床研究を推進している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

スカラシップの1年生～3年生（各学年5－8人）に対し、基礎免疫学と免疫関連疾患の理解の向上を目的に、免疫細胞の機能や免疫疾患の発症機構に関する講義を行った。

免疫学（3年次）の講義（免疫不全、自己免疫病）を分担した。

アレルギー・膠原病ユニット（3年生）を担当し、気管支喘息、アナフィラキシー等のアレルギー疾患と、SLE、関節リウマチ、強皮症、多発性筋炎／皮膚筋炎等の自己免疫疾患の病態、診断、治療に関する講義を行なった。

クリニカルクラークシップ（4・6年生）では、マンツーマンで、入院患者の診断・治療方針の決定、外来患者の診療を通じ、専門的な知識と経験を身につける指導を行うとともに、免疫関連疾患に関するミニレクチャーを複数回行った。

学部学生の関連学会における発表のサポートを行った。

・卒後教育／生涯教育

2024年度は、約20名の研修医が当科で初期研修を行った。研修医は、専門医の指導のもと、内科全般の診断・治療法、アレルギー疾患や膠原病の診断・治療法を学んだ。希望する研修医・専攻医は、学会発表を経験した。

当科には内科認定医／専門医24名、総合内科専門医5名、アレルギー専門医6名、リウマチ専門医21名が在籍し、アレルギー・膠原病領域の専門医資格の取得をサポートしている。

また、希望者には海外留学（基礎研究、臨床研究）の機会を提供している（2024年度、4名留学中）。

さらに皮膚科、耳鼻咽喉科、小児科、眼科と共同でアレルギー・クリニカルカンファレンスを開催し、アレルギー疾患に関する横断的知識取得の機会を提供した。

市民公開講座、各種講演会等を通じてアレルギー・膠原病領域の生涯教育をサポートした。

・大学院教育

生体防御医学特論、臨床アレルギー学特論をオーガナイズするとともに、疾患モデル論、薬物療法情報学特論等の講義を分担した。

2013年度には附属病院にアレルギーセンターが設立され、臨床研究の体制が整備された。

2024年度は、10名の大学院生が在学し、指導医とのマンツーマン形式の指導体制のもと、基礎免疫学／臨床免疫学に関する研究を行った。

過去5年の大学院生の学位論文の平均インパクトファクターは7点を越えている。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

普遍教育（現代医学、及び免疫アレルギー）にて喘息をはじめとするアレルギー疾患や自己免疫疾患の講義を担当した。

本学薬学部にてアレルギー疾患と自己免疫疾患の薬物治療の講義を担当した。

●研究

・研究内容

- 1) アレルギー疾患の発症機序の解析
気管支喘息の本態であるアレルギー性気道炎症の分子メカニズムを喘息モデルマウスを用いて解析した。
- 2) アレルギー疾患の臨床研究
気管支喘息、EGPAをはじめとするアレルギー疾患に関する臨床研究を行った。
- 3) 自己免疫疾患の発症機序の解析
濾胞ヘルパー T 細胞、制御性 T 細胞等の分化制御機構の解析やループモデルマウス、関節炎モデルを用いた解析により、自己免疫疾患の病態を解析した。
- 4) 強皮症患者の治療法開発研究
強皮症患者の治療反応性に関する研究を行った。
- 5) 全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎／多発性筋炎、血管炎症候群、IgG4 関連疾患の臨床研究
SLE における I 型インターフェロングナルの解析、無筋症性皮膚筋炎、ANCA 関連血管炎におけるバイオマーカーの探索などを行った。
- 6) 多施設共同前向き臨床研究
成人ステイル病、ANCA 関連血管炎に対する多施設共同前向き臨床試験をアレンジした。
- 7) 遺伝性免疫疾患の病態解析
単一遺伝子異常による自己免疫疾患に関する病態解明研究を遺伝子診療部と共同で行った。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Ida T, Furuta S, Fujiwara M, Hiraguri M, Hirose K, Ikeda K, Iwamoto T, Kagami SI, Kobayashi Y, Kurasawa K, Nakagomi D, Oya Y, Sanayama Y, Shimizu T, Tamachi T, Umibe T, Yasui M, Nakajima H. Short-term and long-term outcomes of patients with anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-positive dermatomyositis. *Rheumatology (Oxford)*. 2024; keae011.
2. Kurihara S, Suzuki K, Yokota M, Ito T, Hayashi Y, Kikuchi R, Kageyama T, Meguro K, Tanaka S, Iwata A, Goto Y, Suto A, Nakajima H. Eosinophils Contribute to Oral Tolerance via Induction of ROR γ t-Positive Antigen-Presenting Cells and ROR γ t-Positive Regulatory T Cells. *Biomolecules*. 2024;14(1):89.
3. Takeda R, Takahashi K, Kronbichler A, Akiyama D, Hanai S, Kobayashi Y, Matsuki A, Umibe T, Ito C, Sugimoto T, Sugiyama T, Yoshida S, Nishio Y, Nukui I, Nakashima A, Wakabayashi H, Asanuma K, Furuta S, Nakajima H, Nakagomi D. Development of a Kidney Prognostic Score in a Japanese Cohort of Patients With Antineutrophil Cytoplasmic Autoantibody Vasculitis. *Kidney Int Rep*. 2024;9(3):611-623.
4. Furuya H, Nguyen CT, Chan T, Marusina AI, Merleev AA, Garcia-Hernandez ML, Hsieh SL, Tsokos GC, Ritchlin CT, Tagkopoulos I, Maverakis E, Adamopoulos IE. IL-23 induces CLEC5A+ IL-17A+ neutrophils and elicit skin inflammation associated with psoriatic arthritis. *J Autoimmun*. 2024 Jan 31;143:103167.
5. Kojima S, Iwamoto T, Kobayashi Y, Kato M, Takizawa F, Ida T, Suzuki J, Toda Y, Miyachi K, Iwata A, Furuta S, Ikeda K, Nakajima H. Immunogenicity and influence on disease activity of recombinant zoster vaccine in patients with rheumatoid arthritis treated with DMARDs. *RMD Open*. 2024;10(1):e003902.
6. Tanaka S, Yamamoto T, Iwata A, Kiuchi M, Kokubo K, Iinuma T, Sugiyama T, Hanazawa T, Hirahara K, Ikeda K, Nakajima H. Single-cell RNA sequencing of submandibular gland reveals collagen type XV-positive fibroblasts as a disease-characterizing cell population of IgG4-related disease. *Arthritis Res Ther*. 2024;26(1):55.
7. Kumagai T, Iwata A, Furuya H, Kato K, Okabe A, Toda Y, Kanai M, Fujimura L, Sakamoto A, Kageyama T, Tanaka S, Suto A, Hatano M, Kaneda A, Nakajima H. A distal enhancer of GATA3 regulates Th2 differentiation and allergic inflammation. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 2024;121(27):e2320727121.
8. Furuya H, Toda Y, Iwata A, Kanai M, Kato K, Kumagai T, Kageyama T, Tanaka S, Fujimura L, Sakamoto A, Hatano M, Suto A, Suzuki K, Nakajima H. Stage-specific GATA3 induction promotes ILC2 development after lineage commitment. *Nat Commun*. 2024;15(1):5610.
9. Karadag O, Bolek EC, Ayan G, Mohammad AJ, Grayson PC, Pagnoux C, Martín-Nares E, Monti S,

- Abe Y, Alberici F, Alibaz-Oner F, Cuthbertson D, Dagna L, Direskeneli H, Khalidi NA, Koenig C, Langford CA, McAlear CA, Monach PA, Moroni L, Padoan R, Seo P, Warrington KJ, Hocesvar A, Hinojosa-Azaola A, Furuta S, Emmi G, Ozen S, Jayne D, Merkel PA; GLOBAL-PAN Collaborators. Clinical Characteristics and Outcomes of Polyarteritis Nodosa: An International Study. *Arthritis Rheumatol*. 2024;76(7):1120-1129.
10. Miyamae T, Manabe Y, Sugihara T, Umezawa N, Yoshifuji H, Tamura N, Abe Y, Furuta S, Nagafuchi H, Ishizaki J, Nakano N, Atsumi T, Karino K, Amano K, Kurasawa T, Ito S, Yoshimi R, Ogawa N, Banno S, Naniwa T, Ito S, Hara A, Hirahara S, Uchida HA, Onishi Y, Murakawa Y, Komagata Y, Nakaoka Y, Harigai M. Pregnancy and childbirth in Takayasu arteritis in Japan: A nationwide retrospective study. *Mod Rheumatol*. 2024;roae068.
 11. Suzuki J, Furuta S, Kameoka Y, Suzuki O, Ito F, Uno K, Kishi F, Yamakawa Y, Matsushita K, Miki T, Nakajima H, Suzuki K. Dynamics of scFv-targeted VAP2 correlating with IL-16, MIF and IL-1Ra in ANCA-associated vasculitis. *Microvasc Res*. 2024;156:104720.
 12. Nakagomi D, Shimizu T, Furuta S, Sugiyama T, Kobayashi K, Kobayashi Y, Hanai S, Harama K, Kanzaki T, Ajima C, Sugiyama T, Onishi H, Nakajima H. Comparison and Significance of Contrast-Enhanced Computed Tomographic Findings of Large-Vessel Vasculitis Before and After Treatment: Differences Between Takayasu Arteritis and Giant Cell Arteritis. *Eur J Rheumatol*. 2024;11(3):371-377.
 13. Hattori K, Tanaka S, Hashiba D, Tamura J, Etori K, Kageyama T, Ito T, Meguro K, Iwata A, Suto A, Suzuki K, Nakamura J, Ohtori S, Ziegler SF, Nakajima H. Synovial regulatory T cells expressing ST2 deteriorate joint inflammation through the suppression of immunoregulatory eosinophils. *J Autoimmun*. 2024;149:103333.
 14. Yasui M, Iwamoto T, Furuta S. New therapies in anti-MDA5 antibody-positive dermatomyositis. *Curr Opin Rheumatol*. 2024;36(1):61-68.
 15. Kageyama T, Ito T, Tanaka S, Nakajima H. Physiological and immunological barriers in the lung. *Semin Immunopathol*. 2024;45(4-6):533-47.
 16. Watanabe M, Nakagomi D, Ito R, Kobayashi Y, Hanai S, Furuta S. Case report: Two cases of granulomatosis with polyangiitis in long-term drug-free remission with rituximab. *Int J Rheum Dis*. 2024;27(11):e15395.
 17. Koura M, Kameoka Y, Kishi F, Yamakawa Y, Ito F, Sugamata R, Doi Y, Uno K, Nakayama T, Miki T, Nakajima H, Suzuki K, Suzuki O. Enhanced efficacy of the novel recombinant clone VasSF in a mouse model of antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. *Clin Exp Immunol*. 2024;216(1):55-67.
 18. Hanai S, Nakagomi D, Suzuki K, Nakajima H, Furuya F. Renal protective roles of macrophage matrix metalloproteinase-12 in mice with obstructed kidneys. *Int J Exp Pathol*. 2024;205:193-201.
 19. Ida T, Ikeda K, Ohbe H, Nakamura K, Furuya H, Iwamoto T, Furuta S, Miyamoto Y, Nakajima M, Sasabuchi Y, Matsui H, Yasunaga H, Nakajima H. Early initiation of angiotensin-converting enzyme inhibitor in patients with scleroderma renal crisis: a nationwide inpatient database study. *Rheumatology (Oxford)*. 2024;63(6):1507-11.
 20. Oya Y, Tanaka Y, Nakazawa T, Matsumura R, Glass DD, Nakajima H, Shevach EM. Polyclonally derived alloantigen-specific T regulatory cells exhibit target-specific suppression and capture MHC class II from dendritic cells. *J Immunol*. 2024;212(12):1891-903.
 21. Tanaka S, Etori K, Hattori K, Tamura J, Ikeda K, Kageyama T, Meguro K, Iwamoto T, Iwata A, Furuta S, Suto A, Suzuki K, Nakajima H. CCR4 predicts the efficacy of abatacept in rheumatoid arthritis patients through the estimation of Th17 and Treg cell abundance. *Mod Rheumatol*. 2024;34(4):700-4.
- 【雑誌論文・和文】**
1. 長谷部圭亮、古田俊介. ANCA 関連血管炎におけるシクロホスファミド・リツキシマブ治療. リウマチ科 (科学評論社)、第 71 巻第 2 号. P164-171. 2024
 2. 古田俊介. 顕微鏡的多発血管炎・多発血管炎性肉芽腫症の寛解導入治療について. 日本医事新報 (日本医事新報社) 2024. 4 月 3 週号. P53-54, 2024
 3. 中島裕史 (2024) 喘息と上手に付き合う方法. けんこう Chiba 83:1-2.
 4. 中島裕史 (2024) 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症. 喘息予防・管理ガイドライン 2024 (JGL2024) 日本アレルギー学会 p214-7.
- 【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】**
1. Nakajima H, Toda Y, Furuya H, Iwata A. (2024)

Stage-specific GATA3 induction promotes ILC2 development after lineage commitment. cMAV-cSIMVa workshop 2024, Yokohama

2. 中島裕史 (2024) 2型免疫細胞の分化誘導機構. 第25回免疫サマースクール in 湘南, 神奈川

【学会発表数】

国内学会 4学会 10回 (うち大学院生3回)
国際学会 2学会 4回 (うち大学院生0回)

【外部資金獲得状況】

1. JST ムーンショット「ウイルス感染に対する自然免疫系」代表者：中島裕史 2020-2027
2. AMED「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 千葉シナジーキャンパス」分担者：中島裕史 2022-2027
3. 日本学術振興会「医歯薬学分野に関する学術研究動向及び学術振興方策－基礎と臨床の相互理解による新たな潮流と展開」代表者：中島裕史 2022-2024
4. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「気道上皮細胞の自然免疫記憶を標的とした喘息治療戦略の確立」代表者：中島裕史 2024-2027
5. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「乾癬病態形成におけるケラチノサイト内IL-17誘導性チロシンキナーゼの役割の解析」代表者：鈴木浩太郎 2023-2025
6. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「アレルギー性気道炎症におけるニコチン性アセチルコリン受容体の役割の解明」代表者：前澤裕子 2023-2025
7. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「ILC2特異的スーパーエンハンサーの理解に基づく新規アレルギー疾患制御法の開発」代表者：岩田有史 2023-2025
8. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「マンノース受容体陽性マクロファージを標的にした大血管炎治療への挑戦」代表者：古田俊介 2022-2024
9. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎の病態形成におけるI型インターフェロンの役割と産生機構」代表者：岩本太郎 2023-2025
10. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「雌性特有の制御

性T細胞の解析による新たな関節リウマチ治療戦略の構築」代表者：田中繁 2023-2025

11. 文部科学省科学研究費 基盤(学術変革)「免疫センサー局在異常によるヒト自己免疫疾患発症の遺伝学的エビデンスの構築」代表者：目黒和行 2023-2024
12. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「若年性重症SLE患者における新規TLR7変異の同定とその発症機序の解明」代表者：目黒和行 2023-2025
13. 文部科学省科学研究費 基盤(若手)「気道上皮細胞の炎症記憶への介入による新規気道炎症制御法の確立」代表者：影山貴弘 2022-2024
14. 文部科学省科学研究費 基盤(若手)「腸管内Akkermansia muciniphilaによるアレルギー性気道炎症制御機構の解明」代表者：伊藤崇 2023-2024
15. 文部科学省科学研究費 基盤(若手)「ミトコンドリア残存赤血球による全身性エリテマトーデスの病態形成機構の解明」代表者：戸田陽介 2023-2024
16. 文部科学省科学研究費 基盤(若手)「自己免疫疾患発症にかかわる $\gamma\delta$ T17細胞の分化増殖におけるIL-21の役割の解明」代表者：石川絢一 2023-2024
17. 文部科学省科学研究費 基盤(若手)「制御性T細胞特異的IL-10産生制御機構の解明」代表者：阿部和也 2024-2026
18. 文部科学省科学研究費 基盤(若手)「全身性エリテマトーデス発症におけるAXL陽性樹状細胞の役割の解明」代表者：餌取慶史 2024-2026
19. 厚生労働省科学研究費「難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究」分担者：古田俊介 2024-2027
20. 先進医薬研究振興財団「Th2型腸炎における短鎖脂肪酸-GPR43陽性ILC2の制御機構の解明」代表者：伊藤崇 2024-2025

【受賞歴】

1. 栗原俊二郎 Attending Doctor Award 2024, The 701st Kanto Regional Meeting of the Japanese Society of Internal Medicine

●診療

・外来診療・入院診療・その他(先進医療等)

月曜日から金曜日の週5日間、外来診療を行っている。アレルギー疾患、膠原病を専門とする診療科は県内には少なく、患者分布は県内全域におよび、県外からの通院者も多い。総合内科専門医、アレルギー専門医、リウマチ専門医の資格をもつ医師を中心にアレルギー疾患、自己免疫疾患等の難治性疾患の診療にあたっており、外来患者は年間のべ約18,000人である。

2012年4月よりアレルギー専門外来を開設し、診断に苦慮するアレルギー疾患に対して十分な時間を設けて原因を特定し、治療方針の決定を行っている。

2022年度より遺伝子診療部において、自己炎症性疾患や遺伝的要因が疑われる自己免疫疾患・アレルギー疾患患者の遺伝子診断・診療を行っている。

2024年度は新患外来を別枠とすることで外来待ち時間の短縮を図った。

入院患者は年間約 180 人。入院患者の内訳は SLE 10%、血管炎症候群 15%、多発性筋炎／皮膚筋炎 15%、強皮症 10%、関節リウマチ 10%、MCTD 5%、他。チャレンジテストによるアレルギー疾患の原因同定も実施している。

研修医、指導医による半チーム体制で診療を行い、毎日の病棟医回診、ならびに毎週 2 回行われるカンファレンスにおいて診療方針が決定される。

関連各科と連携し、必要に応じて侵襲的検査も積極的に行い、多岐にわたる臓器障害を詳細に評価している。免疫抑制薬、血漿交換療法、分子標的薬、大量免疫グロブリン療法等の積極的な使用により、副腎皮質ステロイドの使用を最小限とし、合併症の予防を目指した治療を行っている。

県下全域における関連病院と連携することにより、寛解導入後は近医での通院加療から転院によるリハビリの継続まで、患者の希望や QOL を考慮した幅広い選択肢が取れる体制になっている。

関節エコーに関しては全国トップレベルの実績を有し、関節エコーを軸として関節リウマチならびに脊椎関節炎の診療を実践している。

ANCA 関連血管炎の多施設共同臨床試験を実施し、B 細胞除去療法によるステロイド減量戦略を実践している。

成人発症ステイル病の関連施設における症例をまとめ、その臨床転帰を明らかにした。

その他、多数の治験、臨床試験に参加し、新規治療の開発に貢献している。

●地域貢献

千葉県指定難病審査会委員として難病診療をサポートしている。

千葉県アレルギー疾患医療連絡協議会委員、日本アレルギー協会千葉県支部として、千葉県のアレルギー診療および運営を支えている。

保健所主催難病相談、医師会主催講演会、患者友の会、ならびに製薬メーカーによる啓発活動等に協力している。アレルギー専門医、リウマチ専門医を県内外の連携病院に常勤医として派遣するとともに、地域の病院に非常勤医として派遣して、専門外来を開設し、地域医療に貢献している。

アレルギーセンターのセミナー等を通じて疾患啓発に貢献している。

研究領域等名：	実 験 免 疫 学
診療科等名：	_____

●はじめに

実験免疫学は、未知の生命現象の発見を目指した基礎研究と、基礎研究の成果に基づいた臨床応用研究をおこなっている。特に免疫学的な自己非自己を司る T リンパ球に着目し、その分化・機能を解析することで、自己免疫疾患や炎症性疾患発症機構や抗腫瘍免疫応答機構の解明と、疾患制御を目指した研究を推進している。とりわけ自然免疫型 T 細胞、Neonatal T 細胞、制御性 T 細胞といった、免疫応答を制御する働きを有する細胞に着目し、末梢組織に存在する新規サブセットの同定や機能解明を進めるとともに、これらの細胞とヒトの疾患発症との関わり、ワクチン開発へ向けた新規モダリティ開発にも携わっている。並行して、CD69 を標的とした抗腫瘍免疫応答の分子機構の解明と、千葉大独自のがん免疫療法の開発を目指した研究を推進している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

- ・スカラーシップ1年生への講義 1コマを担当
- ・医学部1年生医系生物学講義 1コマを担当
- ・医学部1年生医学入門Ⅰの講義 1コマを担当
- ・医学部2年生免疫学の講義 2コマを担当
- ・スカラーシップ担当教員として、関連するイベントの評価や賞（令和6年度スカラーシップ研究助成）の選定などを行なった
- ・スカラーシップアドバンスドの学生5名への研究指導を行なった
- ・医学部1年生の学生1名へのメンタリングを実施した

医学部運営

- ・企画戦略委員会 委員
- ・学部入試委員会委員
- ・修学資金制度委員会委員
- ・自己点検・評価委員会 委員
- ・スカラーシップ担当教員
- ・動物施設の将来の在り方 WG メンバー
- ・研究医枠入試のあり方検討 WG メンバー

・大学院教育

- ・大学院修士課程生体防御医学特論講義 1コマを担当
- ・大学院薬学研究員修士課程免疫微生物学特論講義 1コマを担当
- ・大学院博士課程梓院学・感染症学特論 1コマを担当
- ・大学院博士課程 最新医学 講義 1コマを担当
- ・大学院博士過程学生4名の研究指導・研究発表指導を行なった
- ・大学院修士過程学生1名の研究指導・研究発表指導を行なった
- ・大学院 研究生1名の研究指導・研究発表指導を行なった
- ・大学院生のアドバイザーとして研究指導等を行なった
- ・LGS 治療学演習科目責任者および1コマを担当した
- ・iMec-WISE 革新医療創生演習科目責任者および1コマを担当した
- ・修士課程の学位審査（主査0名、副査2名）、博士課程の学位審査（主査4名、副査4名）を務めた

大学院医学研究院運営

- ・革新医療創生 CHIBA 卓越大学院 産学連携委員会 委員長
- ・治療学リーディングプログラム 国際交流委員長
- ・革新医療創生 CHIBA 卓越大学院担当教員
- ・治療学リーディングプログラム担当教員

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

- ・西千葉普遍教育 免疫と疾患の講義 科目責任者および1コマを担当
- ・千葉大学医学・薬学研究交流会 2024（6/5 開催）にて、YIA の審査を行った

全学運営

- ・国際高等研究基幹（IAAR）推進リーダー
- ・未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点兼務
- ・千葉大学 先進科学センター 早期高等教育研究部門 兼務
- ・量子生命構造創薬センター 兼務
- ・量子生命構造創薬センター設置準備委員会委員

●研 究

・研究内容

教室の主な研究テーマおよび成果

研究テーマ 1. リンパ球の発生・分化機構の解明と疾患制御

胎児期特異的に発生する Neonatal T 細胞の検出システムを構築し、胎児期に発生分化する T 細胞の同定とその特徴の解析を行なった。T リンパ球の“自己指向性”に着目し、主に自然免疫型 T 細胞の分化維持と疾患発症との関連についての研究を行った。組織常在型の制御性 T 細胞の同定と疾患発症との関連についての研究も進めている。

研究テーマ 2. 腫瘍における免疫応答の解明とその制御

抗腫瘍免疫応答制御に重要な働きをする分子として CD69 に着目した研究を進めた。抗腫瘍免疫応答の分子機構の解明を目指すとともに、千葉大独自のがん免疫療法の開発を目指した研究を進めている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Ahmad, I., Omura, S., Sato, F., Park, A.M., Khadka, S., Gavins F.N.E., Tanaka, H., Kimura, M.Y., Tsunoda, I.: Exploring the Role of Platelets in Virus-Induced Inflammatory Demyelinating Disease and Myocarditis. Int. J. Mol. Sci. 2024;25(6), 3460.
2. Aoki, A., Iwamura, C., Kiuchi, M., Tsuji, K., Sasaki, A., Hishiya, T., Hirasawa, R., Kokubo, K., Kuriyama, Sachiko., Onodera, A., Shimada, T., Nagaoka, T., Ishikawa, S., Kojima, A., Mito, H., Hase, R., Kasahara, Y., Kuriyama, N., Nakamura, S., Urushibara, T., Kaneda, S., Sakao, S., Nishida, O., Takahashi, K., Kimura, M.Y., Motohashi, S., Igari, H., Ikehara, Y., Nakajima, H., Suzuki, T., Hanaoka, H., Nakada, T., Kikuchi, T., Nakayama, T., Yokote, K., Hirahara, K.: Suppression of Type I Interferon Signaling in Myeloid Cells by Autoantibodies in Severe COVID-19 Patients. J Clin Immunol., 2024; 44(4):104.

【雑誌論文・和文】

1. 木村元子、学会レポート 第 52 回日本免疫学会学術集会 感染 炎症 免疫 2024 年 4 月 Vol.54-1
2. 木村元子、胸腺における自己反応性 T 細胞のアゴニスト選択 炎症と免疫 2024 年 9 月 第 32 巻第

5 号

3. 木村元子、T 細胞の自己認識の生理的意義とその理解 医学のあゆみ 2024 年 10 月 第 291 巻第 4 号

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. Kimura, M.Y., Recent progress of lymphocyte development in the thymus, The 52nd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, Chiba, Japan, Jan. 19, 2024.
2. Kimura, M.Y., Innate-like T cell generation and function, Dr. Toshinori Nakayama Memorial cMAV-cSIMVa Workshop, Yokohama, Japan, Jan. 21, 2024.
3. Kimura, M.Y., CD69 biology and pathology, LECTURE SERIES THE IMMUNE ALLIANCE - A GERMAN - JAPANESE COOPERATION IN IMMUNOLOGY, online, Jun. 19, 2024.
4. Kimura, M.Y., CD69 regulates many aspects of immune responses, Japanese-German Immunology Workshop 2024 -The Immune Alliance in Nara-, Nara, Japan, Nov. 29, 2024.
5. Kimura, M.Y., Understanding of Immunological memory in health and disease, The 53rd Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology, Nagasaki, Japan, Dec. 5, 2024.

【学会発表数】

国内学会 5学会 12回（うち大学院生2回）

国際学会 5学会 11回（うち大学院生1回）

【外部資金獲得状況】

1. AMED 革新的先端研究開発支援事業「健康・医療の向上に向けた早期ライフステージにおける生命現象の解明」(AMED PRIME)「早期ライフステージ特異的に産生される Neonatal T 細胞の胸腺内分化機構の解明とその長期モニタリングによる機能解析」代表者：木村元子 2021-2024
2. 公益財団法人武田科学振興財団 2022 年度武田報彰医学研究助成「T 細胞の自己認識を起点とした組織特異的な恒常性維持機構の解明と疾患制御」代表者：木村元子 2022-2025
3. 文部科学省科学研究費 学術変革領域研究(A)計画研究「T 細胞の自己認識を起点とした恒常性維持・疾患発症機構の解明」代表者：木村元子 2022-2027
4. AMED シーズ A 橋渡し研究戦略的推進プログラム「知の協創の世界拠点」を目指した TR の戦略的推進と展開「A228：新規がん免疫療法の開発を目指した抗ヒト CD69 抗体評価系の確立」代表者：木村元子 2023-2025
5. 公益財団法人アステラス病態代謝研究会 2023 年度研究助成金「腫瘍形成がもたらす中枢性免疫抑制機構の解明と制御」代表者：木村元子 2024-2025
6. 公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団 2024 年度研究助成「腫瘍所属リンパ節における主要抗原からのシグナル強度制御に基づく新たながん免疫療法開発に向けた基盤研究」代表者：木村元子 2024-2026
7. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「胎児期・乳児期

に産生される T 細胞サブセットの生理的意義の解明」代表者：木村元子 2024-2026

8. AMED 令和4年度ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 千葉シナジーキャンパス（千葉大学 未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点）」分担者：木村元子 2022-2027
9. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「膠芽腫微小環境の理解に基づく NKT 細胞標的治療の開発」分担者：木村元子 2022-2024
10. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「幹細胞様 CD8T 細胞を起点とする腫瘍内 T 細胞分化を標的としたがん免疫療法の開発」代表者：那須亮 2024-2026
11. 令和7年度全方位・挑戦的融合イノベーター博士人材養成プロジェクト「共生細菌依存的に維持される自然免疫型 T 細胞の恒常性維持機構の解明とその応用」代表者：加納舜佳 2024-2026

【その他】

- ・日本免疫学会の評議員として学会の運営業務を行なった。
- ・日本免疫学会の学術委員会委員として活動した。
- ・日本免疫学会の広報委員会委員としてニュースレター編集委員を拝命し、活動を行なった。
- ・日本免疫学会の国際交流委員会委員として活動した。
- ・日本免疫学会のダイバーシティ・キャリア支援委員会委員として活動した。
- ・日本学術振興会・科学研究費委員会専門委員を務め、研究費申請書の審査に携わった。
- ・文部科学省「科学研究費助成事業における評価に関する委員会」委員を務めた。

●地域貢献

- ・KTCC (Kyoto T Cell Conference) の世話人として、会の運営業務を行なった。
- ・東京医科歯科大学にて授業（日本語、英語それぞれ1コマづつ）を担当
- ・渋谷学園幕張高等学校見学セミナー ラボツアー4名を受け入れ（8月）
- ・県立千葉高校千葉大学医学部見学ラボ訪問 2名受け入れ（12月）

研究領域等名：	免 疫 発 生 学
診療科等名：	

●はじめに

免疫発生学からは、複数の原著論文を発表することができた。具体的には、病原性記憶 Th2 細胞と好酸球性食道炎疾患との関わりについて、消化器内科学との共同研究で J. Allergy Clin. Immunol. Glob. 誌へ論文発表した。また、COVID-19 の重症化に関する分子機構の一つに抗 I 型 IFN 抗体の産生が関与することを、医学研究院の複数の研究室の先生方、医学部附属病院の先生方、さらには千葉県内の関連病院の先生方、順天堂大学、藤田医科大学との共同研究として、J.Clin. Immunol. 誌へ研究報告した。文部科学省卓越大学院プログラム「革新医療創生 CHIBA 卓越大学院」に関しても着実に進め、大学全体に関わる事業に貢献した。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部では免疫学の講義を担当し、また、基礎医学ゼミ、スカラシッププログラムを担当した。

・大学院教育

文部科学省卓越大学院プログラム「革新医療創生 CHIBA 卓越大学院」における革新医療創生実習では、免疫細胞の機能解析を行うための実験手法の原理に関する講義と、実際に機器などの使用法を習得する実習を施行した。さらには、革新医療創生 JOINT コースセミナーを担当した。さらに、千葉大学未来粘膜ワクチン研究シナジー拠点の事業の一環として、「ワクチン学」に携わり、講義の一端も担った。

●研 究

・研究内容

教室の主な研究テーマ及び成果

1. 難治性炎症疾患の病態解明：病原性記憶 Th2 細胞と好酸球性食道炎疾患との関わりを解明 (Kaneko T et al, PMID : 39040657)
2. 免疫システムの多層性・複雑性の理解：COVID-19 の重症化に関する分子機構の一つに抗 I 型 IFN 抗体の産生が関与する (Aoki A et al, PMID : 38647550)
3. 癌の免疫細胞療法に関する研究：肺癌における NKT 細胞療法の先進医療を進めている (本橋教授と共同研究)。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Tanaka S, Yamamoto T, Iwata A, Kiuchi M, Kokubo K, Iinuma T, Sugiyama T, Hanazawa T, Hirahara K, Ikeda K, and Nakajima H. Single-cell RNA sequencing of submandibular gland reveals collagen type XV-positive fibroblasts as a disease-characterizing cell population of IgG4-related disease. *Arthritis Res. Ther.* 26(1):55 (2024). / 10.1186/s13075-024-03289-7
2. Hatano R, Lee E, Sato H, Kiuchi M, Hirahara K, Nakagawa Y, Shimano H, Nakayama T, Tanaka T, and Miki T. Hepatic ketone body regulation of renal gluconeogenesis. *Mol. Metab.* 84:101934 (2024). / 10.1016/j.molmet.2024.101934
3. Aoki A*, Iwamura C*, Kiuchi M, Tsuji K, Sasaki A, Hishiya T, Hirasawa R, Kokubo K, Kuriyama S, Onodera A, Shimada T, Nagaoka T, Ishikawa S, Kojima A, Mito H, Hase R, Kasahara Y, Kuriyama N, Nakamura S, Urushibara T, Kaneda S, Sakao S, Nishida O, Takahashi K, Kimura M. Y, Motohashi S, Igari H, Ikehara Y, Nakajima H, Suzuki T, Hanaoka H, Nakada T, Kikuchi T, Nakayama T, Yokote K, and Hirahara K. Suppression of Type I Interferon Signaling in Myeloid Cells by Autoantibodies in Severe COVID-19 Patients. (*These authors contributed equally to this work) *J. Clin. Immunol.* 44:104 (2024)
4. Kaneko T*, Iwamura C*, Kiuchi M, Kurosugi A, Onoue M, Matsumura T, Chiba T, Nakayama T, Kato N, and Hirahara K. Amphiregulin-producing TH2 cells facilitate esophageal fibrosis of eosinophilic esophagitis. (*These authors contributed equally to this work) *J. Allergy Clin. Immunol. Glob.* 3(3):100287 (2024). / 10.1016/j.jacig.2024.100287
5. Takami M, Aoki T, Nisimura K, Onodera A, Motohashi. S. Anti-V α 24J α 18 TCR Antibody Tunes iNKT Cell Responses to Target and

Kill CD1d-negative Tumors in an Fc γ RII (CD32)-dependent Manner. Cancer research. communications10. 1158/2767-9764.CRC-23-0203 (2024)

6. Gonzalez-Avalos E, Onodera A, Samaniego-Castruita D, Rao A, Ay F. Predicting gene expression state and prioritizing putative enhancers using 5hmC signal. Genome biology. 25, Article number: 142 (2024). / 10.1186/s13059-024-03273-z
7. Ohishi K, Ishikura A, Nishida S, Abo H, Nakatsukasa H, Kawashima H, Sialyl Lewis X Defines an Activated and Functional Regulatory T Cell Subpopulation in Mice. Journal of immunology (Baltimore, Md. : 1950). / 10.4049/jimmunol.2300349

【雑誌論文・和文】

1. 木内政宏, 平原潔 組織常在性記憶 T 細胞誘導の分子機構とヒト疾患へのかかわり 実験医学 増刊 42(12):77-82 (2024).

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. Hirahara, K.: Pathological tissue inflammatory memories. 5th CSI/JSI/KAI Joint Symposium on Immunology "Frontier in Immunology Research in the Aftermath of the Pandemic", 1/13-15/2024, X Wave Makuhari (Chiba) (1/15)+D102:W130
2. Hirahara, K., and Nakayama, T.: Memory-type pathogenic Th2 (Tpath2) cells in airway inflammation. (Symposium) The 52nd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 1/17-19/2024, Makuhari Messe (Chiba) (1/17)
3. Hirahara, K.: Inflammation driven fibrosis and tissue repair. (Overview talk) The 52nd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 1/17-19/2024, Makuhari Messe (Chiba) (1/18)
4. Onodera, A.: Epigenetic regulation in health and disease. (Overview Talk): The 52nd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology, 1/17-19/2024, Makuhari Messe (Chiba) (1/19)
5. Hirahara, K.: Development of next-generation mucosal vaccines by controlling "pathogenic" immune memory. (Lecture) Dr. Toshinori Nakayama Memorial cMAV-cSIMVa Workshop, 1/20-21/2024, PACIFICO Yokohama (Yokohama) (1/20)
6. Onodera, A.: In Memory of Toshi: Toshi's Research Achievement in Epigenetics & Gene Expression. Dr. Toshinori Nakayama Memorial cMAV-cSIMVa Workshop 1/20-21/2024, PACIFICO Yokohama (Yokohama) (1/20)
7. Onodera, A.: DNA demethylation in the immune system: do TET and TDG play roles?. Dr. Toshinori Nakayama Memorial cMAV-cSIMVa Workshop 1/20-21/2024, PACIFICO Yokohama (Yokohama) (1/21)
8. Hirahara, K.: Pathological tissue inflammatory memories shape the intractable pathology of chronic lung inflammation. 10th Global Network Forum on Infection and Immunity, 2/2-3/2024, Medical and Pharmaceutical Sciences Building II, Chiba Univ. (Chiba) (2/3)
9. 平原潔 慢性炎症下における病原性記憶 T 細胞を起点とした難治性病態形成の分子・細胞機構 第 48 回皮膚科免疫セミナー 2024 年 3 月 16 日、紀尾井カンファレンス「メインルーム」(東京)
10. 平原潔 講義「アレルギー・免疫学の最前線」座長 日本アレルギー学会 第 10 回総合アレルギー講習会 2024 年 3 月 17 日 パシフィコ横浜ノース (横浜)
11. 平原潔 「組織炎症記憶」の蓄積がもたらす慢性炎症の難治化とその制御」第 2 回 STROMA (Stromal cell neTwork in chRONic inflamMation and disease) 2024 年 3 月 20 日、JR ゲートタワーカンファレンス Room A (名古屋)
12. 平原潔 「神経-免疫連関」と慢性炎症の病態形成-病原性 CD4+ T (pathogenic T: Tpath) 細胞による病的な痒みの誘導機構- シンポジウム 第 101 回日本生理学会大会 2024 年 3 月 28-30 日、北九州国際会議場・西日本総合展示場 (福岡) (3/28)
13. 平原潔 「組織炎症記憶」蓄積がもたらす気道炎症の難治化とその制御 特別講演 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 2024 年 4 月 5-7 日、パシフィコ横浜 (横浜) (4/7)
14. Hirahara, K.: Molecular mechanisms underlying induction of inflammatory tissue-resident memory CD4+ T cells. The 2nd UTOPIA Symposium, 6/19-20/24, X Wave Fuchu (Tokyo) (6/19)
15. 小野寺淳 「免疫疾患でのエピゲノム異常及びエピゲノム制御の創薬可能性」に関する専門的知識の供与及び専門的見地からの指導・助言 アステラス製薬株式会社研究員を対象とするオンライン面談 2024 年 6 月 10 日 千葉大学医学部医学研究院 (千葉)
16. 根本祐宗 「びまん性肺疾患における最新の知見について」神奈川県湘南地区医療従事者を対象とする講演 2024 年 6 月 26 日、新横浜第二センタービル (横浜)
17. 平原潔 アレルギー疾患の発症機構と病態形成 第 44 回六甲カンファレンス 2024 年 8 月 3-4 日、大阪国際会議場 (大阪) (8/3)
18. Onodera, A.: Roles of TET and TDG in DNA

demethylation in the hematopoietic and immune systems.2024 The 33rd International KOGO Annual Conference.Sejong University Convention Center (South Korea,Seol)

19. Onodera,A.:TET-dependent epigenetic regulation in health and disease.International Immunology meeting . Seoul National University,Gwanak Campus (South Korea,Seol)
20. Hirahara, K.: Molecular and cellular mechanisms through which tissue-resident memory T cells drive refractory disease formation. シンポジウム 第31回日本免疫学会学術年会 2024年9月19-20日、兵庫医科大学 平成記念会館(兵庫)(9/19)
21. 平原潔 組織炎症記憶が喘息病態にもたらす影響 Airway Remodeling SEM from Fukuoka 2024年9月24日、Web会議
22. 平原潔 「神経-免疫連関」による慢性アレルギー性疾患の病態形成 2nd SQUARE conference 2024年10月12日、トラストシティカンファレンス丸の内(東京)
23. 平原潔 一細胞レベルでの網羅的遺伝子発現解析で紐解く慢性アレルギー性炎症の病態形成機構 シンポジウム 第73回日本アレルギー学会学術大会 2024年10月18-20日、国立京都国際会館(京都)(10/18)
24. 平原潔 「神経-免疫連関」による痒みの病態形成機構 シンポジウム 第73回日本アレルギー学会学術大会 2024年10月18-20日、国立京都国際会館(京都)(10/19)
25. 平原潔 細胞内環境刺激による慢性アレルギー性疾患病態形成機構 シンポジウム 第97回日本生化学会大会 2024年11月6-8日、パシフィコ横浜(横浜)(11/6)
26. Onodera,A.:The double-edged sword of TET mutations in the immune system.Anticancer Immune Cell Okinawa Symposium 11/27/2024, Double Tree by Hilton Naha Shuri Castle (Okinawa Naha)
27. 平原潔 「免疫学の深化が解き明かす難治性炎症疾患の病態形成～新たな治療標的の探索とその臨床応用～」柏市医師会 生涯教育委員会 主催 講演会 2024年11月29日、ザ・クレストホテル柏(柏)
28. Hirahara, K.: Tissue inflammatory memory causes intractable inflammatory disease. シンポジウム 第53回日本免疫学会総会 2024年12月3-5日、出島メッセ長崎(長崎)(12/5)
29. 平原潔 「組織炎症記憶」蓄積がもたらす慢性炎症疾患の難治化とその制御 令和6年度 大学院セミナー 2024年12月4日、長崎大学 視聴覚セミナー室(長崎)

【学会発表数】

国内学会 4回

国際学会 6回

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤研究B「リポファジーによる病原性Th2細胞の病原性獲得機構の解明と難治性炎症疾患の制御」代表者：平原潔 2023-2025
2. 日本医療研究開発機構(AMED)「外部環境刺激による組織炎症記憶形成機構の解明と難治性アレルギー性疾患の病態制御治療戦略の基盤構築」代表者：平原潔 2023-2028
3. 日本医療研究開発機構(AMED)「生体内における病原性Th2細胞誘導機構解明による難治性アレルギー性疾患の治療法開発」代表者：平原潔 2022-2024
4. 日本医療研究開発機構(AMED)「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 千葉シナジーキャンパス(千葉大学 未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点)「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」」分担者：平原潔 2022-2027
5. 日本医療研究開発機構(AMED)「三次リンパ組織を標的とした腎臓病治療法および診断法の開発」分担者：平原潔 2024-2029
6. JST 創発的研究支援事業「肺における組織炎症記憶の4次元制御機構の統合的解明」代表者：平原潔 2021-2029
7. 武田科学振興財団 2023年度研究助成「炎症環境下におけるCD4+T細胞の病原性獲得機構の解明と難治性炎症疾患の制御」代表者：平原潔 2023-2026
8. 2024年度内藤記念科学奨励金・研究助成「リポファジーによる慢性アレルギー性気道炎症の病態形成分子」代表者：平原潔 2024-2026
9. 文部科学省科学研究費 基盤研究B「DNAメチル化異常による病的炎症発生機構の解明」代表者：小野寺淳 2022-2024
10. 文部科学省科学研究費 基盤研究C「酸性環境による食道粘膜免疫機構制御の解明」代表者：岩村千秋 2024-2026
11. 濱口生化学振興財団 2024年度研究助成金「食道免疫システムの解明と革新的粘膜ワクチン開発の基盤構築」代表者：岩村千秋 2024-2025
12. 文部科学省科学研究費 基盤研究C「肺高血圧症の微小血栓形成における血小板因子Myl9の役割解明と新規治療基盤構築」分担者：岩村千秋 2022-2024
13. 文部科学省科学研究費 若手研究「病原性老化ヘルパーT細胞におけるエピゲノム老化と病態形成機

構の解明」代表者：木内政宏 2022-2024

14. 文部科学省科学研究費 若手研究「Cytotoxic CD4+T 細胞の分化誘導を介した老化抗原提示細胞の除去機構の解明」代表者：小久保幸太 2024-2025
15. 文部科学省科学研究費 研究活動スタート支援「第3次リンパ組織における組織常在性記憶 T 細胞の分子制御機構の解明」代表者：菱谷崇寿 2024-2025
16. 文部科学省科学研究費 研究活動スタート支援「慢性炎症性呼吸器疾患に誘導される異所性リンパ組織内の免疫応答制御機構の解明」代表者：佐々木篤志 2024-2025

●地域貢献

高大連携プログラムの一環として、渋谷幕張高校 5 名、県立千葉高校 1 名の生徒に対するラボツアーを実施した。

【受賞歴】

1. 岩村千秋 第 17 回千葉医学会賞

【その他】

最新の感染、炎症、免疫(アレルギーを含む)分野の医学情報を総説・解説、千葉大学前学長故・中山俊憲先生のご功績を紹介する原稿、「Basic Immunology, 7THedition」の翻訳、ヒト免疫学研究における最新の知見を生命科学系の研究者と学生におくる原稿の執筆依頼をうける。また、国立大学鳥取大学医学部生を対象とした特別講義を行なった。

研究領域等名：	分 子 腫 瘍 学
診療科等名：	

●はじめに

遺伝子発現を制御するゲノム修飾情報であるエピゲノムは、細胞の運命決定を担い生命の振舞いを制御する分子機構である。この異常に着目し、胃癌、大腸癌、頭頸部癌、血液腫瘍、脳腫瘍、前立腺癌、腎癌、乳癌、肺癌、肝腫瘍、膀胱癌、悪性黒色腫、等を対象に発癌の本態解明を行った。DNA メチル化やヒストン修飾、オープンクロマチン領域などの1次元的なエピゲノム情報やHi-C、Hi-ChIPなど3次元的な3Dクロマチン構造に加え、ゲノム情報やトランスクリプトーム情報などと統合的なオミクス解析を行い、感染など環境ストレスが誘導するエピゲノム異常の誘導や、エピゲノム異常による発癌分子機構の解明研究を遂行した。

●教 育

・学部教育／卒前教育

- (1) 医学部学生に対する教育として生化学を担当している。代謝栄養生化学の科目責任者として2年生を対象に講義・演習・実習を行った。また、栄養代謝異常について非常勤講師を招き、特別講義を行った。
- (2) スカラーシッププログラムとして、1～3年次を対象とした論文抄読、及びアドバンストコースの研究・実験指導を行った。引き続き研究指導を希望した4・5・6年次の学生について、指導を行った。
- (3) スカラーシップ講義として1年生を対象に研究留学について講義した。
- (4) 3年生を対象に基礎医ゼミとして癌エピゲノムについて演習を行った。
- (5) 学部生への倫理教育であるメンター制度において担当学生へのメンタリングを担当した。

・大学院教育

- (1) 科目責任講座として先端生命科学特論講義（全15コマ）をとりまとめ、うち1コマを担当した。
- (2) 革新医療創生演習（1週）、機能ゲノム学講義1コマを担当した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

- (1) 癌エピゲノム解析セミナーを開催し解析指導している。

●研 究

・研究内容

2022年度より千葉大学国際高等研究基幹の研究支援プログラムに採択され、網羅的エピゲノム情報と多階層解析による疾患エピゲノム研究を行っている。

AMED「次世代がん医療加速化研究事業」、AMED「医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業」、AMED「肝炎等克服実用化研究事業」、AMED「ムーンショット型研究開発事業」などのプロジェクトを遂行し、胃癌をはじめとする様々な疾患の発生に重要なエピゲノム異常の解明とその医療応用を研究開発している。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Kosaka K, Takayama N, Paul SK, Kanashiro MA, Oshima M, Fukuyo M, Rahmutulla B, Tajiri I, Mukai M, Kubota Y, Akita S, Furuyama N, Kaneda A, Iwama A, Eto K, Mitsukawa N. iPSC-derived megakaryocytes and platelets accelerate wound healing and angiogenesis. *Stem Cell Res Ther*, 2024 Oct 14;15(1):364. doi: 10.1186/s13287-024-03966-z.
2. Iwasaki K, Tojo A, Kobayashi H, Shimizu K, Kamimura Y, Fukuto A, Horikoshi Y, Sun J, Yasui M, Honma M, Okabe A, Fujiki R, Nakajima N, Kaneda A, Tashiro S, Sassa A, Ura K. Dose-dependent effects of histone methyltransferase NSD2 on site-specific double-strand break repair. *Genes Cells*, 2024 Nov;29(11):951-965. doi: 10.1111/gtc.13156. Epub 2024 Sep 8.
3. Kitagawa, Yuki; Kondo, Satoru; Fukuyo, Masaki; Dochi, Hiroto; Wakae, Kousho ; Mizokami, Harue; Komura, Shigetaka; Kobayashi, Eiji; Hirai, Nobuyuki; Ueno, Takayoshi; Nakanishi, Yosuke; Endo, Kazuhira; Sugimoto, Hisashi; Wakisaka, Naohiro; Kaneda, Atsushi; Yoshizaki, Tomokazu. Phosphoribosyl pyrophosphate amidotransferase: A novel biomarker and therapeutic target for nasopharyngeal carcinoma. *Cancer Sci*, 2024 Nov; 115(11):3587-3595. doi: 10.1111/cas.16314. Epub 2024 Aug 28.
4. Hatano R, Zhang X, Lee E, Kaneda A, Tanaka T, Miki T. Mosaic ablation of pancreatic β -cells induces de-differentiation and repetitive

- proliferation of residual β -cells in adult mice. *iScience*, 2024; 27(9): 110656. doi:10.1016/j.isci.2024.110656.
5. Shimizu S, Fukuda N, Chen L, Matsumoto T, Kaneda A, Endo M, Nishiyama A, Morioka I. Abnormal epigenetic memory of mesenchymal stem and progenitor cells caused by fetal malnutrition induces hypertension and renal injury in adulthood. *Hypertension Res.*, epub 2024 June 26. doi: 10.1038/s41440-024-01756-x
 6. Hoshii T, Kikuchi S, Kujirai T, Masuda T, Ito T, Yasuda S, Matsumoto M, Rahmutulla B, Fukuyo M, Murata T, Kurumizaka H, Kaneda A. BOD1L mediates chromatin binding and non-canonical function of H3K4 methyltransferase SETD1A. *Nucleic Acids Res*, 2024 Sep 9;52(16):9463-9480. doi: 10.1093/nar/gkae605.
 7. Kumagai T, Iwata A, Furuya H, Kato K, Okabe A, Toda Y, Kanai M, Fujimura L, Sakamoto A, Kageyama T, Tanaka S, Suto A, Hatano M, Kaneda A, Nakajima H. Distal enhancer of GATA3 regulates Th2 differentiation and allergic inflammation. *PNAS*, 2024 June; 121: e2320727121. doi: 10.1073/pnas.2320727121.
 8. Paul SK, Oshima M, Patil A, Sone M, Kato H, Maezawa Y, Kaneko H, Fukuyo M, Rahmutulla B, Ouchi Y, Tsujimura K, Nakanishi M, Kaneda A, Iwama A, Yokote K, Eto K, Takayama N. Retrotransposons in Werner syndrome-derived macrophages trigger type I interferon-dependent inflammation in an atherosclerosis model. *Nat Commun*, 2024; 15: 4772. doi: 10.1038/s41467-024-48663-w.
 9. Nakayama Y, Fujiu K, Oshima T, Matsuda J, Sugita J, Matsubara TJ, Liu Y, Goto K, Kani K, Uchida R, Takeda N, Morita H, Xiao Y, Hayashi M, Maru Y, Hasumi E, Kojima T, Ishiguro S, Kijima Y, Yachie N, Yamazaki S, Yamamoto R, Kudo F, Nakanishi M, Iwama A, Fujiki R, Kaneda A, Ohara O, Nagai R, Manabe I, Komuro I. Heart failure promotes multimorbidity through innate immune memory. *Sci Immunol*, 2024 May; 9: eade3814. doi: 10.1126/sciimmunol.ade3814. epub 2024 May 24.
 10. Zhu T, Okabe A, Usui G, Fujiki R, Komiyama D, Huang KK, Seki M, Fukuyo M, Abe H, Ning M, Okada T, Minami M, Matsumoto M, Fan Q, Rahmutulla B, Hoshii T, Tan P, Morikawa T, Ushiku T, Kaneda A. Integrated Enhancer Regulatory Network by Enhancer-Promoter Looping in Gastric Cancer. *NAR Cancer*, NAR Cancer, epub 2024 May 8. doi: 10.1093/narcan/zcae020.
 11. Chen SJ, Hashimoto K, Fujio K, Hayashi K, Paul SK, Yuzuriha A, Qiu WY, Nakamura E, Kanashiro MA, Kabata M, Nakamura S, Sugimoto N, Kaneda A, Yamamoto T, Saito H, Takayama N, Eto K. A let-7 microRNA-RALB axis links the immune properties of iPSC-derived megakaryocytes with platelet producibility. *Nat Commun*. 2024 Mar; 15: 2588. doi: 10.1038/s41467-024-46605-0. epub 2024 Mar 22.
 12. Mizokami H, Okabe A, Choudhary R, Mima M, Saeda K, Fukuyo M, Rahmutulla B, Seki M, Goh BC, Kondo S, Dochi H, Moriyama-Kita M, Misawa K, Hanazawa T, Tan P, Yoshizaki T, Fullwood MJ, Kaneda A. Enhancer infestation drives tumorigenic activation of inactive B compartment in Epstein-Barr virus-positive nasopharyngeal carcinoma. *eBioMedicine*, 2024 Apr; 102: 105057. doi: 10.1016/j.ebiom.2024.105057. epub 2024 Mar 14.
 13. Kanaoka S, Okabe A, Kanesaka M, Rahmutulla B, Fukuyo M, Seki M, Hoshii T, Sato H, Imamura Y, Sakamoto S, Ichikawa T, Kaneda A. Chromatin activation with H3K36me2 and compartment shift in metastatic castration-resistant prostate cancer. *Cancer Lett*, 2024 Apr; 588: 216815. doi: 10.1016/j.canlet.2024.216815. epub 2024 Mar 13.
 14. Takane K, Cai T, Noguchi R, Gohda Y, Ikenoue T, Yamaguchi K, Ota Y, Kiyomatsu T, Yano H, Fukuyo M, Seki M, Rahmutulla B, Kaneda A, Furukawa Y. Genome-wide analysis of DNA methylation in pseudomyxoma peritonei originated from appendiceal neoplasms. *Oncology*, 2024;102: 720-731. doi: 10.1159/000536219. epub 2024 Jan 23.
 15. Suda K, Okabe A, Matsuo J, Chuang LSH, Li Y, Jangphattananont N, Mon NN, Myint K, Yamamura A, So JBY, Voon D, Yang H, Guan Y, Kaneda A, Ito Y. Aberrant upregulation of RUNX3 activates developmental genes to drive metastasis in gastric cancer. *Cancer Res Commun*, 2024 Feb;4 (2):279-292. doi: 10.1158/2767-9764.CRC-22-0165.
 16. Dochi H, Kondo S, Komura S, Moriyama-Kita M, Komori T, Nanbo A, Sakaguchi M, Fukuyo M, Hamabe-Horiike T, Tanaka M, Mizokami H, Kano M, Kitagawa Y, Kobayashi E, Hirai N, Ueno T, Nakanishi Y, Endo K, Sugimoto H, Hanayama R, Kaneda A, Yoshizaki T. Peritumoral SPARC expression induced by exosomes from nasopharyngeal carcinoma infected Epstein-Barr virus: a poor prognostic marker. *Int J Cancer*, 2024;

154:895-911. doi: 10.1002/ijc.34777. epub 2023 Oct 31.

17. Okabe A. Methods for Genome-Wide Chromatin Interaction Analysis. *Methods Mol Biol.* 2025;2856:3-9. doi: 10.1007/978-1-0716-4136-1_1.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 金田篤志. がん蓄積するエピゲノム異常の網羅的な解明と医療産業への応用. 2025.01.10. 千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワークがん領域セミナー. ホテルグリーンタワー幕張 (千葉県千葉市). 国内セミナー. 招待講演
2. Atsushi Kaneda. Risk prediction of primary gastric cancer by accumulation of epigenomic alteration in gastric mucosa initiated by helicobacter pylori. 2024.11.27-29. 第47回日本分子生物学会年会. 福岡国際会議場・福岡マリンメッセ (福岡県福岡市). 国内学会. 招待講演
3. 星居孝之. DNA修復因子BOD1Lはヒストンメチル化酵素SETD1Aのクロマチン結合と非古典的転写に必須である. 2024.11.27-2024.11.29. 第47回日本分子生物学会年会. 福岡国際会議場(福岡). 国内学会. 招待講演
4. Hoshii T. The SETD1B catalytic domain regulates H3K4me3 breadth and MYC expression in MLL-rearranged leukemia. 2024.11.20 – 2024.11.22. KEY Forum: The 5th International Symposium & The 39th International Kumamoto Medical Bioscience Symposium, Kumamoto City International Center (Kumamoto, Japan). 国際学会. 招待講演
5. 星居孝之. 急性骨髄性白血病モデルを用いたエピゲノム制御酵素の新たな機能の発見と創薬研究. 2024.11.16. 第2回東京理科大学 血液がん・免疫・数理融合研究シンポジウム. 東京理科大学神楽坂校舎 (東京). 国内学会. 招待講演
6. 岡部篤史. 癌ウイルス感染が誘導するクロマチン構造異常. 2024.11.14-15. 第4回Hi-C研究会. 千葉大学亥鼻キャンパス (千葉県千葉市). 国内学会. 招待公演
7. 中川拓也. HPV関連中咽頭癌における染色体外DNAを介した発癌分子機構の解明と標的治療法の開発. 2024.11.14-15. 第4回Hi-C研究会. 千葉大学亥鼻キャンパス (千葉県千葉市). 国内学会. 招待公演
8. Atsushi Okabe, Masaki Fukuyo, Bahityar Rahmutulla, Teru Kanda, Hironori Yoshiyama, Patrick Tan, Atsushi Kaneda. Chromatin structural alteration induced by oncovirus infection aberrantly activate transcriptional regulation. 2024.11.6-8. 第97回日本生化学会大会. パシフィコ横浜ノース (神奈川県横浜市). 国内学会. 招待講演
9. 金田篤志. エピゲノム異常の蓄積と発がんリスク. 2024.10.30. 2024年度名医に学ぶセミナー. 熊本大学 (熊本県熊本市) 国内学会. 招待講演
10. Atsushi Kaneda. Environment and lifestyles to cause accumulation of epigenomic aberrations and gastric tumorigenesis. 2024.10.15-17. The 17th Asian Epigenomics meeting. Jawaharlal Nehru Centre (Karnataka India) 国際学会・招待講演
11. 金田篤志. 病原体感染が誘導するエピゲノム異常と胃発癌. 2024.10.7. 令和6年度「感染癌」全国共同研究拠点シンポジウム. 北海道大学医学部フラテホール (北海道札幌市) 国内学会. 招待講演
12. Atsushi Kaneda. Epigenomic aberrations in precancerous condition of gastric epithelium and risk for gastric cancer development. 2024.09.19-21. 第83回日本癌学会総会. 福岡国際会議場・福岡マリンメッセ (福岡県福岡市). 国内学会・招待講演
13. Takuya Nakagawa. Epigenetic abnormalities in HPV-associated oropharyngeal cancer. 2024.09.19-20. 2nd Joint meeting of Tri-Head and Neck Society 2024. Osaka University Nakanoshima Center (Osaka, Japan). 国際学会. 招待講演
14. 中川拓也, Joseph A. Califano, 金田篤志, 花澤豊行. エピゲノム異常から見るHPV関連中咽頭癌の発癌分子機構とその研究推進. 2024.06.20-21. 第48回日本頭頸部癌学会. アクトシティ浜松 (静岡県浜松市). 国内学会. 招待講演
15. Atsushi Kaneda. Epstein-Barr virus drives epigenetic activation of inactive B compartment in genesis of nasopharyngeal and gastric carcinoma. 2024.6.2-7. The Gordon Research Conferences (GRC). Les Diablerets Conference Center (Vaud (fr) Switzerland) 国際学会. 招待講演
16. 金田篤志. ストレスによるエピゲノム異常の蓄積と胃発癌リスク上昇. 2024.5.31-6.2. 第24回日本抗加齢医学会総会. 熊本城ホール (熊本県熊本市) 国内学会. 招待講演
17. Hoshii T. The SETD1B catalytic domain regulates H3K4me3 breadth and MYC expression in MLL-rearranged leukemia. 2024.2.13. JSPS Core-to-Core Program IRCMS-IMSUT Mini-Symposium “Pathogenesis and therapeutic targeting of hematological malignancies”. The University of Tokyo (Tokyo, Japan). 国際学会・招待講演

【学会発表数】

国内学会 14 学会 185 回 (うち大学院生 25 回)
国際学会 2 学会 3 回 (うち大学院生 1 回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「環境ストレスが誘導する胃のエピゲノム異常の蓄積と胃発癌リスク戦略の構築」代表者：金田 篤志 2024-2026
2. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「ゲノム構造依存的転写伸長制御を介した AML 進展機序の解明」代表者：星居孝之 2022-2025
3. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「癌ウイルスによるクロマチン構造破綻が誘導する新規発癌機構の解明」代表者：岡部篤史 2022-2024
4. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「AI 技術による ARID1A 欠損胃がんクロマチン構造異常の検出」代表者：藤木亮次 2024-2026
5. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「細胞集団の不均一性に着目した EBV 胃癌発生メカニズムの解析」代表者：関元昭 2024-2026
6. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「網羅的エピゲノム解析とゲノム編集技術を用いた肝芽腫の新規治療候補遺伝子の同定」代表者：工藤渉 2023-2025
7. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「新規変異シグナチャー解析手法による癌変異源の解明」代表者：福世真樹 2022-2024
8. 文部科学省科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「染色体外 DNA がもたらす異常クロマチン相互作用と癌進展、新規治療戦略基盤の構築」代表者：金田篤志 2024-2026
9. 文部科学省科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「エンハンサー制御分子における抗白血病化ドメインの網羅的同定と機能解析」代表者：星居孝之 2022-2024
10. 文部科学省科学研究費 若手研究「DNA メチル化異常特性と HPV 感染による中咽頭癌の層別化と発癌機構の解明」代表者：中川拓也 2022-2024
11. 文部科学省科学研究費 研究活動スタート支援「去勢抵抗性前立腺癌における PRC1.1 による発癌分子機構の解明」代表者：杉浦正洋 2024-2025
12. 文部科学省科学研究費 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))「胃癌におけるクロマチン構造異常による癌化機構の解明」代表者：岡部篤史 2020-2024
13. 株式会社エスアールエル「バイオリソース教育研究センターによるバイオバンクの運営」代表者：金田篤志 2018-2027
14. 株式会社スクラム「バイオリソース教育研究センターにおけるバンキング技術の研究」代表者：金田篤志 2018-2025
15. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構・ムーンショット型研究開発事業「細胞運命転換によるがん組織を支えるネットワークへの介入による治療の概念実証とそのメカニズムの解明」分担者：金田篤志 2022-2025
16. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構・次世代がん医療加速化研究事業「ヒストンメチル化酵素天然変性領域を標的とする白血病治療法の開発(調整費)」代表者：星居孝之 2024
17. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構・医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業「アジア特異的発がん性物質による胃癌進化メカニズム解明」代表者：金田篤志 2023-2026
18. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構・次世代がん医療加速化研究事業「エピゲノム特性に基づいた胃癌易罹患者バイオマーカーの研究開発」代表者：金田篤志 2022-2024
19. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構・次世代がん医療加速化研究事業「ヒストンメチル化酵素天然変性領域を標的とする白血病治療法の開発」代表者：星居孝之 2022-2024
20. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構・肝炎等克服実用化研究事業 B 型肝炎創薬実用化等研究事業「感染 HBV ゲノムのエピゲノム制御の解明」分担者：金田篤志 2022-2024
21. 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)「全方位イノベーション創発博士人材養成プロジェクト」代表者：込山大智 2024
22. 国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)「全方位イノベーション創発博士人材養成プロジェクト」代表者：岡田 朋香 2024-2027
23. 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)「全方位イノベーション創発博士人材養成プロジェクト」代表者：東原雅明 2023-2026
24. 国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)「全方位イノベーション創発博士人材養成プロジェクト」代表者：寧萌 2021-2024
25. 国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)「全方位イノベーション創発博士人材養成プロジェクト」代表者：込山大智 2021-2025
26. 公益財団法人上原記念生命科学財団「染色体外 DNA を介したウイルス関連癌の新規治療戦略」代表者：中川拓也 2024-2026
27. 公益財団法人 MSD 生命科学財団「難治性ウイルス関連癌の染色体外 DNA を標的とした新規薬物治療の開発」代表者：中川拓也 2024-2025
28. 一般財団法人横山臨床薬理研究助成基金「去勢抵抗性前立腺癌におけるポリコム 1.1 による癌悪性化機構の解明」代表者：杉浦正洋 2024
29. 公益財団法人タムス岡本記念財団「染色体外 DNA がもたらす異常クロマチン相互作用による癌の進展機序の解明」代表者：金田篤志 2024
30. 公益財団法人武田科学振興財団「Extrachromosomal DNA のエピゲノム異常に着目したウイルス関連癌

における発癌分子機構の解明と新規治療標的の探索」代表者：中川拓也 2024-

31. 公益財団法人武田科学振興財団「ヒストン制御酵素間ネットワークを介したがん進展制御機構の解明」代表者：星居孝之 2024-2029
32. NPO 法人医療・福祉ネットワーク千葉「染色体外 DNA を介したウイルス関連癌の新規治療戦略の構築」代表者：中川拓也 2024
33. 公益財団法人ノバルティス科学振興財団「白血病進展における転写休止解除制御因子群の同定」代表者：星居孝之 2024
34. 一般財団法人濱口生化学振興財団「ヒストンメチル化酵素とクロマチンリモデリング酵素の相互作用を介した白血病進展制御機構の解明」代表者：星居孝之 2023-2024
35. 株式会社ウェッジ「千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学における研究及び教育助成」代表者：金田篤志 2023-2024
36. 公益財団法人上原記念生命科学財団「がんにおける非古典的エピゲノム酵素複合体の機能解明」代表者：星居孝之 2023-2024
37. 公益財団法人小林がん学術振興会「エピゲノム酵素

を介した転写複製競合を標的とする新規白血病治療法の開発」代表者：星居孝之 2022-

38. 公益財団法人武田科学振興財団「余剰環状 DNA による転写制御破綻と胃癌進化の解明」代表者：岡部篤史 2022-2024
39. 公益財団法人武田科学振興財団「エピゲノム制御と新生 RNA の連動を介したがん進展機構の解明」代表者：星居孝之 2021-2024
40. 公益財団法人武田科学振興財団「炎症と老化によるエピゲノム異常と発癌機構の解明」代表者：金田篤志 2018-

【受賞歴】

1. 横山青柚 千葉大学医学部スカラーシップ奨励賞 2025.1.30
2. 横山青柚 スカラーシップ優秀ポスター賞 2025.1.30
3. 岡部篤史 千葉大学医学部スカラーシップ指導者賞 2025.1.30
4. 岡田朋香 第 35 回日本消化器癌発生学会総会優秀演題賞受賞 2024.11.29
5. 岡田朋香 JCA 若手研究者ポスター賞受賞 2024.9.20

●地域貢献

地域の産業と今後のゲノム医療との連携を討議する千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議セミナーの企画運営会議委員を担当。

地域のがん教育について、千葉県がん教育推進協議会の委員を担当。

地域のがん診療について、千葉県がん診療連携協議会のがんゲノム医療専門部会委員を担当。

地域のがん対策について、千葉県がん対策審議会の委員を担当。

研究領域等名：	細胞分子医学
診療科等名：	

●はじめに

哺乳動物の初期胚である胚盤胞は3種類の数十個の細胞で構成される組織であるが、このような単純な構造が如何にして規則正しく、再現性をもって生命を発生させるか、その機構の多くが未知である。本研究室では、胚盤胞の栄養膜、エピブラスト、原始内胚葉から樹立されるそれぞれの幹細胞、TS細胞、ES細胞、PrES細胞を用いて、初期胚発生の理論を解明すると共に、試験管内で幹細胞によって胚を再構成する技術の確立を目指している。

●教育

・学部教育／卒前教育

90分×1コマの授業を行った。(古関明彦)

60分×12コマのゼミ形式授業、180分×4コマのチュートリアル授業を行った。(大日向康秀)

・大学院教育

90分×1コマの修士課程講義を行った。90分×8コマの一連の授業のコーディネートを行った。(大日向康秀)

・その他(他学部での教育、普遍教育等)

卓越大学院プログラムで3日間にわたる集中講義を企画・実行した。(古関明彦、大日向康秀)

●研究

・研究内容

胚盤胞よりTS細胞、ES細胞、PrES細胞を樹立し、それらを分化、組み合わせることで人工胚盤胞あるいは初期胚様構造を作製する。それらのゲノムワイドな遺伝子発現、エピゲノム動態を解析する。樹立した幹細胞に胎盤関連遺伝子、原始内胚葉関連遺伝子を導入し分化転換を行う。樹立あるいは樹立後遺伝子導入された幹細胞はマウス胚盤胞に注入し、機能及び分子生物学的解析を行っている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

- Nemoto S, Kubota T, Ishikura T, Nakayama M, Kobayashi A, Yazaki J, Uchida K, Matsuda M, Kondo T, Ohara O, Koseki H, Koyasu S, Ohno H. Characterization of metabolic phenotypes and distinctive genes in mice with low-weight gain FASEB J. 2024 Jan;38(1):e23339. doi: 10.1096/fj.202301565R. 10.1096/fj.202301565R PMID: 38069905
- Del Vecchio A, Mulé P, Fernández-Pérez D, Amato S, Lattanzi G, Zanotti M, Rustichelli S, Pivetti S, Oldani P, Mariani A, Iommazzo F, Koseki H, Facciotti F, Tamburri S, Ferrari KJ, Pasini D. PCGF6 controls murine Tuft cell differentiation via H3K9me2 modification independently of Polycomb repression. Dev Cell. 2024 Feb 5;59(3):368-383. e7. doi: 10.1016/j.devcel.2023.12.015. Epub 2024 Jan 15.PMID: 38228142
- Ohta T, Hananoe A, Fukushima-Nomura A, Ashizaki K, Sekita A, Seita J, Kawakami E, Sakurada K, Amagai M, Koseki H, Kawasaki H. Best practices for multimodal clinical data management and integration: An atopic dermatitis research case. Allergol Int. 2024 Apr;73(2):255-263. doi: 10.1016/j.alit.2023.11.006. Epub 2023 Dec 14. PMID: 38102028
- Kaito S, Aoyama K, Oshima M, Tsuchiya A, Miyota M, Yamashita M, Koide S, Nakajima-Takagi Y, Kozuka-Hata H, Oyama M, Yogo T, Yabushita T, Ito R, Ueno M, Hirao A, Tohyama K, Li C, Kawabata KC, Yamaguchi K, Furukawa Y, Kosako H, Yoshimi A, Goyama S, Nannya Y, Ogawa S, Agger K, Helin K, Yamazaki S, Koseki H, Doki N, Harada Y, Harada H, Nishiyama A, Nakanishi M, Iwama A. Inhibition of TOPORS ubiquitin ligase augments the efficacy of DNA hypomethylating agents through DNMT1 stabilization. Nat Commun. 2024 Aug 28;15(1):7359. doi: 10.1038/s41467-024-50498-4. PMID: 39198387
- Boonmee A, Benjaskulluecha S, Kueanjinda P, Wongprom B, Pattarakankul T, Sri-Ngern-Ngam K, Umthong S, Takano J, Koseki H, Palaga T. A polycomb group protein EED epigenetically regulates responses in lipopolysaccharide tolerized macrophages. Epigenetics Chromatin. 2024 Nov 29; 17(1):36. doi: 10.1186/s13072-024-00562-6. PMID: 39614386
- Hirase R, Fujita T, Miyai T, Kawasaki H, Koseki H.

Pharmacological Impacts of Mucopolysaccharide Polyphosphates in the Epidermis Involves Inhibition of Amphiregulin-Mediated Signals in Keratinocytes. Exp Dermatol. 2024 Oct;33(10): e70000. doi: 10.1111/exd.70000. PMID: 39422315

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 2024 ASXL Research Symposium（米・メリーランド）における招待講演
2. 中正大学（台湾）における招待講演
3. Friedrich Miescher Institute for Biomedical Research（スイス・バーゼル）における招待講演
4. University of Tübingen（ドイツ・チュービンゲン）における招待講演

5. International Symposium : The 3D Genome（神戸）における招待講演

【学会発表数】

国内学会 1回（うち大学院生0回）

国際学会 8回（うち大学院生0回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「胚盤胞期の未分化状態を保持する新規栄養膜幹細胞の樹立」代表者：大日向 康秀 2024-2027
2. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「サイエンスとサイエンスフィクションで探求する人間の生命の形」分担者：大日向 康秀 2022-2026

研究領域等名：	内分泌代謝・血液・老年内科学
診療科等名：	血液内科／糖尿病・代謝・内分泌内科

●はじめに

内分泌代謝・血液・老年内科学（旧内科学第二講座）は、内分泌、糖尿病、代謝・老年病、血液の各研究グループによって構成され、それぞれの分野において研究と学部学生・大学院生の教育を行っている。附属病院においては糖尿病・代謝・内分泌内科、血液内科と高齢者医療センターへ教員・医師を派遣し、患者診療、学生・研修医教育と研究に従事している。糖尿病・代謝・内分泌内科と血液内科は、ともに千葉県における中核病院として、県内の他病院と連携しながら最先端医療を展開している。糖尿病・代謝・内分泌内科は、糖尿病・代謝領域（1型・2型糖尿病、脂質異常症、肥満症、動脈硬化、メタボリックシンドローム）と内分泌領域（先端巨大症、尿崩症などの間脳下垂体疾患、バセドウ病などの甲状腺疾患、副甲状腺疾患、アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫などの副腎疾患、性腺疾患など）の診療を展開している。頻度が低く専門性の高い疾患として、内分泌がん（副腎がん、悪性褐色細胞腫）に対する入院化学療法、高度肥満症患者に対する代謝改善減量手術、肥満症治療薬の導入を開始した。さらに老年期特有の病態に注目した老年病や Werner 症候群などの早老症にも取り組んでいる。

血液内科では、県内の関連施設とも連携し、急性白血病、慢性骨髄性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍の診断と化学療法を中心とした集学的治療を行っている。特に造血幹細胞移植は豊富な経験数があり、あらゆる疾患に対してさまざまなドナーソースによる造血幹細胞移植が実施可能である。また、2021 年からは難治性悪性リンパ腫・多発性骨髄腫に対する新規のがん免疫療法である CAR-T 細胞療法を導入し、年々件数が増えつつある。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部学生（3年生）に対しては、内分泌・代謝・老年医学および血液学のユニット講義において疾患の基礎病態や診断と治療法に加え、国内外の最先端の知見についても紹介した。医学部4・5年生を対象とした臨床実習Ⅰにおいては、ほぼ全て実地での実習を継続することができた。一部、遠隔実習を取り入れ、全体を通して診察技法や診断に至る論理的思考法を身につけ、エビデンスに基づいた治療選択を学べるような系統的教育が行われた。教育専任医師（アテンディング）が練習用機材を用いた自己血糖測定の実験といったアクティブラーニングを取り入れ、学生の学習動機を高める実習を行った。例年と同様に、学生が入院症例を担当する際には診療チームの一員として主治医に準じた意識を持つこととし、担当医による診断・治療・病状説明のプロセスに常に立ち会うこととしている。また、学生は症例検討会において症例呈示し、討論に積極的に参加するとともに、症例に関連した英語論文を検索して1本精読するようにしている。医学部6年生を対象とした臨床実習Ⅱ・学内選択やアスパイアプロジェクトでは、臨床実習だけでなく担当症例に関連した基礎実験や臨床データの統計解析を学ぶ機会も提供している。2024年4月に行われた「医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2024」において、医学部6年生4名が発表（糖尿病・代謝・内分泌内科2名、血液内科2名）し、うち血液内科にて指導した1名が優秀演題賞を受賞し、指導教官が指導教官賞を受賞した。

また、高齢者医療センターは、内分泌代謝・血液・老年内科学と共同して、学部教育活動を行っている。

・卒後教育／生涯教育

当教室では、専門領域のみならず、内科全般に対する教育を心がけ、主として助教以上の教員および病棟担当の医員が卒後教育を担当している。糖尿病・代謝・内分泌内科では週2回の回診を実施し、診断および治療選択の考え方からプレゼンテーションの技法までを研鑽する。水曜午後に開催されるチャートラウンド（カンファレンス）にあたってはウィークリーサマリーの作成が義務づけられている。また、全症例は退院時に内科専門医申請時と同書式による退院サマリーを作成し、指導医による添削指導が行われる。また、糖尿病、内分泌・代謝疾患、老年病、肥満症に関するレクチャーが定期的に開催され、初期研修医やシニアレジデントは診察に必要な病態生理、診断法、治療の最新知見などをアップデートすることができる。学会・論文報告、専門医獲得のための指導も積極的に行っている。

・大学院教育

本講座の教員は、いずれも大学院博士および修士課程学生に対する研究指導を実施しており修士課程と博士課程の授業も担当している。研究室は糖尿病、内分泌、代謝・老年病、血液に分かれており、大学院生の日々の研究指導は個々の研究室で行っている。週に1回内分泌代謝・血液・老年内科学教室全体のリサーチセミナーが行

われており、グループの垣根を越えた大学院生の研究テーマに関するディスカッションが行われている。抄読会も各研究室で定期的に開催され、大学院生が最新の研究成果を学ぶ機会を設けている。国内外の研究グループとも盛んに研究交流を行うとともに、その成果に関しても遅滞なく国内外の学会に報告、世界に通用する研究者の育成に力を注いでいる。

●研究

・研究内容

◎内分泌疾患の病態解明と診断治療法の開発、◎グルタミン代謝制御遺伝子 GLS2 の癌および糖尿病における役割解明、◎ GLS2 の腎虚血再灌流障害における役割解明、◎副腎疾患における細胞死フェロトーシスの役割解明と治療応用、◎クッシング症候群の腎周囲脂肪組織における de novo ステロイド合成とその病態解明、◎糖尿病骨脆弱性の分子メカニズムと新たな骨質評価マーカーの開発、◎脂肪細胞による代謝疾患の再生医療の臨床展開、◎新規褐色脂肪細胞活性化因子の糖代謝に与える影響の検討、◎ウェルナー症候群の病態把握と治療方針作成を目的とした全国研究、◎早老症の病態解明、診断・治療法の確立と普及を目的とした全国研究、◎ウェルナー症候群 iPS 細胞を用いた早老症の細胞治療の検討、◎新規遺伝子 R3hdm1 によるサルコペニアの治療戦略の検討、◎新規糸球体（ポドサイト）特異的遺伝子の機能解析に関する研究、◎脂肪細胞における Akt-FoxO1 経路の役割の解明、◎4種の FoxO のインスリン抵抗性および寿命延長作用における役割の解明、◎インスリンの肝直接作用と脳・脂肪組織を介した間接作用による血糖降下機序の解明、◎ウェルナー症候群に対するニコチンアミド リボシドの安全性・有効性を検証するための前向き、単施設試験、◎肥満症に対する効果的な治療戦略と健康障害の改善に資する減量数値目標を見出すための介入研究、◎音声および顔貌画像データによるウェルナー症候群の診断補助システムの構築、◎生活習慣改善による脂質異常症の治療アプリの開発◎透析療法における遠隔医療の非劣勢および有用性の検討、◎内臓脂肪／皮下脂肪面積比が代謝性疾患の予後および医療経済にもたらす継続的影響の検討、◎糖尿病関連腎臓病や腎臓繊維化のメカニズム解析、◎鉄依存的新規細胞死であるフェロトーシスの、糖尿病関連腎臓病や糸球体障害における意義の研究、◎SGLT2 阻害薬の腎保護機構とフェロトーシスの関連についての研究、◎レセプトデータベース研究、◎糖尿病腎症における糸球体ポドサイトや間質細胞の転写因子ネットワークの解明と老化の関連、◎新規動脈硬化関連バイオマーカーの開発、◎肥満症患者の疫学研究、◎選択的インスリン抵抗性における転写因子 FOXO1 や PPARα の意義についての研究、◎脂肪細胞における Akt-FoxO1 経路の役割の解明、◎インスリンの肝直接作用と脳・脂肪組織を介した間接作用による血糖降下機序の解明、◎PGC1-α の糖代謝に対する作用の解明、◎糖尿病使用薬と悪性腫瘍の発症リスクに関する検討、◎臨床アウトカムと関連する持続血糖モニターの新規パラメータ開発◎造血器悪性腫瘍における新規バイオマーカー LR11 の開発、◎LR11 による造血の制御機構の解明、◎造血器悪性腫瘍発症におけるエピジェネティクス制御の解明◎多発性骨髄腫の薬剤耐性化機構の解明◎POEMS 症候群発症機構の解明、◎POEMS 症候群に対する自家末梢血幹細胞移植療法の確立、◎同種造血幹細胞移植の新たな前処置法の確立、◎多発性骨髄腫に対する新たな多剤併用療法の確立、◎同種造血幹細胞移植後非感染性肺合併症の成因と予防に関する研究

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Kaneko H, Maezawa Y, Tsukagoshi-Yamaguchi A, Koshizaka M, Takada-Watanabe A, Nakamura R, Funayama S, Aono K, Teramoto N, Sawada D, Maeda Y, Minamizuka T, Hayashi A, Ide K, Ide S, Shoji M, Kitamoto T, Takemoto M, Kato H, Yokote K. Sex differences in symptom presentation and their impact on diagnostic accuracy in Werner syndrome. *Geriatr Gerontol Int*. 2024 24(1):161-167.
2. Ishibashi R, Inaba Y, Koshizaka M, Takatsuna Y, Tatsumi T, Shiko Y, Kashiwagi Y, Maezawa Y, Kawasaki Y, Kawakami E, Yamamoto S, Yokote K. Sodium-glucose co-transporter 2 inhibitor therapy reduces the administration frequency of anti-vascular endothelial growth factor agents in patients with diabetic macular oedema with a history of anti-vascular endothelial growth factor agent use: A cohort study using the Japanese health insurance claims database. *Diabetes Obes Metab*. 2024;26(4):1510-1518.
3. Wang He-L, Siow R, Schmauck-Medina T, Zhang J, Morten Sandset P, Filshie C, Lund Ø, Partridge L, Hildegard Bergersen L, Juel Rasmussen L, Palikaras K, Sotiropoulos I, Storm-Mathisen J, C Rubinsztejn D, Grazia Spillantini M, I De Zeeuw C, Otto Watne L, Vyhnaek M, Veverova K, Xiao Liang K, Tavernarakis N, A Bohr V, Yokote K, Saarela J, Nilsen H, S Gonos E, Scheibye-Knudsen M, Chen G, Kato H, Selbæk G, Fladby T, Nilsson P, Simonsen A, Aarsland D, Lautrup S, Petter Ottersen O, S Cox L, F Fang E. Meeting summary of The NYO3 5th NO-Age/AD meeting and the

- 1st Norway-UK joint meeting on ageing and dementia: recent progress on the mechanisms and interventional strategies. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*. 2024 ;glae029.
4. Nishino A, Adachi A, Koshizaka M, Maezawa Y, Yokote K, Sawada Y. Case of Werner syndrome complicated with Sjögren's syndrome and Hashimoto's thyroiditis presenting sclerosing panniculitis-like symptoms. *Geriatr Gerontol Int*. 2024 24(1):173-174
5. Arai H, Yamashita S, Araki E, Yokote K, Tanigawa R, Saito A, Yamasaki S, Suganami H, Ishibashi S. Efficacy and Safety of Pemafibrate Extended-Release Tablet: a Phase 3, Multicenter, Randomized, Double-Blind, Active-Controlled, Parallel-Group Comparison Trial. *J Atheroscler Thromb*. 2024 ;31(11):1517-1538.
6. Aoki A, Iwamura C, Kiuchi M, Tsuji K, Sasaki A, Hishiya T, Hirasawa R, Kokubo K, Kuriyama S, Onodera A, Shimada T, Nagaoka T, Ishikawa S, Kojima A, Mito H, Hase R, Kasahara Y, Kuriyama N, Nakamura S, Urushibara T, Kaneda S, Sakao S, Nishida O, Takahashi K, Kimura M Y, Motohashi S, Igari H, Ikehara Y, Nakajima H, Suzuki T, Hanaoka H, Nakada T, Kikuchi T, Nakayama T, Yokote K, Hirahara K. Suppression of Type I Interferon Signaling in Myeloid Cells by Autoantibodies in Severe COVID-19 Patients. *J Clin Immunol*. 2024 ;44(4):104.
7. Zhang B-S, Zhang X-M, Ito M, Yajima S, Yoshida K, Ohno M, Nishi E, Wang H, Li S-Y, Kubota M, Yoshida Y, Matsutani T, Mine S, Machida T, Takemoto M, Yamagata H, Hayashi A, Yokote K, Kobayashi Y, Takizawa H, Kuroda H, Shimada H, Iwadate Y, Hiwasa T. JMJD6 Autoantibodies as a Potential Biomarker for Inflammation-Related Diseases. *Int J Mol Sci*. 2024 ;25(9):4935.
8. Ruike Y, Suzuki S, Yokote K. Increasing Catecholamine Secretion Through NPY in Pheochromocytomas With False-Negative 123 I-MIBG Scintigraphy. *Clin Nucl Med*. 2024 ;49(5): 419-426.
9. Matsui S, Ri C, Bolanos L C, Choi K, Shibamiya A, Ishii A, Takaishi K, Oshima-Hasegawa N, Tsukamoto S, Takeda Y, Mimura N, Yoshimi A, Yokote K, Starczynowski D T, Sakaida E, Muto T. Metabolic reprogramming regulated by TRAF6 contributes to the leukemia progression. *Leukemia*. 2024;38(5):1032-1045.
10. Wakabayashi T, Takahashi M, Okazaki H, Okazaki S, Yokote K, Tada H, Ogura M, Ishigaki Y, Yamashita S, Mariko H-S. Current Diagnosis and Management of Familial Hypobetalipoproteinemia 1. *J Atheroscler Thromb*. 2024 ;31(7):1005-1023.
11. Ishii A, Tsukamoto S, Mimura N, Miyamoto-Nagai Y, Isshiki Y, Matsui S, Nakao S, Shibamiya A, Hino Y, Kayamori K, Oshima-Hasegawa N, Muto T, Takeda Y, Suichi T, Misawa S, Ohwada C, Yokote K, Kuwabara S, Nakaseko C, Takamatsu H, Sakaida E. Detection of clonal plasma cells in POEMS syndrome using multiparameter flow cytometry. *Sci Rep*. 2024 ;14(1):10362.
12. Kumar Paul S, Oshima M, Patil A, Sone M, Kato H, Maezawa Y, Kaneko H, Fukuyo M, Rahmutulla B, Ouchi Y, Tsujimura K, Nakanishi M, Kaneda A, Iwama A, Yokote K, Eto K, Takayama N. Retrotransposons in Werner syndrome-derived macrophages trigger type I interferon-dependent inflammation in an atherosclerosis model. *Nat Commun*. 2024 ;15(1):4772.
13. Ishibashi R, Koshizaka M, Takatsuna Y, Tatsumi T, Maezawa Y, Shiko Y, Inaba Y, Kawasaki Y, Kashiwagi Y, Kawakami E, Yamamoto S, Yokote K. Sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor therapy reduces the administration frequency of steroid injection in patients with diabetic macular edema: A cohort study using the Japanese health insurance claims database. *J Diabetes Investig*. 2024 ;15(9):1231-1238.
14. Aono K, Maezawa Y, Kato H, Kaneko H, Kubota Y, Taniguchi T, Oshitari T, Motegi S, Nakagami H, Taniguchi A, Watanabe K, Takemoto M, Koshizaka M, Yokote K. Recommendations for cancer screening and surveillance in patients with Werner syndrome. *Geriatr Gerontol Int*. 2024 ;24(10):1085-1087.
15. Yamashita S, Araki E, Arai H, Yokote K, Tanigawa R, Saito A, Suganami H, Minamikawa S, Ishibashi S. Clinical Pharmacology of Pemafibrate Extended-release Formulation in Patients with Hypertriglyceridemia-A Phase 2, Multicenter, Active-controlled, Randomized, Single-blind, Crossover study. *J Atheroscler Thromb*. 2024. doi:10.1177/10741435241265001.
16. Ishibashi S, Arai H, Yokote K, Araki E, Watanabe M, Nakanishi M, Makinose Y, Suganami H, Kurihara Y, Yamashita S. Pharmacokinetics and Safety of Pemafibrate in Patients with both Dyslipidemia and Severe Renal Impairment: A Phase 4 Study. *J Atheroscler Thromb*. 2024 Sep

doi: jat.64887.

17. Nakao S, Tsukamoto S, Takeda Y, Ohwada C, Ri C, Izumi S, Kamata Y, Matsui S, Shibamiya A, Ishii A, Takaishi K, Takahashi K, Shiko Y, Oshima-Hasegawa N, Muto T, Mimura N, Yokote K, Nakaseko C, Sakaida E. Clinical impact of airflow obstruction after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Int J Hematol.* 2024 ;120(4):501-511.
18. Miyata M, Kuroda M, Miyoshi J, Kirinashizawa M, Nagasawa R, Yamamoto M, Akasaki Y, Utatsu K, Maezawa Y, Yokote K, Ohishi M. Novel pathogenic variant in the LCAT gene in a compound heterozygous patient with fish-eye disease and a mild phenotype. *Journal of Clinical Lipidology.* 2024: S1933-2874(24)00255-1
19. Shoji M, Teramoto N, Ishikawa T, Hayashi A, Matsumoto A, Ochiai H, Yamaguchi A, Maeda Y, Takasaki A, Hiraga C, Ide S, Ide K, Yamamoto M, Maezawa Y, Shigeta A, Sakao S, Suzuki T, Yahaba M, Taniguchi T, Igari H, Yokote K, Koshizaka M. Hypoalbuminemia on admission in diabetic patients correlates with severity of illness in COVID-19: A retrospective clinical study and literature review. *Endocrine and Metabolic Science, Volume 16, 2024, 100196, ISSN 2666-3961*
20. Baba Y, Watanabe S, Hayashi S, Sakai T, Naka M, Kami S, Hirayama K, Koizumi K, Takahashi A, Meguro M, Iga R, Yamanaka Y, Kataoka M, Uchida D, Ishibashi R. Semaglutide improves treatment satisfaction and eating behaviour in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus. *Diabetes Obes Metab.* 2024 Oct;26(10):4787-4790.
21. Yokote K, Ako J, Kitagawa K, Osada N, Sheng F, Sonoda M, Teramoto T. Safety and Effectiveness of Low-Density Lipoprotein Cholesterol-Lowering Therapy With Evolocumab for Familial Hypercholesterolemia/Hypercholesterolemia in Japan: A Real-World, Postmarketing, Single-Arm Study. *J Am Heart Assoc.* 2024 Nov 5;13(21): e035809
22. Yahaba M, Asano H, Saito K, Murata S, Kawasaki K, Chiba H, Yokota S, Yoshikawa H, Herai Y, Yamagishi K, Shiko Y, Matsushita K, Hanaoka H, Taniguchi T, Yokote K, Nakajima H, Ido E, Igari H. Antibody Responses and Infection Prevention following the Sixth Vaccination using the BA.1 bivalent COVID-19 vaccine among Healthcare workers during the XBB variant Dominance in Japan. *Jpn J Infect Dis.* 2024 Nov:yoken. JJID. 2024.116.
23. Aono K, Koshizaka M, Shoji M, Kaneko H, Maeda Y, Kato H, Maezawa Y, Miyabayashi M, Ishikawa M, Sekiguchi A, Motegi S, Tsukamoto S, Taniguchi A, Shoda Y, Yoshimura T, Kawashima J, Yoshinaga K, Nakagami H, Takami Y, Sugimoto K, Hashimoto K, Okubo N, Yoshida T, Ohara M, Kogure A, Suzuki D, Kuzuya M, Watanabe K, Takemoto M, Oshima J, Yokote K. Less frequent skin ulcers among patients with Werner syndrome treated with pioglitazone: findings from the Japanese Werner Syndrome Registry. *Aging (Albany NY).* 2024 Dec 2 ;16(22):13526-13533.
24. Tamaki A, Kuroda M, Yonaha K, Ishiki Y, Uehara M, Nakayama Y, Honma K, Chinen R, Uema T, Okamoto S, Miyoshi J, Kirinashizawa M, Sato K, Aohara T, Yamamoto M, Maezawa Y, Yokote K, Masuzaki H. A Rare Case of Autoimmune-Mediated Lecithin:Cholesterol Acyltransferase Insufficiency Manifesting as the Acute Onset of Extremely Hypo-High-Density Lipoprotein-Cholesterolemia and Spontaneous Improvement: A Case Report with a Review of the Literature. *J Atheroscler Thromb.* 2024;jat.65298.
25. Terayama R, Koshizaka M, Maezawa Y, Shibata T, Ban T, Yokote K. Predictive risk factors for early-stage renal dysfunction: An analysis of specific health checkup data for the general Japanese population. *Nutr Metab Cardiovasc Dis.* 2024: j.numecd.2024.
26. Minamizuka T, Kobayashi J, Tada H, Koshizaka M, Maezawa Y, Ono H, Yokote K. A Japanese Case of Familial Hypercholesterolemia with a Protein-truncating Variant in LDLR and a PCSK9 Variant without Significant Atherosclerosis but Showing Remarkable Achilles Tendon Thickening. *Intern Med.* 2024;63(15):2137-2142.
27. Yamamotoya T, Ohata Y, Akasaka Y, Hasei S, Inoue MK, Nakatsu Y, Kanna M, Yamazaki H, Kushiyaama A, Fujishiro M, Ono H, Sakoda H, Yamada T, Ishihara H, Asano T. Trk-fused gene plays a critical role in diet-induced adipose tissue expansion and is also involved in thyroid hormone action. *PNAS Nexus.* 2024 Apr 9;3(4):pgae150.
28. Sakai S, Tanaka Y, Tsukamoto Y, Kimura-Ohba S, Hesaka A, Hamase K, Hsieh CL, Kawakami E, Ono H, Yokote K, Yoshino M, Okuzaki D, Matsumura H, Fukushima A, Mita M, Nakane M, Doi M, Isaka Y, Kimura T. d -Alanine Affects the Circadian Clock to Regulate Glucose Metabolism in the Kidney. *Kidney360.* 2024 Feb 1;5(2):237-251.

29. Wang HL, Siow R, Schmauck-Medina T, Zhang J, Sandset PM, Filshie C, Lund Ø, Partridge L, Bergersen LH, Juel Rasmussen L, Palikaras K, Sotiropoulos I, Storm-Mathisen J, Rubinsztein DC, Spillantini MG, De Zeeuw CI, Watne LO, Vyhnaek M, Veverova K, Liang KX, Tavernarakis N, Bohr VA, Yokote K, Saarela J, Nilsen H, Gonos ES, Scheibye-Knudsen M, Chen G, Kato H, Selbæk G, Fladby T, Nilsson P, Simonsen A, Aarsland D, Lautrup S, Ottersen OP, Cox LS, Fang EF. Meeting Summary of The NYO3 5th NO-Age/AD Meeting and the 1st Norway-UK Joint Meeting on Aging and Dementia: Recent Progress on the Mechanisms and Interventional Strategies. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*. 2024 Apr 1;79(4):glae029.
30. Sakuma I, Ishibashi R, Matsue K, Vatner DF, Nakamura Y, Yokote K, Tanaka T. Primary adrenal insufficiency due to lymphomatoid granulomatosis in a 32-year-old man. *Lancet*. 2024 Jun 1;403(10442):e33.
31. Hiwasa T, Yoshida Y, Kubota M, Li SY, Zhang BS, Matsutani T, Mine S, Machida T, Ito M, Yajima S, Shirouzu M, Yokoyama S, Sata M, Yamagishi K, Iso H, Sawada N, Tsugane S, Takemoto M, Hayashi A, Yokote K, Kobayashi Y, Matsushita K, Tatsumi K, Takizawa H, Tomiyoshi G, Shimada H, Higuchi Y. Serum anti KIAA0513 antibody as a common biomarker for mortal atherosclerotic and cancerous diseases. *Med Int (Lond)*. 2024 Jun 19;4(5):45.
32. Koshizaka M, Tatsumi T, Kiyonaga F, Kosakai Y, Yoshinaga Y, Shintani-Tachi M. Comparison of the Risk of Diabetic Retinopathy Between Sodium-Glucose Cotransporter-2 Inhibitors and Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitors in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus in Japan: A Retrospective Analysis of Real-World Data. *Diabetes Ther*. 2024 Nov;15(11):2401-2416.
33. Koshizaka M, Eguchi A, Takaguchi K, Yamamoto M, Takatani R, Hisada A, Kawanami A, Konno Y, Watanabe M, Tsumura K, Shimatani K, Suzuki N, Mori C, Sakurai K; Chiba Study of Mother and Child Health Group; Chiba Study of Mother and Child Health Group. Second phase Chiba study of mother and child health (C-MACH): Japanese birth cohort study with multiomics analyses. *BMJ Open*. 2024 Dec 9;14(12):e085682.
34. Accili D, Talchai SC, Bouchi R, Lee AY, Du W, Kitamoto T, McKimpson WM, Belvedere S, Lin HV. Diabetes treatment by conversion of gut epithelial cells to insulin-producing cells. *J Diabetes Investig*. Mar 1 2024;doi:10.1111/jdi.14175
35. Kato H, Kitamoto T, Kimura S, Sunouchi T, Hoshino Y, Hidaka N, Tsurutani Y, Ito N, Makita N, Nishikawa T, Nangaku M, Inoue K. Cardiovascular Outcomes of KCNJ5 Mutated Aldosterone-Producing Adenoma: A Systematic Review. *Endocr Pract*. Jul 2024;30(7):670-678.
36. Watanabe Y, Yamaguchi T, Sasaki A, Naitoh T, Matsubara H, Yokote K, Okazumi S, Ugi S, Yamamoto H, Ohta M, Ishigaki Y, Kasama K, Seki Y, Tsujino M, Shirai K, Miyazaki Y, Masaki T, Nagayama D, Tatsuno I, Saiki A. Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on weight loss and metabolic improvement in subjects aged 65 years or older: a subanalysis of J-SMART study. *Diabetol Int*. 2024 ;16(1):56-64.
37. Muraosa Y, Hino Y, Takatsuka S, Watanabe A, Sakaida E, Saijo S, Miyazaki Y, Yamasaki S, Kamei K. Fungal chitin-binding glycoprotein induces Dectin-2-mediated allergic airway inflammation synergistically with chitin. *PLoS Pathog*. 2024 Jan 3;20(1):e1011878.
38. Yanagita M, Muto S, Nishiyama H, Ando Y, Hirata S, Doi K, Fujiwara Y, Hanafusa N, Hatta T, Hoshino J, Ichioka S, Inoue T, Ishikura K, Kato T, Kitamura H, Kobayashi Y, Koizumi Y, Kondoh C, Matsubara T, Matsubara K, Matsumoto K, Okuda Y, Okumura Y, Sakaida E, Shibagaki Y, Shimodaira H, Takano N, Uchida A, Yakushijin K, Yamamoto T, Yamamoto K, Yasuda Y, Oya M, Okada H, Nangaku M, Kashiwara N. Correction to: Clinical questions and good practice statements of clinical practice guidelines for management of kidney injury during anticancer drug therapy 2022. *Clin Exp Nephrol*. 2024 Feb;28(2):123-124.
39. Toya T, Mizuno K, Sakurai M, Kato J, Mori T, Doki N, Masuda S, Aotsuka N, Tsukamoto S, Sakaida E, Nakajima Y, Fujisawa S, Machida S, Aoyama Y, Yokoyama H, Shono K, Hatta Y, Usuki K, Kataoka K, Kanda Y. Differential clinical impact of letermovir prophylaxis according to graft sources: a KSGCT multicenter retrospective analysis. *Blood Adv*. 2024 Mar 12;8(5):1084-1093.
40. Kawamura S, Tamaki M, Konuma T, Onizuka M, Sakaida E, Hayashi H, Doki N, Nishida T, Sawa M, Ohigashi H, Fukuda T, Ishikawa J, Matsuoka KI, Kawakita T, Tanaka M, Ishimaru F, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda Y, Yakushijin K, Kanda J, Nakasone H. Superiority of BM over PBSC for

- recipients with pre-transplant lung dysfunction in HLA-matched allogeneic HCT. *Cytotherapy*. 2024 Jun 12;S1465-3249(24)00757-6.
41. Ohwada C, Sakaida E, Takeda Y, Doki N, Igarashi A, Onizuka M, Toyosaki M, Tanaka M, Tachibana T, Kataoka K, Kato J, Fujisawa S, Kato S, Nakasone H, Naganuma K, Saitoh T, Shono K, Hagihara M, Saito T, Usuki K, Mori T, Nakaseko C, Okamoto S, Kanda Y. Survival impact of response within the first year in a multicenter prospective observational study of chronic GVHD in a Japanese cohort. *Int J Hematol*. 2024 Sep;120(3):347-355.
 42. Matsumura I, Ohtake S, Atsuta Y, Kurata M, Minami Y, Takahashi N, Nakaseko C, Iriyama N, Fujimaki K, Kakihana K, Ogasawara Y, Ono T, Okada M, Tauchi T, Miyamoto T, Ohnishi K, Sakaida E, Fujisawa S, Kobayashi Y, Asou N, Naoe T, Kiyoi H, Miyazaki Y. Nilotinib vs. Dasatinib in Achieving MR4.5 for de novo Chronic Myeloid Leukemia: the Randomized JALSG CML212 Study. *Blood Adv*. 2024 Oct 22;8(20):5237-5247.
 43. Ureshino H, Takeda Y, Kamachi K, Ono T, Iriyama N, Ohtsuka E, Sakaida E, Kimura S. A Higher Neutrophil Count Is Associated with Favorable Achievement of Treatment-Free Remission in Patients with Chronic Myeloid Leukemia Who Received Second Generation Tyrosine Kinase Inhibitor as Frontline Treatment. *Clin Pract*. 2024 Jun 21;14(4):1216-1224.
 44. Shima M, Suzuki N, Nishikii H, Amano K, Ogawa Y, Kobayashi R, Ozaki R, Yoneyama K, Mizuno N, Sakaida E, Saito M, Okamura T, Ito T, Hattori N, Higasa S, Seki Y, Nogami K. Final Analysis Results from the AGEHA Study: Emicizumab Prophylaxis for Acquired Hemophilia A with or without Immunosuppressive Therapy. *Thromb Haemost*. 2024 Sep 12. doi: 10.1055/a-2384-3585.
 45. Seki Y, Ogawa Y, Kikuchi T, Sakaida E, Mizuta Y, Kitagawa T, Takemura K, Miyaguchi Y, Nogami K, Matsushita T. Efficacy and safety of recombinant porcine factor VIII in Japanese patients with acquired hemophilia A. *Int J Hematol*. 2024 Oct;120(4):482-491.
 46. Kawamura S, Tamaki M, Konuma T, Onizuka M, Sakaida E, Hayashi H, Doki N, Nishida T, Sawa M, Ohigashi H, Fukuda T, Ishikawa J, Matsuoka KI, Kawakita T, Tanaka M, Ishimaru F, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda Y, Yakushijin K, Kanda J, Nakasone H. Superiority of BM over PBSC for recipients with pre-transplant lung dysfunction in HLA-matched allogeneic HCT. *Cytotherapy*. 2024 Nov;26(11):1353-1361.
 47. Fujioka M, Itonaga H, Nakazawa H, Nishida T, Kataoka K, Ikeda T, Kako S, Matsuoka KI, Adachi K, Fujiwara SI, Aotsuka N, Kawakita T, Sakaida E, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Miyazaki Y, Ishiyama K. Superior Survival After Unrelated Allogeneic Stem Cell Transplantation With Low-Dose ATG Compared to Low-Dose TBI in Myeloablative Fludarabine/Busulfan-Based Regimen for MDS on Behalf of the Adult MDS Working Group of the JSTCT. *Transplant Cell Ther*. 2024 Oct 6;S2666-6367(24)00693-6.
 48. Shimizu H, Kato J, Tanoue S, Kimura SI, Tachibana T, Hatano K, Usuki K, Taguchi J, Hagihara M, Tsukada N, Harada K, Takahashi S, Takada S, Sakaida E, Fujisawa S, Onoda M, Aotsuka N, Handa H, Hatta Y, Nakaseko R, Yano S, Ohashi K, Kanda Y; Kanto Study Group for Cell Therapy (KSGCT). Allogeneic stem cell transplant with TBI-based myeloablative conditioning in adolescents and young adults with Philadelphia chromosome-negative ALL treated with pediatric protocols. *Leuk Res*. 2024 Sep;144:107562.
 49. Shimomura Y, Komukai S, Kitamura T, Tachibana T, Kurosawa S, Itonaga H, Tsukamoto S, Doki N, Katayama Y, Ito A, Sawa M, Ueda Y, Nakamae H, Nawa Y, Tanaka M, Arai Y, Ota S, Kataoka K, Nishida T, Kanda J, Fukuda T, Atsuta Y, Ishiyama K. The prognosis and risk factors for patients with complex karyotype myelodysplastic syndrome undergoing allogeneic haematopoietic stem cell transplantation. *Br J Haematol*. 2024 Feb;204(2):612-622.
 50. Wakabayashi H, Hattori N, Uzawa A, Ito M, Hasegawa H, Mimura N, Empitu M, Aizawa M, Kuwabara S, Asanuma K, Oda S. Tryptophan-immunoabsorption plasmapheresis regulates polymorphonuclear-myeloid-derived suppressor cells and pro-inflammatory cytokines. *Ther Apher Dial*. 2024;1744-9987.14228.
 51. Jo T, Yoshihara K, Ri M, Tsukada N, Mimura N, Fujii K, Fukushima K, Fujiwara S, Shimura Y, Haraguchi K, Kato K, Satake A, Yoshida A, Suzuki R, Ikemoto J, Iwaki K, Takeda W, Yonetani N, Tanosaki R, Yamada-Fujiwara M, Kahata K, Nagamura-Inoue T, Yoshihara S, Arai Y. Low platelet counts and low CD4/CD8 ratios at apheresis increase the risk of CAR-T cell manufacturing failure in myeloma. *Blood neoplasia*.

100051. 2024.Oct 24, j.bneo.

52. Arai H, Hoshino N, Chi S, Fukushima K, Ikeda D, Iyama S, Ikezoe T, Yoshida G, Kanda J, Takahashi N, Sakaida E, Usuki K, Yamauchi T, Minami Y. A practice-oriented genome-profiling study for acute myeloid leukemia using the novel HANDLE system: HM-screen-JAPAN02. Int J Hematol. 2024;sl2185-024-03895-w.
53. Hayakawa F, Mori N, Imai K, Yokoyama Y, Saito T, Maruyama T, Yamazaki E, sato S, Atsuta Y, Ishikawa Y, Sakaida E, Hatta Y, Matsumura I, Miyazaki Y, Kiyoi H. Japan Adult leukemia Study Group (JALSG). Nelarabine-combined chemotherapy improves outcome of T-cell acute lymphoblastic leukemia but shows more severe neurotoxicity: JALSG T-ALL213-O. Cancr Sci. 2024; cas.16405.
54. Ono R, Iwahana T, Aoki K, Kato H, Tsytui Y, Takaishi K, Takeda Y, Sakaida E, Kobayashi Y. SARS-CoV-2 infection-induced immune thrombocytopenia in a patient with orthotopic heart transplantation: A case report and literature review. J Cardiol Cases. 2024 Aug 22;30(6): 181-184.

【雑誌論文・和文】

1. 横手幸太郎, 齋木厚人. 対談: 肥満症診療のこれから. アニムス 2024;117, 3-12.
2. 横手幸太郎. 脂質異常症の薬はのみ続けなくてはならないの? NHK テキスト: きょうの健康 2024; 1, 107.
3. 横手幸太郎. 巻頭言: 医師の働き方改革の現状と展望. 特集: 医師の働き方改革 2024. 日本医師会雑誌 2024;152(11) 1213.
4. 横手幸太郎, 橋本岳, 田中栄, 原倫代. 座談会: 医師の働き方改革-日本の医療を持続可能なものとするために. 特集: 医師の働き方改革 2024. 日本医師会雑誌 2024;152(11) 1213.
5. 横手幸太郎, 佐久間一基. 脂質異常症治療薬. Pocket Drugs 2024. 455-466.
6. 横手幸太郎. 代謝疾患: 最近の動向. 今日の治療指針: わたしはこう治療している 2024, 712-714.
7. 横手幸太郎. 肥満症 新たな治療薬が登場: 注意すべき点は? NHK テキスト: きょうの健康 2024; 4, 60-63.
8. 横手幸太郎. 巻頭言: 企画にあたって. 特集: 肥満症 2024 - 診断・治療薬の最新動向 -. 日本臨床. 2024;82(10) 1502-1503.
9. 野牛勇佑, 北本匠, 前澤善朗, 横手幸太郎. 肥満症治療の最前線~最新の研究成果とこれからの展望. Diabetes Journal. 2024;51(3) 93-99.
10. 前澤善朗, 横手幸太郎. 1. 糖尿病・内分泌コモンディーズ脂質異常症. 外来診療のための糖尿病・内分泌疾患ベストプラクティス. 診断と治療薬社. 2024, 63-75.
11. 佐藤哲太, 金子ひより, 前澤善朗, 横手幸太郎. 大血管に対する糖尿病治療のエビデンス. メディカルビューポイント (MVP) Vol.45 No.11. 2024. 3-4.
12. 加藤尚也, 船山真一郎, 前澤善朗, 横手幸太郎. 早老症を介した抗老化・若返り研究. 老化モデルがジェロサイエンスの未来を切り拓く. 実験医学 増刊 細胞老化-真の機能を深く理解する. 羊土社. 2024, 42(20) 185-190.
13. 佐久間一基, 横手幸太郎. 脂質異常症治療薬. Pocket Drugs 2025. 医学書院. 2024;460-462
14. 小野啓, 横手幸太郎. 肥満症治療の最前線: 薬物療法. BioClinica. 2024;39(8):16-20
15. 小野啓, 横手幸太郎. 肥満症とやせの問題: 肥満症を取り巻く諸問題と社会への啓発. Medical Practice. 2024;41(12):1794-1801
16. 小野啓, 横手幸太郎. 注目の新薬 ウゴービ® (セマグルチド). 診断と治療. 2024;112(8):1045-1048
17. 小野啓, 横手幸太郎. 肥満症治療の新たな展開. 日本医師会雑誌. 2024;153(3):302-303
18. 松本淳子, 平野好幸, 小野啓. 肥満症に対する遠隔マインドフルネス介入の効果と実現性. 日本心療内科学会誌 2024;28:101-107
19. 鈴木佐和子. ステロイドと糖尿病. 月刊糖尿病ライフさかえ 2024;64(4):33-38
20. 黒田正幸, 斯波真理子. LCAT 欠損症. 希少疾病ライブラリ (企画・制作ケアネット) 公開 2024/09/12
21. 瀬尾幸子, 河田英里, 入内島裕乃, 平尾磨樹, 吉原享子, 上田真寿, 半田寛, 中世古知昭, 伊藤薫樹, 飯田真介, 安倍正博, 堺田恵美子. ダイバーシティ推進委員会 2023 年度アンケート結果報告. 日本骨髄腫学会誌. 2024;14(6)47-52.
22. 塩入勇翔, 塚本祥吉, 堺田恵美子. TAFRO 症候群の診断と治療. EBM 血液疾患の治療 2025-2026 (中外医学社) 2024.
23. 三村尚也. 1. POEMS 症候群 (Crow-Fukase 症候群, 高月病). 多発性骨髄腫の診療指針 2024 (第6版) V 類縁疾患. 日本骨髄腫学会編 2024 年 9 月, 96-99
24. 堺田恵美子. 多発性骨髄腫の診療指針 2024 (第6版) VI 患者に対する情報提供および支援活動 日本骨髄腫学会編 2024 年 9 月
25. 堺田恵美子. 血液専門医のための模擬テスト 54. 血液内科. 89(2):1-2, 2024
26. 堺田恵美子. 血液専門医のための模擬テスト 54 解答と解説. 血液内科. 89(3):1-5, 2024

27. 堺田恵美子. 総論 5. POEMS 症候群の病態・診断・治療 臨床検査 2024 年 7 月号 (第 68 巻 7 号) 今月の特集: 骨髄腫と類縁疾患の検査額. 2024;68(7) 828-834.
28. 小川千登世, 石原卓, 今井千速, 岡本康裕, 加藤元博, 康勝好, 後藤裕明, 堺田恵美子, 佐藤篤, 下之段秀美, 関水匡大, 豊田秀実, 早川文彦, 矢野未央, 山崎悦子, 真部淳. Consensus expert recommendations: 本邦の実臨床での急性リンパ性白血病/リンパ芽球性リンパ腫 (ALL/LBL) 治療におけるアスパラギナーゼ製剤の最適使用の検討. 月刊血液内科. 2024 年 4 月. 88(4):445-454.

【単行書】

1. 黒田正幸, 斯波真理子. LCAT 欠損症. 希少疾病ライブラリ (企画・制作ケアネット) 公開 2024/09/12
2. 横手幸太郎 (監修) 最新改訂版 千葉大学医学部附属病院が教えるコレステロール・中性脂肪対策レシピ 320, 学研, 東京, 2024.
3. 堺田恵美子, 松村到 監修. インフォームドコンセントサポートライブラリー③ 目で見える (図解) 慢性骨髄性白血病 カウンセリング・ブック (2024 年 1 月改訂版)
4. 真子千華, 堺田恵美子. 日本がん治療認定医機構. 教育セミナーテキスト. 第 II 部「白血病」第 18 版.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. 横手幸太郎 First Meeting of the Anglo-Japanese Global Partnership Award Group において招待講演
2. 横手幸太郎 2024 EURAXESS Japan INNOVATION DAY: Funded EU-Japan Collaboration in Health にてシンポジウム
3. 横手幸太郎 第 24 回動脈硬化教育フォーラムにて教育講演
4. 横手幸太郎 第 37 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会にてイブニングセミナー
5. 横手幸太郎 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会にて学会教育講演
6. 横手幸太郎 第 97 回日本整形外科学会学術総会. シンポジウム 9 にてシンポジスト参加
7. 横手幸太郎 第 37 回日本臨床内科医学会にてランチョンセミナー
8. 横手幸太郎 第 29 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会. ランチョンセミナー 5.
9. 横手幸太郎 第 45 回日本肥満学会・第 42 回日本肥満症治療学会学術集会にて JASSO 教育講演
10. 小野啓 第 76 回日本産婦人科学会にてイブニングセミナー
11. 越坂理也. 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会にてシンポジウム
12. 越坂理也 第 39 回日本糖尿病合併症学会にてイブ

ニングセミナー

13. 前澤善朗 第 66 回日本老年医学会学術集会にてシンポジウム
14. 前澤善朗 第 39 回日本糖尿病合併症学会にてシンポジウム
16. 堺田恵美子 第 49 回日本骨髄腫学会学術集会にて教育セミナー
17. 三村尚也 第 86 回日本血液学会学術集会にてシンポジウム
18. 堺田恵美子 第 66 回日本血液・がん学会学術集会・第 22 回日本小児がん看護学会学術集会・第 29 回がんの子供を守る会公開シンポジウムにてランチョンセミナー

【学会発表数】

国内学会 33 学会 97 回 (うち大学院生 16 回)
国際学会 8 学会 14 回 (うち大学院生 2 回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「POEMS 症候群における微小クロン同定による診断治療戦略の確立」代表者: 堺田恵美子 2022-2024
2. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「成熟 B 細胞腫瘍モデルマウスによる腫瘍免疫逃避機構の解明と新規治療開発」代表者: 三村尚也 2022-2024
3. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「形質細胞シングルセル RNA シークエンスによる AL アミロイドーシス網羅的遺伝子解析」代表者: 竹田勇輔 2022-2024
4. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「POEMS 症候群形質細胞による巨核球・血小板の教育機構の解明」代表者: 塚本祥吉 2024-2026
5. 文部科学省科学研究費若手研究「慢性好中球性白血病の病態形成メカニズム解明と新規治療標的分子の探索」代表者: 大島渚 2024-2025
6. 文部科学省科学研究費若手研究「POEMS 症候群における新規マルチパラメーターフローサイトメトリー法の開発と臨床応用」代表者: 石井改 2024-2025
7. 日本医療研究開発機構 AMED「小児から成人を対象にする臨床試験による T 細胞性急性リンパ性白血病の小児型治療適用限界年齢の検討と新規バイオマーカー探索に関する研究」代表者: 堺田恵美子 2023-2025
8. 日本医療研究開発機構 AMED「PDX 治療モデルと継続的臨床検体の統合的マルチオミックス解析に基づく急性骨髄性白血病の分子層別化と難治性クロンの克服に向けた治療戦略の構築に関する研究」分担者: 堺田恵美子 2023-2025
9. 日本医療研究開発機構 AMED「経済安全保障重要技術育成プログラム / 有事に備えた止血製造技術の開発・実証 / 汎用性の高い人口血小板の開発」代表者: 堺田恵美子 2024-2026
10. 文部科学省科学研究費 がんプロ「次世代のがんブ

- ロフェッショナル養成プラン」代表者：堺田恵美子 2024-2028
11. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「グルタミン代謝の急性腎障害および腎臓を起点とする臓器連関における役割解明」代表者：鈴木佐和子 2022-2024
 12. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「一細胞レベルで肝細胞の局在と機能の関係を明らかにし、肝糖代謝に新知見を加える」代表者：藤本真徳 2022-2024
 13. 文部科学省科学研究費 国際共同加速(A)「G6pc-high 肝細胞と Slc25a44 の代謝における役割を空間的遺伝子解析から明らかにする」代表者：藤本真徳 2023-2025
 14. 文部科学省科学研究費 国際共同加速(A)「ヒト老化モデルを介した新規抗老化・若返り機序の探索を行う研究」代表者：加藤尚也 2023-2025
 15. 文部科学省科学研究費 若手研究「ウェルナー症候群を通した臓器別の epigenetic な老化機構の解明」代表者：正司真弓 2023-2024
 16. 文部科学省科学研究費 若手研究「性差に着目した慢性腎臓病新規治療標的の同定」代表者：井出真太郎 2023-2024
 17. 文部科学省科学研究費 若手研究「高齢者の脂肪蓄積による寿命延長効果における転写因子 Tcf21 の機能解明」代表者：南塚拓也 2023-2024
 18. 文部科学省科学研究費 若手研究「病原性 Th2 細胞の分化メカニズム解明によるアレルギー性疾患の新規治療法開発」代表者：熊谷仁 2023-2024
 19. 文部科学省科学研究費 研究スタート支援「腎間質細胞における転写因子 Tcf21 の機能解析を通じた腎線維化の病態解明」代表者：井出佳奈 2023-2024
 20. 文部科学省科学研究費 基盤(A)「早老症の多角的解析に基づく老化と疾患の病態解明」代表者：横手幸太郎 2023-2025
 21. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「高齢糖尿病腎症におけるポドサイト老化とその制御転写因子の役割」代表者：前澤善朗 2024-2026
 22. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「肝・脂肪連関における肝 FoxO1/PPAR α による糖代謝特異的制御機構の解明と臨床応用」代表者：北本匠 2024-2026
 23. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「ヒト老化モデルにおけるミトコンドリア代謝異常の老化促進効果」代表者：加藤尚也 2024-2026
 24. 文部科学省科学研究費 若手研究「加齢による尿管障害における性差の機序解明」代表者：井出佳奈 2024-2025
 25. 文部科学省科学研究費 若手研究「糖尿病性腎臓病のポドサイトにおける転写因子 Tcf21 の機能解析」代表者：寺本直弥 2024-2025
 26. 厚生労働省科学研究費 難治性疾患政策研究事業「早老症の医療水準向上と予後改善を目指す集学的研究」代表者：前澤善朗 2024-2026
 27. 厚生労働省科学研究費 難治性疾患政策研究事業「早老症の医療水準向上と予後改善を目指す集学的研究」分担者：横手幸太郎 2024-2026
 28. 厚生労働省科学研究費 難治性疾患政策研究事業「早老症の医療水準向上と予後改善を目指す集学的研究」分担者：加藤尚也 2024-2026
 29. 厚生労働省科学研究費 難治性疾患政策研究事業「原発性脂質異常症に関する調査研究」分担者：前澤善朗 2024-2026
 30. 厚生労働省科学研究費 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「健診受診後の実態調査に準拠した健診受診後の早期介入のための研究」分担者：横手幸太郎 2024-2026
 31. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「治療タンパク質の過剰発現による細胞ストレスを回避した遺伝子治療用脂肪細胞の開発」代表者：黒田正幸 2023-2025
 32. 日本医療研究開発機構(AMED)「血液凝固第Ⅷ因子遺伝子導入前脂肪細胞 (FⅧ -GMAC) を用いた血友病 A 治療の治験に向けた非臨床試験」分担者：黒田正幸 2024
 33. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「皮下脂肪組織由来細胞のシングルセル解析と計算生物学に基づく革新的脂肪移植の開発」分担者：黒田正幸 2022-2024
 34. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「肝・脂肪連関における肝 FoxO1/PPAR α による糖代謝特異的制御機構の解明と臨床応用」分担者：黒田正幸 2024-2026
 35. 日本医療研究開発機構(AMED)「早老症ウェルナー症候群レジストリに基づく長期経年データ蓄積によるエビデンスの創生および診療への発展」代表者：横手幸太郎 2023-2025
 36. 日本医療研究開発機構(AMED)「早老症ウェルナー症候群の革新的治療開発」代表者：横手幸太郎 2024-2026
 37. 日本医療研究開発機構(AMED)「大規模疾患コホート・アカデミア連携を基盤とするオミックス解析・サーベイランス体制の設備による新興感染症重症化リスク因子の探索」分担者：横手幸太郎 2022-2026
 38. 日本医療研究開発機構(AMED)「生活習慣病予防のための行動変容継続を実現するための指標に関する研究」分担者：横手幸太郎 2022-2024
 39. 日本医療研究開発機構(AMED)「健康長寿の促進に向けた新規老化関連因子の探索と老化予測システムの開発」代表者：横手幸太郎 2021-2024
 40. 日本医療研究開発機構(AMED)「両親より受け継ぐ遺伝形質の性差解明に向けての多層オミックス解析

と肥満体質・糖尿病リスク予測への応用」分担者：
北本匠 2024-2029

41. 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター「フレイル高齢者のレジストリ研究及びロコモ、サルコペニアを含めた病態解明及び予防介入法の確立を目指した臨床ならびに関連研究」分担者：前澤善朗
2020-2026

【受賞歴】

1. 桐戸敬介 日本血液学会関東甲信越地方会奨励賞
2. 塚本祥吉 第121回日本内科学会講演会、ことはじ

め2024において指導教官賞

3. 類家裕太郎 第97回日本内分泌学会学術総会において若手研究奨励賞（YIA）
4. 中世古知昭, 大和田千桂子, 柴宮明日香, 田中茜, 渡部玲子, 塚本祥吉, 堺田恵美子 国際医療福祉大学学会学術大会において優秀演題賞
5. 上紗央理 第51回内分泌代謝研究会において演題特別賞
6. 加藤尚也 SPC (Science Pioneers Consortium) 2024において若手研究大正奨励賞（YITA）

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

【血液内科】

2024年度の外来受診者の総数は10,713人（内新患589人）であり、いずれも高い水準が維持されていた。月曜から金曜まで2～3人の医師が外来診療にあたっており、他科入院患者の新患は病棟医と連携し診療にあたっている。通院治療室での通院化学療法も積極的に行っている。また、輸血・細胞療法部とともに造血細胞移植センターが運営されており、輸血・細胞療法部医師および造血細胞移植コーディネーター（HCTC）によるドナー外来、造血細胞移植認定医および日本造血・免疫細胞療法学会主催の研修を修了した看護師によるLong-term follow up（LTFU）外来を行っている。他院からの造血幹細胞移植相談のための造血細胞移植センターへの受診や臨床試験のための血液内科への受診も年々増加傾向である。また、2021年6月には千葉県初のCAR-T細胞療法提供可能施設として認定され、県内外の施設から当院でのCAR-T細胞療法を希望する難治性造血器腫瘍患者の紹介が増加している。

固有病床数は26床であり、このうち無菌治療室管理加算1を算定可能な病床が6床、無菌治療室管理加算2を算定可能な病床が20床となっており、高度免疫抑制状態の症例を管理することが可能である。入院、移植患者数も高い水準を維持しており、2024年度累計入院稼働率は119.5%であった。入院患者総数は465名で、その内訳は急性白血病87名、骨髄異形成症候群9名、悪性リンパ腫163名、多発性骨髄腫ほか類縁疾患78名、再生不良性貧血1名、造血細胞移植ドナー18名、その他109名であった。造血幹細胞移植は同種、自家を合わせて年間40例施行しており、臨床試験・治験への参加も積極的に行っている。また、2021年よりがん免疫療法であるCAR-T細胞療法を開始しており、2024年度は14例の治療を行った。

【代謝内科】

2024年、外来受診総数は22871人、うち新患患者は約1200人が受診し、その内訳は2型糖尿病、1型糖尿病、妊娠糖尿、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺・骨代謝疾患、副腎疾患、肥満症、その他の代謝疾患症となっている。また術前血糖管理など他科から血糖管理に関する依頼を400件以上受け管理を行った。

固定病床数は14床であり、2024年度の累計入院稼働率は101.5%であった。のべ509人の患者が入院し、その内訳は内分泌272人（うち副腎症例160例、下垂体症例64例、甲状腺疾患11例、副甲状腺・骨代謝疾患9例、その他28例）、糖尿病198人（1型29人、2型141人、その他28人）、肥満症20人、その他19人であった。

●地域貢献

千葉県における糖尿病診療の向上を目的として組織されている千葉県糖尿病対策推進会議において前澤善朗准教授が理事として参加し貢献している。

千葉県における糖尿病性腎症の発症予防および進展阻止を目的として組織されている千葉県糖尿病性腎症予防対策推進検討会において、前澤善朗准教授がオブザーバーとして参加し貢献している。

千葉県における糖尿病療養指導にあたるスタッフの研修勉強会である千葉糖尿病教育スタッフ研究会において、前澤善朗准教授、北本匠助教、熊谷仁助教が世話人として参加し、講演などの役割を受け、貢献している。

千葉県における1型糖尿病患者と家族の治療に関連した知識の共有、QOLの向上、精神的な安心の向上を目指し組織されているいのちの友の会に熊谷仁助教が主要な運営代表として参加し貢献している。

鈴木佐和子講師は、千葉県がん対策審議会子ども・AYA世代部会委員、成人成長ホルモン分泌不全症地区委員として千葉県域に貢献している。2024年11月に認定NPO法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ第10回公開講座「小児がんを克服した後の晩期合併症」～知ってほしい内分泌異常～の市民公開講座の講師として登壇した。

研究領域等名：	小 児 病 態 学
診療科等名：	小児科／周産母子センター

●はじめに

小児科は、一般診療に加えて多様な専門性を有する医師による先端的かつ高度な診療を行うとともに、複数疾患を有する患者に多領域専門医がかかわる全人的診療を展開している。全県対応小児中核病院として救急科・集中治療部、小児外科などの他科と協力して、全県から重症・難治性疾患の受け入れを行っている。千葉県における総合周産期母子医療センターとして産婦人科と共同してハイリスク妊娠・分娩を担い、日中・夜間を問わず、新生児に対する院内での処置、入院管理、必要に応じた県内外施設への搬送を行っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部学生教育として、スカラーシップ、成長発達ユニット講義、チュートリアル、クリニカルクラークシップ、アスパイアプロジェクトを担当した。クリニカルクラークシップに関しては県内小児科施設・実地医家の協力のもと、プライマリケアも含めた大学病院外で小児科診療の多様な場面を学生に体験してもらっている。実習ではクリニカルスキルズセンターの協力を得てシュミレータを用いた実習を多く取り入れている。医療安全教育、医療サマリーの作成について教育の機会を設け、充実したプログラムに update している。

・卒後教育／生涯教育

千葉大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラムとして、2024 年に 39 名の初期研修医の教育を担当した。生涯医学教育（研修登録医）プログラムとして小児科は「臨床法医学での損傷評価、被虐待児診察」など 7 プログラムを用意している。

・大学院教育

大学院教育として、医学研究院修士課程、博士課程の講義・演習を担当した。2024 年度の小児病態学大学院（博士課程）在籍者は 11 名である。この中で 1 名が博士号を取得した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

西千葉において普遍教育科目「こどもと医療」の講義を行った。また看護学部大学院修士課程における小児科領域の講義・演習を担当した。薬学部では「疾病学Ⅰ、Ⅱ」で小児科講義を行った。看護学部小児看護学科が担当する、小児専門看護師養成課程の実習を担当した。

●研 究

・研究内容

- ①小児アレルギーの診断と治療に関する研究。ビタミン D による乳児アレルギー疾患の予防を目的とした前向き介入研究。自治体と共同した乳児アレルギー疾患予防のコホート研究。
- ②小児の健康／疾患脳の網羅的形態解析研究。Rett 症候群の研究。
- ③川崎病の病態と治療の研究。特定臨床研究“FORKiDs trial”（AMED 難治性疾患実用化研究事業）。
- ④小児血液疾患、小児がんに関する研究
- ⑤RS ウイルス感染症、ワクチンに関する研究
- ⑥小児内分泌疾患、糖尿病に関する研究
- ⑦新生児と酸化ストレスに関する研究
- ⑧先天性免疫異常症のスクリーニングと診断・治療に関する研究

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Aoki T, Shiba N, Tsujimoto S, et al. High IL2RA/CD25 expression is a prognostic stem cell biomarker for pediatric acute myeloid leukemia without a core-binding factor Pediatric Blood & Cancer 2024; 71: e30803.
2. Aoyama R, Nakagawa S, Ichikawa Y, Inohara N, Yamazaki Y, Ito T, Sugihira T, Kono M, Akiyama M, Takahashi H, Takaya A, Ichikawa F, Nakano T, Tanaka S, Koyano Y, Fujimoto M, Núñez G, Shimojo N, Nakamura Y. Neonatal skin dysbiosis to infantile atopic dermatitis: Mitigating effects of skin care Allergy 2024 Jan; 79: 1618-22.
3. Fujii Y, Tsugawa T, Fukuda Y, Adachi S, Honjo S, Akane Y, Kondo K, Sakai Y, Tanaka T, Sato T, Higashidate Y, Kubo N, Mori T, Kato S, Hamada R,

- Kikuchi M, Tahara Y, Nagai K, Ohara T, Yoshida M, Nakata S, Noguchi A, Kikuchi W, Hamada H, Tokutake-Hirose S, Fujimori M, Muramatsu M. Molecular evolutionary analysis of novel NSP4 mono-reassortant GIP[8]-E2 rotavirus strains that caused a discontinuous epidemic in Japan in 2015 and 2018 *Front Microbiol* 2024 Jul; 15: 1430557.
4. Hagiwara S, Shiohama T, Takahashi S, Ishikawa M, Kawashima Y, Sato H, Sawada D, Uchida T, Uchikawa H, Kobayashi H, Shiota M, Nabatame S, Tsujimura K, Hamada H, Suzuki K. Comprehensive High-Depth Proteomic Analysis of Plasma Extracellular Vesicles Containing Preparations in Rett Syndrome *Biomedicines* 2024 Sep; 12(10): 2172.
 5. Hayashi H, Iwasaki M, Nakasone H, Tanoshima R, Shimabukuro M, Takeda W, Nishida T, Kako S, Fujiwara SI, Katayama Y, Sawa M, Serizawa K, Matsuoka KI, Uchida N, Ikeda T, Ohigashi H, Fukushima K, Hino M, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Kanda J. Impact of stem cell selection between bone marrow and peripheral blood stem cells for unrelated hematopoietic stem cell transplantation for hematologic malignancies: on behalf of the Donor/Source Working Group of the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy. *Cytotherapy* 2024 Feb; 26: 178-84.
 6. Inoue Y, Sakai R, Inoue E, Mitsunaga K, Shimizu M, Sugihara T, Matsushita M, Yamaji K, Mori M, Shimojo N, Miyamae T Nationwide epidemiological survey of juvenile idiopathic arthritis during transition to young adulthood in Japan using the National Database of Designated Incurable Diseases of Japan *Modern Rheumatology* 2024 Aug; roae076.
 7. Ishida H, Kawahara Y, Tomizawa D, Okamoto Y, Hama A, Cho Y, Koh K, Koga Y, Yoshida N, Sato M, Terui K, Miyagawa N, Watanabe A, Takita J, Kobayashi R, Yamamoto M, Watanabe K, Okada K, Kato K, Matsumoto K, Hino M, Tabuchi K, Sakaguchi H. A higher CD34 + cell dose correlates with better event-free survival after KIR-ligand mismatched cord blood transplantation for childhood acute myeloid leukemia. *J Hematol Oncol* 2024 Apr; 29: 17.
 8. Ishida H, Tsujimoto SI, Hasegawa D, Sakaguchi H, Yamamoto S, Yanagimachi M, Koh K, Watanabe A, Hama A, Cho Y, Watanabe K, Noguchi M, Takeuchi M, Takita J, Washio K, Kato K, Koike T, Hashii Y, Tabuchi K, Hino M, Atsuta Y, Okamoto Y. Optimizing transplantation procedures through identification of prognostic factors in second remission for children with acute myeloid leukemia with no prior history of transplant. *Haematologica* 2024 Jan; 109: 312-7.
 9. Ishiwada N, Akaishi R, Kobayashi Y, Togo K, Yonemoto N, Matsuo M, Kaneko S, Law AW, Kamei K Cost-Effectiveness Analysis of Maternal Respiratory Syncytial Virus Vaccine in Protecting Infants from RSV Infection in Japan. *Infect Dis Ther.* 2024 Jul; 13: 1665-82.
 10. Kilic A, Halu A, De Marzio M, Maiorino E, Duvall MG, Bruggemann TR, Rojas Quintero JJ, Chase R, Mirzakhani H, Sungur AÖ, Koepke J, Nakano T, Peh HY, Krishnamoorthy N, Abdunour RE, Georgopoulos K, Litonjua AA, Demay M, Renz H, Levy BD, Weiss ST. Vitamin D constrains inflammation by modulating the expression of key genes on Chr17q12-21.1 *Elife* 2024 Apr; 12: RP89270.
 11. Komiya K, Kudoh R, Kaku N, Shindo Y, Hayashi T, Kasahara K, Oishi T, Ishiwada N, Ito M, Yotsuyanagi H, Hasegawa N, Tateda K, Hotomi M, Yanagihara K. Impact of Educational Films on Antibiotic Prescription among Physicians: A Web-Based Survey in Japan. *Antibiotics (Basel)* 2024 Aug; 13: 724.
 12. Lee SY, Nakano T, Shimojo N, Yamamoto-Hanada K, Fukuie T, Ohya Y, Tham EH, Van Bever H, Shek LP, Lee BW, Leung TF, Leung ASY, Wong GWK, Huang JL, Yeh KW, Fikri B, Suratannon N, Chatchatee P, Peters R, Hong SJ; A2BC network. Asian birth cohort studies on allergic diseases: The A2BC network initiative *Pediatr Allergy Immunol* 2024 Nov; 35(11): e14280.
 13. Levman J, McCann B, Baumer N, Lam MY, Shiohama T, et al. Structural Magnetic Resonance Imaging-Based Surface Morphometry Analysis of Pediatric Down Syndrome *Biology (Basel)* 2024; 13: 575.
 14. Matsubara D, Matsubara Y, Ayusawa M, Hamada H, Seki M, Yamagishi H, Mitani Y, Onouchi Y, Moriuchi H, Miyairi I, Tanaka-Taya K, Katsuta T, Kurosawa H, Aoki K, Shimizu N, Nakamura Y. Nationwide Survey of Multisystem Inflammatory Syndrome in Children Associated with Coronavirus Disease 2019 in Japan *J Clin Immunol* 2024 Nov; 45 (1): 51.
 15. Mori M, Yoshii S, Noguchi M, Takagi D, Shimizu T, Ito H, Matsuo-Takasaki M, Nakamura Y, Takahashi

- S, Hamada H, Ohnuma K, Shiohama T, Hayashi Y. Generation of human induced pluripotent stem cell lines derived from four Rett syndrome patients with MECP2 mutations *Stem Cell Res* 2024 Jun; 77: 103432.
16. Nagasawa K, Ohata M, Igarashi A, Arashiro T, Ogawa T, Ohkusu M, Takeuchi N, Shizuno K, Kurihara E, Yoshida M, Kodama T, Abe K, Hoshino T, Arie J, Takeshita K, Hishiki H, Ota S, Takahashi Y, Omata Y, Nakazawa T, Someya T, Ishiwada N. Prospective hospital-based cohort studies of Respiratory Syncytial Virus (RSV) infections in infants under one year during and after the SARS-CoV-2 pandemic in Japan. *International Journal of Infectious Diseases* 2024 Dec; 149: 107252.
17. Nakamura H, Kikuchi A, Sakai H, Kamimura M, Watanabe Y, Onuma R, Takayama J, Tamiya G, Mashimo Y, Ebata R, Hamada H, Suenaga T, Onouchi Y, Kumaki S. Case Report: Identification of a CARD8 variant in all three patients with PFAPA syndrome complicated with Kawasaki disease *Front Pediatr* 2024 Mar; 12: 1340263.
18. Nakano T, Sekino Y, Yamamoto T, Sato H, Sato N, Yamaide F, Kageshima H, Inoue Y, Hamada H, Shimojo N. Low allergenicity and immunotherapeutic efficacy of peanut-galactomannan conjugate in a mouse model of peanut allergy *Pediatr Allergy Immunol* 2024 Jul; 35(7): e14191.
19. Nemoto K, Hamada H, Anbe M, Katsura H, Yoshida K, Nakazawa T, Takanashi JI. 2-Year-old Girl With Fever and Multiple Nodular Shadows on Chest Radiograph *Pediatr Infect Dis J* 2024 Sep; 43(9): 916-8.
20. Okunushi K, Kobayashi H, Yoh Y, Kunimatsu M, Shiohama T, Takatani T, Hamada H. A case report of a child with pulmonary hypertension associated with SARS-CoV-2 infection *Front Pediatr* 2024 Feb; 2: 1336589.
21. Sasaki M, Okanishi T, Matsuoka T, Yoshimura A, Maruyama S, Shiohama T, et al. Infantile Epileptic Spasms Syndrome Complicated by Leigh Syndrome and Leigh-Like Syndrome: A Retrospective, Nationwide, Multicenter Case Series *Pediatr Neurol* 2024; 157: 29-38.
22. Sawada D, Fujii K, Shiohama T, Saito C, Yoshii S, Hamada H, Koga Y. Drastic fall of growth differentiation factor 15 in influenza encephalopathy *Pediatr Int* 2024 Jan-Dec; 66(1): e15768.
23. Shibata R, Nakanishi Y, Suda W, Nakano T, Sato N, Inaba Y, Kawasaki Y, Hattori M, Shimojo N, Ohno H. Neonatal gut microbiota and risk of developing food sensitization and allergy *J Allergy Clin Immuno* 2024 Dec; S0091-6749(24): 01173-4.
24. Shiohama T, Uchikawa H, Nitta N, Takatani T, Matsuda S, Ortug A, Takahashi E, Sawada D, Shimizu E, Fujii K, Aoki I, Hamada H. Brain morphological analysis in mice with hyperactivation of the hedgehog signaling pathway *Front Neurosci* 2024 Sep; 18: 1449673.
25. Nakano T, Sekino Y, Yamamoto T, et.al. Low allergenicity and immunotherapeutic efficacy of peanut-galactomannan conjugate in a mouse model of peanut allergy *Pediatric Allergy and Immunology* 2024 July; 35: e14191.
26. Takami M, Aoki T, Nishimura K et al. Anti-V α 24J α 18 TCR Antibody Tunes iNKT Cell Responses to Target and Kill CD1d-negative Tumors in an Fc γ RII (CD32)-dependent Manner *Cancer Research Communications* 2024 Apr: 446-59.
27. Takatani T, Shiohama T, Takatani R, Hattori S, Yokota H, Hamada H. Brain morphometric changes in children born as small for gestational age without catch up growth *Front Neurosci* 2024 Aug; 18: 1441563.
28. Takatani T, Takatani R, Eguchi A, et al. Association between maternal blood or cord blood metal concentrations and catch-up growth in children born small for gestational age: an analysis by the Japan environment and children's study *Environ Health* 2024; 23: 18.
29. Takeshita K, Hishiki H, Takei H, Ikari N, Tanaka S, Iijima Y, Ogata H, Fujishiro K, Tominaga T, Konno Y, Iwase Y, Nakano T, Endo M, Ishiwada N, Osone Y, Kawaguchi T, Horiba T, Takemura R, Hamada H, Shimojo N. The Effectiveness of Heat-Killed *Pediococcus acidilactici* K15 in Preventing Respiratory Tract Infections in Preterm Infants: A Pilot Double-Blind, Randomized, Placebo-Controlled Study *Nutrients* 2024 Oct; 16(21): 3635.
30. Takeshita K, Takei H, Tanaka S, Hishiki H, Iijima Y, Ogata H, Fujishiro K, Tominaga T, Konno Y, Iwase Y, Endo M, Ishiwada N, Osone Y, Takemura R, Hamada H, Shimojo N. Effect of multi-strain bifidobacteria supplementation on intestinal microbiota development in low birth weight neonates: a randomized controlled trial *Biosci Microbiota Food Health* 2024; 43(4): 352-8.
31. Takeuchi N, Ishiwada N. Importance of Toxin Genes and Polymerase Chain Reaction-Based

- Open Reading Frame Type Analyses for Severe Staphylococcus aureus Infection in Children Jpn J Infect Dis 2024 Jan; 77: 59-60.
32. Takeuchi N, Ohkusu M, Kusuya Y, Takahashi H, Yamaguchi M, Omata Y, Nakazawa T, Ishiwada N. Comparative genomic and morphological analyses of capsular and capsular-deficient pneumococcal strains simultaneously isolated from a patient with invasive pneumococcal disease. J Infect Chemother 2024; 24: S1341-321X.
 33. Tanaka S, Takahashi M, Takeshita K, Nagasawa K, Takei H, Sato H, Hishiki H, Ishiwada N, Hamada H, Kadota Y, Tochio T, Ishida T, Sasaki K, Tomita M, Osone Y, Takemura R, Shimojo N. The prebiotic effect of 1-kestose in low-birth-weight neonates taking bifidobacteria: a pilot randomized trial in comparison with lactulose. Bioscience of Microbiota, Food and Health 2024; 43: 329-35.
 34. Tominaga T, Seki Y, Omori-Shimano S, Ikeda K, Shiko Y, Hamada H, Awazu M. Chorioamnionitis and earlier gestational age are associated with neonatal hypercalcemia after maternal magnesium sulfate therapy: A case-control study Pediatr Neonatol 2024 Nov; S1875-9572(24): 00202-X.
 35. Uchida T, Matsuzawa D, Shiohama T, Fujii K, Shiina A, Naka M, Sugita K, Shimizu E, Shimojo N, Hamada H. Positive Effect of transcranial direct current stimulation on visual verbal working memory in patients with attention-deficit/hyperactivity disorder Open J Psychiatr 2024 July: 14.
 36. Yamaide F, Oniki N, Fikri B, Sato N, Nakano T, Shimojo N. Cord blood zonulin is associated with high-level sensitization to food allergen and food allergy development Allergol Int 2024 Apr; 73(2): 338-9.
 37. Yamaide F, Tomura M, Satoh M, Kunii Y, Nakano T, Nomura F, Shimojo N. Low serum vitamin D is associated with egg white sensitization at age 1 year Pediatr Allergy Immunol 2024 Dec; 35: e70021.
 38. Yamazaki Y, Ito T, Nakagawa S, Sugihira T, Kurita-Tachibana C, Villaruz AE, Ishiguro K, Salcman B, Li S, Takada S, Inohara N, Kusuya Y, Shibata A, Tamai M, Aoyama R, Inoue K, Murata S, Matsushita K, Miyabe A, Taniguchi T, Igari H, Ishiwada N, Taniguchi M, Nakada TA, Matsue H, Fujimoto M, Hishiki H, Osone Y, Hamada H, Shimojo N, Suzuki T, Otto M, Núñez G, Takahashi H, Takaya A, Nakamura Y. Altered genomic methylation promotes Staphylococcus aureus persistence in hospital environment Nat Commun. 2024 Nov; 15(1): 9619.
 39. Yonekura S, Okamoto Y, Yamaide F, Nakano T, Hirano K, Funakoshi U, Hamasaki S, Inuma T, Hanazawa T, Shimojo N. Factors contributing to the diagnosis and onset prediction of perennial allergic rhinitis in high-risk children: A sub-analysis of the CHIBA study Allergol Int 2024 Jul; 73: 436-44.
 40. Yoshikawa S, Takatani T, Takatani R, Inui A, Fujisawa T, Hamada H. Case report: Pediatric hepatopulmonary syndrome despite strict weight control after craniopharyngioma surgery Front Endocrinol (Lausanne) 2024 Oct; 15: 1459451.
 41. Yoshii S, Shiohama T, Ikehara H, Fujii K, Hamada H. Oval Pupils in a Child with Acute Autonomic and Sensory Neuropathy. Indian J Pediatr. 2024 Jun 5. doi:10.1007/s12098-024-05178-y.
 42. Hagiwara S, Shiohama T, Takahashi S, Ishikawa M, Kawashima Y, Sato H, Sawada D, Uchida T, Uchikawa H, Kobayashi H, Shiota M, Nabatame S, Tsujimura K, Hamada H, Suzuki K. Comprehensive High-Depth Proteomic Analysis of Plasma Extracellular Vesicles Containing Preparations in Rett Syndrome. Biomedicines. 2024;12(10):2172.
 43. Sanefuji M, Nakamura T, Higuchi N, Niizuma H, Kawachi Y, Shiohama T, Yoshida Y, Asahina A, Matsuo M. Clinical characteristics and management of plexiform neurofibromas in children with neurofibromatosis 1: A Japanese nationwide survey. Brain Dev. 2024;47(1):104300.
 44. Matsuyama K, Yamada S, Sato H, Zhan J, Shoda T. Advances in omics data for eosinophilic esophagitis: moving towards multi-omics analyses. J Gastroenterol. 2024 Nov;59(11):963-978.
 45. Wakamatsu M, Muramatsu H, Sato H, Ishikawa M, Konno R, Nakajima D, Hamada M, Okuno Y, Kawashima Y, Hama A, Ito M, Iwafuchi H, Takahashi Y, Ohara O. Integrated proteogenomic analysis for inherited bone marrow failure syndrome. Leukemia. 2024 Jun;38(6):1256-1265.
- 【雑誌論文・和文】**
1. 伊藤陽里, 長村敏生, 清澤伸幸, 石川順一, 石原唯史, 井上信明, 浮山越史, 岡田広, 小保内俊雅, 加納, 神園淳司, 佐藤工, 杉浦至郎, 種市尋宙, 田村卓也, 濱田洋通, 平本龍吾, 古野憲司, 松原知代, 山本英一, 内田佳子, 沼口敦, 調査研究委員会 日本小児救急医学会調査研究委員会委員会報告(第15報) わが国における小児死亡症例の現状と課題

- 第2期 JRSC (Japan Registry System for Children with critical disease) 登録結果をふまえて 新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザウイルス感染症関連死亡例のまとめ 日本小児救急医学会雑誌 2024 11;23(3):386-9.
2. 長澤耕男, 渡邊泰二郎, 原木悠, 草野泰造, 山本翔大, 石和田遼, 佐藤万里, 深沢千絵, 星野直. 小児専門病院における抗 MRSA 薬使用状況の検討. 感染症学雑誌 2024;98:293-300.
 3. 蓮沼竜司, 竹下健一, 菱木はるか, 石和田稔彦, 濱田洋通, 太田節雄. 尿路形態異常を合併した Haemophilus parainfluenzae による尿路感染症の1例 小児感染免疫 2024 2;36(1):27-31.
 4. 松原未来, 宮部安規子, 齊藤知子, 瀬川俊介, 鈴木眞, 山下晃司, 藤川樹, 村田正太, 石和田稔彦, 矢口貴志, 伊藤純子, 奥主朋子, 日野もえ子, 川崎健治, 松下一之. 血液培養の陽性判定と同定に苦慮した Gordonia sputi による菌血症の1例 日本臨床微生物学会雑誌 2024 6;34:209-13.
 5. 山崎裕子, 菱木はるか, 長澤耕男, 石和田稔彦, 濱田洋通. 小児急性リンパ芽球性白血病造血幹細胞移植後に発症し, 併用薬により治療選択に難渋した侵襲性肺アスペルギルス症の1例 日本小児呼吸器学会雑誌 2024 6;35(2):106-12.
 6. 塩浜直『小児てんかん重積状態・けいれん重積状態治療ガイドライン 2023』について 千葉県小児科医会誌 2024;60:11-3.
 7. 下条直樹【腸内細菌叢と子どもの健康】どこまでわかっていて, どこがわかっていないか アレルギー疾患(アトピー性皮膚炎, 食物アレルギー, 気道アレルギー) 外来小児科 2024 6;27 巻1号:36-40.
 8. 高谷具純. 小児糖尿病診療の将来を見据えたアプローチ 内科 2024;133:1180-5.
 9. 高谷具純. 糖尿病性ケトアシドーシス 小児内科 2024;56:1085-9.
 10. 長澤耕男. 新規 RSV 抗体製剤とワクチン. 日本小児呼吸器学会雑誌 2024;35:40-4.
 11. 濱田洋通【小児科学レビュー-最新主要文献とガイドライン-】膠原病と類縁疾患 川崎病 小児科臨床 2024 4;77 巻2:197-200.
 12. 濱田洋通【川崎病-最近の進歩】免疫抑制薬(シクロスポリン) カレントセラピー 2024 4;42(4):322-7.
 13. 日野もえ子. どこで疑う? 疑ったあとはどうする? 救急初療時の血液疾患 小児科診療 2024 12:88.
 14. 藤井克則. 特集: 遺伝性皮膚疾患 Patched-1 遺伝子と基底細胞母斑症候群 皮膚科 2024 1;5:45665.
 15. 藤井克則, 宮本雄策. 患者家族会と語ろう! -医療の原点と患者家族とのつながり- 脳と発達 2024;56:36-7.
 16. 藤井克則. 特集 小児の渡航医学 神経疾患をもつ子ども(てんかんを中心に) 小児内科 2024;56:992-5.
 17. 松原大輔, 松原優里, 関満, 鮎沢衛, 三谷義英, 尾内善広, 濱田洋通, 森内浩幸, 宮入烈, 多屋馨子, 勝田友博, 清水直樹, 黒澤寛史, 青木一憲, 山岸敬幸, 中村好一【小児 COVID-19 の現在地と小児医療に与えたインパクト】 小児 COVID-19 の合併症 小児多系統炎症性症候群 (MIS-C) 小児科診療 2024 3;87(3):311-7.
 18. 山出史也, 下条直樹. 臍帯血中 TARC を含めた biomarker とアレルギー発症 臨床免疫・アレルギー科 2024 3;81 巻3号:287-91.
 19. 山出史也. 小児気管支喘息の長期管理: 患者教育・パートナーシップと評価・調整・決定・治療のサイクル 千葉県小児科医会会誌 2024 7;61:19-21.
 20. 山本健. 抗 IL-1 薬 日本小児アレルギー学会誌 2024;38(2):218-24.
 21. 塩浜直.『小児てんかん重積状態・けいれん重積状態治療ガイドライン 2023』について. 千葉県小児科医会誌 2024;60:11:13.
- 【単行書】**
1. 下条直樹. 食と健康 放送大学教育振興会 朝倉富子, 佐藤隆一郎 共著: 2024.
 2. 藤井克則. 遺伝性ニューロパチー・最新ガイドライン準拠 小児科診断・治療指針 改訂第3版 中山書店: 794-6: 2024.
 3. 山本健. 小児期の牛乳アレルギー患者における特徴と耐性を誘導する治療法の開発, アレルギーの臨床 2024 年 12 月臨時増刊号 株式会社北隆館 小林茂俊 他編: Jan-38: 2024.
 4. 山本健, 井上祐三朗. Th1 サイトカイン, Th2 サイトカイン, Th17 サイトカイン, Treg サイトカイン, 上皮細胞由来サイトカイン 東京医学社「小児内科」「小児外科」編集委員会 編: 289-91: 2024.
 5. 塩浜直 (分担執筆). 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 第15版. 第13章 神経疾患と看護. 医学書院. Page 358-374. 2025. 1月
- 【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表(一般の学会発表は除く)】**
1. 塩浜直. 結節性硬化症における神経発達症症状と mTOR 阻害剤 千葉大学結節性硬化症診療連携チーム (TSC board) 定例会 2024.2.6
 2. 塩浜直. 有熱性けいれん: 救急現場での対応 千葉県医師会 令和5年度小児初期救急医療研修会 2024.2.12
 3. 塩浜直. 千葉県における NF-1 小児例の経験-骨病変への対応について- 千葉県神経線維腫症1型 (NF1 Seminar) ~ 叢状神経線維腫 (PN) を見逃さない ~ 2024.10.2

4. 塩浜直 亜急性期～避難長期化（72時間以降）した場合の地域でのリエゾン活動～2024年度千葉県災害時小児周産期対応研究会基礎編 2024.10.6
5. 下条直樹 エコチル調査でわかったこと、千葉ユニット発信のトピックス 第127回日本小児科学会学術集会 総合シンポジウム2 2024.4.19
6. 下条直樹 腸内環境（細菌叢・代謝物・栄養素）とアレルギー疾患 千葉県保険医協会 学術研究会 2024.5.11
7. 下条直樹 食物アレルギーの最近の話題：赤ちゃんから大人まで 江東区医師会学術講演会 2024.10.16
8. 下条直樹 食事とマイクロバイオームの影響 第73回日本アレルギー学会学術大会 シンポジウム2 2024.10.18
9. 下条直樹 食物アレルギーの治療・予防のための食品開発と社会実装 日本食品免疫学会 設立20周年記念学術大会シンポジウム3 2024.12.3
10. 高谷具純 小児1型糖尿病の治療 第97回日本内分泌学会学術総会 クリニカルアワー10 2024.6.7
11. 高谷具純 “糖尿病性ケトアシドーシス治療のポイント” “第20回小児内分泌入門セミナー” 2024.7.3～31
12. 高谷具純 “小児思春期1型糖尿病の治療の進歩” 第34回臨床内分泌 Update 2024.11.29
13. 長澤耕男 “RSウイルス最近の疫学～千葉県でのパブリズマブ接種タイミング決定の取り組み～” 福井県RSウイルス感染症について考える会 2024.2.20
14. 長澤耕男 RSウイルス最近の疫学と当院における2023年度パブリズマブ接種の現状 RSV Conference in Chiba 2024 2024.3.4
15. 長澤耕男 RSウイルス感染症最近の疫学 第56回日本小児呼吸器学会シンポジウム 2024.9.21
16. 長澤耕男 Post コロナ時代のRSウイルス感染症の疫学 Beyfortus Web Seminar in Chiba 2024.10.7
17. 長澤耕男 新生児RSV感染症に対する新たなアプローチ 第28回日本ワクチン学会／第65回日本臨床ウイルス学会合同学術集会シンポジウム 2024.10.27
18. 長澤耕男 RSV感染症に対する新たなアプローチと最近の疫学 Beyfortus Web Seminar 2024.12.4
19. Taiji Nakano Food allergy and oral immunotherapy in children Wahidin International Symposium Event 2024.5.14-15
20. 中野泰至 ビタミンDによるアレルギー発症予防 第61回日本小児アレルギー学会学術大会 シンポジウム2「アレルギー発症予防を極める」 2024.11.2
21. Taiji Nakano Trajectory of Allergen Sensitization and Allergic Diseases in the CHIBA The Asia Pacific Academy of Pediatric Allergy, Respiratory & Immunology Allergy, Symposium2-Birth Cohort Session 2024.11.22-24
22. 濱田洋通 川崎病の最新情報～千葉県の情報を含めて～川崎病を持つ親の会講演会 2024.2.12
23. 濱田洋通 川崎病疫学変化とMIS-Cの出現から考える川崎病の病因～ベットサイドからの視点～日本川崎病研究センター 川崎病勉強会 2023－疫学研究が拓く川崎病病院解明への道すじ－ 2024.3.16
24. 濱田洋通 川崎病に対する免疫調節療法 日本小児科学会シンポジウム 川崎病の最前線とMIS-C－ポストコロナ時代－ 2024.4.20
25. Hiromichi Hamada Medium-vessel vasculitis (Kawasaki Disease) ASIA PACIFIC LEAGUE OF ASSOCIATIONS FOR RHEUMATOLOGY 2024.7.6
26. 濱田洋通 データ駆動時代の川崎病研究：オミクス解析から人工知能まで 第60回日本小児循環器学会シンポジウム 2024.7.11
27. 濱田洋通 千葉県における移行期医療の取り組みと課題 愛媛大学医学部附属病院講演会（令和6年度共通講習） 2024.9.25
28. 濱田洋通 冠動脈病変に応じた川崎病急性期治療 第44回日本川崎病学会・学術集会ランチョンセミナー 2024.10.4
29. 濱田洋通 ポストコロナ時代における川崎病の診療 福島県川崎病研究会 2024.10.23
30. 日野もえ子 小児がん長期フォローアップから始まった移行期支援の取り組み 認定NPO法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ講演会 2024.6.2
31. 日野もえ子 小児がん長期フォローアップから始まった移行期支援の取り組み 公益財団法人がんの子どもを守る会 関西支部 2024年度「のぞみトーク きんき」 2024.7.7
32. 日野もえ子 造血細胞移植の現状～小児腫瘍性および非腫瘍性疾患 第57回日本小児内分泌学会学術集会 2024.10.10
33. 日野もえ子 小児がんの晩期合併症と長期フォローアップ～将来のために知っておきたいこと～ 令和6年度小児・AYA世代がんの講演会・交流会 2024.12.7
34. 藤井克則 目で見える小児神経学 2024 成田赤十字病院 特別講演 2024.5.23
35. 藤井克則 小児MGと分子標的薬 第8回小児免疫性神経筋疾患研究会 2024.5.31
36. 山出史也 救急でよく診るアレルギー疾患：アナフィラキシー・喘息急性増悪（発作） 令和5年度小児初期救急医療研修会 2024.2.11
37. 山出史也 よくみる子どものアレルギー疾患～

- QOL 向上を目指して基本と最新トピックスを知る～Takata Academic Café Web 講演会 2024.2.19
38. 山出史也 千葉県小児気管支喘息の長期管理：患者教育・パートナーシップと評価・調整・決定・治療のサイクル 千葉県小児科医会主幹 第8回小児臨床カンファレンス 2024.3.20
 39. 山出史也 薬物治療の選択肢が増えた小児アトピー性皮膚炎診療 子どもの健やかな肌を考える会 千葉県小児科医会 学術講演会 2024.5.22
 40. 山出史也 薬剤選択肢が増えた小児アトピー性皮膚炎診療：かゆみを中心とした合併症対策戦略 仙台市小児科医会・宮城県小児科医会 学術講演会 2024.6.27
 41. 山出史也 アレルギーマーチを念頭にした小児アレルギー治療 千葉県小児科医会学術講演会 2024.7.24
 42. 山出史也 現在および将来の疾病負荷軽減を目指した小児アトピー性皮膚炎診療 アトピー性皮膚炎患者さんのこれからを考える会 2024.9.12
 43. 山出史也 小児アレルギー診療～アレルギーマーチとスキンケアの意義～ 印旛郡市小児科医会学術講演会 2024.10.02
 44. 山本健 アトピー性皮膚炎における治療ゴール達成を目指して 第37回千葉市薬剤師会学術講演会 2024.5.16
 45. 山本健 アレルギーマーチの予防と治療 子どもの健やかな肌を考える会 千葉県小児科医会学術講演会 2024.5.22
 46. 山本健 小児アトピー性皮膚炎における治療ゴール達成を目指して 小児アトピー性皮膚炎の治療を考える会 2024.9.18
 47. 山本健 海外留学のすゝめ 第61回日本小児アレルギー学会学術大会, ENGAGE-TF x UJA 2024.11.2
 48. 佐藤裕範 高深度プロテオーム解析を用いた小児希少疾患の血清プロファイリングとその臨床応用 日本プロテオーム学会 2024 年大会 2024.6.26-28
 49. 佐藤裕範 千葉県における食物アレルギー病診連携の試み 第229回日本小児科学会千葉地方会シンポジウム 2024.9.8
 50. 佐藤裕範 当科で経験した全身型若年性特発性関節炎 (sJIA) の臨床像とその治療経過 自己炎症性疾患 Update Web Seminar 2024.10.25

【学会発表数】

国内学会 39 回（うち大学院生 4 回）

国際学会 5 回（うち大学院生 3 回）

【外部資金獲得状況】

1. 日本医療研究開発機構（AMED） 難治性疾患等実用化研究事業「川崎病患者に対する免疫調節療法の最適な適応基準を見いだす探索的研究」代表者：濱

田洋通 2023-2025

2. 令和 6 年度文部科学省科学研究費補助金 研究基盤 (C)「血小板、CD69-Myl9 システムに着目した川崎病の診断と治療に関する研究」代表者：濱田洋通 2024-2026
3. 令和 5 年度文部科学省科学研究費補助金「川崎病の発症にヒトヒト間の接触は影響するか」分担者：濱田洋通 2023-2025
4. 令和 6 年度文部科学省科学研究費補助金 基盤 (C) 分担金「成人診療科における小児期発症慢性疾患患者への成人移行支援ガイドラインの作成」分担者：濱田洋通 2024-2026
5. 一般社団法人日本川崎病学会公認研究「アジアにおける川崎病の国際的ネットワークによる国際共同臨床研究」代表者：濱田洋通 2023-2027
6. 令和 4 年度文部科学省科学研究費補助金 研究基盤 (C)「Gorlin 症候群における骨代謝異常の分子的病態解明」代表者：藤井克則 2023-2025
7. 令和 5 年度文部科学省科学研究費補助金 研究基盤 (C)「移行期医療支援におけるアウトカム指標の探索」代表者：日野もえ子 2024-2028
8. 令和 6 年度文部科学省科学研究費補助金 研究基盤 (B) 分担金「AYA 世代がん患者・サバイバーの経験するマイクロアグレッションの実態解明と学際的支援モデル構築」分担者：日野もえ子 2023-2027
9. 令和 6 年度文部科学省科学研究費補助金 研究基盤 (C)「母体ビタミン D エピ体による胎児発育抑制機序およびエピ体産生制御因子の解明」代表者：高谷具純 2024-2026
10. 令和 6 年度文部科学省科学研究費補助金 研究基盤 (C)「血小板、CD69-Myl9 システムに着目した川崎病の診断と治療に関する研究」代表者：江畑亮太 2024-2026
11. 国立精神・神経医療研究センター 精神・神経疾患研究開発費「精神・神経疾患での脳画像撮像および解析手法の標準化と臨床応用に関する研究」分担者：塩濱直 2024
12. 令和 6 年度文部科学省科学研究費補助金 研究基盤 (B)「巨脳症性疾患関連シグナルによる脳形態調整の解明」代表者：塩濱直 2024-2026
13. 日本医療研究開発機構（AMED）「新規ヒト乳児臨床データ取得のための前試験による条件検討」分担者：中野泰至 2024
14. 令和 5 年度文部科学省科学研究費 基盤研究 (C)「腸内細菌叢・血清解析によるアレルギー疾患での腸管バリア機能関連バイオマーカー探索」代表者：山出史也 2022-2024
15. 令和 5 年度日本医療研究開発機構（AMED） 免疫アレルギー疾患等実用化研究事業「乳児期発症のアトピー性皮膚炎の予後を追跡しアレルギーマーチへ

- の診療の影響と危険因子を探索する前向きコホート研究」分担者：山出史也 2024
16. 国際医療福祉大学令和6年度学内研究（一般研究A一般）「睡眠ポリグラフ検査等を併用した小児アレルギー疾患における睡眠障害の網羅的検討」代表者：山出史也 2024
 17. 鳥居薬品奨学寄附プログラム「小児アトピー性皮膚炎患児を対象とした睡眠障害の網羅的検討」代表者：山出史也 2024
 18. 共同研究・株式会社トゥーコネクト「TPA フィルター搭載空気清浄機を用いた環境整備によるハウスダスト中アレルギーへの影響に関する実証研究」代表者：山出史也 2024-2025
 19. 令和5年度文部科学省科学研究費補助金 若手研究「小児牛乳アレルギー患者における重症化メカニズム解明と耐性を誘導する治療法の開発」代表者：山本健 2023-2026
 20. 公益財団法人ニッポンハム食の未来財団「小児牛乳アレルギー患者における重症化メカニズム解明とビタミンD併用による新規経口免疫療法の開発」代表者：山本健 2024
 21. 日本学術振興会 科学研究費助成事業基盤研究(C)「次世代プロテオミクスを用いたCRP陰性若年性特発性関節炎のバイオマーカー探索」分担者：佐藤裕範 2023-2025
 22. 日本学術振興会 科学研究費助成事業【若手】「全身型若年性特発性関節炎のエクソソームプロテオミクスによる新規バイオマーカー探索」代表者：佐藤裕範 2024-2026

【受賞歴】

1. 塩濱直、日本小児科学会学術研究賞（脳MRI定量解析を用いた脳形態形成の制御機構の解明、2024年）
2. 佐藤裕範 第40回日本小児臨床アレルギー学会学術大会 最優秀演題賞 2024.7.12-13

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

小児科外来の受診者数はのべ14,107人で、救急搬送数は319名であった。疾患の内訳は①アレルギー免疫療法、小児期発症膠原病・自己炎症性疾患、②小児期発症の心疾患、③小児内分泌疾患、④小児がん、先天性溶血性貧血、血友病、血小板減少性紫斑病、⑤気道感染症（難治性、反復性）、尿路感染症・全身感染症後、母子感染、嚥下協調障害、先天性免疫不全（慢性肉芽腫症等）、予防接種（渡航者・帰国者・基礎疾患を有する患者）、⑥てんかん、遺伝性疾患（神経変性疾患・Rett症候群・ミトコンドリア病など）、不随意運動疾患、⑦早産児、先天異常症児であり、多岐にわたる診断・治療を行っている。医療ケアが必要な患者さんを35例主治医として管理料を算定し管理している。

小児科の入院患者は、1320人と、COVID-19前の患者数に回復した。2021年7月からPICU病床をICU内に1床標榜し、HCU、EICUの小児入院を含めて、延べ549名の重症ユニットでの小児入院診療をおこなった。NICU/GCUへの入院新生児は263人だった。また、外来・入院を通してFamily support team（FAST）対応症例は296件であった。主な対象疾患は、①食物経口負荷試験、小児期発症膠原病、②先天性心疾患の胎児診断と出生後の内科的管理、難治または冠動脈瘤合併の重症川崎病患者、③内分泌疾患診断のための負荷試験、④造血幹細胞移植や集学的治療が必要な小児がん、白血病患者、⑤感染症（市中感染、基礎疾患を有する患者）の正確な病原微生物的診断と治療方針の決定、コンサルテーション対応、院内感染対策・サーベイランス、⑥難治性てんかん、急性末梢神経障害、急性脳症など、多岐にわたる診断・治療を行っている。NICU/GCUは早産・低出生体重児120（早産児69、低出生体重児111（極低出生体重児22）、外科治療を必要とする新生児の診療が特徴である。

先進的な医療として、新生児呼吸窮迫症候群に対するLISAメソッドの導入。小児新生児に対するECMO療法。また、川崎病に対するシクロスポリンAを用いた免疫調節療法を特定臨床研究として、新生児期からの腸内細菌への介入による乳児期の感染症予防を介入研究として行っている。

●地域貢献

連携病院に当院医師を派遣し、小児アレルギー外来、小児内分泌外来、小児循環器外来、小児神経外来を行っている。また、①市民及び専門職を対象にしたアレルギー疾患の講習会、②千葉県内の学校検診（心疾患・尿糖陽性）の精密検査、③新生児マススクリーニングにおける先天性甲状腺機能低下症、先天性副腎皮質過形成症、先天性免疫異常症、脊髄性筋萎縮症の精密検査、④小児がんの患者会ミルフィユと協力し、市民および患者向け講演会、⑤真菌医学研究センターと連携し、他施設からの相談症例の感染症診断、⑥産婦人科教育学部と連携した予防接種の教育活動、⑦新生児蘇生講習会を行っている。

●その他

インドネシアのハサヌディン大学と協定を結び、医師、看護師および医学生の実習の受け入れを行い、ハサヌディン大学での専攻医向けの講義やシンポジウムでの講演を行った。その他の海外からの留学生受け入れや、当科のコホート研究をもとにアジア各国とのコホート研究コンソーシアムの立ち上げや、ヨーロッパ諸国との共同研究を行っている。日本小児がん研究グループ JCCG の会員として多施設共同臨床試験に積極的に参加している。外国人患者・家族に対して英語での診療を行っている。旭市と協定を結びアレルギー疾患発症予防を目的としたプロジェクトを行っており、他の千葉県内の市でも拡大を目指している。

研究領域等名：	イノベーション医学
診療科等名：	

●はじめに

イノベーション医学研究領域では、粘膜面におけるアレルギーや炎症疾患の発症機序の解明と予防・治療法の開発をミッションとし研究活動を進めています。

生体の最前線に位置する粘膜組織では、粘液の産生や物理的障壁として機能する上皮細胞が重要なバリア機能を担っています。その粘膜上皮細胞の支持層には、細胞外基質を産生し、組織構造の形成に必須な「間葉系細胞」が分布しています。

最近、私たちの研究成果を含め、間葉系細胞が単に支持細胞としてではなく、①免疫細胞に対する「末梢教育」②上皮細胞の分化を調整する「粘膜バリア後方支援」といった非常に多彩な機能をもつことが明らかになりつつあります。それだけではなく、間葉系細胞の機能の変遷は、③臓器不全を招く「線維化」を導くことも知られており、粘膜間葉系細胞を標的とした研究は、炎症性腸疾患やアレルギーの新規予防・治療法の開発という点においても今後重要なテーマです。

●教育

・学部教育／卒前教育

免疫学、医学入門Ⅱ、スカラシップ

・大学院教育

生体防御医学演習、ワクチン・感染症特論 Advanced、医学系研究院大学院生（修士 5 名・博士 4 名）

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

免疫微生物学特論（薬学部）

●研究

・研究内容

粘膜間葉系細胞をはじめとする「組織支持細胞」による恒常性と疾患への関与について、複雑な機能を読み解き活用する「粘膜間葉系リテラシー」研究を推進しています。これまで、腸管線維化に関わる新規間葉系細胞集団を見出し、機能阻害抗体は国際特許を取得しています。

加えて、「細菌－神経－間葉系ネットワーク」という「微生物叢」と「宿主」の相互作用による腸内環境維持機構の解明を目指し、得られた成果を炎症性腸疾患や消化管アレルギーなどの消化器疾患に対する予防・治療法の確立に向けて活用することを目指しています。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Akasaki Y., Inomata T., Iwagami M., Sung J., Nagino K., Adachi T., Morita H., Tamari M., Kainuma K., Kan-o K., Ogata H., Sakashita M., Futamura M., Kurashima Y., Nakajima S., Masaki K., Ogawa Y., Sato S., Miyagawa A., Midorikawa-Inomata A., Fujimoto K., Okumura Y., Fujio K., Huang T., Hirokawa K., Morooka Y., Murakami A., Nakao S. The impact of COVID-19 on hay fever treatment in Japan: A retrospective cohort study based on the Japanese claims database. *Clinical and translational allergy*. 2024. 14(9): e12394. doi: 10.1002/cla2.12394
2. Zhang Z., Tanaka I., Nakahashi-Ouchida R., Ernst P.B., Kiyono H., Kurashima Y. Glycoprotein 2 as a gut gate keeper for mucosal equilibrium between inflammation and immunity. *Seminars in*

immunopathology. 2024. doi: 10.1007/s00281-023-00999-z

【雑誌論文・和文】

1. 何金城, 那仁通勒嘎, 張衆為, 緒方仁志, 清野宏, 倉島洋介. 腸内細菌叢と臓器連関. *臨床免疫・アレルギー科*. 82(3):240-246. 2024. 科学評論社
2. 正木克宜, 坂下雅文, 小川靖, 猪俣武範, 貝沼圭吾, 神尾敬子, 佐藤さくら, 玉利真由美, 中島沙恵子, 森田英明, 倉島洋介, 二村昌樹, 高橋浩一郎, 春田淳志, 百武美沙, 門川俊明, 石塚全, 意元義政, 尾山徳孝, 神崎晶, 木戸口正典, 福島敦樹, 福永興彦, 藤枝重治, 安富素子, 足立剛也, 免疫アレルギー疾患研究 10 周年戦略次世代タスクフォース (ENGAGE-TF). アレルギー領域における診療科・職種横断的リカレント教育の重要性「出前授業による教育の機会創出事業」参加者データの分析. *アレルギー*. 73(4):329-339. 2024. 日本アレルギー学会

3. 足立剛也, 早野元詞, 伊藤靖典, 猪俣武範, 小川靖, 貝沼圭吾, 神尾敬子, 倉島洋介, 桑原優, 坂下雅文, 佐藤さくら, 富田康裕, 中島沙恵子, 二村昌樹, 正木克宜, 玉利真由美, 海老澤元宏, 森田英明, 日本アレルギー学会医療戦略検討委員会. 免疫アレルギー領域のスタートアップの最新動向調査研究 2022 日米欧のアレルギー投資国際比較. アレルギー. 73(3):268-278. 2024. 日本アレルギー学会

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 倉島洋介. 線維芽細胞を起点とした細胞間相互作用による鎮静化と遷延化. 第 47 回日本分子生物学会年会. 福岡. 2024 年 11 月
2. 倉島洋介, 臓器特異性を担う末梢免疫教育機構の解明と疾患治療への応用. Academy of Crohn's & colitis Young Experts (ACE) Round 13. ステーションコンファレンス東京 東京. 2024 年 10 月
3. Kurashima Y. Mesenchymal cells: Secondary Barrier and Peripheral Educator for the Immune System. Dr. Toshinori Nakayama Memorial cMAV-cSIMVa Workshop. Yokohama, Japan. 2024 Jan.

【学会発表数】

国内学会 2 回（うち大学院生 0 回）

国際学会 8 回（うち大学院生 5 回）

【外部資金獲得状況】

1. JST/ 創発的研究支援事業「新たな消化管粘膜保護因子から解く腸管疾患制御」代表者：倉島洋介

2024-2027

2. 科学研究費助成事業 挑戦的研究(萌芽)「乳幼児期における腸管グリア細胞の解析に立脚した乳幼児腸疾患発症機序の解明」代表者：倉島洋介 2024-2025
3. 第 56 回内藤記念科学奨励金「細胞間相互作用に着目した腸線維化進展機構の解明」代表者：倉島洋介 2024-2025
4. 第 13 回（令和 6 年度）小林財団研究助成「天然物ライブラリーを用いたアレルギー疾患に対する効果的且つ持続的な免疫療法の開発」代表者：倉島洋介 2024-2025
5. 科学研究費助成事業 基盤研究(B)「脾臓による感染防御に立脚した「共生と排除」機構の解明」代表者：倉島洋介 2023-2025
6. AMED/ ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群」分担者：倉島洋介 2022-2026
7. AMED/ 免疫アレルギー疾患実用化研究事業「アトピー性皮膚炎をモデルとした次世代リバーストランスレーショナル研究基盤構築に向けた研究」分担者：倉島洋介 2022-2024
8. 小野薬品工業. 共同研究「線維化関連線維芽細胞を標的とした腸管線維化制御」代表者：倉島洋介 2023-2025

●その他

免疫ふしぎ未来 2024

研究領域等名：	イノベーション再生医学
診療科等名：	

●はじめに

2024年度は、

- ① iPS細胞技術を用いた遺伝性早老症のメカニズム解明、特に動脈硬化モデルでの検証で挑戦的萌芽に採択され、研究を継続している。新たに日本学術振興会 外国人研究招聘事業 外国人特別研究員（一般）に採択された。また、Nature Communications 誌に採択された。
- ② ヒト巨核球分化課程の網羅的遺伝子発現解析、オープンクロマチン解析のサンプリングを複数株で取得し、免疫巨核球の解析を実施し、Nature Communications 誌に採択された。
- ③ 試験管内でのヒト血液細胞再生のための人工骨髄開発プロジェクトを継続している。本内容から派生した間葉系間質細胞による造血幹細胞増幅機序の解明に対する研究で基盤B研究を継続している。
- ④ 特定の転写因子の組み合わせにより多系統の細胞を不老化して大量増幅する技術を確立した。この技術は、分化細胞が前駆細胞段階に若返る特徴的な細胞リプログラミングであることが判明し、前駆細胞リプログラミングと命名して、詳細な機構を解析中である。本研究内容で創発的研究支援事業に採択され、研究を継続中である。
- ⑤ 千葉大整形外科、千葉大形成外科グループと共同で、人工血小板を用いた新規治療モデルを推進し、骨治療研究、皮膚創傷治療研究を継続中である。骨再生モデルでは、整形外科志賀先生と共同でAMED 橋渡し拠点シーズPreFに採択され、研究を継続中である。Regenerative Therapy 誌に採択された。また、皮膚創傷治療研究ではStem Cell Therapy 誌に採択された。
- ⑥ 東京大学医科学研究所 岩間教授、千葉大学血液内科 堺田准教授（診療教授）、三村助教（診療准教授）と共同で、MDS患者由来の血液細胞の網羅的な遺伝子発現解析、オープンクロマチン解析を推進している。
- ⑦ 千葉大学分子細胞医学 大日向先生、腎臓内科 多口先生と共同で、千葉大学国際高等研究基幹における研究支援プログラム に採択された。
- ⑧ 整形外科 志賀先生、大鳥先生との共同研究で、不老化間葉系幹細胞を用いた骨再生研究を継続している。
- ⑨ 千葉大学血液内科 堺田准教授（診療教授）、三村助教（診療准教授）と共同で、B細胞性腫瘍に対する不老化CAR免疫細胞治療の開発に着手し、千葉大学アーリーシーズに採択された。

●教 育

・大学院教育

博士課程の学生6名の内、新たに1名が卓越大学院プログラムに採択され、合計2名が卓越大学院、また、1名はRAを採択され引き続き研究を継続している。

●研 究

・研究内容

- ① ヒト iPS細胞由来不死化巨核球株を用いた人工血小板開発
- ② 次世代シーケンズ技術を用いたヒト造血系細胞の網羅的ゲノム・エピゲノム・トランスクリプトーム解析と新規創薬の確立
- ③ iPS細胞由来造血支持細胞による、ヒト造血幹細胞増幅用の人工骨髄の作製
- ④ iPS細胞由来人工血小板を用いた新規創傷治療、骨再生モデルの確立
- ⑤ iPS細胞技術を用いた動脈硬化症のメカニズム解明と治療薬開発
- ⑥ 多系統細胞の若返り・不老化技術（前駆細胞リプログラミング）の確立
- ⑦ 不老化CAR免疫細胞によるB細胞性腫瘍に対する新規治療法の開発。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Si Jing Chen, Kazuya Hashimoto, Kosuke Fujio, Karin Hayashi, Sudip Kumar Paul, Akinori Yuzuriha, Wei-Yin Qiu, Emiri Nakamura, Maria Alejandra Kanashiro, Mio Kabata, Sou Nakamura, Naoshi Sugimoto, Atsushi Kaneda, Takuya Yamamoto, Hirohide Saito*, Naoya Takayama*, Koji Eto* A let-7 microRNA-RALB axis links the immune properties of iPSC-derived megakaryocytes with platelet producibility. Nat Commun. 2024 Mar 22;15(1):2588.doi: 10.1038/s41467-024-46605-0.

2. Sudip Kumar Paul, Motohiko Oshima, Ashwini Patil, Masamitsu Sone, Hisaya Kato, Yoshiro Maezawa, Hiyori Kaneko, Masaki Fukuyo, Bahityar Rahmutulla, Yasuo Ouchi, Kyoko Tsujimura, Mahito Nakanishi, Atsushi Kaneda, Atsushi Iwama, Koutaro Yokote*, Koji Eto*, Naoya Takayama* Retrotransposons in Werner syndrome-derived macrophages trigger type I interferon-dependent inflammation in an atherosclerosis model Nat Commun. 2024 Mar 22;15(1):2588. doi: 10.1038/s41467-024-46605-0.
3. Arai T, Shiga Y, Mukai M, Takayama N, Tashiro S, Tajiri I, Kosaka K, Sato M, Nakamura S, Okamoto H, Kimura S, Inage K, Suzuki-Narita M, Eguchi Y, Orita S, Eto K, Ohtori S. Osteogenic effects and safety of human induced pluripotent stem cell-derived megakaryocytes and platelets produced on a clinical scale. Regen Ther. 2024 Oct 3;26:850-858. doi: 10.1016/j.reth.2024.09.012. eCollection 2024 Jun.
4. Kosaka K, Takayama N, Paul SK, Kanashiro MA, Oshima M, Fukuyo M, Rahmutulla B, Tajiri I, Mukai M, Kubota Y, Akita S, Furuyama N, Kaneda A, Iwama A, Eto K, Mitsukawa N. iPSC-derived megakaryocytes and platelets accelerate wound healing and angiogenesis. Stem Cell Res Ther. 2024 Oct 14;15(1):364. doi: 10.1186/s13287-024-03966-z

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 高山直也、前駆細胞リプログラミングによる細胞の不老化技術の確立 第47回分子生物学会年会 シンポジウムにて招待講演 2024.11.26-29
2. 陳思婧、iPS細胞由来血小板造血における免疫巨核球の制御機構 第19回血液学若手研究者勉強会（麒麟塾）にて招待講演 2024.6.29.

【学会発表数】

国内学会 4学会 2回（うち大学院生2回）
国際学会 4学会 4回（うち大学院生0回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 若手研究「Elucidating the role of megakaryocytes as immune cells using iPSC-derived megakaryocyte progenitor models」代表者：チェンスジン 2023-2025
2. 文部科学省科学研究費 基盤C「慢性創傷における血小板・マクロファージの相互作用の解析と細胞治

療への応用」代表者：小坂健太郎 2023-2026

3. 文部科学省科学研究費 若手研究「iPS細胞由来血小板・巨核球製剤によるMSCを介した骨再生促進機序の解明」代表者：向井務晃 2023-2025
4. 文部科学省科学研究費 萌芽研究「ヒトiPS細胞由来不老化マクロファージ/血管細胞からなる動脈硬化オルガノイド開発」代表者：高山直也 2023-2025
5. 文部科学省科学研究費 基盤B「インターフェロンシグナルを介したヒト造血幹細胞の自己複製・分化制御機構の解明」代表者：高山直也 2024-2026
6. 文部科学省科学研究費 基盤B「リンパ管腫瘍／ゴーハム病で認められた血小板活性化受容体CLEC-2異常の解析」分担者：高山直也 2024-2026
7. 共同研究費・浜松ホトニクス株式会社「造血系細胞、及びその環境細胞群との相互作用の評価と応用」代表者：高山直也 2024-2024
8. 受託研究費・AMED「自家iPS細胞由来血小板製剤の臨床研究（iPLAT1）の事後検証と製剤改良」分担者：チェンスジン 2024-2025
9. 受託研究費・AMED「骨癒合特化型iPS細胞由来血小板製剤の開発」分担者：高山直也 2024-2025
10. 受託研究費・JST「細胞若返り技術の確立と再生医療への応用」代表者：高山直也 2024-2027
11. 文部科学省科学研究費 基盤B「骨癒合促進特化型ユニバーサルiPS血小板製剤の開発」分担者：高山直也 2024-2027
12. 公益財団法人コーセーコスメトロジー研究財団「前駆細胞リプログラミング技術による皮膚老化防止への革新的アプローチ」代表者：高山直也 2024-2026
13. 公益財団法人 先進医薬研究振興財団「iPS細胞由来血小板の安定製造を目指す免疫巨核球制御法の開発」代表者：チェンスジン 2024-2025
14. 公益財団法人シオノギ感染症研究振興財団「COVID-19における免疫巨核球メカニズムの解明」代表者：チェンスジン 2024-2025

【受賞歴】

1. Si Jing Chen, Travel Grant of the European Hematology Association (EHA) 2024 Congress, 欧州血液学会, 2024.6
2. 陳思婧, 第23回日本再生医療学会総会 優秀演題賞（口演）, 日本再生医療学会, 2024.3
3. 向井務晃, 第23回日本再生医療学会総会 優秀演題賞（ポスター）, 日本再生医療学会, 2024.3

研究領域等名：	疾患システム医学
診療科等名：	

●はじめに

心血管代謝疾患を始めとする生活習慣病の分子機序について1細胞解析、遺伝子改変マウス等を用いて推進している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部生理学、薬理学、医学入門を担当している。スカラシッププログラム、基礎医学ゼミ、アスパイアプロジェクトを担当。

・卒後教育／生涯教育

科研費の指導を行っている。

・大学院教育

大学院（修士、博士、薬学）講義、卓越大学院、リーディング大学院の指導を担当。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

普遍教育、薬学部の講義、学生の研究指導を担当。

●研 究

・研究内容

生活習慣病・加齢関連疾患の分子機構について、特に慢性炎症、臓器連関、マクロファージの観点から研究を行っている。エピゲノム解析とシングルセル解析にも取り組んでいる。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

- Otomo K, Omura T, Nozawa Y, Edwards SJ, Sato Y, Saito Y, Yagishita S, Uchida H, Watakabe Y, Naitou K, Yanai R, Sahara N, Takagi S, Katayama R, Iwata Y, Shiokawa T, Hayakawa Y, Otsuka K, Watanabe-Takano H, Haneda Y, Fukuhara S, Fujiwara M, Nii T, Meno C, Takeshita N, Yashiro K, Rosales Rocabado JM, Kaku M, Yamada T, Oishi Y, Koike H, Cheng Y, Sekine K, Koga J-i, Sugiyama K, Kimura K, Karube F, Kim H, Manabe I, Nemoto T, Tainaka K, Hamada A, Brismar H, Susaki EA. descSPIM: an affordable and easy-to-build light-sheet microscope optimized for tissue clearing techniques. *Nat Commun.* 2024;15:4941.
- Oishi Y, Koike H, Kumagami N, Nakagawa Y, Araki M, Taketomi Y, Miki Y, Matsuda S, Kim H, Matsuzaka T, Ozawa H, Shimano H, Murakami M, Manabe I. Macrophage SREBP1 regulates skeletal muscle regeneration. *Front Immunol.* 2024;14:1251784.
- Nakayama Y, Fujiu K, Oshima T, Matsuda J, Sugita J, Matsubara TJ, Liu Y, Goto K, Kani K, Uchida R, Takeda N, Morita H, Xiao Y, Hayashi M, Maru Y, Hasumi E, Kojima T, Ishiguro S, Kijima Y, Yachie N, Yamazaki S, Yamamoto R, Kudo F, Nakanishi M, Iwama A, Fujiki R, Kaneda A, Ohara O, Nagai R, Manabe I, Komuro I. Heart failure promotes multimorbidity through innate immune memory. *Sci Immunol.* 2024; 9:eade3814.
- Nakata Y, Nagasawa S, Sera Y, Yamasaki N, Kanai A, Kobatake K, Ueda T, Koizumi M, Manabe I, Kaminuma O, Honda H. PTIP epigenetically regulates DNA damage-induced cell cycle arrest by upregulating PRDM1. *Sci Rep.* 2024;14:17987.
- Yuriko Yoneda, Hisaya Kato, Yoshiro Maezawa, Koutaro Yokote, Mio Nakanishi. Real-time imaging of human endothelial-to-hematopoietic transition in vitro using pluripotent stem cell derived hemogenic endothelium. *Biophys Physicobiol.* 2024 Mar 22;21.
- Nakayama Y, Fujiu K, Oshima T, Matsuda J, Sugita J, Matsubara TJ, Liu Y, Goto K, Kani K, Uchida R, Takeda N, Morita H, Xiao Y, Hayashi M, Maru Y, Hasumi E, Kojima T, Ishiguro S, Kijima Y, Yachie N, Yamazaki S, Yamamoto R, Kudo F, Nakanishi M, Iwama A, Fujiki R, Kaneda A, Ohara O, Nagai R, Manabe I, Komuro I. Heart failure promotes multimorbidity through innate immune memory. *Sci Immunol.* 2024 May 24; 9(95)
- Caeiro LD*, Nakata Y*, Borges RL, Zha M, Garcia-Martinez L, Banuelos CP, Stransky S, Liu T, Chan HL, Brabson J, Domínguez D, Zhang Y, Lewis PW,

Aznar-Benitah S, Cimmino L, Bilbao D, Sidoli S, Wang Z, Verdun RE and Morey L. Methylation of histone H3 lysine 36 is a barrier for therapeutic interventions of head and neck squamous cell carcinoma. *Genes Dev* 38(1-2):46-69, 2024. * 共同筆頭著者

8. Imamura K, Garland W, Schmid M, Jakobsen L, Sato K, Rouvière JO, Jakobsen KP, Burlacu E, Lopez ML, Lykke-Andersen S, Andersen JS, Jensen TH. A functional connection between the Microprocessor and a variant NEXT complex. *Mol Cell*. 2024 Nov 7;84(21):4158-4174
9. Nagasawa S, Kodama M, Hagiwara R, Sakamoto K, Nishiyama K, Arima Y, Kurihara H, Kurokawa J, Sex Differences in The Functional Morphology of Coronary Arteries in Embryonic Mice, *AJP-Heart and Circulatory Physiology*, H1390-H1399, Nov 2024,

【雑誌論文・和文】

1. 真鍋一郎. 血管の老化と慢性炎症. *医学のあゆみ* 289:1062-1065, 2024.
2. 真鍋一郎. 神経系による心臓炎症の制御. *炎症と免疫* 32:67-72, 2024.
3. 真鍋一郎. 心臓と細胞老化. *細胞老化* 42:127-133, 2024.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 真鍋一郎：造血免疫系ストレス記憶による心不全再発と多病への拡大. 第97回日本生化学会大会 2024年11月7日
2. 真鍋一郎：造血免疫系ストレス記憶による多様性縮減と多病. 第47回日本分子生物学会年会 2024年11月27日
3. 真鍋一郎：多病をもたらす造血・自然免疫ストレス記憶. 第45回日本炎症・再生医学会 2024年7月17日
4. 真鍋一郎：多臓器慢性炎症をもたらす造血・自然免疫ストレス記憶. 第67回日本腎臓学会学術総会 2024年6月30日
5. 真鍋一郎：Hematoimmune stress memory in heart failure and multimorbidity. 107th IRCMS Seminar 2024年4月26日
6. 10. Manabe I: Hematopoietic-innate immune memory in heart failure and multimorbidity. 第53回日本免疫学会学術集会 2024年12月5日
7. Manabe I: Innate stress memory in heart failure and multimorbidity. 6th international symposium on trained immunity / innate immune memory 2024年11月14日
8. Manabe I: Epigenetic stress memory in heart

failure and multimorbidity. Dawn of the Precision Medicine Era: Druggable and undruggable KLF/SP factors, phosphatases, and other signaling effectors in human disease 2024年10月20日

9. Manabe I: Innate stress memory in heart failure and multimorbidity. PMU-B Mini-Symposium at Chulalongkorn University 2024年9月6日
10. Manabe I: Hematopoietic-immune memory in heart failure and multimorbidity. 7th Annual 2024 International Hawaii Cardiovascular Symposium 2024年2月9日
11. 中西未央, 第2回「老化の多面的理解に向けた融合の場」にて招待講演
12. 中西未央, 第47回日本分子生物学会年会シンポジウムにて講演
13. 長沢思音, 高脂肪食負荷マウスの心臓と造血に関するシングルセル RNA-seq, 2024年片桐プロジェクト研究発表会、仙台、2024年8月

【学会発表数】

国内学会 14学会 16回（うち大学院生6回）

国際学会 0学会 0回（うち大学院生0回）

【外部資金獲得状況】

1. 挑戦的研究(萌芽)「多種細胞間ネットワークによる共生と組織化機構の解明」代表者：真鍋一郎 2024-2025
2. 基盤研究(B)「造血・免疫系による身体・精神ストレス受容と心不全・multimorbidity 発症機序の解明」代表者：真鍋一郎 2023-2025
3. ムーンショット型研究開発事業「多臓器での炎症・ストレス応答機序の解明と制御」糖尿病併発疾患の未病臓器間ネットワークデータセット構築と解析」代表者：真鍋一郎 2020-2025
4. 基盤研究(C)「骨格筋の線維タイプに着目した新たな心不全治療戦略の開発」分担者：真鍋一郎 2024-2026
5. 上原記念生命科学財団 研究助成「多病をもたらす造血幹細胞ストレス記憶の解明と応用」代表者：真鍋一郎 2024-2025
6. セコム科学技術振興財団 一般研究助成「マウスモデルにおける慢性疾患に起因する造血免疫系への病理的ストレス記憶の機序解明と応用」代表者：真鍋一郎 2024-2028
7. さきがけ(JST)「前駆細胞の脱分化による組織再生メカニズム解明とその制御法の創出」代表者：中西未央 2024-2027
8. 創発的研究支援事業(JST)「前駆細胞の脱分化による組織再生メカニズム解明とその制御法の創出」代表者：中西未央 2022-2031
9. 科研費学術変革領域研究(B) (JSPS)「幹細胞フィロスタシスとその破綻による老化の統合的理解」代表

- 者：中西未央 2023-2025
10. 科研費挑戦的研究(萌芽)(JSPS)「造血オルガノイドをもちいた免疫ヒト化モデルの創出」代表者：中西未央 2024-2025
 11. テルモ生命科学振興財団「造血オルガノイド法による胎児造血器官の試験管内構築とその応用」代表者：中西未央 2024-2025
 12. ビジョナリーリサーチ助成(スタート)(武田科学振興財団)「ヒト造血発生器官を試験管内構築する造血オルガノイド技術の創出」代表者：中西未央 2024-2025
 13. 内藤記念科学奨励金・研究助成「多能性幹細胞から成体造血幹細胞への成熟化誘導法の開発」代表者：中西未央 2023-2024
 14. アステラス病態代謝研究会「多能性幹細胞から成体造血幹細胞への成熟化誘導法開発」代表者：中西未央 2023-2024
 15. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「心臓マクロファージサブセットの機能変容による心臓リモデリング誘導機序の解明」代表者：工藤 藤美 2024-2026
 16. 循環器病研究振興財団 読売テレビチャリティ基金研究助成「心臓マクロファージを起点とした免疫細胞ネットワークによる心不全制御機構の解明」代表者：工藤 藤美 2024
 17. 公益財団法人先進医薬研究振興財団 第23回 若手研究者助成「心不全誘導性エピジェネティックメモリーの同定とその制御機構の解明」代表者：中田雄一郎 2024
 18. 一般社団法人日本血液学会 2024年度研究助成「新規オンコヒストンによるBリンパ腫発症機序の解明」代表者：中田雄一郎 2024
 19. 公益財団法人細胞科学研究財団 令和6年度研究助成「組織間移行を超えて保存されるエピジェネティックメモリーが起因する心不全発症メカニズムの解明」代表者：中田雄一郎 2024-2025
 20. 公益財団法人UBE 学術振興財団 第64回学術奨励賞「心不全を誘発する自然免疫記憶に対するエピゲノム消去戦略の確立」代表者：中田雄一郎 2024
 21. 公益財団法人冲中記念成人病研究所 令和6年度研究助成「2. 心臓マクロファージに刻まれた免疫記憶に着目した心不全に対する新規治療戦略の確立」代表者：中田 雄一郎 2024
 22. 2024年度「放射線災害・医科学研究拠点」共同利用・共同研究「マクロファージが媒介するがん細胞の放射線抵抗性獲得機序の解明」代表者：中田雄一郎 2024
 23. 三島海雲記念財団研究奨励金「肥満の残留リスクをもたらすエピゲノムメモリー機構の解明」代表者：長沢思音 2024

研究領域等名：	人 工 知 能 (AI) 医 学
診療科等名：	_____

●はじめに

近年、医学・生物学領域において、計測技術の進歩により多数のビッグデータが生み出されている。当研究室では、生命現象を理解し、予測・個別化医療に応用するための数理的基盤を確立することを目標に研究を行っている。数理学と医学という分野を越えた専門性をもった研究者、学生とともに様々な数理学手法を導入・改良しながら、医療における課題を解決することのできる人工知能（AI）の開発を進めている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部生を対象にしたスカラーシップ講義・イノベティブ先端治療学・基礎医学ゼミ、AI 数理学入門を担当した。

・大学院教育

大学院生を対象とした革新医療創生 CHIBA 卓越大学院、AI 情報医学特論、遺伝情報応用学特論、ワクチン学特論 Expert コースを担当した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

普遍教育「社会におけるデータサイエンス」を担当しました。また学外については、東京医科大学 FD 講義を担当した。

●研 究

・研究内容

1. システム生物学によるオミクスデータ解析

公共データベースにある膨大なオミクスデータに基づいた制御因子の推定手法を開発している。ネットワーク理論や統計モデルといったシステム生物学的手法に基づいて、臨床、基礎医学において得られる様々なオミクスデータの解析を行っている。

2. 機械学習による層別化と予測

多様性をもつ疾患に対して、機械学習を用いて層別化を行うことで、精度の高い個別予測と従来知られていなかった疾患分類の発見を目指している。

3. ムーンショット型研究開発事業目標 2 のウイルス感染症のプログラムにおいて数理グループのリーダーとして、実験科学と数理学の融合に取り組んでいます。「個別化医療に向けたデータ駆動型医学国際研究拠点」という採択課題において、国際交流を進めている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Shohei Komaki, Yukari Sahoyama, Tsuyoshi Hachiya, Keita Koseki, Yusuke Ogata, Fumiaki Hamazato, Manabu Shiozawa, Tohru Nakagawa, Wataru Suda, Masahira Hattori, Eiryo Kawakami. Dimension reduction of microbiome data linked Bifidobacterium and Prevotella to allergic rhinitis. Scientific reports. 2024;14(1).
2. Akira Morita, Yuta Iida, Yutaka Inaba, Taro Tezuka, Naomi Kobayashi, Hyonmin Choe, Hiroyuki Ike, Eiryo Kawakami. Preoperative prediction for periprosthetic bone loss and individual evaluation of bisphosphonate effect after total hip arthroplasty using artificial intelligence. Bone & Joint Research. 2024;13(4):184-192.
3. Yasuhiro Tagawa, Tetsuya Saito, Hideyuki Iwai,

Motohiko Sato, Seiji Noda, Akio Yamamoto, Mineto Ota, Kentaro Endo, Hideyuki Koga, Yasuhiro Takahara, Kazutaka Sugimoto, Ichiro Sekiya, Keishi Fujio, Eiryo Kawakami, Fumitaka Mizoguchi, Shinsuke Yasuda. Immunological medicine. 2024;1-10.

4. Ruka Setoguchi, Tomoya Sengiku, Hiroki Kono, Eiryo Kawakami, Masato Kubo, Tadashi Yamamoto, Shohei Hori. Memory CD8 T cells are vulnerable to chronic IFN- γ signals but not to CD4 T cell deficiency in MHCII-deficient mice. Nature communications. 2024;15(1)4418.

5. Ryoichi Ishibashi, Masaya Koshizaka, Yoko Takatsuna, Tomoaki Tatsumi, Yoshiro Maezawa, Yuki Shiko, Yosuke Inaba, Yohei Kawasaki, Yusuke Kashiwagi, Eiryo Kawakami, Shuichi Yamamoto,

- Koutaro Yokote. Sodium-glucose cotransporter2 inhibitor therapy reduces the administration frequency of steroid injection in patients with diabetic macular edema: A cohort study using the Japanese health insurance claims database. 2024;15(9):1231-1238.
6. Shinichi Sakamoto, Kodai Sato, Takahiro Kimura, Yoshiyuki Matsui, Yusuke Shiraishi, Kohei Hashimoto, Hideaki Miyake, Shintaro Narita, Jun Miki, Ryuji Matsumoto, Takuma Kato, Toshihiro Saito, Ryotaro Tomida, Masaki Shiota, Akira Joraku, Naoki Terada, Shigetaka Suekane, Tomoyuki Kaneko, Shuichi Tatarano, Yuko Yoshio, Takayuki Yoshino, Naotaka Nishiyama, Eiryo Kawakami, Tomohiko Ichikawa, Hiroshi Kitamura. PSA doubling time 4.65 months as an optimal cut-off of Japanese nonmetastatic castration-resistant prostate cancer. *Scientific reports*. 2024;14(1):15307.
7. Yoshihiko Shitara, Ryo Konno, Masahito Yoshihara, Kohei Kashima, Atsushi Ito, Takeo Mukai, Goh Kimoto, Satsuki Kakiuchi, Masaki Ishikawa, Tomo Kakiyama, Takeshi Nagamatsu, Naoto Takahashi, Jun Fujishiro, Eiryo Kawakami, Osamu Ohara, Yusuke Kawashima, Eiichiro Watanabe. Host-derived protein profiles of human neonatal meconium across gestational ages. *Nature communications*. 2024;15(1):5543.
8. Masao Iwagami, Ryota Inokuchi, Eiryo Kawakami, Tomohide Yamada, Atsushi Goto, Toshiki Kuno, Yohei Hashimoto, Nobuaki Michihata, Tadahiro Goto, Tomohiro Shinozaki, Yu Sun, Yuta Taniguchi, Jun Komiyama, Kazuaki Uda, Toshikazu Abe, Nanako Tamiya. Comparison of machine-learning and logistic regression models for prediction of 30-day unplanned readmission in electronic health records: A development and validation study. *PLOS digital health*. 2024;3(8):e0000578.
9. Shinji Izuka, Natsuka Umezawa, Toshihiko Komai, Yusuke Sugimori, Naoki Kimura, Fumitaka Mizoguchi, Yuichiro Fujieda, Keita Ninagawa, Takeshi Iwasaki, Katsuya Suzuki, Tsutomu Takeuchi, Koichiro Ohmura, Tsuneyo Mimori, Tatsuya Atsumi, Eiryo Kawakami, Akari Suzuki, Yuta Kochi, Kazuhiko Yamamoto, Shinsuke Yasuda, Tomohisa Okamura, Mineto Ota, Keishi Fujio. Muscle Tissue Transcriptome of Idiopathic Inflammatory Myopathy Reflects the Muscle Damage Process by Monocytes and Presence of Skin Lesions. *Arthritis & rheumatology (Hoboken, N.J.)*. 2024;77(1):99-106.
10. Hayato Tanabe, Masahiro Sato, Akimitsu Miyake, Yoshinori Shimajiri, Takafumi Ojima, Akira Narita, Haruka Saito, Kenichi Tanaka, Hiroaki Masuzaki, Junichiro J Kazama, Hideki Katagiri, Gen Tamiya, Eiryo Kawakami, Michio Shimabukuro. Machine learning-based reproducible prediction of type 2 diabetes subtypes. *Diabetologia*. 2024;67:2446-2458.
11. Takashi Kanaya, Toshi Jinnohara, Sayuri Sakakibara, Naoko Tachibana, Takaharu Sasaki, Tamotsu Kato, Marc Riemann, Jianshi Jin, Katsuyuki Shiroguchi, Eiryo Kawakami, Hiroshi Ohno. RelB and C/EBP α critically regulate the development of Peyer's patch mononuclear phagocytes. *Mucosal immunology*. 2024;18(1):151-161.
12. Yuki Taki, Takashi Kono, Kyoko Teruyama, Takamasa Ichijo, Ikki Sakuma, Hidekazu Nagano, Hiroka Miyagawa, Satomi Kono, Masanori Fujimoto, Naoko Hashimoto, Masataka Yokoyama, Eiryo Kawakami, Takashi Miki, Tomoaki Tanaka. Comparative analysis of aldosterone and renin assays for primary aldosteronism screening. *Scientific reports*. 2024;14(1):26040.
13. Tatsuma Matsuda, Takashi Kono, Yuki Taki, Ikki Sakuma, Masanori Fujimoto, Naoko Hashimoto, Eiryo Kawakami, Noriaki Fukuhara, Hiroshi Nishioka, Naoko Inoshita, Shozo Yamada, Yasuhiro Nakamura, Kentaro Horiguchi, Takashi Miki, Yoshinori Higuchi, Tomoaki Tanaka. Deciphering craniopharyngioma subtypes: Single-cell analysis of tumor microenvironment and immune networks. *iScience*. 2024;27(11):111068.
14. Shuhei Sugaya, Masashi Uchida, Takaaki Suzuki, Eiryo Kawakami, Itsuko Ishii. Development of a robust predictive model for neutropenia after esophageal cancer chemotherapy using GLMMLasso. *International journal of clinical pharmacy*. 2024;47:990-1000.
15. Kodai Sato, Shinichi Sakamoto, Shinpei Saito, Hiroki Shibata, Yasutaka Yamada, Nobuyoshi Takeuchi, Yusuke Goto, Sazuka Tomokazu, Yusuke Imamura, Tomohiko Ichikawa, Eiryo Kawakami. Time-dependent personalized prognostic analysis by machine learning in biochemical recurrence after radical prostatectomy: a retrospective cohort study. *BMC cancer*. 2024;24(1):1446.
16. Sayo Maeno, Yoshinori Oie, Ryota Koto, Nozomi Nishida, Arisa Yamashita, Michika Yoshioka, Chifune Kai, Takeshi Soma, Shizuka Koh, Masahito Yoshihara, Ryo Kawasaki, Vishal Jhanji,

- Masayuki Nakamori, Motokazu Tsujikawa, Kohji Nishida. Comparison of Scheimpflug and Anterior Segment Optical Coherence Tomography Imaging Parameters for Japanese Patients With Fuchs Endothelial Corneal Dystrophy With and Without TCF4 Repeat Expansions. *Cornea*. 2024;43(7):805-811.
17. Andrea Coschiera, Masahito Yoshihara, Gilbert Lauter, Sini Ezer, Mariangela Pucci, Haonan Li, Alan Kavšek, Christian G Riedel, Juha Kere, Peter Swoboda. Primary cilia promote the differentiation of human neurons through the WNT signaling pathway. *BMC biology*. 2024;22(2):48.
 18. Yoshihiko Shitara, Ryo Konno, Masahito Yoshihara, Kohei Kashima, Atsushi Ito, Takeo Mukai, Goh Kimoto, Satsuki Kakiuchi, Masaki Ishikawa, Tomo Kakiyama, Takeshi Nagamatsu, Naoto Takahashi, Jun Fujishiro, Eiryo Kawakami, Osamu Ohara, Yusuke Kawashima, Eiichiro Watanabe. Host-derived protein profiles of human neonatal meconium across gestational ages. *Nature communications*. 2024;15(1):5543.
 19. Matthias Hörtenhuber, Marjo K Hytönen, Abdul Kadir Mukarram, Meharji Arumilli, César L Araujo, Ileana Quintero, Pernilla Syrjä, Niina Airas, Maria Kaukonen, Kaisa Kyöstilä, Julia Niskanen, Tarja S Jokinen, Faezeh Mottaghitlab, Işıl Takan, Noora Salokorpi, Amitha Raman, Irene Stevens, Antti Iivanainen, Masahito Yoshihara, Oleg Gusev, Danika Bannasch, Antti Sukura, Jeffrey J Schoenebeck, Sini Ezer, Shintaro Katayama, Carsten O Daub, Juha Kere, Hannes Lohi. The DoGA consortium expression atlas of promoters and genes in 100 canine tissues. *Nature communications*. 2024;15(1):9082.
 20. Mats Perk, Arun Isaac, Tazro Ohta, Egon Willighagen, Leyla Jael Castro, Toshiaki Katayama, Pjotr Prins. Metadata handling for BioHackathon publications through BioHackrXiv. 2024.
 21. Zhaonan Zou, Tazro Ohta, Shinya Oki. ChIP-Atlas 3.0: a data-mining suite to explore chromosome architecture together with large-scale regulome data. *Nucleic Acids Research*. 2024;52(W1):W45-W53.
 22. Yuka MASAMURA, Ryuichi KUBO, Yuki MIDORIKAWA, Natsuko O SHINOZAKI, Satoshi WATANABE, Sayumi MAEKAWA, Aya K TAKEDA, Tazro OHTA. Differences in the human gut microbiota with varying depressive symptom severity scores. *Bioscience of Microbiota, Food and Health*. 2024;43(4):336-341.
 23. Xuan Wang, Huiling Zeng, Li Li, Lihua Xu, Jianxin Li, Wenchao Gu, Chuyue Shen, Xiang Li, Weijun Shi, Li Xie. Nutritional guidance needs and influence factors for gastric cancer survivors in primary healthcare setting: a cross-sectional survey. *Supportive care in cancer : official journal of the Multinational Association of Supportive Care in Cancer*. 2024;32(12):783.
 24. Dongqiang Zeng, Yiran Fang, Wenjun Qiu, Peng Luo, Shixiang Wang, Rongfang Shen, Wenchao Gu, Xiatong Huang, Qianqian Mao, Gaofeng Wang, Yonghong Lai, Guangda Rong, Xi Xu, Min Shi, Zuqiang Wu, Guangchuang Yu, Wangjun Liao. Enhancing immuno-oncology investigations through multidimensional decoding of tumor microenvironment with IOBR 2.0. *Cell Reports Methods*. 2024;4(12):100910.
 25. Yuki Takakura, Moeka Machida, Natsumi Terada, Yuka Katsumi, Seika Kawamura, Kenta Horie, Maki Miyauchi, Tatsuya Ishikawa, Nobuko Akiyama, Takao Seki, Takahisa Miyao, Mio Hayama, Rin Endo, Hiroto Ishii, Yuya Maruyama, Naho Hagiwara, Tetsuya J. Kobayashi, Naoto Yamaguchi, Hiroyuki Takano, Taishin Akiyama, Noritaka Yamaguchi. Mitochondrial protein C15ORF48 is a stress-independent inducer of autophagy that regulates oxidative stress and autoimmunity. *Nature Communications*. 2024;15:953.
 26. Yuya Maruyama, Yusuke Ohsawa, Takayuki Suzuki, Yuko Yamauchi, Kohsuke Ohno, Hitoshi Inoue, Akitoshi Yamamoto, Morimichi Hayashi, Yuji Okuhara, wataru wamuramatsu, Kano Namiki, Naho Hagiwara, Maki Miyauchi, Takahisa Miyao, Tatsuya Ishikawa, Kenta Horie, Mio Hayama, Nobuko Akiyama, Takatsugu Hirokawa, Taishin Akiyama. Pseudoirreversible inhibition elicits persistent efficacy of a sphingosine 1-phosphate receptor 1 antagonist. *Nature Communications*. 2024;15:5743.
 27. Takafumi Tanei, Yutaro Fuse, Satoshi Maesawa, Yusuke Nishimura, Tomotaka Ishizaki, Yoshitaka Nagashima, Manabu Mutoh, Yoshiki Ito, Miki Hashida, Takahiro Suzuki, Syun Yamamoto, Toshihiko Wakabayashi, Ryuta Saito. Real-world clinical results of CGRP monoclonal antibody treatment for medication overuse headache of migraine without abrupt drug discontinuation and no hospitalization. *Heliyon*. 2024;10(22):e40190.

28. Osamu Kumano, Shinya Suzuki, Masako Yamazaki, Yoshimori An, Masahiro Yasaka, Masahiro Ieko, Mayumi Sasaki, Kazumi Matsuda, Kazuo Kitagawa, Tsuyoshi Shiga, Hitomi Miura, Takako Tamura, Maki Kondo, Masaharu Akao, Chika Kamata, Yoshinobu Masuda, Tomoko Mitsunashi, Masanori Tomoda, Ryuuta Tomoyose, Akihiko Nishiura, Mihoko Maeda, Kazumasa Ohmura, Sumiyoshi Naito, Mayumi Shitamichi, Hiroko Juraku, Daiki Hatanaka, Keisuke Kitano, Nobuo Arai, Hidenari Takaoka, Hiroshi Kanda. Age-related variation in coagulation factors in non-valvular atrial fibrillation patients receiving direct oral anticoagulants. *International Journal of Hematology*. 2024;119(4): 407-415.

【雑誌論文・和文】

1. 本間甲也, 永井達也, 川俣勇人, 吉原正仁, 川上英良, 馬場隆之. 大規模深層学習モデルを用いた網膜色素変性の診断と予後予測. *日本眼科 AI 学会総会抄録集*. 2024;5th : 26
2. 渡辺栄一郎, 設楽佳彦, 紺野亮, 吉原正仁, 柿原知, 高橋尚人, 藤代準, 川上英良, 小原収, 川島祐介. 網羅的タンパク質解析技術を用いた胎便タンパク質解析研究. *日本小児外科学会雑誌*. 2024;60(2): 209-210.
3. 植田由依, 吉原正仁, 飯島雄太, 遠藤真美子, 大曾根義輝, 濱田洋通, 川上英良, 照井慶太. 新生児全身 X 線画像の AI 画像解析による疾患スクリーニングシステムの構築. *日本周産期・新生児医学会雑誌*. 2024;60 (Suppl.1):281.
4. 小口真司, 石川哲朗, 華井明子, 加藤大吾, 板倉昭二, 奥野昌子, 渡部基信, 桜田一洋, 川上英良. 小児の睡眠ダイナミクス: 非負値テンソル分解を用いた日内・日間変動の包括的分析. *日本小児科学会雑誌*. 2024;128(2):298.
5. 川上英良. データサイエンスと AI が加速する生物・医科学研究. *日本生化学会大会*. 2024;97th : 3S12e-02.
6. 園部真也, 新妻邦泰, 永井新, 竹内洋平, 田宮元, 岩崎淳也, 宮内誠, 小林智哉, 高屋英知, 川上英良, 石川哲朗, 遠藤英徳. 臨床医が AI 技術を理解する意義. *日本脳神経血管内治療学会学術集会抄録集*. 2024;40th : 141.
7. 小野慎子, 笹井美和, 高田光輔, 小嶋泰弘, 七戸新太郎, 田鉄修平, 上村健太郎, 池原早苗, 東和彦, 大木翔太, 渡辺登喜子, 山本雅裕, 川上英良, 島村徹平, 池原譲, 松浦善治. マウス感染モデルを用いた SARS-CoV-2 重症化因子の解析. *日本ウイルス学会学術集会プログラム・予稿集*. 2024;71st.
8. 島袋充生, 田辺隼人, 田中健一, 益崎裕章, 風間順一郎, 片桐秀樹, 川上英良, 田宮元. 日本人糖尿病のクラスター分類の試み. *糖尿病*. 2024;67 (Suppl) : S.45.
9. 田辺隼人, 佐藤雅紘, 島尻佳典, 三宅顕光, 小嶋崇史, 成田暁, 城間かおり, 根本雄飛, 山口瑞希, 滝口善規, 堀田悠貴, 渡邊桐子, 齋藤悠, 鴻野央征, 田中健一, 風間順一郎, 片桐秀樹, 田宮元, 川上英良, 島袋充生. クラスタリングに基づく 2 型糖尿病サブタイプを予測する機械学習モデルの開発: 高い再現性と臨床応用を目指して. *糖尿病*. 2024;67 (Suppl) : S.265.
10. 川上英良. AI が創るデータ駆動型医療の未来像. *和漢医薬学会学術大会要旨集*. 2024;41st : 48.
11. 川上英良. 消化器領域の研究において AI はどこまで活用されるのか? 医療分野での人工知能 (AI) の活躍と進化. *消化器病学サイエンス*. 2024;8(3): 150-153.
12. 川上英良. 人工知能技術を用いた疾患の予防・診断・治療. *日本医薬品情報学会総会・学術大会講演要旨集*. 2024;26th : 49.
13. 中川直, 森光平, 下垣和香, 城田真輝, 山脇洋輔, 北川恭子, 川上英良, 小澤孝一郎, 細井徹. アルデヒド代謝酵素 ALDH2 の機能不全によるエピソード制御の破綻. *日本薬学会年会要旨集*. 2024;144th : 29-414-pm11.
14. 野村彩乃, 川崎洋, 川崎洋, 種瀬啓士, 川上英良, 天谷雅行. アトピー性皮膚炎の皮膚組織 RNA-seq 解析による疾患モニタリングのバイオマーカーの同定. *日本皮膚科学会雑誌*. 2024;134(5):1251.
15. 嶋崎悠斗, 山崎昌子, 川上英良, 石川哲朗, 近藤真樹, 熊野穰, 藤森祐多, 涌井昌俊, 家子正裕, 橋口照人. 凝固波形の施設間差および DOACs 低濃度を予測する指標の探索(凝固線溶検査部会多施設共同研究). *日本血栓止血学会誌*. 2024;35(2):349.
16. 川上英良. 生体信号解析から捉える気づきと違和感. 計測と制御. 2024;63(5):266-271.
17. 嶋崎悠斗, 山崎昌子, 川上英良, 石川哲朗, 近藤真樹, 北川一夫, 藤森祐多, 涌井昌俊, 家子正裕, 橋口照人. 凝固波形における DOACs 低濃度を予測する指標の探索(凝固線溶検査部会多施設共同研究). *日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム*. 2024;18th : 46.
18. 川上英良. AI と共創する内科診療の未来. *日本内科学会雑誌*. 2024;113:104-105.
19. 川上英良. オルガノイド生命医科学研究が生み出す新領域の萌芽 3. オルガノイド技術と AI が加速する精密医療. *実験医学*. 2024;42(5):832-837.
20. 田辺隼人, 佐藤雅紘, 島尻佳典, 三宅顕光, 小嶋崇史, 成田暁, 城間かおり, 根本雄飛, 山口瑞希, 滝口善規, 堀田悠貴, 渡邊桐子, 齋藤悠, 鴻野央征,

- 田中健一, 風間順一郎, 片桐秀樹, 田宮元, 川上英良, 島袋充生. クラスタリングに基づく2型糖尿病サブタイプを予測する機械学習モデルの開発 高い再現性と臨床応用を目指して. 糖尿病. 2024;67 (Suppl.1):265.
21. 島袋充生, 川辺隼人, 田中健一, 益崎裕章, 風間順一郎, 片桐秀樹, 川上英良, 田宮元. アジア型糖尿病は存在するか? 遺伝的および疫学的特徴から日本人糖尿病のクラスター分類の試み. 糖尿病. 2024;67 (Suppl.1):45.
22. 吉原正仁. ヒト多能性幹細胞を用いた8細胞期胚様細胞(8CLCs)の作製. 日本分子生物学会年会プログラム・要旨集. 2024;47th:3PS-02-09.
23. 露崎弘毅. 行列・テンソル分解によるヘテロバイオデータ統合解析の数理解説-第5回 ランダムウォーク-. JSBi Bioinformatics Review. 2024;5(1):1-15.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表(一般の学会発表は除く)】

1. Eiryo Kawakami. Elucidating the heterogeneity and dynamics of diseases with data-driven approach. Tubingen-Chiba Joint Symposium. Tubingen. 2024.1.15 (招待講演)
2. Tazro Ohta. Biological Data Analysis Reproducibility in the Era of Diverse Workflow Languages. Tubingen-Chiba Joint Symposium. Tubingen. 2024.1.15 (招待講演)
3. Kenta Horie. Acute irradiation causes a long-term disturbance in the heterogeneity and gene expression profile of medullary thymic epithelial cells. Tubingen-Chiba Joint Symposium. Tubingen. 2024.1.15 (招待講演)
4. Natsuko Ohtaki. Activation of ILC2s through constitutive IFN γ signaling reduction leads to spontaneous pulmonary fibrosis. Tubingen-Chiba Joint Symposium. Tubingen. 2024.1.15 (招待講演)
5. Eiryo Kawakami. Deciphering the Diversity of Immune Responses to Vaccines. cMAV-cSIMVa Workshop. Yokohama. 2024.1.20 (招待講演)
6. Eiryo Kawakami. AMED SCARDA「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」合同シンポジウム. 京都. 2024年2月2日 (招待講演)
7. Eiryo Kawakami. Decipher heterogeneity of human health and real-world using machine learning. WPI-PRIME Seminar Series. Osaka. 2024.2.14. (招待講演)
8. 川上英良. 慢性疾患研究におけるAI・機械学習の活用. 第31回日本逆流性腎症フォーラム・学術集会. オンライン. 2024年2月17日. (招待講演)
9. 川上英良. AIと共創する内科診療の未来. 第121回日本内科学会講演会. 東京. 2024年4月13日. (招待講演)
10. Zhao Xuyang. AI-based Diagnosis and Treatment-aid for Epilepsy. Chiba-Tubingen Joint Seminar. Chiba. 2024.5.13. (招待講演)
11. 川上英良. AI・データサイエンスを用いた医学・ヘルスケア研究. 福島医大セミナー. 福島. 2024年6月11日. (招待講演)
12. 川上英良. 人工知能技術を用いた疾患の予防・診断・治療. 第26回日本医薬品情報学会総会・学術大会. 千葉. 2024年6月2日. (招待講演)
13. 川上英良. 機械学習生存時間解析および深層マルコフモデル. 第1回 プロジェクト横断型 数理連携研究会. 東京. 2024年6月12日. (招待講演)
14. 川上英良. 医学研究における人工知能の応用. 岡山大学医学部DXセミナー. 岡山. 2024年6月21日. (招待講演)
15. 川上英良. 第45回日本炎症・再生医学会. 機械学習を用いた感染症の層別化と予測. 福岡. 2024年7月18日. (招待講演)
16. 川上英良. AIが創るデータ駆動型医療の未来像. 第41回和漢医薬学会学術大会. オンライン. 2024年8月24日. (招待講演)
17. 川上英良. ネットワーク解析と数理モデルに基づく免疫応答ダイナミクスの層別化. JST MS班会議(目標2). 2024年8月29日. (招待講演)
18. 川上英良. がん研究におけるAIを用いたデータ解析. Oncology Crosstalk Symposium 2024. 東京. 2024年9月4日. (招待講演)
19. 川上英良. 数理医学 in Mathematical Biology I. 2024年度日本数理生物学会年会. 2024年9月11日. (招待講演)
20. 川上英良. 医療・医学研究における人工知能AIの活用. 開成健児の会. 千葉. 2024年10月23日. (招待講演)
21. 吉原正仁. ヒト多能性幹細胞を用いた8細胞期胚様細胞(8CLCs)の作製. 第47回日本分子生物学会年会 シンポジウム:[3PS-02] 多能性幹細胞を用いた研究の最新展開. 福岡. 2024年11月29日. (招待講演)

【学会発表数】

国内学会 5回(うち大学院生5回)

国際学会 1回(うち大学院生0回)

【外部資金獲得状況】

1. 日本学術振興会研究拠点形成事業「個別化医療に向けたデータ駆動型医学国際研究拠点」代表者: 川上英良 2020-2024
2. 科学技術振興会ムーンショット型研究開発機構「ウイルス-人体相互作用ネットワークの理解と制御」分担者: 川上英良 2020-2025

3. 日本学術振興会科学研究費助成事業 挑戦的研究 (萌芽)「数理科学と医療管理学を融合した新興感染症の推計モデルと医療資源配分手法の開発」分担者：川上英良 2021-2024
4. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)「リキッドバイオプシーと AI 活用による泌尿器科がん発現トランスポーター分子標的創薬」分担者：川上英良 2021-2024
5. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(A)「リアルタイム生活情報の AI 解析による革新的高齢者ケア改善システムの確立」分担者：川上英良 2021-2025
6. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「人工知能を用いた凝固検査における直接阻害型経口抗凝固薬血中濃度の指標の探索」分担者：川上英良 2022-2025
7. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)「骨癒合促進特化型ユニバーサル iPS 血小板製剤の開発」分担者：川上英良 2022-2027
8. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「人工知能(AI)を用いた死後 CT 学習による死因究明支援」分担者：川上英良 2023-2026
9. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「人工知能を用いた人工股関節全置換術後の深部静脈血栓塞栓症の発生予測に関する研究」分担者：川上英良 2023-2026
10. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「人工知能による人工股関節置換術後インプラント周囲骨吸収の個別予測アルゴリズム構築」分担者：川上英良 2023-2026
11. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)「AI を用い成人末梢血シングルセルデータを参照した小児 SLE の免疫遺伝学的特性の解明」分担者：川上英良 2023-2026
12. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)「骨癒合促進特化型ユニバーサル iPS 血小板製剤の開発」分担者：川上英良 2023-2027
13. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「Cell-free RNA を用いた全身の細胞の状態を反映した多臓器障害サブフェノタイプング」分担者：川上英良 2024-2026
14. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「新生児 X 線画像の AI 画像解析による疾患スクリーニングシステムの構築」分担者：川上英良 2024-2026
15. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「致死性前立腺癌に対するアミノ酸トランスポーターを基軸とした包括的治療戦略」分担者：川上英良 2024-2026
16. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)「貫通した消化管の起源をウニ幼生から探る」分担者：露崎弘毅 2022-2026
17. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)「バルクエピゲノムデータにおける Cell-type Deconvolution 法の確立」代表者：露崎弘毅 2023-2028
18. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)「質量分析データリポジトリの大規模再解析による代謝研究基盤の構築」分担者：露崎弘毅 2024-2026
19. 日本学術振興会科学研究費助成事業 挑戦的研究 (開拓)「メタボロミクス研究における細胞系譜解析手法の開拓と応用」分担者：露崎弘毅 2024-2026
20. 日本学術振興会科学研究費助成事業 研究活動スタート支援「肥満による胸腺内 T 細胞選択異常が惹起するがん免疫監視不全」代表者：堀江健太 2023-2025
21. 日本学術振興会科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金(海外連携研究)「細胞分化と多様性獲得におけるエンハンサー格納庫としての Gene Desert の新機能」分担者：堀江健太 2023-2028
22. 日本医療研究開発機構(AMED) 難治性疾患実用化研究事業「フックス角膜内皮ジストロフィーの診療エビデンス創出のための研究」分担者：吉原 正仁 2022-2025
23. 日本学術振興会科学研究費助成事業 研究活動スタート支援「ヒト神経分化モデルにおける網羅的エンハンサー制御アトラスから迫る病態解明」代表者：吉原正仁 2022-2024
24. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究「高深度プロテオーム解析による増殖性硝子体網膜症の病態解明と治療標的探索」代表者：吉原正仁 2023-2025
25. 日本医療研究開発機構(AMED) 再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム「遺伝子治療実現に向けたヒト黄斑オルガノイドの開発」分担者：吉原正仁 2023-2026
26. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究「大規模言語モデルを用いた生物試料情報の標準化」代表者：大田達郎 2024-2025
27. さきがけ [生命力の二面性] 時空間マルチスケール計測に基づく生物の復元あるいは多様化を実現する機構の解明「慢性疾患における細胞間相互作用カタログ・多様化経路マップの作成」代表者：大瀧夏子 2024-2027
28. 公益財団法人武田科学振興財団 2024 年度医学系研究助成「深層学習 と Radiomics を用いた医用画像解析による手術後非機能性膵臓神経内分泌腫瘍肝臓転移予測法の開発」代表者：顧文超 2024-2028
29. 日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究

「頭頸部癌微小環境内の三次リンパ組織様構造をターゲットとした Radiomics 解析」代表者：顧文超 2024-2026

30. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B)「筋疾患に対する幹細胞個別化医療の実現に向けた

骨格筋幹細胞の運命制御機構の解明」分担者：顧文超 2024-2028

【受賞歴】

1. 植田由依. 2024 年度第 6 回日本メディカル AI 学会学術集会 優秀一般演題賞受賞

●地域貢献

感染症に関する一般向けのトークイベントを実施し、感染症と異分野の融合研究により研究がどのように進展したのかについて広く知ってもらう機会を創出した。

- ・川上英良、潤間励子、高橋明子. トークセッション「感染症×〇〇」vol.1 感染症×データサイエンス. 2024 年 1 月 5 日
- ・池原譲、高橋明子. トークセッション「感染症×〇〇」vol.2 感染症×イメージング. 2024 年 5 月 1 日
各界で活躍するリーダーが集まる G1 サミットにて、AI 時代に日本が採るべき戦略について講演した。
- ・川上英良. AI 時代の日本の戦い方 ～日本の勝ち筋と未来を考える～. G1 サミット. 2024 年 2 月 23 日
個別化医療・予防医療の発展が今後のがん治療に与える影響について解説を行った。
- ・川上英良. BS-TBS 関口宏のこの先どうなる #21「がん治療」. 2024 年 9 月 8 日.
疾患の超早期予測・予防が進んだ社会の姿について考えるワークショップに登壇した。
- ・高橋明子. みんなの声で未来をつくる！2050 年の医療のすがた. サイエンスアゴラ. 2024 年 10 月 25 日.

●その他

千葉大学プレスリリース

- ・吉原正仁, 設楽佳彦, 渡辺栄一郎, 川島祐介, 紺野亮. 新生児のうんち（初回胎便）のタンパク質組成を解明－性別、在胎週数、疾患の有無で異なる－. 2024 年 7 月 17 日.
- ・川上英良. 機械学習による 2 型糖尿病の新たなサブタイプ分類手法の開発～日常臨床データだけで高精度な分類・予測が可能に～. 2024 年 10 月 17 日.

研究領域等名：	
診療科等名：	感染症内科／感染制御部

●はじめに

第二種感染症指定医療機関として、ひがし棟3階の感染症病床5床の管理している。2020年1月以来、COVID-19の診療を行ってきた。しかし、2023年5月8日より感染症法上の5類移行に対応して、ひがし3階の専用病棟をなくした。2024年5月8日より、ユニバーサlmasking（常時マスク着用を求める）ことを緩和し、選択・継続的マスク着用（感染症の流行の有無にかかわらず、患者ケアを行うエリアで勤務中、全ての医療従事者、患者、訪問者がサージカルマスクを着用）へ変更した。

ICT（インфекションコントロールチーム）とAST（抗菌薬適正使用チーム）を組織し、院内感染に関わる活動、抗菌薬の適正使用に関わる活動を行っている。

感染症内科では、HIV感染症・真菌症専門外来等の感染症の診療を行っている。エイズ中核拠点病院として、千葉県HIV拠点病院会議を主催している。HIVのPrEP（曝露前予防）も開始した。

千葉県院内感染対策地域ネットワークを運営し、千葉県内の病院、保健所との連携の中心的役割を果たしている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

以下の講義や実習を通して、院内感染対策や感染症の教育を行っている。

手洗い実習（医師・看護師全員で対応）：OSCEに準拠した指導・教育を行った。

感染ユニット（科目担当：谷口、授業担当：猪狩、渡邊、石和田、谷口、矢幅、吉川）感染症に関する教育を行った。

スカラーシップ・ベーシック（谷口）

CCベーシック（院内感染予防：吉川、細菌実習：医師全員）

OSCE課題責任者（感染）

・卒後教育／生涯教育

新採用職員の感染対策教育、医療従事者の感染対策教育を実施している。これらは、規制当局からも100%受講を求められる案件であり、医事課医療安全室の支援で実施している。

毎月数名の初期研修医及び後期研修医が当科をローテーションする。研修医に対してはコンサルテーション業務やICT業務などの中での指導を通して実践的な感染症診療に関しての教育を行う他、定期的な勉強会、抄読会等も行っている。

医学研究院 「ワクチン学・感染症学特論 Essential」

薬学部講義：抗真菌薬、看護学部 真菌症、普遍教育では、感染症に関連するテーマで、幅広く感染症に関連する教育を行っている。

医学薬学府（医学領域）新規感染症と「ワンヘルス」 感染症総論・COVID-19の発生と日本の対応について

・大学院教育

博士課程：千葉大学大学院医学薬学府 医学薬学専攻（呼吸器内科学）の「Mixed-methods education of mechanical ventilation for residents in the era of the COVID-19 pandemic」（COVID-19パンデミック時代における研修医に対する複数手法を組み合わせた人工呼吸管理教育）の主査を務めた。

修士課程：「生体防御医学特論」講義

博士課程大学院生2名の受入

ブラジルからの研究生2名の受入

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

普遍教育：現代医学（感染症、特に国際保健で問題となるHIVや性感染症など）

普遍教育：「微生物とヒトのサイエンス」

普遍教育：国際科目（基礎）

教育学部：海外渡航研修

薬学部講義：抗真菌薬、看護学部 真菌症、普遍教育では、感染症に関連するテーマで、幅広く感染症に関連する教育を行っている。

国際科目：世界の健康問題～感染症の視点から～ /Global Health and Infectious Diseases

●研 究

・研究内容

COVID-19 の研究 2020 年の新型コロナウイルス感染症のパンデミック以降、未来粘膜ワクチンセンターや災害治療学研究所との共同研究も行った。また、重症化のメカニズムを解明するため、診療科横断的な研究体制で、臨床研究を進めた。2024 年は、肺移植後の免疫抑制患者から分離されたレムデシビル耐性遺伝子変異の論文を Nature Communications に掲載した。

粘膜ワクチンセンター・cSIMVa にて、新型コロナウイルスに感染した免疫抑制宿主の慢性持続感染とウイルスの変異について分析を行っている。

新型コロナウイルスのワクチン接種後の抗体価変動についての分析を行った。

抗菌薬の適正使用についてナショナルデータベースの研究を行っている。

真菌部門・アスペルギルスの原因菌に関する研究：菌種及び耐性株の疫学、耐性機序の解明、病原性、耐性化の予防および耐性株の治療法に関する開発研究・医療施設内の真菌の分布及び真菌による院内感染防止に関する研究を行っている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Sakai Y, Taniguchi T, Herai Y, Yahaba M, Watanabe A, Kamei K, Igari H: Fungemia With *Wickerhamomyces anomalus*: A Case Report and Literature Review. *Cureus*. 2024;16(2):e53550.
2. Aoki A, Iwamura C, Kiuchi M, Tsuji K, Sasaki A, Hishiya T, Hirasawa R, Kokubo K, Kuriyama S, Onodera A, Shimada T, Nagaoka T, Ishikawa S, Kojima A, Mito H, Hase R, Kasahara Y, Kuriyama N, Nakamura S, Urushibara T, Kaneda S, Sakao S, Nishida O, Takahashi K, Kimura MY, Motohashi S, Igari H, Ikehara Y, Nakajima H, Suzuki T, Hanaoka H, Nakada TA, Kikuchi T, Nakayama T, Yokote K, Hirahara K: Suppression of Type I Interferon Signaling in Myeloid Cells by Autoantibodies in Severe COVID-19 Patients. *J Clin Immunol*. 2024;44(4):104.
3. Igari H, Sakao S, Ishige T, Saito K, Murata S, Yahaba M, Taniguchi T, Suganami A, Matsushita K, Tamura Y, Suzuki T, Ido E: Dynamic diversity of SARS-CoV-2 genetic mutations in a lung transplantation patient with persistent COVID-19. *Nat Commun*. 2024;15(1):3604.
4. Hirabayashi R, Nakayama H, Yahaba M, Yamanashi H, Kawasaki T: Japanese TB Clinical Practice Guideline Systematic Review Task Force: Utility of interferon-gamma releasing assay for the diagnosis of active tuberculosis in children: A systematic review and meta-analysis. *J Infect Chemother*. 2024;30(6):516-525.
5. Murata S, Hayashi H, Ido E, Igari H: Gastrointestinal bacteria growth inhibition by a toilet sanitary good for disaster shelter. *J Infect Chemother*. 2024;9:S1341-321X(24)00328-3.
6. Yahaba M, Asano H, Saito K, Murata S, Kawasaki K, Chiba H, Yokota S, Yoshikawa H, Herai Y, Yamagishi K, Shiko Y, Matsushita K, Hanaoka H, Taniguchi T, Yokote K, Nakajima H, Ido E, Igari H: Antibody Responses and Infection Prevention following the Sixth Vaccination using the BA.1 bivalent COVID-19 vaccine among Healthcare workers during the XBB variant Dominance in Japan. *Jpn J Infect Dis*. 2024;Nov 29.
7. Yamazaki Y, Ito T, Nakagawa S, Sugihira T, Kurita-Tachibana C, Villaruz AE, Ishiguro K, Salcman B, Li S, Takada S, Inohara N, Kusuya Y, Shibata A, Tamai M, Aoyama R, Inoue K, Murata S, Matsushita K, Miyabe A, Taniguchi T, Igari H, Ishiwada N, Taniguchi M, Nakada TA, Matsue H, Fujimoto M, Hishiki H, Osone Y, Hamada H, Shimojo N, Suzuki T, Otto M, Núñez G, Takahashi H, Takaya A, Nakamura Y: Altered genomic methylation promotes *Staphylococcus aureus* persistence in hospital environment. *Nat Commun*. 2024;15(1):9619.
8. Yokota S, Taniguchi T, Takayanagi S: *Brucella anthrapi* bacteremia: Persistent bacteremia with minimal symptoms. *J Infect Chemother*. 2024;31(3):102595.
9. Taniguchi T, Homma T, Tamai Y, Arita Y, Fujiwara M, Kuroishi N, Sugiyama K, Kanazu S, Maruyama A: Clinical characteristics and COVID-19-related outcomes of immunocompromised patients receiving tixagevimab/cilgavimab pre-exposure prophylaxis in Japan. *J Infect Chemother*. 2024;8:S1341-321X(24)00185-5.

10. Aono K, Maezawa Y, Kato H, Kaneko H, Kubota Y, Taniguchi T, Oshitari T, Motegi SI, Nakagami H, Taniguchi A, Watanabe K, Takemoto M, Koshizaka M, Yokote K:Recommendations for cancer screening and surveillance in patients with Werner syndrome. *Geriatr Gerontol Int*. 2024;24(10):1085-1087.
11. Ishiwada N, Akaishi R, Kobayashi Y, Togo K, Yonemoto N, Matsuo M, Kaneko S, Law AW, Kamei K:Cost-Effectiveness Analysis of Maternal Respiratory Syncytial Virus Vaccine in Protecting Infants from RSV Infection in Japan.*Infect Dis Ther*. 2024;13(7):1665-1682.
12. Mori M, Ito Y, Ishiwada N, Ito K, Shinjoh M, Tsugawa T, Funaki T, Furuichi M, Hoshino T, Miyairi I, Kondo T, Hinoki A, Wada M, Okada K, Korematsu S, Tanuma N, Hasegawa H, Hosoi K, Yoshizaki K, Ishige M; Working Group for 'Guidelines for the use of palivizumab in Japan for additional indications':Risks and Prevention of Severe Respiratory Syncytial Virus Infection among Infants and Children with Pulmonary Hypoplasia, Airway Stenosis, Congenital Esophageal Atresia, Inborn Errors of Metabolism, or Neuromuscular Diseases in Japan.*J Infect Chemother*. 2024;S1341-321X(24)00335-0.
13. Nagasawa K, Ohata M, Igarashi A, Arashiro T, Ogawa T, Ohkusu M, Takeuchi N, Shizuno K, Kurihara E, Yoshida M, Kodama T, Abe K, Hoshino T, Arii J, Takeshita K, Hishiki H, Ota S, Takahashi Y, Omata Y, Nakazawa T, Someya T, Ishiwada N:Prospective hospital-based cohort studies of Respiratory Syncytial Virus (RSV) infections in infants under one year during and after the SARS-CoV-2 pandemic in Japan. *Int J Infect Dis*. 2024 ;149:107252.
14. Nemoto H, Hino M, Aoki T, Yamashita Y, Okunushi T, Nagasawa K, Ishiwada N, Watanabe A, Yamazaki S, Hamada H:Effectiveness of isavuconazole in invasive cerebral aspergillosis during hematopoietic stem cell transplantation in a pediatric patient with myelodysplastic syndrome: A case report. *J Infect Chemother*. 2024 ;S1341-321X(24)00202-2.
15. Itoh N, Akazawa N, Yamaguchi M, Ishibana Y, Murakami H, Ohkusu K, Ohkusu M, Ishiwada N:Pyelonephritis with bacteremia caused by Salmonella Choleraesuis in a Japanese patient with carcinoma of unknown primary origin: A case report. *J Infect Chemother*. 2024;30(11):1170-1174.
16. Takeuchi N, Ishiwada N:Importance of Toxin Genes and Polymerase Chain Reaction-Based Open Reading Frame Type Analyses for Severe Staphylococcus aureus Infection in Children. *Jpn J Infect Dis*. 2024;77(1):59-60.
17. Komiya K, Kudoh R, Kaku N, Shindo Y, Hayashi T, Kasahara K, Oishi T, Ishiwada N, Ito M, Yotsuyanagi H, Hasegawa N, Tateda K, Hotomi M, Yanagihara K:Impact of Educational Films on Antibiotic Prescription among Physicians: A Web-Based Survey in Japan. *Antibiotics (Basel)*. 2024; 13(8):724.
18. Komiya K, Kudoh R, Kaku N, Shindo Y, Hayashi T, Kasahara K, Oishi T, Ishiwada N, Ito M, Yotsuyanagi H, Hasegawa N, Tateda K, Hotomi M, Yanagihara K:Impact of Educational Films on Antibiotic Prescription among Physicians: A Web-Based Survey in Japan. *Antibiotics (Basel)*. 2024;13(8):724.
19. Watanabe T, Hoshino T, Yamamoto S, Kusano T, Mori H, Takeuchi N, Ohkusu M, Ishiwada N:Analysis of toxin-producing and antiseptic resistance genes of methicillin-resistant Staphylococcus aureus isolated from patients in a neonatal intensive care unit. *Am J Infect Control*. 2024;S0196-6553(24)00856-3.
20. Takeuchi N, Ohkusu M, Kusuya Y, Takahashi H, Yamaguchi M, Omata Y, Nakazawa T, Ishiwada N:Comparative genomic and morphological analyses of capsular and capsular-deficient pneumococcal strains simultaneously isolated from a patient with invasive pneumococcal disease.*J Infect Chemother*. 2024 ;S1341-321X(24)00210-1.
21. Tanaka S, Takahashi M, Takeshita K, Nagasawa K, Takei H, Sato H, Hishiki H, Ishiwada N, Hamada H, Kadota Y, Tochio T, Ishida T, Sasaki K, Tomita M, Osone Y, Takemura R, Shimojo N:The prebiotic effect of l-kestose in low-birth-weight neonates taking bifidobacteria: a pilot randomized trial in comparison with lactulose. *Biosci Microbiota Food Health*. 2024;43(4):329-335.
22. Endo M, Ishiwada N, Osone Y, Takemura R, Hamada H, Shimojo N:Effect of multi-strain bifidobacteria supplementation on intestinal microbiota development in low birth weight neonates: a randomized controlled trial. *Biosci Microbiota Food Health*. 2024;43(4):352-358.
23. Sekiguchi R, Takeda K, Suzuki J, Enomoto Y, Kitani M, Narumoto O, Tashimo H, Yamane A, Nagai H, Watanabe A, Kamei K, Matsui H: Chronic

- Pulmonary Aspergillosis Caused by *Aspergillus tubingensis* Diagnosed by a Bronchoscopic Biopsy. *Intern Med* 2024;63(2): 289-292.
24. Kitahara M, Sumi M, Kazumoto H, Shishido T, Ueki T, Hiroshima Y, Kamei K, Kobayashi H: Disseminated Infection by *Scedosporium/Lomentospora* During Induction Therapy for Acute Myeloid Leukemia Complicated by Nontuberculous Mycobacteria. *Intern Med* 2024;63(10): 1465-147.
 25. Muraosa Y, Hino Y, Takatsuka S, Watanabe A, Sakaida E, Saijo S, Miyazaki Y, Yamasaki S, Kamei K: Fungal chitin-binding glycoprotein induces Dectin-2-mediated allergic airway inflammation synergistically with chitin. *PLoS Pathog* 2024;20(1): e1011878.
 26. Khalifa HO, Watanabe A, Kamei K: Antifungal resistance and genotyping of clinical *Candida parapsilosis* complex in Japan. *J Fungi (Basel)* 2024; 10(1): 4.
 27. Pontes L, Arai T, Gualtieri Beraquet CA, Giordano ALPL, Reichert-Lima F, da Luz EA, Fernanda de Sá C, Ortolan Levy L, Tararam CA, Watanabe A, Moretti ML, Zaninelli Schreiber A: Uncovering a Novel *cyp51A* Mutation and Antifungal Resistance in *Aspergillus fumigatus* through Culture Collection Screening. *J Fungi* 2024;10(2): 122.
 28. Miyazaki O, Igarashi A, Sato K, Inoue S, Yokoyama R, Nakane M, Kodama S, Hasegawa R, Ueki S, Yaguchi T, Watanabe A, Watanabe M: Rapidly progressive mucus plugs in allergic bronchopulmonary mycosis. *J Asthma* 2024;61(9): 1103-1108.
 29. Koga S, Takazono T, Namie H, Okuno D, Ito Y, Nakada N, Hirayama T, Takeda K, Ide S, Iwanaga N, Tashiro M, Sakamoto N, Watanabe A, Izumikawa K, Yanagihara K, Tanaka Y, Mukae H: Human $\gamma 9V \delta 2$ T cells exhibit antifungal activity against *Aspergillus fumigatus* and other filamentous fungi. *Microbiol Spectr* 2024;12(4): e0361423.
 30. Khalifa HO, Watanabe A, Kamei K: Genetic mutations in *FKS1* gene associated with acquired echinocandin resistance in *Candida parapsilosis* complex. *Mycopathologia* 2024;189(3): 40.
 31. He X, Kusuya Y, Hagiwara D, Toyotome T, Arai T, Bian C, Nagayama M, Shibata S, Watanabe A, Takahashi H: Genomic diversity of the pathogenic fungus *Aspergillus fumigatus* in Japan reveals the complex genomic basis of azole resistance. *Commun Biol* 2024;7(1): 274.
 32. Takayama T, Inoda S, Watanabe A, Kawashima H: *Nigrospora oryzae* causing human corneal keratitis: A case report. *Am J Ophthalmol Case Rep* 2024;34: 102062.
 33. Oguma T, Ishiguro T, Kamei K, Tanaka J, Suzuki J, Hebisawa A, Obase Y, Mukae H, Tanosaki T, Furusho S, Kurokawa K, Watai K, Matsuse H, Harada N, Nakamura A, Shibayama T, Baba R, Fukunaga K, Matsumoto H, Ohba H, Sakamoto S, Suzuki S, Tanaka S, Yamada T, Yamasaki A, Fukutomi Y, Shiraishi Y, Toyotome T, Fukunaga K, Shimoda T, Konno S, Taniguchi M, Tomomatsu K, Okada N, Asano K; Japan ABPM Research Program: Clinical characteristics of allergic bronchopulmonary mycosis caused by *Schizophyllum commune*. *Clin Transl Allergy* 2024; 14(1): e12327.
 34. Baba H, Kamei K, Arai T, Seki R, Kanamori H: A cluster of *Candida parapsilosis* displaying fluconazole-trailing in a neonatal intensive care unit successfully contained by multiple infection-control interventions. *Antimicrob Steward Healthc Epidemiol* 2024;4(1): e86.
 35. Tomomasa D, Lee BH, Hirata Y, Inoue Y, Majima H, Imanaka Y, Asano T, Katakami T, Lee J, Hijikata A, Worakitchanon W, Yang X, Wang X, Watanabe A, Kamei K, Kageyama Y, Seo GH, Fujimoto A, Casanova JL, Puel A, Morio T, Okada S, Kanegane H: Inherited *CARD9* deficiency due to a founder effect in East Asia. *J Clin Immunol* 2024;44(5): 121.
 36. Pontes L, Perini Leme Giordano AL, Reichert-Lima F, Gualtieri Beraquet CA, Leite Pigolli G, Arai T, Ribeiro JD, Gonçalves AC, Watanabe A, Goldman GH, Moretti ML, Zaninelli Schreiber A: Insights into *Aspergillus fumigatus* colonization in cystic fibrosis and cross-transmission between patients and hospital environments. *J Fungi* 2024;10(7): 461.
 37. Orihara Y, Kurahashi S, Kamei K, Hiramatsu K: Surgical treatment of appendiceal mucormycosis in an immunocompromised patient: a case report. *Surg Case Rep* 10(1):159, 2024.
 38. Takahashi H, Hamakawa M, Ishida T, Watanabe A: Allergic bronchopulmonary mycosis in *Schizophyllum commune* with positive *Aspergillus*-specific IgE antibodies: A case report. *Respirol Case Rep* 2024;12(7): e01433.
 39. Martins SC, Tararam CA, Levy LO, Arai T, Watanabe A, Moretti ML, Trabasso P: Comparison of galactomannan lateral flow assay and enzyme immunoassay to identify *Aspergillus* spp. in

- bronchoalveolar lavage fluid. *Braz J Infect Dis* 2024;28(4): 103838.
40. Sato K, Hayashi T, Ishizaki T, Yoshida M, Watanabe A: Disseminated *Lomentospora prolificans* infection that could have been predicted: A case report. *IDCases* 2024;37: e02046.
 41. Okazaki R, Arita S, Hoshino H, Uetani N, Inui G, Ishikawa H, Nonaka T, Kohno H, Funaki Y, Harada T, Morita M, Watanabe A, Yamasaki A: Allergic bronchopulmonary mycosis caused by *Scedosporium apiospermum*: A case report. *Respir Med Case Rep* 2024;51: 102092.
 42. Kato T, Igei H, Morota M, Yotsumoto T, Fukami T, Kitani M, Hebisawa A, Suzuki J, Watanabe A, Ohshima N, Morio Y, Matsui H: A 59-Year-Old Man with A Pulmonary Cavity Containing Fungus Balls. *CHEST pulmonary* 2024;2(4): 100100.
 43. Horiuchi H, Watanabe A, Yaguchi T, Ban S, Otsuka T, Miyazaki H, Furuya R: Superficial abdominal surgical site infection caused by *Aspergillus welwitschiae*: a case report. *BMC Infect Dis* 2024; 24(1): 990.
 44. Nakagoshi K, Yorita K, Kunishige M, Takahashi H, Sumitomo K, Watanabe A, Shinohara T: A large number of autofluorescent crystals with hyphae in respiratory samples. *QJM hcae*2024;194.
 45. Fujishita S, Inoue A, Watanabe H, Nishikawa M, Taniwaki M, Matsumoto S, Ochi M, Suemori K, Watanabe A, Kitazawa R, Shigekawa S, Ohyagi Y, Kunieda T: A case of immunocompetent intracranial cryptococcoma in which intraoperative rapid pathological diagnosis and polymerase chain reaction led to early treatment: What to know to avoid misdiagnosis as brain tumor. *Surg Neurol Int* 2024;15: 330.
 46. Yamada A, Nishimoto Y, Taiji R, Kameda A, Fujimoto K, Koyama F, Nishihara Y, Kasahara K, Takeda M, Okada F, Watanabe A, Marugami N, Tanaka T: Invasive Pulmonary Infection of *Malassezia* Species in a Patient With Ulcerative Colitis: A Case Report. *J Thorac Imaging* 2024;39 (6): W100-W103.
 47. Suzuki T, Gomyo T, Asano K, Onishi R, Matsuno Y, Yasuda S, Kato T, Yaguchi T, Kamei K: A Case of Allergic Bronchopulmonary Mycosis Caused by *Curvularia meibaldii*. *Respir Endosc* 2024;2(3): 148-153.
 48. Hirao Y, Morioka H, Ozaki S, Kawachi M, Ban S, Yaguchi T, Watanabe A: A Case of Invasive Rhinosinusitis Caused by *Penicillium brasilianum*. *Med Mycol* 2024;J 65(4): 111-115.
- 【雑誌論文・和文】**
1. 谷口俊文：「HIV 診療の現状と展望 新たな治療薬を使いこなす」*感染症学雑誌* 2024;98(1) 78-78.
 2. 横田翔, 矢幅美鈴, 吉川寛, 戸来依子, 谷口俊文, 猪狩英俊：「HIV 患者に生じた *Mycobacterium avium* による免疫再構築症候群に対してリファンピシンを含むレジメンで治療を行った1例」*感染症学雑誌* 2024;98(1) 114-114.
 3. 矢幅美鈴, 戸来依子, 山岸一貴, 横田翔, 吉川寛, 谷口俊文, 猪狩英俊：「医療従事者における3回目の新型コロナワクチン（ファイザー社製：BNT162b2）接種後の抗体価と発症予防効果の検討」*感染症学雑誌* 2024;98(1) 104-105.
 4. 吉川寛, 矢幅美鈴, 横田翔, 戸来依子, 谷口俊文, 猪狩英俊：「感染性心内膜炎・多発脳梗塞で発症した迅速発育菌 *Mycobacterium wolinskyi* 感染症の1例」*感染症学雑誌* 2024;98(1) 97-97.
 5. 戸来依子, 猪狩英俊, 岡田奈生, 鈴木公典, 漆原崇司, 山岸一貴, 矢幅美鈴：「接触者健診におけるIGRA 陽性に関連する因子の検討」*結核* 2024;99 (5)109-113.
 6. 椎野禎一郎, 湯永博之, 今橋真弓, 渡邊大, 南留美, 蜂谷敦子, 西澤雅子, 林田庸総, 吉田繁, 豊嶋崇徳, 伊藤俊広, 古賀道子, 貞升健志, 佐野貴子, 宇野俊介, 谷口俊文, 猪狩英俊, 寒川整, 中島秀明, 吉野友祐, 堀場昌英, 茂呂寛, 渡邊珠代, 阪野文哉, 川畑拓也, 藤井輝久, 高田清式, 中村麻子, 仲村秀太, 松下修三, 吉村和久, 杉浦互, 菊地正：「国内 HIV-1 伝播クラスターの2022年の動向 薬剤耐性 HIV 調査ネットワークによる SPHNCS 年報」*日本エイズ学会誌* 2024;26(3) 139-150.
 7. 大内修司, 竹村洋典, 小原まみ子, 佐藤雅哉, 谷口俊文, 石田岳史, 加藤祐己, 原田拓, 川島篤志：「CPC 何が起きていたのか？最終病理診断からのメッセージ 糖尿病を背景に蜂窩織炎, 心不全, 脳梗塞を相次いで発症し, 血便と腹痛を訴えた53歳男性症例検討会」*日本内科学会雑誌* 2024;113(9) 1809-1828.
 8. 蕪木素代子, 築地茉莉子, 服部憲幸, 山崎伸吾, 谷口俊文, 猪狩英俊, 石井伊都子：「血液透析施行中の重度腎機能障害患者にビクトルビ配合錠を使用した症例」*日本エイズ学会誌* 2024;26(4) 476-476.
 9. 大楠美佐子, 石和田稔彦, 瀬川俊介, 宮部安規子, 長澤耕男, 神保智里, 岡田広, 伊藤久美子：「血清型同定が臨床的に有用であった乳児期早期サルモネラ症の2例」*日本臨床微生物学会雑誌* 2024;34(4) 303-307.
 10. 加瀬葉子, 草野泰造, 山本翔大, 佐藤万里, 竹内典子, 大楠美佐子, 石和田稔彦, 星野直：「千葉県こ

- ども病院における 2001 年から 2020 年の小児由来 *Streptococcus pneumoniae* の抗菌薬感受性および無菌部位由来株の血清型に関する検討」日本臨床微生物学会雑誌 2024;34(4) 286-291.
11. 石和田稔彦：「近年流行したウイルス感染症の診断と感染対策」日本環境感染学会誌 2024;39(5) 191-195.
 12. 石丸翔一, 栗原恵理佳, 深野優帆, 吉田未識, 竹内典子, 大楠美佐子, 杉田恵美, 石和田稔彦, 金澤正樹, 寺井勝：「血清型 34 肺炎球菌による髄膜炎の 1 歳男児例」小児感染免疫 2024;36(2) 39-144.
 13. 大楠美佐子, 石和田稔彦, 瀬川俊介, 宮部安規子, 長澤耕男, 神保智里, 岡田広, 伊藤久美子：「血清型同定が臨床的に有用であった乳児期早期サルモネラ症の 2 例」日本臨床微生物学会雑誌 2024;34(4) 303-307.
 14. 山崎裕子, 菱木はるか, 長澤耕男, 石和田稔彦, 濱田洋通：「小児急性リンパ芽球性白血病造血幹細胞移植後に発症し, 併用薬により治療選択に難渋した侵襲性肺アスペルギルス症の 1 例」日本小児呼吸器学会雑誌 2024;35(2) 106-112.
 15. 松原未来, 宮部安規子, 齊藤知子, 瀬川俊介, 鈴木眞, 山下晃司, 藤川樹, 村田正太, 石和田稔彦, 矢口貴志, 伊藤純子, 奥主朋子, 日野もえ子, 川崎健治, 松下一之：「血液培養の陽性判定と同定に苦慮した *Gordonia sputi* による菌血症の 1 例」日本臨床微生物学会雑誌 2024;34(3) 209-213.
 16. 勝田友博, 天羽清子, 荒木かはる, 石和田稔彦, 大宜見力, 大城誠, 神谷元, 越田理恵, 清水直樹, 高野智子, 津川毅, 富樫篤生, 中野貴司, 西村直子, 野崎昌俊, 菱木はるか, 藤岡雅司, 保科隆之, 細矢光亮, 前田明彦, 水野由美, 宮崎雅仁, 吉川哲史, 和田泰三, 岩田敏, 尾内一信, 岡田賢司, 是松聖悟, 菅秀, 宮崎千明, 森内浩幸, 齋藤昭彦, 塚原宏一, 森岡一朗, 宮入烈, 多屋馨子, 日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会：「データベースを用いた国内発症小児 Coronavirus「Disease 2019 (COVID-19)」症例の臨床経過に関する検討／最終報告」日本小児科学会雑誌 2024;128(5) 777-783.
 17. 蓮沼竜司, 竹下健一, 菱木はるか, 石和田稔彦, 濱田洋通, 太田節雄：「尿路形態異常を合併した *Haemophilus parainfluenzae* による尿路感染症の 1 例」小児感染免疫 2024;36(1) 27-31.
 18. 蓮沼竜司, 竹下健一, 菱木はるか, 石和田稔彦, 濱田洋通, 太田節雄：「おたふくかぜワクチン接種後の副反応に関する全国調査報告」日本小児科学会雑誌 2024;128(1) 92-104.
 19. 佐藤遥太, 岡崎俊樹, 亀井克彦, 鈴木晃輝：川崎病様皮膚症状から COVID-19 関連成人多系統炎症性症候群を疑った 1 例. 臨床皮膚科 77(13): 1103-1108, 2024.
 20. 三浦真理子, 轟木麻子, 生野知子, 竹尾直子, 北川高臣, 矢口貴志, 亀井克彦：【真菌症】分子生物学的手法で同定した *Fonsecaea monophora* による黒色分芽菌症の 1 例. 皮膚科の臨床 66(4):437-440, 2024.
 21. 有沢友希, 菅原京子, 山東優, 小泉遼, 亀井克彦, 矢口貴志, 西尾美津留, 森岡悠：質量分析法により *Scedosporium apiospermum* を同定し迅速な診断が可能となった原発性皮膚スケドスポリウム症の 1 例. 西日本皮膚科 86(2):170-175, 2024.
 22. 牧野公治, 矢口貴志, 林秀幸, 西葉月, 鎗田響子, 楯本充, 亀井克彦：悪性腫瘍に関連・併存した黒色菌糸症の 3 例. 西日本皮膚科 86(5): 492-497, 2024.
- 【単行書】**
1. 猪狩英俊：「結核診療ガイドライン 2024」日本結核・非結核性抗酸菌症学会, 2024.4
 2. 渡辺哲：パラコクシジオイデス症. 「稀少深在性真菌症の診断・治療ガイドライン」, 稀少深在性真菌症の診断・治療ガイドライン作成委員会, p.85-88, 日本医真菌学会, 2024.6.25
 3. 渡辺哲：真菌学総論. 「標準微生物学 第 15 版 第 1 刷」, 編集：錫谷達夫, 松本哲哉, p.287-298, 医学書院, 2024.2.15
 4. 亀井克彦：抗真菌薬. 「Pocket Drugs 2024」, 監修：福井次矢, 編集：小松康宏, 渡邊裕司, p.801-810, 医学書院, 2024.1.1
- 【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】**
1. 猪狩英俊：第 99 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会 学術講演会 シンポジウム「結核診療ガイドラインの振り返りと結核診療・研究・人材育成への提案」2024. 長崎
 2. 谷口俊文：第 73 回日本感染症学会東日本地方会学術集会 シンポジウム「性感染症の予防・診断・治療の Up to Date」2024. 東京
 3. 谷口俊文：第 73 回日本感染症学会東日本地方会学術集会 シンポジウム「突撃！隣の感染症教育～他院ではどのような教育をしているのか？～」2024. 東京
 4. 矢幅美鈴：第 73 回日本感染症学会東日本地方会学術集会 シンポジウム「突撃！隣の感染症教育～他院ではどのような教育をしているのか？～：千葉大学医学部付属病院の感染症教育」2024 東京
 5. 谷口俊文：第 56 回日本小児感染症学会 総会・学術集会 シンポジウム「医療とメディアの付き合い方：新型コロナウイルスワクチン啓発プロジェクト「こびナビ」の活動で得られたもの、得られなかったもの」演者 2024. 長崎

6. 谷口俊文：第38回日本エイズ学会学術集会・総会・日本性感染症学会と日本エイズ学会の合同 シンポジウム「HIV PrEP とドキシサイクリン PEP」演者 2024. 東京
 7. 谷口俊文：第38回日本エイズ学会学術集会・総会 シンポジウム「将来を見据えた抗 HIV 治療のあり方～2剤レジメンの可能性～」座長・演者 2024. 東京
 8. 谷口俊文：第38回日本エイズ学会学術集会・総会 シンポジウム「HIV 陽性者のワクチン接種における課題」演者 2024. 東京
 9. 渡邊哲：シンポジウム 真菌感染症診断における遺伝子検査. 第35回日本臨床微生物学会総会, 横浜, 日臨微誌 34(Suppl1):142, 2024.2.9-11.
 10. 亀井克彦：教育講演 真菌症の診断と治療－その現状と問題点－. 第35回日本臨床微生物学会総会, 横浜, 日臨微誌 34(Suppl1):129, 2024.2.9-11.
 11. 馬嶋秀考, 新居鉄平, 渡邊哲：シンポジウム 内科・呼吸器領域の深在性真菌症における新規アゾール薬の立ち位置. 第43回関東医真菌懇話会, プログラム・抄録集 p.32, 東京, 2024.6.15.
 12. 渡邊哲：シンポジウム なぜ真菌症は難治性に陥りやすいのか. 第98回日本感染症学会学術講演会 第72回日本化学療法学会総会 合同学会, 神戸, 2024.6.27-29.
 13. 渡邊哲：ベーシックレクチャー 微生物マスター糸状菌感染症とその診療. 第73回日本感染症学会東日本地方会学術集会 第71回日本化学療法学会 東日本支部総会 合同学会, プログラム・抄録集 p.109, 東京, 2024.10.17-19.
 14. 渡邊哲：教育講演 真菌のバイオフィルム感染症とその治療. 第68回日本医真菌学会総会・学術集会, プログラム・抄録集 p.70, 京都, 2024.11.6-9.
 15. 馬嶋秀考, 渡邊哲：シンポジウム 地域流行型真菌症の診療アップデート. 第68回日本医真菌学会総会・学術集会, プログラム・抄録集 p.75, 京都, 2024.11.6-9.
 16. Moskaluk AE, Kusuya Y, Alimu Y, Yaguchi T, Takahashi H, Watanabe A: Symposium Genetiv analysis of azole-resistance in *Aspergillus* section *Nigri* isolates.APSMM2024,Program & Abstracts p.115,Kyoto, Japan,2024.11.6-9.
 17. 渡邊哲：特別講演 深在性真菌症をめぐる最近の話題～アスペルギルス症を中心として～. 第8回東北医真菌研究会（日本医真菌学会東北支部）テーマ：基礎と臨床の両側面からみた真菌学, 仙台, 2024.12.14.
 18. Yokota S, Suzuki K, Kato K, Majima H, Arai T, Watanabe A: Symposium Impact of Gliotoxin on Neutrophil Phagosome Fusion during Phagocytosis of *Aspergillus fumigatus*. APSMM2024,Program & Abstracts p.144,Kyoto, Japan,2024.11.6-9.
 19. Takahashi H, He X, Kusuya Y, Hagiwara D, Toyotome T, Arai T, Bian C, Nagayama M, Shibata S, Watanabe A:Selected Symposium Population genomics of the pathogenics fungus *Aspergillus fumigatus* in Japan.APSMM2024,Program & Abstracts p.155,Kyoto, Japan, 2024.11.6-9.
 20. 渡邊哲：特別講演 深在性真菌症をめぐる最近の話題～アスペルギルス症を中心として～. 第8回東北医真菌研究会（日本医真菌学会東北支部）テーマ：基礎と臨床の両側面からみた真菌学, 仙台, 2024.12.14.
- 【学会発表数】**
- 国内学会 14 学会 34 回（うち大学院生 3 回）
国際学会 4 学会 16 回（うち大学院生 3 回）
- 【外部資金獲得状況】**
1. AMED 日本医療研究開発機構委託研究開発費「結核低まん延状況における連携強化及び技術革新による結核対策に関する研究」分担者：猪狩英俊 2023-2025
 2. AMED 日本医療研究開発機構委託研究開発費「国内流行 HIV 及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究」分担者：猪狩英俊 2022-2024
 3. 厚生労働省厚生労働科学研究費補助金「早老症の医療水準向上と予後改善を目指す集学的研究」分担者：谷口俊文 2024-2026
 4. 厚生労働省厚生労働科学研究費補助金「HIV 感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究」分担者：谷口俊文 2023-2025
 5. 厚生労働省厚生労働科学研究費補助金「HIV 感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制の整備に資する研究」分担者：谷口俊文 2023-2025
 6. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「DPC データと病院医療情報システムを利用した手術部位感染症の同定に関する研究」代表者：谷口俊文 2023-2025
 7. 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「質量分析計による β -ラクタム系・カルバペネム系抗菌薬の薬剤感受性試験の臨床応用」分担者：谷口俊文 2022-2024
 8. 科学研究費助成事業 若手研究「真菌のメバロン酸経路下流にスタチンが及ぼす影響の解明とその抗真菌作用の応用」代表者：馬嶋秀考 2024-2026
- 【受賞歴】**
1. 馬嶋秀考：日本医真菌学会 次世代研究者賞「アゾール耐性アスペルギルス感染症克服に向けたスタチンの抗真菌作用の応用－カイク感染モデルを用いた in vivo におけるアゾール薬との併用効果の検証－」

2024.11.8

2. 馬嶋秀考：第 68 回日本医真菌学会総会・学術集会
優秀演題賞「Aspergillus fumigatus の Cyp51A 機能欠損はアゾール感受性上昇を来す」2024.11.9
3. Hidetaka Majima: APSMM 2024 Excellent
Presentation Award [Cyp51A dysfunction leads

to higher susceptibility to azoles in Aspergillus
fumigatus] 2024.11.8

【特 許】

1. 特願 2024-206608「肺アスペルギルス症の治療及び
／又は予防のための医薬組成物」

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

当科では病棟や外来のコンサルテーションをベースにした感染症診療を行っている。また主に外来で HIV・AIDS、性感染症、輸入感染症、寄生虫疾患、ワクチン接種など感染症に関する幅広い診療を行っている。当院は HIV・AIDS 拠点病院であり、千葉県内のエイズ拠点病院と協力体制をとりながら県全体の HIV 患者の多くの診療にあたっている。昨年の通院患者数は約 36 人であり、HIV 治療や日和見感染症の治療やマネジメントを幅広く行った。AIDS による日和見疾患で他科に入院した患者は他科と連携をとり診療にあたった。感染症に関するコンサルテーションは昨年は 400 例ほどでうち入院は 350 例ほどであった。移植関連の感染症や術後の感染症、癌の化学療法中の感染症診療など幅広く対応した。

外来ではその他、セクシャルヘルス外来、トラベルクリニック、真菌外来（真菌医学研究センター）、コロナ後遺症外来なども行った。

院内では病院感染管理チーム（Infection Control Team）・抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team：AST）として院内感染対策及び抗菌薬適正使用に取り組んでいる。2024 年の ICT 関連のコンサルテーションは 318 件であり、相談内容では感染症患者の対応についてが最多で次いで職員の感染対策であった。特に新型コロナウイルス感染症に関連した相談ケースが多く、次いで MRSA や ESBL など耐性菌の対応についての相談があった。

年 2 回の ICT・AST セミナー、医師や看護師など各部署への個別研修（78 回、のべ 491 人）、ICT リンクスタッフ会議（年 4 回）、耐性菌の感染対策、職業感染対策として針刺し切創体液暴露対応、職員のワクチン接種（4 種及び B 型肝炎ワクチン、季節性インフルエンザワクチン、新型コロナワクチン）、サーベイランスの強化など行っている。

サーベイランスでは SSI を 10 診療科 17 手技と増やした。AST としての取り組みは具体的には、毎日のカルバペネムなど広域抗菌薬の許可制、血液培養検出菌確認や毎週のラウンドなどを行っている。院外活動としては感染症対策防止加算に関して加算 2、3 の施設とのカンファレンス（年 4 回）及び各医療機関への指導を行った（指導強化加算）。

また、感染防止対策地域連携加算に関わる相互チェックの実施として地域の加算 1 の医療施設との相互チェックを行った。

●地域貢献

1. 千葉消防学校 特殊病態別応急処置「感染症」講師
2. 東邦大学「世界が動いている！性感染症の予防と治療」講演
3. 医療系大学間共用試験実施評価機構「医学生臨床実習前 OSCE 実施課題毎の到達基準設定作業」講師
4. 県立宮崎病院「増加する性感染症と「いきなりエイズ」の特徴とその対応」講師
5. 千葉県松戸保健所「コロナを振り返っての、今後の新興感染症対策について」検討会オブザーバー及び講演会講師
6. 千葉県教育委員会「令和 5 年度千葉県教育委員会第 3 回結核検討会議」
7. 千葉県臨床検査技師会「性感染症 特に HIV、梅毒感染に関する最 + 新情報『性感染症～ HIV と梅毒を中心に～』」講師
8. 習志野医師会「新興感染症や AMR など」講師
9. 千葉県教育委員会「県立学校児童生徒結核健診の精密検査の要否検討」指導
10. 東京ベイ・浦安市川医療センター「VRE の感染拡大について」指導
11. 千葉テレビ「コロナ 5 類移行 1 年 “ 経験どう生かすか ”」取材
12. 千葉県透析医会「千葉県透析医会 新人教育コンテンツ HIV の基礎知識」
13. 日本病院薬剤師会「母子感染」講師

14. 千葉県長生保健所「性感染症とエイズに関するお話」講師
15. 千葉県教育委員会「県立学校児童生徒結核健康診断の精密検査の要否検討」
16. 千葉日報「コロナ第11波 対策を 県内110週連続、感染増」取材
17. 毎日新聞「第11波？感染ピークはこれから・周囲に配慮し対策を」取材
18. 朝日新聞社「COVID-19 5類移行後の保険診療等について」取材
19. 千葉県健康福祉部「休日街頭 HIV 検査」結果告知医師
20. 一般社団法人 Ortho support「感染症診療の基本」講演会の講師
21. 長生学園茂原北陵高等学校・千葉県立茂原樟陽高等学校「性感染症とエイズに関するお話」講師
22. 日本感染症学会・感染症専門医制度審議委員会「院内肺炎の病態理解の向上（ventilated HAPも含めた病態の理解）」講演
23. 千葉医師研修支援ネットワーク「第19回千葉県臨床研修指導医養成講習会」講師
24. 滋賀県病院協会「感染対策と地域ネットワーク～千葉県の取り組み～」講師
25. 東京都立墨東病院「抗菌薬の適正使用推進に関して、職員の理解を深めること」講師
26. 千葉県 HIV 拠点病院会議「HIV 感染者の慢性腎臓病」「HIV 患者の高齢化に伴う諸問題」
27. 千葉県 HIV 福祉サービスネットワーク Web 会議「長期療養の現状と課題」
28. 千葉県 HIV 拠点拠点病院会議 保険薬局の役割と地域連携セミナー「PLWH × 糖尿病、腎機能低下」
29. 千葉県院内感染対策地域支援ネットワーク研修会「AMR に多職種で立つ向かう」「忘れていませんか結核」
30. Chi-IC-net 研修会（千葉ネット後援）「日常の介護・看護ケアにおける感染対策～標準予防策に基づいて」
31. 市原市健康福祉センター感染症審査協議会 会長

研究領域等名：	
診療科等名：	リハビリテーション科／リハビリテーション部

●はじめに

リハビリテーション科は、急性期の各診療科の治療継続あるいは治療後すぐに活動を向上させることを目的として、診察並びに療法士の介入を実施している。リハビリテーション部の目標としては、患者提供単位数の増大、療法士実施提供単位数の目標実施、早期リハビリテーションの推進を掲げた。

2024年4月時点での人員は、医師7名、理学療法士25名、作業療法士11名、言語聴覚士3名、看護師1名の計47名で診療にあたっている。

療法士の実施提供単位数目標は16単位と定め、業務の見直しを図り、個人目標並びに部門目標としても達成できた。入院患者への提供単位数の増加は図ることができ、診療科毎の療法士体制の構築も図れた。また、病院の協力もあり、未算定コストの改善も図ることができ、特定機能病院に求められる役割と経営的指標の両立ををこれまで以上に果たせることができた。次年度に向けて診療報酬改定に伴う新規加算への対応や書類連携の調整を図っていく。

●教 育

・学部教育／卒前教育

- ・医学部の卒前教育においては、4年生のユニット講義の中でリハビリテーションの講義を3コマ担当し、また、臨床入門の中のチーム医療の講義に参加している。5～6年生の臨床実習Ⅱにおいて、1週間（5日間）をリハビリテーション科で実習し、講義の不足を補い、リハビリテーションの実際を指導している。
- ・医薬看合同の専門職連携教育（IPE）においては、亥鼻 IPE Step2、Step4に参加し、PT、OT、STの各セラピストがIPWに関する専門職アドバイザーを務めている。

・卒後教育／生涯教育

①卒後教育

- ・初期研修医（卒後臨床研修）：当院卒後臨床研修プログラムにおいて当科を選択科目とした研修医に対し指導を行っている。
- ・専攻医（専門研修）：当科を基幹病院とする研修プログラムにて研修を行っている専攻医に対し指導を行っている。また、千葉県リハビリテーション科専門研修プログラム・亀田総合病院リハビリテーション科専門研修プログラムにおいて関連施設として研修医を受け入れている。
- ・各療法士：初期研修プログラムを策定し、OJTで研鑽を積めるよう指導している。新人教育プログラムにおいて、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士それぞれに経時の変化に伴うプランを形成し、当院での就業後、多方面での活躍が可能となるよう、幅広い疾患の経験を積みながら、大学病院ならではの職域の広さの中で専門職としての力を発揮できるための教育的支援を行い、有期期限後のキャリアアップにつながるよう努めている。

②生涯教育

- ・各療法士：吸引手技習得プログラム（講義、実地研修）を策定し、修了者には認定シールを発行している。その他、各専門領域の認定資格を有した療法士が指導的役割を果たし、臨床上の問題解決から学会発表、論文作成、認定資格取得などに向けた個々の研鑽の各種支援を行っている。

・大学院教育

- ・現在、当部所属の療法士が千葉大学大学院医学薬学府修士課程に2名（整形外科学、）、博士課程に3名（整形外科学、脳神経内科学、先進予防医学）在学中であり、研究・論文作成に関する教育を行っている。

●研 究

・研究内容

運動器疾患、神経筋疾患、脳血管疾患、内部障害（呼吸器疾患・循環器疾患・集中治療領域）など、多岐にわたる疾患群・手術や治療中の患者に対するリハビリテーションの発展を目指し、臨床データの集積に努めている。

特に、整形外科と共同で脊髄疾患の深部感覚障害に関する研究、姿勢制御に関する研究、脊椎手術患者や骨粗鬆症患者の身体機能・特性に関する研究、救急科と共同で集中治療患者に対する早期リハビリテーション・家族

リハビリテーションの研究、アレルギー膠原病内科と共同でステロイド投与と筋肉量低下に関する研究に取り組み、データを蓄積しているところである。

また、「がん口コモの実態調査：入院がん患者の運動機能障害に関するコホート研究」の多施設共同研究に参加し、症例数の蓄積を行っている。

臨床研究（非特定）としては、当部主導、救急科共同で「ICUにおける人工呼吸器関連肺炎の予防に対するMechanical in-exsufflationの安全性と有効性についての臨床試験」の患者登録を開始した。また、呼吸器内科と共同で「慢性呼吸不全患者に対するL-menthol嗅覚刺激が労作時呼吸困難に及ぼす影響」の特定臨床研究と、「肺高血圧症患者に対する呼吸リハビリテーションの有用性と安全性の検討 ～運動時肺高血圧を踏まえた適切な運動処方」の自主臨床試験もそれぞれ患者登録を開始し、症例を蓄積している。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Kuroiwa R, Shibuya K, Inagaki T, Nara T, Nemoto M, Doi Y, Yasuda M, Uzawa A, Shiko Y, Murata A, Yamanaka Y, Kuwabara S. ;Reliability and validity of cough peak flow measurements in myasthenia gravis. :Neuromuscul Disord.2024;Aug;41:29-34.
2. Suzuki M, Hirano S, Otte K, Schmitz-Hübsch T, Izumi M, Tamura M, Kuroiwa R, Sugiyama A, Mori M, Röhling HM, Brandt AU, Murata A, Paul F, Kuwabara S. ;Digital Motor Biomarkers of Cerebellar Ataxia Using an RGB-Depth Camera-Based Motion Analysis System. :Cerebellum. 2024; Jun;23(3):1031-1041.
3. Mashimoto E, Nankaku M, Kitamura G, Nishitani K, Nakamura S, Kuriyama S, Ikeguchi R, Matsuda S.;Comparison of physical function recovery in patients with rheumatoid arthritis and those with osteoarthritis after total knee arthroplasty.:Journal of Joint Surgery and Research;2024.2(4) 163-167.

【雑誌論文・和文】

1. 山田彩恵, 小林周平, 井手一茂, 中込敦士, 近藤克則；高齢者の社会参加と生きがい-JAGES2013-2016-2019縦断研究：総合リハビリテーション（医学書院）総合リハビリテーション 2024 52巻4号；399-405
2. 高瀬慶太、深田亮、但木亮介、桑田麻由子、古矢丈雄、村田淳；胸椎後縦靱帯骨化症の歩行障害に対しリカンベントエルゴメーターおよび免荷式歩行器を用いた理学療法を実施した1例：理学療法の科学と研究；2024;15(1);53-58
3. 高瀬慶太、深田亮、村田淳；高度肥満に伴う両側人工膝関節全置換術後症例に対し吊り下げ型体重免荷式歩行器を用いた理学療法を実施した1例：理学療法ジャーナル；2024;58(9);1065-1069
4. 桑田麻由子、深田亮、但木亮介、高瀬慶太、赤坂朋代、古矢丈雄、村田淳；脊髄後索障害に解離を認めたが、術後急性期に自立歩行を獲得した脊髄髄内腫瘍の1例：神経理学療法学 2023(1)；30-36
5. 桑田麻由子、深田亮、高瀬慶太、古矢丈雄、村田淳、大鳥精司；頸胸椎疾患手術例に対する術後急性期ト

レッドミル歩行練習の安全性の検討：日本脊髄障害医学会誌；2024;37;(1)32-35

6. 坂本和則, 河口謙二郎, 井手一茂, 池田登顕, 近藤克則；膝痛を有する高齢者における情緒的サポートと要支援・要介護認定-JAGES2013-2019縦断研究：総合リハビリテーション（医学書院）2024;52巻2号；171-178

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 古川誠一郎；機器に頼らないICU-AW対策！早期能動的運動療法の実践；日本離床学会 東京学術大会「離床祭」.
2. 小池俊光, 岡田将, 梅野福太郎, 小林欣夫, 訪患施設（施設長, 担当リハ職員）慢性期における包括的心臓リハビリテーションの有効性と実践；日本循環器学会.
3. 小池俊光；多職種連携で考える心不全治療；千葉ハートチームカンファレンス.
4. 深田亮；症例検討と症例報告の考え方と実践；日本神経理学療法学会 山形地方会.
5. 深田亮；歩行障害の見方とその解釈；千葉県県士会主催更新研修会Ⅰ.
6. 坂本和則；脳卒中片麻痺患者への歩行への介入；千葉県県士会千葉ブロック実技研修会.
7. 坂本和則；脳卒中の発症予防、重症化予防、再発予防；認定理学療法士認定講習会脳卒中.
8. 坂本和則；脳卒中の病期別リスク管理；足とからだのサポート研修会.
9. 森田光生；リハビリテーションマネジメント；ちば医経塾.
10. 森田光生；リハビリテーションの運営－内省と外政－；東京都立病院機構 職種勉強会.
11. 小池俊光；第17回心不全セミナー 基本編；NPO法人 心不全セミナー.
12. 小池俊光, 岡田将, 岡田知恵, 湯浅めぐみ, 尾崎直子；シンポジウム47 つながろう！心不全診療の病院－在宅連携；第6回日本在宅医療連合学会大会.
13. 小池俊光；循環器疾患における身体機能評価；BOSO心不全ネットワーク.

【学会発表数】

国内学会 18 学会 27 回（うち大学院生 13 回）

国際学会 2 学会 2 回（うち大学院生 2 回）

【外部資金獲得状況】

1. 日本学術振興会「脊髄損傷患者に対する急性期から

の歩行リハビリテーションの確立」代表者：村田淳
／深田亮 2023-2026

2. 日本損害保険協会交通事故医療研究助成金「急性期
脊髄障害患者に対する歩行リハビリテーションの効果」
代表者：深田亮 2023-2025

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

2024 年の新規患者数は入院が 4,327 人、外来が 165 人であった。新規処方数は横ばいにある。各診療科の処方数は、整形外科 1,203 件、脳神経外科 1366 件、脳神経内科 817 件と全体的に増加している。また、多数の診療科より処方をいただいている。取得した疾患別リハビリテーション料の単位数は、脳血管で 60,076、運動器で 15,873、廃用症候群で 14,496、呼吸で 25,197、心大血管で 11,852、ガンで 3,374 となった。依頼元の診療科は 36 科・部に及び、院内におけるリハビリテーションの重要性についての理解が浸透している結果と考えられた。今後も、スタッフ数の充実を図るとともに、効率良く最大効果を得るための診療体制整備に取り組み、休日リハビリテーションの充実をはかり日曜日の出勤、介入も始めた。今後も患者あたり提供単位数の向上、療法士あたりの目標単位数などの達成に尽力していく。単位数は横ばいとなっているが、処方数を考えるとマンパワー限界であると考えている。

研究領域等名：	
診療科等名：	検 査 部

●はじめに

2020年3月より立ち上げたPCR検査をはじめ、2024年現在までCOVID-19診療に検査の面から引き続き貢献した。COVID-19の感染の拡大と鎮静化が繰り返され、流行の推移の予想が難しい中、若手教育を含め部内人員のトレーニングを進め、精度の高い検査を実施する体制を今年も維持した。検査部医師（教員）は全員、検査部と遺伝子診療部およびがんゲノムセンターを兼任し活動している。今年も腫瘍内科・がんゲノムセンターと協同してがん遺伝子パネル検査（CGP検査）の症例数増加に努力し年間200例程度の実施であり、前年実績とほぼ同様である。2019年度から保険診療で開始されたがん遺伝子パネル検査のエキスパートパネルにも継続的に参加している。従ってCGP検査における二次的所見の拾い上げはほぼ検査部医師が主体となって行っている。検査部は中央採血室、検体検査室（血液、生化学、尿一般、細菌、遺伝子）、生理機能検査部門から構成され、遺伝カウンセリング室が検査部より平成20年2月遺伝子診療部として独立した経緯がある。大学病院検査部の第一の役割は、日常診療に必要な検査情報を24時間体制で正確かつ迅速に提供することである。一方、高度医療を担う大学病院の検査部として以下の役割、1) 細菌検査室からの院内感染情報の発信、2) 院内における各種チーム医療への参画、3) 新しい検査技術や検査方法の研究開発、4) 臨床検査（医学）・臨床遺伝に関する卒前・卒後教育への協力や推進、5) 遺伝カウンセリングに基づく実臨床における発症前検査の導入（新型出生前検査や遺伝性腫瘍の未発症者のスクリーニング）、6) がん遺伝子パネル検査をはじめとするゲノム医療の推進、6) 臨床検査適正化委員会を通して臨床検査全体のISO 15189のような国際標準手法による精度管理・医療法/臨床検査技師法対応、などがあげられる。

●教 育

・学部教育／卒前教育

今年度（2024年度）も実習においてもCOVID-19の流行が沈静化したとはいえ散発的な流行は続く中で、以下のような例年に準じた内容を行うことができた。医学部1年生：早期体験講座あるいはメンタリング（1コマ）。2年生：遺伝分子医学（2コマ）。4年生：ユニット講義（4－6月にわたって計12コマ）、臨床入門『チーム医療』（1月に計6コマ）。全学普遍教育科目（3コマ）。さらには他学より臨床検査技師養成教育機関からの実習生の受け入れ（年間6名）。試験関連：4年生のCBT、臨床総合試験、6年生の科試問題作成。FD（ファカルティデベラップメント）の講習会に参加を済ませている。2011年度より、教育カリキュラムの大幅な改変に伴い共用試験（OSCE、CBT）終了後、臨床実習（クリニカル・クラークシップ：CC）が始まった。CCベーシックでは一般手技と検査手技の習得が必須となり、2011年度からは従来の検査部実習がCCベーシック（6週にわたる）に含まれることになった。CCベーシック（遺伝カウンセリング実習含む）は医学部4年生がコアCCに進む前に必要な臨床的に必須の内容を講義と実習で評価するものである。検査部担当部分では、採血・POCT実習、血液像実習・細菌検査実習と最低限ではあるが医療現場での即戦力として欠かせない実習項目を実施している。CCベーシック終了後にはWBTによる評価試験を経て合格者には白衣式への参加が認められる。

・卒後教育／生涯教育

これも未だCOVID-19流行の影響を受けている。今年度は、検査実習（内容＝血液形態・輸血・生化学免疫・尿検査・細菌検査・遺伝子検査・生理機能検査・遺伝カウンセリング）の内容の初期研修医向けの研修を実施した。一名の研修医研修ではあったが、軽い身体障害がありながら真剣な研修が行われ、担当した検査部としても職員に好影響があった。検査部所属の常勤医師はいずれも臨床遺伝指導医であり、2013年からはNGSD（文部科学省課題解決型高度医療人材養成 プログラム：難病克服！次世代スーパードクターの育成）として、ゲノム時代の難治性疾患マネジメントを担うオールラウンド臨床遺伝専門医の育成と全国遺伝子医療部門連絡会議を介した全国展開）に6大学（千葉大、信州大、札幌医大、東京女子医大、鳥取大学、京都大学）と共同で参加し、臨床遺伝専門医育成に寄与している。今年度も他科専門医取得済みの医師一名が、臨床検査専門医・臨床遺伝専門医取得目的に研修に臨んだが、年度途中退職となった。現在、NGSDインテンシブコースに一名在籍しており、臨床検査専門医の取得を目標にしている。

・大学院教育

①修士課程 遺伝情報応用学特論（担当3コマ）、病態制御治療学、②博士課程 病態制御治療学特論（2コマ）、機能ゲノム学、生命情報科学。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

全学（西千葉キャンパス）普遍教育科目（3コマ、診療教授）。また診療教授は年1-2回、リンチ症候群についての「千葉県遺伝性腫瘍対策協議会」というシンポジウムを開催しており、毎回50名以上が全国からWEBで参加している。これは国内の遺伝医療関係者の間では一定の知名度があるものである。遺伝子診療部では遺伝医療に関するテーマを決めて月一回の遺伝カウンセリング・症例検討会を行い、近隣の開業医、心理カウンセラー、認定遺伝カウンセラー、臨床遺伝専門医、公衆衛生学の教員・スタッフ、婦人科、当院の看護師等、年ごとの参加者は維持されている。また全学的な省エネ活動にも参加している。

●研 究

・研究内容

新規検査の確立を目指した臨床研究を行っており、特に遺伝子検査に力を入れている。今年度においては、一昨年度・昨年度と連続してCOVID-19 PCR検査についての論文発表を英文誌に行ってきた。家族性腫瘍（遺伝性腫瘍）・疾患のNGS（次世代シーケンサー）を用いた生殖細胞系列の遺伝子バリエーション（変異）の検出を引き続き行っている。今後は感染症も対象とし臨床バイオームへの取り組みを検討する。かずさDNA研究所と共同で遺伝性不整脈疾患（QT延長症候群）の遺伝子検査が可能となり、これは大手検査会社のSRLに移管され循環器内科・小児科と共同で実地臨床で運営を継続し、法医学教室とも連携を継続している。産婦人科、乳腺外科と共同でHBOC（遺伝性乳癌卵巣癌）の予防的卵巣卵管切除にも遺伝カウンセリング・遺伝学的検査の面から協力を続けている。リンチ症候群に対する未発症者を含む医療介入（特に病理部と協力したMSI検査）についても遺伝学的検査を含んで対応している。今後は院内における治療法のある遺伝性疾患へのさらなる対応の整備が課題であるが、一昨年度に部内で整備した家族性腫瘍遺伝子検査パネル（MGPT）の実臨床における実施（院内料金規定を設定し自費診療）をスタートさせ今年度も運用している。日本臨床化学会での活動を通し、ビタミン測定の内国標準化研究にも継続的に参加している。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Miura K, Takaoka H, Ota M, Irie R, Ota J, Noguchi Y, Nishikawa Y, Yoshida K, Suzuki K, Aoki S, Yashima S, Kinoshita M, Suzuki-Eguchi N, Sasaki H, Kobayashi Y. Utility of Computed Tomography for the Initial Detection and Follow-up of Silent Coincidence of IgG4-Related Pericarditis, Periaortitis, and Coronary Arteritis. *Circ Rep.* 2024 Jan 16;6(2):28-29.
2. Yoshida K, Sasaki H, Takaoka H, Hashimoto R, Kawasaki K, Matsumiya G, Matsushita K, Kobayashi Y. Primary Severe Pulmonary and Tricuspid Valve Regurgitation in an Adult Patient. *CASE (Phila).* 2024 Feb 5;8(3Part B):265-272.
3. Ohnaga Y, Takaoka H, Kato K, Daimon M, Ota J, Noguchi Y, Nishikawa Y, Matsumoto M, Yoshida K, Suzuki K, Aoki S, Yashima S, Kinoshita M, Suzuki-Eguchi N, Sasaki H, Kobayashi Y. IgG4-Related Coronary Arteritis With Acetylcholine-Induced Coronary Vasospasm. *Circ Rep.* 2024 Mar 19;6(4):149-150.
4. Igari H, Sakao S, Ishige T, Saito K, Murata S, Yahaba M, Taniguchi T, Suganami A, Matsushita K, Tamura Y, Suzuki T, Ido E. Dynamic diversity of SARS-CoV-2 genetic mutations in a lung transplantation patient with persistent COVID-19. *Nat Commun.* 2024 Apr 29;15(1):3604.
5. Yoshida K, Sasaki H, Takaoka H, Nishikawa Y, Aoki S, Suzuki K, Yashima S, Suzuki-Eguchi N, Kinoshita M, Kanaeda T, Matsusaka K, Kohno H, Matsushita K, Kobayashi Y. Rare Favorable Surgical Outcome Obtained in Löffler Endocarditis With Severe Mitral Valve Regurgitation. *Circ Rep.* 2024 May 14;6(6):230-231.
6. Kinoshita M, Takaoka H, Ota J, Ikeda JI, Noguchi Y, Nishikawa Y, Aoki S, Yoshida K, Suzuki K, Yashima S, Sasaki H, Suzuki-Eguchi N, Kobayashi Y. Four-dimensional computed tomography is useful for detection of apical sparing of cardiac amyloidosis. *Int J Cardiovasc Imaging.* 2024 May 10.
7. Hiwasa T, Yoshida Y, Kubota M, Li SY, Zhang BS, Matsutani T, Mine S, Machida T, Ito M, Yajima S, Shirouzu M, Yokoyama S, Sata M, Yamagishi K, Iso H, Sawada N, Tsugane S, Takemoto M, Hayashi A, Yokote K, Kobayashi Y, Matsushita K, Tatsumi K, Takizawa H, Tomiyoshi G, Shimada H, Higuchi Y. Serum anti-KIAA0513 antibody as a common biomarker for mortal atherosclerotic and cancerous diseases. *Med Int (Lond).* 2024 Jun 19;4(5):45.
8. Suzuki S, Morita Y, Ishige S, Kai K, Kawasaki K, Matsushita K, Ogura K, Miyoshi-Akiyama T, Shimizu T. Effects of quorum sensing-interfering agents, including macrolides and furanone C-30,

- and an efflux pump inhibitor on nitrosative stress sensitivity in *Pseudomonas aeruginosa*. *Microbiology (Reading)*. 2024 Jun;170(6):001464.
9. Yuri Matsuki , Kiyoshi Ichihara , Yoshihisa Itoh, Kazuo Mori, Hiroshi Ihara, Masato Maekawa , Motoi Nishimura, Sachiko Kiuchi , Fumio Nomura , Naotaka Hashizume , Nobue Itoh , Satoshi Matsumura ; Japan Society of Clinical Chemistry, Nutrition Committee. Reappraisal of serum retinol-binding protein as a surrogate marker for retinol and discovery of a novel retinol estimation formula. *Clin Nutr ESPEN*. 2024 Jun;61: 119-130.
 10. Nishikawa Y, Takaoka H, Kato K, Ota J, Noguchi Y, Aoki S, Matsumoto M, Yashima S, Suzuki K, Yoshida K, Kinoshita M, Sasaki H, Suzuki-Eguchi N, Kobayashi Y. Extracellular Volume Analysis Using Computed Tomography Is Useful for Follow-up of Takotsubo Syndrome. *Circ J*. 2024 Jun 25;88(7): 1198.
 11. Uzawa A, Mori M, Masuda H, Muto M, Ohtani R, Aoyama S, Matsushita K, Kuwabara S. Contributions of CSF interleukin-6 elevation to the pathogenesis of myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody-associated disease. *Mult Scler*. 2024 Jul;30(8):977-982.
 12. Ikari J, Katsumata M, Urano A, Imamoto T, Suzuki Y, Nishiyama A, Yokota H, Ono K, Okamoto K, Abe E, Kamata T, Fujii S, Okumura K, Ota J, Suzuki E, Kawata N, Ozawa Y, Masuda Y, Matsushita K, Sakao S, Uno T, Tatsumi K, Suzuki T. Dynamic chest radiographic evaluation of the effects of tiotropium/olodaterol combination therapy in chronic obstructive pulmonary disease: the EMBODY study protocol for an open-label, prospective, single-centre, non-controlled, comparative study. *BMJ Open Respir Res*. 2024 Aug 5;11(1):e002374.
 13. Suzuki K, Sasaki H, Takaoka H, Yoshida K, Matsumoto M, Nishikawa Y, Aoki S, Noguchi Y, Yashima S, Suzuki-Eguchi N, Kinoshita M, Hashimoto R, Ikeda JI, Kobayashi Y. Case of Infective Endocarditis With Aneurysmal Perforation of Both Aortic and Mitral Valve Leaflets. *Circ Rep*. 2024 Sep 12;6(10):469-470.
 14. Aoki S, Takaoka H, Ota J, Kanaeda T, Sakai T, Matsumoto K, Noguchi Y, Nishikawa Y, Yashima S, Suzuki K, Yoshida K, Kinoshita M, Suzuki-Eguchi N, Sasaki H, Kobayashi Y. Strong Diagnostic Performance of Single Energy 256-row Multidetector Computed Tomography with Deep Learning Image Reconstruction in the Assessment of Myocardial Fibrosis. *Intern Med*. 2024 Sep 15;63(18):2499-2507.
 15. Yamazaki Y, Ito T, Nakagawa S, Sugihira T, Kurita-Tachibana C, Villaruz AE, Ishiguro K, Salcman B, Li S, Takada S, Inohara N, Kusuya Y, Shibata A, Tamai M, Aoyama R, Inoue K, Murata S, Matsushita K, Miyabe A, Taniguchi T, Igari H, Ishiwada N, Taniguchi M, Nakada TA, Matsue H, Fujimoto M, Hishiki H, Osone Y, Hamada H, Shimojo N, Suzuki T, Otto M, Núñez G, Takahashi H, Takaya A, Nakamura Y. Altered genomic methylation promotes *Staphylococcus aureus* persistence in hospital environment. *Nat Commun*. 2024 Nov 7;15(1):9619.
 16. Suzuki J, Furuta S, Kameoka Y, Suzuki O, Ito F, Uno K, Kishi F, Yamakawa Y, Matsushita K, Miki T, Nakajima H, Suzuki K. Dynamics of scFv-targeted VAP2 correlating with IL-16, MIF and IL-1Ra in ANCA-associated vasculitis. *Microvasc Res*. 2024 Nov;156:104720.
 17. Yahaba M, Asano H, Saito K, Murata S, Kawasaki K, Chiba H, Yokota S, Yoshikawa H, Herai Y, Yamagishi K, Shiko Y, Matsushita K, Hanaoka H, Taniguchi T, Yokote K, Nakajima H, Ido E, Igari H. Antibody Responses and Infection Prevention following the Sixth Vaccination using the BA.1 bivalent COVID-19 vaccine among Healthcare workers during the XBB variant Dominance in Japan. *Jpn J Infect Dis*. 2024 Nov 29.
 18. Goto H, Takaoka H, Ota J, Noguchi Y, Nishikawa Y, Matsumoto M, Yoshida K, Suzuki K, Aoki S, Yashima S, Kinoshita M, Sasaki H, Suzuki-Eguchi N, Kobayashi Y. Computed Tomography Evaluation of Extracellular Volume for Predicting Prognosis in Patients with Severe Renal Dysfunction on Dialysis. *J Clin Med*. 2024 Dec 12;13(24):7561.
 19. Yashima S, Takaoka H, Ota J, Matsumoto M, Nishikawa Y, Noguchi Y, Aoki S, Yoshida K, Suzuki K, Kinoshita M, Sasaki H, Suzuki-Eguchi N, Kanaeda T, Kobayashi Y. Extracellular Volume by Computed Tomography Is Useful for Prediction of Prognosis in Dilated Cardiomyopathy Cases with Heart Failure with Reduced Ejection Fraction. *J Cardiovasc Dev Dis*. 2024 Dec 11;11(12):399.
 20. Sasaki H, Takaoka H, Yoshida K, Matsumoto M, Nishikawa Y, Noguchi Y, Aoki S, Suzuki K, Yashima S, Kinoshita M, Suzuki-Eguchi N, Takanashi S, Matsumiya G, Kobayashi Y.

Preoperative mitral valve annulus area size is an important factor in avoiding functional mitral stenosis after mitral valve repair. J Echocardiogr. 2024 Nov 21.

【雑誌論文・和文】

- 川崎健治 「MT Seminar 読んで、見て、深める 臨床検査技師のための誌上講義 日常のなかの例外・トラブル対応 システムトラブル対策」 Medical Technology (0389-1887) 52 巻 1 号 Page74-81 (2024.01)
- 清宮正徳, 沢田真里奈, 篠原柊希, 平沢佳与, 鎗水恵璃, 小林崇平, 大澤進, 松下一之「新規高感度発色法による AFP 測定法の開発」生物試料分析 (0913-3763) 47 巻 1 号 Page45 (2024.03)
- 與子田一輝, 佐々木晴香, 高岡浩之, 野口靖允, 青木秀平, 鈴木克也, 八島聡美, 木下真己子, 鈴木紀子, 鎌田知子, 川崎健治, 高梨秀一郎, 松宮護郎, 小林欣夫, 松下一之「3 次元経食道心エコーを用いた外科的大動脈弁置換術における術後人工弁患者不適合の予測」日本循環器学会学術集会抄録集 88 回 Page CP29-4 (2024.03)
- 高岡浩之, 西川侑成, 青木秀平, 野口靖允, 與子田一輝, 鈴木克也, 松本萌, 八島聡美, 木下真己子, 佐々木晴香, 鈴木紀子, 太田丞二, 小林欣夫「循環器疾患に対する最新の画像診断技術の可能性 進化し続ける循環器 CT 診断」日本循環器学会学術集会抄録集 88 回 Page CS2-1 (2024.03)
- 野口靖允, 高岡浩之, 西川侑成, 與子田一輝, 青木秀平, 鈴木克也, 八島聡美, 木下真己子, 鈴木紀子, 佐々木晴香, 小林欣夫「新しい motion correction algorithm を用いた CT 収縮期像による経カテーテル的大動脈弁置換術前の冠動脈の高い診断能」日本循環器学会学術集会抄録集 88 回 Page PJ115-2 (2024.03)
- 鈴木紀子, 高岡浩之, 青木秀平, 鈴木克也, 八島聡美, 木下真己子, 佐々木晴香, 小林欣夫「左室駆出率が保たれた中等度大動脈弁閉鎖不全症における心イベントを予測する心エコー指標」日本循環器学会学術集会抄録集 88 回 Page PJ096-4 (2024.03)
- 西川侑成, 高岡浩之, 大門道子, 野口靖允, 與子田一輝, 青木秀平, 鈴木克也, 八島聡美, 木下真己子, 鈴木紀子, 佐々木晴香, 小林欣夫「CT による細胞外容積の評価は心臓サルコイドーシスの予後予測に有用である」日本循環器学会学術集会抄録集 88 回 Page PJ008-3 (2024.03)
- 佐々木晴香, 高岡浩之, 與子田一輝, 青木秀平, 鈴木克也, 八島聡美, 鈴木紀子, 木下真己子, 高梨秀一郎, 小林欣夫「弁膜症のストラテジー決定のための画像診断 日本人患者における変性による僧帽弁逆流に対する僧帽弁形成術の最適時期を決定する心

エコー指標」日本循環器学会学術集会抄録集 88 回 Page SY16-5 (2024.03) 日本循環器学会学術集会抄録集 88 回 Page SY16-5 (2024.03)

- 松下一之「LDTs としての質量分析技術の医療実装と保険収載を目指して 全ゲノム解析等実行計画を参考にして」JSBMS Letters (1881-5464) 49 巻 1 号 Page3-11 (2024.03)
- 松下一之「遺伝子検査・遺伝子診療における臨床検査の留意事項 全ゲノム解析等実行計画における臨床検査からみたゲノム医療法および関連する倫理的規制とその意義」日本臨床検査医学会誌 (2436-2727) 72 巻 3 号 Page197-203 (2024.03)
- 堀田多恵子, 清水一範, 山田修, 内山田健次, 宮下弘信, 片岡浩巳, 内海健, 松下一之「臨床検査のミッション データ利活用のための標準コード (JLAC) のミッション」日本臨床検査医学会誌 (2436-2727) 72 巻 3 号 Page179 (2024.03)
- 與子田一輝, 佐々木晴香, 高岡浩之, 鎌田知子, 川崎健治, 江口紀子, 小林欣夫, 松下一之「奇異性低流量低圧較差大動脈弁狭窄症への経皮的動脈弁置換術前後の心筋仕事量変化」超音波医学 (1346-1176) 51 巻 Suppl. Page S549 (2024.04)
- 庭野亜美, 佐々木晴香, 高岡浩之, 阿部衣里子, 鎌田知子, 川崎健治, 江口紀子, 小林欣夫, 松下一之「Volumetric 法による器質性僧帽弁逆流評価には 4 腔像より 3 腔像が有用である」超音波医学 (1346-1176) 51 巻 Suppl. Page S545 (2024.04)
- 栃木透, 松下一之, 丸山通広, 大平学, 遠藤悟史, 今西俊介, 丸山哲郎, 天海博之, 松原久裕「当科におけるリンチ症候群の現状と今後の課題」日本外科学会定期学術集会抄録集 124 回 Page SF-05-3 (2024.04)
- 松下弘道, 上養義典, 朝比奈彩, 北澤淳一, 深澤千寿美, 藤田孝, 松下一之, 横田浩充, 下田勝二, 堀田多恵子, 大西宏明, 日本臨床検査医学会臨床検査室医療評価委員会「COVID-19 パンデミックと臨床検査体制 全国アンケート調査報告」日本臨床検査医学会誌 (2436-2727) 72 巻 4 号 Page276 (2024.04)
- 榊原隆次, 澤井撰, 天谷亮介, 吉岡さくら, 大友利輝, 松本紋子, 永野秀和, 橋本直子, 田中知明「赤血球 α シヌクレインの解析(健康人での検討)」千葉医学雑誌 (0303-5476) 100 巻 2 号 Page37 (2024.04)
- 仲澤直人, 狩野裕樹, 澤井撰, 和田猛, 青墳章代, 森雅裕「羞明を主訴に来院した 35 歳男性例」千葉医学雑誌 (0303-5476) 100 巻 2 号 Page37 (2024.04)
- 大澤健太, 内田智彦, 松田信二, 伊藤美羽, 江川勇太, 山岸航介, 諸岡茉莉恵, 栢田大生, 桑原聡「吃逆で発症した自己免疫性 GFAP アストロサイトパチーの 1 例」千葉医学雑誌 (0303-5476) 100 巻 2 号 Page35 (2024.04)

19. 江川勇太, 諸岡茉里恵, 半田秀雄, 大西庸介, 伊藤美羽, 山岸航介, 杉山淳比古, 栢田大生, 桑原聡「亜急性に進行し脊髄炎との鑑別を要した成人型 Krabbe 病の 42 歳男性例」千葉医学雑誌 (0303-5476) 100 巻 2 号 Page36 (2024.04)
20. 神林美羽, 和泉未知子, 町野知輝, 大成佳奈, 山岸航介, 田村光至, 鋸屋悦子, 諸岡茉里恵, 栢田大生, 桑原聡「熟知相貌に対してのみ違和感を認めた再発性 ADEM の 20 歳女性例」千葉医学雑誌 (0303-5476) 100 巻 2 号 Page36 (2024.04)
21. 町野知輝, 諸岡茉里恵, 神林美羽, 山岸航介, 栢田大生, 桑原聡「亜急性の膀胱直腸障害を呈した自己免疫性自律神経節障害の 70 歳男性例」千葉医学雑誌 (0303-5476) 100 巻 2 号 Page36 (2024.04)
22. 伊藤美羽, 諸岡茉里恵, 江川勇太, 山岸航介, 栢田大生, 桑原聡「球麻痺と起立性低血圧を呈した遅発性放射線障害の 68 歳男性例」千葉医学雑誌 (0303-5476) 100 巻 2 号 Page37 (2024.04)
23. 平野靖記, 北山仁久, 易安俐, 田村光至, 大西庸介, 栢田大生, 桑原聡「球麻痺と起立性低血圧を呈した遅発性放射線障害の 68 歳男性例」千葉医学雑誌 (0303-5476) 100 巻 2 号 Page35 (2024.04)
24. 八木耀平, 田村光至, 易安俐, 吉崎智子, 栢田大生, 森雅裕, 桑原聡「体性感覚誘発電位が診断, フォローに有用であった MRI negative myelitis の 22 歳女性例」千葉医学雑誌 (0303-5476) 100 巻 2 号 Page36 (2024.04)
25. 平野靖記, 北山仁久, 易安俐, 田村光至, 大西庸介, 栢田大生, 桑原聡「潰瘍性大腸炎の経過中に感染後脊髄炎を呈した 46 歳女性例」千葉医学雑誌 (0303-5476) 100 巻 2 号 Page36 (2024.04)
26. 易安俐, 吉崎智子, 八木耀平, 田村光至, 栢田大生, 桑原聡「非典型的な筋力低下の分布と呼吸筋障害で発症した封入体筋炎の 55 歳男性例」千葉医学雑誌 (0303-5476) 100 巻 2 号 Page36 (2024.04)
27. 村田正太「迅速診断はどこまで治療に活かせるのか 質量分析は革命を起こしたのか」日本感染症学会総会・学術講演会・日本化学療法学会学術集会合同学会プログラム・抄録集 98 回・72 回 Page np172 (2024.05)
28. 武井研斗, 鈴木眞, 仙波利寿, 宮部安規子, 内本高之, 川崎健治, 松下一之「尿中クレアチニンが異常低値を示した 2 症例の検討」日本医学検査学会抄録集 73 回 Page466 (2024.05)
29. 佐々木奏子, 池田忍, 鎌田知子, 川崎健治, 松下一之, 森雅裕「体性感覚誘発電位が脊髄病変の診断に有用であった 1 例」日本医学検査学会抄録集 73 回 Page442 (2024.05)
30. 鈴木眞, 宮部安規子, 齊藤知子, 瀬川俊介, 山下晃司, 菅谷陸, 川崎健治, 松下一之「Mycobacterium abscessus complex の亜種同定および薬剤感受性の検討」日本医学検査学会抄録集 73 回 Page278 (2024.05)
31. 今泉優理, 石毛崇之, 藤川樹, 村田正太, 川崎健治, 松下一之「Monkeypox virus (MPXV) の検出および Clade 判定のための Multiplex PCR 法の構築」日本医学検査学会抄録集 73 回 Page217 (2024.05)
32. 松原未来, 宮部安規子, 齊藤知子, 瀬川俊介, 鈴木眞, 山下晃司, 藤川樹, 村田正太, 石和田稔彦, 矢口貴志, 伊藤純子, 奥主朋子, 日野もえ子, 川崎健治, 松下一之「血液培養の陽性判定と同定に苦慮した *Gordonia sputi* による菌血症の 1 例」日本臨床微生物学会雑誌 (2434-866X) 34 巻 3 号 Page209-213 (2024.06)
33. 鈴木眞, 森田雄二, 石毛昭太, 甲斐心皓, 川崎健治, 松下一之, 小倉康平, 秋山徹, 清水健「クオラムセンシング阻害剤 Furanone C-30 は緑膿菌のニトロソ化ストレス感受性を上昇させる」日本細菌学雑誌 (0021-4930) 79 巻 2 号 Page96 (2024.06)
34. 堀田多恵子, 清水一範, 山田修, 内山田健次, 宮下弘信, 片岡浩巳, 内海健, 松下一之「近未来の臨床検査の情報共有と患者還元・社会貢献。その期待と課題 HL7-FHIR の導入に必要な JLAB10/11 の整備 円滑な検査部運用のための提案」Laboratory and Clinical Practice (0289-1905) 41-42 巻 1 号 Page20-21 (2024.06)
35. 松下一之「Catch up! 遺伝子検査 臨床検査医に期待される役割と展望 (標準化に向けた動き、2 次所見の扱いを含めて)」Laboratory and Clinical Practice (0289-1905) 41-42 巻 1 号 Page12-13 (2024.06)
36. 山田有瑛, 狩野裕樹, 青墳章代, 和田猛, 澤井撰, 木村暁夫, 下畑享良「髄膜炎で発症した自己免疫性 GFAP アストロサイトパチーの 1 例」臨床神経学 (0009-918X) 64 巻 6 号 Page443 (2024.06)
37. 野竹真未, 市川智彦, 宇津野恵美, 藤本浩司, 縣靖子, 松下一之, 西村基「HBOC 症例から検討する血縁者への遺伝カウンセリングのあり方」日本遺伝カウンセリング学会誌 (1347-9628) 45 巻 2 号 Page139 (2024.07)
38. 長尾美玲, 澤井撰, 宇津野恵美, 浦尾悠子, 市川智彦「治療法開発によって再検討される遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスの発症前診断への対応」日本遺伝カウンセリング学会誌 (1347-9628) 45 巻 2 号 Page115 (2024.07)
39. 松下一之, 石毛崇之, 西村基, 川崎健治「当院で開発した Multi-gene panel testing の使用経験とその精度管理について」臨床化学 (0370-5633) 53 巻 Suppl.1 Page184 (2024.07)
40. 石毛崇之「遺伝子・染色体検査のピットフォール

- 生殖細胞系列遺伝子検査のピットフォール」臨床化学 (0370-5633) 53 巻 Suppl.1 Page113 (2024.07)
41. 松下一之「LDT・RUO と保険診療 病理・臨床検査部門の協働による国内 LDTs によるゲノム医療の確立を目指して」日本臨床検査医学会誌 (2436-2727) 72 巻 8 号 Page643-649 (2024.08)
 42. 土田祥央, 村田正太, 宮部安規子, 中嶋優貴, 飯塚和秀, 佐藤守, 松下一之, 中山智祥, 野村文夫, 梅村啓史「マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析法 (Matrix-assisted laser desorption/ionization-time of flight mass spectrometry MALDI-TOF MS) による細菌同定における試料調製時の湿度の影響」JSBMS Letters (1881-5464) 49 巻 Suppl. Page118 (2024.08)
 43. 松下一之, 橋口照人, 渡邊広祐, 奥川喜永, 竹田真由, 谷本昭英, 赤羽俊章, 池尻誠, 石毛崇之, 遺伝子・プロテオミクス委員会がんゲノム検査の評価と規制に関する基本的考え方 WG2「ゲノム医療における NGS 解析の分析の妥当性と精度管理のための EQA/PT の必要性」医療検査と自動化 (2435-7391) 49 巻 4 号 Page422 (2024.08)
 44. 伝福友加, 渡邊万里子, 風見隆浩, 北村浩一, 浅野はるな, 川崎健治, 松下一之「HLC-723 シリーズ 3 機種における異常ピーク出現症例の検討」医療検査と自動化 (2435-7391) 49 巻 4 号 Page397 (2024.08)
 45. 川崎健治「電解質 (Na, K, など)」医療検査と自動化 (2435-7391) 49 巻 4 号 Page317 (2024.08)
 46. 佐々木晴香, 高岡浩之, 松本萌, 西川侑成, 與子田一輝, 青木秀平, 野口靖允, 鈴木克也, 八島聡美, 江口紀子, 木下真己子, 北原秀喜, 松浦馨, 高梨秀一郎, 松宮護郎, 小林欣夫「高齢患者の器質性僧帽弁逆流症に対する治療方法選択の検討」日本心臓病学会学術集会抄録 72 回 Page O-24-5 (2024.09)
 47. 青木秀平, 高岡浩之, 木下真己子, 八島聡美, 鈴木克也, 西川侑成, 松本萌, 野口靖允, 鈴木紀子, 佐々木晴香, 北原秀喜, 松浦薫, 小林欣夫「CT による左室 longitudinal strain 解析は経カテーテル大動脈弁置換術後の予後予測に有用である」日本心臓病学会学術集会抄録 72 回 Page PR-2-6 (2024.09)
 48. 鈴木克也, 高岡浩之, 近藤祐介, 青木秀平, 八島聡美, 木下真己子, 小林欣夫「心不全・心筋疾患における不整脈マネジメント 心臓 CT による左室細胞外容積解析は心室再同期療法後の予後予測に有用である」日本心臓病学会学術集会抄録 72 回 Page S7-5 (2024.09)
 49. 富田葉月, 仙波利寿, 古家若葉, 石崎大輝, 川崎健治, 松下一之「粒度分布図を用いた反応性リンパ球とリンパ腫細胞の解析 鑑別補助としての Type 分類の有用性」首都圏支部・関甲信支部医学検査学会プログラム・講演抄録集 60 回 Page70 (2024.10)
 50. 西村基, 石毛崇之, 松下一之「遺伝性不整脈のエクソン欠失例に見るマルチ遺伝子パネル検査の大学病院検査部によるバックアップ」日本臨床検査医学会誌 (2436-2727) 72 巻補冊 Page220 (2024.10)
 51. 朝比奈彩, 松下弘道, 上義義典, 北澤淳一, 深澤千寿美, 藤田孝, 松下一之, 横田浩充, 下田勝二, 堀田多恵子, 大西宏明「ポストパンデミックの臨床検査体制 2023 年全国アンケート調査報告」日本臨床検査医学会誌 (2436-2727) 72 巻補冊 Page207 (2024.10)
 52. 松下一之「医療 DX 推進のための臨床検査 43 項目の JLAC11 導入と標準化」日本臨床検査医学会誌 (2436-2727) 72 巻補冊 Page084 (2024.10)
 53. 松下一之「LDT (RUO) と保険診療 (第 2 弾) 国内 LDTs の医療実装に必要な第三者認定と外部精度管理調査 (EQA) の体制構築」日本臨床検査医学会誌 (2436-2727) 72 巻補冊 Page076 (2024.10)
 54. 松下一之「診療報酬改定における検体管理加算のポイント」日本臨床検査医学会誌 (2436-2727) 72 巻補冊 Page010 (2024.10)
 55. 岡野公亮, 鈴木佐和子, 仲理允, 上紗央理, 原馬智美, 菅生将史, 渡邊涼香, 五十嵐活志, 類家裕太郎, 石渡一樹, 市川智彦, 西村基, 山崎有人, 笹野公伸, 横手幸太郎「ARMC5 遺伝子の胚細胞変異を有する多発性副腎腺腫の家族例」日本内分泌学会雑誌 (0029-0661) 100 巻 2 号 Page598 (2024.10)
 56. 上野剛, 寺元章吉, 曾根原弘樹, 青野文仁, 大久保毅, 瀬川智也, 宮内修, 長田尚夫, 生水真紀夫「抗セントロメア抗体陽性不妊患者卵子の染色体の観察」日本生殖医学会雑誌 (1881-0098) 69 巻 4 号 Page334 (2024.10)
 57. 安田真人, 鶴沢顕之, 赤嶺博行, 鋸屋悦子, 半田秀雄, 車田賢太郎, 大西庸介, 小澤由希子, 桑原聡「糖尿病合併重症筋無力症における GAD 抗体の保有率」神経治療学 (0916-8443) 41 巻 6 号 Page S308 (2024.10)
 58. 鋸屋悦子, 鶴沢彰之, 小澤由希子, 安田真人, 大西庸介, 赤嶺博行, 半田秀雄, 車田賢太郎, 桑原聡「重症筋無力症におけるデキサメタゾン経口パルス療法の治療効果」神経治療学 (0916-8443) 41 巻 6 号 Page S308 (2024.10)
 59. 八木耀平, 奥村元博, 森雅裕, 佐藤健朗, 田村光至, 梅原淳, 桑原聡, 井口保之「COVID-19 感染後 MRI 陰性脊髄炎の 2 例」神経治療学 (0916-8443) 41 巻 6 号 Page S281 (2024.10)
 60. 赤嶺博行, 鶴沢顕之, 横山真隆, 車田賢太郎, 半田秀雄, 鋸屋悦子, 安田真人, 田中知明, 桑原聡「後期発症重症筋無力症では Age-associated B cell が病態と関連している」神経免疫学 (0918-936X) 29 巻 1 号 Page173 (2024.10)

61. 車田賢太郎, 鵜沢顕之, 安田真人, 赤嶺博行, 鋸屋悦子, 半田秀雄, 大西庸介, 小澤由希子, 桑原聡「眼筋型重症筋無力症の全身化移行する割合及びリスク因子」神経免疫学 (0918-936X) 29 巻 1 号 Page277 (2024.10)
62. 田村光至, 平野成樹, 焼山正嗣, 山岸航介, 小泉湧芽, 和泉未知子, 北山仁久, 桑原聡「パーキンソン病患者のすくみ足における認知・心理的特徴」臨床神経学 (0009-918X) 64 巻 Suppl. Page S282 (2024.10)
63. 小泉湧芽, 平野成樹, 山本達也, 山中義崇, 荒木信之, 杉山淳比古, 櫻井透, 仲野義和, 堀越琢郎, 飯森隆志, 北山仁久, 和泉未知子, 田村光至, 山岸航介, 桑原聡「アルツハイマー病とレビー小体型認知症における脳血流の相違」臨床神経学 (0009-918X) 64 巻 Suppl. Page S324 (2024.10)
64. 伊藤美羽, 杉山淳比古, 山岸航介, 吉崎智子, 北山仁久, 水地智基, 桑原聡「一側性の線条体病変を呈し, 脳梗塞と診断されていた E200K 変異遺伝性クロイツフェルト・ヤコブ病の 74 歳女性例」臨床神経学 (0009-918X) 64 巻 11 号 Page834 (2024.11)
65. 山下晃司, 伴さやか, 矢口貴志, 宮部安規子, 齊藤知子, 瀬川俊介, 堀田恵海, 鈴木眞, 菅谷陸, 土田知央, 村田正太, 川崎健治, 松下一之「MALDI-TOF MS による臨床関連糸状菌の同定精度」日本臨床微生物学会雑誌 (2434-866X) 35 巻 Suppl.1 Page305 (2024.12)
66. 鈴木眞, 村田正太, 菅原庸, 荒井千夏, 松浦佑介, 宮部安規子, 齊藤知子, 瀬川俊介, 山下晃司, 藤川樹, 川崎健治, 菅井基行, 大鳥精司, 松下一之「ロシア-ウクライナ紛争地域の受傷者から分離した多剤耐性 *Acinetobacter baumannii* の解析」日本臨床微生物学会雑誌 (2434-866X) 35 巻 Suppl.1 Page303 (2024.12)
67. 村田正太, 山下晃司「真菌感染症の検査 / 遺伝子・抗原, MALDI-TOF MS, 薬剤感受性 真菌同定における MALDI-TOF MS の効果」日本臨床微生物学会雑誌 (2434-866X) 35 巻 Suppl.1 Page264 (2024.12)
68. 青木秀平, 高岡浩之, 野口靖允, 與子田一輝, 松本萌, 鈴木克也, 八島聡美, 西川侑成, 木下真己子, 鈴木紀子, 佐々木晴香, 大門道子, 小林欣夫「心臓 MRI による Ischemia with Non-obstructive Coronary Artery disease (INOCA) 診断」日本臨床生理学会雑誌 (0286-7052) 54 巻 5 号 Page157-161 (2024.12)
69. 西川侑成, 高岡浩之, 野口靖允, 松本萌, 與子田一輝, 青木秀平, 浅田一成, 鈴木克也, 八島聡美, 木下真己子, 鈴木紀子, 佐々木晴香, 小林欣夫「Ischemia with Non-obstructive Coronary Artery

disease (INOCA) 診断における心臓 CT の立ち位置」日本臨床生理学会雑誌 (0286-7052) 54 巻 5 号 Page153-156 (2024.12)

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 松下一之「シンポジウム 10 国内 LDTs の医療実装に必要な第三者認定と外部精度管理調査 (EQA) の体制構築」第 71 回日本臨床検査医学会学術集会
2. 松下一之「臨床検査からみた国内完結型ゲノム医療推進のための精度管理体制の構築」シスメックス遺伝子セミナー in 長崎
3. 松下一之「診療報酬改定に関して」シスメックス株式会社 日本・東アジア地域キックオフミーティング
4. 松下一之「当院で開発した遺伝性腫瘍に対する MGPT の使用経験と PT/EQA (外部精度管理調査) の必要性について」第 30 回 日本遺伝性腫瘍学会学術集会
5. 松下一之「「療報酬改定と関連法令のポイント」～薬事未承認検査 (全ゲノム解析含む) の保険収載に向けて～」日本臨床検査専門医会 第 3 回年次大会
6. 松下一之「令和 8 年度の診療報酬改定への期待と課題ー臨床検査医の立場からー」第 41 回臨床検査振興セミナー
7. 松下一之「《 Biotyper philosophy 》: application of the MALDI innovative technologies for the identification of pathogens responsible for diseases supported by bacteria and fung」Pathogen Reainess Platforn (PRP)
8. 松下一之「MALDI and beyond: how Japan is preparing to tackle a future pandemic crisis」Pathogen Reainess Platforn (PRP)
9. 松下一之「教育講演 4 診療報酬改定における検体管理加算のポイント」第 71 回日本臨床検査医学会学術集会
10. 松下一之「国内 LDTs の医療実装に必要な第三者認定と外部精度管理調査 (EQA) の体制構築ーバイオバンク (バイオリポジトリ) 検体の利活用法の促進を含めてー」国立がん研究センター東病院 病理講演会

【学会発表数】

国内学会 15 学会 27 回 (うち大学院生 5 回)

国際学会 4 学会 5 回 (うち大学院生 1 回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「核小体内における RNA polymerase II による ribosomal RNA の転写と癌化機構の解明」代表者: 松下一之 2023-2025
2. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「血中遊離核酸検査の質保証と技能検査の開発・精確な結果に基づく

- ゲノム医療をめざして」分担者：松下一之 2024
3. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「mTOR シグナリング経路の新規動態解析と関連する抗がん剤開発」
分担者：松下一之 2024
4. 文部科学省科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「長鎖 DNA 解析を基盤とする臨床検査群を可能とする本邦初のプラットフォームの開発」代表者：西村基 2022-2024
5. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「1 本鎖 DNA/

RNA 選択的解析による COVID-19 を含む感染症検査の広範な改良」代表者：西村基 2021-2024

【受賞歴】

1. 第 273 回日本循環器学会関東甲信越地方会 Clinical Research Award 優秀賞受賞 與子田一輝「奇異性低流量低圧較差大動脈弁狭窄症における経皮の大動脈弁置換術前後の特異的左室心筋仕事量変化の意義」

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

1. 診療

1) 2024 年の検査数とその内訳

中央採血室（外来診療時の静脈採血、糖負荷試験）：165,462 件

検査部で実施した臨床検査検査総数：約 6,485,973 件

内訳：生化学検査 4,857,317 件、免疫検査 475,902 件、血液検査 831,087 件

一般検査 202,349 件、微生物検査 44,025 件、遺伝子検査 12,917 件、生理機能検査 63,376 件

2) 遺伝子関連検査

大腸がん関連遺伝子検査はユニバーサルスクリーニング化を目指し、食道胃腸外科、病理部、検査部、遺伝子診療部が連携し実施している。分子標的治療薬選択のために行う RAS/BRAF 遺伝子変異検査、リンチ症候群に対するマイクロサテライト不安定性検査は昨年とほぼ同数の 180 件を実施した。リンチ症候群については 4 例の遺伝子診断結果を報告した。遺伝性大腸がんの遺伝子診断は次世代シーケンサーを用いた方法での解析も開始している。病原体核酸検査は HIV, HCV, HBV に加え抗酸菌群遺伝子検査を行っている。体細胞遺伝子検査は BCR-ABL1mRNA 定量検査において、本邦の大学病院の院内検査の中では最初となる国際基準化を行い先進的に活動している。

新しく設置されたがんゲノムセンターにおける保険診療で開始されたがん遺伝子パネル検査の精度管理やエキスパートパネルのためのレポート作成、プレエキスパートパネルを毎週火曜日の午後に開始した。また、エキスパートパネルのための診療科や看護部、薬剤部、がんゲノムセンタースタッフの情報共有のために、電子カルテのガルーンのデジエ機能を使って、症例ごとのデータサマリーを関係者が閲覧できるように、企画情報部と整備した。

2020 年 2 月からがん遺伝子パネル検査「FoundationOne」の検査を開始した。

3) 国際規格 ISO 15189 認定施設である。

国際規格である ISO 15189（臨床検査室 - 品質と能力に関する特定要求事項）認定取得の活動を 2015 年 5 月より本格的に開始し、同年 12 月末に認定審査を受審した。2016 年 3 月に ISO 15189 の認定を取得した。

2017 年 3 月 ISO 15189 の第 1 回サーベイランスを受審し、認定継続が承認された。

2018 年 11 月 ISO 15189 の第 2 回サーベイランスを受審し、認定継続が承認された。

2019 年 12 月 ISO 15189 の第 1 回の認定更新審査を受審し、2020 年 3 月に認定更新が承認された。

2021 年 6 月 ISO 15189 の第 3 回サーベイランスを受審し、認定継続が承認された。

2022 年 5 月 ISO 15189 の第 4 回サーベイランスを受審し、認定継続が承認された。

2023 年 9 月 ISO 15189 の第 2 回認定更新審査を受審し、2024 年 3 月に認定更新が承認された。

●地域貢献

千葉県精度管理専門委員および千葉市、柏市、船橋市精度管理専門委員として県内および市内の衛生検査所立ち入り検査に参加している（臨床検査技師長および検査部長）。国内の臨床検査技師養成校からの臨床実習生を約 1 年間にわたり受け入れている。卒後教育研修として国内の臨床検査技師の実地教育を行っている。近年、本邦における独自の診断技術や治療法の確立、さらには治療薬の開発を目指した各種臨床試験（自主臨床試験、治験）への対応が重要になっている。これらの臨床試験の遂行のためには、質の高い臨床検査データのための臨床検体の採取、保存の標準化（Quality Control：QC）が必須である。大学病院の検査部門として、臨床検体の QC を担保するための方法についても、国内外の情報収集につとめ、電子カルテ情報との連携を含めて関連する中央診療部門や各種

診療科と協力して当院に相応しい方法の確立を研究している。

2018 年度から、「千葉県リンチ症候群対策協議会」を立ち上げ、2019 年からは遺伝性乳がん・卵巣がん（HBOC）を対象に加え、「千葉県リンチ症候群・HBOC 対策協議会」から「千葉県遺伝性腫瘍対策協議会」と発展させて千葉県における関係者と年 2 回の研究会を開催している。さらに、近隣の検査部関係者とバイエリアラボアカデミーを立ち上げて、若手教育、検査業務の改善を図っている。

●その他

臨床検査の国際標準化のために ISO 15189（2012 版）の取得を準備し、2016 年 3 月 17 日に認定された。2023 年に 3 回目の更新審査を終え、認定を維持している。近年急速に医療分野において発展しているファーマコゲノミクス（PGx）、自主臨床試験、治験における新規の各種疾患バイオマーカー候補の探索を大学病院内に円滑に導入するために、検査部、遺伝子診療部として対応できる範囲で準備を開始した。中央診療棟内に「ポストゲノム診療センター」の設置、バイオリポジトリ技術管理士（BiTA）の資格を持つ臨床検査技師を養成、「バイオバンク」の設立に向け準備を進めている。我々中央診療部門の一つとしての検査部は、4 つの P（Predictive；予知、Preventive；予防、Personalized；個別化、Participatory；患者参加）を合言葉に、これからの医療をとらえて研鑽に励んでいる。

研究領域等名：	
診療科等名：	遺 伝 子 診 療 部

●はじめに

遺伝子解析技術の進歩により年々、遺伝学的検査の保険収載項目や非保険項目も増え、診断の補助ツールとしての活用も進んでいる。さらにはがん治療薬を選択するためのコンパニオン診断にもこの技術が使われている。遺伝子診療部では、常勤の認定遺伝カウンセラー1名と専門分野が異なる15名の専門医（臨床遺伝専門医を含む）が遺伝カウンセリング（遺伝相談外来）を担当し、遺伝学的検査の希望があった場合は、同意を得て受託施設への検査依頼や検体送付などの一連を担当している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

- ① CC ベーシックにおいて、医学部4年次学生に対し遺伝カウンセリング実習を行っている。
- ② 専門職連携教育（IPE）Step4において、医・薬・看護学部4年次学生に対し、遺伝カウンセラー・公認心理士の立場でのコンサルテーションを通して指導・アドバイスを行っている。
- ③ 医学部1年次学生に対し、遺伝分子医学ユニット講義を担当した。

・卒業教育／生涯教育

- ① 月に1回遺伝カウンセリング症例検討会を行っている。毎回遺伝医療に関するテーマを決め、参加者とディスカッションを行い、症例の共有と知識の向上を図っている。臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー、看護師、公認心理士、開業医、遺伝カウンセリング修士大学院生など、院内や千葉県下の医療関係者を中心に毎回多くの参加者を得ている。
- ② ゲノム時代の難治性疾患マネジメントを担うオールラウンド臨床遺伝専門医の育成を目指す NGSD（難病克服！次世代スーパードクターの育成）第2期の専攻医に対し遺伝カウンセリングに関する講義や実習を行い、臨床遺伝専門医育成に寄与している。
- ③ 臨床遺伝専門医の研修認定施設であり、現在、院外の医師も含め研修開始届提出医師17名が臨床遺伝専門医・指導医取得のために遺伝カウンセリングに陪席し研鑽している。
- ④ 日本人類遺伝学会「遺伝医学セミナー」実行委員として企画・運営に携わった。

・大学院教育

修士課程 遺伝カウンセリングコースの大学院生に対し、遺伝カウンセリングに関する講義や演習（ロールプレイ）、実習（陪席）、修士論文作関などの指導を行い、認定遺伝カウンセラーの育成に寄与している。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

月に1回遺伝カウンセリング症例検討会を行っている。毎回遺伝医療に関するテーマを決め、参加者とディスカッションを行い知識の向上を図っている。臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー、看護師、公認心理士、開業医など、院内や千葉県下の医療関係者を中心に毎回多くの参加者を得ている。

また、当院は「NIPT等の出生前検査に関する専門委員会」の基幹施設であり、7施設が連携施設として登録している。連携施設登録においては基幹施設の遺伝診療に係わる会議への参加が義務づけられているので、この検討会への参加をそれぞれの施設担当者に依頼している。

さらに、年に1回、千葉大学大学院看護学研究科の講義（小児病態と治療）を担当している。

●研 究

・研究内容

当院は日本医療研究開発機構（AMED）の推進する研究、IRUD（Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases：未診断疾患イニシアチブ）の拠点病院の一つである。当部は未診断疾患患者への遺伝カウンセリングを通して、未診断疾患患者・家族を支援し、希少・未診断疾患の研究開発の推進に寄与している。小児科、循環器、脳神経内科、眼科、他施設など紹介される診療科や施設の幅が広がっている。また、当院は遺伝性乳癌卵巣癌総合診療基幹施設の認定を受けており、データの収集や取りまとめを行い、本邦の遺伝性乳癌卵巣癌及びその疑いのある患者や家族に対する診療体制の整備と拡充の一助を担っている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Nakamura H, Kikuchi A, Sakai H, Kamimura M, Watanabe Y, Onuma R, Takayama J, Tamiya G, Mashimo Y, Ebata R, Hamada H, Suenaga T, Onouchi Y, Kumaki S. Case Report: Identification of a CARD8 variant in all three patients with PFAPA syndrome complicated with Kawasaki disease. Front Pediatr. 2024 Mar 5;12:1340263. doi: 10.3389/fped.2024.1340263. PMID: 38510083; PMCID: PMC10952825.
2. Ito M, Sasaki A, Haga M, Iwatani A, Nishimura E, Arai H, Nagano N, Suga S, Araki S, Konishi A, Onouchi Y, Namba F. Association of hyaluronan and proteoglycan link protein 1 gene with the need of home oxygen therapy in premature Japanese infants with bronchopulmonary dysplasia. J Matern Fetal Neonatal Med. 2024 Dec;37(1):2332914. doi: 10.1080/14767058.2024.2332914. Epub 2024 Mar 24. PMID: 38522947.

【雑誌論文・和文】

1. 尾内善広「川崎病の病因研究の最前線」カレントテラピー第42巻4号「川崎病－最近の進歩」46-51頁.
2. 五島悠介, 今村有佑, 坂本信一, 井上淳, 永田真樹, 納谷幸男, 市川智彦【内分泌外科におけるこれからの教育】ロボット手術時代の副腎外科への若手リクルートと教育(解説)日本内分泌外科学会雑誌(2434-6535) 41巻4号 Page278-282 (2024.12)

3. 金坂 学斗, 佐塚 智和, 市川 智彦【臨床腎・泌尿器癌(下)－基礎・臨床研究の進歩－】腎盂尿管癌の診断 予後因子(解説)日本臨床(0047-1852) 82巻増刊10 臨床腎・泌尿器癌(下) Page44-48 (2024.12)
4. 市川智彦【これで迷わない男性不妊症・性機能障害への対処】若年がん患者の妊孕性温存の現状と課題(解説)泌尿器外科(0914-6180) 37巻1号 Page22-27 (2024.01)

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表(一般の学会発表は除く)】

1. 2024年10月12日(土) 日本人類遺伝学会第69回大会シンポジウム15「小児医療における臨床遺伝学の役割と展望」尾内善広 Research on the Genetic Factors of Kawasaki Disease -Achievements and Future Perspectives

【学会発表数】

国内学会

- 日本遺伝カウンセリング学会 3回(うち大学院生3回)
- 遺伝子診療学会 1回(うち大学院生0回)
- 日本人類遺伝学会学会 6回(うち大学院生0回)

国際学会

- アメリカ人類遺伝学会学会 1回(うち大学院生0回)

【外部資金獲得状況】

1. 日本医療研究開発機構「未診断疾患イニシアチブ(IRUD): 希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究[IRUD拠点病院]」分担者: 市川智彦 2024年度~2026年度

●診療

・外来診療・入院診療・その他(先進医療等)

・外来診療

遺伝カウンセリングおよび遺伝学的検査

2024年に実施された遺伝カウンセリング件数(NIPT(無侵襲的出生前遺伝学的検査)を除く)は408症例である。疾患としては、遺伝性乳癌卵巣癌114例、IRUD26例、自己炎症・免疫疾患37例、脊髄小脳変性症21例、QT延長症候群9例、Lynch症候群38例、その他177例となっている。そのうち、遺伝カウンセリング後に遺伝学的検査を希望した症例は、遺伝性乳癌卵巣癌102例、IRUD26例、自己炎症・免疫疾患17例、脊髄小脳変性症17例、QT延長症候群9例、Lynch症候群14例、その他136例であった。NIPTの遺伝カウンセリング件数は136件となっており、ほとんどが検査に進んでいる。いずれにおいても、検査を希望される場合には同意取得、採血、匿名化処理、検体送付などを行っている。遺伝学的検査のほとんどが次世代シーケンサーでの解析となり、解析結果の解釈には専門的な知識が必要となるため、臨床遺伝専門医が中心となって最終報告書などを作成している。また、各診療科から連絡を頂き、がんパネル検査を希望する患者の家系図作成・二次的所見の対応も行っている。

・心理カウンセリング:

遺伝性疾患は本人のことだけに留まらず、血縁者にも影響することが多い。そのため心理的な負担も大きい。遺伝子診療部では公認心理師が患者の心理カウンセリングや未発症者の発症前診断などに関わり対応している。

●地域貢献

毎月、第4木曜日には遺伝子診療部カンファレンスを行っている。院内外を問わず、遺伝医療に関わっている、または興味を持つ医療関係者や学生が参加している。症例を通してそれぞれの職種や立場から意見交換を行っている。また、分野別の遺伝カウンセリングの現状報告を行い、情報を共有している。

●その他

当院は遺伝性乳癌卵巣癌総合診療暫定基幹施設である。遺伝性乳癌卵巣癌に関する症例の検討会を月1回、第2木曜日の8時30分より実施している。リスク低減乳房切除術（RRM）、予防的卵管卵巣摘出術（RRSO）の希望があった場合など、症例毎に多職種で検討している。

研究領域等名：	
診療科等名：	手 術 部

●はじめに

手術部は附属病院中央診療部門として各診療科の手術治療を支援するとともに、手術業務の管理および運営に携わっている。当院で行われる手術にはハイリスク症例や難易度の高い手術が多く、これらの手術治療を安全かつ効率的に遂行するための安全管理・環境管理・危機管理・労務管理・周術期管理・機器管理などを担っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部学生を対象として、外科手術における滅菌・消毒および手術実習に関する教育・指導を行った。臨床入門講義「手洗い」および「外科手技」、臨床実習前 OSCE「臨床手技」ステーション責任者を担当した。

・卒後教育／生涯教育

初期研修医に対して手術室に関するオリエンテーション、麻酔学に関するハンズオンセミナーやウェブセミナーを行った。新人看護師に対して滅菌・消毒法、手術器械の取り扱い、安全管理についての教育を行った。

・大学院教育

関連する大学院生に対して臨床研究や学会発表の指導を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

千葉県立保健医療大学において、非常勤講師として病態学（外科系疾病論）系統講義を行った。

●研 究

・研究内容

医師、看護師を中心として外科手術の安全性、手術関連合併症およびその予防法についての臨床研究を行なった。また外科手術の対象となる悪性腫瘍の進展や再発転移の機序、新規薬剤の開発、手術や麻酔の手技などに関する基礎研究、ならびに小児および成人の喉頭・声門の周術期における可動性の研究を行った。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Yamada H, Takada M, Ghone D, Yu M, Nagashima T, Fujimoto H, Sakakibara J, Hasegawa Y, Takao S, Yamada A, Narui K, Ishikawa T, Suzuki A, Otsuka M. Eribulin induces micronuclei and enhances the nuclear localization of cGAS in triple-negative breast cancer cells. *Sci Rep* 14: 14146, 2024.
2. Shinomiya Y, Kouchi Y, Onodera K, Yamamoto H, Harada-Kagitani S, Sakakibara J, Nagashima T, Ikeda JI, Kishimoto T. Imprint Cytology of Tall Cell Carcinoma with Reversed Polarity of the Breast: A Case Report. *Acta Cytol* 68: 73-79, 2024.
3. Mishima T, Takano S, Takayashiki T, Kuboki S, Suzuki S, Sakai N, Hosokawa I, Konishi T, Nishino H, Nakada S, Kouchi Y, Kishimoto T, Ohtsuka M. Serum elastase-1 predicts malignancy in intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas. *Pancreatol* 24: 93-99, 2024.
4. 房 2nd look US. 日本超音波医学会第 97 回学術集会パネルディスカッション
5. 藤本浩司, 長嶋健, 高田護, 榊原淳太, 山本寛人, 山崎美智子, 大塚将之. Oncoplastic breast surgeon を目指して～今までとこれから～. 第 12 回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会パネルディスカッション
6. 三島敬, 高野重紹, 高屋敷吏, 久保木知, 鈴木大亮, 酒井望, 細川勇, 小西孝宜, 西野仁恵, 鈴木謙介, 仲田真一郎, 大塚将之. IPMN の切除断端診断及び長期予後の検討. 第 55 回日本膵臓学会大会パネルディスカッション
7. Mishima T, Takayashiki T, Kuboki S, Takano S, Suguki D, Sakai N, Hosokawa I, Konishi T, Nishino H, Nakada S, Ohtsuka M. Treatment outcomes and clinicopathological analysis of intraductal papillary mucinous neoplasm (IPMN) associated invasive carcinoma. 第 36 回日本肝胆膵外科学会学術集会ワークショップ

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 榊原淳太, 藤本浩司, 高田護, 長嶋健, 大塚将之. 磁場空間における MRI detected lesion に対する乳

【学会発表数】

- 国内学会 30 回（うち大学院生 2 回）
国際学会 4 回（うち大学院生 0 回）

【外部資金獲得状況】

1. 日本学術振興会 基盤研究(C)「拡張現実と疑似体位画像生成技術を応用した乳癌術前・術中支援システムの開発」分担者：長嶋健 2023-2025
2. 日本学術振興会 基盤研究(C)「in vivo エストロゲン非依存性乳癌細胞株による内分泌療法抵抗性機序の解析研究」分担者：長嶋健 2022-2024
3. 日本学術振興会 基盤研究(C)「大腸癌におけるRYBP を介した腫瘍制御機構の解明」分担者：三島敬 2022-2024
4. 日本学術振興会 基盤研究(C)「C5-C5aR1/2 axis を標的とした膀胱癌進展機構の解明と新規補体免疫賦活化療法への応用」分担者：三島敬 2023-2025
5. 日本学術振興会 基盤研究(C)「肝内胆管癌病態形成におけるメカノトランスダクションの役割」分担者：三島敬 2023-2025

【受賞歴】

1. 第 71 回日本麻酔科学会学術集会 最優秀演題賞
2. 第 28 回日本外科病理学会学術集会 優秀演題賞

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

高度化する内視鏡下手術やロボット支援手術、ハイブリッド手術などの高機能手術が安全に行える体制を構築し、様々な手術に対して効率的な運用が行えるよう支援および管理を行った。日帰り手術や脳死移植手術にも対応できる体制を整えた。年間総手術件数は 10,851 件と過去最高であった。

研究領域等名：	
診療科等名：	輸血・細胞療法部

●はじめに

千葉大学医学部附属病院のすべての輸血業務全般を一括管理し、輸血の二つの重要なポイントである、「安全な輸血」と「適正な輸血」を推進するとともに、院内の自己血輸血の採取業務、移植治療・先進医療に必須である白血球アフェレーシス業務を全面的に担当している。当部は2021年1月の新中央診療棟開院に伴い、輸血検査部門と採血業務部門のスペースの拡充とともに機器更新を行った。これにより、より質の高い輸血検査が可能となり、2021年6月にはISO15189を受審し、国際標準精度での検査業務整備を行っている。また、無菌処理を可能とする細胞調製室や細胞保存室の拡充、新たな細胞凍結・保存機器を備え、より高度な管理体制が求められる細胞治療製品の調製、保管管理に対応できるようになった。2021年6月には革新的な再生医療等製品であるCAR-T療法薬キムリアの施設認定を取得し、更に2021年11月にはプレヤンジ、2022年6月にはアベクマ、2023年12月にはイエスカルタと新規CAR-T療法の施設認定を取得し、全国でも有数のCAR-T療法施設として、その原料細胞の採取・調製・管理を行っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部4年生の臨床検査ユニット血液学・輸血学の講義を担当し、C. C. ベーシックで輸血検査、血液検査の実習を担当した。また血液内科の講義も連携して実施しており、コアCC、アドバンスドCCにおいては血液内科臨床指導の一部を担当した。さらに千葉県内外の技師学校学生を対象として、輸血学の講義、実習による教育を担当した。

・卒後教育／生涯教育

研修医に対して研修開始時に輸血医療に関するガイダンスを行なった。また、千葉県内外医療機関の技師、看護師を対象として輸血認定資格取得のための教育を担当した。2024年度後期の医療安全セミナーでは「安全な輸血のために」というタイトルで院内への周知を行った。

・大学院教育

医学研究院の内分泌代謝・血液・老年内科学の博士課程学生の研究指導を血液内科と協力して実施した。また先端生命科学特論、臨床腫瘍学特論の講義を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

千葉県合同輸血療法委員会による血液製剤使用適正化のための個別説明会（山王病院）を行った。

●研 究

・研究内容

(1) 輸血の安全性確保、適正輸血の推進のために輸血に関する臨床研究、(2) 造血細胞移植に関する臨床研究、(3) 各種移植療法、細胞治療の発展のために細胞採取、採取細胞の分析等の基礎的研究を実施し、輸血・細胞治療学会、造血細胞移植学会、血液学会などにてその成果を発表した。また血液内科と共同し、造血器腫瘍やPOEMS症候群の病態解明あるいは新規治療開発の研究を行った。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Matsui S, Ri C, Bolanos LC, Choi K, Shibamiya A, Ishii A, Takaishi K, Oshima-Hasegawa N, Tsukamoto S, Takeda Y, Mimura N, Yoshimi A, Yokote K, Starczynowski DT, Sakaida E, Muto T. Metabolic reprogramming regulated by TRAF6 contributes to the leukemia progression. *Leukemia*. 2024 May;38(5):1032-1045.
2. Ishii A, Tsukamoto S, Mimura N, Miyamoto-Nagai Y, Isshiki Y, Matsui S, Nakao S, Shibamiya A, Hino Y, Kayamori K, Oshima-Hasegawa N, Muto T, Takeda Y, Suichi T, Misawa S, Ohwada C, Yokote K, Kuwabara S, Nakaseko C, Takamatsu H, Sakaida E. Detection of clonal plasma cells in POEMS syndrome using multiparameter flow cytometry. *Sci Rep*. 2024 May 6;14(1):10362.
3. Nakao S, Tsukamoto S, Takeda Y, Ohwada C, Ri C, Izumi S, Kamata Y, Matsui S, Shibamiya A, Ishii A, Takaishi K, Takahashi K, Shiko Y, Oshima-Hasegawa N, Muto T, Mimura N, Yokote K, Nakaseko C, Sakaida E. Clinical impact of airflow obstruction after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.

Int J Hematol. 2024 Oct;120(4): 501-511.

4. Wakabayashi H, Hattori N, Uzawa A, Ito M, Hasegawa H, Mimura N, Empitu M, Aizawa M, Kuwabara S, Asanuma K, Oda S. Tryptophan-immunoadsorption plasmapheresis regulates polymorphonuclear-myeloid-derived suppressor cells and pro-inflammatory cytokines. Ther Apher Dial. 2024 Nov 7. Online ahead of print.
5. Jo T, Yoshihara K, Ri M, Tsukada N, Mimura N, Fujii K, Fukushima K, Fujiwara SI, Shimura Y, Haraguchi K, Kato K, Satake A, Yoshida A, Suzuki R, Ikemoto J, Iwaki K, Takeda W, Yonetani N, Tanosaki R, Yamada-Fujiwara M, Kahata K, Nagamura-Inoue T, Yoshihara S, Arai Y. Low platelet counts and low CD4/CD8 ratios at apheresis increase the risk of CAR T-cell manufacturing failure in myeloma. Blood Neoplasia. 2024 Oct 24;2(1):100051.

【雑誌論文・和文】

1. 高地由奈, 小熊玲奈, 猪爪隆史, 三村尚也, 高地祐輔, 岸本充. リンパ球主体の Sweet 病様皮疹と骨髓異形成症候群が合併した 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 134(6) 1683-1683 2024 年 5 月

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 三村尚也. 第 63 回千葉県輸血研究会 多発性骨髓腫の臨床と研究の最前線. 2024/3/9

2. 三村尚也. CAR-T 療法と二重特異性抗体. 日本骨髓腫学会 若手教育セミナー2024 in 福岡 2024/5/31
3. 三村尚也. Triple-class exposed RRMM に対する CAR-T 療法の最適化を考える. How to optimize the benefit of immune-based therapies in RRMM. 2024/6/1. 第 49 回日本骨髓腫学会学術集会イブニングセミナー2
4. 三村尚也. 【がん免疫と免疫療法】CAR-T 細胞療法の進歩. 第 24 回臨床腫瘍夏期セミナー 2024/6/29
5. 三村尚也. Utx 欠損と Braf V600E 変異による骨髓腫モデルマウスの解析 Integrated analyses of myeloma-like disease in mice triggered by Utx loss and Braf V600E mutation. 第 86 回日本血液学会学術集会. Symposium: Dissection of myeloma biology by novel approaches (SY5-4). 2024/10/11.

【学会発表数】

国内学会 7 学会 19 回
国際学会 0 学会 0 回

【外部資金獲得状況】

1. 科学研究費助成 基盤研究(C)「成熟 B 細胞腫瘍モデルマウスによる腫瘍免疫逃避機構の解明と新規治療開発」代表者：三村尚也 2022-2024
2. 科学研究費助成 若手研究「慢性好中球性白血病の病態メカニズム解明と新規治療標的分子の探索」代表者：大島渚 2024-2026

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

当部では輸血検査部門と採血業務部門の 2 本立てで診療を行っている。2021 年 1 月の新中央診療棟開院に伴い、両部門のスペースの拡充とともに機器更新を行った。これにより、より質の高い輸血検査が可能となり、さらに 2021 年 6 月には ISO15189 を受審し、国際標準精度での検査業務整備が完了している。また、無菌処理を可能とする細胞調製室や細胞保存室の拡充、新たな細胞凍結・保存機器を備え、より高度な管理体制が求められる細胞治療製品の調製、保管管理に対応できるようになった。2021 年 6 月には CAR-T 療法であるキムリアの施設認定を取得し、県内唯一の CAR-T 療法施設として、その原料細胞の作製、管理を行う体制が整った。更に 2021 年 11 月にはブレヤンジ、2022 年 6 月にはアベクマ、2023 年 12 月にはイエスカルタと新規 CAR-T 療法の施設認定を取得し、全国でも有数の CAR-T 療法施設として、その原料細胞の作製・管理を行っている。

自己血貯血の実施管理、末梢血幹細胞やドナーリンパ球・自己リンパ球を採取するためのアフエーシスの実施管理や細胞調製、外来輸血の受け入れ、造血幹細胞移植ドナーコーディネート業務も担当している。また新規 CAR-T 療法など複数の細胞療法の治験に参加し、原料細胞の採取、調製、出庫、治験製品の受領、保管管理、解凍、出庫管理を行っている。

さらに病院内の安全かつ適正な輸血を推進するための活動を行っている。輸血療法委員会にて輸血製剤使用量や適正指標の提示や副作用の発生報告を行い、適正輸血に向けた症例検討を行っている。院内輸血ラウンドの中心となり、結果を輸血療法委員会で報告して、改善策を提示している。

●地域貢献

千葉県合同輸血療法委員会の一員として、県内の医療機関に対して、適正輸血のための個別説明会を実施した。

研究領域等名：	
診療科等名：	人 工 腎 臓 部

●はじめに

人工腎臓部は各専門診療科で入院加療を要する透析患者の入院透析および、外来維持透析患者の維持透析（血液透析、腹膜透析）が主な業務である。加えて、慢性腎臓病患者のアクセス手術、維持透析導入、腹膜透析の維持管理を腎臓内科との協働により行っている。さらに救急科・集中治療部とともに急性腎障害や慢性腎不全の急性増悪患者にも対応している。大学病院特有の重症病態下であっても高度治療や特殊治療が安全に実施できるように透析中の管理を行うとともに、必要に応じて全身管理の支援も行う。

あらゆるアフェレシス治療に対応可能なことも当部の強みであり、単に患者の生命を「維持する」のではなく、病因物質を除去することで患者を「治療する」ことに積極的に取り組んでいる。

●教 育

・学部教育／卒前教育

[学部教育]

腎臓内科と協働して亥鼻 IPE（多職種連携）の学生指導を行った。3 年次医師見習い実習において 2 日間で 4 名の学生を受け入れ、人工腎臓部での透析治療について解説し指導を行った。

[卒前教育]（クリニカルクラークシップ）

医学部 4・5 年次学生のクリニカルクラークシップでは、1 グループ×3 週間の腎臓内科ローテ中に透析治療に関するレクチャーおよび管理の実践について見学を交えながら指導した。

[その他]

看護学部の病棟実習、教育学部の見学実習を受け入れた。

臨床工学技士（専門学生）の実習を 4 名受け入れた。

・卒後教育／生涯教育

2024 年度は腎臓内科に入局した専攻医 1 名および透析専門医取得前の若手医師に透析関連業務として血液透析、腹膜透析だけでなくアフェレシスに関して指導を行った。また、月ごとにローテートする初期研修医および他内科系診療科の専攻医に対しても透析管理について指導を行った。毎週行われる症例カンファレンスではプレゼンテーションを通して病態への理解を深めて自習を促すよう指導した。さらに、透析学会・腹膜透析学会・アフェレシス学会のいずれかで学会発表を経験させ、スライドの準備や発表についても指導を行った。

透析療法従事職員研修の研修施設として実習生を他院から 2 名受け入れた。

●研 究

・研究内容

併存症により重篤化した透析患者の急性期透析や、急性血液浄化法を要する重症病態の解明と治療、重症病態下における安全な血液浄化法の施行方法などについて研究を行っている。その成果は日本透析医学会、日本急性血液浄化学会学術集会、日本アフェレシス学会などにおいて発表した。

以下の研究が進行中

- ・アフェレシス治療が SARS-CoV-2 抗体価に及ぼす影響
- ・慢性腎臓病患者（透析患者を含む）の病態と腸内細菌叢の関連についての検討
- ・構造化マニュアルの慢性腎臓病診療への活用の検討
- ・人工知能（AI）を用いた透析管理補助システムの開発

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Wakabayashi H, Hattori N, Uzawa A, Ito M, Hasegawa H, Mimura N, Empitu M, Aizawa M, Kuwabara S, Asanuma K, Oda S. Tryptophan-immunoabsorption plasmapheresis regulates polymorphonuclear-myeloid-derived suppressor cells and pro-inflammatory cytokines. Ther Apher Dial. 2024 Nov 7. doi: 10.1111/1744-9987.14228. Online ahead of print.
2. Matsumoto H, Suzuki H, Tanaka K, Sakairi Y, Shimada T, Hattori N, Yoshino I. Perioperative management for patients with lung cancer on dialysis: a retrospective study. Chiba Medical J. 2024; 100E: 21-28

3. Omote D, Makino S, Okunaga I, Ishii M, Tatsumoto N, Aizawa M, Asanuma K. Unusual course of glyphosate-induced acute kidney injury: a case report of tubulointerstitial nephritis treated with steroids. CEN Case Rep. 2024 Jul 29. doi: 10.1007/s13730-024-00914-x. Online ahead of print.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 松戸市医師会学術講演「新しいCKDガイドラインとCKD診療連携」（浅沼克彦）2024.2.21
2. Diabetes Update Seminar「CKD診療ガイドライン2023を踏まえた治療戦略」（浅沼克彦）2024.3.6
3. 東京腎・高血圧懇話会「CKD進行とポドサイト障害－基礎研究からわかること－」（浅沼克彦）2024.4.13
4. 心腎代謝関連治療戦略「CKD診療の現状と未来」（浅沼克彦）2024.5.23
5. Chiba IMAGINE Project Web Seminar「千葉県における慢性腎臓病対策について」（浅沼克彦）2024.6.3
6. TORII CKD Seminar「千葉県CKD重症化予防とCKDガイドラインを踏まえた治療戦略」（浅沼克彦）2024.7.18
7. 一般社団法人腎臓血管加齢医療研究機構主催 ASN Essence「上皮細胞関連基礎」（浅沼克彦）2024.11.10
8. 東レ・メディカルオンラインセミナー「Cytokine Webinar 敗血症におけるIL-6の上手な使い方～病勢判断とヘモフィルターの選択に際して～」（服部憲幸）2024.2.26
9. 第33回日本腎不全外科研究会学術集会シンポジウ

ム・ICUにおける腎不全患者の術後管理「Opening remarks：Critical Care Nephrology とは」（服部憲幸）2024.7.14

10. 第52回日本救急医学会学術集会シンポジウム・急性血液浄化療法における個別化医療「血液浄化膜と個別化医療」（服部憲幸）2024.10.15
11. 第35回日本急性血液浄化学会 ランチョンセミナー「IL-6の上手な使い方～診断、病勢評価、そしてHemofilterの選択に～」（服部憲幸）2024.10.19
12. 第35回日本急性血液浄化学会 よくわかるセミナー「新人教育の工夫」（服部憲幸）2024.10.20
13. 第54回日本腎臓学会東部学術大会 ランチョンセミナー「当院におけるネフローゼ症候群に対するLDLアフェレシスの治療経験」（石井公祥）2024.9.29
14. 千葉県腎疾患対策 web 講演会 2024「動画を用いた外来患者指導」（吉岡友基）2024.10.3

【学会発表数】

国内学会 7学会 12回

国際学会 0学会 0回

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 若手研究「透析患者の免疫能低下における腸内細菌叢変化の寄与」代表者：若林華恵 2022-2024
2. 文部科学省科学研究費 若手研究「人工知能を利用した血液透析至適ドライウェイト設定システムの開発」代表者：井上宏子 2023-2025

【受賞歴】

1. 若林華恵、第51回千葉県透析研究会会長賞、2024.12.1

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

人工腎臓部では、7名の患者の外来維持透析を行った。外来患者の状態悪化に際しては、腎臓内科や各診療科と連携して入院治療にあたった。

腹膜透析の外来管理を18名に対し行っている。

延べ499名の患者に対して4339回の血液浄化法（血液透析＋血液濾過透析4090回、血漿交換等のアフェレシス治療217回、体外フォトフェレーシス（extracorporeal photopheresis；ECP）療法26回、腹水濾過濃縮再静注6回）を施行した。慢性維持透析の新規導入例は88例（血液透析82例、腹膜透析6例）であった。ECP療法については渡航者の治療に関しても受入れを行った。

バスキュラーアクセス関連の手術を78件、腹膜透析関連の手術を5件、経皮的血管形成術（PTA）を17件施行した。また、長期留置型カテーテル挿入術を5例に実施した。

腹膜透析患者が他診療科に入院する際に必要な支援を行った。

●地域貢献

千葉県透析医会の災害時情報ネットワークに参加し、広域災害発生時に対する備えを行っている。

部長の浅沼克彦は以下の役職に従事し、地域医療に貢献している。

千葉県透析研究会 幹事・会長

千葉県指定難病審査会委員

千葉県中央障害者相談センター非常勤医師（腎臓）

千葉県人工透析審査委員会委員

千葉県糖尿病性腎症重症化予防対策推進検討会オブザーバー

千葉県慢性腎臓病（CKD）重症化予防対策部会 委員

千葉市指定難病審査会委員

千葉県医師会男女共同参画推進委員会委員・副委員長

千葉県内科医会特別顧問

副部長の服部憲幸は以下の役職に従事し、地域医療に貢献している。

千葉市消防局 マニュアル・プロトコール専門部会，委員

千葉市消防局 事後検証に関する専門部会，部会長

千葉県透析研究会 幹事

千葉市医師会外部委員（CEMTEC 委員会）

研究領域等名：	
診療科等名：	内 視 鏡 セ ン タ ー

●はじめに

緊急内視鏡手術（止血術、胆道ドレナージ術）の 休日・時間外緊急内視鏡における看護師による安全管理・治療記録作成のシステムを構築し、かつ COVID-19 を含む感染者対応のマニュアルを作成し実践している。

内視鏡センターの運営状況について、多職種および複数診療科の委員を設定し内視鏡センター運営委員会において広く議論を行う場を設定し、運用している。実務における問題事項については内視鏡センターミーティングを毎月開催し、円滑かつ安全な内視鏡業務の遂行を実践している。

内視鏡スコープの洗浄について、中央管理を継続し、感染対策・故障の早期発見の徹底・修理費用の軽減に成功し継続している。

フロンティア医工学センターと千葉県との産学連携プログラムに協力し、千葉県内の中小企業との産学連携を目的としたミーティングを定期的（月 1 回、1-2 時間程度）を継続して行っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

内視鏡室にて、医学部生 40 週× 10 グループの実習を感染対策を期して適正に規模を縮小して行った。チュートリアルを 1 クール行った。

内視鏡の領域での検査見学、ベッドサイドラーニング並びにクリニカルクラークシップを実施している。

医学部ユニット講義 3 単位：

消化器内科胆道疾患 1 単位

症候学・診断学 消化器の主要症候 1 単位

医用工学内視鏡 1 単位

・卒後教育／生涯教育

・シミュレータ・内視鏡模型を利用した、初期研修医・後期研修医に対する内視鏡の専門的研修

・消化器内科・内視鏡センター 研修指導（内視鏡実技）、16 時間 / 週：計 800 時間 / 年

・初期研修医・後期研修医および専修医に対する ESD/ERCP セミナーの実施。

・大学院教育

内視鏡を用いた消化器疾患の研究内容にて当センター所属の大学院生 5 名の指導を行い、博士号（医学博士）を取得した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

・工学部との共同研究を行い、内視鏡検査における人工知能の有効性に関する研究の指導および協力を行っている。

・薬学部と共同研究を行い、腸管内のウイルス感染症に対し投与する薬剤の薬物動態の研究協力を行っている。

・フロンティア医工学センターと千葉県との産学連携を通じた機器・製品開発について協力を行っている。

・AMBU 社との共同研究にて、シングルユース内視鏡の有用性に関する研究を行っている。

●研 究

・研究内容

炎症性腸疾患 消化器内視鏡関連手技 消化器内視鏡教育

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Akizue N, Okimoto K, Matsumura T, Matsusaka K, Inaba Y, Horio R, Takahashi S, Goto C, Kurosugi A, Sonoda M, Kaneko T, Ohta Y, Taida T, Kato J, Ikeda JI, Kato N. Utility of prophylactic clipping after colorectal cold snare polypectomy in patients on oral antithrombotic agents. *Gastrointest Endosc.* 2024 May;99(5):826-829.e3.
2. Ishikawa T, Tashima T, Muramatsu T, Mashimo Y, Ryozaawa S. Endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal cancer with ulcer scarring using a combination of pocket creation, gel immersion, and red dichromatic imaging. *Endoscopy.* 2024 Dec;56(S 01):E87-E88.
3. Taida T, Kato J, Ishikawa K, Akizue N, Ohta Y, Okimoto K, Saito K, Matsusaka K, Matsumura

- T, Kato N. Severe ulcerative colitis induced by COVID-19 vaccination. *Clin J Gastroenterol*. 2024 Jun;17(3):447-450.
4. Shiratori W, Ohta Y, Matsusaka K, Ohyama Y, Mamiya Y, Nakazawa H, Takahashi S, Horio R, Goto C, Sonoda M, Kurosugi A, Kaneko T, Akizue N, Ishigami H, Taida T, Okimoto K, Saito K, Matsumura T, Shiko Y, Ozawa Y, Kato J, Ikeda J, Kato N. Differences in mucosal permeability among patients with ulcerative colitis classified based on the colonic location and disease activity. *Clin Transl Gastroenterol*. 2024 May 1;15(5):e00692.
5. Kaneko T, Iwamura C, Kiuchi M, Kurosugi A, Onoue M, Matsumura T, Chiba T, Nakayama T, Kato N, Hirahara K. Amphiregulin-producing TH2 cells facilitate esophageal fibrosis of eosinophilic esophagitis. *J Allergy Clin Immunol Glob*. 2024 Jun 4;3(3):100287.
6. Takahashi S, Okimoto K, Matsumura T, Oyama Y, Nakazawa H, Mamiya Y, Goto C, Horio R, Kurosugi A, Sonoda M, Kaneko T, Akizue N, Ohta Y, Taida T, Saito K, Kato J, Kato N. Novel self-assembling peptide for management of bleeding associated with colorectal angiodysplasia. *Endoscopy*. 2024 Dec;56(S 01):E412-E413.
7. Akizue N, Okimoto K, Matsumura T, Matsusaka K, Kato J, Kato N. Gel immersion EMR for hemorrhagic gastric hyperplastic polyp. *VideoGIE*. 2024 Jun;69(6):2132-2139.
8. Oike T, Akizue N, Ohta Y, Koseki H, Saito M, Yokoyama Y, Imai Y, Taida T, Okimoto K, Saito K, Ogasawara S, Matsumura T, Nakagawa T, Arai M, Katsuno T, Fukuda Y, Kitsukawa Y, Kato J, Kato N. Efficacy and safety of biosimilar infliximab in bio-naïve patients with Crohn's disease. *Arab J Gastroenterol*. 2024 Aug;25(3):257-262.
9. Matsumura T, Sonoda M, Okimoto K, Dao HV, Takahashi S, Akizue N, Horio R, Goto C, Kurosugi A, Kaneko T, Ohta Y, Taida T, Kikuchi A, Fujie M, Kato J, Kato N. Differences Between Patients with Heartburn Refractory to Vonoprazan and Those Refractory to Proton Pump Inhibitors. *Dig Dis Sci*. 2024 Jun;69(6):2132-2139.
10. Iwasaki M, Okimoto K, Akizue N, Ota Y, Taida T, Matsumura T, Kato J, Kato N. Underwater modified strip biopsy for colorectal polyp invading into the appendiceal orifice. *VideoGIE*. 2024 Mar 26;9(7):344-347.
11. Okimoto K, Matsumura T, Matsusaka K, Ohta Y, Taida T, Kato J, Kato N. Successful closure of large mucosal defect with novel anchor-pronged clip after gastric endoscopic submucosal dissection. *Endoscopy*. 2024 Dec;56(S 01):E534-E535.
12. Sonoda M, Matsumura T, Dao HV, Shiko Y, Do PN, Nguyen BP, Okimoto K, Akizue N, Ohyama Y, Mamiya Y, Nakazawa H, Takahashi S, Horio R, Goto C, Kurosugi A, Kaneko T, Ohta Y, Saito K, Taida T, Kikuchi A, Fujie M, Kato J, Dao LV, Kato N. A prediction model of abnormal acid reflux in gastroesophageal reflux disease. *J Gastroenterol Hepatol*. 2024 Sep;39(9):1847-1855.
13. Okimoto K, Matsumura T, Matsusaka K, Ohta Y, Taida T, Kato J, Kato N. Successful prevention of balloon dilatation after complete circumferential endoscopic submucosal dissection including long-segment Barrett's esophagus. *Endoscopy*. 2024 Dec;56(S 01):E582-E583.
14. Okimoto K, Matsumura T, Akizue N, Takahashi S, Horio R, Goto C, Kurosugi A, Sonoda M, Kaneko T, Ohta Y, Taida T, Saito K, Matsusaka K, Kato J, Ikeda JI, Kato N. Intensive triamcinolone acetonide injection regimen can highly prevent stricture after extensive esophageal endoscopic submucosal dissection. *Scand J Gastroenterol*. 2024 Aug;59(8):996-1001.
15. Kurosugi A, Matsumura T, Sonoda M, Kaneko T, Takahashi S, Okimoto K, Akizue N, Ohyama Y, Mamiya Y, Nakazawa H, Horio R, Goto C, Ohta Y, Taida T, Kikuchi A, Fujie M, Murakami K, Uesato M, Ozawa Y, Kato J, Matsubara H, Kato N. Two Onset Types of Achalasia and the Long-Term Course to Diagnosis. *Esophagus*. 2024 Oct;21(4):546-551.
16. Taida T, Ohta Y, Saito K, Okimoto K, Matsumura T, Kato J, Kato N. Endoscopic ischemic polypectomy using large endoclip for Peutz-Jeghers polyps. *Endoscopy*. 2024 Dec;56(S 01):E626-E627.
17. Kamimura I, Miyauchi E, Takeuchi T, Tsuchiya N, Tamura K, Uesugi A, Negishi H, Taida T, Kato T, Kawasumi M, Nagasawa M, Mogi K, Ohno H, Kikusui T. Modulation of gut microbiota composition due to early weaning stress induces depressive behavior during the juvenile period in mice. *Anim Microbiome*. 2024 Jun 20;6(1):33.
18. Horio R, Kato J, Taida T, Ohta Y, Saito K, Oyama Y, Nakazawa H, Mamiya Y, Goto C, Takahashi S, Ouchi M, Kurosugi A, Sonoda M, Kan M, Kaneko T, Nagashima H, Akizue N, Takahashi K, Okimoto K, Ohyama H, Matsumura T, Ohno I, Kato N. Clinical outcomes and reintervention after endoscopic

retrograde cholangiopancreatography in primary sclerosing cholangitis in absence of cholangitis. Indian J Gastroenterol. 2024 Oct;43(5):1021-1029.

19. Horio R, Kato J, Ohta Y, Taida T, Saito K, Iwasaki M, Ozeki Y, Koshibu Y, Shu N, Furuya M, Oyama Y, Nakazawa H, Mamiya Y, Goto C, Takahashi S, Kurosugi A, Sonoda M, Kaneko T, Akizue N, Okimoto K, Matsumura T, Kato N. Risk factors for clinical relapse in patients with ulcerative colitis who are in clinical remission but with endoscopic activity. JGH Open. 2024 Jul 24;8(7):e70011.
20. Mamiya Y, Taida T, Kato J, Matsusaka K, Matsubara Y, Ozaki T, Ohashi T, Ito T, Mukai S, Syu N, Koshibu Y, Ozeki Y, Furuya M, Oyama Y, Nakazawa H, Horio R, Goto C, Takahashi S, Ozawa Y, Shiko Y, Kurosugi A, Sonoda M, Kaneko T, Ishikawa T, Ohta Y, Okimoto K, Saito K, Matsumura T, Ikeda JI, Kato N. Usefulness of Novel Image-Enhanced Endoscopy for Predicting Maintenance of Clinical Remission in Ulcerative Colitis. Dig Dis Sci. 2025 Mar;70(3):1167-1177.

【雑誌論文・和文】

1. 加藤順 巻頭言（臨牀消化器内科第39巻第2号）、臨牀消化器内科、2024、39(2):117-118
2. 加藤順 編集後記（臨牀消化器内科第39巻第2号）、臨牀消化器内科、2024、39(2):232
3. 加藤順 IBDはどうモニタリングし、どのように治療を変えていくのか、臨牀消化器内科、2024、39(2):119-126
4. 堀尾亮輔, 加藤順, 太田佑樹, 對田尚, 齊藤景子, 加藤直也 Acute severe や重症の UC に対する治療

戦略は変わったか?、臨牀消化器内科、2024、39(2):147-152

5. 加藤順 内科治療の疫学より治療ストラテジーを考える、IBD Research、2024、18(2):99-104
6. 加藤順, 對田尚, 太田佑樹 炎症性腸疾患の内視鏡診断の心構えと pitfall、日本消化器内視鏡学会雑誌、2024、66(9):1672-1682

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 第110回日本消化器病学会総会（2024年5月） ランチョンセミナー（加藤順）
2. 第110回日本消化器病学会総会（2024年5月） スポンサーシンポジウム（加藤順）
3. 第2回 GERD に対する内視鏡治療研究会（2024年5月） 特別講演（沖元謙一郎）

【学会発表数】

国内学会 21 回（うち大学院生 10 回）

国際学会 9 回（うち大学院生 5 回）

【外部資金獲得状況】

1. 日本学術振興会 若手研究「潰瘍性大腸炎と原発性硬化性胆管炎の免疫コモナリティによる病態解明」代表者：太田佑樹 2023-2025
2. 日本学術振興会 基盤(C)「大腸がん制御を目的とした、食事が関与する NKT 細胞活性化を用いた新規免疫治療の開発」代表者：對田尚 2024-2026
3. 日本学術振興会 基盤(C)「5-アミノサリチル製剤不耐と潰瘍性大腸炎増悪の免疫学的 mimicry の検証」代表者：加藤順 2024-2026

【受賞歴】

1. 石川翼 JDDW2024 優秀演題賞

研究領域等名：	
診療科等名：	認知症疾患医療センター

●はじめに

今年は、抗アミロイドβ抗体療法の導入に向け医師やコメディカル対象の講演を行い、MCIも含めた認知症治療の最新情報について発信した。また地域の民生委員研修会や一般市民向けの認知症講座を実施するキャラバンメイト養成研修の講義を行い、地域の支援者に対して認知症の正しい理解や及啓発活動に取り組んだ。本学・附属病院の学生および研修医に向けた認知症や高次機能障害に関する専門的教育、さらに学会発表や論文投稿といった学術活動を通して、認知症関連疾患に関する学術・医療技術の向上を目指す取り組みを行った。

●教 育

・ 卒後教育／生涯教育

- ・ 月1回の認知症疾患医療センターカンファレンスを通じて、症例検討を行ない対応方針等についてディスカッションを行った。
- ・ 年1回、医師向けに臨床心理士による高次機能検査についての講義を行った。

・ 大学院教育

- ・ 平野成樹医師が看護学部大学院講義フィジカルアセスメント神経 × 1 コマを行った。

●研 究

・ 研究内容

大脳皮質基底核症候群におけるタウ PET 研究の他、高次機能検査と臨床データを活用した後ろ向き研究を継続して推進した。

・ 研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Handa H, Sugiyama A, Kaname T, Shigemoto Y, Sato N, Hirano S, Nakagawa Y, Uzawa A, Aotsuka A, Kuwabara S. Frontal deficits and atrophy in a patient with familial encephalopathy with neuroserpin inclusion bodies detected by single-case voxel-based morphometry: a case report. BMC Neurol. 2024 Jan 2;24(1):9.
2. Kinoshita M, Oyanagi K, Matsushima A, Kondo Y, Hirano S, Ishizawa K, Ishihara K, Terada S, Inoue T, Yazawa I, Washimi Y, Yamada M, Nakayama J, Mitsuyama Y, Ikeda SI, Sekijima Y. Adult-onset leukoencephalopathy with axonal spheroids and pigmented glia (ALSP): Estimation of pathological lesion stage from brain images. J Neurol Sci. 2024 Jun 15;461:123027.
3. Suzuki M, Hirano S, Otte K, Schmitz-Hübsch T, Izumi M, Tamura M, Kuroiwa R, Sugiyama A, Mori M, Röhling M H, Brandt U A, Murata A, Paul F, Kuwabara S. Digital Motor Biomarkers of Cerebellar Ataxia Using an RGB-Depth Camera-Based Motion Analysis System. Cerebellum. 2024 Jun;23(3):1031-1041.
4. Tang Z, Hirano S, Koizumi Y, Izumi M, Kitayama Y, Yamagishi K, Tamura M, Ishikawa A, Kashiwado K, Iimori T, Mukai H, Yokota H, Horikoshi T, Uno T, Kuwabara S. Diagnostic Sensitivity and Symptomatic Relevance of Dopamine Transporter Imaging and Myocardial Sympathetic Scintigraphy in Patients with Dementia with Lewy Bodies. J Alzheimers Dis. 2024;100(1):127-137.
5. Wang J, Sugiyama A, Yokota H, Hirano S, Yamamoto T, Yamanaka Y, Araki N, Ito S, Paul F, Kuwabara S. Differentiation between Parkinson's Disease and the Parkinsonian Subtype of Multiple System Atrophy Using the Magnetic Resonance T1w/T2w Ratio in the Middle Cerebellar Peduncle. Diagnostics (Basel). 2024 Jan 17;14(2):201.
6. Yoshitake M, Sugiyama A, Shimohata T, Araki N, Suzuki M, Shibuya K, Nagashima K, Hattori N, Kuwabara S. Delivering the diagnosis of multiple system atrophy: a multicenter survey on Japanese neurologists' perspectives. BMC Neurol. 2024 May 13;24(1):160
7. Mitsuyoshi Tamura, Shigeki Hirano, Yoshihisa Kitayama, Marie Morooka, Tomoki Suichi, Kazumoto Shibuya, Yoshinori Higuchi, Satoshi Kuwaba. Thalamic deep brain stimulation for postural tremor caused by hyperthermia-induced cerebellar dysfunction: A case report:

【雑誌論文・和文】

1. 平野成樹：「パーキンソン病における核医学画像検査の臨床と研究」MDSJ Letters 2024;17(1):7-9
2. 鈴木優太郎, 仲野義和, 平野成樹：「【認知症疾患の診断に必要な検査】認知症疾患の機能画像」老年精神医学雑誌 2024;35(12):1243-1249
3. 平野成樹：「認知症の人への貼付剤に関するケアマネジャーの認識調査」Jpn Pharmacol Ther (薬理と治療) vol.52 no.2 2024

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 平野成樹 令和5年度美浜区民生委員児童委員全体研修会にて講演
2. 平野成樹 第113回千葉核医学技術研究会にて特別講演
3. 平野成樹 第58回千葉ベイシティカンファランスにて基調講演
4. 平野成樹 三水会2月例会にて特別講演
5. 平野成樹 興和社内研修会にて特別講演
6. 平野成樹 The collaboration in 静岡にて特別講演
7. 平野成樹 認知症ネットワークミーティング in 千葉にて講演
8. 平野成樹 認知症ネットワークセミナー in 千葉にて講演
9. 平野成樹 ベネッセの地域医療セミナーにてセミナー
10. 平野成樹 第13回日本認知症予防学会学術集会にてランチョンセミナー4
11. 平野成樹 大田区神経難病Webセミナー～神経難病の医療連携向上を目指して～にて特別講演
12. 平野成樹 AD Leaders Forumにて講演

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

外来診療として、脳神経内科物忘れ外来を運営している。年間を通して、毎週月曜日に3～4名/日の新規患者を受け入れ、2024年度の外来新患者数は119件、外来患者総数は416件となっている。認知機能検査・生活障害に関する家族との面談・医師の診察・必要に応じて画像検査等の精査を行い、認知症関連疾患の診断・診療に取り組んでいる。

入院診療として、アルツハイマー病に対する新たなATT治療の導入を行っている。2つの薬剤があり、初回は必ず入院で対応、また薬剤によって2～4回目は入院にて実施しており2024年度の入院件数は11件となっている。さらに前頭側頭葉型認知症など、入院診療が必要な認知症患者については、病棟でのより専門的診療、精査につなげている。

学会のレクチャー講座などを通して、最新の認知症関連疾患診療について学習し、積極的に診療・検査へ取り入れるようにしている。

●地域貢献

- ・医師が千葉市美浜区民生委員児童委員全体研修会において認知症の理解と対応の講義を行った。
- ・医師が千葉市薬剤師会において認知症対応力向上研修の講義を行った。
- ・医師が千葉市キャラバン・メイト養成研修において認知症の診断と治療の講義を行った。

13. 平野成樹 第10回山口県病院薬剤師会学術講演会にて特別講演
14. 平野成樹 第42回日本神経治療学会学術集会にてイブニングセミナー3
15. 平野成樹 東日本ケサンラ製造販売承認取得記念講演会にて特別講演
16. 平野成樹 Kowa Web Conferenceにて特別講演
17. 平野成樹 令和6年度千葉市キャラバン・メイト養成研修にて講演
18. 平野成樹 アリドネパッチ販売1周年記念講演会にて特別講演

【学会発表数】

国内学会 4学会 4回（うち大学院生1回）

国際学会 1学会 1回（うち大学院生0回）

【外部資金獲得状況】

1. 日本医療研究開発機構 認知症研究開発事業「多施設連携プラットフォーム（MABB）を基盤にした各種認知症性疾患に対する日本発の包括的な診断・層別化バイオマーカーシステムの確立」分担者：平野成樹 2021-2025
2. 日本医療研究開発機構 脳神経科学統合プログラム「PETをReference Standardとした認知症の背景病理を包括的に評価可能な血液バイオマーカーシステムの開発」分担者：平野成樹 2024-2030

【その他】

- ・パンフレット監修：平野成樹「アルツハイマー病かもしれないといわれた方へ」日本イーライリリー株式会社, 2024年9月作成
- ・リーフレット監修：平野成樹「将来を見越した剤形選択」ケアマネジャー調査結果, 興和株式会社, 2024年6月作成

研究領域等名：	
診療科等名：	アレルギーセンター

●はじめに

気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性結膜炎などのアレルギー疾患は近年の検査法の進歩、新しい治療法の開発により、診療内容が大きく変わりつつある。また、アレルギー疾患の患者さんでは同時に複数のアレルギー疾患を患うことも多く、総合的な治療が望まれている。

千葉大学医学部附属病院アレルギーセンターでは、アレルギー・膠原病内科、小児科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、皮膚科、眼科の医師とメディカルスタッフが緊密な意見交換をしながら、患者さんに最適な治療を提供している。また、地域の医療機関や患者会とも連携し、アレルギー疾患に関する情報の発信を行っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

アレルギー・膠原病内科、小児科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、皮膚科、眼科、それぞれの診療科がユニット講義の中でアレルギー疾患に関する講義を行っている。

・卒業教育／生涯教育

アレルギー・膠原病内科、小児科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、皮膚科、眼科、それぞれの診療科が初期研修医及び後期研修医にアレルギー疾患に関する診療指導を行った。

アレルギークリニカルカンファレンスでは、各診療科が最新の研究成果を発表し、各科に跨る幅広い知識の習得を補助するとともに、初期研修医・後期研修医に症例発表の機会を提供している。アレルギークリニカルカンファレンスは学内に在籍する医師のみでなく、県内の医療関係者に公開で開催されている。

・大学院教育

アレルギー・膠原病内科、小児科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、皮膚科、眼科、それぞれの診療科が大学院生に対する研究指導を行っている。5診療科で協力して臨床アレルギー学特論を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

アレルギー・膠原病内科、小児科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、皮膚科、眼科が普遍教育（免疫アレルギー）にてアレルギー疾患の講義を行った。

アレルギー・膠原病内科では、普遍教育（現代医学、及び免疫アレルギー）にて喘息をはじめとするアレルギー疾患や自己免疫疾患の講義を担当した。また、本学薬学部にてアレルギー疾患と自己免疫疾患の薬物治療の講義を担当した。

●研 究

・研究内容

- 1) アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法におけるバイオマーカーの探索
- 2) 好酸球性副鼻腔炎の病態機序解明に関する研究
- 3) デジタルツールを利用した舌下免疫療法の現況アセスメントシステムの構築
- 4) スギ花粉症が労働生産性に及ぼす影響の探索
- 5) アレルギー疾患の発症機序の解析

気管支喘息の本態であるアレルギー性気道炎症の分子メカニズムを喘息モデルマウスを用いて解析

- 6) アレルギー性鼻炎モデルを用いた舌下免疫療法の新規アジュバンドの開発
- 7) 乳児期の VitaminD 投与によるアレルギー予防についての研究
- 8) アレルゲンエピトープおよびコンポーネントの解析に基づくアレルギーの病態評価に関する研究

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Kurihara S, Suzuki K, Yokota M, Ito T, Hayashi Y, Kikuchi R, Kageyama T, Meguro K, Tanaka S, Iwata A, Goto Y, Suto A, Nakajima H. Eosinophils Contribute to Oral Tolerance via Induction of ROR γ t-Positive Antigen-Presenting Cells and ROR γ t-Positive Regulatory T Cells. *Biomolecules*. 2024 Jan 10;14(1):89.
2. Kumagai T, Iwata A, Furuya H, Kato K, Okabe A, Toda Y, Kanai M, Fujimura L, Sakamoto A, Kageyama T, Tanaka S, Suto A, Hatano M, Kaneda A, Nakajima H. A distal enhancer of

- GATA3 regulates Th2 differentiation and allergic inflammation. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 2024 Jul 2;121(27):e2320727121.
3. Shibata R, Itoh N, Nakanishi Y, Shimojo N, Ohno H, et al. Gut microbiota and fecal metabolites in sustained unresponsiveness by oral immunotherapy in school-age children with cow's milk allergy. *Allergol Int*. 2024;73(1):126-136.
 4. Yamaide F, Oniki N, Fikri B, Sato N, Nakano T, Shimojo N. Cord blood zonulin is associated with high-level sensitization to food allergen and food allergy development. *Allergol Int*. 2024;73(2):338-339
 5. Demidova A, Drewitz KP, COMFA Consortium. Core Outcome Set for IgE-mediated food allergy clinical trials and observational studies of interventions: International Delphi consensus study 'COMFA'. *Allergy*. 2024;79(4):977-989
 6. Aoyama R, Nakagawa S, Ichikawa Y, Shimojo N, et al. Neonatal skin dysbiosis to infantile atopic dermatitis: Mitigating effects of skin care. *Allergy*. 2024;79(6):1618-1622
 7. Yonekura S, Okamoto Y, Yamaide F, Shimojo N, et al. Factors contributing to the diagnosis and onset prediction of perennial allergic rhinitis in high-risk children: A sub-analysis of the CHIBA study. *Allergol Int*. 2024;73(3):436-444
 8. Nakano T, Sekino Y, Yamamoto T, Shimojo N, et al. Low allergenicity and immunotherapeutic efficacy of peanut-galactomannan conjugate in a mouse model of peanut allergy. *Pediatr Allergy Immunol*. 2024;35(7):e14191
 9. Inoue Y, Sakai R, Inoue E, Shimojo N, et al. Nationwide epidemiological survey of juvenile idiopathic arthritis during transition to young adulthood in Japan using the National Database of Designated Incurable Diseases of Japan. *Mod Rheumatol*. 2024;roae076
 10. Tanjung C, Fikri B, Prawitasari T, Massi N, Shimojo N, et al. Comparative Analysis of Nutritional Advice and a Combined Approach for Addressing Impending Stunting in Infants: A Clinical Trial. *Nutrients*. 2024;16(17):2832
 11. Takeshita K, Hishiki H, Takei H, Shimojo N, et al. The Effectiveness of Heat-Killed *Pediococcus acidilactici* K15 in Preventing Respiratory Tract Infections in Preterm Infants: A Pilot Double-Blind, Randomized, Placebo-Controlled Study. *Nutrients*. 2024;16(21):3635
 12. Lee SY, Nakano T, Shimojo N, et al. Asian birth cohort studies on allergic diseases: The A2BC network initiative. *Pediatr Allergy Immunol*. 2024;35(11):e14280
 13. Yamazaki Y, Ito T, Nakagawa S, Sugihira T, Shimojo N, et al. Altered genomic methylation promotes *Staphylococcus aureus* persistence in hospital environment. *Nat Commun*. 2024;15(1):9619
 14. Yuguchi A, Nakajima T, Ishii Y, Yoshino Y, Shimojo N, et al. Prevention of Atopic Dermatitis in Babies by Skin Care from the Newborn Period. *Int Arch Allergy Immunol*. 2024;1-5
 15. Koshizaka M, Eguchi A, Takaguchi K, Shimojo N, et al. Second phase Chiba study of mother and child health (C-MACH): Japanese birth cohort study with multiomics analyses. *BMJ Open*. 2024;14(12):e085682
 16. Takeshita K, Takei H, Tanaka S, Shimojo N, et al. Effect of multi-strain bifidobacteria supplementation on intestinal microbiota development in low birth weight neonates: a randomized controlled trial. *Biosci Microbiota Food Health*. 2024;43(4):352-358
 17. Tanaka S, Takahashi M, Takeshita K, Shimojo N, et al. The prebiotic effect of 1-kestose in low-birth-weight neonates taking bifidobacteria: a pilot randomized trial in comparison with lactulose. *Biosci Microbiota Food Health*. 2024;43(4):329-335
 18. Yonekura S, Okamoto Y, Yamaide F, Nakano T, Hirano K, Funakoshi U, Hamasaki S, Iinuma T, Hanazawa T, Shimojo N. Factors contributing to the diagnosis and onset prediction of perennial allergic rhinitis in high-risk children: A sub-analysis of the CHIBA study. *Allergol Int*. 2024;73:436-444.
 19. Furuya H, Toda Y, Iwata A, Kanai M, Kato K, Kumagai T, Kageyama T, Tanaka S, Fujimura L, Sakamoto A, Hatano M, Suto A, Suzuki K, Nakajima H. Stage-specific GATA3 induction promotes ILC2 development after lineage commitment. *Nat Commun*. 2024 Jul 5;15(1):5610.
 20. Yamaide F, Tomura M, Satoh M, Kunii Y, Nakano T, Nomura F, Shimojo N. Low serum vitamin D is associated with egg white sensitization at age 1 year. *Pediatr Allergy Immunol*. 2024 ;35: e70021.
 21. Shibata R, Nakanishi Y, Suda W, Nakano T, Sato N, Inaba Y, Kawasaki Y, Hattori M, Shimojo N, Ohno H. Neonatal gut microbiota and risk of developing food sensitization and allergy. *J Allergy Clin Immunol*. 2025;155:932-946.
 22. Lee SY, Nakano T, Shimojo N, Yamamoto-Hanada K, Fukuie T, Ohya Y, Tham EH, Van Bever H, Shek LP, Lee BW, Leung TF, Leung ASY, Wong

- GWK, Huang JL, Yeh KW, Fikri B, Suratannon N, Chatchatee P, Peters R, Hong SJ; A2BC network. Asian birth cohort studies on allergic diseases: The A2BC network initiative. *Pediatr Allergy Immunol*. 2024; 35: e14280.
23. Takeshita K, Hishiki H, Takei H, Ikari N, Tanaka S, Iijima Y, Ogata H, Fujishiro K, Tominaga T, Konno Y, Iwase Y, Nakano T, Endo M, Ishiwada N, Osone Y, Kawaguchi T, Horiba T, Takemura R, Hamada H, Shimojo N. The Effectiveness of Heat-Killed *Pediococcus acidilactici* K15 in Preventing Respiratory Tract Infections in Preterm Infants: A Pilot Double-Blind, Randomized, Placebo-Controlled Study. *Nutrients*. 2024;25:16:3635.
 24. Nakamura T, Nakano T, Simpson A, Kono M, Curtin JA, Kobayashi T, Murray CS, Akiyama M, Imanishi M, Mikuriya M, Custovic A, Shimojo N. Trajectories of egg sensitization in childhood: Two birth cohorts in Asia and Europe. *Allergy*. 2025;80: 193-204.
 25. Nakano T, Sekino Y, Yamamoto T, Sato H, Sato N, Yamaide F, Kageshima H, Inoue Y, Hamada H, Shimojo N. Low allergenicity and immunotherapeutic efficacy of peanut-galactomannan conjugate in a mouse model of peanut allergy. *Pediatr Allergy Immunol*. 2024;35: e14191.
 26. Kilic A, Halu A, De Marzio M, Maiorino E, Duvall MG, Bruggemann TR, Rojas Quintero JJ, Chase R, Mirzakhani H, Sungur AO, Koepke J, Nakano T, Peh HY, Krishnamoorthy N, Abdulnour RE, Georgopoulos K. Vitamin D constrains inflammation by modulating the expression of key genes on Chr17q12-21.1. *Elife*. 2024;3:12:RP89270.
 27. Aoyama R, Nakagawa S, Ichikawa Y, Inohara N, Yamazaki Y, Ito T, Sugihira T, Kono M, Akiyama M, Takahashi H, Takaya A, Ichikawa F, Nakano T, Tanaka S, Koyano Y, Fujimoto M, Núñez G, Shimojo N, Nakamura Y. Neonatal skin dysbiosis to infantile atopic dermatitis: Mitigating effects of skin care. *Allergy*. 2024;79:1618-1622.
 28. Yamaide F, Oniki N, Fikri B, Sato N, Nakano T, Shimojo N. Cord blood zonulin is associated with high-level sensitization to food allergen and food allergy development. *Allergol Int*. 2024 Apr;73(2): 338-339.
- 【雑誌論文・和文】**
1. 中島裕史 (2024) 喘息と上手に付き合う方法. *けんこう Chiba* 83:1-2.
 2. 中島裕史 (2024) 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症. 喘息予防・管理ガイドライン 2024 (JGL2024) 日本アレルギー学会 p214-7.
 3. 下条直樹【腸内細菌叢と子どもの健康】どこまでわかっていて、どこがわかっていないか アレルギー疾患 (アトピー性皮膚炎, 食物アレルギー, 気道アレルギー) 外来小児科 27 巻 1 号 36-40
 4. 山出史也、下条直樹. 臍帯血中 TARC を含めた biomarker とアレルギー発症. *臨床免疫・アレルギー科* 81 巻 3 号 287-291
 5. 米倉修二. 【花粉症・アレルギー性鼻炎の最新情報】舌下免疫療法の最新情報. *アレルギーの臨床* 2024;44:705-709
 6. 米倉修二. 【鼻副鼻腔炎と type2 炎症】アレルギー性鼻炎の診断と治療. *アレルギーの臨床* 2024;44: 513-516.
 7. 米倉修二. 【ポストコロナ時代のアレルギー性鼻炎診療】ポストコロナ時代の耳鼻咽喉科医の役割 難治例に対する治療 アレルゲン免疫療法. *JOHNS* 2024;40:535-538
 8. 米倉修二, 飯沼智久. 新しい診療技術 アレルゲン免疫療法の治療効果を判定する指標. *アレルギーの臨床* 2024;44:213-217
 9. 米倉修二. 【実践!花粉症治療マニュアル 2024】花粉症の予防 花粉の回避と除去. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 2024;96:117-121
 10. 米倉修二. 【知っておくべきアレルギー・免疫の知識】アレルギー性鼻炎の免疫病態. *ENTONI* 2024;292:17-25
 11. 飯沼智久. 舌下免疫療法の作用機序. *臨床免疫・アレルギー科* 2024;8:391-395
 12. 外川八英:「特集 すぐに役立つ すごく役立つ 皮膚科検査の基本マニュアル 機器の使い方ーダーモスコピーの使い方のコツー」*皮膚病診療*. 2024;46 (13):9-11.
 13. 外川八英:「まるわかり!爪疾患」検査 ビギナーズサマリー ダーモスコピーによる爪の腫瘍性病変の鑑別」*Derma*. 2024;352:32-38.
 14. 外川八英:「皮疹が伝えるメッセージ」皮疹とダーモスコピーとの対比」*Derma*. 2024;350:30-36.
- 【単行書】**
1. 下条直樹、朝倉富子、佐藤隆一郎共著 (2024) 食と健康. 放送大学教育振興会
- 【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】**
1. Nakajima H, Toda Y, Furuya H, Iwata A. (2024) Stage-specific GATA3 induction promotes ILC2 development after lineage commitment. *cMAV-cSIMVa workshop 2024, Yokohama*
 2. 中島裕史 (2024) 2 型免疫細胞の分化誘導機構. 第 25 回免疫サマースクール in 湘南, 神奈川
 3. 下条直樹. エコチル調査でわかったこと, 千葉ユ

ニット発信のトピックス. 第127回日本小児科学会
学術集会 総合シンポジウム2

4. 下条直樹. 腸内環境(細菌叢・代謝物・栄養素)とアレルギー疾患. 千葉県保険医協会 学術研究会
5. 食物アレルギーの最近の話題: 赤ちゃんから大人まで. 江東区医師会学術講演会
6. 食事とマイクロバイオームの影響. 第73回日本アレルギー学会学術大会 シンポジウム2
7. 食物アレルギーの治療・予防のための食品開発と社会実装. 日本食品免疫学会 設立20周年記念学術大会シンポジウム3
8. Syuji Yonekura. Onset mechanism of allergic rhinitis and pathogenic Th2 cells. ISIAN and IRS 2024 (Tokyo)
9. 外川八英. Dermoscopy for red lesions, KOREADERMA 2024; 1-3 Nov 2024, Seoul, Korea
10. 外川八英. CLINICAL STUDY ON THE COMPARISON OF DERMOSCOPIIC IMAGES USING TWO WAVELENGTHS OF NEAR-ULTRAVIOLET-VISIBLE LIGHT, 6th World Congress of Dermoscopy 2024; 16-19 Oct 2024, Buenos Aires, Argentina
11. ビタミンDによるアレルギー発症予防 中野泰至

第73回日本小児アレルギー学会 シンポジウム2
2024年11月 名古屋

【学会発表数】

国内学会 8学会 21回(うち大学院生4回)

国際学会 2学会 7回(うち大学院生0回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「気道上皮細胞の自然免疫記憶を標的とした喘息治療戦略の確立」代表者: 中島裕史 2024-2027
2. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「アレルギー性気道炎症におけるニコチン性アセチルコリン受容体の役割の解明」代表者: 前澤裕子 2023-2025
3. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「ILC2特異的スーパーエンハンサーの理解に基づく新規アレルギー疾患制御法の開発」代表者: 岩田有史 2023-2025
4. 共同研究・一般社団法人糧食研究会「アレルギー疾患発症・増悪における栄養素の関与に関する研究(第二期)」代表者: 下条直樹 2024
5. 共同研究・株式会社ナチュラルサイエンス「妊娠期および授乳期の1-ケストースの継続的な摂取の出生児の細菌叢・皮膚/免疫機能に与える影響に関する二重盲検ランダム化比較試験」代表者: 下条直樹 2024

●診療

・外来診療・入院診療・その他(先進医療等)

初診 原則として紹介・予約制。

「アレルギーセンター(アレルギー・膠原病内科)」、「アレルギーセンター(小児科)」、「アレルギーセンター(耳鼻咽喉科)」、「アレルギーセンター(皮膚科)」、「アレルギーセンター(眼科)」で診療を行った。

治療内容に応じてアレルギー・膠原病内科、小児科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、皮膚科、眼科など、最適の診療科に入院して診療を行った。

2024年度、アレルギーセンターでは小児の食物アレルギー負荷試験は267件、成人の食物アレルギー検査は45名、薬物アレルギー検査20名を施行した。耳鼻科では吸入アレルゲンに対する舌下免疫療法は20名に施行した。皮膚パッチテストは30名施行した。アトピー性皮膚炎のある症例の白内障手術12件、網膜剥離手術3件、眼内レンズ偏位1件を施行した。

●地域貢献

千葉県アレルギー疾患医療連絡協議会委員、日本アレルギー協会千葉支部として、千葉県のアレルギー診療及び運営を支えている。5診療科によりアレルギークリニカルカンファレンスセミナーを開催している。住民対象の電話相談「子どものアレルギー相談窓口」と医師および施設職員対象の食物アレルギーに関するメール相談を実施している。

千葉県医師会と日本アレルギー協会千葉支部とで開催する県民公開講座は、診療科医師と県内メディカルスタッフで最新治療の講演を行い300名近くの県民が視聴した。

養護教諭対象研修や食物アレルギー診療連携ネットワーク会議、プライマリ診療向け研修会を開催し、アレルギー診療の均てん化に向け尽力した。

●その他

アレルギー疾患情報サイト(<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/allergy/index.html>)では、アレルギー疾患の最新情報の提供、県内のアレルギー疾患地域基幹病院の紹介とアレルギー専門医及び小児アレルギーエドゥケーターの在籍する県内医療機関の検索システムを提供している。また県内で行われる一般向け・医師向けの公開講座や研修の案内などの情報提供を行っている。

研究領域等名：	
診療科等名：	包括的脳卒中センター

●はじめに

急性期脳卒中診療の中でも、特に脳梗塞急性期の患者さんに対し、tPA療法に加えて機械的血栓回収療法の効果が高いことが証明されており、当院は、この治療を常時施行可能な施設（PSCコア施設：primary stroke center コア）として認定された。2023年6月からは包括的脳卒中センター（SCU）が開設され、救急部、脳神経内科と密接な連携を取ることで、tPA療法と血栓回収療法を適切に施行し、脳梗塞の予後改善に努めている。今後も、このような集約化と機能分化が国全体で進められていく予定であり、地域の中核病院として、更なる機能強化に向けた体制作りを努めていきたいと考えている。さらに、脳梗塞の超早期診断、発症前診断を目指した血清自己抗体を用いた診断法は当センターの重要な研究課題となっており、データの蓄積を行っているところである。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部4年生に対する臨床入門授業および精神・神経ユニット講義、実践形式に診断の基本を学ぶ臨床チュートリアル、医学部5、6年生に対するクリニカル・クラークシップ（CC）において、脳神経外科と連携して脳卒中診療に関する講義・実習を行った。実際の医療の現場を体験するCCでは、診療チームの一員として現場で診療に参加していただき、個々の役割やチーム医療を学習してもらっている。ユニット講義では脳血管障害に関し、最新の知見も加えて系統的な講義を行った。また、脳血管障害の広がりや症状出現に関して十分な理解を得るため、解剖学、神経解剖などとも連携した実習・講義にも参加させていただいた。

・卒後教育／生涯教育

脳神経外科と連携して、脳卒中に関する卒後教育・生涯教育を定期的に行っている。研修医と専門医試験前の医師には、系統的なレクチャーシリーズを行うとともに、学会発表や論文作成の指導を行っている。

・大学院教育

脳梗塞の超早期診断、発症前診断を目指した血清マーカーの開発を目指し、SEREX法を用いて血中自己抗体を検出し、その臨床応用を目指している。

また量子科学開発研究機構と共同し、脳梗塞急性期治療後の再灌流障害の病態判明の研究を行っている。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

脳卒中や脳血管内治療に関するスタッフ向けのセミナーを適宜開催し、特に新規治療や急性期脳卒中診療において的確なチーム医療が遂行できるような体制づくりを進めている。また、市立青葉看護学校や県立鶴舞看護専門学校に向けた講座等、教育活動も行った。脳卒中に関連した様々な学会、研究会、Webセミナーを通じて、他領域や他大学、他施設との意見交換、交流を行い、地域や全国レベルでの脳卒中医療の向上に向けて貢献した。

●研 究

・研究内容

主たる研究テーマは、生活習慣病と脳卒中の発症メカニズムの関連、動脈硬化の画像診断、脳血管内治療における安全性と有効性確立、脳卒中発症予測に関連した血清自己抗体マーカーの開発である。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Hiwasa T, Yoshida Y, Kubota M, Li SY, Zhang BS, Matsutani T, Mine S, Machida T, Ito M, Yajima S, Shirouzu M, Yokoyama S, Sata M, Yamagishi K, Iso H, Sawada N, Tsugane S, Takemoto M, Hayashi A, Yokote K, Kobayashi Y, Matsushita K, Tatsumi K, Takizawa H, Tomiyoshi G, Shimada H, Higuchi Y: Serum anti KIAA0513 antibody as a common biomarker for mortal atherosclerotic and cancerous diseases. Med Int (Lond). 2024 Jun 19;4(5):45. doi: 10.3892/mi.2024.169.
2. Tajima Y, Yoshida Y, Kubota M, Ebihara K, Yamauchi T, Nishino W, Niimi J, Nakamura K, Kado K, Miyazaki T, Watanabe Y, Mochida H, Oishi H, Higuchi Y: Transverse diameter of brainstem infarction is a strong predictor of miserable outcome after mechanical thrombectomy for acute basilar artery occlusion. Sci Rep. 2024 Aug 6;14(1):18201. doi: 10.1038/s41598-024-68865-y.
3. Yoshioka M, Takahashi M, Kershaw J, Handa M, Takada A, Takuwa H: Two-photon optogenetics-based assessment of neuronal connectivity

- in healthy and chronic hypoperfusion mice. *Neurophotonics*, 11(3), 035009, 2024
4. Zhang BS, Zhang XM, Ito M, Yajima S, Yoshida K, Ohno M, Nishi E, Wang H, Li SY, Kubota M, Yoshida Y, Matsutani T, Mine S, Machida T, Takemoto M, Yamagata H, Hayashi A, Yokote K, Kobayashi Y, Takizawa H, Kuroda H, Shimada H, Iwade Y, Hiwasa T: JMJD6 autoantibodies as a potential biomarker for inflammation related diseases. *Int J Mol Sci*. 2024 Apr 30;25(9):4935. doi: 10.3390/ijms25094935.
 5. Lee S, Kubota M, Tajima Y, Kojima I, Higuchi Y: Transarterial embolization of radicular arteriovenous fistula at the craniocervical junction. *Radiol Case Rep*. 2024 Feb 13;19(5):1712-1717. doi: 10.1016/j.radcr.2024.01.053.

【雑誌論文・和文】

1. 横山大騎, 田島洋佑, 中野茂樹, 吉田陽一: 血管型エーラス・ダンロス症候群に合併する紡錘状中大脳動脈瘤にクリッピング術を行った1例. *脳卒中の外科* 2024, 52:111-115.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 田島洋佑 第30回日本血管内治療学会学術総会シンポジウムにて講演
2. 田島洋佑 (一社)日本脳神経外科学会第83回学術総会 ランチョンセミナーにて講演
3. 田島洋佑 第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会 アフタヌーンセミナーにて講演

【学会発表数】

国内学会 5学会 20回（うち大学院生4回）
国際学会 0学会 0回（うち大学院生0回）

研究領域等名：	
診療科等名：	ブ レ ス ト セ ン タ ー

●はじめに

現在の乳がん診療は非常に多岐にわたっており、多くの診療科や関連部門の協力を得なければ成り立たないのが現状である。千葉大学医学部附属病院ではそれぞれの分野のエキスパートが多数在籍していることから、そのメリットを最大限活用して、乳がん診療に関連する診療科・部門と横断的に連携した医療体制を構築し、チーム医療を推進するためのブレストセンターを開設した。乳がん患者さん一人ひとりに質の高い最適な医療を提供している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

クリニカルクラークシップの臨床教育を通年、ユニット講義1コマ、臨床入門実習（乳房診察）3コマを担当した。臨床実習前 OSCE 評価者を担当した。

・卒後教育／生涯教育

前期・後期研修医および外科ローテート研修医に対し、診療や症例検討を通して専門的教育を行った。また外科専門医・乳腺外科専門医・マンモグラフィ読影認定医・がん治療認定医取得のための指導を行った。

・大学院教育

所属する大学院生に対して臨床研究や学会発表、論文作成の指導を行った。

●研 究

・研究内容

臨床的研究として、手術体位 MRI を用いたナビゲーション手術の開発、超音波と他のモダリティ画像 fusion による病変範囲の同定、乳房オンコプラスチックサージャリーにおける根治性と整容性の研究に関する研究を行った。

基礎的研究として、末梢血核酸情報の網羅的解析、末梢血中の糖鎖修飾蛋白の解析、乳癌進展における脂肪組織環境の果たす役割の解明、遺伝子改変前脂肪細胞を担体とする乳癌抗体療法の開発、Electrical impedance tomography を用いた乳癌検出機器の開発に関する研究を行った。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Yamada H, Takada M, Ghone D, Yu M, Nagashima T, Fujimoto H, Sakakibara J, Hasegawa Y, Takao S, Yamada A, Narui K, Ishikawa T, Suzuki A, Otsuka M. Eribulin induces micronuclei and enhances the nuclear localization of cGAS in triple-negative breast cancer cells. *Sci Rep* 14: 14146, 2024.
2. Takahashi S, Fujimoto H, Nasu K, Nakaguchi T, Ienaga N, Kuroda Y. FEM simulation of breast deformation with semi-fluid representation. *Int J Comput Assist Radiol Surg* 20: 817-824, 2024.
3. Shinomiya Y, Kouchi Y, Onodera K, Yamamoto H, Harada-Kagitani S, Sakakibara J, Nagashima T, Ikeda JI, Kishimoto T. Imprint Cytology of Tall Cell Carcinoma with Reversed Polarity of the Breast: A Case Report. *Acta Cytol* 68: 73-79, 2024.

【雑誌論文・和文】

1. 藤本浩司, 大塚将之. 手術の tips and pitfalls: Volume replacement: 有茎穿通枝皮弁を用いた乳房温存オンコプラスチックサージャリー 日本外

科学会雑誌 125:78-81, 2024.

【単行書】

1. 藤本浩司. 乳房温存オンコプラスチックサージャリーステップアップガイド: 有茎穿通枝皮弁を用いたオンコプラスチックサージャリー. p123-139. 春恒社

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 榊原淳太, 藤本浩司, 高田護, 長嶋健, 大塚将之. 磁場空間における MRI detected lesion に対する乳房 2nd look US. 日本超音波医学会第 97 回学術集会パネルディスカッション
2. 榊原淳太. 全て見せます、千葉大学病院で培った乳がんの超音波画像診断～1mm 大の超早期乳がんの検出から進行乳がんの病態に対応する眼を持つ～. 第 40 回日本核医学技術学会関東地方会総会 特別講演
3. 藤本浩司, 長嶋健, 高田護, 榊原淳太, 山本寛人, 山崎美智子, 大塚将之. Oncoplastic breast surgeon を目指して～今までとこれから～. 第 12 回日本乳

房オンコプラスチックサージャリー学会総会 パ
ネルディスカッション

【学会発表数】

国内学会 21 回（うち大学院生 2 回）

国際学会 4 回（うち大学院生 0 回）

【外部資金獲得状況】

1. 日本学術振興会 基盤研究(C)「拡張現実と疑似体
位画像生成技術を応用した乳癌術前・術中支援シス
テムの開発」代表者：藤本浩司 2023-2025
2. 日本学術振興会 基盤研究(C)「in vivo エストロゲ

ン非依存性乳癌細胞株による内分泌療法抵抗性機序
の解析研究」代表者：山田英幸 2022-2024

3. 日本学術振興会 挑戦的研究(萌芽)「長鎖 DNA
解析を基盤とする臨床検査群を可能とする本邦
発のプラットフォームの開発」分担者：高田護
2022-2024

【受賞歴】

1. 高田護. 第 24 回関東ホルモンと癌研究会研究奨励
賞

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

高度先進医療施設として最新の技術を用いた診断とエビデンスに基づいた診療を実践した。乳房温存手術・セ
ンチネルリンパ節生検・乳房再建術など術後の整容性を考慮した手術を積極的に取り入れたほか、多職種連携の
もと、放射線・化学療法・内分泌療法・分子標的療法などを効果的に組み合わせた集学的治療を行った。2024
年の乳癌手術件数は 269 例（279 乳房）、うち乳房温存手術を 122 例、同時再建手術を 20 例に実施した。遺伝性
乳がん卵巣がん症候群に対するリスク低減（予防的）乳房切除にも対応している。

●地域貢献

千葉県がん診療連携協議会乳がん部会委員、千葉検診精度管理専門委員会乳腺専門委員、日本乳癌学会評議員、
日本臨床細胞学会評議員、日本乳癌学会関東地方会および千葉県乳腺診断フォーラム世話人を担当した。

研究領域等名：	
診療科等名：	未来開拓センター

●はじめに

未来開拓センターでは、臨床研究中核病院として、より高いレベルで機能していくことを目指し、千葉大学における基礎研究の成果を臨床応用にするためのトランスレーショナルリサーチを推進している。耳鼻咽喉・頭頸部外科の頭頸部癌に対する iPS 細胞由来 NKT 細胞を用いた免疫療法が医師主導治験及び臨床研究として実施されているほか、千葉大学発の「遺伝子治療用脂肪細胞」シーズを用いた医師主導治験及び臨床研究を実施している。今後多くのトランスレーショナルリサーチを推進するとともに、リバーストランスレーショナルリサーチとして、臨床研究の結果から生まれた新たな疑問点を基礎研究によって解明することに注力し、新たな臨床研究実施のためのシーズを導出する。

●教 育

・大学院教育

革新医療創生 CHIBA 卓越大学院における革新医療創生演習や免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラムにおける治療学演習にて、未来開拓センターの施設を利用した医師主導治験や臨床研究について講義した。

●研 究

・研究内容

- ・悪性腫瘍に対する免疫療法においては、頭頸部癌に対する iPS 細胞由来 NKT 細胞を用いた医師主導治験や臨床研究を実施している。NKT 細胞の発揮する抗腫瘍免疫作用の機序解明や、担がん症例における抗腫瘍免疫の抑制機序解明とその解除法について検討を行っている。
- ・「遺伝子導入脂肪細胞による酵素補充療法の実用化研究」では、現在、薬事承認に向けた家族性 LCAT 欠損症を対象とした医師主導治験を実施している。他の難病治療への応用研究と並行して、LCAT 欠損症のレジストリ研究を進めている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Aoki, T., Motohashi, S.: Progresses in NKT cell-based immunotherapy for cancers: Use of allogeneic and gene-edited cells. Crit. Rev. Oncog. 29(1):1-9. DOI: 10.1615/CritRevOncog.2023049526 (2024).
2. Takami, M., Aoki, T., Nishimura, K., Tanaka, H., Onodera, A., Motohashi, S.: Anti-*Vα24Jα18* TCR Antibody Tunes iNKT Cell Responses to Target and Kill CD1d-negative Tumors in an $\text{Fc}\gamma\text{RII}$ (CD32)-dependent Manner. Cancer Res. Commun. 4(2):446-459 (2024).
3. Aoki, A., Iwamura, C., Kiuchi, M., Tsuji, K., Sasaki, A., Hishiya, T., Hirasawa, R., Kokubo, K., Kuriyama, S., Onodera, A., Shimada, T., Nagaoka, T., Ishikawa, S., Kojima, A., Mito, H., Hase, R., Kasahara, Y., Kuriyama, N., Nakamura, S., Urushibara, T., Kaneda, S., Sakao, S., Nishida, O., Takahashi, K., Kimura, M. Y., Motohashi, S., Igari, H., Ikehara, Y., Nakajima, H., Suzuki, T., Hanaoka, H., Nakada, T., Kikuchi, T., Nakayama, T., Yokote, K., Hirahara, K.: Suppression of Type I Interferon Signaling in

Myeloid Cells by Autoantibodies in Severe COVID-19 Patients. J Clin Immunol. 44(4):104 (2024).

4. Takami, M., Motohashi, S.: Comparative assessment of autologous and allogeneic iNKT cell transfer in iNKT cell-based immunotherapy. Front Immunol. 15:1457771 (2024).

【単行書】

1. 黒田正幸、斯波真理子. LCAT 欠損症. 希少疾病ライブラリ（企画・制作ケアネット）公開 2024/09/12

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 本橋新一郎 同種 NKT 細胞を用いたがん免疫療法の開発 第 21 回日本免疫治療学会学術集会 2024 年 5 月 18 日、福島

【学会発表数】

国内学会 4 学会 11 回（うち大学院生 2 回）
国際学会 0 学会 1 回（うち大学院生 0 回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「膠芽腫微小環境の理解に基づく NKT 細胞標的治療の開発」代表者：本橋新一郎 2022-2024

2. 日本医療研究開発機構(AMED) 再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム「難治性固形がんに対する PRIME CAR 導入 iPS 細胞由来抗原提示細胞を用いた NKT 細胞標的免疫療法の開発研究」代表者：本橋新一郎 2023-2025
3. 日本医療研究開発機構(AMED) 再生医療実用化研究事業「頭頸部癌放射線療法が引き起こす重症口腔乾燥症に対する自家唾液腺細胞移植法を用いた唾液腺機能再生治療の開発」分担者：本橋新一郎 2023-2025
4. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「神経芽腫に対する抗 GD2 抗体および NKT 細胞を用いた新規複合免疫療法の開発」分担者：本橋新一郎 2023-2025
5. 日本医療研究開発機構(AMED) 再生医療実用化研究事業「再発・進行頭頸部がん患者を対象とした他家 iPS-NKT 細胞および自家 DC/Gal 併用療法に関する臨床研究の第 2 用量」分担者：本橋新一郎 2024-2026
6. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「固形がんを対象とする新規キメラ抗原受容体(CAR)マクロファージ療法の開発」分担者：本橋新一郎 2024-2025
7. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「がん関連 stiff-collagen 制御機構の解明を基盤とした新規がん免疫強化治療戦略の開拓」分担者：本橋新一郎 2024-2026
8. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「肺移植後の慢性移植肺機能不全に対する抗線維化治療の開発」分担者：本橋新一郎 2024-2026
9. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「治療タンパク質の過剰発現による細胞ストレスを回避した遺伝子治療用脂肪細胞の開発」代表者：黒田正幸 2023-2025
10. 日本医療研究開発機構 AMED「血液凝固第Ⅷ因子遺伝子導入前脂肪細胞(FⅧ-GMAC)を用いた血友病 A 治療の治験に向けた非臨床試験」分担者：黒田正幸 2024
11. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「皮下脂肪組織由来細胞のシングルセル解析と計算生物学に基づく革新的脂肪移植の開発」分担者：黒田正幸 2022-2024
12. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「肝・脂肪連関における肝 FoxO1/PPAR α による糖代謝特異的制御機構の解明と臨床応用」分担者：黒田正幸 2024-2026

研究領域等名：	
診療科等名：	がんゲノムセンター

●はじめに

2018年4月、がんのゲノム情報に基づく precision medicine を推進することを目的に医学部附属病院に設置された。医学研究院と共同で、千葉大学のがんゲノム医療の確立と充実をはかる。がんゲノム検査の保険承認にあたり、千葉県がんセンターとの協力体制を確立し、2020年4月1日からは、がんゲノム拠点病院である千葉県がんセンターの連携病院としてがんゲノム診療を行っている。2024年10月1日付けで厚生労働省から「エキスパートパネル実施可能がんゲノム連携病院」に指定され、千葉大学附属病院独自のエキスパートパネル実施の準備を進めている。

●教 育

・卒業教育／生涯教育

拠点病院である千葉県がんセンターが開催するエキスパートパネルに連携病院として参画し、症例カンファレンス、各種セミナーを通じ、院内、近隣施設の多職種医療従事者に実践的研究の機会を提供している。特に大学院生に在籍するスタッフに対しては、文部科学省 2017 年度大学改革推進等補助金「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」とも協同して実習を行っている。

・大学院教育

文部科学省 2017 年度大学改革推進等補助金「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」と協同して実習を通じた教育を行っている。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

次世代シーケンサーを用いた癌の網羅的解析研究のセミナー・演習を開催し解析指導している。

●研 究

・研究内容

がんのゲノム配列情報は腫瘍検体、血漿検体の両方を用い、複数のパネルを利用している。診療科・臓器横断的に腫瘍検体の二次利用による研究を推進するための臨床プロトコルを全診療科で作成し、2021年に倫理委員会の承認を得た。また、次世代シーケンサーなどゲノム網羅的解析手法を用いて臨床腫瘍検体、血漿検体を解析する、がんのゲノム網羅的解析研究を遂行している。

がんのゲノム配列情報などゲノム網羅的な解析手法を駆使したがんの分子生物学的データの解析により、がんの本態解明を行いがんの新たな診断・治療戦略を構築する。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

- Kosaka K, Takayama N, Paul SK, Kanashiro MA, Oshima M, Fukuyo M, Rahmutulla B, Tajiri I, Mukai M, Kubota Y, Akita S, Furuyama N, Kaneda A, Iwama A, Eto K, Mitsukawa N. iPSC-derived megakaryocytes and platelets accelerate wound healing and angiogenesis. *Stem Cell Res Ther*, 2024 Oct 14;15(1):364. doi: 10.1186/s13287-024-03966-z.
- Iwasaki K, Tojo A, Kobayashi H, Shimizu K, Kamimura Y, Fukuto A, Horikoshi Y, Sun J, Yasui M, Honma M, Okabe A, Fujiki R, Nakajima N, Kaneda A, Tashiro S, Sassa A, Ura K. Dose-dependent effects of histone methyltransferase NSD2 on site-specific double-strand break repair. *Genes Cells*, 2024 Nov;29(11):951-965. doi: 10.1111/gtc.13156. Epub 2024 Sep 8.
- Kitagawa, Yuki; Kondo, Satoru; Fukuyo, Masaki; Dochi, Hiroto; Wakae, Kousho ; Mizokami, Harue; Komura, Shigetaka; Kobayashi, Eiji; Hirai, Nobuyuki; Ueno, Takayoshi; Nakanishi, Yosuke; Endo, Kazuhira; Sugimoto, Hisashi; Wakisaka, Naohiro; Kaneda, Atsushi; Yoshizaki, Tomokazu. Phosphoribosyl pyrophosphate amidotransferase: A novel biomarker and therapeutic target for nasopharyngeal carcinoma. *Cancer Sci*, 2024 Nov;115(11):3587-3595. doi: 10.1111/cas.16314. Epub 2024 Aug 28.
- Hatano R, Zhang X, Lee E, Kaneda A, Tanaka T, Miki T. Mosaic ablation of pancreatic β -cells induces de-differentiation and repetitive proliferation of residual β -cells in adult mice. *iScience*, 2024; 27(9): 110656. doi:10.1016/j.isci.2024. 110656.
- Shimizu S, Fukuda N, Chen L, Matsumoto T, Kaneda A, Endo M, Nishiyama A, Morioka I.

- Abnormal epigenetic memory of mesenchymal stem and progenitor cells caused by fetal malnutrition induces hypertension and renal injury in adulthood. *Hypertension Res.*, epub 2024 June 26. doi: 10.1038/s41440-024-01756-x
6. Hoshii T, Kikuchi S, Kujirai T, Masuda T, Ito T, Yasuda S, Matsumoto M, Rahmutulla B, Fukuyo M, Murata T, Kurumizaka H, Kaneda A. BOD1L mediates chromatin binding and non-canonical function of H3K4 methyltransferase SETD1A. *Nucleic Acids Res.* 2024 Sep 9;52(16):9463-9480. doi: 10.1093/nar/gkae605.
 7. Kumagai T, Iwata A, Furuya H, Kato K, Okabe A, Toda Y, Kanai M, Fujimura L, Sakamoto A, Kageyama T, Tanaka S, Suto A, Hatano M, Kaneda A, Nakajima H. Distal enhancer of GATA3 regulates Th2 differentiation and allergic inflammation. *PNAS*, 2024 June; 121: e2320727121. doi: 10.1073/pnas.2320727121.
 8. Paul SK, Oshima M, Patil A, Sone M, Kato H, Maezawa Y, Kaneko H, Fukuyo M, Rahmutulla B, Ouchi Y, Tsujimura K, Nakanishi M, Kaneda A, Iwama A, Yokote K, Eto K, Takayama N. Retrotransposons in Werner syndrome-derived macrophages trigger type I interferon-dependent inflammation in an atherosclerosis model. *Nat Commun.* 2024; 15: 4772. doi: 10.1038/s41467-024-48663-w.
 9. Nakayama Y, Fujiu K, Oshima T, Matsuda J, Sugita J, Matsubara TJ, Liu Y, Goto K, Kani K, Uchida R, Takeda N, Morita H, Xiao Y, Hayashi M, Maru Y, Hasumi E, Kojima T, Ishiguro S, Kijima Y, Yachie N, Yamazaki S, Yamamoto R, Kudo F, Nakanishi M, Iwama A, Fujiki R, Kaneda A, Ohara O, Nagai R, Manabe I, Komuro I. Heart failure promotes multimorbidity through innate immune memory. *Sci Immunol.* 2024 May; 9: eade3814. doi: 10.1126/sciimmunol.ade3814. epub 2024 May 24.
 10. Zhu T, Okabe A, Usui G, Fujiki R, Komiyama D, Huang KK, Seki M, Fukuyo M, Abe H, Ning M, Okada T, Minami M, Matsumoto M, Fan Q, Rahmutulla B, Hoshii T, Tan P, Morikawa T, Ushiku T, Kaneda A. Integrated Enhancer Regulatory Network by Enhancer-Promoter Looping in Gastric Cancer. *NAR Cancer*, NAR Cancer, epub 2024 May 8. doi: 10.1093/narcan/zcae020.
 11. Chen SJ, Hashimoto K, Fujio K, Hayashi K, Paul SK, Yuzuriha A, Qiu WY, Nakamura E, Kanashiro MA, Kabata M, Nakamura S, Sugimoto N, Kaneda A, Yamamoto T, Saito H, Takayama N, Eto K. A let-7 microRNA-RALB axis links the immune properties of iPSC-derived megakaryocytes with platelet producibility. *Nat Commun.* 2024 Mar; 15:2588. doi: 10.1038/s41467-024-46605-0. epub 2024 Mar 22.
 12. Mizokami H, Okabe A, Choudhary R, Mima M, Saeda K, Fukuyo M, Rahmutulla B, Seki M, Goh BC, Kondo S, Dochi H, Moriyama-Kita M, Misawa K, Hanazawa T, Tan P, Yoshizaki T, Fullwood MJ, Kaneda A. Enhancer infestation drives tumorigenic activation of inactive B compartment in Epstein-Barr virus-positive nasopharyngeal carcinoma. *eBioMedicine*, 2024 Apr; 102: 105057. doi: 10.1016/j.ebiom.2024.105057. epub 2024 Mar 14.
 13. Kanaoka S, Okabe A, Kanesaka M, Rahmutulla B, Fukuyo M, Seki M, Hoshii T, Sato H, Imamura Y, Sakamoto S, Ichikawa T, Kaneda A. Chromatin activation with H3K36me2 and compartment shift in metastatic castration-resistant prostate cancer. *Cancer Lett.* 2024 Apr; 588: 216815. doi: 10.1016/j.canlet.2024.216815. epub 2024 Mar 13.
 14. Takane K, Cai T, Noguchi R, Gohda Y, Ikenoue T, Yamaguchi K, Ota Y, Kiyomatsu T, Yano H, Fukuyo M, Seki M, Rahmutulla B, Kaneda A, Furukawa Y. Genome-wide analysis of DNA methylation in pseudomyxoma peritonei originated from appendiceal neoplasms. *Oncology.* 2024;102:720-731. doi: 10.1159/000536219. epub 2024 Jan 23.
 15. Suda K, Okabe A, Matsuo J, Chuang LSH, Li Y, Jangphattananont N, Mon NN, Myint K, Yamamura A, So JBY, Voon D, Yang H, Guan Y, Kaneda A, Ito Y. Aberrant upregulation of RUNX3 activates developmental genes to drive metastasis in gastric cancer. *Cancer Res Commun.* 2024 Feb;4(2):279-292. doi: 10.1158/2767-9764.CRC-22-0165.
 16. Dochi H, Kondo S, Komura S, Moriyama-Kita M, Komori T, Nanbo A, Sakaguchi M, Fukuyo M, Hamabe-Horiike T, Tanaka M, Mizokami H, Kano M, Kitagawa Y, Kobayashi E, Hirai N, Ueno T, Nakanishi Y, Endo K, Sugimoto H, Hanayama R, Kaneda A, Yoshizaki T. Peritumoral SPARC expression induced by exosomes from nasopharyngeal carcinoma infected Epstein-Barr virus: a poor prognostic marker. *Int J Cancer.* 2024; 154:895-911. doi: 10.1002/ijc.34777. epub 2023 Oct 31.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 金田篤志. がんに蓄積するエピゲノム異常の網羅的な解明と医療産業への応用. 2025.01.10. 千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワークがん領域セミナー. ホテルグリーンタワー幕張（千葉県千葉市）. 国内セミナー. 招待講演
2. Atsushi Kaneda. Risk prediction of primary gastric cancer by accumulation of epigenomic alteration in gastric mucosa initiated by helicobacter pylori. 2024.11.27-29. 第47回日本分子生物学会年会. 福岡国際会議場・福岡マリンメッセ（福岡県福岡市）. 国内学会. 招待講演
3. Atsushi Okabe, Masaki Fukuyo, Bahityar Rahmutulla, Teru Kanda, Hironori Yoshiyama, Patrick Tan, Atsushi Kaneda. Chromatin structural alteration induced by oncovirus infection aberrantly activate transcriptional regulation. 2024.11.6-8, 第97回日本生化学会大会. パシフィコ横浜ノース（神奈川県横浜市）. 国内学会. 招待講演
4. 金田篤志. エピゲノム異常の蓄積と発がんリスク. 2024.10.30. 2024年度名医に学ぶセミナー. 熊本大学（熊本県熊本市）. 国内学会. 招待講演
5. Atsushi Kaneda. Environment and lifestyles to cause accumulation of epigenomic aberrations and gastric tumorigenesis. 2024.10.15-17. The 17th Asian Epigenomics meeting. Jawaharlal Nehru Centre (Karnataka India) 国際学会・招待講演
6. 金田篤志. 病原体感染が誘導するエピゲノム異常と胃発癌. 2024.10.7. 令和6年度「感染癌」全国共同研究拠点シンポジウム. 北海道大学医学部フラテホール（北海道札幌市）. 国内学会. 招待講演
7. Atsushi Kaneda. Epigenomic aberrations in precancerous condition of gastric epithelium and risk for gastric cancer development. 2024.09.19-21. 第83回日本癌学会総会. 福岡国際会議場・福岡マリンメッセ（福岡県福岡市）. 国内学会・招待講演
8. 中川拓也, Joseph A. Califano, 金田篤志, 花澤豊行. エピゲノム異常から見るHPV関連中咽頭癌の発癌分子機構とその研究推進. 2024.06.20-21, 第48回日本頭頸部癌学会. アクトシティ浜松（静岡県浜松市）. 国内学会. 招待講演
9. Atsushi Kaneda. Epstein-Barr virus drives epigenetic activation of inactive B compartment in genesis of nasopharyngeal and gastric carcinoma. 2024.6.2-7. The Gordon Research Conferences (GRC). Les Diablerets Conference Center (Vaud (fr) Switzerland) 国際学会. 招待講演
10. 金田篤志. ストレスによるエピゲノム異常の蓄積と

胃発癌リスク上昇. 2024.5.31-6.2. 第24回日本抗加齢医学会総会. 熊本城ホール（熊本県熊本市）. 国内学会. 招待講演

【学会発表数】

国内学会 10学会 48回（うち大学院生0回）
国際学会 0学会 0回（うち大学院生0回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「環境ストレスが誘導する胃のエピゲノム異常の蓄積と胃発癌リスク戦略の構築」代表者：金田篤志 2024-2026
2. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「AI技術によるARID1A欠損胃がんクロマチン構造異常の検出」代表者：藤木亮次 2024-2026
3. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「細胞集団の不均一性に着目したEBV胃癌発生メカニズムの解析」代表者：関元昭 2024-2026
4. 文部科学省科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「染色体外DNAがもたらす異常クロマチン相互作用と癌進展、新規治療戦略基盤の構築」代表者：金田篤志 2024-2026
5. 株式会社エスアールエル「バイオリソース教育研究センターによるバイオバンクの運営」代表者：金田篤志 2018-2027
6. 株式会社スクラム「バイオリソース教育研究センターにおけるバンキング技術の研究」代表者：金田篤志 2018-2025
7. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構・ムーンショット型研究開発事業「細胞運命転換によるがん組織を支えるネットワークへの介入による治療の概念実証とそのメカニズムの解明」分担者：金田篤志 2022-2025
8. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構・医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業「アジア特異的発がん性物質による胃癌進化メカニズム解明」代表者：金田篤志 2023-2026
9. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構・次世代がん医療加速化研究事業「エピゲノム特性に基づいた胃癌易罹患性バイオマーカーの研究開発」代表者：金田篤志 2022-2024
10. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構・肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業「感染HBVゲノムのエピゲノム制御の解明」分担者：金田篤志 2022-2024
11. 公益財団法人タムス岡本記念財団「染色体外DNAがもたらす異常クロマチン相互作用による癌の進展機序の解明」代表者：金田篤志 2024
12. 公益財団法人武田科学振興財団「炎症と老化によるエピゲノム異常と発癌機構の解明」代表者：金田篤志 2018-

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

がんゲノムセンター設置以前よりがんゲノム外来は行っていたが、2018年4月のがんゲノムセンター設置後は、正式の診療部として外来診療を開始。

2020年4月1日よりがんゲノム拠点病院である千葉県がんセンターの連携病院となり、千葉県がんセンターが実施するエキスパートパネルに連携病院として参画しがんゲノム診療を行っている。2024年10月1日付けで厚生労働省から「エキスパートパネル実施可能がんゲノム連携病院」に指定され、千葉大学附属病院独自でのエキスパートパネル実施の準備を進めている。

●地域貢献

地域の産業と今後のゲノム医療との連携を討議する千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議セミナーの企画運営会議委員を担当。

市民に対する啓発活動のため、がん診療連携拠点委員会に協力する形で附属病院主催のがん市民公開講座「がんのセルフケアー治療を共に進めるための第一歩ー」を2024年1月28日（日）、WEBで開催した。

地域のがん教育について、千葉県がん教育推進協議会の委員を担当。

地域のがん診療について、千葉県がん診療連携協議会のがんゲノム医療専門部会委員を担当。

地域のがん対策について、千葉県がん対策審議会の委員を担当。

研究領域等名：	
診療科等名：	患者支援部

●はじめに

patient flow managementの推進を多職種で展開している。①患者支援センターにおける入院前面談・外来相談・患者相談窓口対応、②院内共通床・空床のコーディネートによるベッドコントロール、③クラウドサービス（ケアブック）を用いた迅速な転院相談、④地域医療者との頻回の意見交換の実施等の活動を通して、患者満足度と病床稼働率の更なる改善を目指している。がん相談支援センター、総合難病相談支援センター、移行期医療支援センター、がん生殖医療相談支援センターの事務局機能を果たし、難病医療、県や県内自治体、医療機関、各種団体の委託業務や講師派遣に役立っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

山中義崇

・千葉大学医学部4年次 臨床入門Ⅱ（CC ベーシック）

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

木村憲子

・千葉大学看護学部4年次 統合実習

・千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科 看護管理学実習 講義

・千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科 総合実習 看護管理学領域

・千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科 成人看護学実習

真原仁

・武蔵野大学 信号処理

●研 究

・研究内容

相羽良寿

・千葉県保険医協会の歯周病と全身疾患プロジェクトにおいて、医科歯科連携手帳のアプリ化とデータ利活用に関するアンケート調査について支援した。

・ペーシェント・ジャーニーマップを利用して、ペーシェントによるペーシェントフローの課題について検討した。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Wang J, Sugiyama A, Yokota H, Hirano S, Yamamoto T, Yamanaka Y, Araki N, Ito S, Paul F, Kuwabara S. Differentiation between Parkinson's Disease and the Parkinsonian Subtype of Multiple System Atrophy Using the Magnetic Resonance T1w/T2w Ratio in the Middle Cerebellar Peduncle. *Diagnostics (Basel)*. 2024; 14(2):201.
2. Kuroiwa R, Shibuya K, Inagaki T, Nara T, Nemoto M, Doi Y, Yasuda M, Uzawa A, Shiko Y, Murata A, Yamanaka Y, Kuwabara S. Reliability and validity of cough peak flow measurements in myasthenia gravis. *Neuromuscul Disord*. 2024; 41: 29-34.
3. Baba Y, Watanabe S, Hayashi S, Sakai T, Naka M, Kami S, Hirayama K, Koizumi K, Takahashi A, Meguro M, Iga R, Yamanaka Y, Kataoka M, Uchida D, Ishibashi R. Semaglutide improves treatment satisfaction and eating behavior in

Japanese patients with type 2 diabetes mellitus. *Diabetes Obes Metab*. 2024; 26(10):4787-90.

4. Hitoshi Mahara, Yuki Kimura, P.Parmananada, Atsushi Nomura, Tohru Tsuchikawa, and Tatsunari Sakurai, Heterogeneity-provoked pulse generation in coupled excitable elements, *Physical Review E*, 110, pp. 054211-1-054211-7, 2024

【雑誌論文・和文】

1. 山中義崇.「省察」は全人的評価に基づくリハビリテーション医療の礎となる. *Journal of Clinical Rehabilitation* 2024;33:152-6
2. 山中義崇：リハビリテーション治療は医師の処方で行われていることを忘れてはならない. *Medical Practice* 2024;41:1108
3. 三辺正人、河野寛二、栗林伸一、真原仁、多疾患としての歯周病・糖尿病とその関連疾患に対するコモンリスクファクターアプローチー歯周病・糖尿病医科歯科連携の臨床現場における実装を目指してー、

日本歯科評論、84(5)、pp.83-95、2024

4. 相羽良寿, 竹内公一 PHR「ヘルスケアパスポート」による診療の効率化 ITVison 2024; No51: 30-31.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 山中義崇. 神経疾患において過用性筋力低下 (overwork weakness) は本当に存在するのか?. 第 65 回日本神経学会学術集会 2024/5/29-6/1
2. 山中義崇. 第 16 回リハビリテーション科専門医試験受験支援講座. 第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会 2024/6/13-16
3. 山中義崇. 免疫性末梢神経障害のリハビリテーション診療. 第 8 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 2024/11/1-3
4. 山中義崇. 専門医認定試験における症例報告の重要性と評価方法について. 第 8 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 2024/11/1-3

【学会発表数】

国内学会 15 回

国際学会 0 回

【外部資金獲得状況】

1. 千葉県受託事業「令和 6 年度千葉県移行期医療支援体制整備事業（移行期医療支援センター）」代表者：山中義崇 2024
2. 千葉県受託事業「令和 6 年度千葉県難病相談支援センター事業」代表者：山中義崇 2024
3. 千葉県受託事業「令和 6 年度千葉県難病医療提供体制整備事業」代表者：山中義崇 2024
4. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「サイボーグ型ロボット、運動野磁気刺激によるすくみ足の統合的リハビリテーション開発」代表者：山中義崇 2023-2025
5. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「マルチモーダル脳機能画像によるパーキンソン病認知機能の包括的評価システム確立」分担者：山中義崇 2023-2025
6. 厚生労働省科学研究費「スモンに関する調査研究班」分担者：山中義崇 2023-2025
7. 文部科学省（文部省）科学研究費「災害時における医療施設への被災者の行動変容のコンピュータシミュレーション」代表者：相羽良寿 2019-2024

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

【入院前支援】

2024 年の入院前看護師面談件数は 5,353 件であった。面談は単なる入院前の情報収集にとどまらず、早期スクリーニングを通じて外来通院中から支援が必要な患者を抽出し、療養環境に関する相談・調整を実施している。入院前から退院後を見据えた支援につなげることで、継続的かつ包括的な看護の提供に寄与している。

【退院支援と療養支援】

2024 年の総支援件数は 28,530 件（うち新規 3,635 件）であり、2023 年より 3,136 件減少した。新規依頼の支援内容別では、一般床への転院支援が最も多く、次いで在宅転帰支援、回復期リハビリテーション病院への転院支援の順であった。長年、在宅転帰支援が長年最も多い支援数を占めていたが、本年度初めて転院支援（一般床）が最も多い支援となった。千葉圏域を中心に救急搬送患者の増加への対処として、e-link（千葉大学救急コンソーシアム）を創設し、救急科患者の早期転院が可能な体制整備を進めてきたことが功を奏しているとも言える。当部の支援件数が減少に転じているが、複合的社会課題を有する患者への支援が多くなり、かつ在院日数が短縮化する中でも細やかな支援が求められている状況がある。

【受診科案内】

患者・ご家族・医療機関からの問い合わせに対し、症状や相談内容に応じて適切な診療科を案内する受診科案内業務を実施している。電話対応を中心に、紹介状の有無、予約方法、診療時間等の受診手続きについても丁寧に説明し、円滑な受診につなげている。地域医療の窓口として重要な役割を担っている。

【第 18 回千葉県地域連携の会】

令和 7 年 2 月 20 日（木）に「千葉大学とともに、地域連携最前線」をテーマに、対面で開催した。救急医療やがん診療、DX など、当院における最新の取組を紹介したほか、情報交換会を設け、地域連携強化を図った。県内の医療・介護・福祉・行政の関係者を中心に 159 名の方々に参加申込みをいただいた。

●地域貢献

山中義崇

地域医療スタッフに対する特別講演

- ・薬物治療とリハビリを含めた PD 診療のトータルマネジメントに関して（2024.3.21 首都圏 Parkinson's Disease Metaverse Seminar）

- ・ノバルティスファーマ株式会社主催研修会「多発性硬化症患者の支援に関する実際を知る」講演 2024.5.17
- ・前立腺がんの地域医療連携～当院における連携パスの現状と今後の展望～（2024.5.24 君津木更津医療圏医療連携講演会）
- ・パーキンソン病リハビリテーションの満足度を高める外来医の役割（2024.6.6 脳神経内科トピックス WEB セミナー）
- ・リハビリテーションの立場から見た「ヴィアレブ」の懸念事項と期待すること（2024.6.19 進行期パーキンソン病治療を考える VYALEV WEB Seminar）
- ・人生 100 年時代におけるリハビリテーションの役割（2024.7.28 Parkinson's Disease Therapeutic Symposium ～幸福 100 年時代に求められる治療とは？～）
- ・高齢パーキンソン病患者に対するリハビリテーション（2024.11.23 Parkinson's Disease Therapeutic Symposium）

江島咲紀

- ・千葉県医療ソーシャルワーカー協会「初任者研修」講師 2024.10.6
- ・長生保健所主催研修会「移行期医療ってなに？」配信 2024.12.25～2025.2.17
- ・習志野保健所主催研修会「移行期医療ってなに？」配信 2025.3.1～31

尾形穂乃香

- ・日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社主催「間質性肺炎患者の支援の実際と地域と協働する意思決定支援の可能性」講演 2024.8.28、2024.11.28
- ・ノバルティスファーマ株式会社主催千葉県 MS 患者アドバイザーボード「千葉県の難病相談支援体制について」講演 2024.12.19

藤田悠里

- ・令和 7 年千葉大学病院市民公開講座「がん治療中・治療後の“食べる”を考える」講演講師 2025.01.26

難病医療提供体制整備事業、千葉県総合難病支援センター

- ・難病医療提供体制整備事業研修会「千葉県地域リハビリテーション支援体制での「つながり」づくり」2025.3.28
- ・千葉県総合難病相談支援センター主催研修会「就労を考えよう」2024.10.17
- ・千葉県総合難病相談支援センター主催 ピアサポーター養成講座「ピアサポート最前線」24.12.5

移行期医療支援センター

- ・千葉県移行期医療支援センター主催研修会「大人になるためのステップ」2025.1.23

千葉県がん・生殖医療相談支援センター

- ・第 15 回千葉県がん患者大集合 2024 2024.10.14
- ・令和 6 年度県民公開講座を開催した。「妊孕性温存療法とは？」2025.2.1
- ・第 30 回ももはな会 講演 2025.2.8
- ・パンフレット「妊孕性温存療法ってなあに？」「妊孕性温存療法の実際」を作成し、県内保健所、がん診療連携拠点病院、がん相談支援センターなど 185 施設へ送付した。

●その他

山中義崇

- ・日本リハビリテーション医学会試験委員会委員
2010 年より日本リハビリテーション医学会による専門医・認定臨床医試験問題作成。
2019 年 7 月より副委員長、2023 年 1 月より委員長、2024 年 8 月よりアドバイザー

市原章子

- ・千葉県がん診療連携協議会 相談支援専門部会 委員
- ・厚生労働省補助事業「移行期医療支援体制整備の推進にかかる調査研究」事業検討委員

相羽良寿

- ・千葉県保険医協会 歯周病と全身疾患プロジェクト委員会 委員

真原仁

- ・千葉市 RUN 伴 実行委員
- ・日本遠隔医療学会 幹事会員、編集委員 委員

研究領域等名：	
診療科等名：	臨床栄養部

●はじめに

臨床栄養部は安全で美味しく治療に適した食事の提供と、過栄養・低栄養状態を改善することで治療効果を増やし、合併症を減らすための栄養管理、栄養指導を行っている。フードサービス部門は食事サービス向上を目的に嗜好調査、献立や食器のリニューアル、食材費の検討を行っている。クリニカルサービス部門は2022年4月新設された入院栄養管理体制加算の取得を開始し、2病棟に専従管理栄養士を配置して栄養管理を実施している。また、実習生・研修生の受け入れ、NST、褥瘡対策チーム、緩和ケア支援チーム、ICT、糖尿病コンプライアンスセンターへの参画、入退院支援センターでの栄養評価、通院治療室の栄養指導に取り組んでいる。

●教 育

・学部教育／卒前教育

大学病院として臨床で活躍できる管理栄養士育成のために、管理栄養士実習（栄養管理および給食管理）を行った。実習では、近隣の栄養士要請施設（大学等）と協力し、オンラインを活用した症例検討会を行っている。

管理栄養士養成校の実習生：9施設 35名

・卒後教育／生涯教育

NST 専門療法士臨床実地修練認定教育施設、臨床栄養師研修受託施設として卒後の管理栄養士を始めメディカルスタッフに対する臨床栄養実践教育を行っている。

6施設：9名

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

亥鼻 IPE（専門連携教育）Step4「コンサルテーション」に対応・協力した。

●研 究

・研究内容

食事療法や栄養管理の向上のために日常業務やチーム医療などで得られた知見および臨床研究を日本臨床栄養代謝学会や日本病態栄養学会などの各種学会、研究会等へ発表を行っている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Tsuruoka Y, Kato T, Watanabe M, Taguchi-Atarashi N, Ohno H, Mori C, Sakurai K. Changes in the intestinal microbiota of Japanese children during the first 3.5 years of life. Sci Rep 2024;14:29302

年1月

2. 野本尚子、第27回日本病態栄養学会年次学術集会、個別化栄養療法の確立に向けた管理栄養士の介入を考えるースティグマを中心にー、2024年1月
3. 野本尚子、日本病態栄養学会教育セミナー（更新）、複数疾患を持つ高度肥満症、2024年10月

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 野本尚子、第27回日本病態栄養学会年次学術集会、当院の病棟専従配置の現状と課題について、2024

【学会発表数】

国内学会 2学会 7回（うち大学院生0回）
国際学会 0学会 0回（うち大学院生0回）

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

高度肥満症や糖尿病などの生活習慣病、食物アレルギー、およびがん治療の支持療法として入院前から退院後までの継続した栄養指導、通院治療室での栄養指導を行っている。

（栄養指導対象疾患）

糖尿病、肥満症、胃がん術前後、腎疾患、脂質異常症、食物アレルギー、食道がん術後、心疾患、高血圧、膵疾患、肝疾患、がん、摂食嚥下障害、低栄養、その他

（栄養指導件数）

・個人指導 外来 2,707件、入院 1,362件

・糖尿病透析予防指導 27件 全病棟に管理栄養士を配置し、入院患者の栄養管理を行っている。さらにチー

ム医療として NST、褥瘡対策チーム、緩和ケア支援チームの栄養管理を担当している。

- ・ NST 支援人数 15 件
- ・ 入院栄養管理体制加算 4,538 件
- ・ 早期経腸栄養管理介入加算 3,571 件
- ・ 栄養情報連携料 13 件

給食提供数

- ・ 特別治療食 310,857 食
- ・ 一般食 267,489 食
- ・ 選択メニュー食 8,722 食

●地域貢献

市民公開セミナーなどでの講演活動を通して、地域や医療従事者等への啓蒙、栄養療法の普及に努めている。

- 2024 年 7 月 「病院管理栄養士の業務」(千葉県立保健医療大学 特別講義)
- 2024 年10月 「脂肪肝の栄養指導」(第 97 回千葉糖尿病教育スタッフ研究会)
- 2024 年10月 「脂肪肝の食事療法」(2024 年度肝がん撲滅運動)
- 2024 年11月 「病院における栄養管理体制の実際」(昭和女子大学 特別講義)
- 2025 年 1 月 「高齢者の栄養管理」(日本動脈硬化学会 MSC (メディカルスタッフカンファレンス))
- 2025 年 1 月 「肝臓に良い食事のとりかた」(2024 年度家族支援講座・肝臓病教室)
- 2025 年 1 月 「がん市民公開講座「がん治療中・治療後の「食べる」を考える」(がん市民公開講座)

研究領域等名：	
診療科等名：	東洋医学センター

●はじめに

東洋医学センターは墨田漢方研究所と柏の葉鍼灸院から構成される。墨田漢方研究所では漢方薬外来と鍼灸外来、柏の葉鍼灸院では鍼灸外来を行っている。

漢方薬外来は自由診療体制であり、保険診療に比べて広い範囲の病態や体調不良に対する治療アプローチを行っている。また、将来の生薬の安全性の向上や安定供給（新たな調達先の確保、国内栽培化の促進など）への取り組みに関する共同研究を進めている。

また、鍼灸学の世界標準化（ISO）に対応し、柏の葉鍼灸院ではお灸のエキスパートとしてお灸に関する成分やDNAによる系統調査、煙の安全性など基礎研究データを提供している。また、東洋医学的診察法の一つである「舌診」を客観化する研究を進めている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

1. 医学部『薬理学ユニット』における講義「漢方薬とその薬理作用」（勝野達郎）
2. 医学部『和漢診療学ユニット』における講義「漢方薬の効果の多面性」（勝野達郎）

・卒後教育／生涯教育

1. 和漢診療学講座主催・白衣で学ぶ漢方入門セミナー「漢方保険診療の注意点」（勝野達郎）

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

1. 千葉大学看護学部1年次 健康自主管理演習講義（松本毅）
2. 千葉大学看護学部臨床実習における鍼灸院実習（松本毅）
3. 千葉大学看護学部普遍科目「生きるを考える」（松本毅）
4. 千葉大学普遍教育：和漢診療学概論「未病を治すとは？」（勝野達郎）
5. 千葉大学薬学部授業『病態治療学』における講義：「陰陽・虚実・六病位概念」（勝野達郎）
6. 千葉大学園芸学部授業『東洋医学と未病』における講義：「東洋医学における未病と環境～イントロダクション～」・「東洋医学の歴史と基本的な考え方」・「かぜに対する漢方治療」・「ストレス関連疾患に対する漢方治療」・「東洋医学における未病と環境 ～まとめと質疑～」（勝野達郎）、「東洋医学と鍼灸治療について」・「ヨモギとお灸について」・「ヨモギからモグサができるまで（演習）」・「ツボと健康」・「マッサージでセルフケア」（松本毅）

●研 究

・研究内容

1. 東洋医学の灸療法に使用されるモグサや原料のヨモギに関する研究（松本毅）
2. ISO（国際標準化）にむけて灸の安全性に関する研究（松本毅）
3. 薬学部における漢方教育の現状把握と発展（学生を対象としたアンケート調査による解析）（中尾文香）
4. 伝統医学の舌診の客観化（森田智）
5. ISO/TC249（国際標準化機構／伝統医学）における規格策定（森田智）
6. 東洋医学古典における基礎概念（勝野達郎）
7. 医療用漢方製剤推奨 AI の開発（勝野達郎）

・研究業績

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 勝野達郎「医療用漢方製剤の処方補助 Web アプリ作成の試み－隠れ層に生薬の薬能情報を持つ AI の構築と活用－」、第 41 回和漢医薬学会学術大会シンポジウム 1：AI によって和漢医薬診療はどう変わるか－現状と未来－ 2. 中尾文香「薬学部における漢方教育の現状と発展－	現場薬剤師の視点から～」、第 41 回和漢医薬学会学術大会シンポジウム 2：漢方医学教育の革新と最先端テクノロジーの融合 3. 森田智「ISO/TC249 における舌の診断機器規格」、第 41 回和漢医薬学会学術大会シンポジウム 2：漢方医学教育の革新と最先端テクノロジーの融合 4. 森瑛子「活性型変異を有する EGFR と c-Met に対する麻黄エキスの効果、及び、オシメルチニブとの

併用効果」、第 41 回和漢医薬学会学術大会シンポジウム 3：漢方薬のがん治療におけるアートとサイエンス

5. 松本毅：第 74 回日本東洋医学会学術総会 本部委員会企画プログラム講演
6. 松本毅：第 7 回東京都委託施術者講習会講演

【学会発表数】

国内学会 4 学会 11 回
国際学会 0 学会 0 回

【外部資金獲得状況】

1. 科学研究費基盤研究 (C) (一般)「地域高齢者の腰痛改善度予測 AI モデルの開発」分担者：松本毅 2023-2025

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

外来延患者数（2024 年度）

墨田漢方研究所：2,945 名

柏の葉鍼灸院：3,002 名

●地域貢献

1. 墨田区の薬局実習生（東京都内薬学部 5 年生）に対し漢方実習（中尾文香）と漢方講義（中尾文香、勝野達郎）（実習は年に全 3 クールあり、各クール数人ずつチームを分け、2 日間かけて実施）
2. 墨田漢方研究所主催：第 3 回墨田漢方健康セミナー「漢方診療を上手く受けるコツ」（勝野達郎、中尾文香）
3. 墨田漢方研究所主催：第 4 回墨田漢方健康セミナー「つらい痛みと東洋医学」（勝野達郎、新井洋子）
4. 墨田漢方研究所主催：第 5 回墨田漢方健康セミナー「風邪の時こそ漢方を！」（中尾文香、和泉裕子）
5. 墨田漢方研究所主催：第 6 回墨田漢方健康セミナー「響き合うところとからだー癒やしのための実践法ー」（尾崎さゆり）
6. 墨田区社会福祉協議会主催「すみだボランティアセンター漢方講演会」（中尾文香）
7. 墨田区保健所健康推進課主催講演会「女性のための漢方活用術！」（中尾文香）
8. 品川 KAEADA Re-BOOT WEEK【朝活】での講演（中尾文香）
9. 八戸市博物館主催市民公開講座での講演「七味唐辛子づくりワークショップ」（中尾文香）

●その他

1. ISO (International Organization for Standardization) /TC249 における伝統医学（東洋医学）の国際標準化の動きに対応するために、灸分野の国際、国内委員会に日本代表エキスパートとして参画（松本毅）
2. ISO/TC249 における伝統医学の標準化策定（森田智）
3. 国際鍼灸専門学校医療機関実習として実習生受け入れ（松本毅、勝野達郎）
4. 鍼灸師養成施設教員養成課程（東京医療福祉専門学校・関東鍼灸専門学校）で東洋医学臨床論・はりきゅう理論／経絡経穴概論を担当（森田智）
5. 千葉大学東洋医学自由講座における講義：「陰陽・虚実」、「五臓六腑」、「消化器系疾患と漢方薬・生薬－消化管を中心に－」（勝野達郎）
6. 米国 Georgian Court University 見学受け入れ（森田智、勝野達郎）
7. TBS ラジオ「生島ヒロシの健康一直線」出演（勝野達郎）、ラジオ NIKKE「ドクター DJ」出演（中尾文香）、ラジオ NIKKE「大人のラヂオ」出演（中尾文香）、RainbowtownFM「ミサトーナイト」出演（中尾文香）
8. 「トクバイニュース」記事 2 件（中尾文香）、「医療雑誌 Tehamo（4 号）」記事（中尾文香）、「最新妊活サポート BOOK 2024-25」記事（中尾文香）、「漢方の臨床（第 71 巻・第 11 号）」記事（中尾文香）

研究領域等名：	
診療科等名：	看護部

●はじめに

5年先を見据えたバックキャスト思考による「看護部中期ビジョン 2024-2028」を策定し、2024年度は「ありたい未来を看護でつくる」をスローガンに掲げて活動した。

病床稼働率 90% を目標とする病院経営改革において、病院長直轄の経営改革推進チームに看護部からも参画し、医師の指示締切時間の遵守や病棟当番制度の導入などに取り組んだ。看護部門では、会議や委員会の効率化、事務業務の電子化、DX の推進による業務の合理化を進めた。5 月には救急科 10 床をにし棟 5 階、6 階に集約、10 月には HCU の 4 床増床など、病床再編にも柔軟に対応し、安定した運営と質の高い看護の提供に努めた。

●教 育

・学部教育／卒前教育

千葉大学看護学部を中心とした看護学生の講義や実習において、講師や指導者として、その育成の支援を行った。

千葉大学看護学部に関しては、兼任講師として、成人看護学、老人看護学、精神看護学等の講義を 10 件担当した。また、看護学実習においては、延べ 523 人の学生を受け入れた。

さらに、他の看護師養成施設に関しては、大学や専門学校教育において、16 件の講義を担当した。看護学実習としては、5 校から延べ 335 人の学生を受け入れた。

・卒後教育／生涯教育

院内研修は、当院看護部職員としての基礎研修を 15 件、スキルアップ研修を 17 件、また、管理者等の役割発揮のための研修を 15 件開催し、基本的な知識や技術習得の支援を行った。

院外研修は、延べ 241 件の受講があり、うち 110 件については、看護師コメディカル等研修経費を活用して受講の補助支援を行った。長期院外研修には、認定看護管理者ファーストレベル 7 名 / セカンドレベル 3 名、実習指導者講習会 2 名、認定看護師養成課程（緩和ケア）1 名、看護師特定行為研修 10 名、木村看護財団によるメイヨークリニックへの海外研修 1 名を派遣した。

他施設からの研修・見学受け入れでは、心臓移植や輸血、せん妄、看護師特定行為に関して計 4 件対応した。

・大学院教育

兼任講師として、大学院における講義や実習指導を 38 件担当し、がん看護学や精神看護学、特定看護学プログラム等の教育支援を行った。

千葉大学大学院のがん看護専門看護師、国際医療福祉大学大学院の精神看護専門看護師、聖路加国際大学大学院の遺伝看護専門看護師の実習を受け入れ教育支援した。

また、大学院生の当院における研究実施に関して、参加者のリクルート等 5 件の支援を行った。

先端実践看護学研究部門高度実践看護学講座へ 1 名兼務した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

千葉大学の IPE 実習において、延べ 80 名の実習生を受け入れ支援した。

養護教育に関する実習では、千葉大学教育学部から 27 名、淑徳大学総合福祉学部から 23 名の実習生を受け入れ支援した。

千葉大学看護学研究院を通した海外からの学生や教員の見学受け入れについては、国立台湾大学、台北大学、香港大学から看護学生を 8 名、ガジャマダ大学（インドネシア）から看護教員と大学院生を 19 名、シンシナティ大学（アメリカ）から看護教員と看護学生を 12 名、アルスター大学（イギリス）から看護学生を 3 名受け入れ、情報提供や見学等により学習を支援した。また、シンピオシス大学（インド）から病院における災害対策について、学生 5 名の見学に対応した。

●研 究

・研究内容

小児看護、精神看護、感染管理、教育等に関する分野において、研究発表や実践報告を、各分野の学会等で発表した。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Azusa Yuguchi, Yukiko Yoshino, Akiko Takahashi, Kenji Endo, Mihiro Torikoe, Naoki Shimojo, et al. Prevention of Atopic Dermatitis in Babies by Skin Care from the Newborn Period. Int Arch Allergy Immunol. 2025;186(5):491-495

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 第39回日本環境感染学会総会・学術集会 シンポジウム NICU 感染対策のトピックスと災害時の対応について 千葉均

2. 第24回認知療法・認知行動療学会／日本不安症学会学術集会 シンポジウム 看護実践の未来を描くコンパス CBT がもたらすさらなる発展 森内加奈恵

【学会発表数】

国内学会 25 学会 33 回
国際学会 1 学会 1 回

【外部資金獲得状況】

1. 科学研究費 奨励研究「患者の要望が伝わり臨床業務を軽減するスマートコールの開発」代表者：幸森英里 2024

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

コロナ後の病床再編として、救急科一般病床の5床から10床への回復が決定し、にし棟5階へ3床、にし棟6階へ7床の配置にて、5月1日付けで運用開始となった。

10月1日より、ハイケアユニット（HCU）が16床から20床に増床となった。診療報酬改定に伴うハイケアユニット入院管理料1の基準変更等による影響があったが、入室条件の調整、重症度、医療・看護必要度の確実な入力と評価結果のタイムリーな共有などにより、病床稼働率は平均93.4%、入院料算定率平均89.6%を維持している。

2025年4月1日より、EICUの8床から10床へ増床が決定しており、教育体制の見直し、リーダー育成に取り組んでいる。

コロナ後の病床運用について、5月1日より新病床運用基準が施行され、病床運用の活性化を図ることを目的に、各診療科の優先病床を減床し、共通病床が増床された。また、8月には経営改善策として病床稼働率90%の経営目標が提示されたことから、共通病床のより効率的な運用が求められ、患者支援部の看護師長を中心にベッドコントロールを行い、調整件数は100件/月を超え、今年度は929件/年の調整を行った。

2024年度の診療報酬改定で見直された急性期看護補助体制充実加算に必要な要件を整え、6月1日から算定を開始した。

また、看護師特定行為の実装を強化するために、現在特定看護師が配置されている部署において、患者ニーズと部署特性、診療報酬算定も意識した部署ごとの運用計画を立案した。これまで継続受講者が多く、特定看護師の実数増加が緩やかになっていたため、部署運用計画に沿った新規受講者を推進し、2025年度には8名が新規受講予定となった。

●地域貢献

災害時の看護職派遣体制として、千葉県との「千葉県における災害支援ナースの派遣に関する協定」の締結を受け、千葉県看護協会の研修を修了した11名を災害支援ナースとして登録した。また、DMAT養成研修を修了した1名、CLDMAT養成研修を受講した2名を新たに登録した。

千葉県臓器移植院内コーディネーターとして、EICUの看護師4名が登録されており、「脳死下臓器提供振り返り」に関する検討会に参加した。

スポーツメディクスセンターの医療支援として、アルティーリ千葉ホームゲーム、千葉シティトライアスロン大会、千葉県柔道大会への看護師派遣を行った。

また、県内外における看護職等への教育活動として、研修等の講師やファシリテーター、雑誌等の執筆を担った。

●その他

叙勲・表彰者

叙勲瑞宝単光章（春） 越川広美（元看護師長）

叙勲瑞宝単光章（秋） 瀧口章子（元副看護部長）

千葉県看護功労者知事表彰 曳地陵子（元看護師長）

千葉県看護協会会長表彰 荒屋敷亮子（看護師長）、大野純子（看護師長）、石島志保（看護師長）、岩田幸恵（看護師長）、越後友美子（副看護師長）

研究領域等名：	
診療科等名：	造血細胞移植センター

●はじめに

造血器悪性腫瘍をはじめとする血液疾患患者は年々増加の一途をたどっており、その薬物療法、移植治療も目覚ましい進歩を遂げている。しかしその反面、移植患者に対する支援、血縁者・非血縁者移植ドナーコーディネーター、非移植施設との連携、若年患者に対する妊孕性温存、移植後合併症、サバイバー支援に関する対策は立ち遅れており、より連携を密にした診療体制の構築、院内の人的・物的リソースの有効活用、多方面からの患者支援が求められる背景がある。

このような問題点の克服とともに、移植治療のさらなる拡充、地域均てん化、先端的治療への応用を目的とし、本センターは2018年より活動を開始している。

当院はカテゴリ1の日本造血・免疫細胞療法学会の移植認定施設であり、関東・甲信越ブロック（南関東）の移植地域拠点病院として機能している。またCAR-T療法認定施設である。

●教育

・学部教育／卒前教育

学部学生に対し、移植治療に関する教育、実地見学、実習を行っている。血液内科・小児科・輸血細胞療法部などの横断的教育を行っている。

・卒後教育／生涯教育

移植認定医取得のための支援とともに、認定看護師、HCTCの教育施設としての支援を行っている。

・大学院教育

医学研究院の内分泌代謝・血液・老年内科学の大学院生の研究指導を行った。

また大学院講義「先端生命科学特論」などを担当した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

薬学部、普遍教育講義を担当している。

年に2回の多職種に向けた勉強会・研究会を開催し、意見交換・教育の機会を確保している。

●研究

・研究内容

移植治療、移植後合併症の克服に関する臨床試験の遂行、GVHDに関する多施設共同研究に参加し、HCTCによる移植コーディネーター期間短縮、連携の効率化に関する研究移植幹細胞採取効率に関わる研究等を行っている。

日本造血・免疫細胞療法学会、JALSG、関東造血幹細胞移植共同研究グループ（KSGCT）の共同研究を遂行している。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Matsui S, Ri C, Bolanos LC, Choi K, Shibamiya A, Ishii A, Takaishi K, Oshima-Hasegawa N, Tsukamoto S, Takeda Y, Mimura N, Yoshimi A, Yokote K, Starczynowski DT, Sakaida E, Muto T. Metabolic reprogramming regulated by TRAF6 contributes to the leukemia progression. *Leukemia*. 2024 May;38(5):1032-1045. doi: 10.1038/s41375-024-02245-3. Epub 2024 Apr 12. PMID: 38609495; PMCID: PMC11073974.
2. Ishii A, Tsukamoto S, Mimura N, Miyamoto-Nagai Y, Isshiki Y, Matsui S, Nakao S, Shibamiya A, Hino Y, Kayamori K, Oshima-Hasegawa N, Muto T, Takeda Y, Suichi T, Misawa S, Ohwada C,

Yokote K, Kuwabara S, Nakaseko C, Takamatsu H, Sakaida E. Detection of clonal plasma cells in POEMS syndrome using multiparameter flow cytometry. *Sci Rep*. 2024 May 6;14(1):10362. doi: 10.1038/s41598-024-61034-1. PMID: 38710832; PMCID: PMC11074311.

【雑誌論文・和文】

1. 塩入勇翔, 塚本祥吉, 堺田恵美子. TAFRO 症候群の診断と治療. *EBM 血液疾患の治療 2025-2026* (中外医学社)
2. 三村尚也. 多発性骨髄腫の診療指針 2024 (第6版) V 類 縁 疾 患. 1. POEMS 症 候 群 (Crow-Fukase 症候群、高月病) page96-99. 日本骨髄腫学会編 2024年9月

3. 堺田恵美子. 多発性骨髄腫の診療指針2024 (第6版) VI 患者に対する情報提供および支援活動 日本骨髄腫学会編 2024年9月
 4. 堺田恵美子. 血液専門医のための模擬テスト54. 血液内科. 89(2):1-2, 2024
 5. 堺田恵美子. 血液専門医のための模擬テスト54 解答と解説. 血液内科. 89(3):1-5, 2024
 6. 堺田恵美子, 松村到 監修. インフォームドコンセントサポートライブラリー③ 目で見る (図解) 慢性骨髄性白血病 カウンセリング・ブック (2024年1月改訂版)
 7. 堺田恵美子. 総論5. POEMS 症候群の病態・診断・治療 臨床検査 2024年7月号 (第68巻7号) 今月の特集: 骨髄腫と類縁疾患の検査学
- 【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】**
1. 石井改. 当院における CAR-T 治療と CRS/ICANS マネジメント. DLBCL Meet The Experts in 千葉. 2024/2/15. 千葉
 2. 三村尚也. 第47回広島多発性骨髄腫研究会 (ハイブリッド、現地発表) 特別講演: 多発性骨髄腫の臨床と研究の最前線 2024.2.17
 3. 三村尚也. 千葉大学病院における CAR-T 細胞療法の現在地と未来. イエスカルタ Web セミナー in 千葉. 2024/3/9
 4. 堺田恵美子. アベクマの紹介元施設との連携 千葉大学と連携施設の取り組み. Nationwide Scientific Exchange Meeting. How to integrate BCMA -Targeting therapies in RRMM treatment strategies. 2024/4/27. 東京
 5. 三村尚也. CAR-T 療法と二重特異性抗体. 日本骨髄腫学会 若手教育セミナー2024 in 福岡 2024/5/31
 6. 三村尚也. Triple-class exposed RRMM に対する CAR-T 療法の最適化を考える. How to optimize the benefit of immune-based therapies in RRMM. 2024/6/1. 福岡
 7. 三村尚也. 【がん免疫と免疫療法】CAR-T 細胞療法の進歩. 第24回臨床腫瘍夏期セミナー 2024/6/29
 8. 三村尚也. Triple-class exposed RRMM に対する CAR-T 療法の最適化を考える New ERA meeting for multiple myeloma (WEB 講演会) 2024/9/18
 9. 三村尚也. Triple-class exposed RRMM に対する CAR-T 療法の最適化を考える. アベクマの臨床試験データより. RRMM BCMA target treatment strategy seminar in Chiba. 2024/10/24. 千葉
 10. 堺田恵美子 (特別講演). Triple-class exposed RRMM に対する CAR-T 療法の最適化 アベクマの紹介元施設との連携 千葉大学と連携施設の取り組み. RRMM Seminar in Hokkaido. 2024/11/29. 札幌
 11. 堺田恵美子 (特別講演). CAR-T 療法の基礎と臨床応用. 新たな細胞療法への期待. アレルギー膠原病内科年次総会・同門会. 2024/12/1. 千葉
- 【学会発表数】**
- 国内学会 7学会 34回 (うち大学院生6回)
国際学会 1学会 2回 (うち大学院生0回)
- 【外部資金獲得状況】**
1. 科学研究費助成 基盤研究(C)「POEMS 症候群における微小クローン同定による診断治療戦略の確立」代表者: 堺田恵美子 2022-2024
 2. 科学研究費助成 基盤研究(C)「成熟 B 細胞腫瘍モデルマウスによる腫瘍免疫逃避機構の解明と新規治療開発」代表者: 三村尚也 2022-2024
 3. 科学研究費助成 基盤研究(C)「形質細胞シングルセル RNA シークエンスによる AL アミロイドシス網羅的遺伝子解析」代表者: 竹田勇輔 2022-2024
 4. 革新的がん医療実用化研究事業「小児から成人を対象にする臨床試験による T 細胞性急性リンパ性白血病の小児型治療適用限界年齢の検討と新規バイオマーカー探索に関する研究」代表者: 堺田恵美子 2022-2025
 5. 革新的がん医療実用化研究事業「PDX 治療モデルと継続的臨床検体の統合的マルチオミックス解析に基づく急性骨髄性白血病の分子層別化と難治性クローンの克服に向けた治療戦略の構築に関する研究」分担者: 堺田恵美子 2022-2025
 6. 科学研究費助成 基盤研究(C)「POEMS 症候群形質細胞による巨核球・血小板の教育機構の解明」代表者: 塚本祥吉 2024-2026
 7. 科学研究助成 基礎研究(若手)「慢性好中球性白血病の病態形成メカニズム解明と新規治療標的分子の探索」代表者: 大島渚 2024-2025
- 【受賞歴】**
1. 竹内南帆, 塚本祥吉 第121回日本内科学会講演会 ことはじめ2024 優秀演題賞・指導教官賞 2024/4/13
 2. 中世古知昭, 堺田恵美子 国際医療福祉大学学会学術大会 優秀演題賞 2024/9/16

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

外来、入院診療に際し、医師、看護師、移植コーディネーター（HCTC）、栄養士、理学療法士などの多職種によるチームが連携して診療にあたっている。

移植後の患者に対する LTFU（Long-Term Follow-Up）外来の運営、パンフレット、マニュアル作成を行っている。

また、革新的細胞療法である CAR-T 療法を行っている。

●地域貢献

千葉県内の造血幹細胞移植療法の均てん化を目標とし、県内の移植施設、非移植施設と連携し、メーリングリストでの情報の共有を行っている。また3か月に一度の関連病院全体会議を通し、移植対象症例の共有、さらに移植を要する患者の症例検討、移植に際する問題点の共有、研究、教育の機会を確保している。

年に2回の症例検討会、年に2回の移植に特化した多職種連携講演会などを企画し、若手医師、多職種の教育、地域の移植施設との連携強化を図っている。

研究領域等名：	_____
診療科等名：	スポーツメディクスセンター

●はじめに

当センターはこどもから高齢者まで誰もが安全にスポーツを楽しむことのできる社会の構築を目指し、多科・多職種が連携してスポーツ現場の包括的な医療支援、現場で働く医療者の育成、そしてスポーツと健康増進に関わる医療の発展に向けた活動、研究を行っている。本年度は千葉シティトライアスロン 2024、千葉県警察柔道大会、ちばアクアラインマラソンなどにおいて医療支援を行った。また、千葉ポートアリーナをホームとするプロバスケットボールチーム、アルティイリ千葉の総合的なメディカルサポートを行った。

●研 究

・研究業績

【その他】

2024.10.22 スポーツメディクスセンター5周年記念講演会を千葉大学病院ガーネットホールで開催し、スポーツメディクスセンターの5年間の歩みを紹介し、鈴木大地様に特別講演をしていただいた。

研究領域等名：	
診療科等名：	浦安リハビリテーション教育センター

●はじめに

文部科学省科学研究費補助金（2023-2025）に「サイボーグ型ロボット、運動野磁気刺激によるすくみ足の統合的リハビリテーション開発」を継続して実施した。

日本リハビリテーション医学会の認定する専門医研修の連携施設として、2024年度は1名の専門医研修を実施した。

学生実習については、千葉大学リハビリテーション科実習の一環として医学部5～6年生の受入れを毎週木曜日に実施した。

●教 育

・学部教育／卒前教育

千葉大学病院リハビリテーション科 Clinical Clerkship の木曜日の実習を担当した。

・卒後教育／生涯教育

職員が院内で受講できる教育講演を千葉大学病院浦安リハビリテーション教育センター主催シリーズ研修として実施した。

日本リハビリテーション医学会の認定する専門医研修の連携施設として、2024年度は1名の専門医研修を実施した。

・大学院教育

千葉大学脳神経内科博士課程及び整形外科修士課程にタムス浦安病院理学療法士が在籍し、研究協力者となり千葉大学とタムス浦安病院の多施設共同での特定臨床研究を継続して実施している。

●研 究

・研究内容

文部科学省科学研究費補助金基盤（C）(2023-2025)「サイボーグ型ロボット、運動野磁気刺激によるすくみ足の統合的リハビリテーション開発」の研究を継続して実施している。

2022年度に開始した千葉大とタムス浦安病院の多施設共同での特定臨床研究「パーキンソン症候群におけるすくみ足を対象としたロボットスーツ HAL と経頭蓋磁気刺激の併用療法における安全性を検討する臨床試験」に関しては、2024年度も継続して実施している。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Kuroiwa R, Shibuya K, Inagaki T, Nara T, Nemoto M, Doi Y, Yasuda M, Uzawa A, Shiko Y, Murata A, Yamanaka Y, Kuwabara S. Reliability and validity of cough peak flow measurements in myasthenia gravis. *Neuromuscul Disord.* 2024; 41: 29-34.
2. Nakano Y, Hirano S, Tamura M, Koizumi Y, Kitayama Y, Izumi M, Suzuki M, Yamagishi K, Suzuki Y, Ikeda S, Arase A, Yamamoto T, Yamanaka Y, Sugiyama A, Shibuya K, Horikoshi T, Uno T, Eidelberg D, Kuwabara S. Clinical and brain functional correlates of instrumental rigidity measurement in Parkinson's disease. *Sci Rep.* 2025; 15:8056.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 竹内正人：「病気を診ずして病人を診よ」に向けた統合的アセスメントと脳を育むアプローチ」

第61回日本リハビリテーション医学会学術集会
2024/6/13-16

2. 山中義崇：「免疫性抹消神経障害のリハビリテーション診療」「専門医認定試験における症例報告の重要性と評価方法について」第8回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 2024/11/1-3
3. 竹内正人：シンポジウム～本人らしく、家族らしく、スタッフらしく、地域らしく～ 第3回浦安市市民公開講座 2025/2/8
4. 橋本渉：「慢性疼痛患者への運動療法」厚生労働省慢性疼痛システム均てん化等事業 慢性疼痛診療研修会（千葉大学主催） 2025/2/9
5. 山中義崇：パーキンソン病のリハビリテーション診療における最近の取り組み～二重課題の克服と標準化プログラム～ 第15回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会 2025/2/15
6. 山中義崇：パーキンソン病リハビリテーションの満足度を高める外来医の役割 2024/6/6 脳神経内科

トピックス WEB セミナー

7. 山中義崇：人生 100 年時代におけるリハビリテーションの役割 2024/7/28 Parkinson's Disease Therapeutic Symposium ～幸福 100 年時代に求められる治療とは？～
8. 山中義崇：高齢パーキンソン病患者に対するリハビリテーション 2024/11/23 Parkinson's Disease Therapeutic Symposium)
9. 山中義崇：パーキンソン病患者に対する多職種連携としてのリハビリテーションの役割 2025/2/27

千葉県パーキンソン病多職種連携講演会

【学会発表数】

国内学会 3 学会 7 回（うち大学院生 2 回）
国際学会 0 学会 0 回（うち大学院生 0 回）

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費補助金 基盤(C)「サイボーグ型ロボット、運動野磁気刺激によるすくみ足の統合的リハビリテーション開発」代表者：山中義崇 2023-2025

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

- ・脳の可塑性を向上させる機器（TMS（磁気刺激装置）、tDCS（直流電流刺激装置））を用いた脳卒中アプローチ
- ・高次脳機能障がいと合併した運動機能向上のための機器（パスリーダー（末梢磁気刺激装置））を用いた治療
- ・ドライビングシミュレーター、@ATTENTION を用いた集中的なトレーニングによる運転能力の向上プログラム

●地域貢献

- 当センターの特任教授が、地域の医療従事者、住民などを対象とした講演会、報告会を実施した。

- ・パーキンソン病関連講演（山中義崇特任教授・複数回開催）
- ・リハビリテーション関連講演（山中義崇特任教授・複数回開催）
- ・高次脳機能障害診療関連講演（竹内正人特任教授・複数回開催）
- ・認知症の地域連携関連講演（竹内正人特任教授）

- 竹内正人特任教授が順天堂大学医学部附属浦安病院の地域医療支援病院運営会議の委員として委嘱された。

研究領域等名：	
診療科等名：	痛 み セ ン タ ー

●はじめに

当センターでは既存の診療部門である整形外科，糖尿病・代謝・内分泌内科，麻酔・疼痛・緩和医療科（ペインクリニック），精神神経科，脳神経内科，リハビリテーション科，総合診療科，和漢診療科，緩和ケアセンター，認知行動療法センターなど複数の部門で痛み診療を実施している。これらの診療科の医師，看護師，公認心理師（臨床心理士），理学療法士，作業療法士，ソーシャルワーカー，薬剤師など，異なる専門スタッフが，相互に連携（院内紹介や合同カンファレンスなど）し，個々の患者さんの痛みの原因究明とそれに対する適切な治療を行っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部 1～3 年生を対象としたスカラーシップにおいて，ラットを用いた痛みの伝達経路に関する基礎研究に従事させ指導を行った。

・卒後教育／生涯教育

初期研修医にも合同カンファレンスに参加していただき，痛み治療に関する知識の取得をしていただいた。

・大学院教育

大学院修士課程の学生を対象に，ラットを用いた痛みの伝達経路に関する基礎研究や，実臨床における新たな痛み評価ツールの開発に関する研究などに従事させ指導を行った。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

千葉大学国際教養学部にて，年 1 回の疼痛に関する講義を実施した。

●研 究

・研究内容

以下の研究活動を行っている。

- ①ラットを用いた痛みの伝達経路に関する基礎研究
- ②新たな痛み評価ツールの開発（簡易型脳波計やサーモグラフィーなど）
- ③千葉県関連病院における統一された慢性疼痛に対する運動療法の確立
- ④千葉県における慢性疼痛に対する No more strong opioids
- ⑤低強度の認知行動療法
- ⑥画像診断（頭部ファンクショナル MRI など）
- ⑦慢性疼痛患者に対する認知行動療法の有効性や新たなコンテンツの模索 etc

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Inage K, Sainoh T, Okuyama K, Yamashita M, Ohyama S, Fujimoto K, Chikubu H, Abe K, Ohtori S, Orita S. The Analgesic and Side Effects of Tramadol Hydrochloride Immediate-Release and Extended-Release Tablets in Patients With Chronic Low Back Pain. *Cureus* 2024;16:72124.
2. Arai T, Shiga Y, Mukai M, Takayama N, Tashiro S, Tajiri I, Kosaka K, Sato M, Nakamura S, Okamoto H, Kimura S, Inage K, Suzuki-Narita M, Eguchi Y, Orita S, Eto K, Ohtori S. Osteogenic effects and safety of human induced pluripotent stem cell-derived megakaryocytes and platelets produced on a clinical scale. *Regen Ther* 2024;26:850-858.
3. Inoue M, Sugiura S, Takeda T, Hoshino T, Shimizu K, Inage K, Shiga Y, Okuyama K, Ohtori S, Orita S. Evaluating the Correlation between Eyeglass-Type Wearable Device Measurements and Subjective Physical Activity Assessments. *Cureus* 2024;16:67853.
4. Masumoto R, Eguchi Y, Takeuchi H, Inage K, Narita M, Shiga Y, Inoue M, Toshi N, Tokeshi S, Okuyama K, Ohyama S, Suzuki N, Maki S, Furuya T, Ohtori S, Orita S. Automatic generation of diffusion tensor imaging for the lumbar nerve using convolutional neural networks. *Magn Reson Imaging* 2024;114:110237.
5. Kawai Y, Nakamura J, Hagiwara S, Suzuki-Narita M, Inage K, Ohtori S. Alterations in DNA methylation machinery in a rat model of osteoarthritis of the hip. *J Orthop Surg Res* 2024;19:357.

6. Tokeshi S, Eguchi Y, Sakai T, Yoneyama M, Watanabe A, Aoki Y, Sato M, Orita S, Suzuki M, Inage K, Shiga Y, Inoue M, Toshi N, Okuyama K, Ohyama S, Suzuki N, Maki S, Nakamura J, Hagiwara S, Kawarai Y, Akazawa T, Takahashi H, Ohtori S. A novel simultaneous three-dimensional volumetric morphological imaging and T2-mapping method for cervical spinal nerves. *J Clin Neurosci* 2024;125:97-103.
7. Okuyama K, Inage K, Kim G, Mukaihata T, Tajiri I, Shiga Y, Inoue M, Eguchi Y, Suzuki-Narita M, Otagiri T, Tsuchiya R, Hishiya T, Arai T, Toshi N, Tokeshi S, Tashiro S, Ohyama S, Suzuki N, Furuya T, Maki S, Nakamura J, Hagiwara S, Kawarai Y, Aoki Y, Kotani T, Koda M, Takahashi H, Akazawa T, Ohtori S, Orita S. Bone union-promoting effect of romosozumab in an ovariectomized rat posterolateral lumbar fusion model. *J Orthop Res* 2024;42:1831-1840.
8. Eguchi Y, Suzuki N, Orita S, Inage K, Narita M, Shiga Y, Inoue M, Toshi N, Tokeshi S, Okuyama K, Ohyama S, Maki S, Aoki Y, Nakamura J, Hagiwara S, Kawarai Y, Akazawa T, Koda M, Takahashi H, Ohtori S. Short-Term Clinical and Radiographic Evaluation of Patients Treated With Expandable and Static Interbody Spacers Following Lumbar Lateral Interbody Fusion. *World Neurosurg* 2024; 185:e1144-e1152.
9. Ohyama S, Maki S, Kotani T, Ogata Y, Sakuma T, Iijima Y, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Inoue M, Arai T, Toshi N, Tokeshi S, Okuyama K, Tashiro S, Suzuki N, Eguchi Y, Orita S, Minami S, Ohtori S. Machine learning algorithms for predicting Cobb angle beyond 25 degrees in female adolescent idiopathic scoliosis patients. *Spine* 2024;49
10. Maki S, Furuya T, Inoue M, Shiga Y, Inage K, Eguchi Y, Orita S, Ohtori S. Machine Learning and Deep Learning in Spinal Injury: A Narrative Review of Algorithms in Diagnosis and Prognosis. *J Clin Med* 2024;13:705.
11. Mizutani M, Eguchi Y, Toyoguchi T, Orita S, Inage K, Shiga Y, Maki S, Nakamura J, Hagiwara S, Aoki Y, Inoue M, Koda M, Takahashi H, Akazawa T, Ohtori S. Association between Osteoporosis and Skeletal Muscle Mass in Men. *Asian Spine J* 2024; 18:73-78.
12. Abe K, Inage K, Yoshimura K, Sato D, Yamashita K, Yamashita M, Sasaki T, Yamaoka A, Shiga Y, Eguchi Y, Orita S, Ohtori S. Deaths caused by osteoporotic fractures in Japan: An epidemiological study. *J Orthop Sci* 2024;29:1477-1482.
13. Suzuki N, Kotani T, Sunami T, Sakashita K, Okuwaki S, Ohyama S, Iwata S, Iijima Y, Sakuma T, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S. Anatomical Analysis of the S1 Neural Foramen Using Three-Dimensional Computed Tomography Imaging: Insights for Effective S1 Nerve Root Block. *World Neurosurg* 2024;181:e459-e467.
14. Okuwaki S, Kotani T, Sunami T, Sakuma T, Iijima Y, Okuyama K, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S, Yamazaki M. Associated factors and effects of coronal vertebral wedging angle in thoracic adolescent idiopathic scoliosis. *J Orthop Sci* 2024;29:704-710.
15. Ohyama S, Kotani T, Takeuchi T, Sunami T, Iijima Y, Okuwaki S, Aoki Y, Sakashita K, Iwata S, Sakuma T, Akazawa T, Inage K, Shiga Y, Minami S, Ohtori S. Analysis of the relationship between spinal alignment and retrocrural space area in adult spinal deformity surgery: Potential risk factors for acute celiac artery compression syndrome. *J Orthop Sci* 2024;29:514-520.
16. Abe K, Kawase H, Yokogawa N, Yamashita K, Yamashita M, Sasaki T, Yamaoka A, Shiga Y, Maki S, Inage K, Eguchi Y, Orita S, Ohtori S. Mapping the Japanese orthopedic association national registry (JOANR) to the international classification of health interventions (ICHI). *J Orthop Sci* 2024;29:675-680.
17. Takaoka H, Eguchi Y, Koroki J, Orita S, Inage K, Shiga Y, Furuya T, Maki S, Norimoto M, Umimura T, Suzuki-Narita M, Sato T, Sato M, Hozumi T, Kim G, Mizuki N, Tsuchiya R, Otagiri T, Mukaihata T, Hishiya T, Nakamura J, Hagiwara S, Iwata S, Ataka H, Tanno T, Watanabe A, Aoki Y, Inoue M, Koda M, Takahashi H, Akazawa T, Ohtori S. Quantitative evaluation of the lumbar ligamentum flavum using MRI T2-mapping: Efficacy of its clinical application in patients with lumbar spinal stenosis. *J Orthop Sci* 2024;29:101-108.
18. Okuyama S, Aoki Y, Inage K, Shiga Y, Inoue M, Eguchi Y, Orita S, Ohtori S. Machine learning algorithms for predicting future curve in female adolescent idiopathic scoliosis patients. *Eur Spine J* 2024;33
19. Akazawa T, Kotani T, Sakuma T, Iijima Y, Torii Y, Ueno J, Yoshida A, Tomochika K, Orita S, Eguchi Y, Inage K, Shiga Y, Nakamura J, Matsuura Y, Suzuki T, Niki H, Ohtori S, Minami S. Intervertebral Disc Degeneration in Long-Term Postoperative

Patients with Adolescent Idiopathic Scoliosis: MRI Evaluation. Spine Surg Relat Res 2024;9:61-70.

20. Miyoshi M, Takanashi R, Taguchi K, Yoshida T, Kurita K, Shimizu E. Neurodevelopmental and personality traits of somatic symptom disorder: A cross-sectional study. Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports, Volume 4, Issue 1. 2025/03/17. <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/pcn5.70082>
21. Tsubaki K, Shimizu E. Psychological Treatments for Alexithymia: A Systematic Review. Behavioral Sciences, Volume 14, Issue 12:1173. 2024/12/07. <https://www.mdpi.com/2076-328X/14/12/1173>

【雑誌論文・和文】

1. 清水栄司 うつ、不安、慢性疼痛の認知行動療法とイメージの書き直し技法 精神神経学雑誌 127: 3-9, 2025 <https://doi.org/10.57369/pnj.25-002>

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 第17回日本運動器疼痛学会 シンポジウム「ITを用いた慢性疼痛治療」ウェアラブル脳波計を用いた慢性疼痛の新規治療法 清水啓介（千葉大学未来医療教育研究機構）
2. 令和6年度慢性疼痛診療システム均てん化等事業特別講演 富山県慢性疼痛診療講演会 慢性疼痛を紐解く～心理的な痛みは認知行動療法で治せるのか？～ 清水啓介

【学会発表数】

国内学会 8学会 13回（うち大学院生9回）
国際学会 1学会 6回（うち大学院生5回）

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

週2回（月、木）の難治性疼痛外来を実施しており、月平均新患20名、再診80名程度の診療を行っている。
慢性腰痛に対する薬物療法など複数の企業治験を行っている。
慢性腰痛に対する再生医療の治験を行っている。

【外部資金獲得状況】

1. 厚生労働行政推進調査事業費「痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究」分担者：大鳥精司 2024年度
2. 厚生労働行政推進調査事業費「痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究」分担者：稲毛一秀 2024年度
3. 科学研究費助成事業 基盤B「骨癒合促進特化型ユニバーサルiPS血小板製剤の開発」代表者：大鳥精司 2022-2026年度
4. 科学研究費助成事業 基盤C「ウェアラブル端末を用いた患者のADL客観的評価を慢性疼痛治療指標とする試み」代表者：高井啓有 2022-2024年度
5. 科学研究費助成事業 基盤C「骨関連疾患（骨粗鬆症、変形性関節症、骨折）における疼痛関連神経の可視化の確立」分担者：稲毛一秀 2021-2024年度
6. 科学研究費助成事業 基盤C「脳波を用いた慢性疼痛患者における認知行動療法適応予測手法の開発」代表者：清水啓介 2023-2026年度
7. 科学研究費助成事業 基盤C「発達障害を背景に持つ慢性疼痛への認知行動療法」分担者：田口佳代子 2022-2025年度

【特許】

1. （出願中／公開済）特願2023-020893 慢性腰痛緩和システム
2. 特許6849191 筋損傷の予防又は治療剤
3. （出願中）特願2024-181263 慢性疼痛における認知行動療法の有効性予測システム

研究領域等名：	
診療科等名：	次世代医療構想センター

●はじめに

次世代医療構想センターは2019年に設置され、共同研究、受託研究等の外部資金によって運営している医学部附属病院の共同研究部門（※2025年8月より医学部附属病院の正規研究部門となった）である。特に将来にわたり、千葉県における保健医療の持続可能な提供を実現するため、医療政策学、公衆衛生学、医療情報学、行動科学、医療経済学等の研究に力を入れている。

学術研究としての実績を創り出していくだけでなく、厚生労働科学研究等による政策研究にも積極的に取り組んでおり、研究成果に基づいた政策提言を行ってきた。例えば2024年は千葉県受託事業「千葉県地域医療構想データ分析チーム構築支援事業」において、地域医療構想を進めるにあたって必要なデータの収集と分析及び千葉県地域医療構想調整会議にて論点を提示した。今後も、国、千葉県、市町村、企業などの各法人と連携しながら、具体的な課題解決につながる教育・研究活動を進めてゆく。

●教 育

・学部教育／卒前教育

学内外の卒前教育を担当している。

吉村健佑 千葉大学 医学部 公衆衛生ユニット講義
 吉村健佑 千葉大学 医学部 医療経済・情報学ユニット講義
 吉村健佑 横浜市立大学 医学部 社会医学講義
 佐藤大介 千葉大学 医学部 医療経済情報学講義
 吉村健佑 千葉大学 医学部 地域医療学、行動科学 講義
 吉村健佑 国際医療福祉大学 医学部医学科 社会医学Ⅱ衛生学・公衆衛生学講義
 吉村健佑 横浜市立大学立大学大学院 臨床研究入門講義
 吉村健佑 獨協医科大学医学部 医師のキャリア講義
 吉村健佑 浜松医科大学医学部 医療法学講義
 吉村健佑 千葉大学普遍教育授業「学際的医療入門」
 田村 圭 千葉大学普遍教育授業「学際的医療入門」
 櫻井陽一 千葉大学普遍教育授業「学際的医療入門」

・卒後教育／生涯教育

以下全て、吉村健佑
 千葉大病院 新任職員向けオリエンテーション 講師
 国立保健医療科学院「地域精神保健」「産業精神保健」「医療 ICT・遠隔医療」「医療費の適正化」講師
 千葉大学病院 ちば医経塾 講師
 国立保健医療科学院 「対人保健」講師
 国際医療福祉大学 社会人向け公開講座 講師

・大学院教育

吉村健佑 早稲田大学大学院 先端生命医科学特論 講義
 吉村健佑 千葉大学大学院 医学薬学府 ワクチン学・感染症学特論 講義
 吉村健佑 神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科院生講義
 佐藤大介 藤田医科大学大学院 病院経営学・管理学 DPC・診療情報分析論 講義
 佐藤大介 藤田医科大学大学院 病院経営学・管理学 医療制度概論（医療法）・保険医療制度講義
 佐藤大介 藤田医科大学大学院 病院経営学・管理学 病院経営の実践・病院再編統合 講義
 佐藤大介 東京科学大学大学院 医療管理政策学 講義

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

当センターとして実施 千葉大学教養展開科目（生命コア関連）普遍教育講義『学際的「医療」入門』（全8コマ）
 佐藤大介 千葉ろうさい病院 地域医療懇話会 講義
 佐藤大介 第2回ちば地域医療連携講演会 講義
 佐藤大介 愛知県地域医療構想研修会 講義

●研究

・研究内容

共同研究「千葉県自治体等と連携した生活習慣病予防介入プログラムの開発とその実効性の検証」では千葉県旭市にて糖尿病の予防及び重症化予防のための市民向け公開講座、健康啓発活動や、旭市役所との連携協力、旭中央病院との連携を行い、効果的な地域介入の方策を研究している。

また共同研究「秘密計算、秘密計算 AI、ePRO 等を活用した医療現場での課題解決を通じて、より大きな社会の重要課題解決へとつなげる探索研究」では附属病院内の複数診療科（消化器内科、脳神経内科、感染症科、形成外科、泌尿器科、認知行動生理学）と協力体制を構築し、疾病管理アプリの開発やその実装、効果の検証を行っている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Suzuka R, Sato D, Hashimoto T, Yoshimura K. A 7-year longitudinal survey of valproate prescription in women of childbearing age in Japan using a publicly available National Insurance Claims Database Japan. Chiba Medical J. 100E:13-19,2024. doi:10.20776/S03035476-100E-2-P13.
2. Suzuki K, Niitsu T, Kimura H, Yanagisawa Y, Ono M, Komatsu H, Yoshimura K, Watanabe H, Iyo M. Association between mental health social worker staffing in psychiatric emergency wards and readmission outcomes: A nationwide survey in Japan. PCN Reports, 2024 April 1;3(2): e189. eCollection 2024 Jun. PMID: 38868083 PMCID: PMC11114366 DOI: 10.1002/pcn5.189.
3. Sako A, Yada T, Fujiya K, Nakashima R, Yoshimura K, Yanai H, Uemura N. Clinical epidemiology of the endoscopic, laparoscopic, and surgical resection of malignant gastric tumors in Japan, 2014–2021: a retrospective study using open data from a national claims database. Gastric Cancer, 2025 Jan;28(1):p1-11. PMID: 39333285 Online ahead of print.
4. Miyachi H, Sato D, Sakamaki K, Toga Y, Yoshimura K. Impact of new antifungal medications on onychomycosis prescriptions and costs in Japan: A nationwide claims database study. J Dermatol. 2024 Sep;51(9):1172-1179. PMID: 39115330
5. Abe k, Inage K, Yoshimura K, Sato D, Yamashita K, Yamashita M, Sasaki T, Yamaoka A, Eguchi Y, Orita S, Ohtori S. Deaths caused by osteoporotic fractures in Japan: An epidemiological study. J Orthop Sci. 2024 Nov;29(6):1477-1482. doi: 10.1016/j.jos.2023.10.013. Epub 2023 Nov 18. PMID: 37985296
6. Kawano A, Miyachi H, Ota M, Ikeda JI, Inozume T. Acquired tufted angioma with perinatal

progression and complete spontaneous regression post-delivery: a case report and literature review on the expression of sex hormone receptors. Eur J Dermatol. 2024 Jun 1;34(3):322-323. doi: 10.1684/ejd.2024.4713.

【雑誌論文・和文】

1. 新津富央, 伊豫正臣, 橋本謙二, 花岡英紀, 藤原忠美, 猪狩英俊, 谷口俊文, 中田孝明, 鈴木卓児, 吉村健佑. 新型コロナウイルス感染症に対するフルボキサミンの重症化予防効果に関する医師主導治験 (FLVOCCO) の現状と課題. 千葉医学雑誌, 2024, Vol.100, No.4, p108.
2. 吉村健佑, 大石賢吾. 厚生労働省と都道府県で政策立案と実行を経験して. 精神科治療学 2024: 39(2); p177-183.
3. 伊藤学, 西場洋介, 飯田英和, 吉村健佑, 阿部幸喜. 旭市「歩きたくなるまち」project～糖尿病発症抑制のため市民の行動変容をめざして～. 公益社団法人日本都市計画学会. 都市計画報告集 2024. 公益社団法人日本都市計画学会, 2024, Vol.23, No.3 p419.
4. 吉村健佑, 北條彩. 精神科病院の医療 DX –政策動向と現状–. 日本精神科病院協会雑誌 第43巻12号, p3-19.
5. 宮地秀明. 教育講演「日々の皮膚科診療における疑問から、臨床研究を始めてみよう！」皮膚科臨床研究の実例2：大規模レセプトデータベースを用いた皮膚科領域の臨床疫学研究 第123回日本皮膚科学会総会, 2024年6月9日

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. Abe k, Takahashi Y, Kawase H, Seo Y, Sumitomo M, Tsukamoto T, Sakamoto Y, Ueno Y, Yoshimura K, Iida H. Mapping emergency medicine procedures and interventions in Japan to the International Classification of Health Interventions classification. WHO (ポスター)
2. 吉村健佑. ナショナルデータベースの今後, 大会企

- 画シンポジウム 4, 第 28 回日本医療情報学会春季学術大会, 2024 年 6 月 15 日, 千葉.
3. 吉村健佑, 北海道子ども医療療育センターシンポジウム 2024 年 6 月 22 日, 札幌.
 4. 吉村健佑, 「ヘルスコミュニケーションの実際と学び〜 COVID-19 ワクチン啓発活動の経験から〜」シンポジウム 8「CKD 普及啓発シンポジウム」, 第 67 回日本腎臓学会学術総会, 2024 年 6 月 28 日
 5. 阿部幸喜, 教育講演「ICD-10 から ICD-11 への移行に当たっての問題と教育」第 50 回日本診療情報管理学会学術講演, 2024 年 8 月 22 日.
 6. 吉村健佑, シンポジウム: コロナ後の病院経営, 「コロナ後の『大幅赤字』をどう取り戻すか〜国立大学病院「最下位」からの奮闘〜」日本医療・病院管理学会, 2024 年 10 月 26 日.
 7. 吉村健佑, 指定討論者・座長: 演題カテゴリ: 産業界・医薬品, 医療経済学会第 19 回研究大会, 2024 年 9 月 7 日.
 8. 吉村健佑, 特別講演 1「超高齢化社会を迎える日本の今後」第 71 回臨床検査医学会, 2024 年 11 月 29 日, 大阪.
 9. 吉村健佑, 「働き方改革後の医療提供体制〜千葉県全体と市原医療圏〜」令和 6 年度千葉ろうさい病院地域医療講演会, 2024 年 5 月 31 日, 千葉
 10. 吉村健佑, 飯田英和, 「慢性疾患予防と旭市の部門横断的取り組み」ほか. 東総高血圧講演会 2024 年 5 月
 11. 吉村健佑, 医師の働き方改革とその先へ〜近づくラストチャンス〜, 勤務医講演会, 千葉県医師会, 2024 年 6 月 6 日.
 12. 吉村健佑, 「これからの精神科医療機関とは〜働き方改革・偏在対策の先へ〜」第 5 回新さざなみネットワーク, 2024 年 7 月 20 日
 13. 吉村健佑, 「医師の働き方改革についての話や、地域における医師確保の話」関西広域 医療データ人材教育拠点形成事業ビジネス特化型インテンシブコース KUEP-DHI dotb 2024 年 8 月 21 日, 京都
 14. 吉村健佑, 「近未来の精神科医療提供: 気分障害と不安症〜政策とデジタルテクノロジーで解決する〜」Lundbeck Psychiatry Conference 講演会, 2024 年 8 月 29 日.
 15. 吉村健佑, 「全国の地域枠学生の現状と課題」長崎県医学修学生夏季ワークショップ壱岐, 2024 年 8 月 17 日, 長崎.
 16. 吉村健佑, 「近未来の医療提供体制〜働き方改革と偏在対策の先へ〜」友愛医療センター, 2024 年 9 月 3 日, 沖縄.
 17. 吉村健佑, 「近未来の医療提供体制〜働き方改革と偏在対策の先へ〜」職員向け病院マネジメント研修 函館五稜郭病院, 2024 年 9 月 17 日
 18. 吉村健佑, 「医療提供体制の近未来〜近づくラストチャンス〜」第 2 回ちば地域医療連携講演会, 2024 年 10 月 8 日, 千葉.
 19. 吉村健佑, 「近未来の精神科医療提供〜政策とデジタルテクノロジーで解決する〜」第 51 回多摩精神科臨床研究会, 2024 年 10 月 9 日.
 20. 吉村健佑, 「第 2 部 ワクチンにおいて こびナビの取り組みについて」議題 2『リスクコミュニケーション』第 11 回日経・FT 感染症会議, 2024 年 10 月 22 日.
 21. 吉村健佑, How to address the uneven regional distribution of physicians. 日本の地域医療の変遷と今日的な課題. Alliance for Health Policy and Systems Research 理事会メンバー昼食懇談会, 2024 年 11 月 25 日.
 22. 吉村健佑, 『解説より解決を』〜勝率 5 割の勝負に挑み続ける立ち向かう力の育て方〜, TEDxKioicho, 2024 年 12 月 15 日.
 23. 吉村健佑, テクノロジー NEXT2025 DAY1 医療×AI の未来 日経 BP 総合研究所, 2024 年 12 月 17 日.
 24. 吉村健佑, 「次世代の医療を生き延びる〜収集力・人脈力・解決力〜」社会医療法人友愛会 EGAO 課研修会, 2024 年 12 月 24 日.
 25. 田村圭, 「プログラム医療機器開発・上市における実践保険適用戦略の立て方」情報機構 2024 年 9 月 27 日
 26. 田村圭, 「医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 2024 年度医療機器エキスパート研修講座」2024 年 12 月 23 日
 27. 田村圭, 「プログラム医療機器 (SaMD): 保険適用の留意点」日本計画研究所 2024 年 12 月 6 日
- 【学会発表数】**
- 国内学会 8 学会 22 回 (うち大学院生 12 回)
- 国際学会 1 学会 1 回 (うち大学院生 1 回)
- 【外部資金獲得状況】**
1. 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (C) 「大規模レセプトデータ (NDB) を活用した皮膚感染症の治療実態に関する疫学研究」代表者: 宮地秀明、分担者: 吉村健佑 2021〜2024
 2. 日本学術振興会科学研究費助成事業 令和 5 年度 (2023) 年度若手研究「NDB オープンデータを用いた医師偏在対策の新しい評価法の確立: 精神科領域を例として」代表者: 吉村健佑 2023〜2026
 3. 日本学術振興会科学研究費助成事業 令和 5 年度 (2023) 年度若手研究「国内既存データと国際保健行為分類 (ICHI) との変換ツールの開発」代表者: 阿部幸喜 2023〜2026
 4. 日本学術振興会科学研究費助成事業 令和 5 年度 (2023) 年度若手研究「ケアで鋭敏に変化する在宅医療 QOL の測定と応用: ベンチマーキングと質改善

- を目指す」代表者：飯田英和 2023～2026
5. 令和7年度厚生労働科学研究補助金（政策科学総合研究事業（統計情報総合研究事業））「International Classification of Health Interventions (ICHI) の国内普及のさらなる促進に資する研究」分担者：阿部幸喜 2024～2025
 6. 公益財団法人タムス岡本記念財団研究助成「千葉県における持続可能な医師確保の方策に関する政策研究」代表者：吉村健佑 2024
 7. NTT コミュニケーションズ株式会社共同研究「秘密計算、秘密計算 AI、ePRO 等を活用した医療現場での課題解決を通じて、より大きな社会の重要課題解決へとつなげる探索研究」代表者：吉村健佑 2023～2025
 8. ノボノルディスクファーマ株式会社共同研究「千葉県治体等と連携した生活習慣病予防介入プログラムの開発とその実効性の検証」代表者：吉村健佑 2022～2025
 9. 千葉県受託事業「地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業」代表者：吉村健佑 2024
 10. 一般社団法人地域枠医師等キャリアデザイン機構委託事業「地域枠医師等キャリア形成プログラム等運用支援事業」代表者：吉村健佑 2024

【受賞歴】

1. 鈴鹿竜司. 千葉大学病院と NTT コミュニケーショ

ンズとの秘密計算システムを活用した臨床研究の報告. 第1回千葉大学社会医学賞. 第1507回千葉医学会例会

2. 第13回「健康をのばそうアワード」厚生労働省健康・生活衛生局長優良賞. 旭市（千葉県）糖尿病プロジェクト・市役所から市民に広がる健康づくり～官民学連携で進める糖尿病予防プロジェクト』（CCD）

【その他】

＜マスコミ・プレス発表等＞

1. 千葉大学病院と NTT Com、日本で初めて薬剤耐性菌の地域間ベンチマークシステムを開発～千葉県内の薬剤耐性菌動向調査研究を開始～. 国立大学法人千葉大学医学部附属病院・NTT コミュニケーションズ株式会社（次世代医療構想センター共同研究プレスリリース）
2. NTT 版 LLM tsuzumi 商用開始, 日本電信電話株式会社・千葉大学（NTT コミュニケーションズ共同研究プレスリリース）
3. 吉村健佑. NHK「日曜討論」2024年4月7日.
4. 吉村健佑. NHK「クローズアップ現代」2024年5月29日.
5. 吉村健佑. 「細る産科」中日新聞, 2024年10月22日.
6. 吉村健佑. 「医師偏在対策 硬軟交ぜ」読売新聞, 2024年12月22日

●地域貢献

1. 佐藤大介. 千葉県委託事業 地域医療構想調整会議活性化事業に係る 研究会設置のための準備会. 病床不足地域：令和5年2月22日, 病床充足地域：令和5年2月28日.
2. 阿部幸喜. 第17回日本運動器疼痛学会プログラム委員, 2024年11月30日～12月1日, 東京.
3. 吉村健佑. 市原市地域医療コーディネーター 2024年5月～
4. 吉村健佑. 市原市参与
5. 吉村健佑. 厚生労働省特定機能病院及び地域医療支援病院のあり方に関する検討会
6. 吉村健佑. 一般社団法人日本専門医機構 必要専門医数検討ワーキンググループ.
7. 吉村健佑. 国立研究開発法人国立国際医療研究センター戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「統合型ヘルスケアシステムの構築」社会実装アドバイザー

●その他

＜社会活動＞

1. 吉村健佑. 厚生労働省「特定機能病院及び地域医療支援病院のあり方に関する検討会」構成員, 2024年6月～
2. 吉村健佑. 厚生労働省「ローコーディングツール等を軸とした保守性・拡張性・連携性の高い現場視点の EMIS 代替サービス調達に係る提案技術書評価委員会技術審査委員
3. 吉村健佑. 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院
4. 吉村健佑. 健康保険組合連合会レセプト分析事業 社会実装アドバイザー
5. 鈴鹿竜司. 「JENESYS2023」日本青年研究者訪中団, 公益財団法人日中友好会館, 2024年3月10日～16日.
6. 三保 健. 「JENESYS2024」日本青年研究者訪中団, 公益財団法人日中友好会館, 2024年9月8日～14日.
7. 吉村健佑. 一般社団法人日本医療情報学会専門医部会委員
8. 吉村健佑. 日本医療政策学会理事
9. 吉村健佑. 日本医療政策学会プログラム委員
10. 吉村健佑. 一般社団法人健康・医療・教育情報評価推進機構 顧問

11. 吉村健佑. 一般社団法人日本専門医機構必要専門医数検討ワーキンググループ委員
12. 吉村健佑. 飯田英和, 三保健. みらい旭協議会メンバー
13. 吉村健佑. 千葉県救急医医療体制の充実強化に向けたワーキンググループ
14. 吉村健佑. 令和4年度第2回印旛地域保健 医療連携・地域医療構想調整会議
15. 吉村健佑. 令和4年度第2回香取海浜地域保健医療連携・地域医療構想調整会議
16. 吉村健佑. 厚生労働省医政局地域医療計画課 EMIS 代替サービス調達本技術審査委員会委員
17. 吉村健佑. 吉村健佑, 阿部幸喜, 飯田英和, 三保健, 佐藤志央理. 「みらいあさひ（まちづくり）を通じて生活の延長線上での行動変容を」(旭市・千葉大学医学附属病院・ノボノルディスクファーマ
18. 阿部幸喜. 第51回日本診療情報管理学会学術大会実行委員会委員
19. 吉村健佑. 第3期 SIP「統合型ヘルスケアシステムの構築」「ユーザーレビュー」委員
20. 田村圭. PHC ホールディングス外部調査委員会委員
21. 田村圭. 厚生労働行政推進調査事業補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）研究協力者
22. 田村圭. 日本医療研究開発機構 AMED 課題評価委員
23. 成瀬浩史. 学術雑誌『地球・宇宙・未来』事務局長 2024年4月～（株式会社バンダイナムコ研究所 ガンダムオープンイノベーション）

研究領域等名：	
診療科等名：	ハートセンター

●はじめに

ハートセンターは 2019 年 4 月に開設された新設のセンターです。当センターは、千葉県ならびに全国から紹介される重症心血管疾患患者に対して、診療科の垣根を越えて包括的な見地から最適な治療を選択実施し、良好な転帰をもたらすことです。外科的治療とカテーテル治療を併せたハイブリッド治療を可能とし、大血管ステントなどを用いた血管内治療、TAVR、僧帽弁クリップを中心とした弁膜症・構造的疾患に対するカテーテル治療、さらには補助人工心臓を含めた機械的補助循環を用いた重症心不全治療などを行います。MRI、320 列 CT などの先進画像診断に加え、ハイブリッド手術室でリアルタイムに得られた画像をもとに外科手術と血管内治療を組み合わせた治療を行います。日々紹介されてくる患者に関し、循環器内科・心臓血管外科などを含めた関連する診療科・部からなるハートセンターで治療方針を決定します。定期的に主要診療科医師のほか、看護師、理学療法士、薬剤部を含めたカンファレンスを行っています。新たなデバイスや手技に関し、治験および医師主導臨床試験を推進し、国際的に発信していきます。

●教 育

・学部教育／卒前教育

循環器内科、心臓血管外科にローテート中の学生にはできる限り、TAVI、mitraclip などの見学をしてもらうようにしています。心臓血管外科学、循環器内科学の授業の中にもハートセンターの教育内容が含まれていることもあります。ハートセンターとしても学部生の教育に積極的に行っています。また解剖（心臓）のレクチャーも担当しています。

・卒後教育／生涯教育

循環器内科、心臓血管外科の大学院生、修練医に技術的に指導するとともに、症例報告や、臨床研究を促している。特に TAVI や mitraclip など構造的疾患（SHD）のカテーテル治療を経験するカリキュラムの一環として、ハートチームカンファ、ハートチーム抄読会などを通じ、SHD 治療の適応・手術手技・術後管理に関する教育・指導を行っています。循環器内科 2 名、心臓血管外科 2 名の専門医取得前の trainee が在籍し、実際の SHD 治療の手技を学ぶとともに、合併症発生時の対応、術後管理などについても教育を行っています。

・大学院教育

循環器内科、心臓血管外科の大学院生、修練医に技術的に指導するとともに、SHD 治療についての症例報告や、臨床研究を促している。当センター所属の大学院生には通常の診療業務に加え、研究指導を行っています。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

ハートセンター所属の松浦は 1、2 年次の普遍教育科目（教育学部・工学部ほか）生命コア「外科治療と疾患」の講義を 1 コマ、工学部メディカルシステム工学科で 2 年次の「臨床医学概論」の講義の 1 コマ担当し、その中でも SHD 治療については教育を行っています。

●研 究

・研究内容

- ・ small size の自己拡張型とバルーン拡張型 TAVI 弁の performance 比較
- ・千葉 TAVI レジストリを用いた研究
- ・TAVI 弁の拡張期血流解析による最適な弁留置の追及
- ・自己拡張型弁留置後房室ブロックの predictor analysis
- ・TAVI 患者の冠動脈治療の有無による予後比較

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Takahashi M, Takaoka H, Yashima S, Suzuki-Eguchi N, Ota J, Kitahara H, Matsuura K, Matsumiya G, Kobayashi Y. Extracellular Volume Fraction by Computed Tomography Predicts Prognosis After Transcatheter Aortic Valve Replacement. Circ J. 2024 Mar 25;88(4):492-500. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0288.
2. Kitahara H, Kumamaru H, Kohsaka S, Yamashita D, Kanda T, Matsuura K, Shimamura K, Matsumiya G, Kobayashi Y. Clinical Outcomes of Urgent or Emergency Transcatheter Aortic Valve

Implantation - Insights From the Nationwide Registry of Japan Transcatheter Valve Therapies. Circ J. 2024 Mar 25;88(4):439-447. doi: 10.1253/circj.CJ-22-0536.

3. Matsuura K, Yamamoto H, Matsumiya G, Motomura N. Descriptive analysis of long-term survival after aortic valve replacement for dialysis patients: importance of renal pathologies and age. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Sep;72(9):577-584.
4. Tarao K, Son K, Ishizuka Y, Nakagomi A, Hasegawa-Moriyama M. Impact of zero-positive end-expiratory pressure on blood transfusion rates in off-pump coronary artery bypass surgery: a retrospective cohort study. BMC Anesthesiol. 2024 Dec 19;24(1):461. doi: 10.1186/s12871-024-02853-7.

【雑誌論文・和文】

1. 重症僧帽弁閉鎖不全症を合併した Loeffler 心内膜炎患者の一例 張本英男, 孫慶淑, 横田董, 山田高之, 山地芳弘, 坂口雄一 Cardiovascular Anesthesia 28(1) 141-145 2024 年 9 月

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 松浦馨：PCR TokyoValves、「mddtronic traning Village」2024/2/17
2. 松浦馨：第 54 回日本心臓血管外科学会学術総会 ランチョンセミナー 最新エビデンスから考える外科医が TAVI に関わるべき理由 パネリスト 2024/2/23
3. 松浦馨：The Discussion about TAVI in Chiba、「Evolut THV の有用性と最近の話題」2024/2/29
4. 松浦馨：FX 関西東海北陸セミナー、「TAVI 最新のエビデンスと外科観点からの Valve 選択」2024/3/1
5. 高岡浩之：Beyond Angiography Japan XXVIII スポンサーセミナー6、「循環器内科医から見た GE CT Solution の優位性」2024/3/7
6. 松浦馨：Edwards Indication Expansion Fair 演者 2024/4/21
7. 高岡浩之：千葉県冠動脈疾患 Up to Date、「CT 技術革新による心筋症診断」2024/4/23
8. 高岡浩之：第 3 回 Tokyo CMR Expert Meeting、「CT による心筋評価の最前線～MRI とのひかくを踏まえて～」2024/5/10
9. 松浦馨：適切なタイミングでの治療を考える会。循環器疾患の早期介入の有用性と TAVI の最新トピッ

クスについて 2024/6/11

10. 松浦馨：社内講演会（Web）、「TAVI に関連する解剖について」2024/6/18
11. 佐々木晴香：次世代 SHD 治療のアップデート in Niigata、「僧帽弁形成術における画像診断の役割」2024/6/27
12. 高岡浩之：生先端 CT 研究会 2024、「次世代 CT 技術がもたらす心臓 CT の進化」2024/7/26
13. 高岡浩之：東京ベイ循環器研究会、「令和時代の心臓 CT レポートとは～心房細動診療も見据えて～」2024/8/1
14. 北原秀樹、佐々木晴香：成田赤十字病院との連携の会、医療連携講演会「弁膜症治療」2024/8/28
15. 與子田一輝：第 273 回日本循環器学会関東甲信越地方会、「奇異性低流量低圧較差大動脈弁狭窄症における経皮的大動脈弁置換術前後の特異的左室心筋仕事量変化の意義」2024/9/7
16. 北原秀喜：心腎治療 Up Date セミナー、『最新弁膜症カテーテル治療の透析患者様への適応拡大～TAVI 適応となる透析患者は？～』2024/9/20
17. 松浦馨：外科医による Evolut™ の会～東海北陸 Web セミナー～、「SMART trial Evolut THV の実力」2024/10/18
18. 松浦馨：TC アプローチ導入から考える SAPIEN3 Ultra RESILIA の適切なアプローチ、TC アプローチの安全な導入と可能性 2024/10/23
19. 青木秀平：医療連携講演会～弁膜症治療～、僧帽弁の心エコー評価 2024/10/24
20. 青木秀平：みつわ台病院との連携の会、医療連携講演会「弁膜症治療」2024/10/25
21. 松浦馨：第 77 回日本胸部外科学会定期学術集会ランチョンセミナー、頸動脈アプローチの臨床成績と本邦での期待 2024/11/4
22. 高岡浩之：循環器画像を考える会 2024、「最新 CT で心筋を診る」2024/11/15
23. 北原秀喜：ストラクチャークラブライブデモンストラーション 2024、超高齢患者における AS 治療戦略 2024/11/23

【学会発表数】

国内学会 12 回（うち大学院生 3 回）
国際学会 3 回（うち大学院生 3 回）

【その他】

- ・松浦馨 第 6 回 TAVI ワークショップ 講師 2024/2/25@ 浜松
- ・松浦馨 第 7 回 TAVI ワークショップ 講師 2024/10/27@ 国立循環器病センター

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

心臓移植、植込型補助人工心臓装着ともに順調に症例数を増加しており、コーディネーターと連携を図り定期的に外来にて患者の体調管理をしています。心臓移植も増加傾向です。

2017年1月より経カテーテル大動脈弁置換術（TAVR）を導入し、2019年11月からは専門施設 2024年には最高レベルの指導施設となり、順調に症例を増やしています。2024年では179例実施しました。担当医の一人である松浦が代表的二機種のプロクターとなったことから日本で導入される機種を最初に導入できる状況が整っています。

また、経皮的僧帽弁接合不全修復システムも大きな合併症なく症例数を増加させています。

●地域貢献

県内各地域及び近隣都県で開催される勉強会・セミナーにおいてハートセンターに関連する医師が講演を行い、最新の診療・知見の普及とともに、病診連携および地域連携の推進に努めています。また松浦はTAVIの指導医（proctor）として県内他施設（旭中央病院、県立循環器病センター）、また全国で指導を行っています。

研究領域等名：	
診療科等名：	臨床工学センター

●はじめに

本センターは大学病院における医療機器管理部門として、人工呼吸器、血液浄化装置、ペースメーカ、内視鏡、ECMO など高度管理医療機器の安全運用を担い、診療を支えている。今年度は臨床業務に加え、シンポジウムや招聘講演など学術的活動に力を入れ、県内外の学会やセミナーで講師として専門性を発信した。また、全国規模の学会評議員やWGにも参画し、臨床工学技士として活動の場を大きく広げた。今後も教育・研究・診療を通じて医療の発展に貢献していく。

●教育

・学部教育／卒前教育

大学工学部・医工学コースにおいて「臨床医学概論」の講義を担当し、臨床現場における医療機器の運用および臨床工学技士の業務内容について解説した。また、現場のニーズを踏まえた医療機器開発の方向性について学部学生とディスカッションを行い、将来的な医療機器開発に資する視点の涵養に努めた。

・卒後教育／生涯教育

- ・救急科専攻医に対して ECMO 導入シミュレーションを行った。
- ・ICU/CCU、救急救命センター看護師に対して ECMO プライミング研修を行った。
- ・ICU/CCU、救急救命センター看護師に対して IABP 研修を行った。
- ・救急科医師、看護師と合同で院内向け ECMO シミュレーションコースを開催した。
- ・若手麻酔科医・心臓血管外科医に対して人工心肺研修を行った。

・大学院教育

大学フロンティア医工学センターに所属する大学院生の研究活動を支援し、大学病院と工学部との連携を促進する役割を担った。これらを通じて、医療現場と工学分野を結ぶ橋渡しとして、実践的な教育・研究支援に貢献した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

千葉県消化器内視鏡技師会と共催として第一回消化器内視鏡技師キャリアアップセミナーを企画、運営した（WEB 開催：2024 年 10 月 17 日）全国の内視鏡に関わる医療従事者が 300 名以上の参加し成功を収めた。来年度も第二回を企画する。

●研究

・研究内容

令和 4 年度「ちば県民保健予防基金」助成事業に申請採択されて以降、予防医療に焦点を当て、「シングルユース内視鏡を用いた胃内視鏡検査の有用性の検討」というテーマで特定臨床研究に準じた倫理審査を経て、現在検討を進めている。設備が整っていない僻地やがん検診の受診率が低い地域への活用を目標に今後も検討を進めていく。

・研究業績

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 藤江舞（講演）：第 1 回 Medical Staff Professional On Air「内視鏡室の感染対策マニュアル作成について」 2. 小野仁（講演）：第 4 回 Kanto University Hospital Comedical Summit「MRI 撮像条件のアップデート～MRI 非対応デバイス患者の撮像を経験して～」 3. 小野仁（講演）：第 70 回日本不整脈心電学会学術大会「植込みデバイスの頻拍治療設定を極める」 4. 古川豊（講演）：第 84 回千葉撮影技術研究会「シ	ン・人工呼吸療法基本のキ～挿管・陽圧管理とシン技術～」 5. 藤江舞（講演）：メディカルジャパン東京 特別セミナー「千葉の先端技術、未来の医療を創る」 6. 古川豊（講演）：第 49 回日本体外循環技術医学会大会「ECMO 下搬送～他施設と協働する Primary Transport、Secondary Transport～」 7. 藤江舞（講演）：日本消化器内視鏡技師会第 1 回ブラッシュアップセミナー「日米における内視鏡 Infection Control - 米国・日本の内視鏡室感染管理は今 -」

【学会発表数】

国内学会 13 学会 15 回

国際学会 0 学会 0 回

【その他】

藤江舞（座長）：千葉県消化器内視鏡技師会主催機器

取り扱い講習会（2025 年 3 月 26 日）

藤江舞（パネリスト）：千葉県消化器内視鏡技師会主

催大腸がん検診啓発セミナー（2024 年 3 月 26 日）

小野仁（座長）：第 70 回日本不整脈心電学会学術大会

（2024 年 7 月 18 日～20 日）

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

臨床工学センターは医療機器を保守点検することで診療に携わっている。2024 年度は当センターが管理する計 2800 台の医療機器の管理（日常点検：77,106 件、定期点検：1,664 件）を行い、安全に医療機器を使用できるよう支援した。

生命維持管理装置 / 高度医療機器を使用した検査・治療においては、合計 14,023 件（透析室：3,956 件、心臓血管外科領域：190 件、集中治療領域：（血液浄化療法：1,431 件、ECMO：45 件、Impella：20 件、IABP：17 件）、軟性内視鏡治療：1,637 件、循環器不整脈領域（不整脈治療：838 件、ペースメーカー外来など：5,661 件、ペースメーカー植込み患者の他科手術立会い：228 件）の機器操作を行い支援した。

●地域貢献

千葉大学医学部附属病院メドテックリンクセンターと千葉県商工労働部 産業振興課とともに千葉県内の中小企業の新しい医療機器 / 医療材料を開発するための相談会を実施した。臨床工学技士のアイデアでステント等の開発をサポートしている。

●その他

【研究会・学会等役職】

藤江舞：日本臨床工学技士会 内視鏡業務検討委員

藤江舞：日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡チーム医療推進 WG 委員

藤江舞：日本消化器内視鏡技師会 安全管理委員

藤江舞：千葉県消化器内視鏡技師会役員

小野仁：日本不整脈心電学会評議員

小野仁：東京不整脈コメディカル研究会副代表

研究領域等名：	
診療科等名：	高齢者医療センター

●はじめに

当センターは今年度、主に下記の分野において活動を行った。

- ①臨床：例年に引き続き「高齢者多職種外来」を実施し、フレイル・サルコペニアやポリファーマシーについて評価・介入を行った。また入院・外来の全診療科を対象とした「ポリファーマシー相談窓口」を開設し、併せて薬剤総合評価調整加算を算定するために必要な「ポリファーマシー対策に関する業務手順書」を作成した。さらに外来・入院の高齢者を対象とした「フレイル外来」での診療を開始した。
- ②研究：外来患者を対象としたポリファーマシーに関するアンケート調査の結果を解析し、その研究成果を論文にて報告した。
 - ・多施設共同研究：オレンジレジストリ・フレイルレジストリ研究のフィールドとして、外来患者の登録および定期的なフォローアップを実施。また代謝内科と Werner 症候群に関する共同研究を実施した。
- ③教育：医学部学生や初期研修医・内科専攻医をはじめ、看護師や理学療法士など各種医療職を対象とした高齢者診療に関する講演や e ラーニング教材の作成を行った。

●教 育

・学部教育／卒前教育

今年度も例年に引き続き、当センターの医師は医学部 3 年生のユニット講義を担当し、高齢者の医学的な特徴や老年症候群・フレイルやサルコペニア、ポリファーマシーについての教育を実施した。

また不定期であるが、ベッドサイドで臨床実習を行っている医学部 5、6 年生の希望者を対象に、当センターの外来見学を行い、高齢者医療の実習を行っている。

・卒後教育／生涯教育

今年度は各職種それぞれの分野において、下記の教育活動を行った。

- 医師：当院糖尿病・代謝・内分泌内科に配属された初期研修医および内科専攻医を対象として、高齢者医療（高齢者糖尿病やフレイル・サルコペニア、ポリファーマシー）に関する講義を実施した。
- 看護師：看護師を対象に、当センターの医師・看護師・薬剤師・理学療法士らによる、高齢者のフレイルおよびポリファーマシーに関する院内研修教材（e ラーニング）を作成した。
- 理学療法士：リハビリテーション部スタッフを対象に、当センターで実施している多職種診療の活動内容についての講義を実施した。
- MSW：患者支援部に新規入職した職員に対して、高齢者医療センターやフレイル・サルコペニアやポリファーマシーなどについての講義を実施した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

今年度は該当項目なし。

依頼があれば WEB 方式も利用して柔軟に対応する予定である。

●研 究

・研究内容

当センターではフレイルやサルコペニア、ポリファーマシーについての各種臨床研究を推進している。

過去には当院外来患者を対象としたポリファーマシーのリスク因子を解析を報告した（J Pharm Health Care Sci. 2019 Sep 25:20.）。昨年度は外来患者を対象としたポリファーマシーに関するアンケート調査の解析結果を報告している（J Pharm Health Care Sci. 2023 Dec 11;9（1）:51.）。

フレイルについては非接触型ベッドセンサーシステムと In Body を組み合わせて、高齢者のフレイルやサルコペニアの解明を目指すプロジェクトに共同研究者として参画している。昨年度は老健施設の協力を得て、Scientific Reports に研究結果を報告した。現在も引き続き研究を継続中である。

さらに当センターは全国の大学病院で構成された多施設共同研究である、オレンジレジストリ研究、フレイルレジストリ研究の本大学の実質的なフィールドとして機能しており、外来にて登録患者の定期的なフォローアップを行っている。また代謝内科と共に、早老症である Werner 症候群の臨床データの解析に継続的に関与している。さらに形成外科や工学部とのサルコペニアの協同研究にも関わっている。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Shoji M, Teramoto N, Ishikawa T*, Hayashi A, Matsumoto A, Ochiai H, Yamaguchi A, Maeda Y, Takasaki A, Hiraga C, Ide S, Ide K, Yamamoto M, Maezawa Y, Shigeta A, Sakao S, Suzuki T, Yahaba M, Taniguchi T, Igari H, Yokote K, Koshizaka M. Hypoalbuminemia on admission in diabetic patients correlates with severity of illness in COVID-19: A retrospective clinical study and literature review. *Endocrine and Metabolic Science*, Volume 16, 2024, 100196.
2. Tsukagoshi-Yamaguchi A, Ishikawa T*, Ogura M. Skin Rash Appearing in a Patient with Gestational Diabetes Mellitus on Insulin Therapy *AACE Clinical Case Reports*. 2024 In press. doi.org/10.1016/j.aace.2024.04.004
3. Aono K, Maezawa Y, Kato H, Kaneko H, Kubota Y, Taniguchi T, Oshitari T, Motegi SI, Nakagami H, Taniguchi A, Watanabe K, Takemoto M, Koshizaka M, Yokote K. Recommendations for cancer screening and surveillance in patients with Werner syndrome. *Geriatr Gerontol Int*. 2024 Oct;24(10):1085-1087. doi: 10.1111/ggi.14967. Epub 2024 Aug 24.
4. Aono K, Koshizaka M, Shoji M, Kaneko H, Maeda Y, Kato H, Maezawa Y, Miyabayashi M, Ishikawa M, Sekiguchi A, Motegi SI, Tsukamoto S, Taniguchi A, Shoda Y, Yoshimura T, Kawashima J, Yoshinaga K, Nakagami H, Takami Y, Sugimoto K, Hashimoto K, Okubo N, Yoshida T, Ohara M, Kogure A, Suzuki D, Kuzuya M, Watanabe K, Takemoto M, Oshima J, Yokote K. Less frequent skin ulcers among patients with Werner syndrome treated with pioglitazone: findings from the Japanese Werner Syndrome Registry. *Aging (Albany NY)*. 2024 Dec 2;16(22):13526-13533. doi: 10.18632/aging.206161. Epub 2024 Dec 2.
5. Mizokami F, Mizuno T, Taguchi R, Nasu I, Arai S, Higashi K, et al. Development of the Japanese Anticholinergic Risk Scale: English translation of the Japanese article *Geriatr Gerontol Int*. 2025 Jan; 25(1):5-13.

【単行書】

1. 新井さやか 4章 高齢者における疾患と治療
17) ポリファーマシー ケースで学ぶ老年薬学,

2024;198-208

2. 小野啓, 石川崇広 サルコペニア・フレイル「ここが知りたい! 糖尿病診療ハンドブック」Ver.6 中外医学社 (2024)

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表 (一般の学会発表は除く)】

1. 前澤善朗. シンポジウム 早老症と細胞老化 Werner 症候群の臨床. 第 66 回日本老年医学会学術集会 2024 年 6 月 14 日. 名古屋
2. 前澤善朗. 老化及び老年医学研究助成受賞者講演 高齢者とヒト老化モデルのプロテオームにみる老化機構 第 66 回 日本老年医学会学術集会 2024 年 6 月 14 日. 名古屋
3. 前澤善朗 進化する肥満症の薬物治療 シンポジウム 1 肥満症: 基礎と臨床の進歩 第 39 回日本糖尿病合併症学会 10 月 4 日, つくば

【学会発表数】

国内学会 2 学会 3 回 (うち大学院生 0 回)

国際学会 0 学会 0 回 (うち大学院生 0 回)

【外部資金獲得状況】

1. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「R3html が切り開く筋腎連関の機序解明および CKD・サルコペニアの新規治療戦略」代表者: 石川崇広 2022-2024
2. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「特別養護老人ホームにおける看取り介護の定着を目指した組織学習プログラム」分担者: 石川崇広 2021-2024
3. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「With コロナ時代の ICT ツールによる高齢者主体型の終生期対話プログラムの構築」分担者: 石川崇広 2022-2025
4. 文部科学省科学研究費 基盤研究(A)「早老症の多角的解析に基づく老化と疾患の病態解明」分担者: 前澤善朗 2023-2025
5. 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)「高齢糖尿病腎症におけるポドサイト老化とその制御転写因子の役割」分担者: 前澤善朗 2024-2027
6. 文部科学省科学研究費 基盤研究(B)「肝・脂肪連関における肝 FoxO1/PPAR α による糖代謝特異的制御機構の解明と臨床応用」分担者: 前澤善朗 2024-2027
7. 文部科学省科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「老化モデル疾患を対象とした NAD 前駆体による革新的治療および老化抑制機序の検討」分担者: 前澤善朗 2021-2024

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

当センターはこれまで、いわゆる「臓器別」診療だけでは整理・対応が難しい高齢者特有の複雑な問題を有した症例に対して、老年病専門医をはじめ看護師、薬剤師、理学療法士、ソーシャルワーカーなど多職種による多面的なチーム医療を行ってきた。以前は15－20名／年程度で推移していたが、コロナ禍の影響があり、外来人数は減少傾向であった。また多職種診療には多くの時間がかかること、マンパワーの問題などが外来数が増加しにくい理由になっていた。

そのため当センターは、これまでの「高齢者多職種外来」に加えて、新規に「フレイル外来」の設立を行った。同外来は、入院・外来患者を対象として、高齢者のフレイル（身体・認知機能の低下による虚弱な状態）やサルコペニア（加齢による骨格筋量の減少）に特化した診療を行い、適切な介入を図ることを目的としている。昨年度末に同外来の設立準備を行い、2024年度からの診療を開始した。2024年度は診療開始してから1年間で、外来患者数は38名であった。eラーニングなどを利用したフレイル・サルコペニアの啓発活動も近く実施する予定であり、更なる診療活動の拡大を目指す予定である。

入院診療においては、まず糖尿病・代謝・内分泌内科（糖尿病コンプリケーションセンター）と協力体制を取り、高齢糖尿病患者を対象としてフレイル・サルコペニアの評価を行う方針とし、今年度から診療を開始した（具体的な人数は外来診療の項に記載）。

また当センターは、以前は整形外科入院中の高齢患者を対象としたポリファーマシー回診を実施していた（2017年からの3年間でおおむね200-250名／年の介入実績あり）が、コロナ禍に伴う院内感染予防の目的で休診となり、現在まで実施困難となっている。しかしながらポリファーマシーに対する新しい診療形態の構築は必須であることから、入院・外来患者いずれも対象とし、かつ（医師以外の）医療スタッフであっても容易にコンサルテーションが可能となる「ポリファーマシー相談窓口」を開設した。同時に、病棟看護師を対象とした案内状やびなこだよりなどを通じた周知を行った。さらに今年度には、薬剤総合評価調整加算を算定するために必要な「ポリファーマシー対策に関する業務手順書」の作成を行った。今後は同活動を通して、これまでより診療報酬の算定が容易になる見込みである。

当センターは公的医療保険の対象外になる先進医療は行っていない。

一方で先進的という意味においては、当センターは今後ますます高齢化が進む我が国において、一般診療では対応困難な事例をどのように解決するかを探索する、未来の「高齢者モデル外来」を実施している。今後もこの活動を継続し、将来に繋がる先進的な多職種連携診療のあり方を発信していく予定である。

また今後、病院の安全管理の向上を目指して、当院の転倒予防チームと協同した新しい転倒フローチャートの作成に関わっていく予定である。

●地域貢献

当センターは地域医師会や製薬会社と協力し、高齢者医療や高齢者特有の病態（フレイルやサルコペニア、ポリファーマシーなど）について、講演を行っている。

今年度は、主に下記の内容について、活動を行った。

＊対象はいずれも地域医療機関に勤務する医療従事者（医師、薬剤師、看護師など）

①医師：高齢者糖尿病の注意点について・診療アルゴリズムの紹介（Web）

●その他

当センターはこれまでに日本における高齢者診療を視察する目的で来日した、各国の視察団を受け入れている。具体的な国として、韓国、中国、インドネシア、アイルランドなどが挙げられる。またJICAの研修生の受け入れ先として、日系ブラジル人留学生の受け入れでも過去に実施した実績がある。新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い海外との交流は2020年から休止しているが、今後世界の情勢によって再開する見込みである。

研究領域等名：	
診療科等名：	糖尿病コンプリケーションセンター

●はじめに

当センターは今年度、主に下記の分野において活動を行った。

- ①臨床：主に外来患者を対象とした多職種連携の「糖尿病コンプリケーション外来」を実施し、外来患者において糖尿病性腎症評価と糖尿病透析予防指導、フットケア、運動指導、療養指導を行った。
- ②研究については下記の種々の臨床研究を推進している。
 - ・ウェルナー症候群患者のフットケアや療養指導に関するデータを取得解析し、論文化を予定している。
 - ・多施設共同研究：日本における代表的な糖尿病合併症介入研究である J-doit3 研究に参加、患者登録しており本センターにおいて倫理審査の更新、データの収集、登録と中央機関への送付をおこなっている。
- ③教育：医学部学生や初期研修医・内科専攻医、メディカルスタッフを対象とした糖尿病診療に関する講演を行っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

今年度も例年同様、医学部3年生のユニット講義「糖尿病合併症」ならびに、4年生、5年生のクリニカルクラークシップを担当し、糖尿病合併症の特徴、若年者と比較しての高齢糖尿病患者の注意点などについて教育活動を行なっている。クリニカルクラークシップ学生は定期的に外来見学も行っている。また、定期的に来院する栄養学科の学生や教育学部の学生には外来見学の機会を供している。

・卒後教育／生涯教育

当院糖尿病・代謝・内分泌内科に配属された初期研修医および内科専攻医を対象として、糖尿病合併症に関する講義を実施し、また継続的に助言をおこなっている。

また、看護師は病棟から要請があった場合、糖尿病の指導に関して助言をおこない、またインスリンポンプの設定、管理などの助言も行っている。

また、メンバーがNSTにも参加し、入院患者の栄養両方についての助言も行なっている。

・大学院教育

糖尿病関連腎臓病に関する学位プロジェクトを現在2人の大学院生が実施している。来年並びに再来年に学位を取得する予定であり、コンプリケーションセンターで得られた知見を参考にしている。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

代表的な加齢関連疾患である糖尿病の診療は高齢者医療と密接に関連することから、普遍教育における「現代医学 高齢者医療」の項目を担当した。また、糖尿病性足病変などは今後再生医療の対象となることから、再生移植医学特論を担当している

●研 究

・研究内容

- ・千葉県内の健康診断データを取得して糖尿病や慢性腎臓病の進展予測因子を解析し、論文を準備中である。
- ・厚生労働省主導の「糖尿病予防のための戦略研究」として実施された多施設共同研究である J-Doit3 研究に参加し当センターの外来にて登録患者の定期的なフォローアップ、データ収集と中央機関への送付を行っている。

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

【糖尿病・代謝・内分泌内科】

2024年、外来受診総数は22871人、うち新患患者は約1200人が受診し、その内訳は2型糖尿病、1型糖尿病、妊娠糖尿、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺・骨代謝疾患、副腎疾患、肥満症、その他の代謝疾患症となっている。また術前血糖管理など他科から血糖管理に関する依頼を400件以上受け管理を行った。

固定病床数は14床であり、2024年度の累計入院稼働率は101.5%であった。のべ509人の患者が入院し、その内訳は内分泌272人（うち副腎症例160例、下垂体症例64例、甲状腺疾患11例、副甲状腺・骨代謝疾患9例、その他28例）、糖尿病198人（1型29人、2型141人、その他28人）、肥満症20人、その他19人であった。

●地域貢献

千葉県における糖尿病診療の向上を目的として組織されている千葉県糖尿病対策推進会議において前澤善朗准教授が理事として参加し貢献している。

千葉県における糖尿病性腎症の発症予防および進展阻止を目的として組織されている千葉県糖尿病性腎症予防対策推進検討会において、前澤善朗准教授がオブザーバーとして参加し貢献している。

千葉県における糖尿病療養指導にあたるスタッフの研修勉強会である千葉糖尿病教育スタッフ研究会において、前澤善朗准教授、北本匠助教、熊谷仁助教が世話人として参加し、講演などの役割を受け、貢献している。

千葉県における1型糖尿病患者と家族の治療に関連した知識の共有、QOLの向上、精神的な安心の向上を目指し組織されているいのちのはな友の会に熊谷仁助教が主要な運営代表として参加し貢献している。

研究領域等名：	
診療科等名：	肺高血圧症センター

●はじめに

当センターの目標は、診断の推進及び発展に資する肺高血圧症診療の構築である。学会・講演会を通じて当センターの肺循環診療の専門性を伝え続け、近隣医療機関に対しては疾患啓蒙活動と共に当センターへの速やかな相談・紹介が可能な体制維持に努めている。また教育機関であることから、当センターの維持・発展のみならず、本邦の肺高血圧症診療の指導的役割を担う人材の育成にも力を入れている。そして専門分野のアカデミアとして、新規医療技術や新薬開発を目指した研究や臨床試験への協力を通じ、国際的な規模で肺高血圧症診療の発展に大きく貢献している。

2024 年も診療・研究・教育・地域貢献だけでなく、疾患啓蒙活動・国内レジストリー・治験・治療開発において国内の主導的立場として貢献し、それが広く認知されていることから患者紹介・相談を全国から受けいれ対応した。

●教 育

・学部教育／卒前教育

肺高血圧症センター独自で学部教育／卒前教育は行っていないが、呼吸器内科が担当している講義／臨床実習の中の肺循環領域を担当している。

肺高血圧症センターには県内外から患者紹介があり、医学生には希少難治な疾患を学ぶ貴重な機会を得られている。

医学部 6 年生が CC で学んだ肺循環障害症例、「CT で指摘が困難であった重度の右左シャントを伴う微小びまん性肺動静脈瘻の一例」「長期にわたり未診断であった小児の限局性複雑型肺動静脈瘻（PAVM）の一例」「4D-CT での形態評価が有用であった先天性右肺静脈閉塞症による肺静脈瘤と肺静脈 - 肺静脈（PV-PV）シャントの一例」を『第 121 回日本内科学会講演会 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ 2024 東京』（優秀演題賞を受賞）、『第 64 回日本呼吸器学会 呼吸器病学 ことはじめ甲子園』で発表した。

2024.6.22、本院ガーネットホールにおいて当センター杉浦寿彦診療講師が会長として第 10 回日本 HHT 研究会を主催、3 名の学生が症例発表を行なった。

論文執筆指導をした医学部 6 年生の症例報告は国際誌に掲載された。

Evaluation of a gradually enlarging complex pulmonary arteriovenous malformation consisting of innumerable small fistulae using four-dimensional computed tomography. BMJ Case Rep. 2024 Feb 17;17 (2) :e258200. doi: 10.1136/bcr-2023-258200. PMID: 38367987.

・卒後教育／生涯教育

【卒後教育】

肺高血圧症センター独自で初期研修医の指導は行っていないが、呼吸器内科アテンディング・専攻医・医員・病棟担当教員が行っている呼吸器内科卒後教育の中の肺循環領域を担当している。2024 年度は初期研修医 2 名、専攻医 7 名の学会発表指導を行った。

【生涯教育】

年間を通し、肺循環疾患に関する教育講演、情報交換会を千葉県医師会などと共催企画し、肺循環疾患の啓蒙・普及に積極的に取り組んでいる。肺循環疾患の早期診断、最新の治療について専門医の立場から講演会を開催した。

PH Seminar (for Medical Collaboration) (2024.3.1 千葉)：移行期医療の中でトレプロスト吸入液を導入した肺動脈性肺高血圧症の一例。

亀田総合病院講演会 (2024.10.24 鴨川)

杉浦寿彦. 呼吸器内科医が診る肺高血圧症.

PH ネットフォーラム (2024.11.12 Web)

重田文子. 間質性肺疾患に伴う肺高血圧症診療における治療最前線ートレプロスト吸入液の有用性についてー. ほか。

・大学院教育

肺高血圧症センター独自で大学院教育は行っていないが、呼吸器内科学開講科目の肺循環領域を担当している。肺高血圧症の研究分野での医学博士号取得者は 2 名。

2024年度は博士課程大学院生の学会発表指導は4名6演題（うち2名2演題は国際学会）、2名2報の英文症例報告、5名6報の英文原著論文、1名1報の英文総説の執筆指導を行った。肺高血圧症の研究分野での医学博士号取得者は2名。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

他学部での教育は行っていない。

●研究

・研究内容

【肺高血圧症の病態解析と治療戦略に研究 / 肺血栓塞栓症の慢性化機序・病態解析・治療戦略に関する研究】

- ◎ PAAR γアゴニスト クリシンの Su/Hx PAH ラットの病態改善効果の検討
- ◎ PH モデルに対するトリメタジジンの効果の検討
- ◎ 慢性性血栓塞栓性肺高血圧症患者の腸内細菌解析
- ◎ メタボロームによる PH ラット RV における代謝リモデリング評価研究
- ◎ 遺伝子情報解析を含む TGF β シグナル伝達系を中心としたオミックス解析による呼吸器疾患病態解明を目指す多施設共同研究
- ◎ 肺高血圧症の病態形成における CD26/DPP4 の役割
- ◎ 肺動脈性肺高血圧症における組織常在マクロファージの役割と治療応用
- ◎ 肺動脈性肺高血圧症発症におけるマクロファージ内 BMPR II 欠損の影響
- ◎ X 線動態画像に基づく肺循環障害評価法に関する研究
- ◎ CTEPH における % CSA < 5 と肺血行動態との関係およびその臨床的意義についての検討
- ◎ 肺動脈性肺高血圧症の胸部 X 線画像検査診断を支援する AI ソフトウェアの開発研究
- ◎ 肺動静脈瘻における右左シャント率測定の代替法の検討
- ◎ 肺高血圧症患者における胸部 CT の定量化した肺正常領域が有する臨床的意義
- ◎ 3 群肺高血圧症患者レジストリ（JAPHR3 群）と連携した呼吸器疾患の胸部 CT の定量評価と臨床病態解析に基づいた予後予測モデルの構築
- ◎ 心エコーを用いた肺高血圧症の早期診断に有用な診断指標・アルゴリズムの検討
- ◎ CT データベースを用いた肺血管の評価と肺血栓塞栓症診断支援システムの開発
- 日本肺高血圧・肺循環学会主導研究に参加
 - ◎ 慢性性血栓塞栓性肺高血圧症国際共同研究 CLARITY：診断・治療・管理における診療の実際、患者のアンメットニーズ、臨床診療とアンメットニーズにおける地域と国際的な違いについての調査
- 日本医療研究開発機構（AMED）研究、厚労科研難治性疾患政策研究事業との連携研究
 - ◎ 厚労科研難治性疾患政策研究事業 難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究エビデンスの創出と診療ガイドラインの作成
 - ◎ AMED 患者レジストリ Japan PH Registry を利活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗 IL-6 受容体抗体適応拡大のための医師主導治験
 - ◎ AMED 患者レジストリ Japan PH Registry を活用した肺動脈性肺高血圧症のアンメットメディカルニーズに対するエビデンス創出研究
- NPO 法人 JAPHR（Japan PH Registry）との連携研究
 - ◎ 1 群 肺動脈性肺高血圧症レジストリ治療成績のデータ収集・解析
 - ◎ 3 群 呼吸器疾患に伴う肺高血圧症レジストリ治療成績のデータ収集・解析
 - ◎ 4 群 慢性性血栓塞栓性肺高血圧症レジストリ 治療成績のデータ収集・解析

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Tanabe N, Kumamaru H, Tamura Y, Kondoh Y, Nakayama K, Kinukawa N, Kimura T, Nishiyama O, Tsujino I, Shigeta A, Morio Y, Inoue Y, Kuraishi H, Hirata K, Tanaka K, Kuwana M, Nagaoka T, Handa T, Sugimura K, Sakamaki F, Naito A, Taniguchi Y, Matsubara H, Hanaoka M, Inami T, Hayama N, Nishimura Y, Kimura H, Miyata H, Tatsumi K, on behalf of the JRPHS Group. Pulmonary hypertension with interstitial pneumonia: Initial treatment effectiveness and severity in a Japan registry. JACC Asia. 2024;4:403-417. doi:10.1016/j.jacasi.2024.01.009.
2. Okaya T, Kawasaki T, Sato S, Koyanagi Y, Tatsumi K, Hatano R, Ohnuma K, Morimoto C, Kasuya Y, Hasegawa Y, Ohara O, Suzuki

- T.Functional roles of CD26/DPP4 in bleomycin-induced pulmonary hypertension associated with interstitial lung disease. *Int J Mol Sci.* 2024;25:748. doi:10.3390/ijms25020748.
3. Okaya T, Shigeta A, Tanabe N, Tatsumi K, Yokota H, Nishiyama A, Naito A, Sekine A, Sugiura T, Sakao S, Suzuki T. Significance of normal lung volume on quantitative CT imaging analysis in Group1 and Group3 pulmonary hypertension. *CHEST pulmonary.* 2024;4:100062. doi: 10.1016/j.chpulm.2024.100062.
4. Imai S, Sakao S, Nagata J, Naito A, Sekine A, Sugiura T, Shigeta A, Nishiyama A, Yokota H, Shimizu N, Sugawara T, Nomi T, Honda S, Ogaki K, Tanabe N, Baba T, Suzuki T. Artificial intelligence-based model for predicting pulmonary arterial hypertension on chest x-ray images. *BMC Pulm Med.* 2024;24:101. doi: 10.1186/s12890-024-02891-4.
5. Suzuki Y, Kawasaki T, Tatsumi K, Okaya T, Sato S, Shimada A, Misawa T, Hatano R, Morimoto C, Kasuya Y, Hasegawa Y, Ohara O, Suzuki T. Transcriptome analysis of fibroblasts in hypoxia-induced vascular remodeling: functional roles of CD26/DPP4. *Int J Mol Sci.* 2024;25:12599. doi: org/10.3390/ijms252312599.
6. Takeda K, Shigeta A, Inagaki T, Hayama N, Kawame C, Naraki Y, Naito A, Sekine A, Suda R, Sugiura T, Tanabe N, Suzuki T. The utility and safety of one-minute sit-to-stand test in pulmonary hypertension: A prospective study. *Respir Investig.* Online ahead of print. doi: 10.1016/j.resinv.2024.12.003.
7. Yanagisawa A, Kim JD, Naito A, Kobayashi T, Misawa T, Sakao S, Jujo-Sanada T, Kawasaki T, Muroi SI, Sasaki SI, Suzuki T, Hayakawa Y, Nakagawa Y, Kasuya Y, Tatsumi K. Deciphering the inhibitory effects of trimetazidine on pulmonary hypertension development via decreasing fatty acid oxidation and promoting glucose oxidation. *Sci Rep.* 2024;14:27069. doi: 10.1038/s41598-024-76100-x.
8. Tamura Y, Kumamaru H, Tsujino I, Suda R, Abe K, Inami T, Horimoto K, Adachi S, Yasuda S, Sera F, Taniguchi Y, Kuwana M, Tatsumi K; Japan Pulmonary Hypertension Registry Network. Switching from beraprost to selexipag in the treatment of pulmonary arterial hypertension: Insights from a phase IV study of the Japanese registry (The EXCEL study: EXChange from bEraprost to seLexipag Study). *Pharmaceuticals (Basel).* 2024;17:555. doi: 10.3390/ph17050555.
9. Lemay SE, Montesinos MS, Grobs Y, Yokokawa T, Shimauchi T, Romanet C, Sauvaget M, Breuils-Bonnet S, Bourgeois A, Th  berge C, Pelletier A, El Kabbout R, Martineau S, Yamamoto K, Ray AS, Lippa B, Goodwin B, Lin FY, Wang H, Dowling JE, Lu M, Qiao Q, McTeague TA, Moy TI, Potus F, Provencher S, Boucherat O, Bonnet S. Exploring integrin $\alpha 5 \beta 1$ as a potential therapeutic target for pulmonary arterial hypertension: Insights from comprehensive multicenter preclinical studies. *BioRxiv [Preprint].* 2024:2024.05.27.596052. doi: 10.1101/2024.05.27.596052.
10. Hosokawa K, Watanabe H, Taniguchi Y, Ikeda N, Inami T, Yasuda S, Murohara T, Hatano M, Tamura Y, Yamashita J, Tatsumi K, Tsujino I, Kobayakawa Y, Adachi S, Yaoita N, Minatsuki S, Todaka K, Fukuda K, Tsutsui H, Abe K; KABUKI Investigators. A multicenter, single-blind, randomized, warfarin-controlled trial of edoxaban in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension: KABUKI trial. *Circulation.* 2024;149:406-409. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.123.067528.
11. Masaki K, Hosokawa K, Funakoshi K, Taniguchi Y, Adachi S, Inami T, Yamashita J, Ogino H, Tsujino I, Hatano M, Yaoita N, Ikeda N, Shimokawahara H, Tanabe N, Kubota K, Shigeta A, Ogihara Y, Horimoto K, Dohi Y, Kawakami T, Tamura Y, Tatsumi K, Abe K; CTEPH AC Registry Study Group. Outcomes of chronic thromboembolic pulmonary hypertension after balloon pulmonary angioplasty and pulmonary endarterectomy. *JACC Asia.* 2024;4:577-589. doi: 10.1016/j.jacasi.2024.05.007.
12. Nakamura J, Tsujino I, Masaki K, Hosokawa K, Funakoshi K, Taniguchi Y, Adachi S, Inami T, Yamashita J, Ogino H, Hatano M, Yaoita N, Ikeda N, Shimokawahara H, Tanabe N, Kubota K, Shigeta A, Ogihara Y, Horimoto K, Dohi Y, Kawakami T, Tamura Y, Tatsumi K, Abe K. Cancer as an independent mortality risk in chronic thromboembolic pulmonary hypertension. *J Heart Lung Transplant.* 2024:S1053-2498(24)01910-7. Online ahead of print. doi: 10.1016/j.healun. 2024. 10.022.
13. Otsuji R, Kasai H, Sugiura T, Suzuki H, Suzuki T. Evaluation of a gradually enlarging complex pulmonary arteriovenous malformation consisting of innumerable small fistulae using four-dimensional computed tomography. *BMJ Case Rep.* 2024;17:e258200. doi: 10.1136/bcr-2023-258200.

14. Takagi K, Kasai H, Tani H, Sakao S, Sugiura T, Suzuki T. Macitentan administration for pulmonary hypertension due to β -thalassemia with multiple organ failure. Intern Med. 2024;63:1585-1590. doi: 10.2169/internalmedicine.2307-23.
15. Takeda K, Sugiura T, Isomatsu S, Ogawa H, Murai Y, Miyata S, Imai S, Okaya T, Naito A, Sekine A, Shigeta A, Suzuki T. Hemoglobinopathy as a rare differential disease for low oxygen saturation by pulse oximetry: A case report and literature review. Intern Med. 2024 Online ahead of print. doi: 10.2169/internalmedicine.4011-24.

【雑誌論文・和文】

1. 田邊信宏. 肺高血圧症：疫学と歴史. Heart View. 2024;28:312-320.
2. 杉浦寿彦. 呼吸器疾患と PH を合併する場合の治療はどうするか？～PGI2 吸入薬のエビデンスを踏まえて～. Heart View. 2024;28:371-375.
3. 杉浦寿彦. 肺高血圧症 病因と病態. 日本臨牀 増刊号 動脈・静脈の疾患 2024 下. 2024;82:145-148.
4. 竹田健一郎, 重田文子. 急性肺血栓塞栓症. 呼吸器疾患ペディア. 2024;153:S109-S111.
5. 巽浩一郎. 日本人閉塞性睡眠時無呼吸に対するアトモキセチンとオキシブチニンの併用療法に関する検討. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究 令和 5 年度研究報告書. 2024.
6. 田邊信宏. 現代における肺動脈内膜摘除術後の長期成績に対する残存肺高血圧症の影響. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究 令和 5 年度研究報告書. 2024.
7. 鈴木拓児. 慢性血栓塞栓性肺高血圧症における CT 画像検査で測定される肺断面積の臨床的意義：肺血行動態との相関性と限界. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究 令和 5 年度研究報告書. 2024.
8. 杉浦寿彦. 肺動脈内膜摘除術に合併する神経学的有害事象の予防戦略についての検討. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究 令和 5 年度研究報告書. 2024.

【単行書】

1. 田邊信宏. 肺血栓塞栓症. In: 最新ガイドラインに基づく呼吸器疾患診療指針 第 6 版 (編集：弦間昭彦) 総合医学社, 東京, 2024:213-218.
2. 杉浦寿彦. チアノーゼ, ばち状指. In: 内科診断学 第 4 版 (編集：福井次矢, 奈良信雄, 松村正巳) 医学書院, 東京, 2024:941-944.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. PH Seminar (for Medical Collaboration) (2024.3.1 千葉) 杉浦寿彦. 移行期医療の中でトレプロスト吸入液を導入した肺動脈性肺高血圧症の一例.
2. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web) 田邊信宏. シンポジウム 6：肺疾患に伴う肺高血圧症：国内登録研究からみえてきたもの.
3. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web) 川田奈緒子, 杉浦寿彦, 岩男悠真, 西山晃, 石田敬一, 羽石秀昭, 鈴木拓児, 田邊信宏. ミニシンポジウム 49：慢性血栓塞栓性肺高血圧症患者における術前後での肺野濃度の不均一性の評価.
4. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web) 鈴木敏夫, 鈴木穰, Choi H, 中川智貴, 松原大祐, 関根郁夫, 永元哲治, 池尾聡, 鹿島幸恵, 鈴木絢子, 山本佑樹. 若手呼吸器研究最前線シンポジウム 1：肺オルガノイド空間的トランスクリプトーム解析による次世代創薬プラットフォーム開発 - ニッチオーム介入評価系の新ツールとしての可能性 -.
5. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web) 岡谷匡, 川崎剛, 佐藤峻, 小柳悠, 波多野良, 大沼圭, 森本幾夫, 粕谷善俊, 巽浩一郎, 鈴木拓児. ミニシンポジウム 34：間質性肺炎合併肺高血圧症における CD26/DPP4 の役割.
6. 第 64 回日本呼吸器学会学術講演会 (2024.4.5-7 横浜 + Web) 須田理香. ランチョンセミナー 19：肺高血圧症診療のパラダイムシフト - Atypical PAH の概念 -.
7. 第 9 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024.8.9-10 久留米) 坂尾誠一郎. 教育講演 1：心臓と肺から診る COPD マネジメント.
8. 第 9 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024.8.9-10 久留米) 重田文子. パネルディスカッション 5：エラスチン遺伝子異常による末梢性肺動脈狭窄症の 1 例.
9. 第 9 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024.8.9-10 久留米) 重田文子. デイバートセッション 4：肺疾患 PH に肺血管拡張薬は“患者を選べば”用いるべきである.
10. 第 9 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024.8.9-10 久留米) 重田文子. スポンサーセッション：日本における個々の肺動脈性肺高血圧症治療戦略を考える ～7th WSPH, ESC/ERS GL2022 を踏まえて～.
11. 第 9 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024.8.9-10 久留米) 内藤亮. シンポジウム 1：深層学習ソフトウェアによる胸部 CT 解析を用いた 3 群 PH の病態評価.
12. 第 9 回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会 (2024.8.

- 9-10 久留米) 須田理香. シンポジウム4:呼吸器疾患合併PAHの治療ゴールを考える.
13. 第9回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会(2024.8.9-10 久留米) 須田理香. ランチョンセミナー3: 実はい多い!呼吸器疾患合併PAH～治療の実際～.
14. 日本新薬株式会社社内研修会(2024.9.4 千葉) 重田文子. CTEPH・PAH治療の現状と治療方針.
15. 杉並内科医会学術講演会(2024.9.13 杉並+ Web) 巽浩一郎. COPDの診断と治療～行間を読み取るのが肝要～.
16. Change COPD Meeting(2024.9.25 Web) 巽浩一郎. COPDの診断と治療～行間を読み取るのが肝要～.
17. MSD株式会社社内学術研修(2024.9.25 千葉) 重田文子. アデムバス社内学術研修.
18. 印旛肺癌学術セミナー(2024.9.25 成田) 齋藤合. エンドポイントの優先順位で考える一次治療-特にPD-L1陰性症例に関して-.
19. 亀田総合病院講演会(2024.10.24 鴨川) 杉浦寿彦. 呼吸器内科医が診る肺高血圧症.
20. 日本新薬株式会社社内研修会(2024.10.31 千葉) 内藤亮. 3群PHの疾患と薬物治療に関して.
21. PHネットフォーラム(2024.11.12 Web) 重田文子. 間質性肺疾患に伴う肺高血圧症診療における治療最前線-トレプロスト吸入液の有用性について-.
22. MSD株式会社主催講演会(2024.11.30 新宿) 杉浦寿彦. CTEPHに関する最近の話題について.

【学会発表数】

国内学会 10学会 36回(うち大学院生4回)
国際学会 2学会 2回(うち大学院生2回)

【外部資金獲得状況】

1. 厚生労働省科学研究費「難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究」分担者: 巽浩一郎 2023-2025
2. 厚生労働省科学研究費「難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究」分担者: 鈴木拓児

2023-2025

3. 厚生労働省科学研究費「難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究」分担者: 田邊信宏 2023-2025
4. 厚生労働省科学研究費「難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究」分担者: 坂尾誠一郎 2023-2025
6. 厚生労働省科学研究費「難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究」分担者: 杉浦寿彦 2023-2025
7. 厚生労働省科学研究費「呼吸器系先天異常疾患の医療水準向上の移行期医療に関する研究」分担者: 杉浦寿彦 2023-2025
8. 日本医療研究開発機構研究費「患者レジストリ Japan PH Registry を利活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗IL-6受容体抗体適応拡大のための医師主導治験」分担者: 巽浩一郎 2021-2025
9. 日本学術振興会科学研究費 基盤(C)「Deep phenotyping 統合解析を用いた肺動脈性肺高血圧症の新規治療開発」代表者: 重田文子 2023-2027
10. 日本学術振興会科学研究費 基盤(C)「内皮血球転換を応用した難治性呼吸器疾患における革新的ワクチン療法の開発」代表者: 関根亜由美 2023-2025
11. 日本学術振興会科学研究費 若手「急性肺障害における骨髓由来間葉系幹細胞エクソソームの治療応用可能性の検討」代表者: 内藤亮 2022-2025
12. 日本学術振興会科学研究費 若手「肺高血圧症・肺線維症病態進展におけるマクロファージプログラミング」代表者: 須田理香 2023-2025
13. 日本学術振興会科学研究費 若手「肺線維症合併肺高血圧症におけるCD26/DPP4の役割」代表者: 岡谷匡 2024-2026
14. 受託研究: NPO法人 Japan PH Registry「肺高血圧症患者レジストリ Japan Pulmonary Hypertension Registry: JAPHR」代表者: 重田文子 2020-2025

●診療

・外来診療・入院診療・その他(先進医療等)

【専門外来: 肺循環障害】

・肺高血圧症

肺高血圧症センターを拠点とした包括的肺高血圧症医療チームの構成員として肺移植適応となるような重症患者の受け入れをし、指定難病・希少疾患である肺高血圧症の診断と治療に努力している。

320列CTを用いた画像診断、換気血流シンチグラフィー、心臓超音波検査、右心カテーテル検査による診断。日本インターベンショナルラジオロジー学会(日本IVR学会)IVR専門医・指導医、日本循環器学会BPA(バルーン肺動脈形成術)実施医を有し、慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する経皮的肺動脈形成術(BPA)が可能となっている。また、肺血管拡張薬による治療については、企業治験、多施設共同医師主導治験等に参加、新薬導入に積極的である。

2024年度の外来受診の新患患者は268名。内訳は、静脈血栓塞栓症140名、肺血管奇形/オスラー病22名、喀血20名。肺高血圧のみでは特発性/遺伝性肺動脈性肺高血圧症15名、膠慢性慢性血栓塞栓性肺高血圧症14名、肺疾患/低酸素血症を伴う肺高血圧症10名、原病性膠原病性肺動脈性高血圧症7名、門亢症門脈肺高

高血圧症 6 名、先天性に伴う肺高血圧症 4 名、左心系疾患に伴う肺高血圧症 3 名。紹介元別に見ると、院内紹介 総計 162 名（うち静脈血栓塞栓症が 131 名）、県外 12 名、県内医療機関 94 名。

・ 喀血

喀血に対する経カテーテル的気管支動脈塞栓術の適応を検討し、介入が望ましい症例には積極的に治療を行っている。また喀血の原因となる気管支動脈蔓状血管腫やそれ以外の肺血管奇形（肺動静脈瘻（奇形）・部分肺静脈還流異常・肺底動脈肺動脈起始症など）に対する診療も行なっている。

・ 肺動静脈瘻・オスラー病

肺動静脈瘻（奇形）に対する画像診断と経カテーテル的コイル塞栓治療を行なっている。この疾患の 3 割に合併するオスラー病（遺伝性出血性毛細（末梢）血管拡張症・HHT）には他科と協力しながら治療にあたっている。2024 年度オスラー FPF300（サリドマイド）の反復性鼻出血を有するオスラー病を対象としたプラセボ対照二重盲検比較試験及びオープン試験（第 III 相）に参加、6 症例を登録した。

検査実績

【肺循環障害の診断・治療 検査】

右心カテーテル施行：106 件

実施総数：2347 件（1983 年から）

当院医師協力のもとでの済生会習志野病院右心カテーテル施行：78 件

JRS/JCS/CVID/JATS 認定 BPA 指導施設（2019～）・IVR 認定医 / 指導医 在籍

IVR（血管内画像下治療）：78 件

内訳＊肺動脈バルーン拡張術（BPA）施行件数：24 件 実施総数：195 件

当院医師協力下での済生会習志野病院肺動脈バルーン拡張術（BPA）施行件数：25 件

肺動静脈瘻コイル塞栓術：21 件 24 病変

BAI/BAE：23 件

下大静脈フィルター：2 件

ヒックマンカテーテル留置：4 件

SVC スtent：2 件 その他：4 件

【呼吸器内科心エコー】

主に肺高血圧症専門外来・間質性肺炎専門外来の依頼に応じて実施

入院診療

【2024 年の入院患者の傾向と総括】

総入院 824 件、全体の 37% となる緊急入院が 309 件であった。うち肺循環障害は 203 名 24.7% であった。9 月 25 日、Covid-19 感染流行の影響で再編が繰り返されていたが、呼吸器内科の主病棟が陰圧室完備されたひがし棟 3 階に移転した。

右心カテーテル検査数の回復、肺移植適応評価入院の増加がみられた。

●地域貢献

地域貢献、社会貢献としては、千葉県の医療の向上を図るため基幹病院、地域プライマリーの医療者と積極的に情報交換を行っている。診断法・治療法がめざましく進歩する難治希少疾患である肺高血圧症について多くの講演を行った。

千葉大学医学部附属病院において第 10 回 HTT オスラー研究会を開催（会長 杉浦寿彦診療准教授 2024. 6. 22 千葉）、同時開催したオスラー病患者・家族交流会に参加し、情報交換を行なった。耳鼻科、脳外科、皮膚科、消化器科、それぞれの領域から参加した医師が集まり、多診療科に受診が必要なオスラー病患者の相談にのる会は患者支援のために大変有意義であると自負している。

研究領域等名：	
診療科等名：	認知行動療法センター

●はじめに

認知行動療法センターでは、臨床実践としての認知行動療法の提供に加え、研究としての認知行動療法の臨床研究、教育としての治療者の育成に取り組んでいる。精神疾患に対する対面式・オンライン式、あるいはアプリなどのデジタル・セラピューティックスを含めた認知行動療法の臨床試験を行い、新しい治療手法の開発を進めている。現在は、不安症、強迫症、うつ病、適応反応症、慢性疼痛を含む身体症状症、摂食症、注意欠如多動症、不眠症、ネット依存、適応反応症のような精神疾患に加え、閾値下うつ、不安、月経前症候群などを対象とした研究を行っている。

●教 育

・学部教育／卒前教育

認知行動生理学研究領域と連携し、医学部の2年生対象の行動科学講義（90分×16回）の一部を分担した。能動的学習（アクティブラーニング、反転授業）の手法を取り入れている。医学部の3年生対象の基礎医学ゼミで「脳と心の情報処理機能」の一部を分担した。

・卒業教育／生涯教育

- ①認知行動生理学研究領域と連携し、英国でうつ不安に対して費用対効果が高い認知行動療法を必要な人全員に提供する医療政策（Improving Access to Psychological Therapies：IAPT）をモデルとした認知行動療法の人材養成（千葉認知行動療法士トレーニングコース IAPT、2009年より）に取り組んでいる。
- ②2024年11月・12月のラコルタ柏での認知行動療法サポーター養成講座に協力した。

・大学院教育

- ①認知行動生理学研究領域と連携し、医科学修士課程講義（メンタルヘルスサポート学特論Ⅰ、Ⅱ、メンタルヘルスエクセルシオール演習Ⅰ、Ⅱ）を分担した。
- ②大阪大学大学院連合小児発達学研究科（博士後期および前期課程）の認知行動療法学の講義の一部を分担した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

認知行動生理学研究領域と連携し、教育学部で、学校認知行動療法学概論（心理的支援方法）の講義（90分×15回）を隔年で分担した。

●研 究

・研究内容

主な研究テーマは精神疾患に対する認知行動療法の効果研究であり、2024年度は下記の科研費研究課題に取り組んだ。

「逆境の小児期体験と関連する情緒と行動の問題の認知行動療法と脳MRIによる病態解明」

「パニック症への認知行動療法アプリのランダム化比較試験でのデジタル医療費用効果分析」

「医学的に説明できない身体症状（MUPS）への本邦での段階的ケア体制の開発」

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Kim BG, Kim G, Abe Y, Alonso P, Ameis S, Anticevic A, Arnold PD, Balachander S, Banaj N, Bargalló N, Batistuzzo MC, Benedetti F, Bertolin S, Beucke JC, Bollettini I, Brem S, Brennan BP, Buitelaar JK, Calvo R, Castelo-Branco M, Cheng Y, Chhatkuli RB, Ciullo V, Coelho A, Couto B, Dallaspezia S, Ely BA, Ferreira S, Fontaine M, Fouche J-P, Grazioplene R, Gruner P, Hagen K, Hansen B, Hanna GL, Hirano Y, Höxter MQ, Hough M, Hu H, Huyser C, Ikuta T, Jahanshad N, James A, Jaspers-Fayer F, Kasprzak S, Kathmann

N, Kaufmann C, Kim M, Koch K, Kvale G, Kwon JS, Lazaro L, Lee J, Lochner C, Lu J, Manrique DR, Martínez-Zalacain I, Masuda Y, Matsumoto K, Maziero MP, Menchón JM, Minuzzi L, Moreira PS, Morgado P, Narayanaswamy JC, Narumoto J, Ortiz AE, Ota J, Pariente JC, Perriello C, Picó-Pérez M, Pittenger C, Poletti S, Real E, Reddy YCJ, van Rooij D, Sakai Y, Sato JR, Segalas C, Shavitt RG, Shen Z, Shimizu E, Shivakumar V, Soriano-Mas C, Sousa N, Sousa MM, Spalletta G, Stern ER, Stewart SE, Szeszko, PR Thomas, R Thomopoulos SI, Vecchio D, Venkatasubramanian G, Vriend C, Walitza S,

- Wang Z, Watanabe A, Wolters L, Xu J, Yamada K, Yun J-Y, Zarei M, Zhao Q, Zhu X, ENIGMA-OCD Working Group, Thompson PM, Bruin WB, van Wingen GA, Piras F, Piras F, Stein DJ, van den Heuvel OA, Simpson HB, Marsh R, Cha J. White matter diffusion estimates in obsessive-compulsive disorder across 1653 individuals: machine learning findings from the ENIGMA OCD Working Group. *Mol Psychiatry*. doi: 10.1038/s41380-023-02392-6. 2024/02/07.
2. Noda Y, Asano K, Shimizu E, Hirano Y. Assessing the association between probable posttraumatic stress disorder symptoms and quality of life among emergency service workers using path analysis. *Work*, 2024(77):573-587. doi: 10.3233/WOR-220551. 2024/02/07.
 3. Kamashita R, Setsu R, Numata N, Koga Y, Nakazato M, Matsumoto K, Ando H, Masuda Y, Maral S, Shimizu E, Hirano Y. Atypical social cognition processing in bulimia nervosa: An fMRI study of patients thinking of others' mental states. *BioPsychoSocial Medicine*, 18(1) 5-5. 査読有 . 2024/02/21.
 4. Tamura M, Cage E, Perry E, Hongo M, Takahashi T, Seto M, Shimizu E, Oshima F. Understanding Camouflaging, Stigma, and Mental Health for Autistic People in Japan. In *Autism in Adulthood*. Mary Ann Liebert Inc. 2024/02/26.
 5. Matsumoto K, Hamatani S, Shimizu E. Long-term effectiveness and cost-effectiveness of guided internet-based cognitive behavioral therapy for obsessive-compulsive disorder: 24-month follow-up. *Internet Interv*. 2024 Feb 8;35:100725. doi: 10.1016/j.invent.2024.100725. eCollection. 2024/03.
 6. Sudo Y, Ota J, Takamura T, Kamashita R, Hamatani S, Numata N, Bhusal Chhatakuli R, Yoshida T, Takahashi J, Kitagawa H, Matsumoto K, Masuda Y, Nakazato M, Sato Y, Hamamoto Y, Shoji T, Muratsubaki T, Sugiura M, Fukudo S, Kawabata M, Sunada M, Noda T, Tose K, Isobe M, Kodama N, Kakeda S, Takahashi M, Takakura S, Gondo M, Yoshihara K, Moriguchi Y, Shimizu E, Sekiguchi A, Hirano Y. Comprehensive elucidation of resting-state functional connectivity in anorexia nervosa by a multicenter cross-sectional study. *Psychological Medicine*, 2024. 査読有 . 2024/03/19.
 7. Yijing Bai, Numata N, Shimizu E. Eating disorders and social media use among college students in Japan and China: a brief cross-sectional survey. *Journal of Eating Disorders*. Volume12(44). 2024/04/04.
 8. Hongo M, Oshima F, Guan S, Takahashi T, Nitta Y, Seto M, Hull L, Mandy W, Ohtani T, Tamura M, Shimizu E. Reliability and validity of the Japanese version of the camouflaging autistic traits questionnaire, *Autism Research*, 査読あり . 2024/04/25.
 9. Sasaki R, Rebecka K, Hahnel-Peeters, Shimizu E. Development of the Japanese Version of the Rape Excusing Attitudes and Language Scale and Comparison Between Rape Myth Acceptance in Japan and the U.S., *Journal of Interpersonal Violence*, 2024 online first. 査読あり . 2024/07/30.
 10. Shiina A, Niitsu T, Tomoto A, Iyo M, Shimizu E, Fujii C. Police officers' perception of mentally disordered people: a national survey in Japan. *Journal of Forensic Psychiatry and Psychology*, Volume 35, Issue 15:1-15, P866-880. 2024/08/02.
 11. Katsushima M, Shimizu E. Brief Cognitive Behavioral Therapy for Depression and Anxiety in Patients with Schizophrenia in Psychiatric Home Nursing Service: Pilot Randomized Controlled Trial. *Behavioral Sciences*, Volume 14, Issue 8. 2024/08/05.
 12. Shiohama T, Uchikawa H, Nitta N, Takatani T, Matsuda S, Alpen Ortug, Takahashi E, Sawada D, Shimizu E, Fujii K, Aoki I, Hamada H. Brain morphological analysis in mice with hyperactivation of the hedgehog signaling pathway. *Frontiers in Neuroscience*, Volume 18. 2024/09/03.
 13. Okawa S, Ronald M. Rapee. Takahashi T, Tessa Reardon, Arai H, Shimizu E, Cathy Creswell. Psychometric Properties of the Japanese Translation of the Parent Overprotection Measure for Mother and Father Reports. *Child Psychiatry & Human Development*. 2024/09/09.
 14. He J, Kurita K, Yoshida T, Matsumoto K, Shimizu E, Hirano Y. Comparisons of the amplitude of low-frequency fluctuation and functional connectivity in major depressive disorder and social anxiety disorder: A resting-state fMRI study. *Journal of Affective Disorders*, 362, P425-436. 2024/10/01.
 15. Horita H, Seki Y, Yamaguchi T, Shiko Y, Kawasaki Y, Shimizu E. Videoconference-Delivered Cognitive Behavioral Therapy for Parents of Adolescents With Internet Addiction: Pilot Randomized Controlled Trial. *JMIR Pediatrics Parenting*, Volume 7:e60604. doi: 10.2196/60604. 査読あり . 2024/10/03.
 16. Nagano T, Kurita K, Yoshida T, Matsumoto K,

- Ota J, Ritu Bhusal Chhatkuli, Shimizu E, Hirano Y. Comparison of Resting-State Functional Connectivity Between Generalized Anxiety Disorder and Social Anxiety Disorder: Differences in the Nucleus Accumbens and Thalamus Network. *Brain Connectivity*, Volume 14, Issue 8. 2024/10/14.
17. Ohashi S, Urao Y, Fujiwara K, Koshiba T, Ishikawa S, Shimizu E. Feasibility study of the e-learning version of the “Journey of the Brave.” a universal anxiety-prevention program based on cognitive behavioral therapy. *BMC Psychiatry*, 24, 806. 2024/11/14.
 18. Oshima F, Takahashi T, Tamura M, Guan S, Seto M, Hull L, Mandy W, Tsuchiya K, Shimizu E. The association between social camouflage and mental health among autistic people in Japan and the UK: a cross-cultural study. In *Molecular Autism*, Vol. 15, Issue 1. Springer Science and Business Media LLC. 2024/01/04.
 19. Tsubaki K, Shimizu E. Psychological Treatments for Alexithymia: A Systematic Review. *Behavioral Sciences*, Volume 14, Issue 12:1173. 2024/12/07.
- 【雑誌論文・和文】**
1. 清水栄司, 浦尾悠子. 児童期・青年期の不安と「勇者の旅」プログラムの概要. 精神療法 (増刊 11 号) 『児童期・青年期のメンタルヘルスと心理社会的治療・支援』, P126-132. 査読なし. 2024/06.
 2. 吉田斎子, 川上寿郎, 松澤朱里, 清水栄司. 精神医学 66 巻 5 号, P543-546. 増大号特集「精神科診療における臨床評価尺度・検査を極める－エキスパートによる実践的活用法」Ⅱ章「疾患別の評価尺度・検査・不安症群、全般不安症の評価尺度－GAD-7, HAM-A, PSWQ, STAI, SCAS」. 2024/05.
- 【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】**
1. 清水栄司. 意欠如・多動症、自閉スペクトラム症と認知行動療法. 令和 5 年度産業保健・労務安全衛生関係者に対する専門的研修（セミナー）. 千葉産業保健総合支援センター. 2024/01/25.
 2. 清水栄司. 低強度認知行動療法とは？. 千葉大学対人援助職を支援するメンタルサポート医療人とプロの連携養成 第 2 回 CBT ラーニング公開フォーラム（オンライン）. 2024/02/12.
 3. 清水栄司. 産業保健活動で役立つ認知行動療法の基礎知識について. 産業医研修会. 千葉県医師会館. 2024/03/02.
 4. 清水栄司. 認知行動療法でこころの健康づくりを今日から始めよう. 墨田漢方健康セミナー特別編「こころと漢方」. 千葉大学墨田サテライトキャンパス, 東京. 2024/03/09.
 5. 座長：清水栄司, 富永敏行. シンポジスト：富永敏行, 林田圭祐, 三好未来, 高梨利恵子. 『身体症状症の発達特性と性格特性シンポジウム』『身体症状症と不安と発達特性～認知行動療法の観点を含めて～』. 2024 年度日本不安症学会 / 日本認知療法・認知行動療法学会合同開催. 福岡市. 2024/07/20.
 6. 田口佳代子, 本郷美奈子, 吉田斎子. こころのセルフケアこばなし. 墨田漢方健康セミナー特別編「こころと漢方」. 千葉大学墨田サテライトキャンパス, 東京. 2024/03/09.
 7. 清水栄司. ワークショップ 1「不安症への認知行動療法」. 日本認知・行動療法学会第 50 回記念大会. 横浜. 2024/09/22.
 8. 清水栄司. 教育講演 9：産業歯科保健部会教育講演兼産業歯科保健部会後期研修会「職域における慢性疼痛や身体違和感などの訴えにどう対応するか？医科での対応（認知行動療法）」. 第 34 回日本産業衛生学会全国協議会. 千葉. 2024/10/05.
 9. 清水栄司. 幸福感とメンタルヘルスと認知行動療法. 第 7 回墨田区・千葉大学区民向け公開講座. 千葉大学墨田サテライトキャンパス. 2024/10/20.
 10. 清水栄司. 認知行動療法の基礎. 令和六年度認知行動療法サポーター養成講座. 教育福祉会館ラコルタ柏. 千葉. 2024/11/03.
- 【学会発表数】**
- 国内学会 12 回（うち大学院生 0 回）
国際学会 11 回（うち大学院生 0 回）
- 【外部資金獲得状況】**
1. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「逆境的小児期体験と関連する情緒と行動の問題の認知行動療法と脳 MRI による病態解明」代表者：清水栄司 2022-2024
 2. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「学校の教員に必要な脳科学・精神医学・心理学等の e-learning 開発と効果検証」分担者：清水栄司 2022-2026
 3. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「ネット依存症者に対する作業活動を介した遠隔治療のパイロット・ランダム化比較試験」分担者：清水栄司 2023-2025
 4. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「精神疾患の親をもつ若年成人に対する遠隔心理教育プログラムの開発と効果検証」分担者：清水栄司 2023-2025
 5. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「養護教諭の特質を活かした WEB ストレスチェックシステムと教育相談に関する実践的研究」分担者：清水栄司 2023-2025
 6. 共同研究・経済産業研究所「更年期女性の閾値下うつに対する認知行動変容プログラムの効果検証」代表者：清水栄司 2024

7. 共同研究・経済産業研究所「不安の問題を有する勤労者に対する認知行動変容アプローチを用いたWEB心理教育の有効性：ランダム化比較研究」代表者：清水栄司 2023-2024
8. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「子どものADHDに対するオンライン認知行動療法の待機群を対照とするランダム化比較試験」分担者：吉田斎子 2023-2025
9. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「全般不安症のオンライン認知行動療法の通常診療群を対照とするランダム化比較試験」代表者：吉田斎子 2023-2026
10. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「子どものADHDに対するオンライン認知行動療法の待機群を対照とするランダム化比較試験」代表者：吉田斎子 2023-2026

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

外来診療（認知行動療法の提供）

●その他

清水栄司. 健康 chiba81 号. 働く人の健康管理. 公益財団法人ちば県民保健予防財団. 千葉. 2024/04/01.

清水栄司. NHK E テレ「チョイス@病気になったとき」. 「ストレスは減らせる！簡単セルフケア術」(再放送). 2024/04/05.

清水栄司, 浦尾悠子. NHK「きょうの健康」. 『春のメンタル不調』第1～4回. 2024/05/06-09.

清水栄司. 健康 chiba82 号. 働く人の健康管理. 公益財団法人ちば県民保健予防財団. 千葉. 2024/07/01.

佐々木利奈, 清水栄司. 千葉大学ニュースリリース. 性犯罪に対する偏見を測定する日本語版尺度を開発～日米および世代における偏見の受け入れやすさ（受容度）の違いを比較検証～. 2024/08/05.

和俊冰, 平野好幸, 清水栄司. 千葉大学ニュースリリース. うつ病と社交不安症に関わる脳機能異常の解明～安静時 fMRI により病態の共通点と相違点が明らかに～. 2024/08/27.

清水栄司. NHK E テレ「チョイス@病気になったとき」アンコール放送. 2025/01/12.

清水栄司. 東京新聞「紙上診察室～パニック症が再び悪化～」. 2025/01/21.

清水栄司. NHK「チョコちゃんに叱られる」『人見知りをするのはなぜ?』. 2025/01/31.

勝嶋雅之, 清水栄司. 千葉大学ニュースリリース. 統合失調症の通常診療に加えたオンライン認知行動療法が有効～患者さんのアクセシビリティを改善した新たな治療の選択肢へ～. 2024/02/07.

清水栄司. NHK ラジオ「マイあさ」健康ライフ『早めに気づいて こころの不調(1)～(5)』. 2025/02/10-14.

研究領域等名：	
診療科等名：	移行期医療支援センター

●はじめに

移行期医療支援センターは、小児期から慢性疾患を抱える患者さんが成人期に移行する際、適切な医療を継続的に受けられるよう、2019年に千葉県から委託を受け当院に設立されました。センターでは小児診療科と成人診療科で連携し、患者さんやご家族の相談対応や患者さんの自律（自立）支援、小児期から成人期へ移行するにあたっての医療機関同士・各診療科間の連携支援、支援者向けの研修会を開催し、移行期支援の質向上を目指しています。

医療機関だけでなく、福祉分野など関係する多職種、多機関と連携し、医療を必要とする子どもたちが、自立・自律した成人として成長し、よりよい人生を送れるように支援していきます。

●教 育

・学部教育／卒前教育

千葉大学教育学部養護教諭コース3年生を対象に移行期支援の必要性やトランジション看護外来の実際を講義した。（渡邊朋、湯口梓）

千葉県立保健医療大学看護学部2年生の小児がん看護に関する講義において、移行期支援の必要性について講義した。（渡邊朋）

・卒後教育／生涯教育

【2024年度 千葉県移行期医療支援センター研修会】移行期の患者支援に携わる医療、福祉の支援者に向けた研修会を行った。「大人になるためのステップ ー性教育からプレコンセプションケアまでー」（金子明夏）

●研 究

・研究業績

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 「小児がんの晩期合併症と長期フォローアップ～将来のために知っておきたいこと～」令和6年度小児・AYA世代がんの講演会・交流会 講師 2024年12月7日（日野もえ子）
2. 「造血細胞移植の現状ー小児腫瘍性および非腫瘍性疾患」第57回日本小児内分泌学会学術集会 シンポジウム 2024年10月10日（日野もえ子）
3. 「千葉県移行期医療支援センターの4年間の取り組みと今後の課題」日本小児科学会 2024年4月19日（日野もえ子）
4. 「小児がん長期フォローアップから始まった移行期支援の取り組み」がんの子供を守る会関西支部 公開セミナー 2024年7月7日（日野もえ子）
5. 「小児がん長期フォローアップから始まった移行期支援の取り組み」認定NPO法人ミルフィーユ小児がんフロンティアーズ講演会 2024年6月2日（日

野もえ子、渡邊朋）

6. 「千葉県移行期医療支援センターの取り組みと課題」日本成人先天性心疾患学会主催 ACHD NIGHT 2024年11月15日（濱田洋通、市原章子）

【学会発表数】

国内学会 2学会 2回（うち大学院生0回）
国際学会 0学会 0回（うち大学院生0回）

【外部資金獲得状況】

1. 厚労科研基盤C（24K13901）「移行期医療支援におけるアウトカム指標の探索」代表者：日野もえ子 2024-2025
2. 日本学術振興会基盤B「AYA世代がん患者・サバイバーの経験するマイクロアグレッションの実態解明と学際的支援モデル構築」分担者：日野もえ子 2024
3. 文科省科学研究費補助金基盤C（24K13986）「成人診療科における小児期発症慢性疾患患者への成人移行支援ガイドラインの作成」分担者：濱田洋通 2024-2027

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

【トランジション看護外来】

大人になっても医療を必要とする患者さんが自身の病気を理解し、健康管理を行いこれからのライフイベントを乗り越えていけるように自立（自律）支援を行う。（渡邊朋、湯口梓、遠藤健司）

2024年度トランジション看護外来の総数：17件（継続事例含む）

小児がん長期フォローアップ外来22件（継続事例含む）

●地域貢献

【他センターの移行期医療支援センター 立ち上げ支援】

- ・石巻赤十字病院 ZOOM によるヒアリング 2024 年 9 月 6 日（日野もえ子、渡邊朋、湯口梓）
- ・愛媛大学来訪 移行期医療支援センター視察&自立支援事業についてのヒアリング 2024 年 12 月 5 日（濱田洋通、日野もえ子、金子明夏、萩原真由美、渡邊朋、湯口梓、前田はる香、市原章子、江島咲紀、山本さおり）
- ・三重大学・三重県庁来訪 移行期医療支援センター設置に向けたヒアリング 2024 年 12 月 11 日（濱田洋通、日野もえ子、萩原真由美、渡邊朋、湯口梓、市原章子、江島咲紀、馬場由美子、山本さおり）

【情報発信】

- ・愛媛大学「移行期医療支援センターについて」講演 2024 年 9 月 25 日（濱田洋通、市原章子）
- ・長生保健所主催移行期講演会 「移行期ってなに？」2024 年 12 月 25 日～2025 年 2 月 17 日動画配信（江島咲紀、湯口梓）
- ・習志野保健所主催研修会 『移行期医療ってなに？』2025 年 3 月 1 日～31 日動画配信（江島咲紀、湯口梓）

●その他

【症例検討会】

- ・こども病院例示の症例に関して、移行期医療支援センター各スタッフより情報提供、および移行支援の方向性等について見解を提示、協議を行った（1 回）

【情報交換会】

- ・成人移行支援情報交換会参加 千葉県こども病院主催 神奈川県立こども医療センター、長野県立こども病院で成人移行支援での成人移行支援の担当者 2025 年 10 月 25 日（日野もえ子、江島咲紀、尾形穂乃香）
- ・全国移行期医療支援センター連絡会に出席（2 回）
症例報告や、以降の実際などについて医師中心に話合った。
- ・全国 9 箇所移行期医療支援センターコーディネーター連絡会に出席（4 回）
実務者による情報交換会を行った。
- ・医療的ケア支援部会・医療的ケア専門部会・ワーキングに出席（5 回）
- ・千葉県慢性疾患児童等地域支援協議会に出席
- ・厚労省移行期医療支援体制実態調査に協力（3 回）

研究領域等名：	_____
診療科等名：	医師キャリア支援センター

●はじめに

医師キャリア支援センターは、自身のライフステージの変化や家庭の事情、病気などで働き続けることが難しくなったときにも、柔軟に対応できるよう、多様な働き方を実現するしくみや環境を整え、仕事が続けられる職場づくりに取り組みます。そして、一人ひとりの医師のキャリア形成を支援していきます。

●研 究

・研究業績

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 医師キャリア支援センター主催シンポジウム開催：
「育て方改革・学び方改革」（2024年11月18日（月））
医学部附属病院・ガーネットホール

●地域貢献

- ・千葉県医師会男女共同参画推進委員会副委員（浅沼克彦）
- ・千葉県医師会主催 第6回なのはな交流会（2024年11月2日（土））の開催協力
- ・千葉大学関連病院会議のサポートによる千葉県医師キャリアサポートブックの作成
学生や研修医向けに配布し、千葉県で働く若手医師の増加を目指すために発行し、「育児サポートなどがわかりやすい」「病院を選ぶ際の参考になる」などの声がある。
掲載する病院の数は年々増加しており、2023年度版は17件であったが、2024年度版は25件、2025年度版は39件となった。

●その他

- ・千葉県の医師等就労支援事業補助金を活用した、育児・介護等支援に係る代替医師雇用枠制度の運用。
- ・育児サポートの利用状況に関するアンケートの実施（2024年10月16日（水））。

研究領域等名：	
診療科等名：	ワクチンセンター

●はじめに

ワクチンセンターは、2021年2月に設置された。世界的流行となっている COVID-19 対策として、COVID-19 ワクチンが開発され、医療従事者は優先接種対象となった。そして、COVID-19 ワクチンは人に対して初めて使用されるメッセンジャー RNA ワクチンであったことにも注目された。当センターは、安全性と有効性を確認しながらワクチン接種を進めることが求められた。加えて、ワクチン研究も同時に進め、アカデミアとして情報発信することも目的とした。

2023年5月より5類感染症に変更され、COVID-19の流行も一定の目処がたった。政府の方針も変更され、全額公費による COVID-19 ワクチン接種は2024年3月で終了した。これに伴い、千葉大学病院ではワクチンセンターが主導するワクチン接種は終了した。

しかしながら、COVID-19の流行は現在も続いており、新たな変異株の出現の可能性もある。このため、これらの変異株に対応したワクチン接種が行われることも想定している。また、みらい粘膜ワクチンセンターが新規に開発するワクチンの治験にも対応できる状態である。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学研究院「ワクチン学・感染症学特論 Essential」を担当した。

感染制御部／感染症内科での教育を参照。

・卒後教育／生涯教育

特になし。

感染制御部／感染症内科での教育を参照。

・大学院教育

特になし。

感染制御部／感染症内科での教育を参照。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

特になし。

感染制御部／感染症内科での教育を参照。

●研 究

・研究内容

直近では2023年に実施したワクチンの感染予防への影響を論文化した。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

- Igari H, Sakao S, Ishige T, Saito K, Murata S, Yahaba M, Taniguchi T, Suganami A, Matsushita K, Tamura Y, Suzuki T, Ido E: Dynamic diversity of SARS-CoV-2 genetic mutations in a lung transplantation patient with persistent COVID-19. Nat Commun. 2024;15(1):3604.
- Yahaba M, Asano H, Saito K, Murata S, Kawasaki K, Chiba H, Yokota S, Yoshikawa H, Herai Y, Yamagishi K, Shiko Y, Matsushita K, Hanaoka H, Taniguchi T, Yokote K, Nakajima H, Ido E, Igari H: Antibody Responses and Infection Prevention following the Sixth Vaccination using the BA.1 bivalent COVID-19 vaccine among Healthcare workers during the XBB variant Dominance in Japan. Jpn J Infect Dis. 2024;Nov 29.
- Aoki A, Iwamura C, Kiuchi M, Tsuji K, Sasaki A, Hishiya T, Hirasawa R, Kokubo K, Kuriyama S, Onodera A, Shimada T, Nagaoka T, Ishikawa S, Kojima A, Mito H, Hase R, Kasahara Y, Kuriyama N, Nakamura S, Urushibara T, Kaneda S, Sakao S, Nishida O, Takahashi K, Kimura MY, Motohashi S, Igari H, Ikehara Y, Nakajima H, Suzuki T, Hanaoka H, Nakada TA, Kikuchi T, Nakayama T, Yokote K, Hirahara K: Suppression of Type I Interferon Signaling in Myeloid Cells by Autoantibodies in Severe COVID-19 Patients. J Clin Immunol. 2024;44(4):104.
- Taniguchi T, Homma T, Tamai Y, Arita Y, Fujiwara M, Kuroishi N, Sugiyama K, Kanazu S,

Maruyama A: Clinical characteristics and COVID-19-related outcomes of immunocompromised patients receiving tixagevimab/cilgavimab pre-exposure prophylaxis in Japan. J Infect Chemother. 2024;8:S1341-321X(24)00185-5.

【学会発表数】

国内学会 4回

国際学会 0回

【外部資金獲得状況】

1. AMED 日本医療研究開発機構 委託研究開発費
「結核低まん延状況における連携強化及び技術革新による結核対策に関する研究」分担者：猪狩英俊 2023-2025
2. AMED 日本医療研究開発機構 委託研究開発費
「国内流行 HIV 及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究」分担者：猪狩英俊 2022-2024

●診療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

抗体価ワクチンの接種を行った。

ワクチンの内容はファイザー2価 mRNA ワクチン（武漢株と BA1）。

821 名の職員にワクチン接種をした。

●地域貢献

1. 千葉県千葉市の感染症発生動向委員会の委員長として参加している。
2. 千葉県が主催する COVID-19 の会議に委員として出席した。
3. 医療系大学間共用試験実施評価機構「医学生臨床実習前 OSCE 実施課題毎の到達基準設定作業」講師
4. 千葉県松戸保健所「コロナを振り返っての、今後の新興感染症対策について」検討会オブザーバー及び講演会講師
5. 習志野医師会「新興感染症や AMR など」講師
6. 千葉テレビ「コロナ5類移行1年“経験どう生かすか”」取材
7. 千葉日報「コロナ第11波対策を 県内110週連続、感染増」取材
8. 毎日新聞「第11波？感染ピークはこれから・周囲に配慮し対策を」取材
9. 朝日新聞社「COVID-19 5類移行後の保険診療等について」取材

研究領域等名：	
診療科等名：	超 音 波 セ ン タ ー

●はじめに

当センターは超音波機器を通して「より良い医療」を提供することを目的として2021年より新たに設立されました。

超音波検査は放射線の被爆がなく、患者さんへの体の負担が少ないため、繰り返し行うことができる検査です。また近年の機器の改良と超音波用の造影剤の臨床応用に伴い、多くの臨床的な情報を得ることが可能となり、さらには超音波をガイドとした組織採取や薬液注入、熱凝固処置などの処置や治療にも応用されており、日常臨床において必要不可欠な診療ツールとなっております。

そのような中で複数の診療科やメディカルスタッフと連携を取りながら、包括的な超音波検査機器管理の下に超音波を用いた安全かつ高水準な検査、治療を目指し、良質な医療に貢献してまいります。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部教育として、医学部5年生の消化器内科の実習において超音波実習を行っています。

・卒業教育／生涯教育

初期研修の一環として超音波の研修を行っています。

また、NPO 法人千葉医師研修支援ネットワークと協力し、「千葉県キャリアアップ・就職支援センター主催腹部ハンズオンセミナー」を実施しました。

・大学院教育

大学院教育としては超音波の専門的知識の理解を深め、専門的技術の教育を行い、将来の超音波を担うリーダーの輩出のために教育を行っています。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

フロンティア医工学センターにて工学部の大学院生の教育に協力しています。

●研 究

・研究内容

効率的な検査、治療を行うことで、より多数の症例を蓄積し、臨床試験部との連携や新しい機器等による臨床研究の促進を可能とすることを目標としています。

また、千葉大学フロンティア医工学センターと協力して、千葉大学国際高等研究基幹 研究支援プログラム次世代展開型の研究として「超音波病理学の創始生と非侵襲マルチスケール定量診断法の確立」に取り組み、AIを組み入れた「肝線維化の定量診断を目的とした超音波パラメトリックイメージの深層学習」などの最先端の研究に取り組んでいます。また乳腺外科では Philips 社と共同研究として「乳癌患者の転移陽性腋窩リンパ節に対する術前化学療法施行時におけるバーチャルソノグラフィの有用性を検討する多施設共同前向き研究」に取り組んでいます。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Sasaki H, Takaoka H, Yoshida K, Matsumoto M, Nishikawa Y, Noguchi Y, Aoki S, Suzuki K, Yashima S, Kinoshita M, Suzuki-Eguchi N, Takanashi S, Matsumiya G, Kobayashi Y. Preoperative mitral valve annulus area size is an important factor in avoiding functional mitral stenosis after mitral valve repair. J Echocardiogr. 2024 Nov 21.
2. Suzuki K, Sasaki H, Takaoka H, Yoshida K, Matsumoto M, Nishikawa Y, Aoki S, Noguchi Y, Yashima S, Suzuki-Eguchi N, Kinoshita M, Hashimoto R, Ikeda J, Kobayashi Y. Case of Infective Endocarditis with Aneurysmal Perforation of Both Aortic and Mitral Valve Leaflets. Circulation Reports 2024 in press.
3. Yoshida K, Sasaki H, Takaoka H, Nishikawa Y, Aoki S, Suzuki K, Yashima S, Suzuki-Eguchi N, Kinoshita M, Kanaeda T, Matsusaka K, Kohno H, Matsushita K, Kobayashi Y. Rare Favorable Surgical Outcome Obtained in Löffler Endocarditis With Severe Mitral Valve Regurgitation. Circ Rep. 2024;6(6):230-231
4. Yoshida K, Sasaki H, Takaoka H, Hashimoto

R, Kawasaki K, Matsumiya G, Matsushita K, Kobayashi Y. Primary Severe Pulmonary and Tricuspid Valve Regurgitation in an Adult Patient. CASE (Phila). 2024 Feb 5;8(3Part B):265-272.

5. Miura K, Takaoka H, Ota M, Irie R, Ota J, Noguchi Y, Nishikawa Y, Yoshida K, Suzuki K, Aoki S, Yashima S, Kinoshita M, Suzuki-Eguchi N, Sasaki H, Kobayashi Y. Utility of Computed Tomography for the Initial Detection and Follow-up of Silent Coincidence of IgG4-Related Pericarditis, Periaortitis, and Coronary Arteritis. Circ Rep. 2024 Jan 16;6(2):28-29.
6. Takahashi K, Ohyama H, Ohno I, Kato N. Stent Deployment Without Tract Dilation in Endoscopic Ultrasound-Guided Hepaticogastrostomy Using a Novel Partially Covered Metal Stent With a Super-Slim Stent Delivery System: A Case Report. Cureus. 2024 May 16;16(5):e60406.

【単行書】

1. 乳房超音波&マンモグラフィ 一門一答、病変の見極めに“必ず”役立つエッセンス 明石定子編、Q08 乳房内リンパ節はどのようにみえますか？、分担執筆、p42-43、Gakken 2024年10月2日発売

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. シンポジウム 16 弁膜症のストラテジー決定のための画像診断 佐々木晴香, 高岡浩之, 與子田一輝, 青木秀平, 鈴木克也, 八島聡美, 鈴木紀子, 木下真己子, 高梨秀一郎, 小林欣夫. Echocardiographic Indexes for Determining the Optimal Timing of Mitral Valve Plasty for Degenerative Mitral Regurgitation in Japanese Patients.
2. 第70回心エコー研究会(2024/5/15, web) 佐々木晴香. 心エコー上達の近道ー心電図を味方につけようー
3. 次世代SHD治療のアップデート in Niigata (2024/6/27, 新潟) 佐々木晴香. 僧帽弁形成術における画像診断の役割
4. 弁形成セミナー日本心臓弁膜症学会“人工腱索 How to and why”(2024/6/29, 宮崎) 佐々木晴香. 弁形成道場 この腱索どこにつけるの？
5. 医療連携講演会～弁膜症治療～(2024/8/28, 成田) 佐々木晴香. TEER治療に必要なTTE, TEE術前

評価

6. 第40回日本核医学技術学会関東地方会総会(2024/5月、千葉) 特別講演 全て見せます、千葉大学病院で培った乳がんの超音波画像診断～1mm大の超早期乳がんの検出から進行乳がんの病態に対応する眼を持つ～ 榊原淳太
7. 日本超音波医学会第97回学術集会(2024/5月、横浜) パネルディスカッション 乳腺2 乳房2nd Look USの一工夫 磁場空間におけるMRI detected lesionに対する乳房2nd look US～2通りのアプローチ～ 榊原淳太、藤本浩司、高田護、長嶋健、大塚将之
8. 第52回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会(2024/11月、札幌) アフタヌーンセミナー2 微小病変から進行乳癌まで網羅する、超音波画像診断とガイド下生検の実際～ターゲット生検による病理組織像で紐解かれた超音波の技術とは？～ 演者：榊原淳太
9. 千葉若手乳腺腫瘍定期集会(2024年7月26日) 共催：アストラゼネカ株式会社 最新のトピックス 乳癌領域における磁場空間を用いた超音波検査 榊原淳太

【学会発表数】

国内学会 22回(うち大学院生15回)

国際学会 1回(うち大学院生1回)

【外部資金獲得状況】

1. 基盤研究B「超音波病理学の基盤となる総合生体物性データベースによる肝疾患の非侵襲定量評価」分担者：近藤孝行 2024

【受賞歴】

1. 第273回日本循環器学会関東甲信越地方会 Clinical research award 優秀賞(2024年9月7日, 東京) 與子田一輝, 佐々木晴香, 高岡浩之, 松本萌, 西川侑成, 野口靖允, 青木秀平, 鈴木克也, 八島聡美, 木下真己子, 鈴木紀子, 川崎健治, 松下一之, 小林欣夫. 奇異性低流量低圧較差大動脈弁狭窄症における経皮的動脈弁置換術前後の特異的左室心筋仕事量変化の意義
2. 第14回日本心臓弁膜症学会学術集会 最優秀演題賞(2024年12月20日-21日, 長崎) 佐々木晴香, 高岡浩之, 阿部衣里子, 小林欣夫, 高梨秀一郎. 心エコーを用いた器質性僧帽弁逆流に対する僧帽弁形成術介入時期についての検討

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

外来診療

超音波検査（造影、パルスドプラ、B-mode、肝硬度測定）

患者合計：28,740 人

単価合計：164,227,870 円

入院診療：

超音波検査（造影、パルスドプラ、B-mode、肝硬度測定）

ラジオ波焼灼療法

超音波ガイド下生検

負荷心エコー

経食道エコー

患者合計： 人

単価合計： 円

研究領域等名：	
診療科等名：	周術期管理センター

●はじめに

周術期管理センターは、『多職種が連携し周術期の安全性・快適性を向上させ、不安なく手術を受けていただく』をミッションとして2014年4月に発足し、多職種による系統的かつ効率的な周術期管理システムを構築し、安全かつ快適な周術期管理を実践または支援することを目的としている。麻酔科医、外科医、歯科医、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養管理士、臨床工学技士、臨床検査技師、クラーク、事務職員から構成される周術期管理センター会議では、ミッション達成のために、活動方針の審議や情報共有を定期的実施している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

医学部5年次、6年次に実施される麻酔・疼痛・緩和医療科のアドバンスドCCにおいては、周術期管理センター内の周術期受付、薬剤師面談、看護師周術期面談、麻酔科医周術期外来を実際に見学し、多職種による役割分担とその臨床的有用性を理解できる工夫を行っている。

・卒後教育／生涯教育

周術期管理センタークラークに対し、手術部看護師による周術期管理の講義を定期的実施している。また、HCUにおいては、各診療科から術後管理に重要な患者管理ポイントを講義している。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

千葉大学看護学部2年次講義『健康障害と看護Ⅰ：麻酔と医学的患者管理』においては、周術期管理センターの活動を紹介し、周術期管理における多職種連携の重要性と看護師の役割を講義している。

●研 究

・研究内容

周術期管理センターによって導入されたプロトコルに基づいてMINS、VTEに関する経時的なデータ収集、解析を行っており、2回の日本麻酔科学会での発表を行うことができた。今後も継続予定であり、MINSに関しては麻酔科から関連する内容の科研費複数申請することにつながっている。今後HCUでのデータ採取も予定しており、周術期管理センターを中心とした運営により以前は難しかった術後のデータを活用した研究計画推進に繋がっていくことを期待している。

・研究業績

【単行書】

1. 柴田みづほ ほか：周術期の薬学管理 改訂第3版，一般社団法人日本病院薬剤師会監修，南山堂，東京，2024.

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 柴田みづほ：薬物治療を支える薬剤師 - 周術期医療

における薬剤師の役割. 第122回千葉大学薬剤師卒後教育研修講座，千葉（2024.9.15）

2. 柴田みづほ：周術期薬剤業務を開始し医療安全・医薬品適正使用に貢献しよう！～成功施設から学ぶ～質の高い周術期医療をめざした周術期薬剤業務とそのアウトカム. 第34回日本医療薬学会年会，千葉（2024.11.2-4）

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

術後疼痛管理加算の取得を2022年度までは各患者1日分のみ算定していたが、2023年度から3日分加算取得し、加算算定が約3倍になっている。

また、対象診療科を順次拡大する方針としている。

研究領域等名：	
診療科等名：	千葉県肝疾患相談センター

●はじめに

千葉県肝疾患相談センターでは、千葉県における肝疾患診療の均てん化・医療水準の向上を図るため、肝疾患についての医療情報の提供、医療従事者や地域住民を対象とした研修会や講習会の案内、相談支援等を行っている。2024年は毎週火・水・木曜日だった相談日を平日全日可能に変更し、電話・メール相談の対応を行い、適切な肝疾患医療に結びつくように情報提供を行った。

内科医師、外科医師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、千葉県疾病対策課を含めた、多職種チームで定期的なミーティングを行っている。それぞれの専門の立場からの意見を踏まえて最適な肝疾患対策についての方策を講じている。

●教 育

・卒後教育／生涯教育

肝炎ウイルス治療に係る診断書作成研修会の開催

C型肝炎ウイルス治療に関する、診断書作成については、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医に通常は限定される。それ以外の医師でも作成できるようにし、幅広い患者さんの治療に繋げることを目的とした、「ウイルス性肝炎の公費助成に係る診断書作成研修会」を実施した（2024年度は2回実施した）。副センター長が講師を担当した。

・その他（他学部での教育、普遍教育等）

当センターでは、厚生労働省からの通知に基づき、肝炎医療コーディネーターの養成、継続研修を実施している。肝炎医療コーディネーターには、肝炎患者等が適切な肝炎医療や支援を受けられるように、医療機関、行政機関その他の地域や職域の関係者間の橋渡しを行う役割がある。千葉県肝疾患相談センターでは千葉県と協働し研修会を行なっている。2024年度は千葉県庁疾病対策課と協力し、医療従事者・患者・肝炎医療コーディネーター向け研修会「肝炎医療コーディネーター養成・継続研修会」、「肝炎医療コーディネーター研修会」を実施した。昨年に続き養成研修会でオンデマンド配信を行った。いずれも副センター長が講師を担当した。

●研 究

・研究内容

要介護ウイルス肝炎患者の受診促進を見据えた介護支援専門員アンケート調査－千葉県内の特定地域をターゲットとした microelimination の取り組み－（研究成果は肝臓学会総会 2025 へ演題応募を行った）

我々は大学病院や近隣地域における啓蒙活動を行いつつ、千葉県内の特定地域（香取地区）をターゲットとして地域の中核病院、自治体を巻き込んだ肝炎対策を講じている。中核病院内での elimination 促進（陽性者拾い上げ、専門外来の立ち上げ）に加え、地元医師会・市役所と連携し、肝炎ウイルス検診の実施啓発、陽性者に対する肝臓専門医受診を勧奨する取り組みを積極的に行っている。こうした活動のさらなる強化として要介護者をはじめとする社会的弱者に対するソーシャルインクルージョン（社会的包摂）の概念を肝炎対策においても認識することが重要と考えた。今回我々は介護支援専門員（ケアマネジャー）のウイルス性肝炎に関する認識を評価し、肝炎患者拾い上げ強化に結びつけるべくアンケート調査を実施した。香取市役所の協力を得て、地域のケアマネジャーを対象に、B型肝炎およびC型肝炎の認識、肝炎に関する医師との連携状況、連携先の医師の種別、肝炎に関する関心の有無について全5項目で調査を行った。

・研究業績

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 2024年12月7日 香取市主催の香取市健康講演会

「肝臓のことを正しく知ろう」

2. 2024年12月23日 肝炎医療コーディネーター養成研修会「肝疾患で覚えておきたい知識」

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

当センターでは、肝炎診療を受ける患者さんに対する医療費助成制度活用の促進・啓発を行っている。2024年度は、厚生労働省の進める、肝がん・重度肝硬変医療費助成制度の活用促進の強化を行った。

千葉県疾病対策課と協力し、千葉県民向けの制度説明用のリーフレット、デジタルサイネージ掲示用の資料を作成した。病院内のモニターに掲示を開始し、利用促進に貢献した。消化器内科に通院中の患者さんに対しても積極的な声かけを行った。

●地域貢献

患者・患者家族向け講演会「関東地区代表市民公開講座」「肝がん撲滅運動市民公開講座」「肝臓病教室・家族支援講座」の開催をした。

千葉県一般市民向けイベント「千葉県誕生 150 周年記念行事フィナーレイベント」において、厚生労働省「知って、肝炎プロジェクト」と共催し、肝疾患の普及啓発活動を行なった。市民向けに肝硬度・握力測定の体験会についても同イベント内で実施した。

香取市主催の「香取市健康講演会」で講演を行った。

市民向けの講座の主催に際しては、チラシの配布、新聞、駅でのポスター掲示等での積極的な集客を行なった。その結果 2 月の家族支援講座では、過去最大の 100 名以上の参加者を得て、効果的な啓発活動を行うことができた。

●その他

肝炎対策に係る意見交換会の開催（肝炎情報センターと連携の上で開催を行った）

日時：令和 6 年 9 月 6 日（金）17：00～18：00

場所：千葉大学（亥鼻キャンパス）医学系総合研究棟 4 階会議室 2

参加人数：肝炎対策推進室（4）、肝炎情報センター（3）、千葉大学病院千葉県肝疾患相談センター（3）、千葉県健康福祉部疾病対策課（4）、千葉県健康福祉部健康づくり支援課（1）、薬害肝炎東京原告団（1）、全国 B 型肝炎訴訟東京原告団（3） 計 19 名

研究領域等名：	
診療科等名：	未来粘膜ワクチン研究開発センター

●はじめに

「未来粘膜ワクチン研究開発センター」は、持続可能性社会構築に貢献できる環境とヒトに優しい未来粘膜ワクチンの開発研究を目指し、附属病院内に整備された。本センターでは、附属病院、医学研究院、真菌医学研究センターの教員が連携し、未来粘膜ワクチンに関する基礎研究から、臨床開発・治験までをシームレスに実施可能な体制の整備を目指している。さらに、粘膜ワクチン開発に関係するグローバルな人材の育成も行っている。以上の取り組みにより、注射ワクチンにはない病原体の粘膜面からの感染阻止が期待でき、かつ注射器・針及び冷蔵・冷凍保存が不要の、ヒトと環境に優しい経鼻・経口ワクチンを継続的に開発できる体制を構築する。

●教 育

・学部教育／卒前教育

兼務する教員が各領域で学部教育・卒前教育に貢献している。

・卒後教育／生涯教育

兼務する教員が各領域で卒後教育・生涯教育に貢献している。

・大学院教育

R5 年度に開設された博士課程「ワクチン学コース」と「感染症学コース」においては、そのコース設計から、実際の講義まで中心的な役割を果たしている。カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）への研究研修や、合同シンポジウムを通じて、海外の研究グループとも盛んに研究交流を行い、世界に通用する研究者の育成に力を注いでいる。

●研 究

・研究内容

本センターでは、(a) 千葉大学附属病院と UC San Diego (UCSD) Health Science 発の未来粘膜ワクチン・粘膜免疫療法の日米協働・国際連携企業治験ネットワーク構築、(b) 実装型産学連携・異分野融合イノベーション戦略の強化による、未来ワクチン開発に繋がるシーズの連続的創出、(c) 千葉大学（基礎から臨床のシームレスな開発直結型研究）と UCSD（イノベーション型研究）との未来ワクチン開発研究の為のグローバル人材育成・研究環境プラットフォームの構築、(d) 塩野義製薬(株)出資による社会還元を前提とした経鼻ワクチン開発研究（ヒト粘膜ワクチン学部門）という 4 つの取り組みを推進している。

センターは、6 つの研究部門（① AI ワクチン創出学部門、② ヒト免疫ワクチン学部門、③ ヒト感染免疫学部門、④ UCSD 国際共同治験部門、⑤ 千葉大国際共同治験部門、⑥ 次世代感染制御部門）からなり、各部門が分担かつ連携し未来粘膜ワクチンの研究開発に取り組んでいる。

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Kuboyama-Sasaki, A., Takahashi, Y., Xia, C., Hiro, K., Kobayashi, T., Ohdan, H., Shimizu, M., Yamauchi, Y., Kiyono, H. and Sato, R. 2024. Establishment of a cell culture platform for human liver organoids and its application for lipid metabolism research. *Biotechnol. J.* 19: e2300365.
2. Sun, X., Hosomi, K., Shimoyama, A., Yoshii, K., Saika, A., Yamaura, H., Nagatake, T., Kiyono, H., Fukase, K. and Kunisawa, J. 2024. Alcaligenes lipid A functions as a superior mucosal adjuvant to monophosphoryl lipid A via the recruitment and activation of CD11b+ dendritic cells in nasal tissue. *Int. Immunol.* 36:33-43.
3. Runtuwene, L.R., Parbie, P.K., Mizutani, T., Ishizaka, A., Matsuoka, S., Abana, C.Z., Kushitor, D., Bonney, E.Y., Ofori, S.B., Kiyono, H., Ishikawa, K., Ampofo, W.K. and Matano, T. 2024. Longitudinal analysis of microbiome composition in Ghanaians living with HIV-1. *Front. Microbiol.* 15:1359402. eCollection 2024.
4. Yuki, Y., Kurokawa, S., Sugiura, K., Kashima, K., Maruyama, S., Yamanoue, T., Honma, A., Mejima, M., Takeyama, N., Kuroda, M., Kozuka-Hata, H., Oyama, M., Masumura, T., Nakahashi-Ouchida, R., Fujihashi, K., Hiraizumi, T., Goto, E., and Kiyono, H. 2024. MucoRice-CTB line 19A, a new marker-free transgenic rice-based cholera vaccine produced in an LED-based hydroponic system. *Front. Plant. Sci.* 15:1342662.
5. Hoque, S.A., Akari, Y., Khamrin, P., Phan, T., Onda, Y., Okitsu, S., Komoto, S., Hayakawa, S.,

- Komine-Aizawa, S., Yuki, Y., Kiyono, H. and Ushijima, H. 2024. Epidemiology and Molecular Evolution of GI.1 Sapovirus in the Recent Era. *J. Med. Virol.* 96: e29904.
6. Tamiya, S., Matsumoto, N., Kurokawa, S., Nakamura, Y., Takahashi, Y., Sakon, N., Inoue, M., Koike, Y., Uchida, K., Yuki, Y., Ushijima, H., Kiyono, H. and Sato, S. 2024. H and B blood antigens are essential for in vitro replication of GII.2 human norovirus. *Open Forum Infect Dis.* 12:ofae714.
7. Zhang, Z., Tanaka, I., Nakahashi-Ouchida, R., Ernst, P.B., Kiyono, H. and Kurashima, Y. 2024. Glycoprotein 2 as a gut gate keeper for mucosal equilibrium between inflammation and immunity. *Semin. Immunopathol.* 45:493-507. Epub 2024 Jan 3.
8. Zhang, Z., Tanaka, I., Nakahashi-Ouchida, R., Ernst, P.B., Kiyono, H., and Kurashima, Y. 2024. Correction: Glycoprotein 2 as a gut gate keeper for mucosal equilibrium between inflammation and immunity. *Semin Immunopathol.* 45:549-550.
9. Kiyono, H. and Ernst, P.B. 2025. Nasal vaccines for respiratory infection. *Nature* 641:321-330.
10. Kurihara S, Suzuki K, Yokota M, Ito T, Hayashi Y, Kikuchi R, Kageyama T, Meguro K, Tanaka S, Iwata A, Goto Y, Suto A, Nakajima H. Eosinophils Contribute to Oral Tolerance via Induction of ROR γ t-Positive Antigen-Presenting Cells and ROR γ t-Positive Regulatory T Cells. *Biomolecules.* 2024 Jan 10;14(1):89.
11. Kojima S, Iwamoto T, Kobayashi Y, Kato M, Takizawa F, Ida T, Suzuki J, Toda Y, Miyachi K, Iwata A, Furuta S, Ikeda K, Nakajima H. Immunogenicity and influence on disease activity of recombinant zoster vaccine in patients with rheumatoid arthritis treated with DMARDs. *RMD Open.* 2024 Feb 21;10(1):e003902.
12. Tanaka S, Yamamoto T, Iwata A, Kiuchi M, Kokubo K, Iinuma T, Sugiyama T, Hanazawa T, Hirahara K, Ikeda K, Nakajima H. Single-cell RNA sequencing of submandibular gland reveals collagen type XV-positive fibroblasts as a disease-characterizing cell population of IgG4-related disease. *Arthritis Res Ther.* 2024 Feb 20;26(1):55.
13. Kumagai T, Iwata A, Furuya H, Kato K, Okabe A, Toda Y, Kanai M, Fujimura L, Sakamoto A, Kageyama T, Tanaka S, Suto A, Hatano M, Kaneda A, Nakajima H. A distal enhancer of GATA3 regulates Th2 differentiation and allergic inflammation. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 2024 Jul 2; 121(27):e2320727121.
14. Furuya H, Toda Y, Iwata A, Kanai M, Kato K, Kumagai T, Kageyama T, Tanaka S, Fujimura L, Sakamoto A, Hatano M, Suto A, Suzuki K, Nakajima H. Stage-specific GATA3 induction promotes ILC2 development after lineage commitment. *Nat Commun.* 2024 Jul 5;15(1):5610.
15. Hattori K, Tanaka S, Hashiba D, Tamura J, Etori K, Kageyama T, Ito T, Meguro K, Iwata A, Suto A, Suzuki K, Nakamura J, Ohtori S, Ziegler SF, Nakajima H. Synovial regulatory T cells expressing ST2 deteriorate joint inflammation through the suppression of immunoregulatory eosinophils. *J Autoimmun.* 2024 Nov 6;149:103333.
16. Kageyama T, Ito T, Tanaka S, Nakajima H. Physiological and immunological barriers in the lung. *Semin Immunopathol.* 2024 Mar 7.
17. Tanaka S, Etori K, Hattori K, Tamura J, Ikeda K, Kageyama T, Meguro K, Iwamoto T, Iwata A, Furuta S, Suto A, Suzuki K, Nakajima H. CCR4 predicts the efficacy of abatacept in rheumatoid arthritis patients through the estimation of Th17 and Treg cell abundance. *Mod Rheumatol.* 2024;34(4):700-4.
18. Ishiwada N, Akaishi R, Kobayashi Y, Togo K, Yonemoto N, Matsuo M, Kaneko S, Law AW, Kamei K. Cost-effectiveness analysis of maternal respiratory syncytial virus vaccine in protecting infants from RSV infection in Japan. *Infect Dis Ther.* 2024;13:1665-1682.
19. Nagasawa K, Ohata M, Igarashi A, Arashiro T, Ogawa T, Ohkusu M, Takeuchi N, Shizuno K, Kurihara E, Yoshida M, Kodama T, Abe K, Hoshino T, Arii J, Takeshita K, Hishiki H, Ota S, Takahashi Y, Omata Y, Nakazawa T, Someya T, Ishiwada N. Prospective hospital-based cohort studies of Respiratory Syncytial Virus (RSV) infections in infants under one year during and after the SARS-CoV-2 pandemic in Japan. *Int J Infect Dis* 2024;149:107252
20. Takeshita K, Takei H, Tanaka S, Hishiki H, Iijima Y, Ogata H, Fujishiro K, Tominaga T, Konno Y, Iwase Y, Endo M, Ishiwada N, Osone Y, Takemura R, Hamada H, Shimojo N. Effect of multi-strain bifidobacteria supplementation on intestinal microbiota development in low birth weight neonates: a randomized controlled trial. *Biosci Microbiota Food Health.* 2024;43:352-358.
21. Watanabe T, Hoshino T, Yamamoto S, Kusano T, Mori H, Takeuchi N, Ohkusu M, Ishiwada N. Analysis of toxin-producing and antiseptic

- resistance genes of methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* isolated from patients in a neonatal intensive care unit. *Am J Infect Control*. 2024;S0196-6553(24):00856-3.
22. Tanaka S, Takahashi M, Takeshita K, Nagasawa K, Takei H, Sato H, Hishiki H, Ishiwada N, Hamada H, Kadota Y, Tochio T, Ishida T, Sasaki K, Tomita M, Osone Y, Takemura R, Shimojo N. The prebiotic effect of 1-kestose in low-birth-weight neonates taking bifidobacteria: a pilot randomized trial in comparison with lactulose. *Biosci Microbiota Food Health*. 2024; 43: :329-335.
 23. Takeshita K, Hishiki H, Takei H, Ikari N, Tanaka S, Iijima Y, Ogata H, Fujishiro K, Tominaga T, Konno Y, Iwase Y, Nakano T, Endo M, Ishiwada N, Osone Y, Kawaguchi T, Horiba T, Takemura R, Hamada H, Shimojo N. The Effectiveness of Heat-Killed *Pediococcus acidilactici* K15 in Preventing Respiratory Tract Infections in Preterm Infants: A Pilot Double-Blind, Randomized, Placebo-Controlled Study. *Nutrients*. 2024;16::3635.
 24. Yoneyama M, Kato H, Fujita T. Physiological functions of RIG-I like receptors. *Immunity* 2024;57: 731-751.
 25. Shibata K, Moriizumi H, Onomoto K, Kaneko Y, Miyakawa T, Zenno S, Tanokura M, Yoneyama M, Takahashi T, Ui-Tei K. Caspase-mediated processing of TRBP regulates apoptosis during viral infection. *Nucleic Acids Res* 2024;52:5209–5225.
 26. Hayashi K, Uchida R, Horiba T, Kawaguchi T, Gomi K, Goto Y. Soy sauce-like seasoning enhances the growth of *Agathobacter rectalis* and the production of butyrate, propionate, and lactate. *Biosci Microbiota Food Health*. 2024;43(3):275-281. doi: 10.12938/bmfh.2023-103.
 27. Kurihara S, Suzuki K, Yokota M, Ito T, Hayashi Y, Kikuchi R, Kageyama T, Meguro K, Tanaka S, Iwata A, Goto Y, Suto A, Nakajima H. Eosinophils Contribute to Oral Tolerance via Induction of ROR γ t-Positive Antigen-Presenting Cells and ROR γ t-Positive Regulatory T Cells. *Biomolecules*. 14: 89 (2024)
 28. Hidaka M, Hanaoka H, Uyama Y. Different Development Strategies Affecting Japan's Drug lag between Japan-Based and Foreign-Based Companies. *Ther Innov Regul Sci* 58:714-720, 2024.
 29. Aoki A, Iwamura C, Kiuchi M, Tsuji K, Sasaki A, Hishiya T, Hirasawa R, Kokubo K, Kuriyama S, Onodera A, Shimada T, Nagaoka T, Ishikawa S, Kojima A, Mito H, Hase R, Kasahara Y, Kuriyama N, Nakamura S, Urushibara T, Kaneda S, Sakao S, Nishida O, Takahashi K, Kimura MY, Motohashi S, Igari H, Ikehara Y, Nakajima H, Suzuki T, Hanaoka H, Nakada TA, Kikuchi T, Nakayama T, Yokote K, Hirahara K. Suppression of Type I Interferon Signaling in Myeloid Cells by Autoantibodies in Severe COVID-19 Patients. *J Clin Immunol* 44:104, 2024.
 30. Fujita M, Nagashima K, Shimazu M, Suzuki M, Tauchi I, Sakuma M, Yamamoto S, Hanaoka H, Shozu M, Tsuruoka N, Kasai T, Hata A. Effectiveness of self-sampling human papillomavirus test on precancer detection and screening uptake in Japan: The ACCESS randomized controlled trial. *Int J Cancer* 155:905-915, 2024.
 31. Shimizu E, Sato D, Hirano Y, Ebisu H, Kagayama Y, Hanaoka H. Digital cognitive-behavioural therapy application compared with zolpidem for the treatment of insomnia: protocol for an exploratory randomised controlled trial. *BMJ Open* 14:e081205, 2024.
 32. Igari H, Sakao S, Ishige T, Saito K, Murata S, Yahaba M, Taniguchi T, Suganami A, Matsushita K, Tamura Y, Suzuki T, Ido E. Dynamic diversity of SARS-CoV-2 genetic mutations in a lung transplantation patient with persistent COVID-19. *Nat Commun*. 2024;15(1):3604.
 33. Yahaba M, Asano H, Saito K, Murata S, Kawasaki K, Chiba H, Yokota S, Yoshikawa H, Herai Y, Yamagishi K, Shiko Y, Matsushita K, Hanaoka H, Taniguchi T, Yokote K, Nakajima H, Ido E, Igari H. Antibody Responses and Infection Prevention following the Sixth Vaccination using the BA.1 bivalent COVID-19 vaccine among Healthcare workers during the XBB variant Dominance in Japan. *Jpn J Infect Dis*. 2024;Nov 29.
 34. Aoki A, Iwamura C, Kiuchi M, Tsuji K, Sasaki A, Hishiya T, Hirasawa R, Kokubo K, Kuriyama S, Onodera A, Shimada T, Nagaoka T, Ishikawa S, Kojima A, Mito H, Hase R, Kasahara Y, Kuriyama N, Nakamura S, Urushibara T, Kaneda S, Sakao S, Nishida O, Takahashi K, Kimura MY, Motohashi S, Igari H, Ikehara Y, Nakajima H, Suzuki T, Hanaoka H, Nakada TA, Kikuchi T, Nakayama T, Yokote K, Hirahara K. Suppression of Type I Interferon Signaling in Myeloid Cells by Autoantibodies in Severe COVID-19 Patients. *J Clin Immunol*. 2024;44 (4):104.
 35. Taniguchi T, Homma T, Tamai Y, Arita Y,

Fujiwara M, Kuroishi N, Sugiyama K, Kanazu S, Maruyama A: Clinical characteristics and COVID-19-related outcomes of immunocompromised patients receiving tixagevimab/cilgavimab pre-exposure prophylaxis in Japan. *J Infect Chemother.* 2024;8:S1341-321X (24)00185-5.

【雑誌論文・和文】

1. 柳楽盛男、清野宏、「次世代型粘膜ワクチンによる免疫応答誘導と感染防御機構」、炎症と免疫 Vol.32, no.3, May 2024, 先端医学社、pp.187-194.
2. 藤橋浩太郎、清野宏、「粘膜ワクチンの最前線：呼吸器・消化器感染から口腔感染症とその関連疾患の予防を見据えて」、歯界展望、iVol.144, no.4, Oct. 2024, 医療薬出版、pp.678-683.
3. 中島裕史 (2024) 喘息と上手につき合う方法. けんこう Chiba 83:1-2.
4. 中島裕史 (2024) 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症. 喘息予防・管理ガイドライン 2024 (JGL2024) 日本アレルギー学会 p214-7.
5. 後藤義幸. 上皮バリアと腸内細菌. 医学のあゆみ. 291(5), 340-344, 2024
6. 森大地、後藤義幸. 真菌叢の動態と作用. 実験医学増刊. 42(17), 45-51, 2024
7. 猪飼朋音、後藤義幸. 腸内細菌によって誘導される Th17 細胞と自己免疫疾患. アレルギーの臨床. 44 (2), 28-33, 2024
8. 森大地、後藤義幸. ILC3 による腸管上皮細胞のフコシル化誘導. 医学のあゆみ. 288(1), 85-89, 2024

【単行書】

1. Tsai, J.Y. and Fujihashi, K. Mucosal vaccine delivery. In *Advanced Vaccination Technologies for Infectious and Chronic Diseases: A guide to Vaccinology*. Apostolopoulos, V., Vora, L.K., and Chavda, V.P. (eds). Chapter 12. Elsevier Inc. 2024. Paperback ISBN: 9780443185649, eBook ISBN: 9780443185656

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. Kiyono, H., The 52nd Japanese Society of Immunology, Technical Seminar, Invited Chairperson, “Unleashing Potential in Single-Cell Analysis with the BD FACSymphony A5 SE Cell Analyzer in Hematopoietic Research”, January 17, 2024, Makuhari, Chiba, Japan
2. Kiyono, H., The First Joint Symposium of AMED SCARDA Japan Initiative for World-leading Vaccine Research and Development Centers, Speaker, “Development of effective, safe and friendly mucosal vaccines”, January 31, 2024,

Kyoto, Japan

3. Kiyono, H., The 64th Annual Meeting of the Japanese Respiratory Society, Invited Speaker, “Development of Mucosal Vaccine against Respiratory Infection” in the Symposium on “Vaccine Development against Respiratory Infectious Diseases”, April 7, 2024, Kanagawa, Japan
4. 藤橋浩太郎、「粘膜ワクチンによる特異 IgA 抗体の誘導と感染症の制御」IgA 抗体医療学会 第一回学術集会シンポジウム、2024 年 4 月 19 日、東京、日本
5. 藤橋浩太郎、「Mucosal Vaccine Development at cSIMVa」RIKEN-Chiba-Tübingen Joint Symposium、2024 年 5 月 14 日、横浜、日本
6. Kiyono, H., The 28th Annual Meeting of the Intestinal microbiology Society, Chairman’s Special Lecture, “Fusion of intestinal microbiology and immunology contribute to the creation of new disease prevention strategies”, June 25, 2024, Edogawa-ku, Tokyo
7. Kiyono, H., The 24th, Kowa Company, Ltd’s, TC Conference, “Research and Development of Futuristic Oral and Nasal Vaccines”, June 29, 2024, Chuo-ku, Tokyo, Japan
8. Kiyono, H., The 5th Nagasaki University WISE Global Health Symposium collaborating with SCARDA NU program, Invited Panel Presenter – Vaccine development for pandemic preparedness, “Why do we need to develop nasal vaccines?”, September 23, 2024, Nagasaki, Japan
9. 藤橋浩太郎「Controlling of Infectious Diseases by Mucosal Vaccines」千葉大学真菌センター Monthly Seminar, 2024 年 9 月 27 日、千葉、日本
10. Kiyono, H., Human Mucosal Immunization, Shenzhen Institution of Advanced Technology, “Mucosal Vaccines: From Old Wisdom to New Beginnings”, October 13, 2024, Online Participation, Shenzhen, China
11. Kiyono, H., The 28th Annual Meeting of the Japanese Society for Vaccinology/The 65th Annual Meeting of the Japanese Society of Clinical Virology, “Past, Current and Future of Nasal Vaccine Development”, October 26, 2024, Nagoya, Aichi, Japan
12. Kiyono, H., Chiba University, the 75th Year Anniversary Ceremony, Memorial Lecture, “Prevention of Infectious Disease by Oral and Nasal Vaccines”, November 2, 2024, Chiba, Japan
13. Kiyono, H., Tsai, C.J.Y., Fujihashi, K., Ishii, K. and

Proft, T. A Novel Recombinant Lactococcus lactis Mucosal Vaccine Platform Based on Group A Streptococcus Pili. The 53rd Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. [WS09-13-P] 2024/12/3-5, Nagasaki, Japan.

14. Nakajima H, Toda Y, Furuya H, Iwata A. (2024) Stage-specific GATA3 induction promotes ILC2 development after lineage commitment. cMAV-cSIMVa workshop 2024, Yokohama
15. 中島裕史 (2024) 2型免疫細胞の分化誘導機構. 第25回免疫サマースクール in 湘南, 神奈川

【学会発表数】

国内学会 15回 (うち大学院生1回)

国際学会 2回 (うち大学院生1回)

【外部資金獲得状況】

1. AMED 次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業「腸管免疫疾患に対する Pathobiont 標的療法の開発療法の開発」分担：清野宏 2021-2026
2. シオノギ製薬共同研究「ヒト粘膜ワクチン学部門」代表：清野宏 2022-2026
3. AMED 先進的研究開発事業部 ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業「千葉大学 未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点」代表：清野宏 2022-2026
4. AMED 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業「下痢症ウイルスの革新的粘膜ワクチンおよび抗体医薬並びにインビトロ評価系の開発とそれらの基盤となるウイルス流行株の診断・疫学調査」代表：清野宏 2023-2025
5. AMED ワクチン・新規モダリティ研究開発事業「カチオン化ナノゲルデリバリーシステムを軸としたインフルエンザ・新型コロナ経鼻ワクチンの研究開発」分担：清野宏 2023-2025
6. AMED ワクチン・新規モダリティ研究開発事業「コメ型経口ワクチン MucoRice-CTB_{19A}の開発とヒトでの粘膜免疫誘導効果実証とそれを応用した呼吸器感染症に対する新規常温安定備蓄型経口ワクチンプラットフォームを目指す研究開発」代表：清野宏 2023-2026
7. AMED 橋渡し研究プログラム(preF)「乳幼児免疫に最適化した粘膜アジュバント開発」分担：清野宏 2025-2026
8. AMED 基盤B「創薬を見据えた革新的ヒトノロウイルス in vitro 増殖法の確立」分担：藤橋浩太郎 2024-2028
9. JST ムーンショット「ウイルス感染に対する自然免疫系」代表者：中島裕史 2020-2027
10. AMED「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 千葉シナジーキャンパス」分担者：中島裕史 2022-2027
11. 日本学術振興会「医歯薬学分野に関する学術研究動向及び学術振興方策-基礎と臨床の相互理解による新たな潮流と展開」代表者：中島裕史 2022-2024
12. 文部科学省科学研究費 基盤(B)「気道上皮細胞の自然免疫記憶を標的とした喘息治療戦略の確立」代表者：中島裕史 2024-2027
13. 文部科学省科学研究費 基盤(若手)「気道上皮細胞の炎症記憶への介入による新規気道炎症制御法の確立」代表者：影山貴弘 2022-2024
14. 文部科学省科学研究費 基盤(学術変革)「免疫センサー局在異常によるヒト自己免疫疾患発症の遺伝学的エビデンスの構築」代表者：目黒和行 2023-2024
15. 文部科学省科学研究費 基盤(C)「若年性重症 SLE 患者における新規 TLR7 変異の同定とその発症機序の解明」代表者：目黒和行 2023-2025
16. 文部科学省科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「粘膜関連機構の理解と分泌型糖鎖を指標とした腸管炎症検出システムの開発」代表者：後藤義幸 2023-2024
17. 文部科学省科学研究費 特別研究員奨励費「腸内細菌による病原体に対する抗体誘導・制御機構の解明」代表者：後藤義幸 2023-2025
18. 科学技術振興機構(JST) 創発的研究支援事業「腸内細菌が司る感染感受性・抵抗性体質の理解」代表者：後藤義幸 2023-2029
19. ヤクルト・バイオサイエンス研究財団 一般研究助成「腸内細菌が産生する代謝物によるカンジダ属真菌の腸管定着阻害機序の解明」代表者：後藤義幸 2024
20. AMED ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群千葉シナジーキャンパス」分担者：後藤義幸 2022-2026
21. 文部科学省科学研究費 基盤(A)「ディフィシル菌に存在する V-ATPase を分子標的とした新規抗菌薬の開発」分担者：後藤義幸 2024-2026
22. AMED 日本医療研究開発機構 委託研究開発費「結核低まん延状況における連携強化及び技術革新による結核対策に関する研究」分担者：猪狩英俊 2023-2025
23. AMED 日本医療研究開発機構 委託研究開発費「国内流行 HIV 及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究」分担者：猪狩英俊 2022-2024

【受賞歴】

1. 清野宏、日本学士院賞
2. 清野宏、2024 Highly Ranked Scholar by Scholar GPS
3. 後藤義幸 第51回内藤コンファレンス「マイクロバイオームの健康・医療への応用」優秀ポスター賞

【特 許】

1. 感染モデル動物の作製方法 特願 2024-146376
(P19-514)

●診 療

・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

兼務する教員が各領域で外来診療・入院診療に貢献している。

職業感染対策としてコロナワクチン接種を行った。

ワクチンの内容はファイザー2価 mRNA ワクチン（武漢株と BA1）。

821 名の職員にワクチン接種をした。

●地域貢献

兼務する教員が千葉大学未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠点（cSIMVA）の活動を通じて、ワクチンに関する啓発活動に貢献している。

1. 千葉県千葉市の感染症発生動向委員会の委員長として参加している。
2. 千葉県が主催する COVID-19 の会議に委員として出席した。
3. 医療系大学間共用試験実施評価機構「医学生臨床実習前 OSCE 実施課題毎の到達基準設定作業」講師
4. 千葉県松戸保健所「コロナを振り返っての、今後の新興感染症対策について」検討会オブザーバー及び講演会講師
5. 習志野医師会「新興感染症や AMR など」講師

研究領域等名：	
診療科等名：	リプロダクション支援センター

●はじめに

リプロダクション支援センターは、妊娠を希望するカップルに対して、包括的かつ専門的な支援をワンストップで提供することを目的に、2024年4月に新たに設置された。本センターでは、産科・婦人科、泌尿器科をはじめとする複数の診療科と、助産師、看護師、薬剤師、心理士、相談員などの多職種が密に連携しながら、不妊治療や生殖補助医療（ART）、性分化疾患の診療、がん・生殖医療、プレコンセプションケアなど、幅広い領域に対応している。

特にがん・生殖医療の分野では、2021年より県の受託事業として「がん・生殖医療相談支援センター」を当院内に設置し、千葉県がん・生殖医療ネットワーク COFNET の事務局としての役割も担ってきた。小児・AYA世代のがん患者等に対する妊孕性温存療法に関する情報提供や相談支援、啓発活動、ならびに県内ネットワーク体制の整備を進めている。

また、プレコンセプションケアの取り組みとしては、広く啓発活動を行うとともに、プレコンセプションケア外来（妊娠前相談外来）を設置し、産科医および助産師が中心となって、妊娠前からの健康管理の重要性を周知し、特に合併症を有するカップルに対しては個別に情報提供・相談支援を実施している。

●教 育

・学部教育／卒前教育

千葉大学教育学部養護教諭コース3年生を対象に、講義を行った。（「看護の現場から、性教育を考える」吉野有希子）

●研 究

・研究業績

【雑誌論文・英文】

1. Successful pregnancy and delivery following microdissection testicular sperm extraction and intracytoplasmic sperm injection for non-obstructive azoospermia after microsurgical varicocelectomy: A case report and review of the literature. Kamo H, Komiya A, Ota K, Hiraoka K, Honma K, Kawai K.J Obstet Gynaecol Res. 2024 Sep;50(9):1732-1736. doi: 10.1111/jog.16023. Epub 2024 Jul 23.PMID: 39041378 Review.

【雑誌論文・和文】

1. 佐藤美香、甲賀かをり【産婦人科医が知っておきたい プレコンセプションケアの最前線Ⅰ】職域におけるプレコンセプションケア 産婦人科の実際 (0558-4728) 73巻5号 Page467-472 (2024.05)

【シンポジウム・招聘講演等の特別な発表（一般の学会発表は除く）】

1. 甲賀かをり「プレコンセプションケアの観点からみた月経困難症の取り扱い」第50回品川地区産婦人科臨床研究会 (2024.5.16)
2. 佐藤美香「いま、薬剤師に知って欲しい「プレコンセプションケア」2024年度第1回千葉県妊婦・授乳婦専門・認定薬剤師講習会 (2024.6.29)

3. 甲賀かをり「プレコンセプションケアの観点から月経困難症の管理を考える」仙台市東部婦人科学術講演会 (2024.10.17)
4. 市川智彦「小児・AYA世代の男性におけるがん治療の課題～妊孕性温存療法と温存後生殖補助医療～」日本の未来のためのプレコンセプションケア研究を考える 2024 (2024.10.19)
5. 市川智彦「千葉県がん・生殖医療ネットワークの設立と活動状況」第62回がん治療学会学術集会 シンポジウム (2024.10.26)
6. 吉野有希子「千葉県がん・生殖医療相談支援センターの活動実績と今後の課題」千葉県がん診療連携協議会小児がん専門部会 令和6年度小児がん研修会 (2024.11.2)
7. 甲賀かをり「プレコンセプションケアの観点からみた子宮内膜症の管理」Women's Health Net Forum (2024.1.24)
8. 佐藤美香「プレコンセプションケアについて」令和5年度妊娠・出産看護連絡会 (2024.2.26)

【学会発表数】

国内学会 6回
国際学会 0回

●診 療

- ・外来診療・入院診療・その他（先進医療等）

（千葉県がん・生殖医療相談支援センター）

【相談対応】

43 件（延べ数 88 件）

内訳

成人がん患者	16 件 (50)
成人がん患者の家族	5 件 (6)
小児がん患者	1 件 (3)
小児がん患者の家族	1 件 (1)
成人がん診療医療機関	11 件 (19)
小児がん診療医療機関	1 件 (1)
その他	8 件 (8)

【妊孕性温存療法の受入れ調整やカンファレンスの開催】

3 件

●地域貢献

（千葉県がん・生殖医療相談支援センター）

- ・パンフレット「妊孕性温存療法ってなあに？」「妊孕性温存療法の実際」を作成し、県内保健所、がん診療連携拠点病院、がん相談支援センターなど 185 施設へ送付した。
- ・第 15 回千葉県がん患者大集合 2024 2024.10.14（甲賀かをり、市川智彦）
- ・令和 6 年度県民公開講座を開催した。「妊孕性温存療法とは？」2025.2.1
- ・第 30 回ももはな会 2025.2.8（齊藤佳子、吉野有希子）

●その他

（千葉県がん・生殖医療相談支援センター）

- ・行政やがん等診療施設と妊孕性温存療法実施医療施設等における、医療連携や情報連携の推進および、患者に対する情報提供並びに意思決定支援体制の整備と質の向上を図るとともに、妊孕性温存を希望する患者が円滑に治療を受けられる体制を構築するため、以下の事業を行っている。
- ・運営委員会（年 3 回）
- ・協議会（年 1 回）
- ・月例症例報告会
- ・千葉県がん・生殖医療ネットワーク COFNET 加入施設における妊孕性温存の相談件数調査
- ・小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業による助成対象となる指定医療機関における費用概算調査

千葉大学大学院医学研究院・医学部・医学部附属病院

業 績 集 2 0 2 4

2026年3月3日 発 行

編集兼 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

発行者 千葉大学大学院医学研究院・医学部・医学部附属病院

印刷所 千葉市中央区浜野町1397

三陽メディア株式会社